

2023年度

シラバス

法学部

立教大学

作成日:2023 年 03 月 18 日

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX006／法学入門(法学科1年) (Introduction to Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本法を学びはじめるみなさんへ		
担当者名 (Instructor)	荻村 慎一郎(OGIMURA SHINICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科 1 年次のみ		

授業の目標(Course Objectives)

法学諸分野の基本について、日本に加えて地球規模の視点もふまえながら学びます。

Students will learn the fundamentals of various fields of law from a global scale perspective in addition to Japan.

授業の内容(Course Contents)

基礎法学(法哲学、法社会学、法制史など)の方法論に依りつつ、実定法学(憲法、民法、刑法など)の初歩を系統的に学ぶことを通じて、履修者が自らの今後の発展的な学修のための適切な見通しを得ることをめざします。

また、専門諸科目の導入科目であることから、普段の学修への取り組み方や試験に対する準備と心構えについても、適宜助言する予定です。

前半は、刑事事件を素材として、法の制定から執行までの一連の過程を伝統的かつ実践的な仕方では学修するとともに、法学固有の思考方法の長所と短所についても検討を試みます。

後半は、大学での学び、すなわち法的専門知識、一般教養、外国語能力を統合的に活用する方法を鍛えていきます。ここでは、自動車産業に関する国内外の報道の分析が主題となります。

なお、この授業で扱う実定法系科目は以下のとおりです。

憲法、行政法、経済法、刑法、刑事訴訟法、会社法、労働法、知的財産法、商法、民法、民事訴訟法、民事執行・保全法、国際私法、国際法、国際経済法、英米法、外国法。

21 世紀は、一流ガイドとシェルパ(経路準備兼荷上げ係)の助けを借りることで、誰もがエベレストの山頂に立つことができる時代です。本授業では、履修者のみなさんに、文科系学問最高峰の高みにとにかく一度登ってもらい、山頂からの眺望と天空のさらなる高さを体験して頂くことを目標とします(ちなみに、担当教員の役割はシェルパとなります)。

Students shall aspire to attain the appropriate insight into their own developing studies going forward by systematically learning the elements of Positive Law (Constitution, Civil Law, Criminal Law) while relying on the methodology of Basic Law (Philosophy of Law, Sociology of Law, legal history).

Moreover, because this is an introductory course for various specialized disciplines, students will receive proper counseling about how to undertake their regular studies and the preparation and mental attitude required for tests.

During the first half, students will also attempt to consider the strengths and weaknesses of the legal way of thinking while learning about the sequential process from the enactment to the execution of a law in a traditional and practical manner using criminal cases as source material.

In the second half, students will develop methods for applying the specialized legal knowledge, general education, foreign language proficiency, and other university studies in an integrated manner. The main subject here will be the analysis of foreign and domestic news reports about the global automotive industry.

Furthermore, the Positive Law related disciplines which will be addressed in this class are as follows.

Constitutional Law, Administrative Law, Economic Law, Criminal Law, Criminal Procedure Law, Corporate Law, Labor Law, Intellectual Property Law, Commercial Law, Civil Law, Civil Procedure Law, Civil Execution Law and Civil Provisional Remedies Law, Conflict of Laws, International Law, International Economic Law, Anglo-American Law, Foreign Law.

The 21st century is an era in which anyone can stand at the peak of Mount Everest with the aid of a first-rate guide and sherpa (route preparation and equipment porters). The goal of this class is to have all students stand on the highest peak of liberal arts studies at least once and experience the view from the summit and the further height of the sky (in other words, the role of the faculty in charge is to act as the sherpa).

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業の展望: 法と法学について
2. 裁判を通して法学の基礎を学ぶ①: 事実に接する①
3. 裁判を通して法学の基礎を学ぶ②: 事実に接する②
4. 裁判を通して法学の基礎を学ぶ③: 法的思考のかたちについて①
5. 裁判を通して法学の基礎を学ぶ④: 他人の声を聴く①
6. 裁判を通して法学の基礎を学ぶ⑤: 他人の声を聴く②
7. 裁判を通して法学の基礎を学ぶ⑥: 法的思考のかたちについて②
8. 裁判を通して法学の基礎を学ぶ⑦: 主体的に判断する①
9. 裁判を通して法学の基礎を学ぶ⑧: 主体的に判断する②
10. 中間のまとめ: 法的思考とその表現方法について (学期末試験に向けて①)
11. 実例を通して法学の活かし方を学ぶ①: 国内法 (日本) の視点から
12. 実例を通して法学の活かし方を学ぶ②: 外国法 (米国, 中国, 欧州諸国) の視点から
13. 実例を通して法学の活かし方を学ぶ③: 国際法の視点から
14. 全体のまとめ: 法的視点とその認識方法について (学期末試験に向けて②)

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

教材で指示される復習・予習課題に毎回取り組みましょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験 (Written Exam) (80%) / 授業への参加と取り組み (14%) / 授業内小テスト (6%)

授業内小テストについては 1 回程度実施する予定です。

テキスト (Textbooks)

1. 道垣内弘人、2017、『プレップ法学を学ぶ前に <第 2 版>』、弘文堂 (ISBN:978-4-335-31326-4)
- オリジナル教材を毎回配布します。

参考文献 (Readings)

1. 田高寛貴、原田昌和、秋山靖浩、2019、『リーガル・リサーチ & リポート -- 法学部の学び方 第 2 版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-12611-4)
2. 早川吉尚、2016、『法学入門』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15032-4)
3. 東京大学法学部「現代と法」委員会編、2022、『まだ、法学を知らない君へ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-12636-7)
4. 安念潤司、小山剛、青井未帆、穴戸常寿、山本龍彦、2014、『論点日本国憲法: 憲法を学ぶための基礎知識 [第 2 版]』、東京法令出版 (ISBN:978-4-8090-6307-7)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

履修に関してお困りの事がある場合は、どうかご遠慮なくお問い合わせください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX007／法学入門(その他) (Introduction to Law)		
担当者名 (Instructor)	早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科2年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標 (Course Objectives)

これから法学を学ぼうとする初学者に, できるだけ専門用語を用いずに, 法学における基本的な思考方法を修得させる。

This course helps beginning students who are about to study law master the fundamentals of legal thinking while avoiding the use of specialized terms as much as possible.

授業の内容 (Course Contents)

「法学」とは何でしょうか? 「法学」を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか? 本講義は, 法学部に新しく入学した皆さんとともに, この問題を考えることを第一の目的とするものです。また, そのためにも, これからの4年間を通じてどのような内容の講義が法学部専門科目として展開されることになるのか, 国際ビジネス法学科, 政治学科に所属する学生を主なターゲットとして, 各学科の特徴や基本コンセプトの紹介も交えながら, その全貌の大まかな理解を手助けすることも目指されます。またさらに, 法律系専門科目の受講の前提となる必要最小限の法的知識を提供するとともに, やはり前提となる法的思考力・法的コミュニケーション能力の基礎を形成することも目標とされます。

What is "law"? What is the significance of studying "law"? The primary objective of the lectures is to think about these problems together with other newly entered students in the College of Law and Politics. Moreover, in order to achieve that objective, this course primarily targets students belonging to the Department of International Business Law and the Department of Politics with the goal of helping them achieve a general understanding of the full scope of lectures which will be available over the next four years as specialized subjects within the College of Law and Politics while blending in the characteristics of each field of study and introducing basic concepts. In addition, this course after all also aims to build a foundation for the prerequisite legal ability to think critically and legal communication skills while providing the absolute minimum level of legal knowledge required to take specialized law-related subjects.

授業計画 (Course Schedule)

1. 法学を学ぶ意味はどこにあるのか?
2. 法学とは何か?
3. 法とは何か?
4. 法解釈とは何か?
5. 法学の分野にはどのようなものがあるのか?
6. 法はどのように適用されるのか?
7. 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう①
8. 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう②
9. 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう③
10. 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう④
11. 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう⑤
12. 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう⑥
13. 法的思考力・法的コミュニケーション能力を高めよう⑦
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

教員と学生の間での質疑・応答を交えながら講義を進めます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 早川吉尚、2016、『法学入門』、有斐閣
その他, 講義の度に資料を配布します。なお, 六法は必ず用意してください。

参考文献 (Readings)

道垣内正人『自分で考えるちょっと違った法学入門』(有斐閣)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX008／政治学入門(法学科 1 年) (Introduction to Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	～「デモクラシー」について考える～		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬 佳也(ICHINOSE YOSHIYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科1年次のみ		

授業の目標(Course Objectives)

政治学の基礎的な用語と概念を知ることによって、権力や社会構造について理解できるようになることを目標とする。

The objective of this lecture is that students are able to understand Power, Social structures by knowing some basic terminologies and concepts of Political Science.

授業の内容(Course Contents)

本講義は、これから「政治学」を学ぶ学生が受講する入門編として位置づけられる。そのため、「政治」に関する基本的な概念や用語を理解することから始める。

こうした政治の基礎的な概念や用語を学びながらも、それらが具体的な制度にどのように反映されているのかを身近なところから明らかにしていく。加えて、主権者として持つ公共性についても議論していく。

本講義のスケジュールは受講生の理解に合わせて調節されることになる。また、講師は、受講生の意見になるべく耳を傾けるように努力する。

This lecture is set as a introduction for students who will study "Political Science" from now on. So, students will study some basic concepts and terminologies in "politics."

In this Lecture, students will be able to understand how these concepts and terminologies are reflected in specific systems in our state. In addition, we will discuss with publicness that individuals hold as sovereign in democracy.

The schedule of this lecture will be adjusted according to the degree of students. Lecturer will make effort to hear student opinions as much as possible.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 政治学とは何か
3. 近代国家と統治機構
4. 権力と支配
5. 政治的リーダーシップとエリート論
6. 政治意識と公共性
7. 議会主義の発展
8. デモクラシーと平等主義の理論
9. 前半のまとめ
10. 政治システム論と政党システム論
11. 国際関係と国民国家
12. 日本の政治―明治維新から WWII まで
13. 日本の政治―WWII から 80 年代まで
14. 後半のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の講義において指示された箇所を予習してきてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

特には指定しない。毎回のレジュメにおいて、関連文献を紹介する。

参考文献(Readings)

1. 高畠通敏、2012、『政治学の道案内』、講談社学術文庫 (ISBN:978-4-06-292110-7)
2. 苅部直・宇野重規・中本義彦編、2011、『政治学をつかむ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17715-4)
3. 川出良枝、谷口将紀、2012、『政治学』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130322195)
4. 佐々木毅、2012、『政治学講義』(2 版)、東京大学出版会 (ISBN:978-4130322225)
5. 宇野重規、2020、『民主主義とは何か』、講談社現代新書 (ISBN:978-4065212950)
6. 阿部齊、1996、『政治学入門』、岩波書店 (ISBN:978-4000260015)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX009／政治学入門(その他) (Introduction to Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	～「デモクラシー」について考える～		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬 佳也(ICHINOSE YOSHIYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科2年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標(Course Objectives)

政治学の基礎的な用語と概念を知ることによって、権力や社会構造について理解できるようになることを目標とする。

The objective of this lecture is that students are able to understand Power, Social structures by knowing some basic terminologies and concepts of Political Science.

授業の内容(Course Contents)

本講義は、これから「政治学」を学ぶ学生が受講する入門編として位置づけられる。そのため、「政治」に関する基本的な概念や用語を理解することから始める。

こうした政治の基礎的な概念や用語を学びながらも、それらが具体的な制度にどのように反映されているのかを身近なところから明らかにしていく。加えて、主権者として持つ公共性についても議論していく。

本講義のスケジュールは受講生の理解に合わせて調節されることになる。また、講師は、受講生の意見になるべく耳を傾けるように努める。

This lecture is set as a introduction for students who will study "Political Science" from now on. So, students will study some basic concepts and terminologies in "politics."

In this Lecture, students will be able to understand how these concepts and terminologies are reflected in specific systems in our state. In addition, we will discuss with publicness that individuals hold as sovereign in democracy.

The schedule of this lecture will be adjusted according to the degree of students.

Lecturer will make effort to hear student opinions as much as possible.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 政治学とは何か
3. 近代国家と統治機構
4. 権力と支配
5. 政治的リーダーシップとエリート論
6. 政治意識と公共性
7. 議会主義の発展
8. デモクラシーと平等主義の理論
9. 前半のまとめ
10. 政治システム論と政党システム論
11. 国際関係と国民国家
12. 日本の政治―明治維新から WWII まで
13. 日本の政治―WWII から 80 年代まで
14. 後半のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の講義において指示された箇所を予習してきてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

特には指定しない。毎回のレジュメにおいて、関連文献を紹介する。

参考文献(Readings)

1. 高畠通敏、2012、『政治学の道案内』、講談社学術文庫 (ISBN:978-4-06-292110-7)
2. 荻部直・宇野重規・中本義彦編、2011、『政治学をつかむ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17715-4)
3. 川出良枝、谷口将紀、2012、『政治学』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130322195)
4. 佐々木毅、2012、『政治学講義』(2 版)、東京大学出版会 (ISBN:978-4130322225)
5. 宇野重規、2020、『民主主義とは何か』、講談社現代新書 (ISBN:978-4065212950)
6. 阿部齊、1996、『政治学入門』、岩波書店 (ISBN:978-4000260015)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX010／民法概論(9月入学者向け)		
担当者名 (Instructor)	藤澤 治奈(FUJISAWA HARUNA)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	2023年度9月入学の国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ ①国際ビジネス法学科・政治学科1年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること ②国際ビジネス法学科・政治学科の学生のうち、法律専門職(司法書士等)・公務員(民法の試験の受験を必要とする職種)を目指す者は、民法概論ではなく民法(1)を履修することを推奨する		

授業の目標 (Course Objectives)

民法について基礎的な理解を得ることを目標とします。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of Japanese civil law.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は、政治学科および国際ビジネス法学科(2022年度以降入学者)向けの授業です。民法全体について、基礎的な講義を行います。ただし、家族法(親族・相続)については、扱いません。

この授業を履修した者は、この授業の内容をふまえて、商法、民事訴訟法、労働法、経済法、知的財産法等の発展的な科目を履修することができます。資格試験対策等の理由から、さらに詳しく民法を学びたい者は、2年次以降に、民法(2)、民法(3)、民法(4)、金融取引法1を履修しましょう。なお、この授業を履修した者が、民法(1)を履修する必要はありませんので、注意して下さい。

This course is intended for students admitted to the Department of Politics or the Department of International Business Law in or after the academic year 2022. The classes will consist of fundamental lectures about civil law in general, except that family law (i.e., relatives and inheritance) will not be covered.

Students who have taken this course will be able to take more advanced courses in law, such as courses in commercial law, civil procedure law, labor law, economic law, and intellectual property law, based on what they have learned from this course. Students who wish to learn more details about civil law in order to prepare for qualifying or certification exams are encouraged to take Civil Law (2), Civil Law (3), Civil Law (4), and Law of Financial Transactions 1, in their second and subsequent years. Please note that students who have taken this course are not required to take Civil Law (1).

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 民法総則(1)
3. 民法総則(2)
4. 民法総則(3)
5. 民法総則(4)
6. 民法総則(5)
7. 民法総則(6)
8. 民法総則(7)
9. 民法総則(8)
10. 民法総則(9)
11. 民法総則(10)
12. 物権(1)
13. 物権(2)
14. 物権(3)
15. 契約(1)
16. 契約(2)
17. 契約(3)
18. 契約(4)
19. 契約(5)
20. 契約(6)
21. 契約(7)
22. 契約(8)
23. 不法行為(1)

24. 不法行為(2)
25. 債権回収(1)
26. 債権回収(2)
27. まとめ(1)
28. まとめ(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、予習範囲を指示するので、教科書の該当部分を読んでから授業に臨んでください。また、小テストに備えて、各授業後に復習をしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

小テスト(複数回実施)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 道垣内弘人、2022、『リーガルベイス民法入門〔第4版〕』、日本経済新聞社 (ISBN:978-4296114641)
2. 道垣内弘人、2017、『プレップ法学を学ぶ前に〔第2版〕』、弘文堂 (ISBN:978-4335313264)

授業には六法を持参してください。

参考文献(Readings)

1. 原田昌和・寺川永・吉永一行、2022、『民法総則〔第2版〕(日評ベーシック・シリーズ)』、日本評論社 (ISBN:978-4535806948)
 2. 山本敬三・香川崇・竹中悟人・山城一真、2021、『有斐閣ストウディア民法1総則』、有斐閣 (ISBN:978-4641150089)
- 上記以外にも授業中、適宜指示します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

＜授業形態＞

パワーポイントを使用した講義形式の授業です。

＜フィードバック＞

小テストのフィードバックを Blackboard を通じて行います。

注意事項(Notice)

- ①国際ビジネス法学科・政治学科1年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること
- ②国際ビジネス法学科・政治学科の学生のうち、法律専門職(司法書士等)・公務員(民法の試験の受験を必要とする職種)を目指す者は、民法概論ではなく民法(1)を履修することを推奨する

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX014／民法(1)(3 学科 2 年以上) (Civil Law (1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民法総則・物権法		
担当者名 (Instructor)	幡野 弘樹(HATANO HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	旧科目名: 民法 1 3 学科 2 年次以上 ①国際ビジネス法学科・政治学科 1 年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること ②国際ビジネス法学科・政治学科の学生のうち、法律専門職(司法書士等)・公務員(民法の試験の受験を必要とする職種)を目指す者は、民法概論ではなく民法(1)を履修することを推奨する		

授業の目標 (Course Objectives)

民法総則・物権法(担保法を除く)についての基本的な理解を得ることを目指します。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of the General Provisions of the Civil Code and the Property Law (except the Law of Security).

授業の内容 (Course Contents)

民法は私人と私人の関係を規律する基本的な法律であり、これから皆さんがさまざまな法領域を勉強するに際しても、しばしば民法に関する基礎的素養が必要となります。

本講義では、その民法の学習の出発点として、民法総則(民法典第 1 編総則の部分。第 1 条から第 174 条まで)と物権法(担保法を除く。民法典第 2 編物権の第 1 章から第 3 章まで。第 175 条から第 264 条の 14 まで)を検討対象とします。

民法の世界では、私人と私人の関係を「人」と「物」と「行為」という 3 つのファクターに着目して規律しています。民法の基本的な思考枠組を用いながら、さまざまな具体的な問題の解決法を理解することが本講義の目標です。できる限り分かりやすく、具体例を用いて授業を進める予定です。

Civil Law is the set of basic laws which regulate the relationships between private individuals, and students will often require a fundamental grounding in Civil Law when studying various legal fields going forward.

As a starting point to studying Civil Law, the lectures will examine the General Provisions of the Civil Code (Part I of the Civil Code. From Article 1 to Article 169) and the Law of Property (except the Law of Security. Chapter 1-3 of the Part II of the Civil Code. From Article 174 to Article 264-14).

In the world of Civil Law, we focus on and regulate the three factors in the relationships between private individuals which are “persons”, “objects”, and “acts.” The goal of this lecture is to understand how to solve various specific problems using the basic thinking framework of Civil Law. Classes are planned to be as easy to understand as possible, using concrete examples.

授業計画 (Course Schedule)

1. 序論1: 民法とは何か、民法の思考枠組みなど
2. 序論2: 民法の歴史、民法総則の全体像など
3. 第 1 章 契約の成立
 - 第 1 節 合意の存在
4. 第 2 節 合意の有効性(その 1: 要件)意思の完全性①
5. 第 2 節 合意の有効性(その 1: 要件)意思の完全性②
6. 第 2 節 合意の有効性(その 1: 要件)内容の妥当性
7. 第 3 節 合意の有効性(その 2: 効果)無効と取消
8. 第 3 節 合意の有効性(その 2: 効果)第三者保護①
9. 第 3 節 合意の有効性(その 2: 効果)第三者保護②
10. 第 2 章 契約の効力
 - 序 条件と期限、第 1 節 契約内容の確定

11. 第2節 債権の消滅:時効総論・消滅時効①
12. 第2節 債権の消滅:消滅時効②
13. 第3章 契約の主体・客体
 - 第1節 契約の主体:人の能力①:権利能力・意思能力
14. 第1節 契約の主体:人の能力②:行為能力
15. 第1節 契約の主体:代理①
16. 第1節 契約の主体:代理②
17. 第1節 契約の主体:法人①
18. 第1節 契約の主体:法人②
19. 第2節 契約の客体:物
20. 第4章 物権法総論
 - 第5章 所有権
 - 第1節 所有権の内容とその制限
21. 第2節 物権的請求権
22. 第3節 所有権の取得原因
 - 第4節 共有①
23. 第4節 共有②
24. 第6章 占有権
25. 第7章 物権変動
 - 第1節 不動産物権変動①
26. 第1節 不動産物権変動②
27. 第1節 不動産物権変動③
28. 第2節 動産物権変動

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義では復習を重視します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/中間レポート(30%)

中間レポートの内容・期日については授業中に指示します。

テキスト(Textbooks)

1. 角紀代恵、2018、『コンパクト民法 1 民法総則・物権法総論[第2版]』、新世社 (ISBN: 978-4883842827)
2. 原田昌和・秋山靖浩・山口敬介、2017、『判例 30! 民法 1 総則』、有斐閣 (ISBN:464113782X)
3. 水津太郎・鳥山泰志・藤澤治奈、2017、『判例 30! 民法 2 物権』、有斐閣 (ISBN: 978-4641137851)

参考文献(Readings)

適宜授業中に紹介します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

レジュメを Canvas LMS 上に掲載する予定です。

注意事項(Notice)

- ①国際ビジネス法学科・政治学科 1 年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること
- ②国際ビジネス法学科・政治学科の学生のうち、法律専門職(司法書士等)・公務員(民法の試験の受験を必要とする職種)を目指す者は、民法概論ではなく民法(1)を履修することを推奨する

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX015／憲法(1)(法学科1) (Constitutional Law (1))		
担当者名 (Instructor)	岡野 誠樹(OKANO NOBUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科1年次のみ		

授業の目標(Course Objectives)

憲法学の体系のうち、憲法第3章の諸規定により保障される権利に関わる領域について、正確な理解を得る。判例・学説の蓄積を資源として、自ら問題を把握し、説得力ある議論を展開する能力を涵養することが、期待される。

The objective of this course is to achieve an accurate understanding of the area concerning rights guaranteed by various provisions in Chapter 3 of the Constitution. Students are expected to understand problems on their own and cultivate the ability to develop persuasive arguments using the accumulated judicial precedents and theories as resources.

授業の内容(Course Contents)

日本国憲法下で、その定める権利がどのように保障されているかを的確に把握できるよう、判例・学説の展開を丁寧に講述する。裁判的保障の限界にも留意するが、やはり判例法理の批判的検討が中心になる。

The classes will lecture about the development of judicial precedents and theories so that students may accurately understand the way in which the rights established under Japanese Constitutional Law are guaranteed. While the limits of judicial guarantees will also be considered, the main focus will nevertheless be on a critical evaluation of judicial precedents.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入
2. 人権総論
3. 政教分離と信教の自由(1)
4. 政教分離と信教の自由(2)
5. 表現の自由(1)
6. 表現の自由(2)
7. 表現の自由(3)
8. 表現の自由(4)
9. 表現の自由(5)
10. 表現の自由(6)
11. 表現の自由(7)
12. 表現の自由(8)
13. 生存権(1)
14. 生存権(2)
15. 法の下での平等とその周辺問題(1)
16. 法の下での平等とその周辺問題(2)
17. 法の下での平等とその周辺問題(3)
18. 法の下での平等とその周辺問題(4)
19. 経済的自由(1)
20. 経済的自由(2)
21. 経済的自由(3)
22. 経済的自由(4)
23. 学問の自由と大学の自治
24. 憲法上の権利の享有主体(1)
25. 憲法上の権利の享有主体(2)
26. 私人間効力論(1)
27. 私人間効力論(2)
28. 人権論の射程

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

初回講義後、次回に向けての予習範囲を毎回指示するので、事前に予習すること。
その他、授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 長谷部恭男、2022、『憲法〔第 8 版〕』、新世社 (ISBN:9784883843381)
2. 長谷部恭男＝石川健治＝穴戸常寿編、2019、『憲法判例百選 I 〔第 7 版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641115453)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

講義形式が中心となる。

資料の配布のために Canvas LMS を使用する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX016／憲法(1)(その他) (Constitutional Law (1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代人権論の諸相		
担当者名 (Instructor)	原田 一明(HARADA KAZUAKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科2年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標(Course Objectives)

日本国憲法が定める権利保障規定の意味と内容について、基本的な憲法判例に留意しつつ、理解することを目標とする。

The objective of this course is to understand the meaning and content of the provisions established by Japanese Constitutional Law which guarantees rights while considering fundamental constitutional precedents.

授業の内容(Course Contents)

講義では、個別的権利の解説から始め、人権総論などの抽象的な論点については、理解が進んでから講義する。また、本年度はテキストは用いず、毎回、事前に Blackboard にアップしたレジュメに沿って授業を行う。

The lectures will start from an explanation of individual rights and proceed with the lecture on general human rights and other abstract arguments once an understanding has been achieved. Moreover, a textbook will not be used during this academic year, and instead the classes will be conducted according to an outline uploaded in advance to Blackboard.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 思想・良心の自由
3. 信仰の自由と政教分離
4. 表現の自由(1)
5. 表現の自由(2): わいせつ表現規制
6. 表現の自由(3): 名誉の保護と表現の自由・営利的言論
7. 表現の自由(4): 内容中立規制
8. 表現の自由(5): 報道・取材の自由と放送の自由
9. 集会の自由
10. 結社の自由
11. 職業の自由と営業の自由
12. 財産権の保障(1): 憲法 29 条1項・2項
13. 財産権の保障(2): 公用収用・正当な補償
14. 居住・移転の自由
15. 通信の秘密
16. 家族生活の保護
17. 生存権
18. 教育を受ける権利
19. 労働基本権(+公務員の政治活動の自由)
20. 人身の自由: 憲法的刑事手続
21. 新しい人権(包括的基本権)
22. 法の下での平等
23. 人権の享有主体(1): 天皇皇族・未成年者
24. 人権の享有主体(2): 外国人
25. 人権の享有主体(3): 法人
26. 人権の保障範囲: 私人相互間の法的関係
27. 「公共の福祉」論
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

初回の講義後、適宜次週の講義に向けての課題を指示するので事前に予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 芦部信喜(高橋和之補訂)、2019 年、『憲法 第 7 版』、岩波書店 (ISBN:978 - 4 - 00 - 022799-5)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／憲法(2)(法曹コース) (Constitutional Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	統治のしくみ		
担当者名 (Instructor)	原田 一明(HARADA KAZUAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

日本国憲法が定める統治のしくみに関して、憲法付属法令を含めて、学説や判例の内容を理解することで、憲法が定める統治構造をめぐる基本的知識の修得を目標とする。

The objective of this course is to acquire basic knowledge concerning the government structure established by the Constitution by understanding the details of the theories and judicial precedents including the laws and ordinances associated with the Constitution in regard to the system of government established by Japanese Constitutional Law.

授業の内容 (Course Contents)

国会、内閣、裁判所などの国家機関の地位と権限、具体的運用上の問題点を論ずるとともに、それらの統治機構が依拠する立憲民主制などの基本原理についても概説する。

The classes will discuss the position and authority of government institutions such as the National Diet, Cabinet, and the courts as well as their specific operational issues while also providing an outline of the fundamental principles of the constitutional and democratic system that these government organizations rely on.

授業計画 (Course Schedule)

1. 国民主権と権力分立
2. デモクラシー
3. 選挙制度
4. 二院制
5. 議会による行政統制
6. 議院内閣制
7. 内閣制度
8. 安全保障
9. 内閣法制局
10. 裁判官制度と司法の独立
11. 違憲審査制
12. 地方自治
13. 財政・公金の支出の禁止
14. 憲法改正問題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

受講に当たっては、テキストの該当の箇所を読み、併せて、Blackboardに掲載する予定のレジメにも目を通しておく必要がある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 笹田栄司編、2019、『トピックからはじめる統治制度 第2版』、有斐閣 (ISBN:9784641227804)

参考文献 (Readings)

1. 渋谷 秀樹・赤坂 正浩、2019年、『憲法2 統治(第7版)』、有斐閣
2. 芦部信喜(高橋和之補訂)、2019年、『憲法 第7版』、岩波書店

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX018／憲法(2)(法学科2) (Constitutional Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	統治のしくみ		
担当者名 (Instructor)	原田 一明(HARADA KAZUAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科2年次のみ		

授業の目標(Course Objectives)

日本国憲法が定める統治のしくみに関して、憲法付属法令を含めて、学説や判例の内容を理解することで、憲法が定める統治構造をめぐる基本的知識の修得を目標とする。

The objective of this course is to acquire basic knowledge concerning the government structure established by the Constitution by understanding the details of the theories and judicial precedents including the laws and ordinances associated with the Constitution in regard to the system of government established by Japanese Constitutional Law.

授業の内容(Course Contents)

国会、内閣、裁判所などの国家機関の地位と権限、具体的運用上の問題点を論ずるとともに、それらの統治機構が依拠する立憲民主制などの基本原理についても概説する。

The classes will discuss the position and authority of government institutions such as the National Diet, Cabinet, and the courts as well as their specific operational issues while also providing an outline of the fundamental principles of the constitutional and democratic system that these government organizations rely on.

授業計画(Course Schedule)

1. 国民主権と権力分立
2. デモクラシー
3. 選挙制度
4. 二院制
5. 議会による行政統制
6. 議院内閣制
7. 内閣制度
8. 安全保障
9. 内閣法制局
10. 裁判官制度と司法の独立
11. 違憲審査制
12. 地方自治
13. 財政・公金の支出の禁止
14. 憲法改正問題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

受講に当たっては、テキストの該当の箇所を読み、併せて、Blackboardに掲載する予定のレジメにも目を通しておく必要がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 笹田栄司編、2019、『トピックからはじめる統治制度 第2版』、有斐閣 (ISBN:9784641227804)

参考文献(Readings)

1. 渋谷 秀樹・赤坂 正浩、2019年、『憲法2 統治(第7版)』、有斐閣
2. 芦部信喜(高橋和之補訂)、2019年、『憲法 第7版』、岩波書店

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX019／憲法(2)(その他) (Constitutional Law (2))		
担当者名 (Instructor)	岡野 誠樹(OKANO NOBUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科3年次以上, 国際ビジネス法学科2年次以上, 政治学科2年次以上		

授業の目標(Course Objectives)

憲法学の体系のうち、講学上の「統治機構論」に該当する領域について、正確な理解を得る。判例・学説の蓄積を資源として、自ら問題を把握し、説得力ある議論を展開する能力を涵養することが、期待される。

The objective of this course is to achieve an accurate understanding of the area concerning “governmental mechanisms” within the system of Constitutional Law. Students are expected to understand problems on their own and cultivate the ability to develop persuasive arguments using the accumulated judicial precedents and theories as resources.

授業の内容(Course Contents)

日本国憲法が定める統治機構の全体設計への視点が疎かにならないよう意を用いつつ、個々の裁判例、学説間の対立が、いかなる具体的な問題について議論を重ねてきたか、丁寧に講述する。具体的な解釈論と関連性を有する範囲で、抽象度の高い理論的な問題にも立ち入るが、両者の間の連関は常に意識して講義を進める。適宜、比較法的な指摘も織り交ぜていきたいと考えている。

The classes will lecture about how individual court precedents and the debates between opposing theories have been discussing any specific problems while taking care not to neglect a perspective of the overall design of government institutions established by Japanese Constitutional Law. The classes will also cover highly abstract theoretical problems within a scope of specific interpretation and relevance but proceed while always keeping in mind the linkages between the two. Comparative law will also be interwoven to highlight certain aspects when appropriate.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入(1)
2. 導入(2)
3. 国会(1)
4. 国会(2)
5. 国会(3)
6. 国会と内閣の関係(1)
7. 国会と内閣の関係(2)
8. 内閣と行政権(1)
9. 内閣と行政権(2)
10. 司法(1)
11. 司法(2)
12. 司法(3)
13. 地方自治
14. 統治機構の現代的諸課題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

初回講義後、次回に向けての予習範囲を毎回指示するので、事前に予習すること。
その他、授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 長谷部恭男、2018、『憲法〔第8版〕』、新世社 (ISBN:9784883843381)

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

講義形式が中心となる。

資料の配布のために Canvas LMS を使用する。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX020／民法概論 (Overview of Civil Law)		
担当者名 (Instructor)	藤澤 治奈(FUJISAWA HARUNA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	2022 年度以降入学の国際ビジネス法学科全学年、政治学科生全学年 ①国際ビジネス法学科・政治学科 1 年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること ②国際ビジネス法学科・政治学科の学生のうち、法律専門職(司法書士等)・公務員(民法の試験の受験を必要とする職種)を目指す者は、民法概論ではなく民法(1)を履修することを推奨する		

授業の目標 (Course Objectives)

民法について基礎的な理解を得ることを目標とします。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of Japanese civil law.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は、政治学科および国際ビジネス法学科(2022 年度以降入学者)向けの授業です。民法全体について、基礎的な講義を行います。ただし、家族法(親族・相続)については、扱いません。

この授業を履修した者は、この授業の内容をふまえて、商法、民事訴訟法、労働法、経済法、知的財産法等の発展的な科目を履修することができます。資格試験対策等の理由から、さらに詳しく民法を学びたい者は、2 年次以降に、民法(2)、民法(3)、民法(4)、金融取引法 1 を履修しましょう。なお、この授業を履修した者が、民法(1)を履修する必要はありませんので、注意して下さい。

This course is intended for students admitted to the Department of Politics or the Department of International Business Law in or after the academic year 2022. The classes will consist of fundamental lectures about civil law in general, except that family law (i.e., relatives and inheritance) will not be covered.

Students who have taken this course will be able to take more advanced courses in law, such as courses in commercial law, civil procedure law, labor law, economic law, and intellectual property law, based on what they have learned from this course. Students who wish to learn more details about civil law in order to prepare for qualifying or certification exams are encouraged to take Civil Law (2), Civil Law (3), Civil Law (4), and Law of Financial Transactions 1, in their second and subsequent years. Please note that students who have taken this course are not required to take Civil Law (1).

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 民法総則(1)
3. 民法総則(2)
4. 民法総則(3)
5. 民法総則(4)
6. 民法総則(5)
7. 民法総則(6)
8. 民法総則(7)
9. 民法総則(8)
10. 民法総則(9)
11. 民法総則(10)
12. 物権(1)
13. 物権(2)
14. 物権(3)
15. 契約(1)
16. 契約(2)
17. 契約(3)
18. 契約(4)
19. 契約(5)
20. 契約(6)
21. 契約(7)
22. 契約(8)
23. 不法行為(1)

24. 不法行為(2)
25. 債権回収(1)
26. 債権回収(2)
27. まとめ(1)
28. まとめ(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、予習範囲を指示するので、教科書の該当部分を読んでから授業に臨んでください。また、小テストに備えて、各授業後に復習をしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

小テスト(複数回実施)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 道垣内弘人、2022、『リーガルベイス民法入門〔第4版〕』、日本経済新聞社 (ISBN:978-4296114641)
2. 道垣内弘人、2017、『プレップ法学を学ぶ前に〔第2版〕』、弘文堂 (ISBN:978-4335313264)

授業には六法を持参してください。

参考文献(Readings)

1. 原田昌和・寺川永・吉永一行、2022、『民法総則〔第2版〕(日評ベーシック・シリーズ)』、日本評論社 (ISBN:978-4535806948)
 2. 山本敬三・香川崇・竹中悟人・山城一真、2021、『有斐閣ストウディア民法1総則』、有斐閣 (ISBN:978-4641150089)
- 上記以外にも授業中、適宜指示します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

＜授業形態＞

パワーポイントを使用した講義形式の授業です。

＜フィードバック＞

小テストのフィードバックを Blackboard を通じて行います。

注意事項(Notice)

- ①国際ビジネス法学科・政治学科1年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること
- ②国際ビジネス法学科・政治学科の学生のうち、法律専門職(司法書士等)・公務員(民法の試験の受験を必要とする職種)を目指す者は、民法概論ではなく民法(1)を履修することを推奨する

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX021／民法(1)(3 学科 1 年) (Civil Law (1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民法総則・物権法		
担当者名 (Instructor)	山口 敬介(YAMAGUCHI KEISUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	旧科目名：民法 1 3 学科 1 年 ①国際ビジネス法学科・政治学科 1 年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること ②国際ビジネス法学科・政治学科の学生のうち、法律専門職(司法書士等)・公務員(民法の試験の受験を必要とする職種)を目指す者は、民法概論ではなく民法(1)を履修することを推奨する		

授業の目標 (Course Objectives)

民法総則・物権法の考え方を理解することを目標とします。

The aim of this course is to help students to understand the concepts of the general provisions of Civil Code and the law of real rights

授業の内容 (Course Contents)

民法総則および物権法(担保物権を除く)について専門的な講義を行います。民法総則は、民法の他の分野はもちろん、民法以外の実定法を理解するうえで基礎となる考え方を含み、重要な分野です。物権法は、物を優先的に支配する権利の変動や帰属に関するルールであり、我々の社会にとって重要な財産である不動産や動産についての基本的ルールです。今後の法学の勉強の出発点ともなるこれらの分野の考え方を十分理解してもらえるように努めます。

This course deals with the concepts and principles of the general provisions of Civil Code and so-called Property Law (Article 175 to Article 294 in the Civil Code), except sections involving Security Property Law.

The general provisions of Civil Code is the basis of not only Civil code but also other laws. Real rights are the power of control to real estate and movable. The law of real rights are thus fundamental rules about important property for our society.

I will try to have you understand the concepts of these fields which are starting points of law study.

授業計画 (Course Schedule)

1. 民法・民法総則とは何か
2. 法律行為序説
3. 意思の完全性・その 1
4. 意思の完全性・その 2
5. 内容の妥当性
6. 第三者保護・その 1
7. 第三者保護・その 2
8. 代理・その 1
9. 代理・その 2
10. 代理・その 3
11. 能力
12. 条件と期限・消滅時効 1
13. 消滅時効 2
14. 人と物
15. 物権・物権法序説
16. 不動産物権変動・その 1
17. 不動産物権変動・その 2—契約以外の物権取得原因
18. 不動産物権変動・その 3—不動産登記制度
19. 不動産物権変動・その 4—民法 177 条
20. 不動産物権変動・その 5—民法 177 条
21. 不動産物権変動・その 6—〇〇と登記
22. 動産物権変動・その 1
23. 動産物権変動・その 2
24. 物権的請求権

25. 所有権・その 1
26. 所有権・その 2ー共同所有
27. 法人
28. 所有者不明土地問題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

復習は重要です。毎回、復習範囲としていくつかの教科書の該当箇所を具体的に指定します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/複数回の小テスト(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 原田昌和、2017、『民法 1 総則 判例 30』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13782-0)
2. 水津太郎、2023、『民法 2 物権 判例 30【第 2 版】』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-23313-3)

特定の教科書は指定しませんが、講義開始時に主な教科書を紹介します。

講義には、六法及び上記判例教材を持参することが不可欠です。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

- ①国際ビジネス法学科・政治学科 1 年次生のうち、法曹コースへの進学を目指す者は必ず民法(1)を履修すること
- ②国際ビジネス法学科・政治学科の学生のうち、法律専門職(司法書士等)・公務員(民法の試験の受験を必要とする職種)を目指す者は、民法概論ではなく民法(1)を履修することを推奨する

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX022／民法2(3 学科 3 年以上) (Civil Law 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	物権法を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	野澤 正充(NOZAWA MASAMICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	2021 年度以前入学の法学科 3.4 年次のみ 2024 年度以降廃止		

授業の目標(Course Objectives)

民法の物権法について、(a) 基本的な知識を修得すること、および、(b) 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うことを目標とする。

The course objectives are (a) to acquire basic knowledge of the law of property rights in the Civil Code, and (b) to develop the ability to apply that knowledge to specific legal problems and derive reasonable solutions.

授業の内容(Course Contents)

民法の第2編「物権」のうち、第1章～第6章(総則・占有権・所有権・地上権・地役権等)を取り上げる。担保物権は扱わない。授業の内容は、「授業の目標」に掲げた(a)および(b)に従う。(a)に関しては、民法の他の領域や実社会の実例等とも有機的に関連づけながら、基本的な知識を提供し、(b)のための基礎が作られるようにする。(b)に関しては、重要論点について判例・学説を詳しく分析・検討することを通じて、妥当な解決を説得的に導き出すためのプロセス(解釈論の定立や当該事案への適用など)を具体的に示す。

We will cover chapters 1-6 (general provisions, right of possession, ownership, superficies, servitudes, etc.) of Part 2 "Property Rights" of the Civil Code.

The content of the class will follow (a) and (b) listed in "Course Objectives". As for (a), basic knowledge will be provided while organically relating it to other areas of civil law and actual examples from the real world, so that the foundation for (b) can be built. As for (b), through detailed analysis and examination of precedents and theories on important issues, the process of persuasively deriving appropriate solutions (establishment of interpretive theories, application to the relevant cases, etc.) will be concretely demonstrated.

授業計画(Course Schedule)

1. 物権の意義
2. 物権の効力
3. 物権変動とは、不動産物権変動(1)不動産物権変動の基本
4. 不動産物権変動(2)登記を要する物権変動
5. 不動産物権変動(3)登記を要する物権変動
6. 不動産物権変動(4)177条の第三者
7. 不動産物権変動(5)177条の第三者
8. 不動産物権変動(6)不動産登記の概要
9. 動産物権変動(1)動産物権変動の基本
10. 動産物権変動(2)即時取得
11. 所有権(1)所有権とは、相隣関係、所有権の取得
12. 所有権(2)共有
13. 占有(1)
14. 占有(2)、用益物権

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義では、予習よりも、復習を重視する。すなわち、授業の内容を、自ら確認し、よく理解することが求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/コメントペーパーなど(授業中に2～3回程度実施する予定)(20%)

テキスト(Textbooks)

- ・教科書は、特に指定しない。
- ・重要な論点や判例の学習を補うために、レジュメを配布する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX023／民法(2)(法学科 2 年) (Civil Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	債権総論・契約法の解説		
担当者名 (Instructor)	野澤 正充(NOZAWA MASAMICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科2年次のみ (旧科目名:民法3)		

授業の目標(Course Objectives)

債権総論・契約法について、基本的な理解を得る。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of the general theory of claims and Contract Law.

授業の内容(Course Contents)

民法典の第三編「債権」のうち、事務管理・不当利得・不法行為を除いた部分、いわゆる債権総論(ただし、多数当事者の債権関係、弁済による代位、相殺を除く)と契約法分野を扱う。解説すべき事柄が極めて多い一方で、講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、レジュメを用いて、具体的なイメージを大切にしながら解説したい。なお、講義内容は、2020年4月1日施行の改正民法に基づいて行う。

The classes will cover the so-called general theory of claims (however not including claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, set-offs and obligee's subrogation right,) and the field of Contract Law within the "Claims" section in Part III of the Civil Code with the exception of negotiorum gestio (management of Business), torts, and unjust enrichment. While there are a great number of matters which should be explained, the class will not necessarily touch on all issues, because the lecture time is limited. However, summaries will be used to explain while keeping in mind the importance of a clear picture. Furthermore, the lectures will be conducted based on the revised Civil Code which will be enforced from April 1, 2020.

授業計画(Course Schedule)

1. 債権の意義、契約の成立
2. 特定物債権と種類債権
3. 金銭債権、利息債権、弁済一債権の任意的実現1
4. 弁済一債権の任意的実現2
5. 受領遅滞
6. 債権の強制的実現
7. 債務不履行1
8. 債務不履行2
9. 損害賠償1
10. 損害賠償2
11. 契約法序説－契約自由の原則
12. 契約の成立
13. 契約の効力
14. 契約の解除1
15. 契約の解除2
16. 売買1
17. 売買2
18. 売買3
19. 消費貸借
20. 賃貸借1
21. 賃貸借2
22. 賃貸借3
23. 請負、委任
24. 債務者の責任財産の保全－債権者代位権
25. 詐害行為取消権
26. 債権譲渡1
27. 債権譲渡2
28. 債務引受、契約上の地位の移転

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

民法1を履修済みか、もしくは民法(1)を並行して履修中であることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/レポート・コメントペーパー等(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 野澤正充、2020、『セカンドステージ債権法Ⅱ・債権総論(第3版)』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-52429-3)
2. 野澤正充、2020、『セカンドステージ債権法Ⅰ・契約法(第3版)』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-52428-6)

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

講義レジュメは、授業で配布する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX024／民法(2)(その他) (Civil Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	債権総論・契約法の専門的解説		
担当者名 (Instructor)	原田 昌和(HARADA MASAKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科3年次以上, 国際ビジネス法学科2年次以上, 政治学科2年次以上 (旧科目名: 民法 3)		

授業の目標 (Course Objectives)

債権総論・契約法について, 専門的な理解を得る。

The objective of this course is to achieve a specialized understanding of the general theory of claims and Contract Law.

授業の内容 (Course Contents)

民法典の第三編「債権」のうち, 事務管理・不当利得・不法行為を除いた部分, いわゆる債権総論(ただし多数当事者の債権関係, 弁済による代位, 相殺、債権者代位権・詐害行為取消権を除く)と契約法分野を扱う。解説すべき事柄が極めて多い一方で, 講義時間が限られているので, 必ずしもすべての問題点に触れることはできないが, レジューメやパワーポイントを用いて, 具体的なイメージを大切にしながら解説したい。

The classes will cover the so-called general theory of claims (however not including claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, set-offs, obligee's subrogation right, and obligee's right to demand the rescission of fraudulent act) and the field of Contract Law within the "Claims" section in Part III of the Civil Code with the exception of negotiorum gestio (management of Business), torts, and unjust enrichment. While there are a great number of matters which should be explained, the class will not necessarily touch on all issues, because the lecture time is limited. Summaries and PowerPoint will be used to explain while keeping in mind the importance of a clear picture.

授業計画 (Course Schedule)

1. 債権の意義、契約の成立
2. 特定物債権と種類債権
3. 金銭債権, 利息債権, 債権の効力、弁済1
4. 強制履行と債務不履行の諸類型
5. 損害賠償1
6. 損害賠償2
7. 損害賠償3
8. 契約の解除1
9. 契約の解除2
10. 危険負担、事情変更の原則、第三者のためにする契約
11. 契約の効力1
12. 契約の効力2
13. 贈与, 売買1
14. 売買2
15. 売買3
16. 消費貸借, 使用貸借
17. 賃貸借1
18. 賃貸借2
19. 賃貸借3
20. 弁済2、受領遅滞
21. 雇用, 請負
22. 委任, 寄託
23. 組合、和解、契約書の読み方
24. 弁済2
25. 代物弁済, 供託, 更改, 免除, 混同
26. 債権譲渡1
27. 債権譲渡2、債務引受、契約上の地位の移転
28. 全体振り返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

レジュメおよび教科書、判例集での復習に力を入れること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/小テスト(10%)

テキスト (Textbooks)

1. 山本敬三監修、2018、『民法4 債権総論(有斐閣ストゥディア)』、有斐閣 (ISBN:9784641150577)
2. 山本敬三監修、2022、『民法5 契約(有斐閣ストゥディア)』、有斐閣 (ISBN:9784641150881)

参考文献 (Readings)

1. 田高寛貴他、2017、『民法3債権総論 判例 30 ! 』、有斐閣 (ISBN:9784641137776)
2. 中原太郎他、2017、『民法4債権各論 判例 30 ! 』、有斐閣 (ISBN:9784641137790)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

講義レジュメは、Canvas LMS または Blackboard にアップする。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／民法(2)(法曹コース) (Civil Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	債権総論・契約法の解説		
担当者名 (Instructor)	野澤 正充(NOZAWA MASAMICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	(旧科目名:民法 3)		

授業の目標(Course Objectives)

債権総論・契約法について、基本的な理解を得る。

The objective of this course is to achieve a basic understanding of the general theory of claims and Contract Law.

授業の内容(Course Contents)

民法典の第三編「債権」のうち、事務管理・不当利得・不法行為を除いた部分、いわゆる債権総論(ただし、多数当事者の債権関係、弁済による代位、相殺を除く)と契約法分野を扱う。解説すべき事柄が極めて多い一方で、講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、レジュメを用いて、具体的なイメージを大切にしながら解説したい。なお、講義内容は、2020年4月1日施行の改正民法に基づいて行う。

The classes will cover the so-called general theory of claims (however not including claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, set-offs and obligee's subrogation right,) and the field of Contract Law within the "Claims" section in Part III of the Civil Code with the exception of negotiorum gestio (management of Business), torts, and unjust enrichment. While there are a great number of matters which should be explained, the class will not necessarily touch on all issues, because the lecture time is limited. However, summaries will be used to explain while keeping in mind the importance of a clear picture. Furthermore, the lectures will be conducted based on the revised Civil Code which will be enforced from April 1, 2020.

授業計画(Course Schedule)

1. 債権の意義、契約の成立
2. 特定物債権と種類債権
3. 金銭債権, 利息債権, 弁済一債権の任意的実現1
4. 弁済一債権の任意的実現2
5. 受領遅滞
6. 債権の強制的実現
7. 債務不履行1
8. 債務不履行2
9. 損害賠償1
10. 損害賠償2
11. 契約法序説－契約自由の原則
12. 契約の成立
13. 契約の効力
14. 契約の解除1
15. 契約の解除2
16. 売買1
17. 売買2
18. 売買3
19. 消費貸借
20. 賃貸借1
21. 賃貸借2
22. 賃貸借3
23. 請負, 委任
24. 債務者の責任財産の保全－債権者代位権
25. 詐害行為取消権
26. 債権譲渡1
27. 債権譲渡2
28. 債務引受, 契約上の地位の移転

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

民法1を履修済みか、もしくは民法(1)を並行して履修中であることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/レポート・コメントペーパー等(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 野澤正充、2020、『セカンドステージ債権法Ⅱ・債権総論(第3版)』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-52429-3)
2. 野澤正充、2020、『セカンドステージ債権法Ⅰ・契約法(第3版)』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-52428-6)

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

講義レジュメは、授業で配布する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX027／民法(3) (Civil Law (3))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	不法行為・事務管理・不当利得		
担当者名 (Instructor)	原田 昌和(HARADA MASAKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	(旧科目名: 民法 4)		

授業の目標 (Course Objectives)

不法行為・事務管理・不当利得について専門的理解を得る。

The objective of this class is to achieve a specialized understanding of torts, negotiorum gestio (management of business), and unjust Enrichment.

授業の内容 (Course Contents)

民法典の第三編「債権」のうち、不法行為・事務管理・不当利得に関する部分を扱う。不法行為の領域は、条文数が少ないこともあり、判例による法形成や学説による理論的進展が著しい分野であるが、「理論民法学」の面白さを垣間見ることのできる分野でもある。講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、ケースを多く用いて解説する予定である。学習の際には、暗記に頼らず、論理の流れに注意してほしい。

This class will cover torts, negotiorum gestio (management of Business), and unjust enrichment in the “Claims” section of Part III of the Civil Code. While there are not many provisions in the area of torts, it is a field noted for development of law by judicial precedent and theoretical progress due to theories, but it is a field in which one can catch a glimpse of the interesting aspects of “theoretical civil law studies.” Because the lecture time is limited, we will not necessarily be able to touch on every issue, but the schedule is to explain these topics using many cases. When studying this material, please pay attention to the logical flow rather than rote memorization.

授業計画 (Course Schedule)

1. 不法行為総説、故意
2. 過失
3. 権利・利益侵害1
4. 権利・利益侵害2
5. 他人の不法行為に基づく責任
6. 物の危険に基づく責任
7. 正当防衛等、医療過誤、賠償請求権の主体
8. 損害賠償の範囲と額の決定
9. 賠償額の調整、過失相殺
10. 共同不法行為
11. 差止請求権、消滅時効
12. 不当利得1
13. 不当利得2
14. 事務管理

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

レジュメおよび教科書での復習に力をいれること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%) / 小テスト(10%)

テキスト (Textbooks)

1. 窪田充見、2018、『不法行為法(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641137226)

参考文献 (Readings)

1. 中原太郎他、2017、『民法4 債権各論 判例 30!(START UP)』、有斐閣 (ISBN:9784641137790)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

講義レジューメは、Canvas LMS または Blackboard にアップする。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／民法(3)(法曹コース) (Civil Law (3))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	不法行為・事務管理・不当利得		
担当者名 (Instructor)	原田 昌和(HARADA MASAKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	(旧科目名:民法 4)		

授業の目標 (Course Objectives)

不法行為・事務管理・不当利得について専門的理解を得る。

The objective of this class is to achieve a specialized understanding of torts, negotiorum gestio (management of business), and unjust Enrichment.

授業の内容 (Course Contents)

民法第三編「債権」のうち、不法行為・事務管理・不当利得に関する部分を扱う。不法行為の領域は、条文数が少ないこともあり、判例による法形成や学説による理論的進展が著しい分野であるが、「理論民法学」の面白さを垣間見ることのできる分野でもある。講義時間が限られているので、必ずしもすべての問題点に触れることはできないが、ケースを多く用いて解説する予定である。学習の際には、暗記に頼らず、論理の流れに注意してほしい。

This class will cover torts, negotiorum gestio (management of Business), and unjust enrichment in the “Claims” section of Part III of the Civil Code. While there are not many provisions in the area of torts, it is a field noted for development of law by judicial precedent and theoretical progress due to theories, but it is a field in which one can catch a glimpse of the interesting aspects of “theoretical civil law studies.” Because the lecture time is limited, we will not necessarily be able to touch on every issue, but the schedule is to explain these topics using many cases. When studying this material, please pay attention to the logical flow rather than rote memorization.

授業計画 (Course Schedule)

1. 不法行為総説、故意
2. 過失
3. 権利・利益侵害1
4. 権利・利益侵害2
5. 他人の不法行為に基づく責任
6. 物の危険に基づく責任
7. 正当防衛等、医療過誤、賠償請求権の主体
8. 損害賠償の範囲と額の決定
9. 賠償額の調整、過失相殺
10. 共同不法行為
11. 差止請求権、消滅時効
12. 不当利得1
13. 不当利得2
14. 事務管理

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

レジュメおよび教科書での復習に力をいれること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%) / 小テスト(10%)

テキスト (Textbooks)

1. 窪田充見、2018、『不法行為法(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641137226)

参考文献 (Readings)

1. 中原太郎他、2017、『民法4 債権各論 判例 30!(START UP)』、有斐閣 (ISBN:9784641137790)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

講義レジューメは、Canvas LMS または Blackboard にアップする。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX029／民法(4) (Civil Law (4))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	親族・相続法		
担当者名 (Instructor)	山口 敬介(YAMAGUCHI KEISUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	(旧科目名: 民法 5)		

授業の目標 (Course Objectives)

親族法・相続法の考え方を理解することを目標とします。

The aim of this course is to help students to understand the concepts of family law and inheritance law

授業の内容 (Course Contents)

親族法および相続法について専門的な講義を行います。これらの分野においては、さまざまな現代的課題がある。例えば、増加する離婚とその場合の子の保護、非婚姻カップルの増加、性的少数者の権利、生殖補助医療の発展などである。このような状況において、法の基礎的な考え方を理解した上で、現代的な問題についても検討を深めたい。

This course deals with the concepts and principles of family law and inheritance law. In these areas, there are a lot of contemporary problems such as increased divorce, protection of children in case of divorce, increase in couples outside marriage, rights of LGBT, development of medically assisted procreation.

This course deals with not only basic knowledge of these areas but also contemporary problems.

授業計画 (Course Schedule)

1. 導入: 親族・相続法とは
2. 夫婦の法律関係・その 1
3. 夫婦の法律関係・その 2
4. 夫婦とその子の関係・その 1
5. 夫婦とその子の関係・その 2
6. 婚姻の成立
7. 夫婦とその親の関係・その 1
8. 夫婦とその親の関係・その 2
9. 婚姻の解消
10. 離婚後・再婚後の親子関係
11. 婚姻外の親子関係
12. 養子縁組による親子関係
13. 生殖補助医療による親子関係
14. 非婚カップルの法律関係
15. 同居集団の法律関係
16. 親族法まとめ
17. 相続法導入
18. 相続財産
19. 相続人
20. 遺産分割
21. 遺言・その 1
22. 遺言・その 2
23. 遺留分
24. 特別受益
25. 寄与分
26. 遺産共有
27. 第三者との関係
28. 相続法まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

復習は重要です。毎回、復習範囲としていくつかの教科書の該当箇所を具体的に指定します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/レポート(1 回)(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 青竹美佳他、2017、『判例 30 ! 5 親族・相続』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13784-4)

参考文献(Readings)

特定の教科書は指定しませんが、講義開始時に主な教科書を紹介します。
講義には、六法及び上記判例教材を持参することが不可欠です。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／民法(4)(法曹コース) (Civil Law (4))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	親族・相続法		
担当者名 (Instructor)	山口 敬介(YAMAGUCHI KEISUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	(旧科目名:民法 5)		

授業の目標(Course Objectives)

親族法・相続法の考え方を理解することを目標とします。

The aim of this course is to help students to understand the concepts of family law and inheritance law

授業の内容(Course Contents)

親族法および相続法について専門的な講義を行います。これらの分野においては、さまざまな現代的課題がある。例えば、増加する離婚とその場合の子の保護、非婚姻カップルの増加、性的少数者の権利、生殖補助医療の発展などである。このような状況において、法の基礎的な考え方を理解した上で、現代的な問題についても検討を深めたい。

This course deals with the concepts and principles of family law and inheritance law. In these areas, there are a lot of contemporary problems such as increased divorce, protection of children in case of divorce, increase in couples outside marriage, rights of LGBT, development of medically assisted procreation.

This course deals with not only basic knowledge of these areas but also contemporary problems.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入:親族・相続法とは
2. 夫婦の法律関係・その1
3. 夫婦の法律関係・その2
4. 夫婦とその子の関係・その1
5. 夫婦とその子の関係・その2
6. 婚姻の成立
7. 夫婦とその親の関係・その1
8. 夫婦とその親の関係・その2
9. 婚姻の解消
10. 離婚後・再婚後の親子関係
11. 婚姻外の親子関係
12. 養子縁組による親子関係
13. 生殖補助医療による親子関係
14. 非婚カップルの法律関係
15. 同居集団の法律関係
16. 親族法まとめ
17. 相続法導入
18. 相続財産
19. 相続人
20. 遺産分割
21. 遺言・その1
22. 遺言・その2
23. 遺留分
24. 特別受益
25. 寄与分
26. 遺産共有
27. 第三者との関係
28. 相続法まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

復習は重要です。毎回、復習範囲としていくつかの教科書の該当箇所を具体的に指定します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/レポート(1 回)(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 青竹美佳他、2017、『判例 30 ! 5 親族・相続』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13784-4)

参考文献(Readings)

特定の教科書は指定しませんが、講義開始時に主な教科書を紹介します。
講義には、六法及び上記判例教材を持参することが不可欠です。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／民法2(法曹コース) (Civil Law 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	物権法を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	野澤 正充(NOZAWA MASAMICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	2024 年度以降廃止		

授業の目標(Course Objectives)

民法の物権法について、(a) 基本的な知識を修得すること、および、(b) 具体的な法律問題において、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を養うことを目標とする。

The course objectives are (a) to acquire basic knowledge of the law of property rights in the Civil Code, and (b) to develop the ability to apply that knowledge to specific legal problems and derive reasonable solutions.

授業の内容(Course Contents)

民法の第2編「物権」のうち、第1章～第6章(総則・占有権・所有権・地上権・地役権等)を取り上げる。担保物権は扱わない。授業の内容は、「授業の目標」に掲げた(a)および(b)に従う。(a)に関しては、民法の他の領域や実社会の実例等とも有機的に関連づけながら、基本的な知識を提供し、(b)のための基礎が作られるようにする。(b)に関しては、重要論点について判例・学説を詳しく分析・検討することを通じて、妥当な解決を説得的に導き出すためのプロセス(解釈論の定立や当該事案への適用など)を具体的に示す。

We will cover chapters 1-6 (general provisions, right of possession, ownership, superficies, servitudes, etc.) of Part 2 "Property Rights" of the Civil Code.

The content of the class will follow (a) and (b) listed in "Course Objectives". As for (a), basic knowledge will be provided while organically relating it to other areas of civil law and actual examples from the real world, so that the foundation for (b) can be built. As for (b), through detailed analysis and examination of precedents and theories on important issues, the process of persuasively deriving appropriate solutions (establishment of interpretive theories, application to the relevant cases, etc.) will be concretely demonstrated.

授業計画(Course Schedule)

1. 物権の意義
2. 物権の効力
3. 物権変動とは、不動産物権変動(1)不動産物権変動の基本
4. 不動産物権変動(2)登記を要する物権変動
5. 不動産物権変動(3)登記を要する物権変動
6. 不動産物権変動(4)177条の第三者
7. 不動産物権変動(5)177条の第三者
8. 不動産物権変動(6)不動産登記の概要
9. 動産物権変動(1)動産物権変動の基本
10. 動産物権変動(2)即時取得
11. 所有権(1)所有権とは、相隣関係、所有権の取得
12. 所有権(2)共有
13. 占有(1)
14. 占有(2)、用益物権

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義では、予習よりも、復習を重視する。すなわち、授業の内容を、自ら確認し、よく理解することが求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/コメントペーパーなど(授業中に2~3回程度実施する予定)(20%)

テキスト(Textbooks)

- ・教科書は、特に指定しない。
- ・重要な論点や判例の学習を補うために、レジュメを配布する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／刑法(2)(法曹コース) (Criminal Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	刑法各論概説		
担当者名 (Instructor)	鎮目 征樹(SHIZUME MOTOKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

刑法全体についての大まかなものの見方を学びつつ、刑法各論における個別の犯罪成立要件やその背後にある発想などを理解できるようになること。

In this course the participants learn the outline of the criminal law in general and the types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業の内容 (Course Contents)

本科目では、刑法全体についての大まかな見取り図を示すとともに、刑法各論における個別の犯罪について、体系的に、かつ具体的に学ぶことができるような授業を行う。例えば、殺人罪といった犯罪一つをとっても、「人」とは何か、堕胎罪で保護されている「胎児」は「人」ではないのか、といった非常に難しい問題が潜んでいる。こういった様々な問題について、判例をベースに検討を加えていく。

In this course the outline of the criminal law in general will be showed, which is important to understand what kind of conditions must be fulfilled for the punishment. After that the participants will learn various types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業計画 (Course Schedule)

1. 刑法全体の大まかな枠組み(1)
2. 刑法全体の大まかな枠組み(2)
3. 刑法全体の大まかな枠組み(3)
4. 刑法各論総説・生命に対する罪(1)
5. 生命に対する罪(2)
6. 身体に対する罪(1)
7. 身体に対する罪(2)
8. 自由に対する罪(1)
9. 自由に対する罪(2)
10. 自由に対する罪(3)
11. 人格的法益に対する罪
12. 信用・業務に対する罪
13. 財産犯総説
14. 窃盗罪
15. 強盗罪(1)
16. 強盗罪(2)(恐喝罪を含む)
17. 詐欺罪(1)
18. 詐欺罪(2)
19. 横領罪
20. 背任罪
21. 盗品等関与罪・器物損壊罪
22. 放火罪を中心とした公共危険罪
23. 文書偽造罪(1)
24. 文書偽造罪(2)
25. 公務執行妨害罪
26. 司法に対する罪
27. 収賄罪
28. 講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

この授業は、多くの判例・裁判例を扱うため、講義において適宜、予習すべき範囲(予め読んでおくべきもの)を指定する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 山口厚、2015、『刑法 第3版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13908-4)
 2. 山口厚ほか、2023年、『判例刑法各論[第8版]』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13962-6)
- 『判例刑法各論[第8版]』は講義で毎回使用するため、必ず購入すること。

参考文献(Readings)

1. 西田典之(橋爪隆補訂)、2018年、『刑法各論 第7版』、弘文堂

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

参考文献については、授業において適宜指示することがある。また、受講者の理解度に応じて、あるいは新たな重要判例・裁判例などが出された場合には、随時授業の内容を変更する可能性がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX033／刑法(2)(法2年) (Criminal Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	刑法各論概説		
担当者名 (Instructor)	鎮目 征樹(SHIZUME MOTOKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科2年次のみ		

授業の目標(Course Objectives)

刑法全体についての大まかなものの見方を学びつつ、刑法各論における個別の犯罪成立要件やその背後にある発想などを理解できるようになること。

In this course the participants learn the outline of the criminal law in general and the types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、刑法全体についての大まかな見取り図を示すとともに、刑法各論における個別の犯罪について、体系的に、かつ具体的に学ぶことができるような授業を行う。例えば、殺人罪といった犯罪一つをとっても、「人」とは何か、堕胎罪で保護されている「胎児」は「人」ではないのか、といった非常に難しい問題が潜んでいる。こういった様々な問題について、判例をベースに検討を加えていく。

In this course the outline of the criminal law in general will be showed, which is important to understand what kind of conditions must be fulfilled for the punishment. After that the participants will learn various types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業計画(Course Schedule)

1. 刑法全体の大まかな枠組み(1)
2. 刑法全体の大まかな枠組み(2)
3. 刑法全体の大まかな枠組み(3)
4. 刑法各論総説・生命に対する罪(1)
5. 生命に対する罪(2)
6. 身体に対する罪(1)
7. 身体に対する罪(2)
8. 自由に対する罪(1)
9. 自由に対する罪(2)
10. 自由に対する罪(3)
11. 人格的法益に対する罪
12. 信用・業務に対する罪
13. 財産犯総説
14. 窃盗罪
15. 強盗罪(1)
16. 強盗罪(2)(恐喝罪を含む)
17. 詐欺罪(1)
18. 詐欺罪(2)
19. 横領罪
20. 背任罪
21. 盗品等関与罪・器物損壊罪
22. 放火罪を中心とした公共危険罪
23. 文書偽造罪(1)
24. 文書偽造罪(2)
25. 公務執行妨害罪
26. 司法に対する罪
27. 収賄罪
28. 講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

この授業は、多くの判例・裁判例を扱うため、講義において適宜、予習すべき範囲(予め読んでおくべきもの)を指定する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 山口厚、2015、『刑法 第3版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13908-4)
 2. 山口厚ほか、2023年、『判例刑法各論[第8版]』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13962-6)
- 『判例刑法各論[第8版]』は講義で毎回使用するため、必ず購入すること。

参考文献(Readings)

1. 西田典之(橋爪隆補訂)、2018年、『刑法各論 第7版』、弘文堂

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

参考文献については、授業において適宜指示することがある。また、受講者の理解度に応じて、あるいは新たな重要判例・裁判例などが出された場合には、随時授業の内容を変更する可能性がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX034／刑法(2)(その他) (Criminal Law (2))		
担当者名 (Instructor)	深町 晋也(FUKAMACHI SHINYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科3年次以上, 国際ビジネス法学科2年次以上, 政治学科2年次以上		

授業の目標 (Course Objectives)

刑法全体についての大まかなものの見方を学びつつ、刑法各論における個別の犯罪成立要件やその背後にある発想などを理解できるようになること。

In this course the participants learn the outline of the criminal law in general and the types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業の内容 (Course Contents)

本科目では、刑法全体についての大まかな見取り図を示すとともに、刑法各論における個別の犯罪について、体系的に、かつ具体的に学ぶことができるような授業を行う。例えば、殺人罪といった犯罪一つをとっても、「人」とは何か、堕胎罪で保護されている「胎児」は「人」ではないのか、といった非常に難しい問題が潜んでいる。こういった様々な問題について、判例をベースに検討を加えていく。

In this course the outline of the criminal law in general will be showed, which is important to understand what kind of conditions must be fulfilled for the punishment. After that the participants will learn various types of criminal acts which are defined in the Japanese penal code.

授業計画 (Course Schedule)

1. 刑法全体の大まかな枠組み(1)
2. 刑法全体の大まかな枠組み(2)
3. 刑法各論総説・生命に対する罪(1)
4. 生命に対する罪(2)
5. 身体に対する罪(1)
6. 身体に対する罪(2)
7. 自由に対する罪(1)
8. 自由に対する罪(2)
9. 住居に対する罪
10. 名誉に対する罪
11. 業務に対する罪
12. 財産犯総説
13. 窃盗罪
14. 強盗罪(1)
15. 強盗罪(2)(恐喝罪を含む)
16. 詐欺罪(1)
17. 詐欺罪(2)
18. 横領罪
19. 背任罪
20. 盗品等関与罪・器物損壊罪
21. 放火罪を中心とした公共危険罪
22. 文書偽造罪(1)
23. 文書偽造罪(2)
24. 死体等に対する罪
25. 公務執行妨害罪
26. 司法に対する罪
27. 収賄罪
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

この授業は、多くの判例・裁判例を扱うため、講義において適宜、予習すべき範囲を指定する。また、復習問題を出すことで、復習すべき範囲・内容についても適宜指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 深町晋也、2021 年、『家族と刑法』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13951-0)
 2. 西田典之ほか、2018 年、『判例刑法各論[第 7 版]』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13930-5)
- 『判例刑法各論[第 7 版]』は講義で毎回使用するため、必ず購入すること。

参考文献 (Readings)

1. 山口厚、2015 年、『刑法 第 3 版』、有斐閣
2. 西田典之(橋爪隆補訂)、2018 年、『刑法各論 第 7 版』、弘文堂

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

参考文献については、授業において適宜指示することがある。また、受講者の理解度に応じて、あるいは新たな重要判例・裁判例などが出された場合には、随時授業の内容を変更する可能性がある。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX035／刑法(1)(法学科1) (Criminal Law (1))		
担当者名 (Instructor)	小林 憲太郎(KOBAYASHI KENTARO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科1年次のみ		

授業の目標(Course Objectives)

複数の犯罪に共通する成立要件, いわゆる刑法総論を修得する。

To learn the establishment requirements which are common to multiple crimes or what is called the General Theory of Criminal Law.

授業の内容(Course Contents)

刑法総論とは, 複数の犯罪に共通する成立・阻却要件, たとえば, 因果関係や結果, 正当防衛, 責任能力などを扱う分野です。個々の犯罪に固有の成立要件を扱う刑法各論と対置される分野です。共通項を抽出して扱うという性質上, 話が抽象的になりがちなので, そのために刑法が嫌いになってしまう人も多いようです。この講義ではそのようなことにならないよう, なるべく多くの具体的な事例をあげながら分かりやすく説明していきたいと思います。たとえば, 因果関係を論ずる際には次のような事例があげられます。
「XはAを殺害しようと考え, その心臓をめがけてピストルを発射した。はたして, 弾はそれてAの腕をかすめるにとどまった。しかし, 実はAは血が固まらないという特殊な病気にかかっていたため, そのまま失血死してしまった。」
さて, Xは何罪に問われるでしょう。殺人罪まで成立するのでしょうか, それとも殺人未遂罪にとどまるのでしょうか。

The General Theory of Criminal Law is the field which covers the requirements to establish and reject multiple crimes such as the cause and effect relationship and the result, self - defense, and the capacity for liability, for example. This field stands in contrast to Criminal Law: Specific Part which covers the specific requirements to establish individual crimes. Due to the fact that this field by nature extracts and covers commonalities, the discussion tends to get abstract, which leads many people to dislike Criminal Law. To avoid this outcome, the lectures will use many specific cases to try and explain in a manner which is as easy to understand as possible. For example, we can use the following case when discussing cause and effect relationships.

“Mr. X thought about killing Mr. A and fired a pistol at his heart. As a result, the bullet missed and just grazed the arm of Mr. A. However, Mr. A in fact suffered from a rare disease that prevents blood clotting, so he died from blood loss on the spot. ”
Now, what crime will Mr. X be accused of? Has the crime of murder been established or is it only the crime of attempted murder?

授業計画(Course Schedule)

1. 刑法の基本原則
2. 構成要件論1
3. 構成要件論2
4. 構成要件論3
5. 構成要件論4
6. 故意論1
7. 故意論2
8. 故意論3
9. 過失論1
10. 過失論2
11. 過失論3
12. 違法性阻却論1
13. 違法性阻却論2
14. 違法性阻却論3
15. 違法性阻却論4
16. 責任論1
17. 責任論2
18. 責任論3
19. 未遂犯論1
20. 未遂犯論2

21. 未遂犯論3
22. 共犯論1
23. 共犯論2
24. 共犯論3
25. 共犯論4
26. 共犯論5
27. 罪数論
28. 刑法の適用範囲・刑罰論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定された教科書および判例集を事前に必ず読んでくること。講義はそのことを前提に行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 小林憲太郎、2020、『刑法総論〔第2版〕』、新世社 (ISBN:9784883843114)
2. 小林憲太郎、2022、『重要判例集 刑法総論〔第2版〕』、新世社 (ISBN:978-4-88384-352-7)

参考文献(Readings)

1. 小林憲太郎、2016、『ライブ講義刑法入門』、新世社 (ISBN:978-4-88384-246-9)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX036／刑法(1)(その他) (Criminal Law (1))		
担当者名 (Instructor)	小林 憲太郎(KOBAYASHI KENTARO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科2年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標 (Course Objectives)

複数の犯罪に共通する成立要件, いわゆる刑法総論を修得する。

To learn the establishment requirements which are common to multiple crimes or what is called the General Theory of Criminal Law.

授業の内容 (Course Contents)

刑法総論とは, 複数の犯罪に共通する成立・阻却要件, たとえば, 因果関係や結果, 正当防衛, 責任能力などを扱う分野です。個々の犯罪に固有の成立要件を扱う刑法各論と対置される分野です。共通項を抽出して扱うという性質上, 話が抽象的になりがちなので, そのために刑法が嫌いになってしまう人も多いようです。この講義ではそのようなことにならないよう, なるべく多くの具体的な事例をあげながら分かりやすく説明していきたいと思います。たとえば, 因果関係を論ずる際には次のような事例があげられます。
「XはAを殺害しようと考え, その心臓をめがけてピストルを発射した。はたして, 弾はそれてAの腕をかすめるにとどまった。しかし, 実はAは血が固まらないという特殊な病気にかかっていたため, そのまま失血死してしまった。」
さて, Xは何罪に問われるでしょう。殺人罪まで成立するのでしょうか, それとも殺人未遂罪にとどまるのでしょうか。

The General Theory of Criminal Law is the field which covers the requirements to establish and reject multiple crimes such as the cause and effect relationship and the result, self - defense, and the capacity for liability, for example. This field stands in contrast to Criminal Law: Specific Part which covers the specific requirements to establish individual crimes.

Due to the fact that this field by nature extracts and covers commonalities, the discussion tends to get abstract, which leads many people to dislike Criminal Law. To avoid this outcome, the lectures will use many specific cases to try and explain in a manner which is as easy to understand as possible. For example, we can use the following case when discussing cause and effect relationships.

“Mr. X thought about killing Mr. A and fired a pistol at his heart. As a result, the bullet missed and just grazed the arm of Mr. A. However, Mr. A in fact suffered from a rare disease that prevents blood clotting, so he died from blood loss on the spot. ”
Now, what crime will Mr. X be accused of? Has the crime of murder been established or is it only the crime of attempted murder?

授業計画 (Course Schedule)

1. 刑法の基本原則
2. 構成要件論1
3. 構成要件論2
4. 構成要件論3
5. 構成要件論4
6. 故意論1
7. 故意論2
8. 故意論3
9. 過失論1
10. 過失論2
11. 過失論3
12. 違法性阻却論1
13. 違法性阻却論2
14. 違法性阻却論3
15. 違法性阻却論4
16. 責任論1
17. 責任論2
18. 責任論3
19. 未遂犯論1
20. 未遂犯論2

21. 未遂犯論3
22. 共犯論1
23. 共犯論2
24. 共犯論3
25. 共犯論4
26. 共犯論5
27. 罪数論
28. 刑法の適用範囲・刑罰論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定された教科書および判例集を事前に必ず読んでくること。講義はそのことを前提に行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 小林憲太郎、2020、『刑法総論〔第2版〕』、新世社 (ISBN:9784883843114)
2. 小林憲太郎、2022、『重要判例集 刑法総論〔第2版〕』、新世社 (ISBN:978-4-88384-352-7)

参考文献(Readings)

1. 小林憲太郎、2016、『ライブ講義刑法入門』、新世社 (ISBN:978-4-88384-246-9)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX041／商法(1) (Commercial Law (1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会社法		
担当者名 (Instructor)	河村 賢治(KAWAMURA KENJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、わが国の会社法、とりわけ株式会社法の概要、及びその実務における運用等について、理解を深めることを目標とする。

The purposes of this course are to (1) help students deepen their understanding of Japan's Companies Act and, in particular, (2) to provide an overview of the Stock Corporation Act along with its application in business practice.

授業の内容(Course Contents)

本講義は、会社法、とりわけ株式会社法のうち、株式、機関、設立、計算を対象とする。わが国経済の変動、そしてグローバル化は、会社法関連の領域にも大きな影響を与えてきた。そもそも企業組織をめぐる法的規律について、どのようなシステムがわが国に適合的であるかを考えるにあたっては、現に事業を展開している株式会社の実態をいかに認識するか、あるいはこれに対する法的規律を支える理論をいかに構築するか等、様々な観点からの検討が必要である。

本講義では、株式会社をめぐる関係者の利害得失をしっかりと見極められる目を養ってもらうことを目的として、以上の多面的な検討を授業内で行っていきたいと考えている。

This course aims to cover the Companies Act, particularly the Stock Company Act (especially on Equity, Corporate Governance, Dividends and Distributions, and Formation Procedures). Japanese economic fluctuations and globalization have also exerted a significant impact on areas related to the Companies Act. When thinking about what types of systems are compatible with Japan's legal frameworks for corporate organizations, first, they must be evaluated from various perspectives, for instance: "How do you recognize the present situation of corporations that are currently developing businesses?" "How do you construct theories that support the corresponding legal frameworks?" This course focuses on multifaceted examination of the issues described above to develop students' ability to discern accurately gains and losses of relevant persons with respect to corporations.

授業計画(Course Schedule)

1. 会社法総論
2. 株式会社法総論
3. 株式①
4. 株式②
5. 株式③
6. 株式④
7. 株式会社の機関①:株主総会①
8. 株式会社の機関②:株主総会②
9. 株式会社の機関③:株主総会③
10. 株式会社の機関④:取締役・取締役会①
11. 株式会社の機関⑤:取締役・取締役会②
12. 株式会社の機関⑥:取締役・取締役会③
13. 株式会社の機関⑦:取締役・取締役会④
14. 株式会社の機関⑧:取締役・取締役会⑤
15. 株式会社の機関⑨:監査・監督機関①
16. 株式会社の機関⑩:監査・監督機関②
17. 株式会社の機関⑪:委員会型機関①
18. 株式会社の機関⑫:委員会型機関②
19. 株式会社の会計①:計算書類①
20. 株式会社の会計②:計算書類②
21. 株式会社の会計③:分配①
22. 株式会社の会計④:分配②
23. 株式会社の設立手続①

24. 株式会社の設立手続②
25. 株式会社の設立手続③
26. 種類株式
27. 持分会社①
28. 持分会社②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

レジュメだけでなく、自ら教科書等を読み、理解を深めることが必要となる。また、経済ニュースも適宜取り上げる予定なので、新聞等を読むようにしてほしい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/質問等(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 伊藤靖史ほか、2021、『会社法〔第 5 版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641179462)
 2. 高橋美加ほか、2020、『会社法〔第 3 版〕』、弘文堂 (ISBN:9784335358395)
 3. 岩原紳作ほか、2021、『会社法判例百選〔第 4 版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641115545)
- 1 と 2 については、書店で内容を確認し、分かりやすいと思ったほうを選べばよい。また、新しい版が出版された場合には、新しい版を利用する。

参考文献 (Readings)

授業初回に紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

最新版の六法を準備すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX042／商法(2) (Commercial Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業金融・企業再編・商法総則／Corporate Finance・M&A・General Rules of Commercial Law		
担当者名 (Instructor)	高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、我が国の会社法とりわけ株式会社法のうち、資金調達と組織再編および会社法総則の内容について、その基本的な知識を修得し、理解を深めることを目標とする。

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge and deepen understanding of the contents of financing, organizational restructuring, and general rules of the Companies Act of Japan.

授業の内容(Course Contents)

本講義は、我が国の会社法、特に株式会社法から資金調達、組織再編、および会社法総則を扱う。我が国経済の変動、そしてグローバル化は、会社法関連法領域にも大きな影響を与えてきた。そもそも企業組織をめぐる法的規律について、どのようなシステムが我が国に適合的であるかを考えるにあたっては、現に事業を展開している株式会社の実態をいかに認識するか、あるいはこれに対する法的規律を支える理論をいかに構築するか等、様々な観点からの検討が必要である。

本講義では、基本的な条文知識および重要判例の理解を通じ、以上のような多面的な観点から株式会社をめぐる関係者の利害得失を見極められる目を養うことを目的とする。

This lecture deals with financing, organizational restructuring, and general rules of the Companies Act of Japan. Changes in the Japanese economy and globalization have had a major impact on the legal areas related to the Companies Act. What is important in considering what kind of corporate law system is suitable for Japan is how to recognize the actual situation of the corporations that are actually developing business and how to build a theory that supports legal discipline. In this lecture, through understanding the basic legal provisions and important precedents, we would like to cultivate an eye to identify the interests of the parties concerned with the corporation from the above-mentioned multifaceted perspectives.

授業計画(Course Schedule)

1. 会社法総論：株式会社と持分会社
2. 株式会社の資金調達①：株式①
3. 株式会社の資金調達②：株式②
4. 株式会社の資金調達③：新株予約権
5. 株式会社の資金調達④：社債
6. 株式会社の組織再編①：組織再編一般・親子会社
7. 株式会社の組織再編②：合併
8. 株式会社の組織再編③：株式交換・株式移転・株式交付
9. 株式会社の組織再編④：会社分割・事業譲渡
10. 株式会社の解散・清算
11. 会社法総則①：通則
12. 会社法総則②：商業登記
13. 会社法総則③：商号
14. 会社法総則④：使用人

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

単元ごとに小テスト(多肢選択式)を行う。小テストは成績評価に含める。そのほか、発展的な内容や、質問提出などの課題がある。時事的な問題も扱うので報道等も確認すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)／小テスト(20%)

授業への貢献、任意提出課題などによって上記とは外付けで加点する場合がある。

テキスト(Textbooks)

1. 神作裕之ほか、2021、『会社法判例百選(第4版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115545)

判例百選は授業で使用する。

参考文献 (Readings)

1. 高橋美加ほか、2020、『会社法(第3版)』、弘文堂
2. 伊藤靖史ほか、2021、『会社法(第5版)』、有斐閣
3. 落合誠一ほか、2019、『商法 I (総則・商行為)(第6版)』、有斐閣

初回の授業で紹介する。授業までに改訂があった場合は最新版を指定する。なお、復習用の参考書であり、必ず購入する必要はない。また「会社法」はどちらか 1 冊でよい。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

授業内の質問・アンケート・課題などのために PC/タブレット/スマートフォンなどのデバイスがあった方がよい。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX043／商法(3) (Commercial Law (3))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	商取引法		
担当者名 (Instructor)	河村 賢治(KAWAMURA KENJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、どのような点にわが国の商取引の特徴があり、そこでどのような法律問題が生じているのか等について理解し、考察する力を涵養することを目標とする。

The purposes of this course are for students to understand (1) where unique features of Japanese commercial transactions lie; (2) what types of legal issues occur; and (3) to cultivate the ability to think.

授業の内容(Course Contents)

本講義は、広い意味での商法(Business Law)のうち、狭い意味での商法(Commercial Code)を主に対象とする。具体的な法文としては、商法・会社法に規定された総則規定、商法に規定された商行為規定、そして民法に規定された契約に関する規定などがある。本講義では、これらの条文を取り上げるとともに、判例や契約実務なども素材として、説明を加えていくこととしたい。

This course mainly focuses on Commercial Code in the narrow sense of Business Law in the broad sense. This course aims to cover specific legal texts including general provisions defined in the Commercial Code and the Companies Act, the commercial transaction regulations defined in the Commercial Code, and the provisions concerning contracts defined in the Civil Code. This course uses not only these provisions but also cases from judicial precedents and contract practices in actual companies as materials to provide explanations.

授業計画(Course Schedule)

1. 商法総論、商人・商行為
2. 商人・商行為
3. 商業帳簿、商業登記
4. 商業登記、商号
5. 商号、営業・営業譲渡
6. 営業・営業譲渡、商業使用人、代理商
7. 商業使用人、代理商、商行為法総論
8. 商事売買
9. 交互計算、匿名組合、仲立営業
10. 仲立営業、問屋営業
11. 問屋営業、運送営業・運送取扱営業
12. 運送営業・運送取扱営業、場屋営業
13. 場屋営業、倉庫営業
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

レジュメだけでなく、自ら教科書等を読み、理解を深めることが必要となる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)／質問等(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 北村雅史ほか、2022、『商法総則・商行為法〔第2版〕』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-04201-9)
2. 神作裕之・藤田友敬編、2019、『商法判例百選』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-11543-9)

参考文献(Readings)

授業初回に紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX044／商法(4) (Commercial Law (4))		
担当者名 (Instructor)	松井 秀征(MATSUI HIDEYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、保険契約を規律する法の基本的な考え方、およびその特殊性を理解させることを目標とする。

The aim of this course is for students to develop an understanding of the basic ideas and distinctive features of laws that regulate insurance contracts.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、主として保険契約法を体系的に説明するとともに、必要に応じて保険監督法についても解説を加える。具体的には、保険法に規定された保険契約法の規定を中心として説明し、適宜、保険業法に規定された保険監督法の規定にも触れながら、講義を行うことになる。

保険制度は、現代社会において多様なリスクにさらされている個人、あるいは企業にとって、必要不可欠なものである。だが、当該制度自体は極めて技術性が高く、また複雑な仕組みを有しており、その理解に困難な点が少なくない。そこで本講義においては、伝統的な保険契約の形態である損害保険契約、および生命保険契約を中心に、その基本的な制度枠組みについて平易に説明することを考えている。また、時間が許せば、比較的新しい契約形態である傷害保険契約、および疾病保険契約についても触れることとする。

This course mainly provides a systematic explanation of insurance contract law and also covers insurance regulatory law as necessary. More specifically, this course focuses on explaining the provisions of insurance contract law provided in the Insurance Act while touching on the provisions of insurance regulatory law provided in the Insurance Business Act, as necessary.

The insurance system is essential for individuals and companies that are exposed to various kinds of risks in modern society. However, the system is difficult to understand owing to its extremely technical nature and complex structure. Therefore, the intention of this course is to explain the basic institutional framework of property insurance contracts and life insurance contracts, which are traditional forms of insurance contracts, in a readily understandable way. If time permits, students are also expected to touch on accident insurance contracts and sickness insurance contracts, which are relatively new forms of insurance contracts.

授業計画 (Course Schedule)

1. 保険法総論
2. 損害保険契約①: 損害保険契約の内容①
3. 損害保険契約②: 損害保険契約の内容②
4. 損害保険契約③: 損害保険契約の成立①
5. 損害保険契約④: 損害保険契約の成立②
6. 損害保険契約⑤: 損害保険関係の変動
7. 損害保険契約⑥: 損害保険事故の発生①
8. 損害保険契約⑦: 損害保険事故の発生②
9. 生命保険契約①: 生命保険契約の内容①
10. 生命保険契約②: 生命保険契約の内容②
11. 生命保険契約③: 生命保険契約の成立
12. 生命保険契約④: 生命保険関係の変動
13. 生命保険契約⑤: 生命保険事故の発生
14. 傷害疾病保険契約

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

資料中の設問について、テキスト等を手掛かりに自分なりの解答を作成し、復習することが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

なお、授業中の発言について、筆記試験に加味する。

テキスト(Textbooks)

1. 山下友信ほか、2019、『保険法〔第4版〕』、有斐閣
2. 山下友信＝洲崎博史、2010、『保険法判例百選』、有斐閣

参考文献(Readings)

授業内で適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／商法(1)(法曹コース) (Commercial Law (1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会社法		
担当者名 (Instructor)	河村 賢治(KAWAMURA KENJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、わが国の会社法、とりわけ株式会社法の概要、及びその実務における運用等について、理解を深めることを目標とする。

The purposes of this course are to (1) help students deepen their understanding of Japan's Companies Act and, in particular, (2) to provide an overview of the Stock Corporation Act along with its application in business practice.

授業の内容 (Course Contents)

本講義は、会社法、とりわけ株式会社法のうち、株式、機関、設立、計算を対象とする。わが国経済の変動、そしてグローバル化は、会社法関連の領域にも大きな影響を与えてきた。そもそも企業組織をめぐる法的規律について、どのようなシステムがわが国に適合的であるかを考えるにあたっては、現に事業を展開している株式会社の実態をいかに認識するか、あるいはこれに対する法的規律を支える理論をいかに構築するか等、様々な観点からの検討が必要である。

本講義では、株式会社をめぐる関係者の利害得失をしっかりと見極められる目を養ってもらうことを目的として、以上の多面的な検討を授業内で行っていきたいと考えている。

This course aims to cover the Companies Act, particularly the Stock Company Act (especially on Equity, Corporate Governance, Dividends and Distributions, and Formation Procedures). Japanese economic fluctuations and globalization have also exerted a significant impact on areas related to the Companies Act. When thinking about what types of systems are compatible with Japan's legal frameworks for corporate organizations, first, they must be evaluated from various perspectives, for instance: "How do you recognize the present situation of corporations that are currently developing businesses?" "How do you construct theories that support the corresponding legal frameworks?" This course focuses on multifaceted examination of the issues described above to develop students' ability to discern accurately gains and losses of relevant persons with respect to corporations.

授業計画 (Course Schedule)

1. 会社法総論
2. 株式会社法総論
3. 株式①
4. 株式②
5. 株式③
6. 株式④
7. 株式会社の機関①: 株主総会①
8. 株式会社の機関②: 株主総会②
9. 株式会社の機関③: 株主総会③
10. 株式会社の機関④: 取締役・取締役会①
11. 株式会社の機関⑤: 取締役・取締役会②
12. 株式会社の機関⑥: 取締役・取締役会③
13. 株式会社の機関⑦: 取締役・取締役会④
14. 株式会社の機関⑧: 取締役・取締役会⑤
15. 株式会社の機関⑨: 監査・監督機関①
16. 株式会社の機関⑩: 監査・監督機関②
17. 株式会社の機関⑪: 委員会型機関①
18. 株式会社の機関⑫: 委員会型機関②
19. 株式会社の会計①: 計算書類①
20. 株式会社の会計②: 計算書類②
21. 株式会社の会計③: 分配①
22. 株式会社の会計④: 分配②
23. 株式会社の設立手続①

24. 株式会社の設立手続②
25. 株式会社の設立手続③
26. 種類株式
27. 持分会社①
28. 持分会社②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

レジュメだけでなく、自ら教科書等を読み、理解を深めることが必要となる。また、経済ニュースも適宜取り上げる予定なので、新聞等を読むようにしてほしい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/質問等(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 伊藤靖史ほか、2021、『会社法〔第 5 版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641179462)
 2. 高橋美加ほか、2020、『会社法〔第 3 版〕』、弘文堂 (ISBN:9784335358395)
 3. 岩原紳作ほか、2021、『会社法判例百選〔第 4 版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641115545)
- 1 と 2 については、書店で内容を確認し、分かりやすいと思ったほうを選べばよい。また、新しい版が出版された場合には、新しい版を利用する。

参考文献 (Readings)

授業初回に紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

最新版の六法を準備すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／商法(2)(法曹コース) (Commercial Law (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業金融・企業再編・商法総則／Corporate Finance・M&A・General Rules of Commercial Law		
担当者名 (Instructor)	高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、我が国の会社法とりわけ株式会社法のうち、資金調達と組織再編および会社法総則の内容について、その基本的な知識を修得し、理解を深めることを目標とする。

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge and deepen understanding of the contents of financing, organizational restructuring, and general rules of the Companies Act of Japan.

授業の内容(Course Contents)

本講義は、我が国の会社法、特に株式会社法から資金調達、組織再編、および会社法総則を扱う。我が国経済の変動、そしてグローバル化は、会社法関連法領域にも大きな影響を与えてきた。そもそも企業組織をめぐる法的規律について、どのようなシステムが我が国に適合的であるかを考えるにあたっては、現に事業を展開している株式会社の実態をいかに認識するか、あるいはこれに対する法的規律を支える理論をいかに構築するか等、様々な観点からの検討が必要である。

本講義では、基本的な条文知識および重要判例の理解を通じ、以上のような多面的な観点から株式会社をめぐる関係者の利害得失を見極められる目を養うことを目的とする。

This lecture deals with financing, organizational restructuring, and general rules of the Companies Act of Japan. Changes in the Japanese economy and globalization have had a major impact on the legal areas related to the Companies Act. What is important in considering what kind of corporate law system is suitable for Japan is how to recognize the actual situation of the corporations that are actually developing business and how to build a theory that supports legal discipline. In this lecture, through understanding the basic legal provisions and important precedents, we would like to cultivate an eye to identify the interests of the parties concerned with the corporation from the above-mentioned multifaceted perspectives.

授業計画(Course Schedule)

1. 会社法総論：株式会社と持分会社
2. 株式会社の資金調達①：株式①
3. 株式会社の資金調達②：株式②
4. 株式会社の資金調達③：新株予約権
5. 株式会社の資金調達④：社債
6. 株式会社の組織再編①：組織再編一般・親子会社
7. 株式会社の組織再編②：合併
8. 株式会社の組織再編③：株式交換・株式移転・株式交付
9. 株式会社の組織再編④：会社分割・事業譲渡
10. 株式会社の解散・清算
11. 会社法総則①：通則
12. 会社法総則②：商業登記
13. 会社法総則③：商号
14. 会社法総則④：使用人

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

単元ごとに小テスト(多肢選択式)を行う。小テストは成績評価に含める。そのほか、発展的な内容や、質問提出などの課題がある。時事的な問題も扱うので報道等も確認すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)／小テスト(20%)

授業への貢献、任意提出課題などによって上記とは外付けで加点する場合がある。

テキスト(Textbooks)

1. 神作裕之ほか、2021、『会社法判例百選(第4版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115545)

判例百選は授業で使用する。

参考文献 (Readings)

1. 高橋美加ほか、2020、『会社法(第3版)』、弘文堂
2. 伊藤靖史ほか、2021、『会社法(第5版)』、有斐閣
3. 落合誠一ほか、2019、『商法 I (総則・商行為)(第6版)』、有斐閣

初回の授業で紹介する。授業までに改訂があった場合は最新版を指定する。なお、復習用の参考書であり、必ず購入する必要はない。また「会社法」はどちらか 1 冊でよい。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

授業内の質問・アンケート・課題などのために PC／タブレット／スマートフォンなどのデバイスがあった方がよい。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX053／民事訴訟法(1) (Civil Procedure (1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民事訴訟法(判決手続)の概説		
担当者名 (Instructor)	内海 博俊(UCHIUMI HIROTOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

民事手続法・制度の根幹をなす狭義の民事訴訟法(判決手続)についての基礎的理解を確立し、民事訴訟によって紛争が解決されていく流れを理解したうえで、その過程で生じ得る諸問題に対して、条文および基本的な道具概念の正確な理解を出発点とした論理的なアプローチによって合理的な回答を導けるようになること。

The purposes of this course are (1) to establish a fundamental understanding of civil procedure that constitutes the basis of the law and the civil judiciary system; (2) after understanding the process by which a dispute is resolved through civil litigation, to be able to provide rational answers to various problems that occur during the process by using a logical approach based on accurate understanding of provisions and essential concepts.

授業の内容(Course Contents)

概ね教科書に記述されている順序に沿って、民事訴訟法(判決手続)について解説する。授業は原則として講義形式で行われるが、実定法の理解は、授業で聞いたその時になんとなく理解できたというのでは不十分であり、現実に生じる問題を、学びとったルールの体系を適用して解決することができるだけの、言ってみれば「使用に耐える」レベルの理解が求められる。そのようなレベルに到達するには、能動的な学習態度が必要不可欠である。

なお本科目では、判決手続のうち、上訴・再審および複雑訴訟に関する部分の詳細は扱われない予定である。

This course aims to, for the most part, explain the Code of Civil Procedure according to the textbook's sequence. Generally, the course follows a lecture format. However, vaguely understanding the topics in law classes is not enough. Instead, students need to achieve, as much as possible, a "usable" level of understanding that applies the system of learned rules to resolve actually occurring problems. Students' active learning attitude is essential for reaching this level.

Notice: Topics related to appellate procedure, retrial, and complex litigations are excluded from this course.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション・民事訴訟とは何か①
2. 民事訴訟とは何か②
3. 訴訟手続の開始①
4. 訴訟手続の開始②
5. 裁判所
6. 当事者①
7. 当事者②
8. 当事者③
9. 審理の原則①
10. 審理の原則②
11. 審理の準備
12. 事案の解明①
13. 事案の解明②
14. 事案の解明③
15. 事案の解明④
16. 訴訟要件①
17. 訴訟要件②
18. 判決①
19. 判決②
20. 判決③
21. 判決④
22. 判決⑤
23. 判決⑥
24. 当事者の意思による終了①

25. 当事者の意思による終了②
26. 補論①
27. 補論②
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

民事訴訟(判決手続)では、紛争の当事者間に民法等の実体法が認めている権利・義務が存在するのかが争われ、裁判所によってこれに対する一定の結論が示される。ゆえに、そこで起こっていることの意味を理解するうえでは、実体法の基礎的事項に関する理解が不可欠となるため、実体法、とくに民法のうちいわゆる財産法の分野については、本講義の開講前、あるいは本講義と並行して学習することが推奨される。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 三木浩一ほか、2018、『リーガルクエスト民事訴訟法(第3版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17938-7)
2. 高田裕成ほか、2023、『民事訴訟法判例百選(第6版)』、有斐閣
 - 1 開講までに教科書(リーガルクエスト民事訴訟法)の改訂がされた場合、新しい版を使用する(早期に教科書の購入を考えている方は注意すること) 予定である。その際は別途指示する。
 - 2 判例集(民事訴訟法判例百選)は改訂後の版を指定している。万が一開講までに刊行が間に合わない場合、旧版(第5版)が指定される可能性がある。この場合も別途指示する。
 - 3 テキストのほかに、「民事訴訟法」および「民事訴訟規則」が全文掲載されている最新の(近年は改正が多いのでとくに注意)六法を毎回用意する(アプリ等でも構わないが、期末試験で利用できるのは紙の六法であることに留意すること)。

参考文献(Readings)

初回授業等において指定する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

講義資料はSMS(Canvas LMSを予定)を通じて電子的に配布される。紙による配布は行わない。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX054／民事訴訟法(2) (Civil Procedure (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民事訴訟法の概説(複雑訴訟及び上訴・再審)		
担当者名 (Instructor)	林 紘司(HAYASHI KOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

民事訴訟の複雑訴訟及び上訴・再審についての基本的な事項を理解すること。

To establish basic understanding of the following topics of civil procedure: complex litigations, appellate procedure, and action for retrials.

授業の内容(Course Contents)

民事訴訟法(1)で得られた知見を前提として、本講義の前半(複雑訴訟)では、判決手続が、複数の請求を併せて審理判断することになるため、あるいは、一人の原告と一人の被告以外の者が関与することになるために複雑化する現象、及びその複雑化した判決手続がどのように規律されるかについて解説する。後半(上訴・再審)では、第一審における敗訴当事者が上級裁判所によるその見直しを求める場合に行われる上訴手続、また、確定した判決の取り消しを求めてする再審の訴えに関する手続について解説する。なお、講義の前半では、昨年度の民事訴訟法(1)における学習範囲の復習も実施する。

This course, based on the knowledge acquired through Civil Procedure(1), introduces, firstly, complex litigations, which includes actions with multiple claims and/or actions in which third parties—other than one plaintiff and one defendant—involved. Then, we move on to processes of appeals against judgement of lower courts and action for retrials of concluded cases. Additionally, review of last year's Civil Procedure (1) will also be conducted.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション・民事訴訟法(1)の復習
2. 複雑訴訟の概観・複数請求訴訟(客観的併合)
3. 複数請求訴訟の周辺(訴えの変更・反訴・中間確認の訴え・重複訴訟)
4. 多数当事者訴訟の概観・通常共同訴訟と周辺
5. 必要的共同訴訟と周辺(共同訴訟参加)
6. 補助参加・共同訴訟的補助参加・訴訟告知
7. 独立当事者参加
8. 訴訟承継・任意的当事者変更
9. 複雑訴訟の補論・まとめ
10. 上訴総論・控訴①
11. 控訴②
12. 上告
13. 抗告・再審
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

民事訴訟法(1)の内容を丹念に復習しておくこと。
事前に配布される講義資料に従い、十分な予習・復習をして臨むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 三木浩一ほか、2023、『リーガルクエスト民事訴訟法(第4版)』、有斐閣 (ISBN:9784641179561)
2. 高橋宏志ほか、2015、『民事訴訟法判例百選(第5版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115279)

※テキストのほかに、ブランド等を問わないが、「民事訴訟法」および「民事訴訟規則」が全文掲載されている最新の六法を毎回用意すること(アプリ等でも構わないが、筆記試験で利用できるのは紙の六法であることに留意すること)。

参考文献(Readings)

初回授業等において適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

PowerPoint を使用した講義形式で、予習・復習のための講義資料は Canvas LMS を通じて電子的に配布する(紙による配布は行わない)。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／民事訴訟法(1)(法曹コース) (Civil Procedure (1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民事訴訟法(判決手続)の概説		
担当者名 (Instructor)	内海 博俊(UCHIUMI HIROTOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

民事手続法・制度の根幹をなす狭義の民事訴訟法(判決手続)についての基礎的理解を確立し、民事訴訟によって紛争が解決されていく流れを理解したうえで、その過程で生じ得る諸問題に対して、条文および基本的な道具概念の正確な理解を出発点とした論理的なアプローチによって合理的な回答を導けるようになること。

The purposes of this course are (1) to establish a fundamental understanding of civil procedure that constitutes the basis of the law and the civil judiciary system; (2) after understanding the process by which a dispute is resolved through civil litigation, to be able to provide rational answers to various problems that occur during the process by using a logical approach based on accurate understanding of provisions and essential concepts.

授業の内容(Course Contents)

概ね教科書に記述されている順序に沿って、民事訴訟法(判決手続)について解説する。授業は原則として講義形式で行われるが、実定法の理解は、授業で聞いたその時になんとなく理解できたというのでは不十分であり、現実に生じる問題を、学びとったルールの体系を適用して解決することができるだけの、言ってみれば「使用に耐える」レベルの理解が求められる。そのようなレベルに到達するには、能動的な学習態度が必要不可欠である。

なお本科目では、判決手続のうち、上訴・再審および複雑訴訟に関する部分の詳細は扱われない予定である。

This course aims to, for the most part, explain the Code of Civil Procedure according to the textbook's sequence. Generally, the course follows a lecture format. However, vaguely understanding the topics in law classes is not enough. Instead, students need to achieve, as much as possible, a "usable" level of understanding that applies the system of learned rules to resolve actually occurring problems. Students' active learning attitude is essential for reaching this level.

Notice: Topics related to appellate procedure, retrial, and complex litigations are excluded from this course.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション・民事訴訟とは何か①
2. 民事訴訟とは何か②
3. 訴訟手続の開始①
4. 訴訟手続の開始②
5. 裁判所
6. 当事者①
7. 当事者②
8. 当事者③
9. 審理の原則①
10. 審理の原則②
11. 審理の準備
12. 事案の解明①
13. 事案の解明②
14. 事案の解明③
15. 事案の解明④
16. 訴訟要件①
17. 訴訟要件②
18. 判決①
19. 判決②
20. 判決③
21. 判決④
22. 判決⑤
23. 判決⑥
24. 当事者の意思による終了①

25. 当事者の意思による終了②
26. 補論①
27. 補論②
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

民事訴訟(判決手続)では、紛争の当事者間に民法等の実体法が認めている権利・義務が存在するのかが争われ、裁判所によってこれに対する一定の結論が示される。ゆえに、そこで起こっていることの意味を理解するうえでは、実体法の基礎的事項に関する理解が不可欠となるため、実体法、とくに民法のうちいわゆる財産法の分野については、本講義の開講前、あるいは本講義と並行して学習することが推奨される。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 三木浩一ほか、2018、『リーガルクエスト民事訴訟法(第3版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17938-7)
2. 高田裕成ほか、2023、『民事訴訟法判例百選(第6版)』、有斐閣
 - 1 開講までに教科書(リーガルクエスト民事訴訟法)の改訂がされた場合、新しい版を使用する(早期に教科書の購入を考えている方は注意すること) 予定である。その際は別途指示する。
 - 2 判例集(民事訴訟法判例百選)は改訂後の版を指定している。万が一開講までに刊行が間に合わない場合、旧版(第5版)が指定される可能性がある。この場合も別途指示する。
 - 3 テキストのほかに、「民事訴訟法」および「民事訴訟規則」が全文掲載されている最新の(近年は改正が多いのでとくに注意)六法を毎回用意する(アプリ等でも構わないが、期末試験で利用できるのは紙の六法であることに留意すること)。

参考文献(Readings)

初回授業等において指定する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

講義資料はSMS(Canvas LMSを予定)を通じて電子的に配布される。紙による配布は行わない。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／民事訴訟法(2)(法曹コース) (Civil Procedure (2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民事訴訟法の概説(複雑訴訟及び上訴・再審)		
担当者名 (Instructor)	林 紘司(HAYASHI KOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

民事訴訟の複雑訴訟及び上訴・再審についての基本的な事項を理解すること。

To establish basic understanding of the following topics of civil procedure: complex litigations, appellate procedure, and action for retrials.

授業の内容(Course Contents)

民事訴訟法(1)で得られた知見を前提として、本講義の前半(複雑訴訟)では、判決手続が、複数の請求を併せて審理判断することになるため、あるいは、一人の原告と一人の被告以外の者が関与することになるために複雑化する現象、及びその複雑化した判決手続がどのように規律されるかについて解説する。後半(上訴・再審)では、第一審における敗訴当事者が上級裁判所によるその見直しを求める場合に行われる上訴手続、また、確定した判決の取り消しを求めてする再審の訴えに関する手続について解説する。なお、講義の前半では、昨年度の民事訴訟法(1)における学習範囲の復習も実施する。

This course, based on the knowledge acquired through Civil Procedure(1), introduces, firstly, complex litigations, which includes actions with multiple claims and/or actions in which third parties—other than one plaintiff and one defendant—involved. Then, we move on to processes of appeals against judgement of lower courts and action for retrials of concluded cases. Additionally, review of last year's Civil Procedure (1) will also be conducted.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション・民事訴訟法(1)の復習
2. 複雑訴訟の概観・複数請求訴訟(客観的併合)
3. 複数請求訴訟の周辺(訴えの変更・反訴・中間確認の訴え・重複訴訟)
4. 多数当事者訴訟の概観・通常共同訴訟と周辺
5. 必要的共同訴訟と周辺(共同訴訟参加)
6. 補助参加・共同訴訟的補助参加・訴訟告知
7. 独立当事者参加
8. 訴訟承継・任意的当事者変更
9. 複雑訴訟の補論・まとめ
10. 上訴総論・控訴①
11. 控訴②
12. 上告
13. 抗告・再審
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

民事訴訟法(1)の内容を丹念に復習しておくこと。
事前に配布される講義資料に従い、十分な予習・復習をして臨むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 三木浩一ほか、2023、『リーガルクエスト民事訴訟法(第4版)』、有斐閣 (ISBN:9784641179561)
2. 高橋宏志ほか、2015、『民事訴訟法判例百選(第5版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115279)

※テキストのほかに、ブランド等を問わないが、「民事訴訟法」および「民事訴訟規則」が全文掲載されている最新の六法を毎回用意すること(アプリ等でも構わないが、筆記試験で利用できるのは紙の六法であることに留意すること)。

参考文献(Readings)

初回授業等において適宜指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

PowerPoint を使用した講義形式で、予習・復習のための講義資料は Canvas LMS を通じて電子的に配布する(紙による配布は行わない)。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX058／倒産法 (Bankruptcy Law)		
担当者名 (Instructor)	貝瀬 幸雄(KAISE YUKIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

倒産法は債務者の再出発を可能とする。本講義ではそのようなヒューマンスティックな制度である倒産手続の概要を修得する。倒産法は手続法と実体法を総合する法分野であって、諸君が民法で学んだ知識を立体化する楽しみもある領域なのである。

Bankruptcy law enables debtors to make a fresh start. In this course, students will study an overview of such a humanistic system. Bankruptcy law is a field of law which synthesizes procedural law and substantive law, and it is also an area which solidifies the knowledge you have learned in civil law in an enjoyable way.

授業の内容 (Course Contents)

倒産手続の申し立てと開始、倒産債権・財団債権・共益債権、管財人の地位、双務契約の処理、倒産債務者財産の管理と換価、再生・再建計画、倒産手続の進行と終了、消費者倒産の諸問題、国際倒産処理について講述する予定である。いずれのテーマについても、破産手続に限定せず、民事再生法・会社更生法の内容も横断的に解説する。

This course will explain the opening of insolvency procedures, bankruptcy claims/estate claims/common basic claims, position of administrators, executory contracts, rehabilitation and reorganization plans, the progress and closure of insolvency proceedings, various problems of consumer insolvency, and international insolvency law. The topics will not be limited to bankruptcy proceedings, but also explain the details of the Civil Rehabilitation Act and Corporate Reorganization Act in an interdisciplinary manner.

授業計画 (Course Schedule)

1. 倒産法総論
2. 倒産手続の申し立てと保全処分
3. 倒産管理機構
4. 倒産債権の処理
5. 倒産債務者の契約関係の規律
6. 否認権(1)
7. 否認権(2)
8. 担保権
9. 相殺権・取戻権
10. 倒産債務者財産の管理と換価
11. 再生計画・更生計画
12. 倒産手続の進行と終了
13. 消費者倒産
14. 国際倒産

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予めテキストの該当箇所を精読しておくこと。講義で言及した判例は『倒産判例百選』で確認しておくように。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 山本和彦、『倒産処理法入門 第5版』、有斐閣 (ISBN:9784641137899)
2. 松下淳一他、『倒産判例百選 第6版』、有斐閣 (ISBN:9784641115521)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX059／民事執行・保全法 (Civil Execution Law and Civil Provisional Remedies Law)		
担当者名 (Instructor)	吉田 純平(YOSHIDA JUMPEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

民事執行法および民事保全法に関する基本的な知識や考え方を修得する。

Acquire basic knowledge and ideas about the Civil Execution Law and the Civil Preservation Law.

授業の内容 (Course Contents)

民事執行法および民事保全法の基本的な概念や規範を解説し、重要な論点について判例・学説を通して検討する。

Explain the basic concepts and norms of the Civil Execution Law and the Civil Preservation Law.

授業計画 (Course Schedule)

1. 民事執行および民事保全の意義・民事執行の基本構造
2. 民事執行の主体・民事執行の要件
3. 執行力・執行文
4. 民事執行の救済システム
5. 民事執行の進行
6. 不動産執行①
7. 不動産執行②
8. 不動産執行③
9. 不動産執行④・動産執行
10. 債権執行①
11. 債権執行②
12. 非金銭執行
13. 民事保全の意義・仮差押え
14. 係争物に関する仮処分・仮の地位を定める仮処分

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

教科書の関連箇所を読む。

レジュメに記載の設問について授業内容を基に答案を作成する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 中野貞一郎、2022、『民事執行・保全入門【補訂第2版】』、有斐閣 (ISBN:9784641138971)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX060／刑事訴訟法 (Criminal Procedure)		
担当者名 (Instructor)	安村 勉(YASUMURA TSUTOMU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

刑事手続を規律する原理やルールを理解する。

The objective of this course is to understand the principles and rules which govern the criminal procedure.

授業の内容 (Course Contents)

ある人が犯罪を行ったとしても、その人が直ちに処罰されるわけではない。通常、警察官がその犯罪を捜査し、検察官が犯人と疑われる者を起訴し、裁判所がその者を有罪としたときに初めて、犯罪の犯人は処罰されることになる。この授業では、このような手続を規律する刑事訴訟法を取り扱う。具体的には、まず、捜査から公判に至るまでの手続の通常の流れを概観し、そのうえで、その過程で生じる法的問題点を判例がどのように解決しているのかを分析する。

Even if someone commits a crime, he/she will not be necessarily punished for it. He/she will be punished, only if the police investigate it, the prosecutor indicts him/her as an accused, and the court convicts him/her.

This course examines the law of criminal procedure which rules these processes. At first, we will overview the usual course of criminal procedure from investigation to trial, and then analyze how the case law settles the legal issues that arise in the course of these processes.

授業計画 (Course Schedule)

1. 刑事訴訟法の法源と歴史①
2. 刑事訴訟法の法源と歴史②
3. 捜査手続の全体像、捜査の担い手
4. 強制捜査と任意捜査①: 現行法上の強制捜査の概観、強制処分法定主義と令状主義(領置を含む)、有形力の行使、写真・ビデオ撮影、おとり捜査
5. 強制捜査と任意捜査②: 強制採尿、会話・通信の傍受、GPS 捜査
6. 行政警察活動と司法警察活動—捜査の端緒—①: 職務質問、職務質問のための停止、所持品検査
7. 行政警察活動と司法警察活動—捜査の端緒—②: 自動車検問
8. 逮捕・勾留①
9. 逮捕・勾留②
10. 逮捕・勾留③
11. 逮捕・勾留の諸問題①: 逮捕前置主義、事件単位の原則、再逮捕再勾留
12. 逮捕・勾留の諸問題②: 再逮捕再勾留、一罪一勾留の原則、別件逮捕
13. 被疑者の取調べ(任意同行下における取調べを含む)
14. 被疑者弁護
15. 接見交通
16. 証拠となる物を収集・保全する手続①: 令状による捜索・差押え(1)
17. 証拠となる物を収集・保全する手続②: 令状による捜索・差押え(2)
18. 証拠となる物を収集・保全する手続③: 逮捕に伴う無令状の捜索・差押え
19. 検察官による事件処理とその是正(協議・合意制度、一部起訴を含む)
20. 起訴状、審判の対象(訴因変更命令を含む)、起訴状一本主義、訴因の特定・明示(有罪判決における「罪となるべき事実」を含む)
21. 訴因変更: 訴因変更の要否・可否・許可
22. 有罪判決、無罪判決、概括的認定・択一的認定、裁判の効力
23. 公判準備・証拠開示と公判手続
24. 証拠法の基礎理論①: 証拠裁判主義、厳格な証明と自由な証明、証拠調べ手続、証明の程度、余罪と量刑
25. 証拠法の基礎理論②: 自由心証主義、自白の補強証拠
26. 証拠の関連性: 性格証拠、科学的証拠
27. 自白法則
28. 違法収集証拠排除法則
29. 伝聞法則: 伝聞概念

26. 伝聞例外①
27. 伝聞例外②
28. 上訴・非常救済手続:(特に控訴、上告、再審)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前にレジュメと資料(主として判例)を配布する。授業に先だってレジュメと資料に目を通しておくこと。

授業ではレジュメ(あるいは自らのノート)にメモをとることになるので、授業後には、そのメモを頼りに、教科書や参考文献を参照しながら復習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 椎橋隆幸・安村勉・洲見光男・加藤克佳、2018、『ポイントレクチャー刑事訴訟法』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13925-1)
2. 井上正仁ほか編、2017、『刑事訴訟法判例百選(第10版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-11532-3)

参考文献(Readings)

1. 川出敏裕、2021、『判例講座 刑事訴訟法(捜査・証拠篇)〔第2版〕』、立花書房 (ISBN:978-4-8037-2496-7)
2. 川出敏裕、2018、『判例講座 刑事訴訟法(公訴提起・公判・裁判篇)』、立花書房 (ISBN:978-4803724882)
3. 酒巻匡、2020、『刑事訴訟法〔第2版〕』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13942-8)

授業に先立って配布するレジュメの中で、参考文献を紹介します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

刑事手続というのは、刑罰法令を適用実現するためのものですので(刑事訴訟法1条参照)、刑法総論・刑法各論の授業を既に履修済み、あるいは少なくとも履修中でないと、本講義の内容の理解が難しい場合があるかもしれません。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／刑事訴訟法(法曹コース) (Criminal Procedure)		
担当者名 (Instructor)	安村 勉(YASUMURA TSUTOMU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

刑事手続を規律する原理やルールを理解する。

The objective of this course is to understand the principles and rules which govern the criminal procedure.

授業の内容(Course Contents)

ある人が犯罪を行ったとしても、その人が直ちに処罰されるわけではない。通常、警察官がその犯罪を捜査し、検察官が犯人と疑われる者を起訴し、裁判所がその者を有罪としたときに初めて、犯罪の犯人は処罰されることになる。

この授業では、このような手続を規律する刑事訴訟法を取り扱う。具体的には、まず、捜査から公判に至るまでの手続の通常の流れを概観し、そのうえで、その過程で生じる法的問題点を判例がどのように解決しているのかを分析する。

Even if someone commits a crime, he/she will not be necessarily punished for it. He/she will be punished, only if the police investigate it, the prosecutor indicts him/her as an accused, and the court convicts him/her.

This course examines the law of criminal procedure which rules these processes. At first, we will overview the usual course of criminal procedure from investigation to trial, and then analyze how the case law settles the legal issues that arise in the course of these processes.

授業計画(Course Schedule)

1. 刑事訴訟法の法源と歴史①
2. 刑事訴訟法の法源と歴史②
3. 捜査手続の全体像、捜査の担い手
4. 強制捜査と任意捜査①: 現行法上の強制捜査の概観、強制処分法定主義と令状主義(領置を含む)、有形力の行使、写真・ビデオ撮影、おとり捜査
5. 強制捜査と任意捜査②: 強制採尿、会話・通信の傍受、GPS 捜査
6. 行政警察活動と司法警察活動—捜査の端緒—①: 職務質問、職務質問のための停止、所持品検査
7. 行政警察活動と司法警察活動—捜査の端緒—②: 自動車検問
8. 逮捕・勾留①
9. 逮捕・勾留②
10. 逮捕・勾留③
11. 逮捕・勾留の諸問題①: 逮捕前置主義、事件単位の原則、再逮捕再勾留
12. 逮捕・勾留の諸問題②: 再逮捕再勾留、一罪一勾留の原則、別件逮捕
13. 被疑者の取調べ(任意同行下における取調べを含む)
14. 被疑者弁護
15. 接見交通
16. 証拠となる物を収集・保全する手続①: 令状による捜索・差押え(1)
17. 証拠となる物を収集・保全する手続②: 令状による捜索・差押え(2)
18. 証拠となる物を収集・保全する手続③: 逮捕に伴う無令状の捜索・差押え
19. 検察官による事件処理とその是正(協議・合意制度、一部起訴を含む)
20. 起訴状、審判の対象(訴因変更命令を含む)、起訴状一本主義、訴因の特定・明示(有罪判決における「罪となるべき事実」を含む)
21. 訴因変更: 訴因変更の要否・可否・許可
22. 有罪判決、無罪判決、概括的認定・択一的認定、裁判の効力
23. 公判準備・証拠開示と公判手続
24. 証拠法の基礎理論①: 証拠裁判主義、厳格な証明と自由な証明、証拠調べ手続、証明の程度、余罪と量刑
25. 証拠法の基礎理論②: 自由心証主義、自白の補強証拠
26. 証拠の関連性: 性格証拠、科学的証拠
27. 自白法則
28. 違法収集証拠排除法則
29. 伝聞法則: 伝聞概念

26. 伝聞例外①
27. 伝聞例外②
28. 上訴・非常救済手続:(特に控訴、上告、再審)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前にレジュメと資料(主として判例)を配布する。授業に先だってレジュメと資料に目を通しておくこと。
授業ではレジュメ(あるいは自らのノート)にメモをとることになるので、授業後には、そのメモを頼りに、教科書や参考文献を参照しながら復習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 椎橋隆幸・安村勉・洲見光男・加藤克佳、2018、『ポイントレクチャー刑事訴訟法』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13925-1)
2. 井上正仁ほか編、2017、『刑事訴訟法判例百選(第10版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-11532-3)

参考文献(Readings)

1. 川出敏裕、2021、『判例講座 刑事訴訟法(捜査・証拠篇)〔第2版〕』、立花書房 (ISBN:978-4-8037-2496-7)
 2. 川出敏裕、2018、『判例講座 刑事訴訟法(公訴提起・公判・裁判篇)』、立花書房 (ISBN:978-4803724882)
 3. 酒巻匡、2020、『刑事訴訟法〔第2版〕』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13942-8)
- 授業に先立って配布するレジュメの中で、参考文献を紹介します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

刑事手続というのは、刑罰法令を適用実現するためのものですので(刑事訴訟法1条参照)、刑法総論・刑法各論の授業を既に履修済み、あるいは少なくとも履修中でないと、本講義の内容の理解が難しい場合があるかもしれません。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX071／行政法1 (Administrative Law 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行政法入門・行政法総論		
担当者名 (Instructor)	神橋 一彦(KANBASHI KAZUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

行政は、立法、司法と並んで、国家作用の1つであるが、行政法はこの行政に関する法的規律(ルール)を扱う分野である。国家の作用については、憲法が、権力分立と基本的人権の保障を基礎に基本的な事項を定めているが、行政法は、この憲法や「法律による行政の原理」(法治主義)に基づいて、国や地方公共団体などが行う行政活動のあり方について具体的に定めるものである。したがって、憲法(とりわけ憲法訴訟)を理解するためには、行政法の知識が必要不可欠である。また、他方で行政は、租税・労働・社会保障、環境保護、経済規制、知的財産保護などの個別分野にも関わるものであるから、これらにかかわる法分野を学ぶ前提としても、行政法の知識は必要である。その意味で行政法は、いわゆる六法とともに基本的な法分野として位置づけられている(いわゆる七法)。

この授業は、行政法の入門も含め、「授業の内容」に示された事項につき、行政法の基本的な考え方を理解することを基本的な目標とし、公務員や法曹、さらには企業法務などをを目指す学生にとっても、それぞれの目標を達成するための確固とした基礎を形成する。

Administration is one government function which stands side-by-side with legislation and the administration of justice, but Administrative Law is the area which covers the legal framework (rules) concerning administration. With regard to government functions, the Constitution establishes fundamental matters based on the separation of powers and the guarantee of basic human rights, but Administrative Law specifically establishes the ideal form of administrative activities carried out by the nation and local public organizations based on the Constitution and "legally based administrative principles" (rule of law). Therefore, knowledge of Administrative Law is essential to understand the Constitution (especially constitutional litigation). Moreover, because on the other hand administration is also involved in individual areas such as taxation, labor and social insurance, environmental protection, economic regulation, and the protection of intellectual property, knowledge of Administrative Law is required for legal fields involved in these activities as well. In that sense, Administrative Law is positioned as a fundamental field of law together with the so-called six major legal codes (referred to as the seven major legal codes).

With regard to the items indicated in the "class content", the fundamental objective of this course, including the introduction to Administrative Law, is to understand the fundamental way of thinking of Administrative Law to form a solid foundation for students aiming to become public servants, judicial officers, and corporate law personnel, etc. to achieve each of their goals.

授業の内容(Course Contents)

行政法のうち、この行政法1では、行政法の基本原理と行政活動に対する法的規律の仕組みについて扱う。なお、2024年度春学期開講予定の行政法2は、この行政法1を受けて、違法な行政活動などに対する国民の権利救済について定める行政救済法を扱う。

具体的には、(1)憲法と行政法との関係や、行政法の基本原理である「法律による行政の原理」など、行政法の基本的な枠組みについて説明する。その上で、(2)行政行為、行政立法、行政指導、行政契約、行政計画、行政強制などの「行政活動の行為形式」とその法的規律について概観する。

行政法1の分野は、個別の事項(論点・制度など)が他の事項と有機的に関連していることが多いので、講義にあたってもそのような事項相互の関連にも言及する。したがって、受講に当たっても、授業の最初から最後まで聴いてはじめて、最終的に全体がわかるという内容であることに留意して欲しい。

Within Administrative Law, this Administrative Law 1 course covers the basic principles of Administrative Law and the legal framework for administrative activities. Furthermore, the Administrative Law 2 course scheduled to be held during the spring semester of the 2020 academic year will continue on from Administrative Law 1 and cover the Administrative Remedy Act which establishes remedies for the violations of the people's rights with regards to illegal administrative activities.

Specifically, this course will explain (1) the basic framework of Administrative Law including the relationship between the Constitution and Administrative Law and the "principle of administration by law" which is the fundamental principle of Administrative Law. In addition, it will survey (2) administrative acts, administrative legislation, administrative guidance, administrative contracts, administrative planning, administrative compulsion, and other "action types of administrative activities."

The field of Administrative Law 1 has many individual matters (arguments, systems, etc.) which organically relate to other

matters, so the lectures will also refer to the mutual relationships between such matters. Therefore, please note that when it comes to attending class, the content is such that you will ultimately understand the entire discussion if you listen from the beginning to the end.

授業計画 (Course Schedule)

1. 1. 行政・行政法・行政法学(1)
2. 1. 行政・行政法・行政法学(2)
3. 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(1)
4. 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(2)
5. 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(3)
6. 3. 行政法の一般原理(その2)
ーその他の諸原理・原則(1)
7. 3. 行政法の一般原理(その2)
ーその他の諸原理・原則(2)
8. 4. 行政法関係の基本構造(1)
9. 4. 行政法関係の基本構造(2)
10. 5. 行政法総論(行政作用法)の基本的視角
11. 6. 行政立法(1)
12. 6. 行政立法(2)
13. 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(1)
14. 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(2)
15. 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(3)
16. 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(1)
17. 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(2)
18. 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(3)
19. 9. 行政行為(その3)ー行政手続(1)
20. 9. 行政行為(その3)ー行政手続(2)
21. 10. 行政強制・行政上の義務の履行確保
22. 11. 行政指導(1)
23. 12. 行政指導(2)
24. 12. 行政契約
25. 13. 行政計画
26. 14. 行政調査
27. 15. 情報公開・個人情報保護・公文書管理
28. 16. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回指定する次回の授業内容について、レジュメに目を通して頂くこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 稲葉 馨 (著), 人見 剛 (著), 村上 裕章 (著), 前田 雅子 (著), 2018、『行政法 第4版 (LEGAL QUEST)』、有斐閣 (ISBN:978-4641179400)
 2. 斎藤誠＝山本隆司 (編集), 2022、『行政判例百選Ⅰ 第8版 (別冊ジュリスト 235)』、有斐閣 (ISBN:978-4641115606)
- 基本的にはレジュメにそって授業を行うが、授業の内容確認用として、稲葉馨他『行政法 第4版 (LEGAL QUEST)』を指定する。また、行政法の学習には判例の理解が必須であるので、宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ 第8版』を参照すること。

参考文献 (Readings)

1. 塩野宏 (著), 2015、『行政法Ⅰ 行政法総論(第6版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641131866)
2. 宇賀克也 (著), 2020、『行政法概説Ⅰ 行政法総論(第7版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641227835)
3. 大橋 洋一 (著), 2019、『行政法Ⅰ 現代行政過程論 (第4版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641227729)
4. 大橋 洋一 (著), 2021、『社会とつながる行政法入門(第2版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641228207)
5. 木村 琢磨 (著), 2022、『ブラクティス行政法(第3版)』、信山社 (ISBN:978-4797228137)
6. 野呂 充ほか(編), 2022、『ケースブック行政法 (第7版)』、弘文堂 (ISBN:978-4335305207)

7. 神橋一彦(著)、2023、『行政救済法(第3版)』、信山社
参考文献の詳細については、授業の冒頭で説明する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

関連科目としては、憲法(憲法1, 憲法2)があげられる。法曹を志望する学生は、行政法1(行政法総論)および行政法2(行政救済法)の範囲を学習する必要があるので、その点留意すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX072／行政法2 (Administrative Law 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行政救済法(行政争訟法・国家補償法)		
担当者名 (Instructor)	松戸 浩(MATSUDO HIROSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

行政法1で学んだ行政法総論の知識を前提に、行政活動に対する国民の権利救済(行政争訟・国家補償)について学ぶ。行政訴訟制度、行政不服審査制度、国家賠償制度などの知識は、法曹・法律家にとって必要不可欠であるのみならず、公務員にとっても、とりわけ近年、行政不服審査制度(行政内部での紛争処理)の拡充などもあり、格段に重要性が増している。本講義では、このような状況に鑑み、行政救済法の現状と基礎的な事項について、理解を深めることを目的とする。また憲法で扱う憲法訴訟の深い理解には、行政法2の内容の理解が必須である。

Based on knowledge of the General Law of Administrative Law learned in Administrative Law 1, this course aims to teach students about the rights of citizens for remedy of administrative activities. Knowledge of the administrative litigation system and other remedial systems is not only indispensable for lawyers but also for public officers. The purpose of this course is to deepen students' understanding of the current situation and basic matters of Administrative Remedial Law. In addition, for students' deep understanding of judicial review within the Constitution, they must understand the contents of Administrative Law 2.

授業の内容(Course Contents)

行政法1で学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われなければならない。しかし現実の行政活動においては、行政活動が違法に行われることがあり、その際の国民の権利救済の方途が重要な問題となる。また、それは法律による行政の原理を実効あらしめるためにも必要なことである。この講義では、わが国の行政救済制度を構成する行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、(適法行為に起因する損失に関する)損失補償について概観する。行政法は、それぞれの部分が一話読み切りのものではなく、行政法1・2を通して最初から最後までを勉強して全体が理解できるものである。

As students learned in Administrative Law 1, administrative activities must be conducted in accordance with the law, based on legal principles of administrative administration. However, in actuality, administrative activities are sometimes performed illegally, so how to remedy people's rights at that time is an important issue. Making the administrative principles of the law effective is also necessary. Thus, this course aims to provide an overview of administrative remedial systems in Japan.

授業計画(Course Schedule)

1. 序論
2. 行政訴訟法概説・行政事件訴訟法の訴訟類型
3. 取消訴訟 1
4. 取消訴訟 2
5. 無効確認訴訟
6. 不作為の違法確認訴訟
7. 義務付け訴訟・差止訴訟
8. 無名抗告訴訟
9. 当事者訴訟・民衆訴訟
10. 機関訴訟・訴訟要件一不服申立前置
11. 訴訟要件一被告適格・管轄・出訴期間・教示
12. 原告適格 1
13. 原告適格 2
14. 執行停止 1
15. 執行停止 2
16. 訴えの審理
17. 違法性の判断基準時
18. 判決 1
19. 判決 2
20. 狭義の行政争訟法概説
21. 行政上の不服申立て 1

22. 行政上の不服申立て 2・その他の行政争訟
23. 国家補償法概説・公権力の行使に基づく損害の賠償責任 1
24. 公権力の行使に基づく損害の賠償責任 2
25. 公権力の行使に基づく損害の賠償責任 3
26. 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害の賠償責任 1
27. 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害の賠償責任 2
28. 損失補償

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業の前に、授業で取り扱う内容につき下記の教科書の該当部分を読んでおく授業の理解に資するであろう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 稲葉・人見・村上・前田、2018、『行政法第4版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17940-0)
 2. 神橋一彦、2023、『行政救済法第3版』、信山社 (ISBN:9784797280364)
 3. 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編、2022、『行政判例百選Ⅱ(第8版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-115613)
- 百選は毎回授業で参照するので持参されたい

参考文献 (Readings)

教科書以外の参考文献は適宜授業中に紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／行政法1(法曹コース) (Administrative Law 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行政法入門・行政法総論		
担当者名 (Instructor)	神橋 一彦(KANBASHI KAZUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

行政は、立法、司法と並んで、国家作用の1つであるが、行政法はこの行政に関する法的規律(ルール)を扱う分野である。国家の作用については、憲法が、権力分立と基本的人権の保障を基礎に基本的な事項を定めているが、行政法は、この憲法や「法律による行政の原理」(法治主義)に基づいて、国や地方公共団体などが行う行政活動のあり方について具体的に定めるものである。したがって、憲法(とりわけ憲法訴訟)を理解するためには、行政法の知識が必要不可欠である。また、他方で行政は、租税・労働・社会保障、環境保護、経済規制、知的財産保護などの個別分野にも関わるものであるから、これらにかかわる法分野を学ぶ前提としても、行政法の知識は必要である。その意味で行政法は、いわゆる六法とともに基本的な法分野として位置づけられている(いわゆる七法)。

この授業は、行政法の入門も含め、「授業の内容」に示された事項につき、行政法の基本的な考え方を理解することを基本的な目標とし、公務員や法曹、さらには企業法務などをを目指す学生にとっても、それぞれの目標を達成するための確固とした基礎を形成する。

Administration is one government function which stands side-by-side with legislation and the administration of justice, but Administrative Law is the area which covers the legal framework (rules) concerning administration. With regard to government functions, the Constitution establishes fundamental matters based on the separation of powers and the guarantee of basic human rights, but Administrative Law specifically establishes the ideal form of administrative activities carried out by the nation and local public organizations based on the Constitution and "legally based administrative principles" (rule of law). Therefore, knowledge of Administrative Law is essential to understand the Constitution (especially constitutional litigation). Moreover, because on the other hand administration is also involved in individual areas such as taxation, labor and social insurance, environmental protection, economic regulation, and the protection of intellectual property, knowledge of Administrative Law is required for legal fields involved in these activities as well. In that sense, Administrative Law is positioned as a fundamental field of law together with the so-called six major legal codes (referred to as the seven major legal codes).

With regard to the items indicated in the "class content", the fundamental objective of this course, including the introduction to Administrative Law, is to understand the fundamental way of thinking of Administrative Law to form a solid foundation for students aiming to become public servants, judicial officers, and corporate law personnel, etc. to achieve each of their goals.

授業の内容(Course Contents)

行政法のうち、この行政法1では、行政法の基本原理と行政活動に対する法的規律の仕組みについて扱う。なお、2024年度春学期開講予定の行政法2は、この行政法1を受けて、違法な行政活動などに対する国民の権利救済について定める行政救済法を扱う。

具体的には、(1)憲法と行政法との関係や、行政法の基本原理である「法律による行政の原理」など、行政法の基本的な枠組みについて説明する。その上で、(2)行政行為、行政立法、行政指導、行政契約、行政計画、行政強制などの「行政活動の行為形式」とその法的規律について概観する。

行政法1の分野は、個別の事項(論点・制度など)が他の事項と有機的に関連していることが多いので、講義にあたってもそのような事項相互の関連にも言及する。したがって、受講に当たっても、授業の最初から最後まで聴いてはじめて、最終的に全体がわかるという内容であることに留意して欲しい。

Within Administrative Law, this Administrative Law 1 course covers the basic principles of Administrative Law and the legal framework for administrative activities. Furthermore, the Administrative Law 2 course scheduled to be held during the spring semester of the 2020 academic year will continue on from Administrative Law 1 and cover the Administrative Remedy Act which establishes remedies for the violations of the people's rights with regards to illegal administrative activities.

Specifically, this course will explain (1) the basic framework of Administrative Law including the relationship between the Constitution and Administrative Law and the "principle of administration by law" which is the fundamental principle of Administrative Law. In addition, it will survey (2) administrative acts, administrative legislation, administrative guidance, administrative contracts, administrative planning, administrative compulsion, and other "action types of administrative activities."

The field of Administrative Law 1 has many individual matters (arguments, systems, etc.) which organically relate to other

matters, so the lectures will also refer to the mutual relationships between such matters. Therefore, please note that when it comes to attending class, the content is such that you will ultimately understand the entire discussion if you listen from the beginning to the end.

授業計画 (Course Schedule)

1. 1. 行政・行政法・行政法学(1)
2. 1. 行政・行政法・行政法学(2)
3. 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(1)
4. 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(2)
5. 2. 行政法の一般原理(その1)
ー法治主義(3)
6. 3. 行政法の一般原理(その2)
ーその他の諸原理・原則(1)
7. 3. 行政法の一般原理(その2)
ーその他の諸原理・原則(2)
8. 4. 行政法関係の基本構造(1)
9. 4. 行政法関係の基本構造(2)
10. 5. 行政法総論(行政作用法)の基本的視角
11. 6. 行政立法(1)
12. 6. 行政立法(2)
13. 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(1)
14. 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(2)
15. 7. 行政行為(その1)
ー概念・分類・効力など(3)
16. 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(1)
17. 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(2)
18. 8. 行政行為(その2)ー行政裁量(3)
19. 9. 行政行為(その3)ー行政手続(1)
20. 9. 行政行為(その3)ー行政手続(2)
21. 10. 行政強制・行政上の義務の履行確保
22. 11. 行政指導(1)
23. 12. 行政指導(2)
24. 12. 行政契約
25. 13. 行政計画
26. 14. 行政調査
27. 15. 情報公開・個人情報保護・公文書管理
28. 16. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回指定する次回の授業内容について、レジュメに目を通して頂くこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 稲葉 馨 (著), 人見 剛 (著), 村上 裕章 (著), 前田 雅子 (著), 2018、『行政法 第4版 (LEGAL QUEST)』、有斐閣 (ISBN:978-4641179400)
 2. 斎藤誠＝山本隆司 (編集), 2022、『行政判例百選Ⅰ 第8版 (別冊ジュリスト 235)』、有斐閣 (ISBN:978-4641115606)
- 基本的にはレジュメにそって授業を行うが、授業の内容確認用として、稲葉馨他『行政法 第4版 (LEGAL QUEST)』を指定する。また、行政法の学習には判例の理解が必須であるので、宇賀克也ほか編『行政判例百選Ⅰ 第8版』を参照すること。

参考文献 (Readings)

1. 塩野宏 (著), 2015、『行政法Ⅰ 行政法総論(第6版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641131866)
2. 宇賀克也 (著), 2020、『行政法概説Ⅰ 行政法総論(第7版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641227835)
3. 大橋 洋一 (著), 2019、『行政法Ⅰ 現代行政過程論 (第4版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641227729)
4. 大橋 洋一 (著), 2021、『社会とつながる行政法入門(第2版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641228207)
5. 木村 琢磨 (著), 2022、『ブラクティス行政法(第3版)』、信山社 (ISBN:978-4797228137)
6. 野呂 充ほか(編), 2022、『ケースブック行政法 (第7版)』、弘文堂 (ISBN:978-4335305207)

7. 神橋一彦(著)、2023、『行政救済法(第3版)』、信山社
参考文献の詳細については、授業の冒頭で説明する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

関連科目としては、憲法(憲法1, 憲法2)があげられる。法曹を志望する学生は、行政法1(行政法総論)および行政法2(行政救済法)の範囲を学習する必要があるので、その点留意すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／行政法2(法曹コース) (Administrative Law 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行政救済法(行政争訟法・国家補償法)		
担当者名 (Instructor)	松戸 浩(MATSUDO HIROSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

行政法1で学んだ行政法総論の知識を前提に、行政活動に対する国民の権利救済(行政争訟・国家補償)について学ぶ。行政訴訟制度、行政不服審査制度、国家賠償制度などの知識は、法曹・法律家にとって必要不可欠であるのみならず、公務員にとっても、とりわけ近年、行政不服審査制度(行政内部での紛争処理)の拡充などもあり、格段に重要性が増している。本講義では、このような状況に鑑み、行政救済法の現状と基礎的な事項について、理解を深めることを目的とする。また憲法で扱う憲法訴訟の深い理解には、行政法2の内容の理解が必須である。

Based on knowledge of the General Law of Administrative Law learned in Administrative Law 1, this course aims to teach students about the rights of citizens for remedy of administrative activities. Knowledge of the administrative litigation system and other remedial systems is not only indispensable for lawyers but also for public officers. The purpose of this course is to deepen students' understanding of the current situation and basic matters of Administrative Remedial Law. In addition, for students' deep understanding of judicial review within the Constitution, they must understand the contents of Administrative Law 2.

授業の内容(Course Contents)

行政法1で学んだように、行政活動は法律による行政の原理の下、法律に基づいて行われなければならない。しかし現実の行政活動においては、行政活動が違法に行われることがあり、その際の国民の権利救済の方途が重要な問題となる。また、それは法律による行政の原理を実効あらしめるためにも必要なことである。この講義では、わが国の行政救済制度を構成する行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、(適法行為に起因する損失に関する)損失補償について概観する。行政法は、それぞれの部分が一話読み切りのものではなく、行政法1・2を通して最初から最後までを勉強して全体が理解できるものである。

As students learned in Administrative Law 1, administrative activities must be conducted in accordance with the law, based on legal principles of administrative administration. However, in actuality, administrative activities are sometimes performed illegally, so how to remedy people's rights at that time is an important issue. Making the administrative principles of the law effective is also necessary. Thus, this course aims to provide an overview of administrative remedial systems in Japan.

授業計画(Course Schedule)

1. 序論
2. 行政訴訟法概説・行政事件訴訟法の訴訟類型
3. 取消訴訟 1
4. 取消訴訟 2
5. 無効確認訴訟
6. 不作為の違法確認訴訟
7. 義務付け訴訟・差止訴訟
8. 無名抗告訴訟
9. 当事者訴訟・民衆訴訟
10. 機関訴訟・訴訟要件一不服申立前置
11. 訴訟要件一被告適格・管轄・出訴期間・教示
12. 原告適格 1
13. 原告適格 2
14. 執行停止 1
15. 執行停止 2
16. 訴えの審理
17. 違法性の判断基準時
18. 判決 1
19. 判決 2
20. 狭義の行政争訟法概説
21. 行政上の不服申立て 1

22. 行政上の不服申立て 2・その他の行政争訟
23. 国家補償法概説・公権力の行使に基づく損害の賠償責任 1
24. 公権力の行使に基づく損害の賠償責任 2
25. 公権力の行使に基づく損害の賠償責任 3
26. 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害の賠償責任 1
27. 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害の賠償責任 2
28. 損失補償

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業の前に、授業で取り扱う内容につき下記の教科書の該当部分を読んでおく授業の理解に資するであろう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 稲葉・人見・村上・前田、2018、『行政法第 4 版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17940-0)
 2. 神橋一彦、2023、『行政救済法第 3 版』、信山社 (ISBN:9784797280364)
 3. 宇賀克也・交告尚史・山本隆司編、2022、『行政判例百選Ⅱ(第 8 版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-115613)
- 百選は毎回授業で参照するので持参されたい

参考文献 (Readings)

教科書以外の参考文献は適宜授業中に紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX075／金融取引法1 (Law of Financial Transactions 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	債権の担保と法		
担当者名 (Instructor)	鳥山 泰志(TORIYAMA YASUSHI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

金銭債権の履行確保に関する民法の諸制度について、基本的な考え方を理解することを目標とします。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts of the systems about the securement of the fulfillment of monetary claims.

授業の内容 (Course Contents)

民法第2編「物権」のうち、いわゆる担保物権法(第2編第7-10章)と、債権総論(第3編第1章)のうち多数当事者の債権債務、弁済による代位、相殺の部分について講義を行います。

これらのルールは、おおむね、金銭債権の履行確保手段に関わる制度です。例えば、銀行が企業に事業資金を貸し付けるとき、銀行は自らの貸金債権の回収を確実なものにするためにどのような手段をとるのか。このような場面に関わるルールを学びます。そして、これらのルールは、私たちの経済生活で不可欠な金融取引に密接に関連しています。

内容は膨大であり技術的な側面も大きい分野ですが、この授業では諸制度の基本的な趣旨・考え方に重点を置いて、それらを十分に理解してもらえるように努めます。

This course deals with the basic concepts and principles of Law of Securities (Part II, Chapter VII-X of the Civil Code) and claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, and set-offs in the general theory of claims (Part III, Chapter I of the Civil Code).

These rules which are to secure the fulfillment of monetary claims are related to financial transactions which are essential for our everyday life.

Because this area involves a massive number of issues, this course will not go into details or highly technical issues, and try to help students achieve full understanding of fundamental principles underlying the laws.

授業計画 (Course Schedule)

1. 担保法序説
2. 抵当権①
3. 抵当権②
4. 抵当権③
5. 抵当権④
6. 抵当権⑤
7. 抵当権⑥
8. 留置権・先取特権・質権
9. 譲渡担保①
10. 譲渡担保②・仮登記担保・所有権留保
11. 保証①
12. 保証②・弁済による代位
13. 連帯債務
14. 相殺

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

復習を重視します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 水津太郎他、2017、『判例30！2物権』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13785-1)

2. 鳥山泰志・藤澤治奈、2021、『民法3 担保物権(ストウディア)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15086-7)

参考文献(Readings)

授業では、六法及び判例教材を手元に用意してください。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

民法1,2,3の内容はおおむね理解していることを前提に講義を進めます。そのつもりで準備をしておいてください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX076／金融取引法2 (Law of Financial Transactions 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	支払決済法		
担当者名 (Instructor)	高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、物やサービスの取引において行われる支払ないし決済に関わる法について、基本的な理解を深めることを目標とする。

The aim is for students to deepen their understanding in the basics of laws pertaining to payments or settlements made in transactions involving goods or services.

授業の内容 (Course Contents)

物やサービスに関する取引について、通常これは有償で行われ、支払という行為、ないし決済という債権債務関係を消滅させる行為が伴うことになる。われわれの日常の取引であれば、現金による支払・決済がなされることも少なくないが、商取引の世界では、さまざまなリスク等にかんがみて、むしろ現金によってそれが行われることはまれである。本講義では、われわれの現実世界で用いられる多様な支払方法・決済方法を機能的に理解するとともに、これを規律する法的仕組みについて扱うこととしたい。

Transactions related to goods or services generally involve a fee, entailing a payment or settlement by which a credit-debt relationship is terminated. We often use cash to make payments or settlements in our daily transactions. However, due to various risks, etc., it is rare for payments or settlements to be made in cash in the world of commercial transactions.

In this course, students will develop an understanding of the diverse payment methods and settlement methods used in our world from a functional perspective and learn about the legal mechanisms that regulate such methods.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 電子マネー・暗号資産
3. 銀行振込み①
4. 銀行振込み②・デビットカード
5. 小切手①
6. 小切手②
7. 為替手形
8. 約束手形①
9. 約束手形②
10. 約束手形③
11. 約束手形④
12. 約束手形⑤・電子記録債権
13. クレジットカード①
14. クレジットカード②

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

授業内で取り上げる演習問題につき、事前に調べ、準備しておくこと。また、単元の区切りごとに多肢選択式の小テストを行う。小テストの結果は成績に含める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%) / 小テスト(30%) / 授業内課題(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 小塚 莊一郎＝森田 果、2018、『支払決済法〔第3版〕』、商事法務
 2. 神田 秀樹＝神作 裕之編、2014、『手形小切手判例百選〔第7版〕』、有斐閣
- 初回の講義で説明するので、初回に準備していなくてよい。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／金融取引法1(法曹コース) (Law of Financial Transactions 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	債権の担保と法		
担当者名 (Instructor)	鳥山 泰志(TORIYAMA YASUSHI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

金銭債権の履行確保に関する民法の諸制度について、基本的な考え方を理解することを目標とします。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts of the systems about the securement of the fulfillment of monetary claims.

授業の内容(Course Contents)

民法第2編「物権」のうち、いわゆる担保物権法(第2編第7-10章)と、債権総論(第3編第1章)のうち多数当事者の債権債務、弁済による代位、相殺の部分について講義を行います。

これらのルールは、おおむね、金銭債権の履行確保手段に関わる制度です。例えば、銀行が企業に事業資金を貸し付けるとき、銀行は自らの貸金債権の回収を確実なものにするためにどのような手段をとるのか。このような場面に関わるルールを学びます。そして、これらのルールは、私たちの経済生活で不可欠な金融取引に密接に関連しています。

内容は膨大であり技術的な側面も大きい分野ですが、この授業では諸制度の基本的な趣旨・考え方に重点を置いて、それらを十分に理解してもらえるように努めます。

This course deals with the basic concepts and principles of Law of Securities (Part II, Chapter VII-X of the Civil Code) and claims and obligations of multiple-parties, subrogation by performance, and set-offs in the general theory of claims (Part III, Chapter I of the Civil Code).

These rules which are to secure the fulfillment of monetary claims are related to financial transactions which are essential for our everyday life.

Because this area involves a massive number of issues, this course will not go into details or highly technical issues, and try to help students achieve full understanding of fundamental principles underlying the laws.

授業計画(Course Schedule)

1. 担保法序説
2. 抵当権①
3. 抵当権②
4. 抵当権③
5. 抵当権④
6. 抵当権⑤
7. 抵当権⑥
8. 留置権・先取特権・質権
9. 譲渡担保①
10. 譲渡担保②・仮登記担保・所有権留保
11. 保証①
12. 保証②・弁済による代位
13. 連帯債務
14. 相殺

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

復習を重視します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 水津太郎他、2017、『判例30！2物権』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13785-1)

2. 鳥山泰志・藤澤治奈、2021、『民法3 担保物権(ストウディア)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15086-7)

参考文献(Readings)

授業では、六法及び判例教材を手元に用意してください。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

民法1,2,3の内容はおおむね理解していることを前提に講義を進めます。そのつもりで準備をしておいてください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX080／労働法 (Labor Law)		
担当者名 (Instructor)	神吉 知郁子(KANKI CHIKAKO) 富永 晃一(TOMINAGA KOICHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

わが国の労働法の体系を理解し、基礎的な知識を習得するとともに、日本の雇用社会の現在と将来について考えるきっかけを与えることである。

The objectives of this course are to understand the structure of Labor Law and learn the basic knowledge as well as to give a chance to think of your own opinion about the current and the future of the employment society in Japan.

授業の内容 (Course Contents)

労働法とは「労働」を規律する法の総称である。その分類にはいくつかの方法があるが、契約関係に着目すると、ひとりひとりの労働者と使用者との関係を規律する「個別的労働関係法」と、労働者の集団(労働組合)と使用者との関係を規律する「集団的労使関係法」との2つに大別される。本講義では、まず労働法の体系や法源に関する概要を説明した上で労働の現場で直面するであろう問題を切り口に個別的労働関係法を解説する。その後、集団的労使関係法を扱う。必要に応じて、契約関係の外側にある労働市場の入口・出口に関する規制や紛争解決の実効性確保のための仕組みについても取り上げる。

Labor Law is the generic name for the laws which regulate "labor." There are several ways to classify labor laws, but they can be largely divided into two groups. Focusing on contractual relationships, there are the "Acts Pertaining to Individual Labor Relations", which regulate the relationship between individual laborers and the employer, and the "Acts Pertaining to Collective Labor Relations", which regulate the relationship between a group of laborers (labor union) and the employer. The lectures will first explain the structure of Labor Law and the legal source of the grand design before going on to describe the Acts Pertaining to Individual Labor Relations on problems which are likely to be directly confronted in the workplace. After that, we will explain the Acts Pertaining to Collective Labor Relations. While combining these two pillars, this course will cover the regulations concerning the entrances and exits of the labor market which exist outside of contractual relationships and the mechanisms for ensuring the effectiveness of dispute resolutions.

授業計画 (Course Schedule)

1. 前半イントロダクション・労働法総論
2. 労働法の法源
3. 労働法における当事者(労基法)
4. 労働法における当事者(労組法)
5. 労働関係の成立(募集、内定)
6. 労働関係の成立(採用、試用)
7. 人事(昇進・昇格、降格)
8. 人事(配転、出向、転籍、休職)
9. 雇用関係の終了(解雇)
10. 雇用関係の終了(辞職、合意解約等)
11. 労働契約上の権利義務
12. 労働憲章・雇用平等
13. 非正規労働者の問題(有期)
14. 非正規労働者の問題(パート・派遣等)
15. 後半イントロダクション・賃金(賃金請求権、賃金に対する法規制①)
16. 賃金(賃金に対する法規制②、賞与、退職金等)
17. 労働時間(労働時間、休憩、休日に関する原則)
18. 労働時間(原則以外の仕組み①時間外労働、割増賃金)
19. 労働時間(原則以外の仕組み②特例・例外、みなし労働時間制、変形労働時間制等)
20. 休暇(年休)
21. 休暇・休業(産休・育休・介休等)
22. 労働者の安全・健康の確保
23. 労働条件の変更(就業規則の変更、合意変更)
24. 労働条件の変更(労働協約、労働協約の変更)・企業組織の変動

25. 労働組合・団体交渉
26. 団体行動
27. 不当労働行為①
28. 不当労働行為②・労働紛争処理システム

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・理解度等に応じて授業の進行を調整する。担当者(第1回～14回:神吉, 第15回～28回:富永)の各回の指示に注意すること。
- ・六法等, 法令集を持参すること(『労働関係法規集』(労働政策研究・研修機構)も有益である)。
- ・民法の基礎的知識があることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 水町勇一郎、2020、『労働法(第9版)』、有斐閣 (ISBN:9784641243521)
 2. 森戸英幸、2022、『プレップ労働法(第7版)』、弘文堂
- 講義中に指示する。

参考文献(Readings)

1. 村中孝史・荒木尚志編、2022、『労働法判例百選(第10版)』、有斐閣
- 講義中に指示する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX090／社会保障法 (Social Security Law)		
担当者名 (Instructor)	島村 暁代(SHIMAMURA AKIYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

社会保障法の領域は膨大に拡充し、内容も複雑であるが、その全体像をつかむと共に、社会保障制度についての基本的な仕組みと法的紛争についての知識を得ることを目的とする。

The fields of the Social Security Law are very wide and the contexts are very complicated. The objectives of this course is to grasp an overall picture of the Social Security System in Japan as well as to acquire the fundamental structure of the systems and juridical knowledge about conflicts.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、人のライフステージにあわせて関係すると思われる社会保障制度を講義していく。その点で制度ごとに社会保障制度を概観するオーソドックスな手法とは異なる。こうした講義を通じて社会保障法についての基本的な理解を深めるとともに、それぞれの制度の重要性や機能を確認する。それぞれの場面において関連する裁判例や制度改革の議論にも適宜触れる。

This lecture will give a lecture on the social security system related to people's life stages. In this respect, it is not an orthodox institutional theory. Each discussion will structure the class so that students will be able to acquire a fundamental understanding of the Social Security systems while emphasizing the significance and function of the Social Security system in particular. At that time, we will also touch on related judicial decisions and arguments about systemic reforms when appropriate.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 大学生と社会保障
3. 就職による変化
4. 就職後の健康とケガ・病気
5. 仕事の変化(海外赴任・転職等)
6. ライフイベント(1)結婚・妊娠・出産
7. ライフイベント(2)子育て
8. ライフイベント(3)離婚・死別
9. ライフイベント(4)中高年の介護事情とがん
10. 高齢者
11. 生活に困窮する場合
12. 障害を有する場合
13. 外国人の場合
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

憲法、行政法、民法、労働法を履修済みか、並行して履修することが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)／小テスト(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 島村暁代、2021、『プレップ社会保障法』、弘文堂

参考文献 (Readings)

1. 岩村正彦編、2016、『社会保障法判例百選(第5版)』、有斐閣
2. 黒田有志弥、2023、『ストウディア社会保障法』、有斐閣

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX091／Introduction to Legal Studies A		
担当者名 (Instructor)	シュウ, H. (ZHOU HONGQIAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

This course aims to provide students with essential knowledge of law and legal system, as well as basic skills for legal studies. At the end of the course, students should have acquired the basic knowledge of law and legal research and be able to express their own opinions on topical social issues.

授業の内容 (Course Contents)

The course is composed of several topics, each being developed through discussions concerning historical observations and current events. The case studies at the end of the semester may focus on US and EU cases, but the course is about legal theory in general.

授業計画 (Course Schedule)

1. Warming-up: What is Legal Study About?
2. Law and Family
3. Law and Technology
4. Law and "Justice"
5. Lawmaking
6. Legal Interpretation
7. Dispute Resolution: Courts and Other Forms, Part 1
8. Dispute Resolution: Courts and Other Forms, Part 2
9. How to Do Case Reading
10. Comparative Law Study
11. Case Study 1
12. Case Study 2
13. Case Study 3
14. Case Study 4

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students will sometimes be given "Questions to Consider" to think after classes and materials to read before classes to facilitate class discussion. Preparation should take no more than one hour for each class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Questions to Consider(50%)/Participation in Discussion in General(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

All materials (if any) discussed in class will be made available in advance in electronic form.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Since we plan to encourage students to ask questions in class, a vigorous attitude toward the course is expected.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX093／Contract A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	For a better understanding of our society, training your logical thinking skills and value judgment		
担当者名 (Instructor)	田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2201	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

This course is designed to provide students with basic knowledge of Japanese contract law. The course has three primary objectives.

The first one is to understand our civil life from the legal lens. Since people cannot live without making contracts (e.g., riding in the train, buying sandwiches at a convenience store, and getting a cell phone), contract law is the closest law to our society. Therefore, through learning contract law (i.e., the ways it operates and solves disputes), students can also learn the ways our society operates.

The second one is to train students' value judgment. Almost every contract law-related dispute involves multiple parties' competing interests, each one of which deserves to be carefully analyzed and considered. Academics' discussions also provide competing opinions and various approaches to solve disputes. Through case studies, the students can train the way of balancing competing interests and constantly test their own value judgment. The last objective is to train logical thinking skills. Contract law is the law of logic. Through learning the ways of interpreting contract law, students can train their logical thinking skills.

授業の内容 (Course Contents)

The lectures will be provided with PowerPoint. However, the sessions will be based on the discussions with the students.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each class. Students are required to participate in classroom discussion based on the reading assignment that has been given for the session. To help provide the requisite motivation to stay current on the readings, students may be called on in class.

Active participation in class is expected from everyone. Please note that class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. The success of the course will depend greatly on your preparedness for class and willingness to engage in dialogue in class. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

Writing assignments will also be given. Writing assignments must be submitted by the due dates. A late assignment may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

Topics for presentations, classroom discussions, and writing assignments involve mainly examinations of cases and elaborations of opinions on topics that are to be discussed in class.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to the course
2. Characteristics of Japanese contract law: meaning of civil law, the Civil Code, and the General principles of civil law
3. The concept of contract: What do you mean by "contracts"? (1)
4. Remedies in Contracts (1): How does the law enforce contracts? What does it mean by "enforcing the contract"?
5. Remedies in Contracts (2): Ways of providing remedies for contractual default
Understanding different approaches to provide the remedies
6. Remedies in Contracts (3)
7. Remedies in Contracts (4)
8. The concept of contract, revisited
9. Liquidated damages
10. Consumer contracts and freedom of contract (1)
11. Consumer contracts and freedom of contract (2)
12. Approaches to various types of contracts (1)
13. Approaches to various types of contracts (2)
14. Reviewing the sessions

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester. I would recommend an A4-sized binder to keep track of the materials as they will likely exceed 350 pages.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/Participation in the classroom discussion (including presentation)(40%)/Homework assignment(20%)

The final report will take a form of take home exam. The question will be notified a certain number of hours prior to the due date/time of the submission of the report. The exact number of hours (or the exact duration) from the notification of the question and before the submission of the report will be notified at the end of the course. (The duration is generally within 24 hours.)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. Hiroshi Oda. 2021. Japanese Law. Oxford University Press (ISBN:9780198869474)
2. Gerald Port Mcalinn. 2003. Comparative Law: Law and the Legal Process in Japan. Carolina Academic Press (ISBN:0890894647)
3. Curtis Milhaupt, Mark Ramseyer and Mark Weat. 2006. The Japanese Legal System: Cases, Codes, and Commentary. Foundation Press (ISBN:1609300297)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX094／Contract B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	For a better understanding of our society, training your logical thinking skills and value judgment		
担当者名 (Instructor)	田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2201	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

This course is designed to provide students with basic knowledge of Japanese contract law. As the purposes of the course are shared with Contract A, this course also has three primary objectives.

The first one is to understand our civil life from the legal lens. Since people cannot live without making contracts (e.g., riding in the train, buying sandwiches at a convenience store, and getting a cell phone), contract law is the closest law to our society. Therefore, through learning contract law (i.e., the ways it operates and solves disputes), students can also learn the ways our society operates.

The second one is to train students' value judgment. Almost every contract law-related dispute involves multiple parties' competing interests, each one of which deserves to be carefully analyzed and considered. Academics' discussions also provide competing opinions and various approaches to solve disputes. Through case studies, the students can train the way of balancing competing interests and constantly test their own value judgment. The last objective is to train logical thinking skills. Contract law is the law of logic. Through learning the ways of interpreting contract law, students can train their logical thinking skills.

授業の内容(Course Contents)

The lectures will be provided with PowerPoint. However, the sessions will be based on the discussions with the students.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each class. Students are required to participate in classroom discussion based on the reading assignment that has been given for the session. To help provide the requisite motivation to stay current on the readings, students may be called on in class.

Active participation in class is expected from everyone. Please note that class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. The success of the course will depend greatly on your preparedness for class and willingness to engage in dialogue in class. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

Writing assignments will also be given. Writing assignments must be submitted by the due dates. A late assignment may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

Topics for presentations, classroom discussions, and writing assignments involve mainly examinations of cases and elaborations of opinions on topics that are to be discussed in class.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction to the course
2. Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws
3. Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(2): The meanings of default rules
4. Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(3): The meanings of default rules
5. Characteristics of Japanese contract law in comparison with other countries' contract laws(3): The meanings of default rules
6. Good faith and its roles in Japanese contract law (1)
7. Good faith and its roles in Japanese contract law (2)
8. Public policy in contract law
9. Law of fraud (1)
10. Law of fraud (2)
11. Law of mistake (1)
12. Law of mistake (2)
13. Law of mistake (3): comparative studies
14. Reviewing the sessions

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/Participation in the classroom discussion (including presentation)(40%)/Homework assignment(20%)

The final report will take a form of take home exam. The question will be notified some time prior to the due date/time of the submission of the report. The exact duration from the notification of the question and before the submission of the report will be notified at the end of the course. (The duration is generally within 24 hours.)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. Hiroshi Oda. 2021. *Japanese Law*. Oxford University Press (ISBN:9780198869474)
2. Gerald Port Mcalinn. 2003. *Comparative Law: Law and the Legal Process in Japan*. Carolina Academic Press (ISBN:0890894647)
3. Curtis Milhaupt, Mark Ramseyer and Mark Weat. 2006. *The Japanese Legal System: Cases, Codes, and Commentary*. Foundation Press (ISBN:1609300297)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Negotiation Basics		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Introduction to Negotiation (A)		
担当者名 (Instructor)	渡邊 真由(WATANABE MAYU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	定員 24 名 グローバルコースの学生優先		

授業の目標 (Course Objectives)

This class aims to develop your understanding of negotiation and your awareness of yourself as a negotiator.

授業の内容 (Course Contents)

As a businessperson, you will probably negotiate more often than you expect; with your boss, clients, and counterparts on the other side. Negotiation is the voluntary process of problem-solving. It is back-and-forth communication to reach an agreement when you and the other side have some shared and opposed interests. This class is designed to give you some ideas for analyzing and preparing for negotiations. Throughout the semester, you frequently will have the opportunities to participate in role-plays and reflection sessions to keep learning from your own negotiation experiences.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Understanding key negotiation concepts
2. Role-play: Distributive negotiation (1)
3. Debriefing: Distributive negotiation (2)
4. Role-play: Integrative negotiation (1)
5. Debriefing: Integrative negotiation (2)
6. Negotiation style analysis: understand your style
7. Role-play: Integrative negotiation (3)
8. Debriefing: Integrative negotiation (4)
9. Role-play: business negotiation (1)
10. Debriefing: business negotiation (2)
11. Dealing with Differences: Culture, Gender, and Race
12. Role-play: Multi-party negotiation (1)
13. Debriefing: Multi-party negotiation (2)
14. Wrap up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

This is an interactive seminar that will require weekly readings and preparation. Because the role-plays are the main activity for this class, participation is valued; attendance, class participation, and written assignments are the core evaluation components.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and class participation(70%)/Written assignment(30%)

テキスト (Textbooks)

Readings will be distributed in the class. The royalty fee for the cases will be about 2,000 yen.

参考文献 (Readings)

1. Roger Fisher, William Ury. 2011. Getting to YES (Updated, Revised edition). Penguin Books (ISBN:978-1844131464)
2. Margaret Neale, Thomas Lys. 2015. Getting more of what you want. Basic Books (ISBN:978-0465050727)
3. Douglas Stone, Bruce Patton, Sheila Heen. 2010. Difficult Conversations. Penguin Books (ISBN:978-0143118442)
4. Harvard Business Review. 2003. Negotiation (Harvard Business Essentials). Harvard Business Review Press (ISBN:978-1591391111)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Negotiation Basics (A) in the spring semester and (B) in the autumn semester is the same class (Students can take either one, however; the cases for the role-plays might change depending on the English ability of the students). Exchange students are welcome to join.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Negotiation Basics		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Introduction to Negotiation (B)		
担当者名 (Instructor)	渡邊 真由(WATANABE MAYU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	定員 24 名 グローバルコースの学生優先		

授業の目標 (Course Objectives)

This class aims to develop your understanding of negotiation and your awareness of yourself as a negotiator.

授業の内容 (Course Contents)

As a businessperson, you will probably negotiate more often than you expect; with your boss, clients, and counterparts on the other side. Negotiation is the voluntary process of problem-solving. It is back-and-forth communication to reach an agreement when you and the other side have some shared and opposed interests. This class is designed to give you some ideas for analyzing and preparing for negotiations. Throughout the semester, you frequently will have the opportunities to participate in role-plays and reflection sessions to keep learning from your own negotiation experiences.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Understanding key negotiation concepts
2. Role-play: Distributive negotiation (1)
3. Debriefing: Distributive negotiation (2)
4. Role-play: Integrative negotiation (1)
5. Debriefing: Integrative negotiation (2)
6. Negotiation style analysis: understand your style
7. Role-play: Integrative negotiation (3)
8. Debriefing: Integrative negotiation (4)
9. Role-play: business negotiation (1)
10. Debriefing: business negotiation (2)
11. Dealing with Differences: Culture, Gender, and Race
12. Role-play: Multi-party negotiation (1)
13. Debriefing: Multi-party negotiation (2)
14. Wrap up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

This is an interactive seminar that will require weekly readings and preparation. Because the role-plays are the main activity for this class, participation is valued; attendance, class participation, and written assignments are the core evaluation components.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and class participation(70%)/Written assignment(30%)

テキスト (Textbooks)

Readings will be distributed in the class. The royalty fee for the cases will be about 2,000 yen.

参考文献 (Readings)

1. Roger Fisher, William Ury. 2011. Getting to YES (Updated, Revised edition). Penguin Books (ISBN:978-1844131464)
2. Margaret Neale, Thomas Lys. 2015. Getting more of what you want. Basic Books (ISBN:978-0465050727)
3. Douglas Stone, Bruce Patton, Sheila Heen. 2010. Difficult Conversations. Penguin Books (ISBN:978-0143118442)
4. Harvard Business Review. 2003. Negotiation (Harvard Business Essentials). Harvard Business Review Press (ISBN:978-1591391111)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Negotiation Basics (A) in the spring semester and (B) in the autumn semester is the same class (Students can take either one, however; the cases for the role-plays might change depending on the English ability of the students). Exchange students are welcome to join.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX097／Legal Presentation(Advanced)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Improve your presentation and public speaking skills		
担当者名 (Instructor)	オルトラニー(ORTOLANI ANDREA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of this course is improving your presentation, public speaking and discussion skills on legal topics, in English.

授業の内容 (Course Contents)

Most lessons will be based on students' presentations or debates on issues in Japanese law.

Most assignments will require working in teams.

The language of the course will be English.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to the course
2. Lecture: Improving your presentations and slideshows I
3. Lecture: Improving your presentations and slideshows II
4. Presentations: Constitutional law I
5. Debate: Constitutional law I
6. Presentations: Constitutional law II
7. Debate: Constitutional law II
8. Presentations: Family law
9. Debate: Family law
10. Presentations: Criminal law I
11. Debate: Criminal law I
12. Presentations: Criminal law II
13. Debate: Criminal law II
14. Presentations: Private law

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

Participants will have to prepare presentations and debates, according to the schedule of the course. Depending on the circumstances, each student will have to prepare with their team between 3 to 5 presentations or debates in total during the semester.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Weekly activities(90%)/最終レポート(Final Report)(5%)/最終テスト(Final Test)(5%)

テキスト (Textbooks)

There is no mandatory textbook.

Reading materials will be provided by the instructor in due time.

参考文献 (Readings)

Optional reading materials and online resources will be provided by the instructor.

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX098／Legal Presentation(Standard)		
担当者名 (Instructor)	秋元 奈穂子(AKIMOTO NAOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of this course is to introduce students to the basics of legal research, presentation, and discussion. At the end of the course, students will be able to 1) conduct legal research on issues they find interest, 2) construct a structure of a presentation, 3) give a presentation on the legal topic, and 4) have group discussions on the presented topics.

授業の内容 (Course Contents)

Students will learn how to conduct legal research through the legal database available at Rikkyo library, from free online resources, and so on. Students will also learn how to construct presentations on legal issues based on their legal research. Most classes will be based on student presentations or debates on issues taken from news articles and other materials related to legal issues. This course principally concerns legal issues under Japanese law, but the lecturer will introduce foreign laws for comparison. Students are also allowed to add perspectives of other jurisdictions.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Lecture on Legal Research
3. Lecture on Presentations (1)
4. Lecture on Presentations (2)
5. Student Presentations: Constitutional law (1)
6. Debate: Constitutional law (1)
7. Presentations: Constitutional law (2)
8. Debate: Constitutional law (2)
9. Presentations: Family law
10. Debate: Family law
11. Presentations: Tort Law
12. Debate: Tort Law
13. Presentations: Criminal Procedure
14. Debate: Criminal Procedure

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to prepare for their presentations (conduct legal research and make presentation materials).

成績評価方法・基準 (Evaluation)

presentation(50%)/participation in debates(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

There is no assigned textbook. News articles, legal articles, excerpts of textbooks and other materials will be distributed during the course.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX099／Legal Writing(Advanced)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Developing Logical Thinking and Writing Skills		
担当者名 (Instructor)	アシュリー(Ashley Gregory M.)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録		

授業の目標 (Course Objectives)

Our main objective is to improve your abilities (i) to evaluate issues logically and confidently and (ii) to express your thoughts clearly and persuasively.

A secondary objective is to understand English principles and trends useful for legal writing and other forms of expression in English.

授業の内容 (Course Contents)

Our course will begin with assessments of both legal and non-legal writing to discover how to express ourselves in clearer and more persuasive ways. We will then apply our learnings to develop our logical thinking about issues -- *both* legal and non-legal issues. In-class practices will allow us to read about interesting topics, create understandable summaries, write logical and persuasive opinions, and improve our written products via discussions with a partner, in small groups, and/or as a whole class. Depending on the progress of the course, we may also expand our studies to include comparisons of writing from various legal fields as well as considerations of social trends influencing communication in English today.

授業計画 (Course Schedule)

1. Orientation/Introduction
2. The "Plain English" Movement: Examples of Poor, Acceptable, and Excellent Writing (Legal and Non-Legal) (1)
3. The "Plain English" Movement: Examples of Poor, Acceptable, and Excellent Writing (Legal and Non-Legal) (2)
4. Thinking and Writing about Legal Issues and Cases (1)
5. Thinking and Writing about Legal Issues and Cases (2)
6. Thinking and Writing about Legal Issues and Cases (3)
7. Thinking and Writing about Legal Issues and Cases: Anticipating Counterarguments (4)
8. Logical Reasoning and the Legal Syllogism (1)
9. Logical Reasoning and the Legal Syllogism (2)
10. Logical Reasoning and the Legal Syllogism (3)
11. Logical Reasoning and the Legal Syllogism (4)
12. Assessing Writing Samples from Various Legal Fields: Civil Litigation, Corporate Law, Criminal Law, Contract Law, Etc. (1)
13. Assessing Writing Samples from Various Legal Fields: Civil Litigation, Corporate Law, Criminal Law, Contract Law, Etc. (2)
14. Trends Affecting Legal Writing: Political Correctness, Gender and Salutations, Etc.; plus Principles for Your "Legal English Briefcase": Idioms, Transitions, Opinions, Recommendations, Etc.

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

The instructor will provide reading materials based on the progress and/or theme of each class. Students are asked to (i) read and think about the materials and (ii) prepare for class/group discussion before each session.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Writing assignments(60%)/In-class participation/effort(40%)

テキスト (Textbooks)

The lecturer will provide copies of reading materials.

参考文献 (Readings)

The lecturer will provide copies of reading materials.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX100／Legal Writing(Standard)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	to improve logical writing and thinking skills		
担当者名 (Instructor)	田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録		

授業の目標 (Course Objectives)

This course is designed to train logical writing skills in English

授業の内容 (Course Contents)

The lectures will be provided with PowerPoint.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each class.

There will be writing assignments every week. Students are required to complete the assignments before each session.

Writing assignments must be submitted by the due dates. A late submission may be accepted with the instructor's explicit permission, but deductions will be made for each day the assignment is late. Your grade will suffer substantially if you miss an entire assignment.

To help provide the requisite motivation to stay current on the class, students may be called on in class. Active participation in class is expected from everyone. Please note that not only writing assignments but also class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. If missing a session is unavoidable, you are responsible for finding out from a fellow classmate what was informed, dealt with, and discussed during the session.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to the course
2. understanding logical writing through legal studies (1)
3. understanding logical writing through legal studies (2)
4. Training logical writing using legal syllogism
5. Training logical writing using legal syllogism
6. Training logical writing using legal syllogism
7. Training logical writing using legal syllogism
8. Briefing cases
9. Briefing cases
10. Briefing cases
11. Briefing cases
12. Briefing cases
13. Briefing cases
14. Reviewing the sessions

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

No textbook is required. Translated materials and other copied materials will be provided only in class throughout the semester.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

writing assignments(70%)/participation in class(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX101 / Anglo-American Law A		
担当者名 (Instructor)	アレキサンダー エヴァンス (C.D.ALEXANDER EVANS)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2001	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

Upon completion of this course, a student ought to be able to:

- (a) Engage with common-law legal cases;
- (b) Explain the key features of Anglo-American lawyering;
- (c) Meaningfully compare common law and civil law approaches to a variety of legal issues and problems;
- (d) Summarize and discuss some of the core underlying philosophical ideas of common-law.

授業の内容 (Course Contents)

A continual frustration of civil law attorneys working with common-law counterparties is the seeming inability to provide straight answers. Why is the answer to everything “it depends”? And how can that be true in private law, where market actors need to know the rules of the game? This course will explore how common-law countries like the United States form legal rules. Our focus will primarily be on private law—contracts, torts, and property—but we will look broadly to try to identify the features that make common-law lawyering so different and distinctive. My hope is that this exploration will prepare students to leave this class with a sense of how common-law lawyers think—and at least the basics of how common-law lawyering works.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to Property: Foundational Cases
Pierson v. Post (1805) [New York]
Tulk v. Moxhay (1845) [UK]
Popov v. Hayashi (2002)
2. Property Continued: Magic Words and Mistakes
White v. Brown (1977)
Howard v. Kunto (1970)
Merrill & Smith, Optimal Standardization
3. Property, Part III: Special Cases and Takings
Moore v. Regents (1977)
Stop the Beach v. Florida DEP (2009)
Hardin, The Tragedy of the Commons
4. Introduction to Torts: Foundational Cases
Vaughan v. Menlove, (1837) 132 ER 490 (CP)
Palsgraf v. L.I.R.R., 248 N.Y. 339, 162 N.E. 99 (1928)
Cordas v. Peerless, 27 N.Y.S. 2d 198 (1941)
5. Torts Continued: Formulae and Economics
U. S. v. Carroll Towing Co., 159 F.2d 169 (2d. Cir. 1947)
Ind. Harbor Belt Railroad Co. v. American Cyanamid Co., 916 F.2d 1174 (7th Cir. 1990)
Coase, The Problem of Social Cost
6. Torts, Part III: Damages and Nuisances
Spur v. Del E. Webb, 108 Ariz. 178, 494 P.2d 700 (1972)
Denny v. Ford Motor Co., 639 N.Y.S. 2d 250 (1995)
Calabresi & Melamed, One View of the Cathedral
7. Midterm Report
8. Introduction to Contracts: Foundational Cases
Hamer v. Sidway, 124 N.Y. 538, 27 N.E. 256 (1891); Carlill v. Carbolic Smoke Ball Co. [1892] EWCA Civ 1; Hawkins v. McGee, 84 N.H. 114, 146 A. 641 (N.H. 1929)
9. Contracts Continued: Breach
Raffles v. Wichelhaus [1864] EWHC Exch J19
Krell v. Henry [1903] 2 KB 74
Jacob & Youngs v. Kent, 230 N.Y.239, 129 N.E.889 (1921)
Lake Riv. v. Carborundrum, 769 F.2d1284 (7th Cir. 1985)

10. Contracts, Part III: Fairness
 Britton v. Turner (6 N. H. 481 (1834))
 Hoffman v. Red Owl Stores, Inc. (133 N.W.2d 267 (1965))
 Williams v. Walker-Thomas, 350 F.2d445 (D.C. Cir. 1965)
11. Constitutional Law
 Marbury v. Madison, 5 U.S. 137 (1803)
 Korematsu v. United States, 323 U.S. 214 (1944)
 Heart of Atlanta v. United States, 379 U.S. 241 (1964)
12. Criminal Law
 People v. Wong, 81 N.Y. 2d 600 (1993)
 Pinkerton v. United States, 328 U.S. 640 (1946)
 Brady v. United States, 397 U.S. 742 (1970)
13. Procedure, Jurisdiction, International Law
 Shady Grove v. Allstate, 559 U.S. 393 (2010)
 AT&T Mobility LLC v. Concepcion, 563 U.S. 333 (2011)
 Medellín v. Texas, 552 U.S. 491 (2008)
14. FINAL TEST

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

● Attendance Policy

I expect students to attend class and to be prepared to discuss the subjects of the day unless a pressing emergency arises. If you must miss class, please notify me by e-mail. Law is a Socratic discipline and active participation is critical to mastering the material; it is difficult to do this without attending class. If you are unable to read the material in advance of class, I encourage you to attend class anyway and to advise me at the start of class or by e-mail

● Success Strategies

Formation of study groups is highly encouraged – students forming a study group have traditionally seen, on average, a whole grade improvement compared to students who do not form a study group. I am available to answer questions by e-mail and in person at your convenience. If you would like special academic accommodations, please let me know as soon as possible.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Midterm report (take-home issue spotter)(34%)/Participation(33%)/Final test (in-class essay)(33%)

テキスト (Textbooks)

This course does not use a textbook. Instead, this course primarily relies on a series of cases. All these cases are available through public records and will be provided to students without charge. In addition to these primary readings, the course will explore some secondary readings that analyze and explain the cases. In general, you are asked to complete the entire reading, unless I indicate otherwise. In some cases, I may post additional supplemental materials to facilitate reading the case.

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Class participation is an essential element to mastering law. In an effort to encourage a broad range of participation, I will often call on students randomly based on a pre-determined list. I will grade these “cold calls” on a simple pass/fail basis. You will never be graded for an opinion or policy conclusion that you express; I grade you solely based on your preparation and analysis.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX102/Anglo-American Law B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Thinking like an American Lawyer		
担当者名 (Instructor)	ウィタカ, B. (WHITTAKER BRANDON M.)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2001	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The main objective of this course is to provide students with a general overview of the United States legal system. By the end of the course, students should understand at a basic level how the United States government and legal system function, as well as the premises underpinning United States law. Students will also be exposed to a number of famous U.S. law cases.

授業の内容 (Course Contents)

The course will cover at a high level most of the areas of law that would be studied during the first year at a law school in the United States. We will begin with an overview of how the United States government is organized at a high level, as well as a discussion of how the federal and state legal systems interact. We will then examine civil procedure, agency law, constitutional law, criminal law, torts law and property law and contracts law.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course introduction, overview of the U.S. government and legal system (part 1)
2. Overview of the U.S. government and legal system (part 2)
3. Overview of U.S. civil procedure and agency law
4. Overview of U.S. constitutional law (part 1)
5. Overview of U.S. constitutional law (part 2)
6. Overview of U.S. criminal law (part 1)
7. Overview of U.S. criminal law (part 2)
8. Overview of U.S. torts law (part 1)
9. Overview of U.S. torts law (part 2)
10. Overview of U.S. property law (part 1)
11. Overview of U.S. property law (part 2)
12. Overview of U.S. contracts law (part 1)
13. Overview of U.S. contracts law (part 2)
14. Final quiz

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are strongly encouraged to do all of the assigned readings for each week ahead of class. The lectures will provide context for the readings and will cover the most important points, but will not cover all of the information in the readings. Any information in the readings may be included in tests. Presentation materials will be provided; however, students should also take their own notes.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Reflection Papers(20%)/Quizzes(20%)/Participation(30%)/最終テスト(Final Test)(30%)

Reflections: From the third week, students will write a short reflection (150 words or more) in response to questions I will provide regarding the reading. Reflections are due at least 24 hours prior to the seminar. As long as a student has completed the assignment on time, full credit will be given. If the reflection is received less than 24 hours before the seminar but by the time the seminar begins, 75% credit will be given. Reflections received after the seminar but within the day of the seminar will receive 50% credit. Reflections received later than the day of the seminar but prior to the end of the semester will receive 25% credit. All reflections must be received in order to receive credit for this class. Quizzes: From the third week, at the beginning of each seminar, students will take a quiz of 10 questions that will cover the information we discussed in the prior class. The two lowest scores will be dropped, and the remaining scores will be averaged. Participation: Students' active participation (i.e., making comments in class and/or asking questions about information that is not clear) will be required given the small size of the class. Each student should speak multiple times during each class, but at a minimum four times. Final Quiz: The final quiz will be held during final class period, and will cover material discussed during the entire semester. If students have (a) completed and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the weekly quizzes, (c) attended all of the classes, (d) taken and reviewed their notes and (e) actively participated in each seminar, they should be prepared for the

final quiz.

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

Reading pack to be provided.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Dispute Resolution		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Basic concepts of Negotiation, Mediation, and Online Dispute Resolution		
担当者名 (Instructor)	渡邊 真由(WATANABE MAYU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	定員 24 名 グローバルコースの学生優先 (旧科目名: 法学特講 Dispute Resolution)		

授業の目標 (Course Objectives)

This class aims to develop your basic understanding of the processes for problem-solving: negotiation, mediation, and ODR (Online Dispute Resolution).

授業の内容 (Course Contents)

Dispute Resolution is the study and practice of resolving disputes. Although the range of possible dispute handling processes is quite broad, the field of dispute resolution is primarily focused on alternative dispute resolution processes, such as negotiation, mediation, and arbitration. In this class, you will have the opportunity to learn different approaches to solving problems.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Disputing Procedures
2. Types of Disputes
3. Negotiation (1)
4. Negotiation (2)
5. Negotiation (3)
6. Mediation (1)
7. Mediation (2)
8. Mediation (3)
9. Online Dispute Resolution (1)
10. Online Dispute Resolution (2)
11. Designing System for Resolving Disputes (1)
12. Designing System for Resolving Disputes (2)
13. Designing System for Resolving Disputes (3)
14. Wrap-up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

This is an interactive class that will require group discussion and research. You may have to work outside of class for the group project. Participation in the class discussion is valued; attendance, class participation, and written assignments are the core evaluation components.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / Attendance and Class participation(70%)

テキスト (Textbooks)

Readings will be distributed in the class.

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

Negotiation Basics (EX095, EX096) 及び法政外国語演習 (EX716, EX679) は、交渉やメディエーションのロールプレイを中心とした演習(コミュニケーションの練習)であるのに対し、Dispute Resolution では紛争解決の各プロセスの概要を学び、その全体像を掴んでいただくことを目的としています(一部ロールプレイも行いますがケース数が少なくなります)。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX104/Labor Law		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Basics of labor law and the Japanese model of employment		
担当者名 (Instructor)	亀田 康次(KAMEDA KOJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2401	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The objectives of this course are (1) to obtain basic knowledge of Japanese labor law in English, (2) to understand the unique characteristics of "Japanese model" of employment (comparing with foreign countries as necessary), and (3) to develop skills of discussing employment-related issues in English.

授業の内容 (Course Contents)

Students will experience "working" sooner or later. Some of them may have started a student part-time job. Labor law is related to all the experience they may have while being employed – recruitment, working, receiving salary, transfer, leaving the company and so on. This course will deal with the role of labor law and help students understand its basic concepts and principles.

This course will also deal with unique characteristics of the Japanese employment system. One of the basic features of the system is called "long-term employment practice". This course will help students understand what makes the Japanese system so unique, by comparing with foreign countries as necessary.

This course will cover basic topics of labor law. Since "work" will be an essential aspect of our life, the knowledge of labor law will be useful no matter what students do in the future. Learning it in English will help students (1) develop their English vocabulary related to work experience in the future and (2) enhance their skills of discussing employment-related issues in English.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Role of labor law
3. Commencement of employment
4. Termination of employment
5. Transfer of employees
6. Wages
7. Work rules (1)
8. Work rules (2)
9. Working hours
10. Fixed-term employment
11. Labor union
12. Equal treatment
13. Recent changes in labor law and the Japanese model
14. Wrap-up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students will be expected to take 1 or 2 hours per week to prepare for class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

議論への参加(Class Participation)(30%) / 小テスト (Short Test)(30%) / 最終レポート(Final Report)(40%)

Lecture slides will include questions to discuss in the classroom. Preparation for and participation in the discussion will be valued as Class Participation.

テキスト(Textbooks)

Lecturer will provide handouts and reading materials.

参考文献 (Readings)

1. Takashi Araki. 2002. Labor and Employment Law in Japan. The Japan Institute of Labor (ISBN:ISBN4-538-71018-0)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX105／Property		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Introduction to Property Law		
担当者名 (Instructor)	マシヤド Y. (MACHADO Y. DANIEL)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2201	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of this seminar is to introduce students to Japanese property law from a comparative perspective.

授業の内容 (Course Contents)

We begin the course with an introduction to the nature of property and property rights. Then we explore the different ways of acquiring, transferring and exercising property rights. In the last classes we get an overview of leases and liens. Japanese property law will be the basis for most of our discussions with some comparisons to the laws of the United States and England. Students may be required to give short presentations depending on the number of students.

授業計画 (Course Schedule)

1. What is property?
2. Property rights
3. Property acquisition 1
4. Property acquisition 2
5. Property acquisition 3
6. Nuisance 1
7. Nuisance 2
8. Nuisance 3
9. Transfer of property 1
10. Transfer of property 2
11. Transfer of property 3
12. Transfer of property 4
13. Lease
14. Liens

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students will be given book chapters and materials to read before every class. Preparation should take around one hour depending on your English reading skills. Preparation may take two hours if students are asked to give a presentation as mentioned above.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/Attendance and participation(40%)

テキスト (Textbooks)

All materials discussed in class will be made available in advance or distributed in class.

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX106／International Business Law A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	From theory to practice		
担当者名 (Instructor)	ウィタカ, B. (WHITTAKER BRANDON M.)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The main objective of this course is to expose students, from both an academic and practical perspective, to a number of areas of law that lawyers working on cross-border transactions deal with. By the end of the course, students should be aware of many of the issues that arise in corporate law transactions, as well as how these issues are resolved.

授業の内容 (Course Contents)

This course will focus mostly on corporate law matters, but will also cover specialized areas of law and litigation and dispute resolution. Depending on availability, there may be several guest speakers to further expose students to how the law is actually practiced and how lawyers in different jurisdictions all work together to help clients achieve their business objectives.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: what does "international business law" actually mean?
2. Business entities and structures
3. Corporate governance (US)
4. Corporate finance
5. Commercial transactions
6. Regulatory issues (employment law, environmental)
7. Other regulatory issues (CFIUS, antitrust)
8. M&A
9. Credit transactions
10. Corporate governance (Taiwan)
11. ESG
12. Funds transactions
13. Litigation and dispute resolution
14. Final quiz

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are strongly encouraged to do all of the assigned readings for each week ahead of class. The lectures will provide context to the readings and will cover the most important points, but will not cover all of the information in the readings. Any information in the readings may be included on tests. Presentation materials used for each lecture will be provided; however, students should also take their own notes.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Quizzes(20%)/Midterm quiz(30%)/Participation(20%)/Final quiz(30%)

Except for extenuating circumstances, all students must attend at least 2/3 of the lectures in order to earn credit for the course. There will be several short quizzes starting from the third week of class. They will cover the information discussed in the previous class. The midterm quiz will be an in-class multiple choice test covering information discussed in weeks 1-6. The final quiz will be a closed-book quiz covering all topics in the course. The final quiz will consist of multiple-choice and short-answer questions. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the short and midterm tests, (c) attended all of the lectures and (d) taken and reviewed class notes, they should be prepared for the final quiz.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

Reading pack to be provided.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX108／Civil Procedure		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Introduction to Civil Procedure in Japan		
担当者名 (Instructor)	亀田 康次(KAMEDA KOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	(旧科目名: 法学特講 Civil Procedure)		

授業の目標 (Course Objectives)

This class aims to develop your understanding of the basic concepts of civil procedure in Japan.

授業の内容 (Course Contents)

Let's suppose you lend money to someone and the borrower refuses to pay the money back. In this situation, what can you do to get the money back? You will think of filing a lawsuit with the court against the borrower. This is called civil litigation, which is the main topic of this class.

In this class, students will learn basic concepts and rules of civil litigation in Japan. Lectures will be interactive. During the course, students may be requested to do research and presentation (in group) on some major topics of the civil procedure, comparing the situations in Japan and in other countries.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Overview (1):
3. Overview (2):
4. Civil Litigation in Japan (1)
5. Civil Litigation in Japan (2)
6. Civil Litigation in Japan (3)
7. Civil Litigation in Japan (4)
8. Civil Litigation in Japan (5)
9. Alternative Dispute Resolution System
10. Research and Presentation (1)
11. Research and Presentation (2)
12. Research and Presentation (3)
13. Research and Presentation (4)
14. Wrap-up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

This is an interactive class. Students will be expected to prepare for the discussion.
Students may be requested to do (group) research outside of class for (group) presentation.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/Class Participation(60%)

テキスト (Textbooks)

Reading materials will be distributed in the class as necessary.

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX109／Moot Court		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	＜Advanced＞		
担当者名 (Instructor)	クッション(CUSHION NICHOLAS J.)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	(旧科目名：法学特殊講義(Moot Court))		

授業の目標 (Course Objectives)

Students will learn and practice English vocabulary and expressions used in the legal field in a very fun and interesting way.
(This class is for students who have experience communicating with others in English)

Students will learn and practice English vocabulary and expressions used in the legal field in a very fun and interesting way.
(This class is for students who have experience communicating with others in English)

授業の内容 (Course Contents)

In this course, students will have the opportunity to role-play in a weekly moot court (模擬裁判). Students may choose original or famous court cases in the area of criminal or civil law.

Prior to each class, students will use a template provided by the instructor to prepare a moot court case. Students will assign roles to the other students and then conduct a moot court session. The instructor will provide guidance during the moot court session.

In this course, students will have the opportunity to role-play in a weekly moot court (模擬裁判). Students may choose original or famous court cases in the area of criminal or civil law.

Prior to each class, students will use a template provided by the instructor to prepare a moot court case. Students will assign roles to the other students and then conduct a moot court session. The instructor will provide guidance during the moot court session.

授業計画 (Course Schedule)

1. Class introduction including demonstration of typical class assignment
2. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
3. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
4. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
5. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
6. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
7. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
8. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
9. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
10. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
11. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
12. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
13. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
14. Final project presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Presenter(s) will prepare a moot court session with a format explained by the instructor.
Presenter(s) will prepare copies of the presentation for all students in the class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(41%)/Class participation(59%)

テキスト (Textbooks)

A reading may be distributed in each class

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX110／Moot Court		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	＜Advanced＞		
担当者名 (Instructor)	クッション(CUSHION NICHOLAS J.)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	(旧科目名：法学特殊講義(Moot Court))		

授業の目標 (Course Objectives)

Students will learn and practice English vocabulary and expressions used in the legal field in a very fun and interesting way.
(This class is for students who have experience communicating with others in English)

Students will learn and practice English vocabulary and expressions used in the legal field in a very fun and interesting way.
(This class is for students who have experience communicating with others in English)

授業の内容 (Course Contents)

In this course, students will have the opportunity to role-play in a weekly moot court (模擬裁判). Students may choose original or famous court cases in the area of criminal or civil law.

Prior to each class, students will use a template provided by the instructor to prepare a moot court case. Students will assign roles to the other students and then conduct a moot court session. The instructor will provide guidance during the moot court session.

In this course, students will have the opportunity to role-play in a weekly moot court (模擬裁判). Students may choose original or famous court cases in the area of criminal or civil law.

Prior to each class, students will use a template provided by the instructor to prepare a moot court case. Students will assign roles to the other students and then conduct a moot court session. The instructor will provide guidance during the moot court session.

授業計画 (Course Schedule)

1. Class introduction including demonstration of typical class assignment
2. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
3. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
4. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
5. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
6. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
7. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
8. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
9. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
10. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
11. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
12. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
13. Weekly presenter(s) and current discussion topic presented by instructor
14. Final project presentations

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

Presenter(s) will prepare a moot court session with a format explained by the instructor.
Presenter(s) will prepare copies of the presentation for all students in the class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(41%)/Class participation(59%)

テキスト (Textbooks)

A reading may be distributed in each class

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX111／経済法1 (Economic Law 1)		
担当者名 (Instructor)	早川 雄一郎(HAYAKAWA YUICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

独占禁止法の仕組みを理解するとともに、独占禁止法の学習を通じて、法的思考力と経済に関する理解を涵養することを目標とする。

The objective of this course is to understand the structure of the Antimonopoly Act while cultivating the legal ability to think critically and an understanding of economics through studying the Antimonopoly Act.

授業の内容(Course Contents)

独占禁止法の規制のうち、市場支配力の形成・維持・強化が問題となる類型を中心に解説する。
独占禁止法の目的、基礎概念について説明したのち、企業結合規制、不当な取引制限の規制、私的独占の規制、事業者団体の規制の順に、解説する。
なお、独占禁止法を学習する際には、民法など他の実定法科目の知識を有することが有益となるので、少なくとも1年次配当の実定法科目のいくつかを履修済みであるか、又は並行して学習することが望ましい。

The classes will explain the Antimonopoly Act regulations with a focus on patterns of market power creation, maintenance, and strengthening which become problematic.

After explaining the purpose and basic concept of the Antimonopoly Act, we will cover cartel regulations, regulations concerning restrictions on unfair transactions, private monopoly regulations, and trade association regulations in that order.

It is desirable to study other legal fields such as civil law in pararell, since the Antimonopoly Act is based on knowledge of them.

授業計画(Course Schedule)

- 序論(1)独占禁止法の全体像
- 序論(2)独占禁止法の規定の構造、目的
- 序論(3)独占禁止法の基礎概念
企業結合規制(1)企業結合規制の概要
- 企業結合規制(2)一般集中の規制、結合関係の認定、一定の取引分野の画定①
- 企業結合規制(3)一定の取引分野の画定②、競争の実質的制限①意義
- 企業結合規制(4)競争の実質的制限②水平型企業結合
- 企業結合規制(5)競争の実質的制限③垂直型・混合型企業結合、問題解消措置
- 企業結合規制(6)事前届出制度、デジタルプラットフォームと企業結合
不当な取引制限の規制(1)規制の概要
- 不当な取引制限の規制(2)行為要件
- 不当な取引制限の規制(3)反競争効果要件
- 不当な取引制限の規制(4)エンフォースメント
私的独占規制(1)規制の概要、排除型私的独占①
- 私的独占規制(2)排除型私的独占②、支配型私的独占、反競争効果要件
- 事業者団体の規制
- まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業で取り上げる箇所に対応する教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

- 土田和博・栗田誠・東條吉純・武田邦宣、2019、『条文から学ぶ独占禁止法(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641243149)

参考文献(Readings)

1. 川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子、2020、『ベーシック経済法(第5版)』、有斐閣 (ISBN:9784641221412)
2. 金井貴嗣ほか編、2017、『経済法判例・審決百選(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115347)
3. 井田良ほか、2019、『法を学ぶ人のための文章作法(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641126121)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

講義レジュメを授業支援システム上で配布するので、事前に各自でダウンロードして持参すること。レジュメの紙のコピーは配布しない。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX112／経済法2 (Economic Law 2)		
担当者名 (Instructor)	早川 雄一郎(HAYAKAWA YUICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

独占禁止法と景品表示法の仕組みを理解するとともに、独占禁止法と景品表示法の学習を通じて、法的思考力と経済に関する理解を涵養することを目標とする。

The objective of this course is to understand the structure of the Antimonopoly Act and the Act Against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations while cultivating the legal ability to think critically and an understanding of economics through studying these two acts.

授業の内容 (Course Contents)

独占禁止法の規制のうち、不公正な取引方法の規制を中心に解説する。

不公正な取引方法の総論として「公正競争阻害性」概念について解説したのち、各論的な行為類型である再販売価格の拘束、不当廉売、優越的地位の濫用といった様々な行為類型を取り上げる。関連する規制として景品表示法の規制も取り上げる予定である。

なお、独占禁止法と景品表示法を学習する際には、民法など他の実定法科目の知識を有することが有益となるので、少なくとも1年次配当の実定法科目のいくつかを履修済みであるか、又は並行して学習することが望ましい。

This course will explain the Antimonopoly Act regulations with a focus on unfair trade practices.

As a general introduction to unfair trade practices, the classes will explain the concept of “inhibition of fair competition” before covering various theoretical behavior patterns such as resale price restrictions, dumping, and the abuse of a dominant bargaining position. The course is also scheduled to cover regulations in the Act Against Unjustifiable Premiums and Misleading Representations as a related set of regulations.

It is desirable to study other legal fields such as civil law in parallel, since the Antimonopoly Act is based on knowledge of them.

授業計画 (Course Schedule)

1. 不公正な取引方法の規制の全体像
2. 不公正な取引方法総論：公正競争阻害性
3. 不公正な取引方法各論：再販売価格の拘束
4. 不公正な取引方法各論：拘束条件付取引
5. 不公正な取引方法各論：排他条件付取引
6. 不公正な取引方法各論：不当廉売
7. 不公正な取引方法各論：取引拒絶規制
8. 不公正な取引方法各論：差別対価等
9. 不公正な取引方法各論：取引強制（抱き合わせ販売）、不当な顧客誘引
10. 景品表示法の規制（1）不当表示規制
11. 景品表示法の規制（2）景品規制、景品表示法のエンフォースメント
12. 不公正な取引方法各論：優越的地位の濫用
13. 不公正な取引方法各論：取引妨害
14. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

授業で取り上げる箇所に対応する教科書や参考書の該当箇所を読んで予習・復習すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 土田和博・栗田誠・東條吉純・武田邦宣、2019、『条文から学ぶ独占禁止法（第2版）』、有斐閣（ISBN:9784641243149）
消費者庁「事例でわかる景品表示法」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/fair_labeling/pdf/fair_labeling_160801_0001.pdf

参考文献(Readings)

1. 川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子、2020、『ベーシック経済法(第5版)』、有斐閣 (ISBN:9784641221412)
2. 金井貴嗣ほか編、2017、『経済法判例・審決百選(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115347)
3. 井田良ほか、2019、『法を学ぶ人のための文章作法(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641126121)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

講義レジュメを授業支援システム上で配布するので、事前に各自でダウンロードして持参すること。レジュメの紙のコピーは配布しない。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX113／Corporate Law A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Corporate Governance		
担当者名 (Instructor)	山下 徹哉(YAMASHITA TETSUYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2201	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The objectives of this course are:

- to develop students' ability to explain their knowledge of law in English;
- for students to learn basic knowledge of corporations and corporate law, especially corporate governance; and
- for students to understand the relationship between law and society.

授業の内容 (Course Contents)

This course will provide an introduction to Japanese corporations and corporate law. Because corporations play an important role in Japanese society and economy, it is needed for students studying law and business to understand the basic knowledge of legal rules on corporations.

This course will be divided into two parts: the former part treats fundamental concepts on corporations and corporate law; and the latter part treats basic knowledge of Japanese legal rules about corporate governance.

The instructor will provide concise handouts and reading materials for each class. Students are expected to read them before the class. Besides, students are encouraged to ask questions and participate in discussions during the class.

*The instructor will give a paper explaining more detailed course contents and schedule in the first week of class. Some topics for learning and/or their order may be different than the topics listed in the course schedule in this syllabus.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course Guidance; Introduction to Corporate Law (1): What is Corporation?
2. Introduction to Corporate Law (2): Basic Features of Corporate Law
3. Introduction to Corporate Law (3): Basic Governance Structure
4. Introduction to Corporate Law (4): Basics of Institutional Setting for Japanese Corporations
5. Introduction to Corporate Law (5): Basic Legal Features of Corporations as an Organizational Format
6. Introduction to Organs
7. Shareholders Meeting (1): What is Shareholders Meeting?
8. Shareholders Meeting (2): Defects in Shareholder Resolutions
9. Directors (1): Directors, Board of Directors, and Representative Directors
10. Directors (2): Duties of Directors; Conflicts of Interests between Directors and Corporation
11. Company Auditors and Accounting Auditors
12. New Types of Governance Structure: Companies with Committees
13. Liability of Organ Members
14. Course Wrap-up

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

Before/after attending each class, students are expected to read the handouts and materials for each class. In addition, students will be assigned to submit reaction papers for each class and to answer quizzes which is sometimes given for checking the understanding of the contents of the course.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Class Participation(40%)/Reaction Papers(30%)/Quizzes(30%)

テキスト (Textbooks)

Concise handouts and reading materials are distributed before each class.

参考文献 (Readings)

1. Ichiro Kawamoto, Yasuhiro Kawaguchi, and Takayuki Kihira. 2016. Corporations and Partnerships in Japan (2nd ed.). Kluwer Law Intl (ISBN:978-9041168542)
2. Curtis J. Milhaupt, J. Mark Ramseryer, and Mark D. West. 2012. The Japanese Legal System: Cases, Codes, and Commentary (2nd ed.). Foundation Press (ISBN:978-1609300296)

The instructor will give detailed explanations about the readings mentioned above in the first class and may give information about further readings in each class.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX114／Corporate Law B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Discussing corporate law topics in English		
担当者名 (Instructor)	ウィタカ, B. (WHITTAKER BRANDON M.)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2201	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The objectives of this course are to help students gain an understanding of a number of the areas of corporate law practice, as well as major issues that have arisen in those practice areas, and then to give students the opportunity to share their opinions about issues relating to corporate law in written and spoken English.

授業の内容 (Course Contents)

I will provide an overview of a corporate law practice area and highlight an issue that has arisen in that practice area. I will give students a question or questions about the issue discussed in class to consider and then write a short reflection paper. In the following class, I will ask students to actively share their opinions about the legal issue.

授業計画 (Course Schedule)

1. Capital markets practice overview
2. Discussing readings regarding the practice of capital markets and introduction of issue
3. Discussion about capital markets issue
4. M&A overview
5. Discussing readings regarding the practice of M&A and introduction of issue
6. Discussion about M&A issue
7. Credit practice overview
8. Discussing readings regarding the practice of credit and introduction of issue
9. Discussion about credit issue
10. Investment funds overview
11. Discussing readings regarding the practice of funds law and introduction of issue
12. Discussion about funds law issue
13. Discussion about a current topic in the news
14. Final quiz

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Reflections, preparation for class discussions. See "Evaluation" for further information.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Reflection papers(30%)/Participation(35%)/Final quiz(35%)

Reflections: From the second week, students will write a short reflection (150 words or more) in response to questions regarding the reading. Reflections are due at least 24 hours prior to the seminar. As long as a student has completed the assignment on time, full credit will be given. If the reflection is received less than 24 hours before the seminar but by the time the seminar begins, 75% credit will be given. Reflections received after the seminar but within the day of the seminar will receive 50% credit. Reflections received later than the day of the seminar but prior to the end of the semester will receive 25% credit. All reflections must be received in order to receive credit for this seminar. Participation: This seminar is a chance for you to practice your English, so you will need to actively participate every class. Each student should speak multiple times during each seminar, but at a minimum four times. The final quiz will be an oral quiz. The final quiz will cover information we have discussed during the semester, and students will be given a topic ahead of time so that they can prepare. The grade for the final quiz will be based on how well students know, and are able to communicate, the material.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

Reading pack to be provided.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX117／Cross-Border Litigation		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	英語により国際民事手続法を受講する		
担当者名 (Instructor)	早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

Learn present dispute resolution systems for cross-border commercial disputes in Japan and other countries.

グローバル化の進む現代における私人・私企業間の国際的な紛争の解決方法の基本構造を英語による講義を通じて修得させる。

授業の内容 (Course Contents)

Main focus will be placed on transnational litigation, international commercial arbitration and cross-border bankruptcy. Combination of lecture and class discussion. Participants are encouraged to actively participate in class discussion.

日本企業と外国企業の間で紛争が生じたとき、どの国の裁判所で解決されるのでしょうか。外国企業を相手に訴訟を行う場合、どういった点に配慮する必要があるのでしょうか。外国で判決が下された場合に、それは我が国にどのような影響をもたらすのでしょうか。

国際民事手続法とは、各国ごとに法制度が異なるという現在の国際社会の状況の下、国際的な民事紛争をどのように解決するかを規律する法です。国際化がますます進展する現代において、その重要性は拡大の一途をたどっています。講義では、我が国の国際民事手続法の基本構造をできる限り丁寧に説明することで、ときに難解ともいわれるこの法をわかりやすく解説することを心掛けます。

なお、本講義はすべて英語により行われます。英語による講義のヒヤリング能力の向上に意欲的な学生の参加を待っています。

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Jurisdiction①
3. Jurisdiction②
4. Jurisdiction③
5. Jurisdiction④
6. Service Abroad①
7. Service Abroad②
8. Taking of Evidence Abroad①
9. Taking of Evidence Abroad②
10. Foreign Governing Law①
11. Foreign Governing Law②
12. Recognition and Enforcement of Foreign Judgments①
13. Recognition and Enforcement of Foreign Judgments②
14. Recognition and Enforcement of Foreign Judgments③

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

If you have any question, please send an e-mail to haya@rikkyo.ac.jp.

講義内容に関する個別の質問に関しては、電子メールによって出来る限りお答えしたいと思っています。haya@rikkyo.ac.jp までお気軽に送信してください。

なお、日本語による「国際民事手続法」も別に展開されていますので、あわせて受講すると、より理解が深まります。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)／講義中の発言(40%)

テキスト(Textbooks)

Related documents will be distributed in the class room.

講義の中で資料その他を配布します。

参考文献(Readings)

Kanzaki, Hayakawa and Motonaga, "Private International Law" (Yuhikaku)

日本語の副読本として神前・早川・元永『国際私法(有斐閣アルマ)』(有斐閣)をお勧めします。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

The same subject is provided by another professor in Japanese language. Please consider taking the class as well for your better understanding.

別教員による日本語による「国際民事手続法」も開講されています。授業内容のよりよい理解のために、あわせて履修することも可能ですので、ご検討ください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX119／Financial Law		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Comparative Analysis and Emerging Issues of financial systems		
担当者名 (Instructor)	信森 毅博(NOBUMORI TAKEHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

1) To understand the basic concept of legal structure regarding the financial systems and their differences among jurisdictions and 2) to discuss new developments in the systems.

授業の内容 (Course Contents)

1) Share their understanding of the characteristics and differences of rules concerning participating students' jurisdictions.
2) Discuss new financial issues of interest to the participating students.
Students are requested to briefly summarize the situation in your country concerning the discussion of the next topic.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Overview of financial markets and legal entities; why are financial markets necessary?
2. Position of banks in the financial system; why are banks regulated?
3. What is a payment system: Why are crypto assets attracting attention?
4. Role of securities firms; why is crowdfunding attracting attention?
5. What do central banks do? Why do they exist separately from governments?
6. What do regulators do; why do they take different forms in different countries?
7. Legal system (laws, regulations, guidelines); why the tiered structure?
8. Banking regulation; why are banks regulated?
9. Securities regulations; why is disclosure necessary?
10. Other regulations: Why are anti-money laundering measures necessary?
11. What was the Lehman Shock? Why do crises repeat themselves?
12. Basel regulations. Why are international regulations necessary?
13. New issues; culture and climate change. Why do financial institutions expect it?
14. Summary: What role should financial institutions play?

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Participants are expected to be active in making presentations and making comments based on their own country's financial system. (Themes will be sometimes assigned in consultation with the lecturers)

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/reports and comments at each class(60%)

テキスト (Textbooks)

1. John Armour. Principles of Financial Regulation. Oxford University Press (ISBN:9780198786481)
Purchase of the textbook is not mandatory. The instructor will provide additional reading materials.

参考文献 (Readings)

The instructor will provide reading materials.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX120／Torts		
担当者名 (Instructor)	マシヤド Y. (MACHADO Y. DANIEL)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2201	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of this course is to introduce students to the basics of Japanese tort law from a comparative perspective.

授業の内容 (Course Contents)

Imagine that your friend intentionally broke your smartphone. He or she committed the crime of criminal damage, which consists of damaging property that belongs to others. The government may send him or her to jail or make him or her pay a fine. In either case, you will not receive the money to repair your old smartphone or buy a new one unless you take action. Tort law is the law that allows you to ask your friend to pay compensation for what he or she did to you. We begin the course with an introduction to the meaning of tort and the basic elements you need to prove to receive compensation. Next, we step into the defendant's shoes to learn how you can defend yourself from a tort accusation. In the last classes, we take a closer look at special types of torts, defamation, and privacy. Japanese tort law will be the basis for most of our discussions with some comparisons to the laws of the United States, England, France and Germany. Students may be required to give short presentations depending on the number of students.

授業計画 (Course Schedule)

1. What is a tort?
2. Elements of a tort (1)
3. Elements of a tort (2)
4. Elements of a tort (3)
5. Elements of a tort (4)
6. Tort victims
7. Defenses to torts (1)
8. Defenses to torts (2)
9. Defenses to torts (3)
10. Special torts (1) Joint torts
11. Special torts (2) Liability for the act of others
12. Special torts (3) Liability for things
13. Defamation and privacy (1)
14. Defamation and privacy (2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students will be given book chapters and materials to read before every class. Preparation should take around one hour depending on your English reading skills. It may take two hours if students are asked to give a short presentation as mentioned above.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/Attendance and participation(40%)

テキスト (Textbooks)

All materials discussed in class will be made available in advance or distributed in class.

参考文献 (Readings)

All materials discussed in class will be made available in advance or distributed in class.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX121／英米法1 (Anglo American Law 1)		
担当者名 (Instructor)	秋元 奈穂子(AKIMOTO NAOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

アメリカの法制度とその背景にある社会・文化についての基礎的な理解を身につける。

This course aims at acquiring basic understanding of American legal system and its societal and cultural background.

授業の内容 (Course Contents)

冒頭では、アメリカの統治機構－連邦議会、大統領制及び司法制度について学び、連邦政府と州との双方が主権を有する連邦制度 (Federalism) の特性を理解する。その後、具体的な法の実現過程につき学ぶ。製造物責任法の発展を素材に判例法主義とは何かを理解したのち、民・刑事の訴訟手続の特徴を理解する。最後に、権利章典 (Bill of Rights) による人権保障のうち、平等保護条項及び実体的デュープロセスを取り上げる。各回では歴史的及び現代アメリカにおける代表的な判例・事例を取り上げ、そこにあらわれているアメリカ法の特徴やダイナミクスを具体的に感じ理解することを目指す。学生には事前に判例・事例に目を通し、授業に積極的に参加することを期待する。なお、アメリカは所謂「法廷もの」「法律もの」映画の宝庫である。授業で扱う各トピックをテーマとした映画を適宜紹介していきたい。

This course will start with learning American governing system – legislative branch, President and judicial branch – and students will understand the Federalism where the federal government as well as state governments hold sovereignty. Then it will go on to discuss the process of realization of law. Specifically, students will learn common law system through the analysis of the development of products liability law and also learn the unique features of American civil and criminal procedure. In the last part, the classes will focus on two kinds of human rights protection, equal protection and substantive due process under the Bill of Rights.

In each class, the lecturer will pick up representative judgements and aim at delivering vivid image and of the features and dynamism of American law. Thus, students are expected to read assigned cases in advance and to participate in classes actively.

Lastly, America is a treasure house of good legal movies. The lecturer plans to give a brief introduction of movies related to the issues of the class.

授業計画 (Course Schedule)

1. 英米法とは何か・なぜ英米法を学ぶのか
英米法の特徴
2. アメリカの法曹と法学教育
3. 連邦議会と州の権限(1)
4. 連邦議会と州の権限(2)
5. 大統領制と大統領の権限
6. 司法制度(1)
連邦の裁判所と州の裁判所
7. 司法制度(2)
違憲立法審査権、合衆国最高裁判所
8. 判例法主義
製造物責任法の発展を題材に
9. 民事訴訟手続
10. 私人による法の実現
11. 刑事訴訟と陪審制
12. 権利章典と人権保障(1) 人権保障の基本構造 平等保護条項
13. 権利章典と人権保障(2)
実体的デュープロセス 同姓婚判決に至るまで
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回、前週までの復習を行うとともに、指定された教材(判例百選の該当判例又は教員が指定する文献)に目を通すこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 樋口範雄他編、2012、『アメリカ法判例百選』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-11513-2)

参考文献(Readings)

1. 樋口範雄、2021.6、『アメリカ憲法』、弘文堂 (ISBN:9784335303852)
2. 岩田太他、2020、『基礎から学べるアメリカ法』、弘文堂 (ISBN:978-4335358104)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX122／英米法2 (Anglo American Law 2)		
担当者名 (Instructor)	溜箭 将之(TAMARUYA MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

英米の契約法と不法行為法、信託法と会社法の原理・ルールを判例及び具体的な契約条項を通じて理解する。契約法と不法行為法は英米コモン・ローの最も重要な二領域であり、信託法と会社法はエクイティの裁判所で発展した法分野である。これら英米私法の基本を学ぶことを通じて、英米の法律家の考え方、法制度と社会との関係を学び、また日本法との比較を通じて日本法により深い理解を目指す。

This course will discuss basic principles and rules of contracts and torts, and the laws of trusts and companies, through the analysis of cases and actual contractual provisions. Contracts and torts are the most important areas of common law, and the laws of trusts and companies developed in English equity court. By learning these basic areas of private law as developed in Anglo-American jurisdictions, the students will understand how lawyers think in England and the U.S. and attaining greater appreciation of how the legal system and society are instituted in those jurisdictions. The comparison with Japanese law will also facilitate greater understanding of Japanese law.

授業の内容 (Course Contents)

授業全体を4分割し、契約法、不法行為法、信託法、会社法を扱う。代表的判例と共に実際の契約書や信託文書の条項を見ながら、アメリカ私法の基本的な原理とルールを学ぶ。実体的な法としての制定法や判例法と、取引関係の法律文書とはしばしば異なるものであり、英米の法律家は、取引関係者とともに、いわば私人間の法形成という形で、取引と法の発展に関与する。授業においては、講義とともに判例百選に掲載された判例についてディスカッションも行ってゆく。日米比較から、日本法と英米法の特徴についても考えてゆく。

This course will be divided into four parts, and discuss the law of contract, torts, trusts, and corporate law. Students will learn the basic principles and rules in each area of law, and discuss leading cases and excerpts from actual contract agreements and trust documents. We will consider the difference between the law on the books and the law in practice. Against the background knowledge of the relevant areas of law, common law lawyers routinely engage in making the law of the transactions, thereby contributing to the development of the law. A substantial part of the course will be devoted to discussions on leading cases and contract documents. The lecturer plans to have comparative analysis between Japanese law in order to illuminate the feature of common law.

授業計画 (Course Schedule)

1. 英米法の基礎 The Basics of common law/Anglo-American law
弁護士のように考える Thinking Like a Lawyer、コモン・ローとエクイティ common law and equity
2. 契約法 Contract Law (1)
約因 consideration、申込と承諾 offer and acceptance
3. 契約法 Contract Law (2)
強制可能性 Enforceability (錯誤 mistake、強迫 duress、不当威圧 undue influence、不実表示 misrepresentation、非良心性 unconscionability)、文言解釈 terms and conditions
4. 契約法 Contract Law (3)
履行 Performance、契約違反と損害賠償 Breach of Contract and Damages
5. 不法行為法 Torts (1)
過失責任主義 Fault Principle、厳格責任 strict liability 故意不法行為 intentional torts
6. 不法行為法 Torts (2)
過失不法行為 Negligence、因果関係 Causation、損害 Damages
7. 不法行為法 Torts (3)
製造物責任 Product Liability、厳格責任 strict liability
8. 信託法 Trusts (1)
エクイティの歴史 Equity and historical background、信託の設定 Express Trust
9. 信託法 Trusts (2)
信託関係 Fiduciary Relationship、忠実義務 Duty of Loyalty、注意義務 Duty of care
10. 信託法 Trusts (3)
救済 remedies、公益信託 charitable trusts

11. 会社法 Corporate Law (1)
取締役と株主 Directors and Shareholders
12. 会社法 Corporate Law (2)
コーポレート・ガバナンス Corporate Governance、株主代表訴訟 Derivative suits
13. 会社法 Corporate Law (3)
合併と買収 Merger and Acquisition
14. まとめ Wrap-up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回、前回までの授業の復習と共に、指定された文献(判例百選の判例、教科書の該当ページ、又はその他教員が指定する文献)に目を通して授業にのぞむこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 樋口範雄ほか編、2012、『英米法判例百選』、弘文堂 (ISBN:978-4641115132)

参考文献 (Readings)

1. 岩田太他、2020、『基礎から学べるアメリカ法』、弘文堂 (ISBN:978-4335358104)
2. 樋口範雄、2013、『はじめてのアメリカ法 補訂版』、有斐閣 (ISBN:978-4335358104)
3. 樋口範雄、2022、『アメリカ契約法第三版』、弘文堂 (ISBN:978-4335303869)
4. 樋口範雄、2014、『アメリカ不法行為法第二版』、弘文堂 (ISBN:978-4335303777)
5. 樋口範雄、2014、『入門・信託と信託法第二版』、弘文堂 (ISBN:978-4335355974)
6. カーティス・J. ミルハウプト、2009、『米国会社法』、有斐閣 (ISBN:978-4641048010)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX126／外国法(中国法) (Legal Systems(Chinas))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	法から見た現代中国の姿 権威主義体制と法		
担当者名 (Instructor)	鈴木 賢(SUZUKI KEN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

アメリカと並ぶ世界の大国となった中国の法について概観し、法的側面から中国を理解することを目標とする。あわせて西欧法とは著しく異なる法に触れることで、西欧近代法に対する理解を深めさせたい。

This course aims for understanding of China, which has become a world power along with the United States, from a legal perspective, so it thus provides an overview of Chinese law. At the same time, the course aims to deepen understanding of modern Western law by touching on Chinese laws that differ significantly from Western law.

授業の内容(Course Contents)

基本的には教科書に沿ってパワーポイントによる補充説明を加えながら進める。事前に教科書の該当箇所を読んでくるとより理解しやすいであろう。授業では単に制度の外形だけでなく、その政治的、社会的背景にも言及し、法を多角的に捉えるように心がける。最後の2回は比較の視点から台湾法について取り上げる。

Basically, the course aims to add a supplementary explanation using PowerPoint along with the textbook. However, the explanation is easier to understand if students read the textbook's relevant section in advance. The course aims not only to outline the system but also its political and social backgrounds, and it encourages attempts to understand the law from multiple angles.

授業計画(Course Schedule)

1. 近代までの法史(帝制、清末、民国)
2. 中華人民共和国法 第1期(1949-1977)
3. 中華人民共和国法 第2期(1978-1991)
4. 中華人民共和国法 第3期(1992-2017)
5. 中華人民共和国法 第4期(2018-)
6. 憲法1 基本原理
7. 憲法2 統治機構
8. 憲法3 基本的権利・義務
9. 憲法4 憲法保障、法源
10. 民法1 民法典の構造
11. 民法2 物権法
12. 民法3 不法行為法
13. 台湾法の歴史的展開
14. 日本を超える台湾法——同性婚法制

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、教科書の該当箇所を事前に読んでくること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%) / リアクションペーパー(30%)

毎回、質問を出すので、それに答えることで平常点を与える。

テキスト(Textbooks)

1. 高見澤・鈴木ほか、2022、『現代中国法入門第9版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-04832-4)
必ず第9版を用意して下さい。

参考文献(Readings)

1. 高見澤・鈴木、2017、『要説 中国法』、東京大学出版会 (ISBN:978-4-13-031190-8)
2. 中村睦男ほか、2017、『世界の人権保障』、三省堂 (978438532193)

3. 初宿正典ほか、2021、『新解説 世界憲法集第5版』、三省堂

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<https://www.suzuki-asian-law.com>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX127／外国法(フランス法) (Legal Systems(France))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	法学を通して見る, 異なる文化, 異なる社会, 異なるシステム		
担当者名 (Instructor)	荻村 慎一郎(OGIMURA SHINICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

法学を用いてフランスという異社会を理解する過程を通じて, 実社会での未知なる課題解決のための法学の役割について考えます。

The objective of this course is to think about the role of law in solving unknown problems in the real world through the process of using law to understand how French society differs.

授業の内容(Course Contents)

一見何の関連もない次の2つの事例に共通するのは, いずれもフランス系の法制度が深く関わっている, という点です。

①中東で父親を捜すカナダ人女性は, 何がきっかけでそのようにしているのだろうか。

②世界一の多国籍水道事業会社は, 収益の安定性に目をつけ, 日本のある自治体での水道事業に参入しようと計画している。この企業はどのようにしてビジネスモデルを構築してきたのか。また, 公営水道が主流の日本において, 成功の目算があるのだろうか。

技術の発展により地球が狭くなった分だけ, 日常の些細な社会関係ですらますます複雑化し, なおかつ, 重層化しています。自分たちとは異なる存在に触れ, これを理解しようとする場合に, どのような点に注意し, どのような姿勢で臨めばよいのでしょうか。その際, 法学はどのような役割を担えるのでしょうか。

本講義は, フランスを素材として, これらの問題に取り組みます。

授業では, 実定法学, 基礎法学, 政治学の知見を総動員しながら, 多角的な接近法によりつつ, 大きく3つに分けて, フランス社会とそれを支えている法制度の関係について探究していきます。

まず, 既に学んだ日本法の知識を起点に, これらと対照することでフランス法の特徴を把握します。

次いで, 多国間のなかで比較しながら, フランス法の個性についてさらに検討を加えます。

最後に, これまでの段階を踏まえたうえで, 国際社会や欧州社会が抱える各国共通の諸課題への対応を通して, フランスにおける社会と法の関係性を深く分析し, また, 冒頭の事例に対する考察を行います。

入念に組み上げられた立教大学法学部のカリキュラムを着実に学修した先には, どのような総合的視野がひらけているのでしょうか。学士課程のまとめを兼ねて, 受講者諸君にその眺望を体感して頂ければ, と考えています。

At first glance, the following two cases seem to be unrelated, but they are both tied together by their deep impact on the French legal system.

(1) A Canadian woman is searching for her father in the Middle East, but what led her to this search?

(2) The world's leading multinational water utility company is focused on earnings stability and is planning on entering the water utility business in a certain Japanese municipality. How did this company construct their business model? Moreover, what is the estimate of their success in Japan where public water utilities are common?

Just as the world is getting smaller due to technological progress, trivial social relationships in our daily lives are getting more complicated and multilayered. When coming into contact and trying to understand people who live a different existence than us, what points should we pay attention to and with what attitude should we approach the situation? What kind of role can law play in that case?

The lectures will use France as source material to address these types of problems.

The classes will be largely divided into three areas and rely on a pluralistic approach to explore French society and its relationship with the supporting legal system while mobilizing the students' knowledge of Positive Law, Basic Law, And Political Science.

First, the knowledge of Japanese law which students have already studied will be used as a starting point to compare and understand the characteristics of French law.

Next, we will examine the unique characteristics of French law while comparing it with multiple nations.

Finally, after proceeding through the previous steps, we will deeply analyze the relationship between society and the law in France and consider the cases mentioned at the beginning through the response to various issues commonly faced by international society and European society.

What kind of comprehensive perspective can be developed after persistently studying the carefully constructed Rikkyo University College of Law and Politics curriculum? It is hoped that the students who enroll in this class will be able to experience the view from such a perspective before concluding their baccalaureate undergraduate degree.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業の展望:ヨーロッパ, フランスおよびフランス語圏における法, 社会, 国家の像
2. 日本法と対照する①: 民法(家族法)と国際私法
3. 日本法と対照する②: 商法と民法(財産法)
4. 日本法と対照する③: 労働法と社会保障法
5. 日本法と対照する④: 会社法と知的財産法
6. 日本法と対照する⑤: 行政法と経済法
7. 中間のまとめ①: 国制について①
8. 中間のまとめ②: 国制について②
9. 中間のまとめ③: 国制について③
10. 中間のまとめ④: 国制について④
11. 多国間で比較する①
12. 多国間で比較する②
13. 多国間で比較する③
14. 全体のまとめ: フランス法を通して見る国際社会, 現代的課題に対する総合的アプローチの重要性

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

教材で指示される復習・予習課題に毎回取り組みましょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/授業への参加と取り組み(14%)/授業内小テスト(6%)

授業内小テストについては 1 回程度実施する予定です。

テキスト(Textbooks)

オリジナル教材を毎回配布します。

参考文献 (Readings)

1. 滝沢正、2018、『フランス法 第 5 版』、三省堂 (ISBN:ISBN 978-4385323039)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

受講にあたってフランス語力は問いません。また、就職活動(インターンシップから内定後の活動まで)、その他の事情による欠席については配慮します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX141／国際法1 (International Law 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際法の基本枠組		
担当者名 (Instructor)	岩月 直樹(IWATSUKI NAOKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

国際関係を規律対象とする国際法について、その基本的な概念や論理を理解し、国内法とは異なる特徴と内容を有するものであることを理解する。

The object of this course is to to understand the basis concepts and logic underlying public international law, capturing characteristic features of international law and its difference with domestic laws.

授業の内容(Course Contents)

最新の国際判決を紹介するなどしつつ重要事項について教科書の記述を解説・補足して、受講者の理解を深める。また、日々のニュースを取り上げて、それらに国際法がどのように関わっているかを解説することで、国際法が日々の生活にも関係していることを実感してもらう。

The classes will be conducted through comments on the materials provided beforehand by the author about principles, rules, jurisprudence and on-going international issues reported in news media for the purposes of giving actual image about how public international law operates in our world.

授業計画(Course Schedule)

1. 国際関係と国際法
2. 国際法の法源
3. 国際関係における国際法の定立
4. 国内法を通じた国際法の適用・実施：国際法と国内法の関係
5. 国際関係における国際法の適用・実施：国家責任と国際紛争処理1
6. 国際関係における国際法の適用・実施：国家責任と国際紛争処理2
7. 国際法における法主体としての国家
8. 国家領域の取得と喪失・国境の画定
9. 国際組織の法主体性
10. 個人・企業の国際法上の法的地位
11. 国家による管轄権の行使とその調整1：国家管轄権の域外適用
12. 国家による管轄権の行使とその調整2：外国国家に対する裁判権免除
13. 在外国家機関の特権および免除
14. 小括
15. 海洋法1：海域の伝統的な区分と現代的展開
16. 海洋法2：交通路としての海域利用と沿岸国による規制権限の調整(1)
17. 海洋法3：交通路としての海域利用と沿岸国による規制権限の調整(2)
18. 海洋法4：海域における天然資源の開発利用とその規制
19. 海洋法5：海域の開発利用をめぐる紛争とその処理
20. 航空宇宙法1：領空の法的地位と国際航空体制
21. 航空宇宙法3：宇宙空間の平和的利用
22. 航空宇宙法4：宇宙開発に伴う損害賠償責任の分担
23. 国際化地域と国際法1：国際河川と国際運河
24. 国際化地域と国際法2：南極
25. 国際化地域と国際法3：北極
26. 国際法の歴史と現在
27. 国際法の基本原則
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Canvas LMS に予習用レジュメと PPT 資料を掲示し、講義で扱う範囲に対応する教科書の該当箇所などを指示する。受講者は、

あらかじめ該当箇所および PPT 資料に目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/各回用小テスト(25 点満点)の平均点を、20 点を限度として考慮する。(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 岩沢雄司、2020、『国際法』、東京大学出版会 (ISBN:9784130323918)
2. 小寺彰、2012、『国際法判例百選[第3版]』、有斐閣 (ISBN:978-4641115552)
3. 岩沢雄司(他)、2023、『国際条約集 2023』、有斐閣

上記の教科書は極めて詳細で情報量が多い。むしろ情報量が絞られたものが自身に適していると考えられる場合には、下記でも構わない。

- ・浅田正彦(編)『国際法【第5版】』(2022 年)
- ・柳原正治(他編)『プラクティス国際法講義[第3版]』(2017 年)

予習用レジュメには、上記3つの教科書いずれについても、各授業での参照箇所を示す。

参考文献(Readings)

1. 森川幸一(他)、2016、『国際法で世界がわかる——ニュースを読み解く 32 講』、岩波書店 (ISBN:9784000229555)
2. 森肇志・岩月直樹(編)、2020、『サブテキスト国際法』、日本評論社 (ISBN:9784535524729)

その他、適宜配布および指示する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX142／国際法2 (International Law 2)		
担当者名 (Instructor)	許 淑娟(HUH SOOKYEON)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

国際法の基本的な概念を学習し、国際社会の構造変動を「法を通じて」認識する視座を獲得することを目標とする。

This course aims to provide the perspective “through law” to see changes in international society by studying the basic concepts of public international law.

授業の内容(Course Contents)

国際法の基本原理を十分に理解し、さらに国際法を一つの技術として活用することを第一義的な目的とします。法は社会の構造を全体として理解する一つの道具でもあり、国際社会の全体構造を理解するうえで国際法の習得は必須のものとなります。二つの世界大戦を契機に、「伝統的な国際法」から「新しい国際法」へと「発展」したともいわれるが、それが何を意味しているのか。どのような原理が存在しているのか。こうした我々が生活している社会を知るための根源的な問いに対して、考えを巡らせるために、必要な技術と想像力を養うことが本講義の最終的な目的となります。国際法1では、授業計画にあるように国際法の基本構造について学び、国際法2では、国際法の具体的な実現を扱います。

The purposes of this course are for students to understand the basic principle of international public law and to gain the skill of using public international laws as tools for designing international society's desirable structure.

What normative principles lie beneath international society? How do they affect our lives? Seeking answers to these questions provides students with the skills and imagination to understand our current global society.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入：国際法を学ぶということ
2. (1) 国際法と国際社会
3. (2) 国際法の基本原則
4. 1 国際法の行政的な実現の仕組み——いくつかの例
 - (1) 国際組織①
5. (1) 国際組織②
6. (2) 国際人権の保護の仕組み①
7. (2) 国際人権の保護の仕組み②
8. (2) 国際人権の保護の仕組み③
9. (2) 国際人権の保護の仕組み④
10. (2) 国際人権の保護の仕組み⑤
11. (3) 国際環境の保護の仕組み①
12. (3) 国際環境の保護の仕組み②
13. (3) 国際環境の保護の仕組み③
14. (3) 国際環境の保護の仕組み④
15. 2 国際法の回復的な実現の仕組み
 - (0) 条約法条約理論①
16. (0) 条約法条約理論②
17. (0) 条約法条約理論③
18. (1) 国家責任法①
19. (1) 国家責任法②
20. (1) 国家責任法③
21. (1) 国家責任法④
22. (2) 国際紛争解決①
23. (2) 国際紛争解決②
24. (2) 国際紛争解決③
25. (2) 国際紛争解決④
26. 3 武力行使の規制①
27. 3 武力行使の規制②
28. 3 武力行使の規制③

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- * 初回時に授業の進め方や参考文献についてシラバスを配布する。
- * 毎回の授業時には、簡単なレジュメを用意するが、キーワードを並べた程度のものである。教科書や指定した参考文献を必ず事前に読んでくること。
- * 授業の後には、最も重要な点はなんであったか、問うべき質問が問われていたかを顧みる時間をとること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/質問コメント(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 岩沢雄司、2020、『国際法』、東京大学出版会 (ISBN:4130323911)
2. 岩沢雄司、2023、『国際条約集』、有斐閣

参考文献 (Readings)

1. 西村弓ほか、2021、『国際法判例百選(第三版)』、有斐閣 (ISBN:4641115559)
 2. 坂元茂樹ほか、2019、『判例国際法(第三版)』、東信堂 (ISBN:4798915580)
 3. 杉原高嶺ほか、2014、『国際法基本判例 50(第二版)』、三省堂 (ISBN:4385323275)
- その他、授業時に適宜紹介・配布する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX150／国際私法(1) (Conflict of Laws (1))		
担当者名 (Instructor)	早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化が進展する現代における私人・私企業間の国際的な法の適用関係の総論の基本構造を修得させる。

The purpose of this course is for students to learn the basic structure of general rules of how international laws are applied to private individuals and companies in this era of advancing globalization.

授業の内容 (Course Contents)

日本人と外国人が婚姻する場合、何法に従えばよいのでしょうか。日本企業と外国企業が契約を締結する場合、何法に従えばよいのでしょうか。

国際私法とは、各国ごとに法制度が異なるという現在の国際社会の状況の下、このような国際的な法律関係をいかなる法(準拠法)で規律するかを定める法であり、抵触法とも呼ばれるものです。国際化がますます進展する現代において、その重要性は拡大の一途をたどっています。

講義では、我が国の国際私法の総論の基本構造をできる限り丁寧に説明することで、ときに難解ともいわれるこの法をわかりやすく解説することを心掛けます。

When a Japanese person and a foreigner marry, what law should be observed? When a Japanese company and a foreign company sign a contract, what law should be observed?

In our current international society where each country has a different legal system, international private law, also called Conflict of Laws, establishes which system of law (governing law) should regulate such international legal relationships. The importance of this area of law continues to expand as internationalization advances.

This course aims to make every effort to explain this often confusing area of law in an easy-to-understand manner by carefully describing, to the extent possible, the basic structure of general rules of Japan's Conflict of Laws.

授業計画 (Course Schedule)

1. 序論①
2. 序論②
3. 序論③
4. 総則の基本構造
5. 性質決定①
6. 性質決定②
7. 性質決定③
8. 連結点の確定①
9. 連結点の確定②
10. 連結点の確定③
11. 準拠法の特典①
12. 準拠法の特典②
13. 公序審査①
14. 公序審査②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義内容に関する個別の質問に関しては、電子メールによって出来る限りお答えしたいと思います。haya@rikkyo.ac.jp までお気軽に送信して下さい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 神前禎・早川吉尚・元永和彦、2019、『国際私法(有斐閣アルマ)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22131-4)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX151／国際私法(2) (Conflict of Laws (2))		
担当者名 (Instructor)	早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化が進展する現代における私人・私企業間の国際的な法の適用関係の各論の基本構造を修得させる。

The purpose of this course is for students to learn the basic structure of particular issues of how international laws are applied to private individuals and companies in this era of advancing globalization.

授業の内容 (Course Contents)

日本人と外国人が婚姻する場合、何法に従えばよいのでしょうか。日本企業と外国企業が契約を締結する場合、何法に従えばよいのでしょうか。

国際私法とは、各国ごとに法制度が異なるという現在の国際社会の状況の下、このような国際的な法律関係をいかなる法(準拠法)で規律するかを定める法であり、抵触法とも呼ばれるものです。国際化がますます進展する現代において、その重要性は拡大の一途をたどっています。

講義では、我が国の国際私法の各論の基本構造をできる限り丁寧に説明することで、ときに難解ともいわれるこの法をわかりやすく解説することを心掛けます。

When a Japanese person and a foreigner marry, what law should be observed? When a Japanese company and a foreign company sign a contract, what law should be observed?

In our current international society where each country has a different legal system, international private law, also called Conflict of Laws, establishes which system of law (governing law) should regulate such international legal relationships. The importance of this area of law continues to expand as internationalization advances.

This course aims to make every effort to explain this often confusing area of law in an easy-to-understand manner by carefully describing, to the extent possible, the basic structure of particular issues of Japan's Conflict of Laws.

授業計画 (Course Schedule)

1. 各則の基本構造
2. 主体の準拠法①
3. 主体の準拠法②
4. 主体間の関係の準拠法①
5. 主体間の関係の準拠法②
6. 主体間の関係の準拠法③
7. 主体間の関係の準拠法④
8. 主体間の関係の準拠法⑤
9. 主体間の関係の準拠法⑥
10. 主体間の関係の準拠法⑦
11. 主体間の関係の準拠法⑧
12. 客体との関係の準拠法①
13. 客体との関係の準拠法②
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義内容に関する個別の質問に関しては、電子メールによって出来る限りお答えしたいと思います。haya@rikkyo.ac.jp までお気軽に送信して下さい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 神前禎・早川吉尚・元永和彦、2019、『国際私法(有斐閣アルマ)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22131-4)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX172／法制史(西洋法制史) (Legal History (Europe))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	西洋法／異文化を通じた自己理解 (Historical studies of human Identity in Western Legal culture)		
担当者名 (Instructor)	松本 英実(MATSUMOTO EMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

われわれが日本に移植したと(勝手に)信じている西洋法の成立(?)とは何なのかについて、ギリシア・ローマの古典作品を素材としながら、同時に教科書に指定したアルトグの枠組みの射程を検証しながら、皆さんと一緒に考えていきたい。

The objective of this course is to think together with the students about what exactly was the establishment of Western law which we believe (arbitrarily) was transplanted to Japan while simultaneously examining the range of the Hartog framework specified in the textbook using classical Greek and Roman works as source material.

授業の内容(Course Contents)

諸君は不思議に思わないだろうか。西洋は新大陸をはじめとして世界のあらゆる地域を(一時)植民地とし、また奴隷制を駆使して近代国家・社会の物質的基礎を築いたにもかかわらず、誰も、旧植民地の人をはじめとして彼らの法的責任を追及しようとしていないのを。この謎を解く鍵を皆さんとともに教科書を一緒に読むことを通じて考えたい。法学部で学んでいく日本法、近代法は、西洋で編み出された方法を用いている。我々が基本として用いるさまざまな概念はどのように西洋で生まれたのか。西洋人は「西洋でないもの」に対してどのような態度をとってきたか。これを通じてどのように自己理解、他者理解をしてきたのか。このことが法にどのように関係するのか。以上のことを古代ギリシア人から出発して考える。近代を深く考えるためには、古代を理解することが必要である。いやそれどころか、西洋近代は西洋古代から生まれたのだ、という基本理解を獲得することがこの授業を通して求められる。

Don't you think it is rather mysterious? Even though the West turned every region of the globe starting with the New World into a colony (temporarily) and utilized a system of slavery to construct a modern state and the material foundation of society, nobody has tried to pursue them for legal responsibility, not even people from the former colonies. In this course, I would like to think about this issue by reading the textbook, which is the key to solving this puzzle, together with the students. The Japanese Law and Modern Law which students will study in the College of Law and Politics uses the methods devised in the West. How did the various concepts which we use as a foundation come to be in the West? How did Westerners view "non-Western" ideas? How did they engage in self understanding and the understanding of others through these views? How does this relate to law? We will think about these questions by starting from the classical Greeks. To think deeply about the modern world, we must understand the ancient. In this class students will be required to gain a fundamental understanding of the idea that modern Western culture was born, indeed, from ancient Western civilization.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに
2. オデュッセウスとオデュッセイア 教科書「解説」を読む(1)
(+第1章オデュッセウスの帰還)
3. オデュッセウスとオデュッセイア 教科書「解説」を読む(2)
4. オデュッセウスとオデュッセイア 教科書「解説」を読む(3)
5. 第2章 エジプトの旅 (1)
6. 第2章 エジプトの旅 (2)
7. 第3章 バルバロイの発案と世界の目録 (1)
8. 第3章 バルバロイの発案と世界の目録 (2)
9. 第4章 ギリシアの旅 (1)
10. 第4章 ギリシアの旅 (2)
11. 第4章 ローマの旅 (1)
12. 第5章 ローマの旅 (2)
13. 結章 アポローニオスの記憶
14. まとめ 古代人と近代人 (序文に戻って)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回教科書の該当箇所を事前に読み、また授業後に再読する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. フランソワ・アルトーグ、2021、『【新装版】オデュッセウスの記憶』、東海教育研究所 (ISBN:9784924523197)

教科書は新装版を手に入れてください。

参考文献 (Readings)

1. 葛西康德・ヴァネッサ・カツアート編、2021、『古典の挑戦 古代ギリシア・ローマ研究ナビ』、知泉書館 (ISBN:9784862853363)
2. ホメロス、1978/2004、『オデュッセイア (呉茂一訳)』、岩波文庫/一穂社
3. M.I.フィンリー、1994、『オデュッセウスの世界』、岩波文庫 (ISBN:978-4003346419)
4. 久保正彰、1983、『「オデュッセイア」伝説と叙事詩』、岩波セミナーブックス (ISBN:4000048732)
5. ヘロドトス、1971、『歴史』、岩波文庫 (ISBN:978-4003340516)
6. トウキュディデス、2013、『戦史』、中公クラシックス (ISBN:978-4121601445)
7. デモステネス著／葛西康德他訳・解説、2019、『弁論集5』、京都大学学術出版会 (ISBN:9784814000999)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

法学部合同講義(オックスフォード・サマー・プログラム)とも関係する。同プログラム参加者・参加希望者あるいは関心のある学生に受講を勧めたい。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX174／法制史(日本法制史) (Legal History (Japan))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近代日本法の成立と法思想の展開		
担当者名 (Instructor)	坂井 大輔(SAKAI DAISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

近代日本法の成立過程を西洋法継受の側面から理解することにより、今日の日本法の在りかたについて歴史的な観点から説明できるようになること。

The objective of this course is to be able to explain the current state of Japanese law from a historical perspective by understanding the process to establish modern Japanese law from the aspect of the reception of the Western law.

授業の内容(Course Contents)

近代日本法(特に憲法・民法・刑法)の成立過程およびそのもとで展開した法思想、法と政治との関係などについて講義する。

The lectures cover the process to establish modern Japanese law (particularly Constitutional Law, Civil Law, and Criminal Law), the legal thoughts, and the relationship between law and politics.

授業計画(Course Schedule)

1. 明治維新
2. 大日本帝国憲法の制定
3. 憲法学の誕生
4. 穂積八束の憲法学
5. 上杉・美濃部論争
6. 上杉慎吉の憲法学
7. ヨーロッパにおける民法典の成立
8. 歴史法学派とドイツ民法典の編纂
9. 近代日本の民法典編纂(1)ボアソナード
10. 近代日本の民法典編纂(2)民法典論争・断行派
11. 近代日本の民法典編纂(3)民法典論争・延期派
12. 民法学の展開
13. 刑法典編纂史
14. 刑法学の展開

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回提示する関連文献に目を通す。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 大野達司・森元拓・吉永圭、2016、『近代法思想史入門 ――日本と西洋の交わりから読む』、法律文化社 (ISBN:9784589037664)
2. 出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編、2018、『概説 日本法制史』、弘文堂 (ISBN:9784335357275)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX180／法哲学 (Philosophy of Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Contemporary Theories of Law		
担当者名 (Instructor)	米村 幸太郎(YONEMURA KOTARO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

法哲学における基本的な理論的立場を学習し、それにそって社会の問題を考えることを目的とする。

This course aims to learn the basic theories in Philosophy of Law, and apply them to our social problems.

授業の内容 (Course Contents)

法哲学は、法の根底にある価値や法の概念それ自体について哲学的な検討を行う学問の領域です。この授業では、特に正義論と呼ばれる領域について学びます。わたしたちは通常、法というのは正義の実現を目指すものだと想定しています。現実にはしばしばそれに失敗しているとしても、です。ですが、そもそも正義とはなんなのでしょう？法哲学者はこの面白いけれど捉えどころのない疑問について、長年に渡って議論してきています。結果、彼らは正義についてのたくさんの理論的立場を生み出しました。この講義ではそのいくつか(たとえば功利主義、リベラリズム、リバタリアニズム等々)を学習します。さらに、それらの理論に即して、いくつかの社会的問題(たとえば喫煙規制、臓器市場、グローバルな貧困等々)を考えたいと思います。哲学に関する特別な前提知識は必要ではありませんので、安心してください。

Philosophy of Law is an academic discipline which philosophically examines the underlying values of law and the concept of law itself. The primary scope of this course is an area called "Theory of Justice", in particular. We ordinary assume that law aims to achieve justice, though actual laws often fail to do that. However, what is justice in the first place? Legal philosophers have been arguing about this intriguing but elusive question for years. As a result, they propose lots of theories of justice. I want you to learn some of them, such as utilitarianism, liberalism, libertarianism and so on. Moreover, I try to apply them to some social issues, such as smoking regulation, organ markets, global poverty and so on. Though you might think that you need a special knowledge of philosophy, there are no particular prerequisites for this course. Feel safe!

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 正義とは何かにそもそも答えなどない？—相対主義とメタ倫理学1
3. 正義とは何かにそもそも答えなどない？—相対主義とメタ倫理学2
4. 幸福がすべて？—功利主義1
5. 幸福がすべて？—功利主義2
6. 幸福がすべて？—功利主義3
7. 公正としての正義1
8. 公正としての正義2
9. もっと自由であるべきなのか？—リバタリアニズム1
10. もっと自由であるべきなのか？—リバタリアニズム2
11. 平等主義1
12. 平等主義2
13. 平等主義3
14. 平等主義4
15. コミュニタリアニズム1
16. コミュニタリアニズム2
17. コミュニタリアニズム3
18. 多文化主義1
19. 多文化主義2
20. 幸福と自由: パターナリズムをめぐる1
21. 幸福と自由: パターナリズムをめぐる2
22. グローバルな正義をめぐる1
23. グローバルな正義をめぐる2
24. グローバルな正義をめぐる3
25. 法概念論1

- 26. 法概念論2
- 27. 法概念論3
- 28. 法概念論4

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

特段の予習は必要ないが、毎回の内容は復習することが望ましい。詳細は初回のイントロダクションで説明します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕、2014、『法哲学』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-12567-4)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX191／法社会学1 (Sociology of Law 1)		
担当者名 (Instructor)	佐伯 昌彦(SAEKI MASAHIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

実社会の中で法律がどのように作動しているのか、あるいはしていないのかという点について基本的な知識および視点を獲得する。そして、そのような観点から、どのような法律や法制度が望ましいかを考える能力を涵養することを目指す。

This course aims at acquiring the basic knowledge and points of view on the actual function of laws. In addition to that, it aims at cultivating the ability to envisage the ways to make laws and legal systems better.

授業の内容(Course Contents)

法律の内容が実社会の中でどのように実現しているのか、あるいは実現していないのか、そのような実現／非実現は、どのような要因によって規定されているのか、という点を中心に扱う。そのような司法過程の現実を踏まえながら、法律が社会の中で果たしている役割や、その限界について論じていく。

Laws are not always realized in real-world conditions. Given this simple fact, the questions such as whether laws are realized or not and what factors are related to this actual function of laws emerge. This course will focus on these topics. Based on socio-legal studies on these topics, the roles and limitations of laws will be discussed.

授業計画(Course Schedule)

1. 司法制度概観：歴史的経緯と日本の司法制度の特徴(1)
2. 司法制度概観：歴史的経緯と日本の司法制度の特徴(2)
3. 民事司法過程論(1)概論
4. 民事司法過程論(2)紛争
5. 民事司法過程論(3)紛争解決
6. 民事司法過程論(4)弁護士へのアクセス(1)
7. 民事司法過程論(5)弁護士へのアクセス(2)
8. 民事司法過程論(6)訴訟利用
9. 民事司法過程論(7)裁判経験(訴訟上の和解など)
10. 刑事司法過程論(1)概論
11. 刑事司法過程論(2)犯罪の発生状況
12. 刑事司法過程論(3)ディヴァージョン
13. 刑事司法過程論(4)刑事裁判／刑事弁護
14. 司法の独立

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義を通してトピックと関連する基本的な文献を紹介する。関心のある内容について、それらの文献を参考にしながら学習を進めることを推奨する。また、教科書として指定するものではないが、参考文献中の村山眞維・濱野亮(2019)『法社会学(第3版)』有斐閣は、本講義の内容を学習するうえで参考となる基本書である。授業の進行にあわせて、この教科書を読み進めることも推奨する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 村山眞維・濱野亮、2019、『法社会学(第3版)』、有斐閣 (ISBN:978-4641221246)
2. 佐藤岩夫・阿部昌樹編、2022、『スタンダード法社会学』、北大路書房 (ISBN:978-4762831843)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX192／法社会学2 (Sociology of Law 2)		
担当者名 (Instructor)	佐伯 昌彦(SAEKI MASAHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

法の役割について社会科学的に分析する視点、および社会科学の知見を法の運用や政策に活用する視点について学ぶ。これらの学習を通して、政策的な問題を考えるために必要な社会科学的な調査を構想する能力の涵養を目指す。

This course aims at acquiring the perspectives to analyze the roles of laws using the methods of social sciences and utilize the findings from social sciences to practice laws and policy-making. In addition, it aims at cultivating the ability to imagine the social scientific approach to solve problems on laws.

授業の内容 (Course Contents)

実社会における法の機能について社会科学的な観点からなされる分析を紹介するとともに、社会科学を法の運用や政策形成において活用する方向性およびその際の課題についても紹介する。

This course will lecture on the social scientific analyses on the roles of laws. Also, it will teach about how to utilize social scientific findings for the practice of laws and policy-making and some considerations on this utilization.

授業計画 (Course Schedule)

1. 法社会学の方法論
2. 社会秩序と法(1)社会秩序の形成(1)
3. 社会秩序と法(2)社会秩序の形成(2)
4. 社会秩序と法(3)道徳
5. 社会秩序と法(4)法の生成・展開
6. 社会秩序と法(5)多様な秩序の関係
7. 法の機能(1)サンクション／ナッジ
8. 法の機能(2)正統性／法の表出効果
9. 法の機能(3)法の効果検証(1)
10. 法の機能(4)法の効果検証(2)
11. 法の機能(5)各論(1)
12. 法の機能(6)各論(2)
13. 科学と法(1)
14. 科学と法(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義を通してトピックと関連する基本的な文献を紹介する。関心のある内容について、それらの文献を参考にしながら学習を進めることを推奨する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 和田仁孝・阿部昌樹・太田勝造編、2004、『法と社会へのアプローチ』、日本評論社 (ISBN:978-4535511422)
2. 飯田高、2016、『法と社会科学をつなぐ』、有斐閣 (ISBN:978-4641125803)
3. 藤田政博、2021、『バイアスとは何か』、筑摩書房 (ISBN:978-4480074089)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX201／現代政治理論 (Modern Political Theories)		
担当者名 (Instructor)	川崎 修(KAWASAKI OSAMU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

政治認識の枠組みを学び、政治的な価値や理念を理解する。

The objectives of this course are to learn a framework for political awareness and to understand political values and principles.

授業の内容 (Course Contents)

現代政治理論の主要なトピックについての、基本的な理論、理論家、論争などの知識を習得する。

基本的には、指定した教科書を軸にして、講義を行う。その際には、授業出席者が教科書の該当部分をあらかじめ読んでいることが望ましい。授業では必要だと思われる部分について、教科書を補足したり、詳しく説明するという形で講義を行うが、項目によっては教科書から離れることもある。

なお、この講義で扱うのは規範理論にややシフトした政治理論であり、政治についての実証的研究に関する重要テーマについては、「政治過程論1・2」が主として担当している。

In this course, students will acquire knowledge about fundamental theories, theoreticians, and disputes concerning the primary topics in Modern Political Theories.

Fundamentally, the lectures will revolve around the assigned textbook. In this regard, students attending class are advised to read the corresponding section in the textbook in advance. Supplementary explanations will be provided in class for sections of the textbook which are thought to require it with lectures providing detailed explanations, but the lecture may deviate from the textbook depending on the topic.

Furthermore, the political theory covered in the lectures is slightly skewed toward normative theory, and the “theory of political process 1・2” plays the primary role in important topics concerning empirical research about politics.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 権力(1)
3. 権力(2)
4. 権力(3)
5. 権力(4)
6. 権力(5)
7. デモクラシー(1)
8. デモクラシー(2)
9. デモクラシー(3)
10. デモクラシー(4)
11. デモクラシー(5)
12. リベラリズム(1)
13. リベラリズム(2)
14. リベラリズム(3)
15. リベラリズム(4)
16. リベラリズム(5)
17. 自由(1)
18. 自由(2)
19. 平等(1)
20. 平等(2)
21. 平等(3)
22. 公共性(1)
23. 公共性(2)
24. 公共性(3)
25. 政治(1)
26. 政治(2)
27. 政治(3)

28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業出席者は教科書の該当部分をあらかじめ読んでいることが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 川崎修・杉田敦編、2012、『現代政治理論 新版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-12454-7)

参考文献(Readings)

1. 今村仁司・三島憲一・川崎修編、2008、『岩波 社会思想事典』、岩波書店 (ISBN:978-4000803120)
2. 佐々木毅、2012、『政治学講義 第二版』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130322225)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX202／日本政治論 (Japanese Politics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本の政治や外交の生き生きとした姿を学ぼう		
担当者名 (Instructor)	薬師寺 克行(YAKUSHIJI KATSUYUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業は戦後の日本政治、日本外交のうち、特に激動の激しかった 1989 年以降を詳しく学ぶことを目標とします。この四半世紀余り、日本政治は「自民党単独政権」→「非自民連立政権」→「自公連立政権」→「民主党政権」→「自公連立政権」と目まぐるしく移り変わりました。この間の動きを「生きた教材」として、克明に分析し構造的に理解することを目的とします。

The objective of this course is to learn in detail about postwar Japanese politics and Japanese foreign policy, particularly the turbulent period since 1989. Over a little more than a quarter of a century, Japanese politics has rapidly transitioned from the “one-party government of the Liberal Democratic Party” to the “non-LDP coalition government”, “LDP government”, “Democratic Party government”, and the “LDP government.” Recent trends will be used as “living course materials” to carefully analyze and structurally understand these changes.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は講義形式です。日本政治・外交の動きを政権ごとに、あるいはテーマごとに紹介していきます。中心は 90 年代以降ですが、戦後から 80 年代までの自民党単独政権時代についても紹介します。

1993 年に自民党単独政権が終わり連立政権時代に入ってから以降、政権は短期間でめまぐるしく交代する時代が続きました。この間、政治の中心に登場し、消えていった政党や政治家は数えきれません。各政党や政治家たちが何を目指し、どのような権力闘争を行ったのか。表に出ていない人間模様も含め、できるだけ生き生きと紹介したいと思います。また冷戦崩壊など国際社会の変動を反映し日本政治も日本社会も激変しました。社会保障政策をはじめとする内政、さらには外交、安全保障政策を含め主要政策の変貌に加え、政策決定システムも構造的に分析します。

この授業では毎回、冒頭の数分間、直近の大きな時事問題について学生に質問したり解説をしますので、日々のニュースに触れるようしてください。

また毎年、秋に政治家の方をゲストに招きし、お話をいただいています。2014 年は福田康夫元首相、2015 年は民主党の細野豪志政調会長、2016 年は自民党の石破茂元幹事長、2017 年は公明党の太田明宏元代表、2018 年は野田聖子・元総務大臣、2019 年度は齋藤健元農水大臣に来ていただきました。

The classes will consist of a lecture format. Trends in Japanese politics and foreign policy will be introduced according to each administration or topic. The focus will be on the 1990s and subsequent years, but the one-party government of the Liberal Democratic Party from the postwar until the 1980s will also be introduced.

After the one-party government of the Liberal Democratic Party ended in 1993 and the country entered the coalition government era, Japan has continued to experience an era of short-lived governments that rapidly alternate. During this time period, a countless number of political parties and politicians appeared and disappeared from the political center. What were the goals of each of the political parties and politicians and what kinds of power struggles did they engage in? The classes will introduce Japanese politics in a lively manner as possible, including the behind-the-scenes human relationships. Moreover, the discussions will reflect changes in international society such as the end of the Cold War and the sudden changes in Japanese politics and society. In addition to the changes in major policies starting with social security policy in internal affairs and then foreign diplomacy and national security policy, we will also structurally analyze the policy decision-making system.

During the first few minutes of each class, students will be asked about recent major topics, so be sure to pay attention to the daily news.

In addition, politicians are invited as guests to speak every year during the fall. Past guests include Former Prime Minister of Japan Yasuo Fukuda in 2014, Chairman of the Policy Affairs Research Council Goshi Hosono from the Democratic Party of Japan in 2015, Former Secretary - General of the Liberal Democratic Party Shigeru Ishiba in 2016, Former Representative of the Komeito Party Akihiro Ota in 2017, Former Minister of Internal Affairs and Communications Seiko Noda in 2018 and Former Minister of Agriculture Ken Saito in 2019.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション「揺らぐ民主主義システムと政治の姿」
2. 日本の再軍備を嫌った吉田内閣と「55 年体制」のスタート

3. 学生がこぞってデモに参加した時代——岸首相と 60 年安保
4. 利益誘導政治を確立した田中角栄首相と派閥全盛時代
5. リクルート事件——自民党は腐敗によって自滅していった
6. 冷戦終焉、バブル経済崩壊、天皇崩御——歴史を変える出来事が集中した 1989 年
7. 不発に終わった政治改革の試み(海部、宮沢政権)
8. 新しい政治の動き—自民党分裂と新党ブーム(日本新党、新生党、新党さきがけ)
9. 非自民連立政権の誕生と迷走—細川連立政権誕生
10. 自壊した非自民連立政権(細川、羽田政権)
11. 実現した政治改革と小選挙区制導入の意味
12. 小沢一郎という政治家
13. 権力維持にこだわる自民党のしたたかさ(村山政権)
14. 古い体質を脱皮できなかった自民党(橋本、小淵、森政権)
15. 自民党政権を延命させた小泉首相と構造改革
16. 高い内閣支持率を維持した小泉首相の政治手法
17. 新進党の崩壊と民主党の躍進
18. 民主党のマニフェスト作成と統治システム改革案
19. ポスト小泉時代の自民党政権の失敗と挫折(安倍、福田、麻生政権)
20. 躍進する民主党と政権交代実現
21. 普天間飛行場問題でつまづき自滅した鳩山政権
22. 民主党のマニフェストと現実政治とのギャップ
23. 民主党政権の挫折と自民党政権の復活(菅、野田政権)
24. 変貌する日本の外交・安全保障政策 1
25. 変貌する日本の外交・安全保障政策 2
26. 長期政権となった安倍政権は何をしたのか
27. コロナに翻弄された菅政権と岸田政権の展望
28. 総括—四半世紀で激変した日本政治

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

この授業はレジュメなどは用意しません。受講生は指定した教科書をあらかじめ読んで、概要を頭に入れたうえで出席してください。また、日常的に新聞やテレビニュースに接して直近の政治の動きを踏まえたうえで出席することを求めます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー(30%)

リアクションペーパーなどの提出を複数回、求めます。

テキスト(Textbooks)

1. 薬師寺克行、2014、『現代日本政治史』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-14909-0)

参考文献(Readings)

1. 薬師寺克行、2016、『公明党』、中公新書
2. 薬師寺克行、2018、『村山富市回顧録』、岩波現代文庫
3. 五百旗頭真編、2014、『戦後日本外交史』、有斐閣アルマ

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX211／比較政治理論 (Theories of Comparative Politics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	福祉国家の形成と変容 (The Development and Transformation of the Welfare State)		
担当者名 (Instructor)	新川 敏光(SHINKAWA TOSHIMITSU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

福祉国家がどのように構築され、発展・変容を遂げ、ポスト福祉国家といわれる時代に突入したのかを理論的歴史的に理解する。

This course aims to understand the politics of welfare state development and transformation.

授業の内容 (Course Contents)

近代国民国家・政治体制・経済体制、各々の概念とその連関を明らかにしたうえで、19世紀、20世紀、そして今日にいたるまでの各々の変化を福祉国家という観点から系統的に論じる。講義では理論的検討のあとに具体的事例について紹介するが、対象となる国は主にイギリス、フランス、ドイツ、アメリカである。

This course provides basic concepts and analytical tools necessary for the comparison of modern nation-states, political and economic regimes in advanced countries, including Britain, France, Germany, and the United States.

授業計画 (Course Schedule)

1. 方法論的覚書：比較という方法と理念型
2. 権力と支配
3. 近代国家モデル
4. 近代政治体制：自由主義と民主主義
5. 近代経済体制：資本主義
6. 福祉国家モデル
7. 大衆民主主義と階級政治：対立から和解へ
8. 福祉国家に至る道：救貧法思想から社会権へ
9. 福祉国家発展の政治
10. 20世紀型資本主義：フォーディズム、ケインズ主義、埋め込まれた自由主義
11. 福祉国家の危機と揺らぎ：脱フォーディズム、ネオ・リベラリズム、グローバル化
12. 福祉縮減（見直し）の政治
13. 福祉国家の黄昏：格差拡大、ナショナリズム、ポピュリズム
14. 多文化主義という可能性：多様性と相互承認

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

事前にアップロードされた教材に目を通しておくこと。また授業後にはノートを整理し、質問事項については次回講義までにまとめておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 新川敏光、2022、『政治学：概念・理論・歴史』、ミネルヴァ (ISBN:9784623094547)

参考文献 (Readings)

1. 新川敏光、2014、『福祉国家変革の理路』、ミネルヴァ書房
2. 新川敏光他、2017、『政治学』、有斐閣
3. 新川敏光編、2017、『国民再統合の政治』、ナカニシヤ

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX218／アメリカ政治論 (American Political and Diplomatic History)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アメリカの政治と外交		
担当者名 (Instructor)	佐々木 卓也(SASAKI TAKUYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

アメリカの政治と外交に関する基本的知識の習得をめざす。

The objective of this course is to acquire an essential knowledge about American politics and foreign policy.

授業の内容 (Course Contents)

アメリカは 21 世紀に入ってもなお、政治、経済、軍事、文化など多くの分野で大きな影響力を振るっている。この国といかに向き合うのか、日本にとって非常に重要な課題である。「アメリカ第一主義」を奉ずる政権が退陣し、バイデン政権が発足して二年が過ぎるなか、安易で皮相なアメリカ論に流されることなく、適切なアメリカ理解を得る必要は明らかである。

今年の講義では、アメリカの政治と外交の歴史について、後者に主なポイントを置きながら、時系列的に考察する。とくに外交の基層部分をなす理念、思想を意識することで、アメリカ外交の特質と特性、そしてその変容に考察したい。

第一回の講義時に、全体に関する参考文献リストを配布し、文献案内を行う。授業では新しいテーマに入るたびに、授業の概要と参考文献を記したレジュメを配布する。また、アメリカに対する出席者の関心を喚起するために、毎回の講義の冒頭に、アメリカの政治、外交、社会、経済などに関する最新の新聞記事をコピー配布し、簡単な説明を加える。英文資料、映像教材も大いに使用する。

なお今年度は春学期二コマ連続開講である。

While we enter the third decade of the 21st century, the United States is still predominant in the international political, military and cultural field. Maintaining the good working relationship with the US remains a vital challenge for Japan. An appropriate understanding of the US is needed without being carried away by simple and superficial knowledge of this nation. This year's lectures will sequentially discuss American politics and foreign policy with a focus on the latter. In particular, this course aims to clarify the characteristics and qualities that underlie the conduct of foreign policy.

In the first lecture, a list of reference literature for the entire course will be distributed and a bibliography will be provided. As we start new topics in class, a summary which provides a class overview and the reference literature will be distributed. In addition, a copy of the latest newspaper articles concerning American politics, foreign policy, society, economy will be provided at the outset of each lecture along with some explanation, so that the attendees could become more interested in the US. English-language materials and visual aids will be also used.

Please note that the class will consist of two continuous time blocks in the spring semester.

授業計画 (Course Schedule)

1. はじめに
2. バイデン政権の 27 か月
3. トランプ政権の「アメリカ第一主義」
4. 政治理念と統治機構
5. アメリカの外交的伝統
6. 孤立主義の変容
7. ウィルソン外交と第一次世界大戦
8. 1920 年代外交の独自性と世界恐慌の到来
9. 第二次世界大戦と大同盟外交
10. 第二次世界大戦の終結と冷戦の起源
11. 封じ込め政策の実施と展開
12. 朝鮮戦争と封じ込め政策の転換
13. 対日講和と戦後日米関係の形成
14. 大量報復戦略と冷戦の常態化
15. 冷戦の変容—1950 年代後半
16. 冷戦のグローバル化と第三世界
17. ケネディ政権の柔軟反応戦略とベルリン・キューバ危機
18. ヴェトナム戦争の蹉跌

19. デタント外交の実施と進展
20. デタントの崩壊と新冷戦の時代
21. 冷戦終結への道程
22. 冷戦終結外交ーベルリンの壁の崩壊・東欧革命・ソ連の解体
23. 湾岸戦争と新世界秩序構想
24. ポスト冷戦とクリントン外交
25. G・W・ブッシュ政権と9/11
26. G・W・ブッシュ外交の帰結
27. オバマ政権の外交ー「世界の警察官」の終わり
28. 統括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業では、新しいテーマに入るたびに、Canvas LMS にレジュメ、参考文献、映像資料を掲示する。十分に準備して出席して欲しい。また Canvas LMS には適宜、講義に関する情報をアップするので、注意すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐々木卓也編、2017、『戦後アメリカ外交史』第三版、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22080-5)

参考文献(Readings)

1. 有賀貞、2012、『ヒストリカルガイド・アメリカ』改訂新版、山川出版社 (ISBN:4-634-64950-0)
 2. 久保文明ほか、2017、『アメリカ政治』第三版、有斐閣 (ISBN:978-4-641-12403-5)
 3. 佐々木卓也編、2011、『ハンドブック アメリカ外交史』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623-05480-0)
 4. 佐々木卓也、2011、『冷戦』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-17806-9)
 5. 滝田賢治、2022、『国際政治史講義』、有信堂
 6. 有賀貞、2019、『現代国際関係史』、東京大学出版会
 7. 青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編、2020、『現代アメリカ政治外交史』、ミネルヴァ書房
- 初回の授業時に、本講義全体にかかわる参考文献を紹介し、簡単な解説を加える。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX220／アジア政治論 (Asian Politics)		
担当者名 (Instructor)	萩原 隆太(HAGIWARA RYUTA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

アジアの政治・法制度に関する考察を通じて、アジア(主に中国・香港)で生じている様々な法・政治現象を理論的に説明できるようになることを目的とする。

The objectives of this course are to be able to theoretically explain various legal and political phenomena occurring in Asia (mainly China and Hong Kong) through consideration of Asian politics and legal systems.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、アジア諸国・地域が抱える政治的・法的諸課題について、法の支配(rule of law)をキーワードに分析を行う。アジアを見渡すと、各国の政治体制・制度、法体系・制度は多様であり、人々の社会生活はそうした法や政治の働きによって形作られている。しかしながら、中には法の支配や民主主義が確立しておらず、現代社会に生きる人々の権利や自由が侵害されているといった状況も少なくない。

そこで、講義前半パートでは、アジア全体の状況を概観した後、特に政治・経済面において、アジア地域全体に対し多大の影響を及ぼしている中国についての理解を深める。とりわけ習近平体制の下での中国の動向を理解することは、日本を含むアジアの国々が中国の台頭との向き合い方を考えていく上で不可欠となる。

次に、講義後半パートでは、急速な「中国化」に晒されている香港を事例として、国家安全の名の下で揺れ動く社会の変化を捉える。2019年の大規模抗議活動の発生は、香港の法・政治制度の大転換をもたらしただけでなく、政府や司法に対する人々の信頼の低下や社会内部の政治的分断をもたらした。今後、香港が法・政治面における中国的価値観と西洋的価値観を繋ぐ中継基地となるのか、はたまた価値観の対立及び国際的な人権問題の前哨基地と位置付けられてしまうのかを考察することで、アジア政治を俯瞰するための糸口を掴む。

In this lecture, we will analyze the political and legal challenges facing Asian countries and regions from the perspective of the "Rule of Law". Looking across Asia, the political regimes/systems and legal systems of each country are diverse, and civil lives are shaped by the workings of these laws and politics. However, there are many situations in which the rule of law and democracy have not been established, and the people's rights and freedoms are being violated.

Therefore, in the first section of the lecture, after an overview of the legal and political situation in the whole of Asia, we will deepen our understanding of China, which has a great influence on the entire Asian region, especially in terms of politics and economics. In particular, understanding China's actions under the Xi Jinping regime is essential for Asian countries, including Japan, to think about how to deal with the rise of China.

In the second half of this lecture, we will examine the case study of Hong Kong, which has been exposed to rapid "Chinaization" and capture the changes in society that have taken place under the guise of national security. The outbreak of large-scale protests in 2019 not only brought about a major shift in Hong Kong's legal and political system but also caused a decline in people's trust in the government and the judiciary, as well as political divisions within society. In the future, we will consider whether Hong Kong will become a relay station connecting Chinese and Western values in terms of law and politics, or whether it will be positioned as an outpost for conflicting values and international human rights issues. By doing so, we will get the clues to unlock Asian politics.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. アジアの政治と法①
3. アジアの政治と法②
4. 現代中国政治
5. 現代中国法
6. 習近平政権①
7. 習近平政権②
8. 中台関係
9. 植民地香港史①: 19世紀～20世紀前半
10. 植民地香港史②: 20世紀後半
11. 香港返還

12. 香港「一国二制度」の仕組み①
13. 香港「一国二制度」の仕組み②
14. 香港基本法①
15. 香港基本法②
16. 香港の司法
17. 香港における社会運動と法
18. 香港国家安全維持法①
19. 香港国家安全維持法②
20. 香港における報道の自由
21. 香港における公民教育
22. 香港民主化の歴史
23. 香港選挙制度改革
24. 香港経済
25. 香港におけるコロナ対策と法
26. 香港人アイデンティティと愛国者
27. 日・香港関係
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

中国・香港を中心としたアジアの政治・社会情勢についての報道に常に注目しておくこと。報道から得た情報をもとにした小レポートを3回課す(関心のある新聞記事を見つけ、その内容を要約した上で、自身の分析を書く形式のレポート)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小レポート(3回)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 倉田徹、2021、『香港政治危機』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130331104)
2. 鮎京正訓 編、2009、『アジア法ガイドブック』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4815806224)
3. 倉田徹・小栗宏太 編著、2022、『香港と「中国化」』、明石書店 (ISBN:978-4750353692)
4. 玉田芳史 編著、2017、『政治の司法化と民主化』、晃洋書房 (ISBN:978-4771028968)
5. 東大社研現代中国研究拠点 編、2020、『コロナ以後の東アジア: 変動の力学』、東京大学出版会 (ISBN:978-4130333009)
6. 川島真・小嶋華津子 編、2020、『よくわかる現代中国政治』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623086719)
7. 片山裕・大西裕 編、2010、『アジアの政治経済・入門』、有斐閣 (ISBN:978-4641183865)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX221／日本政治史 (Political History of Japan)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル・ヒストリーとナショナル・ヒストリーのあいだ		
担当者名 (Instructor)	松浦 正孝(MATSUURA MASATAKA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現在日本を取り巻いている国際環境はどこから来たのか? 「日本人」として現代を理解するために必要な日本の政治史・外交史の鳥瞰図を理解する。また、具体的な歴史過程の中で、多様な歴史観があることを学ぶ。

Where did the international environment currently surrounding Japan come from? The objective of this course is to understand a bird's-eye view of the political and foreign policy history of Japan which is necessary to understand the contemporary world as a "Japanese person." Moreover, students will learn that there are multiple historical views within a specific historical process.

授業の内容(Course Contents)

近代以前からの日本が、「アジア」や「西洋」との間で如何なる対外関係を構築していったのかを、「大日本帝国」の形成と崩壊の歴史として、また戦後日本外交への展開として探る。「西洋」と日本、「アジア」と日本の関係が、授業の軸となる。概ね下記の授業計画に沿って講義を行う予定であるが、現在起こっている問題を意識し、受講生の反応を見ながら講義を行うので、授業の進行に多少の濃淡やスピードの変化が生まれることを理解されたい。

The classes will explore what kinds of foreign relations Japan built with "Asia" and the "West" from before modern times as part of the history of the formation and destruction of the "Empire of Japan" and how that developed into Japan's postwar foreign policy. The classes will revolve around Japan's relationship with the "West" and Japan's relationship with "Asia." The lectures are scheduled to follow the aforementioned syllabus, but the lectures will be presented based on an awareness of problems which are currently happening while observing the response of the students, so please understand that there may be some changes in intensity and speed of the class pacing.

授業計画(Course Schedule)

1. 00 はじめに グローバル・ヒストリーとナショナル・ヒストリー
2. 第一章 「日本型華夷秩序」の形成
 - 01 東アジア秩序の中の「日本」
3. 02 「将軍権力」の確立
4. 03 日本型華夷秩序の成立
5. 04 「徳川による平和」
6. 第二章 「西洋の衝撃」から「帝国」建設へ
 - 05 「西洋の衝撃」
7. 06 「尊王攘夷」運動から倒幕・維新へ
8. 07 明治維新とは何だったのか(1)
9. 08 明治維新とは何だったのか(2)
10. 09 明治維新政府による外交再編(1)
11. 10 明治維新政府による外交再編(2)
12. 第三章 日本の「西洋型帝国化」とアジア
 - 11 日清戦争への道
13. 12 日清戦争後の「文明」と台湾植民地
14. 13 日露戦争への道
15. 14 日露戦争と朝鮮植民地化
16. 15 日露戦争の意味
17. 16 第一次世界大戦と国際環境の変化
18. 17 政党政治と植民地政策の転換
19. 第四章 アジア主義の台頭と「帝国」原理の変質
 - 18 満州事変への道
20. 19 「帝国」への対抗としての満州事変
21. 20 満州事変後の帝国再編

- 22. 21 満州事変後の国体変化
- 23. 22 日中戦争の勃発
- 24. 23 日中戦争収拾の試みと反英運動
- 25. 24 「大東亜戦争」再考(1)
- 26. 25 「大東亜戦争」再考(2)
- 27. 第五章 「戦後日本」の形成
 - 26 敗戦から講和へ
- 28. 27 復興・高度成長から現代へ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Canvas LMS を使用する予定。学生は質問やコメントを提出することができ、それに適宜教員が応答する。

授業で紹介された文献や映画を積極的に利用して学習することが期待される。

高校の日本史・世界史の知識を持つことが望ましいが、必要条件でも十分条件でもない。現実の政治・外交、歴史や政治学に興味を持つ学生を歓迎する。試験前にレジメを集めただけで単位を取るのは困難だが、毎回授業に出て話を理解しようとし、考える習慣をつけられれば、何とかできるようにしたい(昨年度はS18.5%, A 22.7%, B16.8%, C 8.4%, D 33.6%)。CD は、きちんと授業に出ていなかった者がほとんどである。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/中間レポート(22%)/リアクション・メール(28%)

平常点のうち 28%は、授業内容に対して提出される質問・コメントへの評価である。詳しくは初回の授業で説明する。

テキスト(Textbooks)

テキストとして使うものは、ない。授業の中で、下記の参考文献を含め、参照文献を紹介する。

参考文献(Readings)

1. 松浦正孝、2010、『「大東亜戦争」はなぜ起きたのか』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4-8158-0952-2)
2. 坂野潤治、2012、『日本近代史』、筑摩書房 (ISBN:978-4-480-06642-8)
3. 三谷太一郎、2017、『日本の近代とは何であったか』、岩波書店 (ISBN:9784004316503)
4. 北岡伸一、2017、『日本政治史 外交と権力』、有斐閣 (ISBN:9784641149199)
5. 川島真・服部龍二、2007、『東アジア国際政治史』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4-8158-0561-6)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

集中力保持のため、授業の途中で休憩を入れる予定。

パワーポイントを利用するほか、適宜映像資料なども利用したい。

オンライン授業は、授業後 1 週間程度は録画で視聴できるようにする予定である。

また、提出物や「お知らせ」などは、Canvas LMS を利用する予定である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX222／ヨーロッパ政治論 (European Politics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ヨーロッパ比較政治入門 (Introduction to Comparative European Politics)		
担当者名 (Instructor)	伊藤 武(ITO TAKESHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業は、ヨーロッパ政治の主要なテーマ(選挙、議会、政党、ポピュリズムなど)とそれに関する重要な理論的アプローチに触れます。授業を通じて、みなさんは、日本政治なども含んだ比較の観点から、ヨーロッパ政治の重要な特徴と理論的な考え方を説明できるようになることを目標としています。

This course will introduce students to the field, analyzing many of the essential components of comparative European politics: themes, debates, and concepts, as well as different theoretical approaches. By the end of the semester, students should be able to describe the main characteristics and theoretical veins of European politics in a comparative perspective.

授業の内容(Course Contents)

最初に、授業全体の構造を説明した後、ヨーロッパ政治の基本的特徴とその捉え方を説明します。次に、ヨーロッパ比較政治の重要なトピック別に、各国の特徴とそれを横断するヴァリエーション、具体的な事例、理論的捉え方を説明していきます。

The first section of the course focuses on the basic structure of comparative European politics. Then the remainder of the course addresses the main characteristics of each country and the varieties across countries and substantive and theoretical debates in the field.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション(1) ヨーロッパ政治のとらえ方
2. イントロダクション(2) 政治体制のバリエーション
3. 国家形成(1) 近代国家形成のメカニズム
4. 国家形成(2) 国民国家形成のバリエーション
5. 選挙政治(1) 選挙制度の類型比較
6. 選挙政治(2) 選挙制度の政治的効果
7. 政治参加(1) 投票行動
8. 政治参加(2) 投票以外の参加: 直接民主主義・熟議・ロトクラシー
9. 政党政治(1) 政党の特徴と組織
10. 政党政治(2) 政党ファミリーの形成と変化
11. 政党システム(1) 政党システムの類型と意義
12. 政党システム(2) 政権形成・政治的効果
13. 執政政治(1) 議院内閣制・大統領制・半大統領制
14. 執政政治(2) 執政制度と政治的メカニズム
15. 議会政治(1) 一院制と二院制
16. 議会政治(2) 立法過程と議員行動
17. 司法政治(1) 司法の政治化と政治の司法化
18. 司法政治(2) 司法行動論と独立規制機関
19. 地方政治(1) 中央集権制と連邦制
20. 地方政治(2) 地方政治のダイナミズム
21. 政治経済(1) 政治経済体制の構造と類型
22. 政治経済(2) 政策レジームと政治的ダイナミズム
23. 福祉政治(1) 福祉レジームの形成と変化
24. 福祉政治(2) 政策レジームの特徴と福祉改革の課題
25. 権威主義と民主化(1) 権威主義体制のダイナミズム
26. 権威主義と民主化(2) 民主化と民主主義の後退
27. 復習
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・配布教材やテキスト、ノートを用いて復習し、復習小テストを受けて下さい。
- ・新聞報道の国際記事に目を通し、世界とヨーロッパの政治の具体的情報に日頃からふれておくようにしてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業後小テスト[Canvas LMS 利用](30%)

授業後小テスト[第 5/6 回～第 23/24 回まで 10 回実施予定]は、授業実施週に配点 4 点の選択式で実施し、30%上限で評価に算入します。この他、任意ですが、授業後の質問やコメントで良いものがあれば、最大 10%まで評価に算入します。

テキスト(Textbooks)

1. 網谷龍介・伊藤武・成廣孝編、2014、『ヨーロッパのデモクラシー[改訂第 2 版]』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779508059)
2. 伊藤武・網谷龍介編、2021、『ヨーロッパ・デモクラシーの論点』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779515385)

テキストは随時参照箇所を指示します。コピーや借り出しでも構わないので、何らかの形で出来る限り入手してください。

参考文献(Readings)

1. 粕谷祐子、2014、『比較政治学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623071449)
2. 中山洋平・水島治郎、2020、『ヨーロッパ政治史』、NHK 出版 (ISBN:4595322038)

参考文献は購入は必須ではありませんが、各自必要に応じて入手するか、図書館等で参照してください。授業では、その他の参考文献についても随時紹介します。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

- ・授業は講義を中心としますが、適宜みなさんとの質疑応答も取り入れます。積極的に質問を寄せて下さい。
- ・最新の政治状況や研究の進展を反映して、シラバスの一部入れ替えを行う場合もあります。
- ・授業資料は、原則授業前に Canvas LMS を通じて PDF ファイルで配布します(掲載期間は原則 2 週間)。クラス内での配布や掲載期間終了後の再配布は致しませんので、適宜ダウンロードして下さい。
- ・授業後小テストの解答期間は、1 週間(原則として次回授業前日まで)とします。毎回適宜復習・予習をしてもらうための工夫ですので、ご了解下さい。
- ・任意の質問・コメントは、成績評価 100%の枠外の加算措置として行います。試験・小テストと合計して 100 点を超える場合、100 点を上限とします。
- ・授業中私語は慎んでください。不明な点は気軽に質問してください。いい授業を共につくるための「契約」として、遵守をお願いします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX231／日本政治思想史(1) (History of Japanese Political Thought(1))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	17-19 世紀の日本政治思想通史 (Historical overview of Japanese Political Thought in the 17th-19th Centuries)		
担当者名 (Instructor)	松田 宏一郎(MATSUDA KOICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

徳川時代から明治時代までの日本政治思想について通史的な知識を獲得し、現代の政治的課題について考察することができるようになる。

The aim of this course is to acquire basic knowledge about political thinkers and their social context. It will provide an overview of the intellectual history of early modern and modern Japan and explore its relevance to contemporary political issues.

授業の内容(Course Contents)

17 世紀から 19 世紀にかけての日本政治思想の流れを概観し、儒学、国学、近代の西洋思想の受容を中心に、主要な思想家の著作と社会的背景について学ぶ。

This lecture examines the current of Japanese political thought from the 17th to the 19th century, focusing on the development of Confucianism and Kokugaku and the reception of modern Western thought, after an overview of the writings and social background of the major thinkers.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業の目標と概説、主要参考文献の紹介
2. 戦国から政治体制の安定へ
3. 政治思想としての兵学
4. 儒学の道徳論と権力との関係
5. 統治の理念と実態
6. 民衆の生活と経済
7. 近世の対外意識
8. 自国優越主義の萌芽
9. 西洋の衝撃
10. 法・権利・平等の概念の導入
11. 政治参加と立憲制度
12. 貧困・衛生・環境問題の萌芽
13. 近世・近代におけるジェンダー問題
14. 思想史学の現代的意義について

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義で用いる史料・資料については、講義の前に Rikkyo Spirit の「お知らせ」を通じて告知するので、連絡に注意し、各自ノート・パソコン、タブレットなどに取り込んで目を通しておくこと。各自パソコン・タブレットを授業に持ち込んで、参照しながら受講することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/中間レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 加藤周一、2012、『日本文学史序説』補講、筑摩書房 (ISBN:448009489X)
 2. 渡辺浩、2010、『日本政治思想史：十七～十九世紀』、東京大学出版会 (ISBN:4130331000)
- 参考文献に挙げた、加藤周一『日本文学史序説』補講は、日本思想史の大きな流れをつかむために役立つ。渡辺浩の『日本政治思想史』は儒学の影響についての評価が全く異なっており、その点は渡辺の方が現在通説となっている。講義のそれぞれのテーマに即した文献は必要箇所を配布する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX232／日本政治思想史(2) (History of Japanese Political Thought(2))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	第二次世界大戦後の日本の政治思想における注目すべき論点を学ぶ (Key Issues in Japanese Political Thought: after World War II)		
担当者名 (Instructor)	松田 宏一郎(MATSUDA KOICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

第一に、第二次大戦後の日本の知識人による思想的論争の具体的な内容を知ること。第二に、政治思想および思想家研究のためのより一般的な研究手法を学ぶこと。

The course aims to (1) provide students with specific knowledge of the key issues debated among intellectuals in the post-World War II period and (2) equip them with general research methods in the field of political thought and intellectual history.

授業の内容 (Course Contents)

政治体制、社会構造、近代化、民主主義についての戦後日本の思想家によるさまざまな議論を分析し、その政治的背景、知的環境について学ぶ。また現代政治の諸問題を考察するために、過去の思想の研究がどのように役立つのかを考える。

This course analyses various debates by post-war Japanese thinkers on the political system, social structure, modernisation and democracy, and studies their political background and intellectual environment. It will also consider how the study of past thought can be useful in examining contemporary political issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. 講義の概要と目的 参考文献の紹介
2. 戦時体制指導者の精神構造(1)
3. 戦時体制指導者の精神構造(2)
4. 戦時体制指導者の精神構造(3)
5. 国家と社会の「近代化」という問題(1)
6. 国家と社会の「近代化」という問題(2)
7. 国家と社会の「近代化」という問題(3)
8. 知識人と民主主義(1)
9. 知識人と民主主義(2)
10. 知識人と民主主義(3)
11. 政治意識と家族・ジェンダー(1)
12. 政治意識と家族・ジェンダー(2)
13. 政治意識と家族・ジェンダー(3)
14. 講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義で用いる資料の配布について、講義の前に Rikkyo Spirit を通じて入手できるよう通知するので、各自ノートパソコン、タブレットなどに取り込んで目を通しておくこと。授業にノートパソコン、タブレットを持ち込んで参照しながら受講するのが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%) / 中間レポート(30%)

テキスト (Textbooks)

読むべき文献は立教時間を通じて指示、配布する

参考文献 (Readings)

1. 藤田省三他、2010、『戦後日本の思想』、岩波書店 (ISBN:4006002327)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX233／欧州政治思想史 (History of European Political Thought)		
担当者名 (Instructor)	安藤 裕介(ANDO YUSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- 1) 「政治」という人間固有の営みをめぐる根源的思索と西洋世界におけるその歴史的蓄積に慣れ親しむ。
- 2) 政治思想の古典(テキスト)とその歴史的文脈(コンテキスト)との関係を学ぶ。
- 3) 「デモクラシー」「自由」「平等」「公共性」など、現代政治を考えるうえで不可欠な鍵概念の来歴と含蓄を知る。

- 1) To fundamentally contemplate the human-specific activity which is "politics" and to become familiar with its historical aggregation in the Western world.
- 2) To study the classic texts of political thought and their relationship with that historical context.
- 3) To understand the genesis and significance of key concepts such as "democracy", "liberty", "equality", and "public sphere" when thinking about modern politics.

授業の内容 (Course Contents)

この講義では、「政治」をめぐる根源的思索がいかに人間の歴史のなかで積み重ねられ、現代でも読み継がれる「古典」として結晶化してきたのかを学ぶ。もちろん、それぞれの古典(テキスト)には、それが書かれた独自の歴史的文脈(コンテキスト)があり、そうした歴史の文脈なしに古典を評価することはできない。しかし同時に、古典というのは、単に「過去の遺物」として時代とともに色褪せてしまうわけでもない。そのため政治思想史を学ぶには、歴史的かつ理論的な両面のアプローチが必要となる。講義の前半部では、古代ギリシアのポリス(都市国家)の営みから主権国家の成立までを、後半部では、社会契約論や啓蒙思想の展開から20世紀の政治理論までを扱う。

In these lectures, students will learn how fundamental contemplation about "politics" built up within human history and became crystallized in the "classic texts" which are still read today. Of course, each of the classic texts incorporates the unique historical context in which it was written, and the texts cannot be evaluated without that historical context. However, at the same time the classic texts are not simply "relics of the past" which fade away over time. Therefore, historical and philosophical approaches are both required to study the history of political thought. The first half of the lectures will cover the activities of the ancient Greek polis (city states) up to the establishment of the sovereign state, and the second half will cover the development of the theory of the social contract and the philosophy of Enlightenment up to 20th century political theory.

授業計画 (Course Schedule)

1. 政治思想史とは何か
2. 古代ギリシアの世界
3. プラトン
4. アリストテレス
5. ヘレニズム時代
6. 共和政ローマ
7. 帝政ローマ
8. キリスト教世界の勃興
9. アウグスティヌス
10. トマス・アキナス
11. 中世社会の黄昏
12. マキャヴェリ
13. トマス・モア
14. ルターとカルヴァン
15. ボダンと主権国家
16. ホッブズ
17. ロック
18. モンテスキューとフランス啓蒙
19. ルソー
20. スコットランド啓蒙
21. アメリカ独立とフェデラリスト
22. フランス革命とバーク

23. ヘーゲル
24. ベンサム
25. J・S・ミル
26. トクヴィル
27. 社会主義とマルクス
28. 現代の政治思想

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習)各回の講義に合わせて教科書の該当箇所を読んでおくこと。

復習)講義レジュメとノートをしっかりと見直し、もう一度教科書の該当箇所を読んでおくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/コメントペーパーの提出(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 宇野重規、2013 年、『西洋政治思想史』、有斐閣 (ISBN:4641220018)

参考文献(Readings)

1. 野口雅弘・山本圭・高山裕二編、2021 年、『よくわかる政治思想』、ミネルヴァ書房
2. 杉田敦・川崎修編、2014 年、『西洋政治思想資料集』、法政大学出版局
3. 小野紀明・川崎修ほか編、2014 年、『岩波講座 政治哲学』(全6巻)、岩波書店
4. 川出良枝・山岡龍一、2012 年、『西洋政治思想史—視座と論点』、岩波書店

これらに加えて各回の講義中にも参考文献を紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX240／国際政治 (International Politics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際政治を歴史、理論、事例から体系的に理解する		
担当者名 (Instructor)	清水 謙(SHIMIZU KEN)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

国際政治を体系的に学ぶことで、21 世紀におけるさまざまな国際問題を理解し体系的に分析する基礎を培うことを狙いとする。

The objective of this course is to build a foundation to understand and systematically analyze various international problems in the twenty-first century by studying an overview of international politics.

授業の内容 (Course Contents)

主権国家の成立を理解した上で、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティヴィズムのような基礎理論を修得する。そして、経済、外交、安全保障、新しい戦争、テロ、難民などの事例を理解し、平和はいかに構築されるのかを考える。

This course aims to focus on the sovereign state system, the basic theories of international politics, such as realism, liberalism as well as constructivism. It is also important to grasp the relation between international politics and economy, diplomacy, security, the new war, terrorism, and refugees as contemporary international issues. In the end of this course, the students will examine how international peace can be achieved.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション－国際政治とは何か
2. 国家とは何か－主権国家の成立と国家の要件
3. 国際政治学の基礎理論(1)クラシカル・リアリズム
4. 国際政治学の基礎理論(2)ネオ・リアリズム
5. 国際政治学の基礎理論(3)リベラリズム
6. 国際政治学の基礎理論(4)相互依存論
7. 国際政治学の基礎理論(5)コンストラクティヴィズム
8. 対外政策の選択(1)アリソンの政策決定モデル
9. 対外政策の選択(2)パットナムの政策決定モデル
10. 安全保障の概念
11. 核兵器と国際政治
12. 国際政治経済を考える(1): 国家、市場、国際体制
13. 国際政治経済を考える(2): GAFAの時代を考える
14. 春学期期末テスト
15. 国家の破綻
16. 冷戦の終焉と「新しい戦争」
17. 内戦の発生要因(1)構造的要因
18. 内戦の発生要因(2)制度的要因とアクター的要因
19. 紛争地帯の現状から国際紛争を考える
20. 民主化はいかに進むか: 民主化の規定要因を考える
21. 民主主義体制を持続するためには何が必要か
22. 越境の国際政治: 移民／難民問題を考える
23. 「移民の安全保障化」: 膨張する安全保障とヒトの国際的移動
24. スウェーデンの外交政策と国際平和
25. 平和の概念と「平和学」の成立
26. 紛争関連の資料を読み解く
27. 紛争の一般理論と紛争の科学的分析: リチャードソン方程式、ボールディングの相互作用モデル、ラパポートのゲーム理論
28. まとめ: 平和はいかに達成されるのか

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回のテーマに関する情報を事前に収集し、参考文献として挙げられている文献などに目を通しておく。また、世界情勢を把握するため、国際ニュースなどもこまめにチェックしておくこと。授業後は講義レジュメを見直して復習をし、修得した理論や分析枠組みで国際政治の問題や論点を各自で分析する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/春学期期末テスト(40%)

春学期の最終回に期末テストを行う。秋学期は定期試験にて筆記試験を行い、期末テストと筆記試験(定期試験)を合算して成績評価をする。なお、両方の試験を受けたものだけが成績評価の対象となる。

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。毎回、講義のレジュメを配布もしくはアップロードする。

参考文献 (Readings)

1. 田所昌幸、2008 年、『国際政治経済学』、名古屋大学出版会
 2. 中西寛・石田淳・田所昌幸、2013 年、『国際政治学』、有斐閣
 3. 吉川直人・野口和彦編、2015 年、『国際関係理論(第 2 版)』、勁草書房
 4. 小川浩之・板橋拓己・青野利彦、2018 年、『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』、有斐閣
 5. 広瀬佳一・小笠原高雪・小尾美千代編著、2021 年、『よくわかる国際政治』、ミネルヴァ書房
- その他、受講者の関心を汲み取りながら授業中に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX241／比較政治1 (Comparative Politics 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代南アジア政治		
担当者名 (Instructor)	竹中 千春(TAKENAKA CHIHARU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代インドおよび南アジアの歴史とその政治的展開を学び、アジア地域研究の足がかりとするとともに、比較政治学・国際政治学の基礎的な概念や議論も学ぶ。

Aiming to get the basic knowledge of India and South Asia, we will also learn some key concepts and discussions on this region in the field of modern history, comparative politics and international politics.

授業の内容 (Course Contents)

現代南アジアの政治を比較政治・国際政治の視角から考える。地域大国インドを講義の中心に置き、授業の前半では 19-20 世紀の植民地時代から国民国家時代の変遷を踏まえ、独立後の国家形成と民主主義の展開、危機の到来と体制変動、1990 年代初めのポスト社会主義国家への転換を分析する。授業の後半では、最近の 30 年間に焦点を置き、グローバリゼーションと経済成長、ポストコロナ・ナショナリズムの危機、核実験と核保有、宗教暴動と対テロ戦争、ジェンダーやマイノリティの人権 이슈、ヒンドゥー至上主義勢力の台頭と民主主義の変容、南アジアとそれを取り巻く国際政治の変化などを分析する。内戦・対テロ戦争・平和構築および民主化を経験したネパール・スリランカ・パキスタンの歩みについても言及したい。結びとしては、いくつかの新しいトピックを取り上げたい。「インド太平洋」地域における日米豪印 4 か国 (Quad) の安全保障協力や、中国の大国化を背景とした中印国境の緊張激化などを考察し、広域アジアの国際関係として、インド太平洋の「海の国際政治」とユーラシア大陸の「陸の国際政治」の双方向から見た、南アジアとインドの立ち位置を検討する。また、2020-22 年の新型コロナ・ウィルスの感染拡大により、インドはアメリカに次ぐ世界第 2 位の感染者数を記録したが、社会経済に深い爪痕を残すパンデミックの影響も含め、2020 年代半ばに向けてのインドの動きを考え、南アジアの周辺諸国の動向や国際関係にも言及する。

We will learn the contemporary history and politics of South Asian countries, mainly focusing on India, from the 19th century to the 21st century, which represents the making and transformation of three modern states: colonial state, nation-state and, probably emerging today, global nation-state in Asia. Key issues will be discussed in the context of this region: imperialism, colonialism, nationalism, postcolonial socialism, nation-building, development, democracy, globalization, identity politics, gender, human rights, political violence and others. We will also challenge the new issues of the 2020s: the Indo-Pacific region and Quad, Russian war in Ukraine, COVID-19 and pandemic politics, and climate change and global warming.

授業計画 (Course Schedule)

1. 「イントロダクション」 授業の目標、授業計画、授業の進め方などを共有する。
「南アジアにおける3つの国家」 授業全体を捉える近現代アジアの国家論として、19 世紀から 21 世紀の南アジアに形成された近現代型の国家 (帝国主義時代の植民地国家、植民地独立後の国民国家、グローバリゼーション時代の変容する国民国家) について問題提起を行う。
2. 「南アジアの 19 世紀① 自由主義の帝国支配」
18 世紀末から本格化し、19 世紀前半に拡大したイギリスのインド亜大陸進出について考察する。自由貿易を謳い、「法と秩序」の樹立をめざしたイギリスが、どのような問題に直面し、どのような軍事進出を果たしたのか。とくに、ローカルな武装勢力や盗賊の平定作戦について、現代の対テロ戦争と対比しながら、考察する。
3. 「南アジアの 19 世紀② 植民地国家の樹立」
19 世紀後半にはイギリスの亜大陸支配は確立し、大英帝国の下でインド帝国が樹立され、ヴィクトリア女王がインド皇帝となった。外来勢力としてのイギリスがどのような国家を作ったのか。イギリスの持ち込んだ統治が、現地社会とどのような摩擦を生み、どのような妥協策がとられたのか。女性、家族、宗教 の混在するテーマとして、ヒンドゥー社会で夫を失った妻の殉死 (サティ) について取り上げる。
4. 「南アジアの 19 世紀③ インド・ナショナリズムの誕生と展開」
1885 年にはインド国民会議が開催され、インドの自治を構想する動きが始まった。後に民衆運動を組織するインド国民会議派となり、第一次世界大戦中より自治・独立をめざすガンディー主義運動が展開する。反植民地主義的ナショナリズム、宗教や民族の少数派、虐げられたカースト集団の人々についても考える。
5. 「南アジアの 20 世紀① ガンディーとその時代」
マハトマと呼ばれたガンディーは、どこから来たのか。彼の独特の運動と政治的リーダーシップは、どのように生まれたのか。

か。そして、トップ・エリートも、膨大な数の貧しい民衆も、なぜ彼を国民的指導者として選択し、命をささげたのか。『ガンディー 平和を紡ぐ人』で論じた、ガンディー論を紹介する。

6. 「南アジアの 20 世紀② 1947 年インド・パキスタン分離独立」

第二次世界大戦後、インドとパキスタンが分離独立した。インドは多宗教の共存を謳う世俗主義的な民主主義国家を、パキスタンは東西の領土にイスラーム国家を樹立したが、暴力的衝突が起こり、多数の難民が生じた。この歴史的な事件を考える。

7. 「独立国家の下での開発、統合、民主主義」

独立後のインドとパキスタンの 1950 年代、1960 年代、1970 年代を考える。インドにおいては建国政党のインド国民会議派の下で「一党優位制」の「会議派システム」が形成された。パキスタンの民主主義は安定せず、軍政の時代を迎える。

8. 「インド民主主義の危機：女盗賊プーラン現象と貧しい人々の政治参加」

開発と統合で変貌したインドで、民主主義はどのように変化したのか。女盗賊プーラン・デーヴィーに着目し、貧困、差別、暴力のつながりを考える。そして、盗賊現象と民主主義がどう関連するかを分析する。

9. 「インド民主主義の危機：ヒンドゥー至上主義的ナショナリズムの台頭」

1980-1990 年代のインドは政治的に動揺し、一党優位体制の時代が終わり、競争的な多党制の時代を迎える。イスラーム・ファンダメンタリズムへの対抗を叫ぶ、ヒンドゥー至上主義が台頭し、暴力的な運動を展開した。この危機の時代を考察する。

10. 「インド民主主義の現在①：政党再編と選挙 1990-2000 年代」

ポスト社会主義国家におけるインド民主主義について、1990 年代から 2000 年代にかけて、政党政治と選挙の動向にいかなる変化が起こったかを分析し、「貧しい国の民主主義」がどのように変化し維持されたのかを考える。

11. 「南アジアの国際政治①：アフガニスタン戦争とカシミール紛争」

1947 年以後紛争となり、インドとパキスタンが分割し、中国も領土を主張しているカシミールについて、歴史的に検討する。アフガニスタン内戦、アフガニスタンにおける対テロ戦争をはさんで、現在どのような状況にあるかを考える。

12. 「南アジアの国際政治②：インド・パキスタンの核保有」

1998 年 5 月、インドとパキスタンは連続して核実験を行って核保有を宣言し、世界的な核拡散の実例となった。緊張するカシミール情勢と関連して、不安定な両国関係と核戦争の脅威について検討する。

13. 「インド民主主義の現在②：政党再編と選挙 2010 年代」

グローバリゼーション時代のインド民主主義として、2010 年代から 2020 年代までの事象を取上げ、政治的な変動を追う。貧しい人々、女性、マイノリティなど多様な人々の「エンパワーメント」が進んできた一方で、そうした人々の自由を抑圧するヒンドゥー至上主義の政治が強化されてきた。ナレンドラ・モディ首相の下にあるインド人民党政権（第 1 期目：2014～2019 年、第 2 期目：2019 年～現在）では、自由主義的民主主義の国家や制度を改変し、反対派やイスラーム・マイノリティを弾圧する権威主義的傾向を強めてきた。独裁の強化や移民・マイノリティ・女性弾圧を正当化するグローバルなポピュリズム政治の流行と共通した、イリベラル・デモクラシーと特徴づけられる。パンデミック政治の展開についても取り上げつつ、現状を考察する。

14. 「21 世紀の世界と南アジア：「インド太平洋」と「ユーラシア大陸」の国際政治」

注目されている日印協力および米日豪印(Quad)の行方を考察するために、インドと南アジア諸国をはらむインド太平洋地域の「海の国際政治」とユーラシア大陸の「陸の国際政治」をと位置付ける。とくに、ロシアのウクライナ侵略後の国際政治におけるインドの対外政策とその意味についても分析し、講義のまとめとしたい。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・授業時間外の学習：日常的に南アジアやアジアに関心を持ち、学習に取り組んでください。図書館、新聞・雑誌、インターネットなどを活用して情報を集め、分析し考察する力を身につけましょう。
- ・授業で紹介するテキスト、参考文献、参考資料などを読んで理解を深めましょう。
- ・大学や社会で出会う南アジアやアジアの人々と交流したり、海外旅行にもチャレンジしましょう。
- ・わからないことはどうぞ積極的に質問してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 辛島昇、2020、『インド文化入門』、筑摩書房 (ISBN:978-4480510259)
2. 竹中千春、2018、『ガンディー 平和を紡ぐ人』、岩波書店 (ISBN:978-4004316992)
3. 竹中千春、2010、『盗賊のインド史—帝国・国家・無法者』、有志舎 (ISBN:978-4903426365)
4. 藤原帰一他編、2022、『気候変動は社会を不安定化させるか 水資源をめぐる国際政治の力学』、日本評論社 (ISBN:978-4535540323)

参考文献(Readings)

1. 竹中千春、2004、『世界はなぜ仲良くできないのか—暴力の連鎖を解くために』、CCC メディアハウス (ASIN: B000Q4QKA0)
2. 田所昌幸編、2021、『素顔の現代インド』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4-7664-2740-0)
3. グハ、ラナジット、2017、『世界史の脱構築—ヘーゲルの歴史哲学批判からタゴールの詩の思想へ』、立教大学出版会

(ISBN:978-4901988339)

4. グハ、ラマチャンドラ、1212、『インド現代史（上・下）1947-2007』、明石書店（ISBN:978-4750335247）
5. セン、アマルティア、2008、『議論好きなインド人—対話と異端の歴史が紡ぐ多文化世界』、明石書店（ISBN:978-4750327952）
6. 中溝和弥、2012、『暴力と民主主義—一党優位支配の崩壊とアイデンティティの政治』、東京大学出版会（ISBN:978-4130362429）
7. 堀本武功編、2017、『現代日印関係入門』、東京大学出版会（ISBN:978-4130330817）
- ・アジア政経学会監修『現代アジア研究』（1 巻「越境」、2 巻「市民社会」、3 巻「越境」、慶応義塾大学出版会、2008 年、ISBN-13: 978-4766414356, 4363, 4370
- ・片山裕他編『アジアの政治経済・入門（新版）』（有斐閣、2010 年）ISBN-13: 978-4641183865

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

- ・授業の開始時(第 1 回目)に、具体的なスケジュールや試験方法などの詳細を説明します。
- ・参考文献はさらに授業で紹介します。
- ・参考資料は著作権に問題のない形で共有します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX242／比較政治2 (Comparative Politics 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代ロシア政治外交		
担当者名 (Instructor)	溝口 修平(MIZOGUCHI SHUHEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

2022 年 2 月にロシアがウクライナへの侵攻を行ったことは国際社会に大きな衝撃を与えた。1991 年末のソ連解体から約 30 年経ち、なぜロシアはこのような行動を取るようになったのか。本授業はロシアによるウクライナ侵攻の国内的・国際的背景を理解することを目的とする。

Russia's invasion of Ukraine has had a major impact on the international community. Why did Russia decide to take this action almost 30 years after the dissolution of the Soviet Union? This class aims to understand the domestic and international background of Russia's invasion of Ukraine.

授業の内容 (Course Contents)

本科目の前半では、まずロシアがソ連解体後どのような政治体制になり、現在どのような問題を抱えているかを考察する。授業の後半では、ロシアとウクライナの関係に焦点を当て、ロシアの侵攻が起きた背景を説明する。

In the first half of this course, we will examine what kind of political system Russia has become since the dissolution of the Soviet Union and what problems it is currently facing. The second half will focus on the relationship between Russia and Ukraine and explain the background of the Russian invasion.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ソ連解体と体制転換
3. ロシアの政治制度
4. 市場経済化
5. ロシア型資本主義
6. 議会制度と政党システム
7. 中央・地方関係
8. ソ連解体後のロシア外交
9. ロシア・ウクライナ関係の歴史
10. ウクライナ危機
11. クリミア併合とドンバス紛争
12. ウクライナ危機後のロシア
13. ロシアによるウクライナ侵攻
14. 戦争の影響

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

授業は、ロシアの政治外交に関する知識を持たない学生が受講することを想定して行うが、現在のロシア・ウクライナ情勢については、できる限り報道を見てフォローしておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/授業内課題(20%)

テキスト (Textbooks)

特になし

参考文献 (Readings)

開講時に指示する

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX243／比較政治3 (Comparative Politics 3)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代アフリカの政治と国際関係		
担当者名 (Instructor)	遠藤 貢(ENDO MITSUGI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

アフリカが抱える問題の検討を通じて、国際社会が直面している課題についての想像力を涵養し、今後の国際社会の対応を考えるための構想力を喚起することをねらいとする。

The purpose of this class is to develop or nurture imagination of international response and approach to a variety of difficult issues on the continent of Africa, by studying the contemporary situation of Africa.

授業の内容(Course Contents)

国際社会の中において、(主に独立後の)アフリカ諸国が抱えてきた諸問題を俯瞰するための多角的な視点を提供する講義等を行う。アフリカ諸国の国家の特徴、政治経済の論理、国際社会、あるいはグローバル化との関わり、多発する紛争とその対応などの問題を検討する。また、これらの作業を通じて政治学、ならびに国際政治の理論に提起されてくる諸問題について考察を加える。授業では、講義のほか、より立体的な理解を深めるために、アフリカに関する様々なビデオ鑑賞を行って感想レポートの提出を求める。

This class offers a series of lectures focusing on Africa, including state and politics, political economy, Africa in the context of international relations, and conflicts and conflict transformation. This class also raises some theoretical implications in the academic area of politics and International Relations. Apart from lectures, this class also offers opportunities to watch documentaries of Africa to consider a variety of issues in concrete manners. Participants are requested to submit short reports in all occasions of watching documentaries.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義 歴史の中のアフリカ
2. 映像資料の鑑賞と感想レポートの提出 1
3. 講義 アフリカと国家と政治 1
4. 講義 アフリカと国家と政治 2
5. 映像資料の鑑賞と感想レポートの提出 2
6. 講義 アフリカ政治経済 1
7. 講義 アフリカ政治経済 2
8. 映像資料の鑑賞と感想レポートの提出 3
9. 講義 アフリカと国際政治 1
10. 講義 アフリカと国際政治 2
11. 映像資料の鑑賞と感想レポートの提出 4
12. 講義 アフリカにおける紛争の展開 1
13. 講義 アフリカにおける紛争の展開 2
14. 映像資料の鑑賞と感想レポートの提出 5

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストとして指定した文献を適宜参照するほか、開講時に紹介する予定に文献や参考文献を、関心に応じて読み進めること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/指定文献感想レポート 1(8%)/指定文献感想レポート 2(8%)/指定文献感想レポート 3(8%)/指定文献感想レポート 4(8%)/指定文献感想レポート 5(8%)

「映像資料の鑑賞と感想レポートの提出」については、正当な理由で欠席の場合には「指定文献感想レポートの提出」を認める。「指定文献」はテキストを指し、映像資料鑑賞に代えてレポート提出する場合は、任意の2章についてのレポートを提出すること。

テキスト(Textbooks)

1. 遠藤貢・阪本拓人編、2022、『ようこそアフリカ世界へ』、昭和堂 (ISBN: 4812221285)

以下の文献を準教科書として指定する他、試験問題としても出題する範囲に含める。

- ①遠藤貢「アフリカ『政治』の深層論理：二つの公共領域論を手がかりにして」飯塚繁太郎他編『政治理論と公共政策』新評論、1998 年、91～105 ページ。
- ②遠藤貢「民主主義をもたらさない『民主化』？：1990 年代以降のアフリカにおける政治変動とその評価をめぐって」恒川恵市編『民主主義アイデンティティ：新興デモクラシーの形成』早稲田大学出版会、2006 年、51～72 ページ。
- ③遠藤貢「アフリカにおける『民主化』経験と政治体制評価の新課題」日本比較政治学会『現代民主主義の再検討』（年報第 14 号）、ミネルヴァ書房、2012 年、1～26 ページ。
- ④峯陽一『現代アフリカと開発経済学』第 3 章
- ⑤高橋基樹「アフリカに対する開発援助の変遷」北川勝彦・高橋基樹編『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、2014 年、321～352 ページ。
- ⑥武内進一「アフリカの紛争：その今日的特質について」武内進一編『現代アフリカの紛争』アジア経済研究所、2000 年、3～54 ページ。
- ⑦武内進一「アフリカの紛争と国際社会」武内進一編『戦争と平和の間：紛争勃発後のアフリカと国際社会』アジア経済研究所、2008 年、3～58 ページ。
- ⑧遠藤貢「アフリカからみた世界システム」『国際問題』533 号、2004 年、2～18 ページ。
- ⑨遠藤貢「アフリカと国際政治－国家変容とそのフロンティア－」国分・酒井・遠藤編『日本の国際政治 3 地域からみた国際政治』有斐閣、2009 年、157～174 ページ。

参考文献 (Readings)

1. 松田素二編、2014、『アフリカ社会を学ぶ人のために』、世界思想社
 2. 北川勝彦・高橋基樹編、2014、『現代アフリカ経済論』、ミネルヴァ書房
 3. セルジュ・ミシェル、ミシェル・ブーレ、2009、『アフリカを食い荒らす中国』、河出書房新社
 4. M・イェルウェン、2015、『統計はウソをつく：アフリカ開発統計に隠された真実と現実』、青土社
 5. 平野克己、2013、『経済大陸アフリカ：資源、食糧問題から開発政策まで』、中公新書
 6. 遠藤貢、2015、『崩壊国家と国際安全保障：ソマリアにみる新たな国家像の誕生』、有斐閣
 7. 遠藤貢編、2016、『武力紛争を越える：せめぎ合う制度と戦略のなかで』、京都大学学術出版会
- 開講時に最新の参考文献を提示する

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX250／政治社会学 (Political Sociology)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	政治社会学の基礎と応用－社会学は法と政治をどのように扱うか Foundations and Application of Political Sociology: Sociological Views on and Analysis of Law and Politics		
担当者名 (Instructor)	久保山 亮(KUBOYAMA RYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- ①政治社会学の古典を読み、政治社会学の基礎と方法論を身につける。
- ②法学部の学生として必要な社会学の視点と方法論を習得する。
- ③これらを踏まえて、私たちが今日抱える政治的事象・問題を社会学的に考察し、あるべき政策を構想できるようにする。

1. Students read classical works of political sociology and study the basics and methodology of political sociology.
2. Students of Law School learn essential theoretical and methodological approaches for their studies.
3. Then further, students acquire the basic knowledge and competences to analyze sociologically political events and issues in our era and to propose appropriate policies.

授業の内容 (Course Contents)

- ①本授業の内容は、二つに大別される。
前半では、政治社会学の基礎とアプローチ(方法)を、古典的理論および研究を中心に習得する。
後半では、それを踏まえて、私たちの社会や生活世界で繰り広げられる政治的事象・問題に対してどのように社会学的にアプローチするかを、事例研究によって学び、考える。

- ②社会学(政治社会学)は近代の登場とともに現れた学問分野であり、近代社会を考察・分析することから始まった。わたしたちは、後期近代(あるいは脱近代)の時代に生きる中で、さまざまな政治的な事象・問題をかかえている。近代と後期近代にまたがる政治的事象(帝国的生活様式、環境問題、レイシズム、ジェンダー、人権など)を社会学の視点から考え、どのような政策が望ましいのかを構想してもらう。

1. The course has two parts.

The first part deals with the basis and methodology of political sociology. Students learn classical works and researches.

Then further, the second provides the opportunities to develop the sociological approaches to the political events and issues in our societies and the world of human life, using various case studies.

2. Sociology / Political sociology as a scholarly discipline emerged hand in hand with the rise of the modern society and embarked on investigating and analyzing the modern society. We have a variety of political events and issues in late/postmodern societies.

Hence, we work on these political issues in modernity and late modernity such as imperial mode of living, environment issues, racism, gender politics and human rights issues and design alternative policy options.

授業計画 (Course Schedule)

1. 序論: 授業をどのように進めてゆくか、授業のねらい、政治社会学とは何か、政治社会学の研究課題(1)
2. 序論(2)＋政治社会学の基礎－4つの説明類型: マルクス・ヴェーバー・デュルケーム・フーコー
3. ヴェーバーを読む: 官僚制、政治と暴力(1)
4. ヴェーバーを読む(2)
5. マルクスを読む: 労働の商品化と権力、資本・労働・公共性・国家(1)

6. マルクスを読む(2)
7. グローバル資本主義、外部化、環境問題(1)
8. グローバル資本主義、外部化、環境問題(2)
9. フーコーを読む: 統治性、生権力(1)
10. フーコーを読む(2)
11. 植民地主義、オリエンタリズム、レイシズム(1)
12. 植民地主義、オリエンタリズム、レイシズム(2)
13. ジェンダー・暴力・人権の比較社会学: 「主権」と「自由」の概念の再検討(1)
14. ジェンダー・暴力・人権の比較社会学: 「主権」と「自由」の概念の再検討(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・授業内で指示するテキストは、事前に必ず読んでおくこと。受講生の理解度に合わせて、テキストとして下記に示した文献のうち、どのテキストを読んできてもらうか、あるいは別のテキストを指示するか(もしくは別のテキストを用意するか)、どこを読んできてもらうか(読んでおいてもらう範囲)などは、該当するセッションの前に指示する。

・授業内で、テキストの内容と理解・疑問点・自分の着眼点について議論できるように準備しておくこと。

・参考文献および授業内で必要に応じて紹介する参考文献も、読むことが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/授業内での課題、授業への積極参加、テキストの読解など(現時点では未定)(20%)

テキスト(Textbooks)

1. マックス・ヴェーバー、2009、『職業としての政治 / 職業としての学問(日経 BP クラシックス)』、日経 BP (ISBN:978-4822247225)
2. マルクス、長谷川宏訳、2010、『経済学・哲学草稿(光文社古典新訳文庫)』、光文社 (ISBN:978-4334752054)
3. 重田園江、2011、『ミシェル・フーコー: 近代を裏から読む(ちくま新書)』、筑摩書房 (ISBN:978-4480066275)
4. 中西 正司、上野 千鶴子、2003、『当事者主権(岩波新書 新赤版(860))』、岩波書店 (ISBN:978-4004308607)
5. ミシェル・フーコー、2006、『フーコー・コレクション6: 生政治・統治(ちくま学芸文庫)』、筑摩書房 (978-480089969)

参考文献(Readings)

1. 長谷川 公一、浜 日出夫、藤村 正之、町村 敬志、2019、『社会学 新版(New Liberal Arts Selection)』、有斐閣 (ISBN:978-4641053892)
 2. 見田宗介、2006、『社会学入門: 人間と社会の未来(岩波新書)』、岩波書店 (ISBN:978-4004310099)
 3. アンソニー・ギデンズ、松尾精文ほか訳、1999、『国民国家と暴力』、而立書房 (ISBN:978-4880592640)
 4. マックス・ヴェーバー、1972、『社会学の根本概念(岩波文庫)』、岩波書店 (ISBN:978-4003420966)
 5. ウルリッヒ・ブラント、マックス・ヴィッセン、2021、『地球を壊す暮らし方: 帝国型生活様式と新たな搾取』、岩波書店 (ISBN:978-4000614757)
 6. ミシェル フーコー、高桑 和巳訳、2007、『ミシェル・フーコー講義集成(7)安全・領土・人口(コレージュ・ド・フランス講義 1977-78)』、筑摩書房 (ISBN:978-4480790477)
 7. ジグムント・バウマン、2017 年、『コミュニティ: 自由と安全の戦場(ちくま学芸文庫)』、筑摩書房 (ISBN:978-4480098252)
- ・エミール・デュルケム、菊谷和宏訳『社会学的方法の規準』(講談社学芸文庫)、978-4065118467

・ジグムント・バウマン『近代とホロコースト[完全版](ちくま学芸文庫)』(筑摩書房、2021 年、978-4480510211)

・ロバート・J・ヤング『ポストコロニアリズム』(岩波書店、2005 年、978-4000268783)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

・受講生の理解度に合わせて、ていねいに講義を進めることを優先するため、講義は講義計画通りに進まないこともありうる。必要に応じて、取捨選択して進める。

・授業では、適宜受講生に、読んできてもらったテキストについての質問や、論題への問いかけも行う。積極的な受講態度が期待される。

・社会学者が考える「政治」と、政治学者にとっての「政治」は重なるところもありますが、異なるところも多くあります。「政治(的行爲)」、「自由」、「主権」、「暴力」、「社会経済的脆弱性(例えば、いわゆる貧困や搾取など)」などの概念や含意は、社会学ではより広範囲に考察・定義する傾向があります。法学部の学生として学ぶ課題について、社会学の思考やアプローチを紹介できればと思います。

・私たちが生きる社会、私たちを取り巻く世界の問題を考える枠組みとツールを習得してもらうことをめざしています。ほんとうに学びたい、切実に考えたいあなたを歓迎します。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX251／環境政治 (Environmental Politics)		
担当者名 (Instructor)	尾内 隆之(ONAI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

環境問題をめぐる政治に規範的考察と実証的考察との両面からアプローチし、その特質を理解する。

The objective of this course is to approach the politics of environmental issues with using both normative and empirical methods to understand its characteristics.

授業の内容 (Course Contents)

環境対策は長らく、経済成長を妨げる厄介なものと思われてきたが、いまや経済と環境の両立が各国で政策課題となっている。環境対策の必要性そのものを否定することは今日では考えにくい、そうであればこそ、環境をどこまで守り、その費用をだれが、どれだけ負担するかが政治の大きな争点となる。

2022年11月にエジプトで開かれたCOP27でも、各国のリーダーたちが多くの「成果」について口々に称揚した。確かに米国のパリ協定復帰は良いニュースであったし、中国やインドが「温室効果ガス実質ゼロ」の目標を打ち出したことも大きな進展ではある。しかし、気候危機を懸念する活動的な市民は、それらの「成果」が単なる言葉に過ぎないと厳しく批判している。刻々と変化するこうした環境政治をとらえることは、現代政治の理解においても不可欠と言える。

本講義では環境政治について、利害関係の影響はもちろん、環境思想や政策アイデアの展開も重視して考察する。環境をめぐる様々な言説を踏まえて、新しい政治アクターの登場や市民の行動、科学の影響力の増大など、環境政治のプロセスを具体的に見ていく。

なお、個別の環境問題について自然科学的なメカニズムを詳説する時間はない。受講者は環境問題の現状への関心を高く持ち、報道やインターネット等を活用して積極的に情報を得よう心がけてほしい。

Environmental measures have long been seen as a burden which interferes with economic growth, but the compatibility of economy and environment is important policy agenda in every country today. It is difficult to deny the necessity of environmental measures, but for that very reason the questions below are significant political issues usually. How much is the cost of enough protection measures? Who should pay for it?

During the COP27 at Egypt in Nov. 2022, political leaders boasted that they made a lot of achievements. The returning of US to Paris agreement was surely very good news. It is a big step that China and India declared "net zero" target. But activists criticize leaders severely because those fruits seem to be merely words. Environmental politics is an essential part of both world and domestic politics, so it's very important to grasp the reality of continuously changing environmental politics.

The lectures will focus on the impact of interests for environmental politics, the development of environmental thought and policy ideas with respect to environmental measures. We examine the process of politics including the emergence of new political actors, actions by grassroots movements, and the rising status of science.

Please note that we won't have enough time to check the details of the scientific mechanisms of individual environmental problems in the class. So, students should have a high degree of interest in the current condition of environmental problem and get a lot of information via news media.

授業計画 (Course Schedule)

1. 「コロナ危機」と「グリーン・リカバリー」
2. 「持続可能な開発」から「SDGs」へ
3. 環境はどう「問題」化してきたか
 - (1) 汚染・破壊・浪費
 - (2) 越境と収奪
4. (3) 地球化とリスク化
5. 環境政治はどう語られてきたか
 - (1) 「エコロジー」の思想・哲学
 - (2) 近代社会の見直し: エコロジー的近代化論
7. (3) 環境の市場化: グリーン経済、グリーン・ニューディール
8. (4) "Climate Justice" (気候正義)
9. 環境を守るための政策的方法
 - (1) 制度 (行政制度, 法規制, 経済的手法)
 - (2) 技法 (環境影響評価, リスク評価, 費用便益分析)
10. (2) 技法 (環境影響評価, リスク評価, 費用便益分析)

11. だれが、どう環境政治を動かすのか
(1) 公害・環境問題と市民運動
12. (2) 政党政治と環境問題: 緑の党を中心に
13. (3) 気候危機と科学と民主主義
14. 「人新世」における環境政治の課題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

環境省の『環境・循環型社会・生物多様性白書』には随時目を通しておくこと(環境省ウェブサイトで閲覧可)。また講義では随時、時事的な話題・事例を取り上げるので、新聞の環境関連記事などで最新のニュースをチェックすること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/学期中の小テスト(計2回)(20%)/リアクションコメント(毎回受付)(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは用いず講義資料を随時配布する。

やや古くなったが、川崎修・杉田敦編『現代政治理論 新版』(有斐閣アルマ、2012 年)第 10 章「環境と政治」が、担当教員による概説になっているので一読してほしい。

参考文献(Readings)

1. デレク・ウォール、2012、『緑の政治ガイドブック』、筑摩書房 (ISBN:978-4-480-06647-3)
2. 南博、稲場雅紀、2020、『SDGs: 危機の時代の羅針盤』、岩波書店 (ISBN:978-4004318545)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

資料配布や連絡、リアクションペーパー提出等には Classroom を使用する予定だが、変更の可能性もあるので開講時の連絡に注意すること。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX261／地方自治 (Local Government)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地方自治の制度と現在		
担当者名 (Instructor)	稲垣 浩(INAGAKI HIROSHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

この授業の目標は三つある。まず、日本の地方自治制度を題材にして、地方自治の基本的な制度構造とその背景となる歴史や概念について習得すること。次に、これらの習得した知見をもとに、現状の地方自治の諸課題について分析し、将来的な地方自治の姿について考えることができるようになること。さらに、それを他者に対して説得的に語るができるようになることである。

The goals of this class are the following three. First, students should learn about the basic structure of local government and the history and concepts behind it, using Japan's local government system as a subject. Next, students will be able to analyze the current issues of local autonomy and think about the future of local autonomy based on the knowledge they have acquired. Ultimately, the goal is for students to be able to explain them persuasively to others.

授業の内容 (Course Contents)

日本における地方自治の基礎的な制度は、明治時代以来今日まで安定的に推移してきたが、その制度の下で展開される政策や政治的な状況は様々に変化してきた。特に、1990年代以降、市町村合併や税財政改革など不況に伴う行政の合理化がすすめられる一方で、多様な主体が公共サービスを担うガバナンスなど新たな統治形態の模索も、諸外国と同様に始まっている。また、東京や大阪などに見られるように新たな地方政治の動きが見られる反面、地方創生政策のように中央政府による新たな地方政策も展開されている。この授業では、各回のテーマごとに、こうした地方自治の現状とその背景や変化について、政治学・行政学の視点から検討を進める。授業では、各テーマに関する基礎的な用語や知識について説明をするが、基本的にはそのトピックの全体構造や争点になっている論点について検討することに重きを置く。

The basic system of local autonomy in Japan has remained stable since the Meiji period. On the other hand, the policies and political situation developed under the system have changed in various ways. In particular, since the 1990s, while administrative rationalization due to recession has been promoted, such as municipal mergers and tax and fiscal reform, the search for a new system to provide public services by various entities called "Governance" has begun, as in other countries. In addition, while new local political movements such as those of local political parties in Tokyo and Osaka are seen, new local policies by the central government such as "Chihou Sousei" (the local revitalization policy) are also developed. In this class, the current situation of local autonomy, its background and changes will be examined from the viewpoints of politics and administration for each theme. In the class, basic terminology and knowledge on each topic are explained, but the focus is basically on the overall structure of the topic and the points at issue.

授業計画 (Course Schedule)

1. 【ガイダンス・現代日本の地方自治】 現代の地方自治に関する基礎的な事項と、現在の争点・論点等について概説する。また、講義全体のテーマについて説明する。
2. 【日本における地方自治の歴史】 明治から現在に至るまで、地方自治をめぐる様々な論点がある。その時々々の状況を背景に浮上してきた。そうした諸問題について歴史的に検討する。
3. 【住民と自治】 自治の主役である「住民」の姿は様々に変化してきた。その歴史的な変容に触れながら、現在の課題について検討する。
4. 【地方政治の歴史と現状】 地域における権力構造や勃興する地方政党など、地方政治を取り巻く現状について、国政との比較を視野に入れながら検討する。
5. 【議会と執行機関】 自治体の政策は住民の意思を反映しているのか？逆に「住民の意思」は常に反映されなければならないのか？議会、首長、委員会といった、自治体の議決と執行の仕組みと課題について検討する。
6. 【地方公務員制度と自治体職員】 「縁の下力持ち」として目立たない存在、場合によっては住民からの非難を一身に浴びつつも、就職先として根強い人気を誇る地方公務員。その制度と現状について検討する。
7. 【地方財政制度と自治体財政】 かつて「3割自治」と呼ばれるほど「脆弱」とされた日本の自治体財政。いったい「誰が」「何を」負担するのか？使っているのか？基本的な地方財政の制度とその課題について実際の事例を踏まえながら検討する。
8. 【政策と計画】 地域における問題への対処は一律ではない。自治体という組織において、そうした問題への対応がどのように形成され、総合化されるのか。政策や計画の制度と現状について検討する。
9. 【組織編成と意思決定】 個人は組織となることで様々な変貌を遂げる。自治体が対応すべき諸課題が「組織」として、どの

ように議論され、決定されているのか、その制度と現状について検討する。

10. 【政府間関係】 融合型とされる中央政府との関係、震災等を契機にますます重要となる自治体間との関係、これらの政府間の関係をどのようにマネジメントしていくのか。政治・行政の両面から歴史的な背景と現状について検討する。
11. 【諸外国の地方自治とその現状】 主に、英仏米の各国で起こっている地方自治をめぐる課題や現状について考える。
12. 【事例研究① 東京の地方自治(1) 都政の歴史と現状】 日本人の1割が住む大都市東京。多数の住民の中で、「自治」はどのように確保されているのか。案外知られていない東京都政の歴史と現状について検討する。
13. 【事例研究② 東京の地方自治(2) 都区制度と特別区の自治】 いわゆる「大阪都構想」などにみられるように、大都市における地方自治のあり方は転換点を迎えている。現在のところ日本において唯一都区制度がとられている東京23区の制度と現状、東京都との関係について検討する。
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定するテキストの各回の授業に関係している部分や、配布するレジュメや資料等を通じて、各回のトピックスについて予習・復習を行い、わからない点を明確にしておいてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(75%)/コメントペーパー(25%)

テキスト(Textbooks)

1. 磯崎初仁・金井利之・伊藤正次、2020、『ホーンブック地方自治[新版]』、北樹出版 (ISBN:9784779306327)
テキストは授業中に用いるわけではありませんが、レジュメや授業のなかでテキストの該当箇所を指示するので、各自予習や復習などで活用してください。

参考文献(Readings)

1. 辻陽、2019、『日本の地方議会』、中央公論新社 (ISBN:412102558X)
 2. 曾我謙悟、2019、『日本の地方政府』、中央公論新社 (ISBN:4121025377)
 3. 柴田直子・松井望編、2012、『地方自治論入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:4623064603)
 4. 佐々木信夫、2011、『都知事』、中央公論新社 (ISBN:4121020901)
 5. 金井利之、2007、『自治制度』、東京大学出版会 (ISBN:4130342339)
 6. 原田久、2016、『行政学』、法律文化社 (ISBN:4589037904)
 7. 砂原庸介・手塚洋輔、2022、『公共政策』、放送大学教育振興会 (ISBN:9784595141768)
- 1と2は、自治体に関する最新の研究動向を踏まえた新書であり、地方自治に関心のある学生は受講前に読んでほしい。3は、標準的な地方自治の教科書。テキストと共に読むと理解が深まります。4は、一般向けではあるが東京都政について概括的に述べたもの。5は、研究書であるので難しいが、本講義でも随所で言及する国と地方の関係を深く勉強したい学生は、ぜひトライしてみてください。6は、具体的な事例や問いを中心に行政や政策について考えようとするもの。地方自治のみならず、中央政府まで視野を広げて考えるために有用です。そのほか、必要な文献、さらなる理解に有用な文献について授業中に指示します。7は、地方自治に限らず行政や公共政策についてのテキストであるが、深く研究してみたい人に有用です。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

自治体や、関連する省庁(総務省、内閣府など)などのホームページや広報誌など。できれば、出身地や居住地など、任意の自治体一つを決め、その自治体が授業で取り上げた制度や課題などに対してどのような対応をしているかホームページなどを通じて調べてみると、より理解が深まります。

また、各回の授業内容については、順番が入れ替わったり、内容を変更する場合がありますが、その場合は予め受講学生に連絡します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX262／行政学1 (Public Administration 1)		
担当者名 (Instructor)	原田 久(HARADA HISASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業では、受講生が興味深い行政現象を記述し分析する能力を身につけることを目標とする。

The objective of this class is to have the students develop the ability to describe and analyze interesting administrative phenomena.

授業の内容(Course Contents)

行政学は、「有権者」としての視点(制度論)、「納税者」としての視点(管理論)及び「消費者」としての視点(政策論)という3つの視点から行政現象に複眼的にアプローチする学問である。このうち行政学1では、上記アプローチに対応した3つのパートのうち、制度論及び管理論の一部を取り上げる。各パートでは、行政現象についての興味深いパズルを設定した後(1週目)、これを分析する(2週目)。

なお、行政学2をあわせて受講してほしい。また、受講にあたっては、過去の授業評価アンケート結果を参考にすること(<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/haradahi/>)。

Public Administration is an academic discipline which uses a multifaceted approach to administrative phenomena from the perspectives of the "voter" (institution theory), "taxpayer" (management theory), and "consumers" (policy theory). Of the three perspectives in the approach described above, Public Administration 1 will cover institution theory and part of management theory. In each part, an interesting puzzle concerning an administrative phenomena will be configured (week one) and then analyzed (week two).

Furthermore, please note that students are asked to take Public Administration 2 in combination with this course. In addition, students are asked to refer to past class evaluation surveys when taking this course (<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/haradahi/>).

授業計画(Course Schedule)

1. 行政学入門 1:何を学ぶのか？(行政学の体系)
2. 行政学入門 2:どうやって学ぶのか？(行政学の方法)
3. 制度論 1:官民関係論—規制の質の見直しはなぜ進まないのか？ 前編
4. 制度論 1:官民関係論—規制の質の見直しはなぜ進まないのか？ 後編
5. 制度論 2:政官関係論—政治家は幹部職員人事権をなぜ抑制的に行使するのか？ 前編
6. 制度論 2:政官関係論—政治家は幹部職員人事権をなぜ抑制的に行使するのか？ 後編
7. 制度論 3:行政組織論—内閣官房・内閣府はなぜ肥大化したのか？ 前編
8. 制度論 3:行政組織論—内閣官房・内閣府はなぜ肥大化したのか？ 後編
9. 制度論 4:公務員制度論—国家公務員はなぜ再就職するのか？ 前編
10. 制度論 4:公務員制度論—国家公務員はなぜ再就職するのか？ 後編
11. 管理論 1:財源管理論—日本の財政赤字は先進国でなぜ最悪なのか？ 前編
12. 管理論 1:財源管理論—日本の財政赤字は先進国でなぜ最悪なのか？ 後編
13. 管理論 2:人事管理論—国家公務員の定員はなぜ増加に転じたのか？ 前編
14. 管理論 2:人事管理論—国家公務員の定員はなぜ増加に転じたのか？ 後編

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業前日までに講義で使用するパワーポイントのファイルを Canvas LMS にアップロードする予定である。事前にダウンロードし、目を通して講義に臨んでほしい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 原田久、2022、『行政学〔第2版〕』、法律文化社（ISBN:4589041951）

参考文献 (Readings)

1. 森田朗、2022、『新版 現代の行政〔第2版〕』、第一法規（ISBN:4474077008）
2. 真淵勝、2020、『行政学』、有斐閣（ISBN:4641149356）
3. 曾我謙悟、2022、『行政学〔新版〕』、有斐閣（ISBN:4641221901）

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX263／行政学2 (Public Administration 2)		
担当者名 (Instructor)	原田 久(HARADA HISASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この授業では、受講生が興味深い行政現象を記述し分析する能力を身につけることを目標とする。

The objective of this class is to have the students develop the ability to describe and analyze interesting administrative phenomena.

授業の内容(Course Contents)

行政学は、「有権者」としての視点(制度論)、「納税者」としての視点(管理論)、及び「消費者」としての視点(政策論)という3つの視点から行政現象に複眼的にアプローチする学問である。このうち行政学2では、上記アプローチに対応した3つのパートのうち、管理論の一部及び政策論を取り上げる。各パートでは、行政現象についての興味深いパズルを設定した後(1週目)、これを分析する(2週目)。

なお、できる限り行政学1を修得しておいてほしい。また、受講にあたっては、過去の授業評価アンケート結果を参考にすること(<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/haradahi/>)。

Public Administration is an academic discipline which uses a multifaceted approach to administrative phenomena from the perspectives of the "voter" (institution theory), "taxpayer" (management theory), and "consumers" (policy theory). Public Administration 2 will cover part of management theory and policy theory from the three perspectives in the approach described above. In each part, an interesting puzzle concerning an administrative phenomena will be configured (week one) and then analyzed (week two).

Furthermore, please note that students are asked to take Public Administration 1 in combination with this course. In addition, students are asked to refer to past class evaluation surveys when taking this course (<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/haradahi/>).

授業計画(Course Schedule)

1. 行政学入門1: 行政学の体系(何を学ぶのか?)
2. 行政学入門2: 行政学の方法(どうやって学ぶのか?)
3. 管理論3: 所掌事務管理論—共管事務は省庁再編後もなぜ増大したのか? 前編
4. 管理論3: 所掌事務管理論—共管事務は省庁再編後もなぜ増大したのか? 後編
5. 管理論4: 情報資源管理論—統計不正問題はなぜ発生したのか? 前編
6. 管理論4: 情報資源管理論—統計不正問題はなぜ発生したのか? 後編
7. 政策論1: 政策課題設定過程論—こんにやく入りゼリーはなぜ規制されたのか? 前編
8. 政策論1: 政策課題設定過程論—こんにやく入りゼリーはなぜ規制されたのか? 後編
9. 政策論2: 政策決定過程論—パブリック・コメント手続はなぜ機能しないのか? 前編
10. 政策論2: 政策決定過程論—パブリック・コメント手続はなぜ機能しないのか? 後編
11. 政策論3: 政策実施過程論—生活保護世帯はなぜ急増したのか? 前編
12. 政策論3: 政策実施過程論—生活保護世帯はなぜ急増したのか? 後編
13. 政策論4: 政策評価過程論—政策評価は政策の見直しになぜつながらないのか? 前編
14. 政策論4: 政策評価過程論—政策評価は政策の見直しになぜつながらないのか? 後編

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業前日までに講義で使用するパワーポイントのファイルを Canvas LMS にアップロードする予定である。事前にダウンロードし、目を通して講義に臨んでほしい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 原田 久、2022、『行政学〔第 2 版〕』、法律文化社 (ISBN:4589041951)

参考文献 (Readings)

1. 森田朗、2022、『新版 現代の行政〔第 2 版〕』、第一法規 (ISBN:4474077008)
2. 真淵勝、2020、『行政学』、有斐閣 (ISBN:4641149356)
3. 曾我謙悟、2022、『行政学〔新版〕』、有斐閣 (ISBN:4641221901)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX270／経済原論 (Principles of Economics)		
担当者名 (Instructor)	伊藤 宣広(ITU NOBUHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を中心に、経済学の基本的な考え方を学ぶ。できるだけ数学を使わず、経済学のロジックを理解できるようになることを目標とする。

In this course, students will learn the basics of economic thinking with a focus on the fundamental theories of microeconomics and macroeconomics. The objective is to be able to understand the logic of Economics while using mathematics as little as possible.

授業の内容(Course Contents)

春学期ではまず経済学の成り立ちを概観した後、主にミクロ経済学の基礎を解説する。消費者行動、企業の費用分析といった伝統的なテーマに加え、逆選択やモラル・ハザード等、近年重要性が増している情報の問題もとりあげる。そして市場経済の長所と短所について考える。

秋学期には主にマクロ経済学の基礎を学ぶ。国民経済計算の基本的な考え方を解説した上で、国民所得決定理論の代表的なモデルを紹介する。短期の国民所得決定の問題に焦点をあてることで、なぜ失業や景気変動が生じるのか、といった問題を考える。そして最後に、1980年代から現在に至る日本経済および世界経済の動向を展望する。

法学部向け科目という性質上、経済学の予備知識は必要としない。また、理論の説明にあたっては考え方の直観的理解に重点を置くため、数学が苦手でも特に問題はない。

During the spring semester, the course will first survey the origins of Economics before primarily explaining the fundamentals of microeconomics. In addition to traditional topics such as consumer behavior and corporate cost analysis, we will also cover information economics such as adverse selection and moral hazards which have been increasing in importance in recent years. Next, we will think about the strengths and weaknesses of the market economy.

During the fall semester, students will primarily learn the fundamentals of macroeconomics. After explaining the basic concept behind the System of National Accounts, we will introduce the basic models of national income decision theory. We will think about problems such as why unemployment and business fluctuations occur by focusing the spotlight on short-term national income decision problems. Finally, we will survey Japanese and global economic trends from the 1980s up to the present.

Because this is a course for the College of Law and Politics, no background knowledge of Economics is required. Moreover, because the theory explanations will focus on an intuitive understanding of the way of thinking, students do not need to be particularly good at math.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 経済学の歴史
3. 経済学の基礎概念
4. 消費者行動と需要分析(1)
5. 消費者行動と需要分析(2)
6. 消費者行動と需要分析(3)
7. 企業行動と費用分析(1)
8. 企業行動と費用分析(2)
9. 企業行動と費用分析(3)
10. 競争と市場形態(1)
11. 競争と市場形態(2)
12. 情報の経済学
13. ゲーム理論
14. 春学期まとめ
15. 国民経済計算(1)
16. 国民経済計算(2)
17. 国民経済計算(3)

18. 貨幣と金融(1)
19. 貨幣と金融(2)
20. 貨幣と金融(3)
21. 失業
22. 45 度線モデル(1)
23. 45 度線モデル(2)
24. IS-LM モデル(1)
25. IS-LM モデル(2)
26. 財政政策と金融政策
27. 現代の日本経済と世界経済
28. 秋学期まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

基礎知識の積み重ねが重要となるため、毎回、講義用スライド資料の内容を復習すること。
講義では特定の教科書は使用しないが、自習用の教材を希望する受講者のために、初回講義で各種テキストを紹介する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/リアクションペーパー(40%)

テキスト(Textbooks)

使用しない。(毎週 20～30 枚程度のスライドを配布する)

参考文献(Readings)

講義中に適宜、紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

資料の配布やリアクション・ペーパーの提出については、当面は立教時間を使用予定であるが、途中で CanvasLMS へ移行する可能性がある。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX275／政治過程論1 (Political Process 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	政治アクターの目標と行動原理		
担当者名 (Instructor)	孫 齊庸(SOHN JEYONG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

政治アクターが追求する目標や行動原理について理解する。

The goal of this course is to comprehend the objectives and underlying principles of behavior exhibited by political actors.

授業の内容(Course Contents)

様々な意見を持つ構成員の相互関係によって成り立っている社会において、多様な要求をどのように集約するのかの問題は非常に重要です。この授業では、社会における集合的な意思決定のプロセスにみられる、政治アクター間の相互作用について学ぶことで、現代日本政治の様々な政治過程を体系的に理解するための基礎を身につけます。

各回の授業では、「多くの民主主義国家で投票率が低下しているのはなぜか」、「所属政党から離党し、他の政党に移る議員が現れるのはなぜか」、「政党間の合併によって誕生した新党が再び分裂に向かうのはなぜか」といった問いを設定し、政治アクターが追求する目標と行動原理からその答えを見つけていきます。

なお、政治アクター間の相互作用を規定する様々な政治制度の内容とその帰結については、同じく秋学期に開講される「政治過程論 2」で扱います。

Contemporary society comprises individuals and groups who possess a wide range of opinions and preferences. As a result, when engaging in decision-making, the challenge of aggregating a diverse set of demands is of paramount importance. This course will provide participants with the necessary knowledge to comprehend the interactions between political actors in contemporary Japanese politics.

At the beginning of each class, we will pose questions such as, "What is the rationale behind the declining voter turnout in most established democracies?", "Why do legislators switch political parties?", and "Why do political parties split?" and endeavor to discover the answers by utilizing knowledge on the underlying principles of behavior exhibited by political actors.

Please note that the topics pertaining to political institutions will be covered in "Political Process 2," which will be held during the autumn semester.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 合理的選択理論
3. グループとしての選択と社会的選択理論
4. 政治過程におけるゲーム的状况
5. 有権者(1)
6. 有権者(2)
7. 政治家(1)
8. 政治家(2)
9. 政党(1)
10. 政党(2)
11. 内閣・首相
12. 利益団体
13. マスメディア(1)
14. マスメディア(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しません。各回の授業スライド及び資料は、授業用のウェブサイト上でアクセスできるようにします。

参考文献(Readings)

1. 大川千寿編、2023 年、『つながるつなげる日本政治(第 2 版)』、弘文堂
2. 飯田健・松林哲也・大村華子著、2015 年、『政治行動論 ― 有権者は政治を変えられるのか』、有斐閣 (ISBN:9784641150294)
3. 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子著、2011 年、『現代の政党と選挙(新版)』、有斐閣 (ISBN:9784641124240)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX276／政治過程論2 (Political Process 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	様々な政治制度とその帰結		
担当者名 (Instructor)	孫 斉庸(SOHN JEYONG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

政治アクター間の相互作用を規定する様々な政治制度の内容とその影響について理解する。

The goal of this course is to comprehend the various types of political institutions and the impact they have on the interactions between political actors.

授業の内容(Course Contents)

政治過程の全容を把握するためには、アクター同士の調整・妥協が、どのようなルールに基づいて行われるのか理解する必要があります。各回の授業では「選挙制度改革は政治家の選挙運動をどう変化させるのか」、「企業・団体献金が禁止されると政党の政策位置はどう変わるのか」、「異なる執政制度のもとで選出される政治指導者には何か違う特徴が見られるか」といった問いを設定し、その答えについて一緒に考えながら、様々な政治制度の内容とその影響について学びます。

なお、政治アクターが追求する目標や行動原理については、同じく秋学期に開講される「政治過程論 1」で扱います。

In order to fully comprehend the political process, it is essential to understand the types of rules that are employed to achieve coordination among political actors.

At the beginning of each class, we will pose questions such as, "What is the impact of electoral reforms on campaign practices?", "If contributions from companies are prohibited, how will the policy positions of political parties change?", and "Are there any distinctions between a president and a prime minister?" and endeavor to discover the answers by utilizing the knowledge on the specifics and impact of the various political institutions.

Please note that the topics pertaining to the objectives and underlying principles of behavior exhibited by political actors will be covered in "Political Process 1," which will be held during the autumn semester.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス・政治アクターと政治制度
2. 選挙制度(1)
3. 選挙制度(2)
4. 選挙制度(3)
5. 政治資金制度(1)
6. 政治資金制度(2)
7. 政治資金制度(3)
8. 執政制度(1)
9. 執政制度(2)
10. 議会制度(1)
11. 議会制度(2)
12. 内閣制度
13. 地方自治制度
14. 政治制度と国際関係

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しません。各回の授業スライド及び資料は、授業用のウェブサイト上でアクセスできるようにします。

参考文献 (Readings)

1. 大川千寿編、2023 年、『つながるつなげる日本政治(第 2 版)』、弘文堂
2. 建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史著、2008 年、『比較政治制度論』、有斐閣 (ISBN:9784641123649)
3. 粕谷祐子著、2014 年、『比較政治学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623071449)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX283／社会調査法(法学科1年) (Introduction to Social Research)		
担当者名 (Instructor)	池田 岳大(IKEDA TAKEHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科1年次のみ		

授業の目標(Course Objectives)

統計調査を中心としつつ、社会調査全般にわたって意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。

This course provides basic information on the significance and various types of social surveys in general, with a focus on statistical surveys.

授業の内容(Course Contents)

社会調査の種類、調査票の作成、データの分析、報告書の執筆などの社会調査の基本的な知識の習得を目指す。

This course aims to provide students with basic knowledge of social research, including types of social surveys, survey design, data analysis, and reports writing.

授業計画(Course Schedule)

1. 社会調査の目的と意義
2. 問題関心と仮説の設定(1)
3. 問題関心と仮説の設定(2)
4. データの探索(1)
5. データの探索(2)
6. 調査票の作成: 調査票の構成・種類
7. 調査票の作成: 尺度と選択肢
8. 調査票の作成: 質問文とワーディング
9. 標本調査(1)
10. 標本調査(2)
11. データの作成、点検、管理
12. データの集計・分析(1)
13. データの集計・分析(2)
14. レポート・報告書の作成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

シラバスに示した参考文献などを中心に社会科学における統計学調査、あるいはデータサイエンスなどに関するニュースに触れておくことが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/複数回の授業内課題(50%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しません。授業では資料を配布するほか、復習プリントも配布します。

参考文献(Readings)

1. 松本渉、2021、『社会調査の方法論』、丸善出版 (ISBN:978-4-621-30631-4)
2. 轟亮・杉野勇、2021、『入門・社会調査法〔第4版〕』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-04141-8)
3. 林雄亮・石田賢示、2017、『基礎から学ぶ社会調査と計量分析』、北樹出版 (ISBN:978-4779305351)

その他(HP等)(Others(e.g HP))

授業では、社会学、法学、政治学、経済学など、社会科学を履修する学生に今後役立つ授業を展開するので、社会科学を学ぶ上での心構えやレポートや報告書の執筆について学びたい学生向けの授業です。社会調査法や量的調査、統計学についての知識がないことを前提とした授業です。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX284／社会調査法(その他) (Introduction to Social Research)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会調査法の基礎		
担当者名 (Instructor)	渡辺 健太郎(WATANABE KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学科 2 年次以上, 国際ビジネス法学科全学年, 政治学科全学年		

授業の目標 (Course Objectives)

社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得する。

The objective of this course is to acquire fundamental knowledge about the significance, background, and methods of social research.

授業の内容 (Course Contents)

社会科学において、社会調査はデータを得るための手段として重要である。基本的な方法的基準を理解することなしには、社会に関する正しい知見は得られない。

本授業では、さまざまな社会調査の手法やデータ収集・分析のプロセス、社会調査の歴史と調査倫理などについて解説する。社会調査法の基本的な事項を学習し、既存の調査データを読み解く力を身に着けることを目的とする。さらに現在の社会調査が持つ問題や論点に関して議論・考察できる力を養う。

In this class we aims to understand various types of social research methods, data collection and analysis processes, and the history and research ethics of social research. We will learn the fundamental aspects of the Social Research Methods so that be able to read research data. In addition, We try to discuss and reveal the problems and issues in current social research.

授業計画 (Course Schedule)

1. 社会調査の目的
2. 社会調査の種類
3. 社会調査のプロセスとデザイン(1)
4. 社会調査のプロセスとデザイン(2)
5. 実査の方法
6. 調査票の作成
7. サンプリング
8. 調査の実施
9. データのコーディング・クリーニング
10. データの基礎集計
11. 統計的推測
12. 変数間の関連
13. 調査倫理とデータ管理
14. 社会調査の発展と今日的課題

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業後は資料や関連書籍を読み、不明な点がないか確認すること。学習した統計量の計算手順を復習し、その性質についての理解を定着させること。指定された文献等から、社会調査法に関する疑問点や論点を主体的に整理していくことが理解を深めることにつながる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/リアクションペーパー等による授業への参加度(30%)

テキスト (Textbooks)

・授業時に適宜レジュメを配布する。

参考文献 (Readings)

1. 轟亮・杉野勇・平沢和司編、2021、『入門・社会調査法[第4版]—2ステップで基礎から学ぶ』、法律文化社 (4589041413/978-4589041418)

2. 松本渉、2021、『社会調査の方法論』、丸善出版（4621306316/978-4621306314）

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

講義には数学の基礎的な知識も求められる。授業は図解等を併せて進めるが、不得意な履修者は講義前に参考書等にて当該内容についての十分な予習が求められる。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX310／比較法 (Comparative Law)		
担当者名 (Instructor)	貝瀬 幸雄(KAISE YUKIO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

法学の学習に必要な外国法についての基礎知識を修得するために、比較法の方法、比較法の隣接諸領域、法族論、法とグローバリゼーションなどのテーマを学習する。特にグローバリゼーションが比較法に及ぼす影響に注目する。不十分ではあるが、法学入門としての役割も果たしたい。

In order to acquire knowledge concerning foreign law which is needed for the study of law, students in this course will study the methods of comparative law, areas adjacent to comparative law, the doctrine of legal families, law and globalization, and other topics. In particular, this course will focus on the impact of globalization of comparative law. While it will be insufficient, it is hoped that this course will also play a role as an introduction to law.

授業の内容(Course Contents)

担当者が執筆したテキストブックを用い、その内容について詳しく講述する。比較法の基礎理論すなわち比較法原論が講義の中心となる。アメリカ比較法学を代表するマティアス・ライマンの比較法史および比較法総論研究を取り上げるとともに、イタリアの比較法学者ジュゼッペ・モナテリと比較法方法論も紹介したい。

This course will use the textbook written by myself. The lectures will focus on the basic theories of comparative law. As the second part of this lecture, I will analyze the study of comparative legal history by Prof. Mathias Reimann, or the method of comparative law written by Prof. Giuseppe Monateri.

授業計画(Course Schedule)

1. 比較法の意義
2. 比較法と隣接諸分野(1)
3. 比較法と隣接諸分野(2)
4. 比較法の方法(1)
5. 比較法の方法(2)
6. 法族論(1)
7. 法族論(2)
8. 法族論(3)
9. グローバル比較法学(1)
10. グローバル比較法学(2)
11. 歴史法学派とコモン・ロー(1)
12. 歴史法学派とコモン・ロー(2)
13. 歴史法学派とコモン・ロー(3)
14. 結論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

まずはテキストを読んできていただきたい。復習は丹念に行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 貝瀬幸雄、2019、『比較法学入門』、日本評論社

参考文献(Readings)

1. 貝瀬幸雄、2022、『現代アメリカ比較法学の行方』、日本評論社

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX323／国際ビジネス法総合1A (International Business Law 1A)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国境をまたいで行われるビジネスと法・紛争解決		
担当者名 (Instructor)	小川 和茂(OGAWA KAZUSHIGE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化するビジネス社会に対応できる人材、すなわち「リーガルマインド」「ビジネスセンス」「国際的な素養」の3つを兼ね備えた人材の育成を目標とする。

The objective of this course is to cultivate talented people who can accommodate the globalizing business society, or in other words people who combine a "legal mind", "business sense", and an "international grounding."

授業の内容 (Course Contents)

企業がグローバルにビジネス展開する場合、様々な法分野にまたがる問題が同時に発生する。そうした問題に対処可能な人材の育成を目指す。

学生には、単に講義を聴くだけでなく、現実の事例を素材とした具体的な設例の下、トラブルを解決する法的手段を考える、あるいはあるビジネスモデルの実現のための法的スキームを考えるといった課題が与えられる。

その課題は、様々な法分野にまたがっており、それぞれの分野の知見を有機的に組み合わせなければ答えは導けない。講義中の課題に際しては、複数の学生が自主的にチームを編成し、共同で作業を行うことが推奨される。

本講義は、「国際ビジネス法総合1B」及び「国際ビジネス法総合2」とセットである。

「国際ビジネス法総合1A」では、主に国境をまたいだビジネスを行う際に生じる法的問題を多角的に検討し、国際ビジネスの全体像を掴んでもらう。

「国際ビジネス法総合1B」では国際ビジネス契約を中心に、より具体的内容・事例に踏み込んだ講義が行われる予定である。

さらに、「国際ビジネス法総合2」で、様々な国際ビジネスに携わっている方々からの生の声を聞いて自身の知識をより確かなものにして欲しい。

When companies expand their business globally, problems spanning various legal fields can simultaneously occur. This course aims to cultivate talented people who can cope with such problems.

Students will not simply listen to lectures but be assigned problems that will require them to think of legal means to resolve problems based on specific examples using real cases as source materials or think of legal schemes to realize a certain business model.

Those problems span various legal fields and cannot be answered without organically combining the knowledge from each field. For problems assigned during lectures, it is recommended that multiple students independently form a team and work on them together.

These lectures are a set together with "International Business Law 1B" and "International Business Law 2."

In "International Business Law 1A", students engage in a multi-lateral examination of legal problems which occur primarily in businesses which span national borders to grasp an overall perspective of international business.

The lectures in "International Business Law 1B" are scheduled to venture deeply into more specific details and cases with a focus on international business contracts.

In addition, students in "International Business Law 2" are asked to listen to the thoughts and remarks of people involved with

various international businesses to create a more solid foundation for their own knowledge.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクションー国際ビジネスの全体像と法の役割、国際ビジネスと法の適用ー
2. 国際売買契約 1
3. 国際売買契約 2
4. 代理店・販売店 1
5. 代理店・販売店 2
6. 国際ビジネスと知的財産
7. 海外拠点の設立・運営 1
8. 海外拠点の設立・運営 2
9. 国際ビジネスと税
10. 紛争解決 1 国際商事仲裁 1
11. 紛争解決 2 国際商事仲裁 2
12. 紛争解決 3 投資条約仲裁 1
13. 紛争解決 4 投資条約仲裁 2
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストや関連資料を熟読し、設問等をあらかじめ解いた上で授業に臨むことが前提となる。
グループワークを行うことがあり、各グループごとに事前の打ち合わせを要する場合がある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(65%)/リアクションペーパー・発言内容(25%)/小課題(10%)
受講者の人数によっては、平常点はすべてリアクションペーパー・発言内容とすることがある。

テキスト (Textbooks)

1. 森下哲朗＝平野温郎＝森口聡＝山本卓、2017、『ケースで学ぶ国際企業法務のエッセンス』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-04679-5)
- 上記テキストのほか適宜資料を配布する

参考文献 (Readings)

1. 三菱商事株式会社法務部、三井物産株式会社法務部、住友商事株式会社法務部編、2021、『新・国際売買契約ハンドブック 第2版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-04689-4)
 2. 江頭憲治郎、2018、『商取引法・第8版』、弘文堂 (ISBN:978-4-335-31544-2)
 3. 神前禎＝早川吉尚＝元永和彦、2019、『国際私法・第4版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22131-4)
- 講義の中で適時指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX324／国際ビジネス法総合1B (International Business Law 1B)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバルなビジネスを展開する上で最適な契約スキームの検討と交渉戦略を学ぶ ～具体的なビジネス事例を取上げながら～		
担当者名 (Instructor)	石川 文夫(ISHIKAWA FUMIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

企業がグローバルなビジネスを展開する上で必要な契約スキーム及び契約交渉について、まずビジネスの内容を理解し、その上で最適な契約を選択し、交渉のスタイルを学ぶ。具体的な契約例も可能な限り活用し契約書の文言の意味、役割も理解出来るようにする。

. In this course, which aims to teach contract schemes and contract negotiations that are necessary for companies to do business on a global scale, the students will first understand the content of the business, then choose the contract that is most suitable for the business, and finally learn how to negotiate based on the contract. Court rulings on specific cases will be used as references so that the students will be able to understand the meanings and roles of the respective words used in contracts.

授業の内容 (Course Contents)

現実に発生しているビジネス事案(講師作成のケース、報道されているケース等)を使用し、ビジネスの内容を理解しながら最適な契約スキームを考えて契約交渉についても講義の中で実践して見たい。
また、具体的な契約書を使用しながら契約書を読みながら契約条文が理解出来るようにする。
海外、国内問わず、弁護士さんなど有識者を招いた話も聴く機会を設けたい。

Using examples of business situations currently observed (including those created by the lecturer and those covered by news reports), the students will consider the optimal contract scheme based on understanding of the business content and engage in simulated contract negotiations. The lecturer will teach them how to understand the meanings of the clauses contained in specific contracts, by reading contracts. The lecturer plans to invite both domestic and foreign lawyers and other specialists as guest speakers.

授業計画 (Course Schedule)

1. 講師自己紹介、本講座の狙い、全体日程の説明等を含めた講義概要説明
2. 契約書の位置付けと契約の種別説明、企業における基本的な業務フローの理解(ビジネスの発生から契約締結まで)
3. 日本の契約と欧米の契約の考え方の相違と契約書の違いについての理解
4. 知的財産(権)についての理解、ライセンスの理解
5. ビジネスを遂行する為に必要なコラボレーションの役割と理解
6. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース1
7. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース2
8. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース3
9. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース4
10. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース5
11. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース6
12. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース7
13. 専門分野の弁護士さんなど有識者による講演(テーマは別途検討し最適な題材を選択する。)
14. これまでの講義の纏め

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

講義の復習はすること。予習については事前に講義の中で翌週の内容を話すので予習を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/最終テスト(Final Test)(10%)/講義における発言、態度(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 石川文夫、2018、『企業間コラボレーションを成功させる契約交渉の進め方』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-25901-2)
参考文献などは講義の中で適宜話しをする予定。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX325／国際ビジネス法総合2 (International Business Law 2)		
担当者名 (Instructor)	早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

「リーガルマインド」「ビジネスセンス」「国際的な素養」の三つを兼ね備えたグローバル化するビジネス社会に対応可能な人材を育成する。

Create human resources with legal mind, business skills and international sense for the coming globalized business community.

授業の内容 (Course Contents)

本講義は、「国際ビジネス法総合1A・1B」と対をなすものである。日本企業が海外でビジネス展開した際に生ずるトラブルの解決や、あるビジネスモデルの海外での実現のための契約スキーム構築といった業務を日夜行なっている実務家の方々を中心に、様々なゲストスピーカーに順に登壇してもらい、そうした問題が何故生じるのか、その背後にある各国の法制度の差異はどのようなものなのか、さらにその背後にある各国の文化や社会の差異はどのようなものなのか、実例を通じて、米国編、欧州編、アジア編の大きく三つに分けて、各人にわかりやすく解説してもらうことになる。

各授業の後半は、学生との間における質疑応答に充てられる。講義への積極的な参加が期待される。

A guest speaker appears in each session, who serves as an intermediary between Japan and another country. He or she provide his or her experiences which occur in the differences of culture, legal system and social system between the two countries.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 米国法文化論1
3. 米国法文化論2
4. 米国法文化論3
5. 米国法文化論4
6. 欧州法文化論1
7. 欧州法文化論2
8. 欧州法文化論3
9. 欧州法文化論4
10. アジア法文化論1
11. アジア法文化論2
12. アジア法文化論3
13. アジア法文化論4
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習としては、取り上げられる国やその法制度・文化などを事前に調べ、また、復習としては、その国でゲストスピーカーが直面した問題が何故生じたのか、その背後にある各国の法制度の差異はどのようなものなのか、さらにその背後にある各国の文化や社会の差異はどのようなものなのかにつき整理・考察することが望まれる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

課題10回(100%)

テキスト (Textbooks)

講義の中で適宜指示する

参考文献 (Readings)

講義の中で適宜指示する

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX326／国際民事手続法 (International Civil Procedure)		
担当者名 (Instructor)	安達 栄司(ADACHI EIJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

国際的な要素を含む民事裁判手続の基本原則を理解すること。

The aim of this course is for students to understand the basic principles, including international elements, of civil court procedures.

授業の内容 (Course Contents)

国際民事訴訟法、国際倒産法、国際仲裁法について、近時の裁判例を紹介しながら、講義をする。

This course focuses on international civil litigation law, international insolvency law, and international arbitration law, with reference to recent court cases.

授業計画 (Course Schedule)

1. 国際民事訴訟法の全体像
2. 国際裁判管轄 (1)
3. 国際裁判管轄 (2)
4. 国際裁判管轄 (3)
5. 送達
6. 証拠調べ
7. 手続は法廷地法による原則
8. 外国判決の承認執行 (1)
9. 外国判決の承認執行 (2)
10. 国際倒産における問題の所在
11. 外国倒産承認援助法
12. 国際商事仲裁の意義
13. 仲裁判断の執行
14. 国際民事訴訟法の統一化、ハーグ条約、EU 法

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

参考資料を読むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験 (Written Exam) (100%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 道垣内正人・中西康編、2021、『国際私法判例百選 [第3版]』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-11556-9)
2. 早川吉尚ほか、2019、『国際私法 [第4版]』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22131-4)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

講義資料は、グーグルドライブに掲載する。紙での配付はしない。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX330／国際経済法 (International Economic Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際貿易、投資、通貨・金融に関する国際的規律と国際紛争		
担当者名 (Instructor)	濱田 太郎(HAMADA TARO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

国境を越えた貿易・投資に対する公法的規制、通貨・金融に関する国際制度、それらの紛争事例に関する基礎的知識を習得する。

You will acquire basic knowledge of the international economic law: international regulations and major disputes on trade in goods and service, international protection of investment, international systems on currency and development finance, etc.

授業の内容 (Course Contents)

経済がグローバル化し、人、物品・サービス、資本は日常的に国境を越えて移動している。環境保護、感染症、移民・難民問題、強制労働・児童労働等に対処するため各国は国際協力を推進していく必要がある。しかし、米国・中国の経済覇権の争い、通商摩擦の深刻化、イギリスの欧州連合からの脱退等を見ても、国際社会は順調に統合の方向に向かっているわけではない。この授業は、国際法・国際経済法が、地球規模の課題の解決に向けて果たす役割について考察する。

この授業は、物品及びサービス貿易の中心的な規律であるガット・WTO 法を解説する。二国間投資条約の主要規律/紛争事例、国際通貨・金融制度、国際競争法、二重課税・国際的租税回避、外国公務員贈賄・国際資金洗浄についても解説を行う。

People, goods and services, and capital are moving across borders in the global economy.

Sovereign states should promote international cooperation to deal with global issues: environmental protection, infectious diseases, immigration and refugee, forced labor, child labor etc. However, the international community is not always moving toward integration, as we see it in our daily news: hegemonistic struggle and trade war between the United States and China, the withdrawal of the United Kingdom from the European Union etc.

This course will examine any positive role of the international law and international economic law in resolving these global issues. It will examine the law and policy of international trade in goods and services. It begins with the basic GATT and WTO rules: tariff and non-tariff barriers, non-discrimination, trade remedies, standards and safety, trade-aspects of intellectual property rights, government procurement etc. as well as the dispute settlement mechanism of the WTO and regional trade agreements. We will discuss some current trade politics: preferential treatment for developing countries, trade and environment, national security, labor and human rights etc. This course will also provide an overview of the foundational aspects of (i) protection of international investments and investors and states dispute settlement mechanism of bilateral investment treaties, (ii) the IMF and IBRD, (iii) competing national jurisdictions on competition law, (iv) double taxation and international tax avoidance as well as (v) international regulations against bribery of foreign officials and against international money laundering.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション、国際経済法の内容、国際法と国内法、国家管轄権
2. ブレトンウッズ・ガット体制の成立と展開(1)
3. ブレトンウッズ・ガット体制の成立と展開(2)
4. WTO の組織と紛争解決手続(1)
5. WTO の組織と紛争解決手続(2)
6. WTO 協定の国内実施
7. WTO 協定の基本的規律(1)
8. WTO 協定の基本的規律(2)
9. WTO と通商救済制度(1)
10. WTO と通商救済制度(2)
11. WTO 体制における農業貿易
12. WTO 体制における TBT/SPS 協定(1)
13. WTO 体制における TBT/SPS 協定(2)
14. WTO 体制におけるサービス貿易
15. WTO 体制における知的財産権保護
16. WTO 体制における複数国間協定－政府調達協定
17. 地域主義と WTO 体制(1)

18. 地域主義とWTO体制(2)
19. WTOと途上国
20. WTO体制と非貿易的価値(1)環境、安全保障
21. WTO体制と非貿易的価値(2)労働、人権
22. 国際投資法(1)
23. 国際投資法(2)
24. 国際競争法―管轄権の抵触とその問題点
25. 国際通貨・金融制度(1)
26. 国際通貨・金融制度(2)
27. 国際租税法―国際的二重課税と国際的租税回避の諸問題
28. 国際経済刑法―外国公務員に対する賄賂の取締り、マネーロンダリングに対する規制

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:講義は指定テキストに沿って行うので、事前に指定テキストを熟読しておくこと。

復習:講義時に記したノートに従い指定教科書のポイント(キーワード及び論点)を理解すること

・米国第1主義によるWTO上級委員会の麻痺、米中貿易摩擦等、近年の国際経済法は激動の時代を迎えている。WTO、TPP、FTAなどに関するニュースにぜひ注目してほしい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/ノート提出(10%)

平常点は授業態度を評価するものであるが、毎回のノートの提出をもって代える。提出方法は授業中に指示する。

テキスト(Textbooks)

1. 中川淳司他、2019、『国際経済法(第3版)』、有斐閣 (ISBN:4641046832)

参考文献(Readings)

1. 関根 豪政、2021、『国際貿易法入門 ―WTOとFTAの共存へ』、筑摩書房 (ISBN:4480074147)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

○経済産業省通商政策局編「不公正貿易報告書」(各年度版)

経済産業省のホームページからダウンロード可

○担当教員へのアクセス

メールアドレス: thamada at isc.senshu-u.ac.jp

※at を@に置き換えてください

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX350／日本外交論 (Diplomatic History of Japan)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	戦後日本を形作った対外関係		
担当者名 (Instructor)	三浦 俊章(MIURA TOSHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代の日本外交のかかえる課題について包括的な知識を得る。あわせて主な二国間関係について歴史的な歩みを学ぶ。

To get a general picture of contemporary Japanese diplomacy from a historical perspective

授業の内容 (Course Contents)

ジャーナリストとして30年以上にわたって日本の政治と外交を取材してきました。冷戦の終結、同時多発テロとイラク戦争、中国の台頭…激動する内外情勢を第一線から報道する中で、たえず頭にあったのは、日本はどのような国であるべきか、日本は世界でどういう役割を担うべきかという問いでした。そうした問題意識を、歴史の文脈でとらえ直して、日本外交を論じたいと思います。

The lecturer is a journalist with 30 years' experience of covering Japanese politics and diplomacy. The course deals with such themes as the end of the Cold War, 9/11 and the war in Iraq, and the rise of China, on which the lecturer had hands-on experience.

授業計画 (Course Schedule)

1. 導入／外交とは何か
2. 日本外交の条件
3. 日米関係1／戦前期
4. 日米関係2／占領から講和まで
5. 日米関係3／60年安保改定と密約
6. 日米関係4／沖縄返還とニクソンショック
7. 日米関係5／ポスト冷戦
8. 日中関係／国交正常化とその後
9. 日本と朝鮮半島／歴史の重み
10. 日ロ関係／北方領土交渉
11. 日本と国連／マルチ外交への挑戦
12. 外交と軍事力／安全保障のジレンマ
13. 外交と世論／ナショナリズムにどう向き合うか
14. まとめ／外交力強化のために

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)／リアクションペーパー(20%)

テキスト (Textbooks)

プリント配布などによりテキストは使用しない。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Power Point を利用した講義形式で、随時映像資料などを用いる。リアクションペーパーについては、次回の授業開始時に、全体的な講評を行います。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX360／平和研究 (Peace Studies)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	軍拡、武力紛争、人権侵害から考える		
担当者名 (Instructor)	大串 和雄(OHGUSHI KAZUO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

世界を脅かす戦争や核兵器、発展途上地域の国内武力紛争、国家による人権侵害の実態およびメカニズムについて知るとともに、それらの問題について考えるための視点を学ぶ。

This course aims to provide information on wars, nuclear weapons, civil wars in developing regions, and human rights violations, and to develop skills to analyze those phenomena.

授業の内容 (Course Contents)

第Ⅰ章においては、授業を通じて踏まえておくべき視点と平和研究の歴史について短く紹介する。第Ⅱ章においては、戦争や軍拡(特に核軍拡)、及びそれに関連する抑止論の問題点を考察する。第Ⅲ章においては、発展途上地域を主として念頭に置きつつ、国家による弾圧や国内武力紛争のメカニズムを考察する。第Ⅳ章においては、ラテンアメリカを対象を絞り、人権侵害の実態と、その加害者に対する責任追及について考察する(第Ⅳ章は時間に余裕のある限りで扱う)。

「授業計画」に記載したのは、各回ごとの内容ではなく、授業全体の構成である。どの授業でどのテーマを扱うかは授業の進捗による。

Chapter I will briefly introduce the history of Peace Studies and the perspectives which should be kept in mind throughout the course. Chapter II will examine war and arms buildup (especially nuclear arsenals) as well as the problems inherent in the deterrence policy. Chapter III will examine the mechanisms of human rights violations by the state and internal armed conflicts, primarily focusing on developing regions. Chapter IV will narrow the focus to Latin America to examine the current state of human rights violations and the pursuit of liability against the perpetrators. Chapter IV may be partially skipped due to time constraints.

The description listed in the "course schedule" covers the overall class structure and not the details for each session. The topics which are covered in a particular class will be determined by the class progress.

授業計画 (Course Schedule)

- Ⅰ. 序論—世界政治の見方
- § 1-1 人間中心の視座
- § 1-2 認識能力と感受性、§ 1-3 平和研究
- Ⅱ. 戦争と軍拡
- § 2-1 戦争の歴史
- § 2-2 軍備拡大の力学
- § 2-3 抑止論、§ 2-4 核軍備管理・軍縮、 § 2-5 現実主義と理想主義
- Ⅲ. 発展途上地域の紛争と暴力
- § 3-1 人権侵害
- § 3-2 対反乱作戦
- § 3-3 民族紛争
- Ⅳ. ラテンアメリカの人権問題
- § 4-1 人権侵害の実態とメカニズム
- § 4-2 加害者の不処罰と責任追及

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

シラバスの参考文献および授業で紹介される参考図書のうち、自らの関心と必要に応じて読むことが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

授業中などで特に優れた質問やコメントがあった場合には別途加点することがある。

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。

参考文献(Readings)

1. 多賀秀敏、2020、『平和学入門 1—平和を理解するための思考のドリル』、勁草書房 (978432602895)
2. 多賀秀敏、2020、『平和学入門 2—平和を理解するための思考のドリル』、勁草書房 (ISBN:9784326302949)
3. 石田勇治・武内進一編、2011、『ジェノサイドと現代世界』、勉誠出版 (ISBN:9784585225119)
4. 藤原帰一・大芝亮・山田哲也編、2011、『平和構築・入門』、有斐閣 (ISBN:9784641049949)
5. 反戦イラク帰還兵の会、アーロン・グランツ、2009、『冬の兵士—イラク・アフガン帰還米兵が語る戦場の真実』、岩波書店 (ISBN:9784000246514)
6. 大串和雄編、2015、『21 世紀の政治と暴力—グローバル化、民主主義、アイデンティティ』、晃洋書房 (ISBN:9784771025981)
7. 歴史的記憶の回復プロジェクト編、2000、『グアテマラ 虐殺の記憶—真実と和解を求めて』、岩波書店 (ISBN:9784000004480)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

授業は講義形式である。Blackboard を通じて授業のレジュメ等を配布する。パワーポイントは使用しない。ドキュメンタリーを 2 本程度視聴することを予定している。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX371／環境法1 (Environmental Law 1)		
担当者名 (Instructor)	清水 知佳(SHIMIZU CHIKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

環境法は 1993 年に制定された環境基本法を頂点として生成されたが、現在においても、地球温暖化や原子力災害という事象を受け刻々と法整備が図られている。本講義では、環境法の複雑な体系を捉え、そこに存在する環境法固有の理念・目標、方法の理解を目指す。

Environmental Law has developed since the Basic Environment Law was enacted in 1993, but legislation is still at present continually coming together in response to matters such as global warming and nuclear disasters. The lectures will aim to capture the complex structure of Environmental Law and understand the principles, goals, and methods which are specific to Environmental Law.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、環境法がどのような特徴をもっており、どのような基本原則に基づいてどのような仕組みをもっているのか、について個別法令に共通する考え方を学ぶ。環境法が公害法から拡大し、いかに発展を遂げてきたのかについて丁寧に追いつながら、今日における各種環境問題への法的解決を学んでいく。

In the lectures, students will learn about the characteristics, basic principles, and mechanisms of Environmental Law by studying the common approach shared in respective laws and ordinances. Students will learn about the legal resolutions to various types of environmental problems happening today while carefully tracing how Environmental Law expanded and developed from Public Nuisance law.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス 環境とは
2. 現代の環境問題
3. 環境法の生成(①公害法)
4. 環境法の生成(②足尾銅山鉱毒)
5. 環境法の生成(③日立煙突)
6. 環境法の生成(④水質二法)
7. 環境法の生成(⑤公害対策基本法)
8. 環境法の生成(⑥公害国会)
9. 環境法の生成(⑦国際協調)
10. 環境法の執行 大気汚染
11. 環境法の執行 若者のアクション
12. 環境法の執行 廃棄物
13. 環境法の執行 自然保護
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回の講義にて、次回の講義内容を予告するので、各自それに関連した新聞報道、ニュース等を調べておくとい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

特に指定なし

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX372／環境法2 (Environmental Law 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	環境に関する法制度の概要／環境に関する民事紛争の解決		
担当者名 (Instructor)	手塚 一郎(TEZUKA ICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

環境法と呼ばれる法領域のうち、特に私法(民事法)分野について、その基礎を理解し、具体的な諸問題に対応するための知識を修得することが、この講義の到達目標です。

The objectives of this course are to specifically understand the fundamentals of the field of private law (civil law) within the legal area called Environmental Law and to acquire the knowledge to handle various specific problems.

授業の内容(Course Contents)

この授業では国内環境法に関する主要トピックをもれなく取り上げますが、その際に環境に関する私法上の紛争とその解決を主題とします。例えば、工場から排出された煤煙や廃水が周辺地域を汚染し、近隣住民に健康被害が生じた場合に提起される損害賠償請求や差止請求といった民事訴訟が主な検討素材となります。授業はテキストによる予習を前提として、事前に提示する資料に沿って行われます。

現代の環境法においては公法(行政法)分野の重要性が非常に高くなっていますので、トピックによっては公法分野の法制度・政策についても解説しますが、時間の制約から概要にとどまりますので、テキストや参考文献を活用しつつ自習によって補ってください。

なお、別科目である「環境法1」の内容と深く関連し、内容が重複する場合もありますが、相互に独立した科目であり、単独での履修が可能です。

This class will fully cover the primary topics concerning Environmental Law in Japan, but the main subjects at that time will be private law disputes about the environment and their resolutions. For example, the study materials will primarily consist of damage claims, injunctions, and other civil litigation raised in cases where smoke and wastewater is emitted from a factory, pollutes the surrounding region, and damages the health of nearby residents. Students will need to prepare in advance by reading the textbook, and classes will be conducted according to the lecture summary provided ahead of time.

The field of public law (administrative law) is becoming extremely important within contemporary environmental law, so an explanation of legal systems and policies within the field of public law will be provided depending on the topic. However, such explanations will be limited to an overview due to time restrictions, so please use the textbook and reference literature to supplement your studies on your own.

Furthermore, this course is deeply interconnected with the separate discipline of "Environmental Law 1", so the content may overlap at times, but they are independent courses that can be taken separately.

授業計画(Course Schedule)

1. 公害・環境法の歴史／環境法の体系
(テキスト1・2章)
2. 環境法の理念・原則
(テキスト3章)
3. 環境法における主体／環境政策の手法
(テキスト4・5章)
4. 環境アセスメント
(テキスト6章)
5. 環境紛争解決のための諸制度
(テキスト7章)
6. 公害規制①大気汚染
(テキスト8章)
7. 公害規制②水質汚濁
(テキスト9章)
8. 公害規制③土壌汚染
(テキスト10章)
9. 循環管理(廃棄物処理を中心に)

- (テキスト 11 章)
10. 化学物質管理
(テキスト 12 章)
 11. 自然保護
(テキスト 13 章)
 12. 都市景観の保護
(テキスト 14 章)
 13. 地球温暖化への対処
(テキスト 15 章)
 14. 講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

不法行為法に関する基礎知識が身に付いていると本科目の講義内容の理解に役立ちますので、参考書を用いた自習や「民法(3)」の履修を推奨します。

開講後の毎回共通の(最低限の)予習・復習は、授業計画に記載したテキストの範囲を(授業前および授業後に)通読することです。必要に応じて語句や条文の確認も行ってください。また、資料等は原則としてデジタルデータとして Google Classroom を通じて配布します。紙媒体が必要な場合には履修者自身がダウンロードして印刷し活用してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/小テスト(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 大塚直(編)、2018、『18 歳からはじめる環境法(第 2 版)』、法律文化社 (ISBN:9784589038838)

参考文献(Readings)

1. 大塚直・北村喜宣編、2018、『環境法判例百選(第 3 版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115408)
2. 野澤正充、2020、『事務管理・不当利得・不法行為(セカンドステージ債権法Ⅲ)(第 3 版)』、日本評論社 (ISBN:9784535524309)

授業では環境私法分野の主要な判決に言及しますが、それらを概観するには上記 1 のような判例集が便利です。また、本科目は民法(特に不法行為法)に基づく紛争解決を主要なテーマとしていることから、上記 2 のような不法行為法に関する参考書が授業内容の理解に役立ちます。

参考文献の購入は必須ではありませんが、不法行為法に関する標準レベルの参考書を用意して適宜参照するように心掛けてください。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

授業運営に主として Google Classroom を利用します。履修者は Classroom 上の本科目の「クラス」に参加し、内容を定期的に確認してください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX400／知的財産法 (Intellectual Property Law)		
担当者名 (Instructor)	長谷川 遼(HASEGAWA RYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

著作権法と特許法を中心に、知的財産法を学びます。

The objective of this course is to learn about Intellectual Property Law with a focus on Copyright Law and Patent Law.

授業の内容 (Course Contents)

知的財産法は、著作物や発明といった財産としての情報を扱う分野です。私たちの身の回りには、マンガや映画、お掃除ロボットやスマートフォンなど、様々な著作物や発明が溢れており、日々の生活を楽しく便利にしてくれています。こうした有益な情報を生み出す人々に、経済的対価を得るための仕組みを提供し、情報の創出を奨励するのが著作権法や特許法です。他方で、著作にしても発明にしても、創作活動は常に先人の業績の上に成り立ちます。そのため、単に権利を強化するだけでは、かえって後発の創作活動を委縮させてしまうことになりかねません。また、我々情報の利用者に不当に不便を強いるようでは、本末転倒です。そこで、どのように制度を設計し、いかにその制度を解釈すれば、適切なバランスを達成できるのかが問題となります。そして、この点を考究するのが著作権法学や特許法学なのです。講義では、これらの法分野に関する制度や議論を一通り学んでいきます。

民法1～3(とりわけ物権法と不法行為法)や民事訴訟法での基礎的な学習内容を前提とするので、それらの科目を履修済みか履修中、あるいは、自習済みか自習中であると、理解に役立ちます。ただし、適宜前提知識の説明も行うので受講条件にはしていません。

Intellectual Property Law is a field which covers information such as literary works and inventions as assets. We are surrounded by an abundance of various original creative works and inventions such as comics and movies, cleaning robots, and smartphones that make our daily lives enjoyable and convenient. Copyright Law and Patent Law provide the people who create such useful information with a system to receive economic compensation that encourages the creation of such information. On the other hand, both original creative works and inventions always built on the creative activities of their predecessors. Therefore, simply strengthening rights would have the opposite effect of stunting later creative activities. Moreover, unfairly inconveniencing those of us who use such information would be putting the cart before the horse. Therefore, the questions of how to design the system, how to interpret that system, and how to achieve an appropriate balance become key issues. The fields of Copyright Law and Patent Law investigate these particular points. During the lectures, students will broadly study the systems and debates concerning these legal fields.

This course presumes that students have studied the fundamentals of Civil Law 1 through 3 (especially Property Law and Tort Law) and Civil Procedure Law, so it will be helpful for your understanding if you have taken/are taking those disciplines or have studied/are studying them on your own. However, an explanation of presumed knowledge will also be provided as needed, so those courses are not prerequisites.

授業計画 (Course Schedule)

1. 知的財産法入門／著作権法入門
2. 権利の客体1——著作物性
3. 権利の客体2——著作物性とその保護範囲の関係
4. 非著作物の保護
5. 権利の主体
6. 著作財産権の内容1
7. 著作財産権の内容2
8. 著作財産権の制限1
9. 著作財産権の制限2
10. 著作財産権の存続期間
11. 著作財産権に基づく経済活動
12. 著作者人格権の内容と制限
13. 権利の救済1
14. 権利の救済2
15. 特許法入門
16. 権利の客体1——発明性

17. 権利の客体2——特許要件1
18. 権利の客体3——特許要件2
19. 権利の主体
20. 出願・審査・査定・登録
21. 拒絶査定不服審判・特許異議・無効審判・訂正審判
22. 審決等取消訴訟
23. 特許権の内容1
24. 特許権の内容2
25. 特許権の制限
26. 特許権の存続期間／特許権に基づく経済活動
27. 権利の救済1
28. 権利の救済2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回講義において、次の講義で扱う教科書の範囲と裁判例を摘示するので、次回までにそれらを読み込んでおくことが要求されます。

なお、講義開始前に知的財産法の分野全体の概要を掴んでおきたい方には、小泉・後掲書を読んでおくことをお勧めします。また、著作権法の分かりやすい入門書としては、福井・後掲書をお勧めします。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 島並良・上野達弘・横山久芳、2021、『著作権法入門〔第3版〕』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-24327-9)
2. 島並良・上野達弘・横山久芳、2021、『特許法入門〔第2版〕』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-24350-7)

参考文献(Readings)

1. 小泉直樹、2010、『知的財産法入門(岩波新書)』、岩波書店 (ISBN:978-4004312666)
2. 福井健策、2020、『改訂版 著作権とは何か 文化と創造のゆくえ(集英社新書)』、集英社 (ISBN:978-4087211160)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX411／租税法1 (Tax Law 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	個人課税(所得税、相続税)		
担当者名 (Instructor)	浅妻 章如(ASATSUMA AKIYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

個人に課せられる所得税・相続税を体系的に勉強する。租税法の仕組みの概要を知る。特に、所得の操作ということについて、イメージできるようになる。法律と政策論との関わりを理解する。

The objective of this course is the systematic study of income tax and inheritance tax which are imposed on individuals. Students will understand an overview of the mechanisms of tax law. In particular, students will become able to have images in which how income is shifted. Students will understand the connection between laws and political discussions.

授業の内容(Course Contents)

概ね教科書に沿って、所得税・相続税を扱います。

租税法を勉強する意義は、大きく言ってふたつあります。実学の側面と公平の側面です。第一に、民法・商法等で幾つかの法形式を教わったことと思いますが、その法形式の選択次第では税負担が重くなったり軽くなったりすることがあります。納税者の立場からは、どのようにすれば余計な税負担を負わないようにすることができるかを、課税する方の立場からは納税者が租税を免れようとする時に何を考えているのかを、学ぶ必要があります。この実学の側面は、主に解釈・運用の場面に関わります。

第二に、税負担の配分は、どのようにするのが公平に適用かという哲学的な問いをも、租税法は含んでいます。何が公平かについて生の価値判断を述べることは法律家のよくするところではありませんが、公平について議論する際の考慮事項は、今後皆さんが主権者として政策決定に関わる際に知っておくべき事柄です。公平の側面は、主に立法論・政策論に関わります。

The class will generally follow the textbook and cover income tax and inheritance tax.

Studying tax law has significance for two major reasons. There is the practical aspect and the fairness aspect. First, students are expected to have learned legal forms in classes of Civil Law, Commercial Law and etc., and the tax burden can be increased or decreased depending on the selected legal form. From the standpoint of taxpayers, students have to learn how to not carry an excessive tax burden, and from the standpoint of the tax agency, students have to learn what taxpayers are thinking when they try to avoid taxation. This practical aspect is primarily concerned with interpretation and implementation.

Secondly, tax law also includes the philosophical inquiry how distributive fairness of tax burden is approached. Lawyers do not frequently state concrete value judgments about what is fair, but students should understand the matters under consideration in debating fairness when they are in charge of deciding policy in the future. The fairness aspect is primarily concerned with legislative and political discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. 1・2章租税法律主義
2. 2章租税の手続
3. 4章所得概念
4. 4章課税単位
5. 4章所得分類(譲渡所得)
6. 4章所得分類(譲渡所得)
7. 4章所得分類(給与所得等)
8. 4章所得税と相続税の調整
9. 4章収入金額・必要経費
10. 4章所得の年度帰属
11. 4章所得の人的帰属
12. 4章マイナス項目
13. 7章相続税
14. 7章贈与税

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

租税法は、会計や税務ではなく【法学】の一つとして勉強するものですので、民法・会社法・行政法など、法学部の基本科目について履修済みまたは並行して履修しておくことが望ましいです。

予習したい方→ <http://www.rikkyo.ne.jp/web/asatsuma/sozeihou.html>

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 中里実他、2021、『租税法概説 4 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641228191)

参考文献 (Readings)

1. 金子宏、2021、『租税法 24 版』、弘文堂 (ISBN:978-4335315558)
2. 中里実他、2021、『租税判例百選 7 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641115538)
3. 中里実他、2021、『租税法判例六法 5 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641001572)
4. 佐藤英明、2022、『スタンダード所得税法 3 版』、弘文堂 (ISBN:978-4335359002)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

<http://www.rikkyo.ne.jp/web/asatsuma/kakokougi.html> から過去問(司法試験考査委員であった期間を除く)を見ることができます。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX412／租税法2 (Tax Law 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業課税(法人税、付加価値税、国際課税)		
担当者名 (Instructor)	浅妻 章如(ASATSUMA AKIYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業に課せられる法人税・消費税(講学上は付加価値税と呼ばれる)を体系的に勉強する。租税回避を勉強する。国際課税を勉強する。

The objective of this course is the systematic study of the corporation tax and consumption tax (also called a value-added tax in scholarly circles) which are imposed on enterprises. Students will study tax avoidance. Students will study international taxation.

授業の内容(Course Contents)

教科書の5章(法人税)、6章(消費税)、8章(国際課税)、2～3章(租税法の解釈等)を扱います。

租税法を勉強する意義は、大きく言ってふたつあります。実学の側面と公平の側面です。第一に、民法・商法等で幾つかの法形式を教わったことと思いますが、その法形式の選択次第では税負担が重くなったり軽くなったりすることがあります。納税者の立場からは、どのようにすれば余計な税負担を負わないようにすることができるかを、課税する方の立場からは納税者が租税を免れようとする時に何を考えているのかを、学ぶ必要があります。この実学の側面は、主に解釈・運用の場面に関わります。

第二に、税負担の配分は、どのようにするのが公平に適用かという哲学的な問いをも、租税法は含んでいます。何が公平かについて生の価値判断を述べることは法律家のよくするところではありませんが、公平について議論する際の考慮事項は、今後皆さんが主権者として政策決定に関わる際に知っておくべき事柄です。公平の側面は、主に立法論・政策論に関わります。

The classes will cover Chapter 5 (corporation tax), Chapter 6 (consumption tax), Chapter 8 (international taxation), and Chapters 2 through 3 (interpretation of tax law) in the textbook.

Studying tax law has significance for two major reasons. There is the practical aspect and the fairness aspect. First, students are expected to have learned several legal forms in classes of Civil Law, Commercial Law, and etc., and the tax burden can be increased or decreased depending on the selected legal form. From the standpoint of the taxpayer, students have to learn how to not carry an excessive tax burden, and from the standpoint of the tax agency, students have to learn what the taxpayers are thinking when they try to avoid taxation. This practical aspect is primarily concerned with interpretation and implementation. Secondly, tax law also includes the philosophical inquiry how distributive fairness of tax burden is approached. Lawyers do not frequently state concrete value judgments about what is fair, but students should understand the matters under consideration in debating fairness when they are in charge of deciding policy in the future. The fairness aspect is primarily concerned with legislative and political discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. 5章法人税(益金)
2. 5章法人税(損金1)
3. 5章法人税(損金2)
4. 5章法人税(同族会社)
5. 5章法人税(出資・分配・組織再編成)
6. 6章消費税(仕組み)
7. 6章消費税(政策論)
8. 8章国際課税(国際的二重課税)
9. 8章国際課税(非居住者・外国法人に対する課税)
10. 8章国際課税(居住者・内国法人に対する国際的二重課税の排除)
11. 8章国際課税(移転価格・過小資本・過大支払利子)
12. 8章国際課税(タックスヘイヴン)
13. 2～3章租税行政過程・租税争訟
14. 3章租税法の解釈(租税回避)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

租税法は、会計や税務ではなく【法学】の一つとして勉強するものですので、民法・会社法・行政法など、法学部の基本科目につ

いて履修済みまたは並行して履修しておくことが望ましいです。租税法1履修は必須要件ではありませんが、租税法1履修済みであることが望ましいです。

予習したい方→ <http://www.rikkyo.ne.jp/web/asatsuma/sozeihou.html>

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 中里実他、2021、『租税法概説 4 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641228191)

参考文献 (Readings)

1. 金子宏、2021、『租税法 24 版』、弘文堂 (ISBN:978-4335315558)
2. 中里実他、2021、『租税判例百選 7 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641115538)
3. 中里実他、2021、『租税法判例六法 5 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641001572)
4. 渡辺徹也、2019、『スタンダード法人税法 2 版』、弘文堂 (ISBN:978-4335357671)
5. 佐藤英明・西山由美、2022、『スタンダード消費税法』、弘文堂 (ISBN:978-4335359156)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<http://www.rikkyo.ne.jp/web/asatsuma/kakokougi.html> から過去問(司法試験考査委員であった期間を除く)を見ることができます。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX420／比較憲法 (Comparative Constitutional Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国家と法の基本問題		
担当者名 (Instructor)	原田 一明(HARADA KAZUAKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

日本国憲法の解釈・実践のあり方を、他国の憲法体制との比較のなかで検討し、日本国憲法の立ち位置や抱える問題などを明らかにするとともに、憲法学のより深い理解へとつなげる。

The objectives of this course are to examine the interpretation and ideal practice of Japanese Constitutional Law within the context of a comparison to constitutional systems in other countries and to clarify the position and problems faced by Japanese Constitutional Law while deepening the students' understanding of the study of constitutional law.

授業の内容 (Course Contents)

憲法体制の歴史的展開をタテ系に、そして現在の国際的展開をヨコ系に、「タテ」と「ヨコ」の比較を念頭に置きつつ、人権論・国家組織論における主要問題をテーマとして憲法体制の比較検討を行う。従来の比較憲法学における主要比較対象国であったイギリス・アメリカ・ドイツ・フランスを中心に取り上げる。

The classes will engage in a comparative review of constitutional systems to focus on the major problems in human rights theory and polity theory while keeping in mind a comparison of the vertical strands of the historical development of the constitutional system and the horizontal strands of contemporary international development. Classes will focus on the countries which are typically used for comparison (England, America, Germany, and France) in conventional Comparative Constitutional Law.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 国家について考える；天災と憲法
3. 立憲君主制の現在
4. 権力分立の原理
5. 法の支配
6. 非常事態と法
7. 憲法と政党
8. 二院制
9. 議院内閣制
10. 違憲審査制(1)
11. 違憲審査制(2)
12. 憲法改正問題(1)
13. 憲法改正問題(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

初回の講義後、適宜次週の講義に向けての課題を指示するので事前に予習すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト (Textbooks)

1. 笹田栄司編、2019年、『トピックからはじめる統治制度 第2版』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-22780-4)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX425／法政ゲートウェイ講義(公務入門) (Gateway to Law and Politics(Introduction to Public Service))		
担当者名 (Instructor)	原田 久(HARADA HISASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本授業のゴールは、受講生が公務部門への就職に向けた具体的な行動をとることである。

The goal of this course is for the students enrolled to take specific steps to find employment in the public sector.

授業の内容(Course Contents)

本授業は、公務員制度に関するパート(第2回～第7回)とゲストスピーカーをお迎えするパート(第8回～第14回)の二つのパートから構成される。授業の前半では、受講者の人生ではほとんど無縁であった公務員制度を取り上げる。授業の後半では、ゲストスピーカーとの質疑応答を通じて就職先としての公務員の魅力を伝えていきたい。

The classes will consist of two parts. The first part involves the civil service system (sessions 2 through 7), and the second part will feature guest speakers (sessions 8 through 14). The first half of the class will cover the civil service system, which is a system that students have almost no contact with. The second half will convey the appeal of employment as a civil servant through presentations and Q&A sessions with guest speakers.

授業計画(Course Schedule)

1. 公務入門:授業の進め方、法学部生としてのアカデミック・スキル
2. 公務入門 1:公務員の種類
3. 公務入門 2:公務員の給与
4. 公務入門 3:公務員の昇進
5. 公務入門 4:公務員の退職
6. 公務入門 5:公務員の意欲
7. 公務入門 6:公務員の倫理
8. 就職先としての公務 1:国家公務員試験の概要
9. 就職先としての公務 2:女性国家公務員のキャリア形成
10. 就職先としての公務 3:本学における公務員試験受験者向けキャリア支援
11. 卒業生からみた公務の世界 1:国家公務員(内閣府)
12. 卒業生からみた公務の世界 2:地方公務員(東京都庁)
13. 卒業生からみた公務の世界 3:地方公務員(豊島区)
14. 卒業生からみた公務の世界 4:地方公務員(前橋市役所)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義終了後、①授業で知ったことと②講義に触発されてとった具体的な行動をそれぞれ200字以上でWordで作成の上、「Canvas LMS」を通じて提出すること(締切期限は講義翌週の月曜23時59分(受信時))。期限後のメールによる提出は他の学生にアンフェアになるので受け付けない。期限内のコメントペーパー提出をもって出席とする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(25%) / 中間レポート(25%) / 講義後のコメントペーパー(50%)

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 原田久、2022、『行政学〔第2版〕』、法律文化社 (ISBN:4589041951)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／法政ゲートウェイ講義(ビジネスとメディア) (Gateway to Law and Politics(Business and Media))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現役ジャーナリストによる時事解説と体験的日本経済の解説		
担当者名 (Instructor)	土屋 直也(TSUCHIYA NAOYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 250 名		

授業の目標(Course Objectives)

就職して社会に出て行き、責任ある社会人になるための準備として時事問題に身近に接することができるよう直近のニュースや政治経済問題の実例を挙げ、解説・分析していく

The objective of this course is to cite, explain, and analyze examples from the recent news and problems in the political economy so that students become more familiar with current topics as a form of preparation for finding employment and going out into the world as a responsible member of society.

授業の内容(Course Contents)

毎回、直近1～2週間で報道された時事トピックを取り上げて解説するほか、法学部生がビジネスや法・政治に関して知っておくべき重要テーマ(例、法改正のビジネスに与える影響、企業倒産の法的側面、アジア経済と日本経済など)を講義する。時々刻々変化する世界の旬なニュースをとらえて講義するため、講義内容を予告することはできない。(時々、ジャーナリストなどゲストを招く)

In addition to covering and explaining current topics reported during the past one to two weeks, each class will lecture about important topics concerning business, law, and politics that students in the College of Law and Politics should know (for example, the impact of legal reforms on business, the legal aspects of corporate bankruptcy, as well as Asian economies and the Japanese economy). Because the lectures will cover the latest global news as it changes minute by minute, it is not possible to announce the lecture details in advance. (Journalists will occasionally be invited as guest speakers)

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説1
3. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説2
4. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説3
5. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説4
6. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説5
7. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説6
8. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説7
9. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説8
10. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説9
11. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説10
12. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説11
13. 直前週のニュース解説1＋重要テーマの解説12
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ニュースをよく読むこと。復習もかねて、授業で扱ったケースや関連する分野、興味を持った問題について各自調べることが期待される

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(25%)／中間レポート(25%)／出席時の態度とリアクションペーパー(50%)
成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX427／法政ゲートウェイ講義(司法職入門) (Gateway to Law and Politics(Introduction to Legal Profession))		
担当者名 (Instructor)	野澤 正充(NOZAWA MASAMICHI) 濱野 亮(HAMANO RYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本授業の目標は、受講生が弁護士、裁判官、検察官、司法書士、弁理士など司法関係専門職等および司法制度・法曹養成制度について基本的な理解を得て、司法職や司法関連機関への就職、予備試験合格、法科大学院への進学等に役立つ基礎知識や態度を身につけることを目標とする。

The objectives of this course are for students to gain a fundamental understanding of legal professions such as lawyer, judge, prosecutor, legal scrivener, and patent attorney as well as the judicial system and judicial officer training for the purpose of cultivating the fundamental knowledge and attitude which will help them find employment in the legal profession and law related institutions, pass the preliminary examination, and go on to law school.

授業の内容(Course Contents)

本授業は、司法関連専門職等、司法制度、法曹養成制度に関する講義と、ゲストスピーカーをお招きする回から構成される。ゲストスピーカーをお招きする回では、主として本学法学部・本学法科大学院のOB・OGとの質疑応答を通じて、法曹(弁護士・裁判官・検察官)、各種士業(司法書士、弁理士など)、会社法務部(企業内弁護士)などの仕事の魅力を伝えていきたい。

The classes will consist of lectures concerning law related professions, the legal system, and the judicial officer training system as well as sessions in which guest speakers will be invited. The guest speaker sessions will convey the appeal of working as a legal professional (lawyer, judge, public prosecutor), various professional occupations (legal scrivener, patent attorney, etc.), and in corporate legal departments (in-house corporate lawyer) through Q&A sessions primarily with graduates of the university's College of Law and Politics undergraduate and graduate school programs.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス:講義の進め方の説明
2. 弁護士・各種(濱野)
3. 弁護士の仕事(1):ゲストスピーカー1
なお、第3回以降のゲストスピーカーの日程については現在調整中であり、以下は仮の日程である。
4. 弁護士の仕事(2):ゲストスピーカー2
5. 弁護士の仕事(3):ゲストスピーカー3
6. 弁護士の仕事(4):ゲストスピーカー4
7. 弁護士の仕事(5):ゲストスピーカー5(企業法務部)
8. 法学学習の基礎知識:判例の読み方・調べ方(山口)
9. 司法書士の仕事:ゲストスピーカー6
10. 弁理士の仕事:ゲストスピーカー7
11. 裁判官の仕事:ゲストスピーカー8
12. 裁判所書記官の仕事:ゲストスピーカー9
13. 検察官(検事)の仕事:ゲストスピーカー10
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回の授業終了後、Blackboardの「課題」に、①授業の内容、②感想・意見・疑問、③次回のゲストへの質問を分けて、①と②それぞれ400字以上でまとめ、③は必ず一つの質問を書き、全体を1本のファイルとし、ワードまたはPDFファイルで提出すること。授業の資料は必要に応じてBlackboardの「教材」にアップロードするので、事前にダウンロードあるいはプリントアウトして授業に臨むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 毎回のBlackboardによる提出物(70%)
成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト(Textbooks)

資料を Blackboard にアップする。

参考文献 (Readings)

1. 村山眞維・濱野亮、2019、『法社会学 第3版』、有斐閣
2. 市川正人・酒巻匡・山本和彦、2017、『現代の裁判 第7版』、有斐閣 (ISBN:978-4641220959)
3. 佐藤岩夫・濱野亮編、2015、『変動期の日本の弁護士』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-52096-7)
4. 中央大学真法会編、2010、『裁判官・検察官・弁護士の仕事』、法学書院 (ISBN:978-4587621001)
5. 石田武臣・寺町東子編著、2017、『弁護士っておもしろい!』、日本評論社 (ISBN:978-4535522862)
6. 千原曜・日野慎司、2017、『弁護士の仕事』、中央経済社 (ISBN:978-4502242113)
7. 田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩、2019、『リーガル・リサーチ&レポート[第2版]』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-12611-4)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

毎回の授業内容・感想の締切期限内の未提出が3回を超える場合、または欠席が3回を超える場合(正当な理由のない遅刻、早退は欠席とする)、原則として不合格とする。最終レポートを期限内に提出しない場合も、不合格とする。

ゲストスピーカー(本学の OBOG)には、多忙にもかかわらず後輩のためにと登壇していただいているので、失礼のないように真剣に受講できる学生のみ参加されたい。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／法政ゲートウェイ講義(金融入門) (Gateway to Law and Politics(Introduction to Finance))		
担当者名 (Instructor)	藤澤 治奈(FUJISAWA HARUNA) 河村 賢治(KAWAMURA KENJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 200 名		

授業の目標(Course Objectives)

この授業では、履修者が、金融とは何かについて、基礎的な理解を得ることを目標としています。また、さまざまな金融機関の役割について学び、キャリア形成の手がかりを得ることを目指します。

The objective of this course is for students to gain a basic understanding of what finance is. This course also aims to help students to take a cue towards their career building, through learning the roles of various financial institutions.

授業の内容(Course Contents)

立教大学法学部の卒業生が最も多く就職する業界の1つが、金融・保険業界です。ところが、「金融」とは一体何なのか、それぞれの金融機関の役割がどのようなものなのかは、イメージしづらいものでもあります。そこで、この授業では、金融に関する法ルールの基礎を講義しつつ、金融業界に興味のある学生が、具体的なキャリアプランを描くために、これからの4年間、法学部でどのような学修をすればよいのかをお伝えします。また、多くのゲストスピーカーをお招きし、金融業界の現状や実際の仕事内容について、分かりやすくお話しいただきます。

One of the industries where the largest numbers of graduates from the College of Law and Politics, Rikkyo University find employment is the financial and insurance industries. However, it is not easy to imagine what “finance” is and what roles are played by different financial institutions. This course will give lectures about basics of legal rules related to finance, while providing students who are interested in the financial industry with guidance on what academic studies they should pursue in the College of Law and Politics over the coming four years, in order for them to make specific career plans. In addition, many guest speakers will be invited, who will give easy-to-understand lectures about the current situation of the financial industry and what they actually do in their jobs.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 金融とは何か
3. さまざまな金融機関
4. 銀行とは何か①－規制法
5. 銀行とは何か②－取引法
6. ゲストスピーカー①
7. 証券の役割
8. ゲストスピーカー②
9. ゲストスピーカー③
10. 保険とは何か
11. ゲストスピーカー④
12. 決済とは何か
13. ゲストスピーカー⑤
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:教員により指定された文献を読んでください

復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回のリアクションペーパー(50%)/レポート(2回実施)(50%)

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト(Textbooks)

授業中に適宜指示します。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX431／国際ビジネス法総合・基礎 (Introduction to International Business Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際ビジネス法の基礎知識を習得する		
担当者名 (Instructor)	小川 和茂(OGAWA KAZUSHIGE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

国際的な民間企業間の売買契約を中心として、国際ビジネス法の基礎を養う。国際ビジネス法総合 1A・1B への導入的な位置付けでもある。

The objective of this course is to learn the fundamentals of international business law with a focus on sales agreements between international private companies. This course is also positioned as an introduction to International Business Law 1A and 1B which are assigned during the third and fourth years.

授業の内容 (Course Contents)

社会のグローバル化が進捗し、人々の交流や物流が盛んになったといわれるが、実際には依然として国境は存在するし、国家単位で適用される法は異なる。グローバル社会においては、国家のほかさまざまな国際機関も存在し、これらがルール形成をすることがある。

人々の交流が盛んになることによって、これまではある程度同一の価値感を有していた社会も変容している。そうすると、同一の価値感や慣習を有していたグループにおいてはなんとなく解決できていたトラブルも解決が困難となる。

以上の様な背景を前提に、企業が国際的なビジネスを行う際に法がどのように活用されているのかを 3 年次以降の国際ビジネス法総合で学ぶことになるがその導入として、国際契約法、紛争解決などに関する基礎知識を養い、国際ビジネス法総合と並行してどのような法分野を学ぶべきかを提示できればと考えている。

具体的には、民間企業間の物品売買取引を中心として、具体的な事例を使いつつ解説をするのみではなく、トラブルを解決あるいは予防するための法的な手段を履修者にも検討してもらう。

この授業が終わる頃には、想像した以上に国際的なビジネスに関係する法分野が多岐に渡ること気付くだろう。

While it is said that the globalization of society is advancing and the exchange of people and goods has increased, in reality national borders still exist as they did before, and the laws which are applied differ according to each nation. In a global society, various international organizations also exist in addition to the state, and they are sometimes also involved in rule formation.

As a result of the increasing exchange between people, societies which used to possess the same overall sense of values are also changing. Correspondingly, problems which somehow used to get resolved within groups with the same values and customs are becoming difficult to resolve.

Based on the background situation described above, students starting from the third year learn how the law is utilized when companies engage in international business in International Business Law, and this course serves as an introduction to cultivate fundamental knowledge about international contract law and dispute resolutions to make suggestions to students about what fields of law they should study in parallel with International Business Law.

More specifically, this course will not only provide an explanation of international business law using specific case studies with a focus on transactions concerning the sales of goods between private companies, but students will also examine legal means of resolving or preventing problems.

By the time this class ends, students will likely realize that the legal field pertaining to international business is more wide-ranging than they imagined.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 国際ビジネスの全体像と法の役割
3. 国際的なビジネスを行う企業の法務部門はどのようなことをしているのか
4. 国際取引に適用される法規範 1 私法
5. 国際取引に適用される法規範 2 公法
6. 国際取引に適用される法規範 3 国際法

7. 具体的なビジネスを素材に法の役割を考える 1
8. 国際物品売買契約 1
9. 国際物品売買契約 2
10. 国際代金決済
11. 国際運送
12. 裁判による国際ビジネス紛争の解決 1
13. 裁判による国際ビジネス紛争の解決 2
14. 具体的なビジネスを素材に法の役割を考える 2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストや関連資料を熟読し、設問等をあらかじめ解いた上で授業に臨むことが前提となる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(55%)/リアクションペーパー・発言内容(30%)/小課題(15%)

受講者の人数によっては、平常点はすべてリアクションペーパー・発言内容とすることがある。

テキスト(Textbooks)

1. 森下哲朗＝平野温郎＝森口聡＝山本卓、2017、『ケースで学ぶ国際企業法務のエッセンス』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-04679-5)

適宜資料を配付する。

参考文献(Readings)

講義の中で適宜指示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／少年法 (Juvenile Law)		
担当者名 (Instructor)	後藤 弘子(GOTO HIROKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 200 名		

授業の目標 (Course Objectives)

少年法は、少年であることを理由とした特別扱いを規定している法律である。その法律がどのような内容なのか、少年の手続と成人の手続はどのように異なるのか、少年法の改正はなぜ、どのような形で行われてきたのかなど、少年法の理念、手続について理解することを目的とする。

Juvenile law is a special law which treats juveniles differently because of minors. The purpose of this class is to understand the principle of juvenile justice and procedure. I will focus on the differences between adult criminal justice and juvenile justice and the reason of juvenile law reforms.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、20歳未満の非行少年に対する特別な手続を規定している少年法について、その理念、内容、少年事件の手続の流れ、家庭裁判所における少年に対する審判、処分について学ぶ。加えて、少年非の動向やこどもと法についても学ぶ。

In this class you will learn the following topics on juvenile law : the principle of juvenile law, the juvenile law statutes, juvenile law procedure, juvenile hearing and disposition in Family Court ..Additionally, you will learn about recent trend of juvenile delinquency and child and law.

授業計画 (Course Schedule)

1. 少年法入門：非行少年とは誰か
2. 少年法の理念と少年司法手続の流れ
3. 少年法の改正(1)
4. 少年法の改正(2)
5. 少年犯罪と犯罪被害者
6. 少年事件の捜査と身柄
7. 少年保護事件と調査
8. 少年保護事件と少年審判
9. 付添人の役割
10. 少年保護事件とその処分(1)
11. 少年保護事件とその処分(2) 少年院とはどのようなところか
12. 少年の刑事事件
13. 少年事件と死刑
14. 推知報道の禁止と少年法の理念

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

場合によっては、指定する文献や本を前もって読むことも求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/レポート(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 守山正・後藤弘子、2022、『ビギナーズ少年法第3版補訂版』、成文堂
- なお、2023年に第4版が出版予定である。

参考文献 (Readings)

1. 川出敏裕、2022、『少年法第2版』、有斐閣
2. 河原俊也、2017、『少年事件実務の技』、青林書院
3. 2018、『少年事件ビギナーズ ver.2』、現代人文社
4. 廣瀬健二、2021、『少年法』、岩波新書

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX457／法学特殊講義(国際環境法) (Special Lecture on Law(International Environmental Law))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際環境法		
担当者名 (Instructor)	許 淑娟(HUH SOOKYEON)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

国際環境法の原則および概念の理解を深め、代表的な多国間環境条約の特徴について説明できる。

The goal of this course is to help students to understand the key principles and concepts of international environmental law and to explain their characteristics and basic architectures of several multilateral environmental treaties.

授業の内容(Course Contents)

国際環境法の入門科目である。地球規模の環境問題の特徴と規制の必要性を認識し、国際環境法の基本原則および基本概念を学ぶ。基本原則及び基本概念としては、持続可能な開発、予防原則・予防アプローチ、世代間衡平、共通だが差異ある責任、人類共通の遺産などが含まれる。また、授業の公判では、具体的な環境事例および多国間環境条約を個別に検討する。気候変動、オゾン層、生物多様性、海洋汚染、希少動植物保存、有害廃棄物の越境移動などである。

国際法 1 および 2 を履修していない者は、履修前に、国際法の教科書を入手して目を通しておくことを強く推奨する。

This course is designed to provide an introduction of International environmental law, It will survey the basics of international environmental law, beginning with an overview of global environmental challenge and core legal principles including sustainable development, precautionary principle/approach, intergenerational equity, common but differentiated responsibility, common heritage of mankind. It will cover several legal regimes such as climate change, ozone layers, biodiversity, marine pollution, CITES, trans-boundary pollution.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：国際法の法源
2. 国際環境法の形成と展開
3. 国際環境法の基本原則および基本概念(1)
4. 国際環境法の基本原則および基本概念(2)
5. 国際環境法の基本原則および基本概念(3)
6. 国際環境法の基本原則および基本概念(4)
7. 国際環境法の基本原則および基本概念(5)
8. 国際環境法の基本原則および基本概念(6)
9. 個別の環境条約・環境事例(1)
10. 個別の環境条約・環境事例(2)
11. 個別の環境条約・環境事例(3)
12. 個別の環境条約・環境事例(4)
13. 個別の環境条約・環境事例(5)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回予習のための教科書、論文、サイトを指定する。
授業後に質問・コメントを受け付け、次回にフィードバックを行う予定である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(90%)/毎回の質問コメント(10%)

テキスト(Textbooks)

教科書・参考書については、初回授業時に指定する。初回時には、国際法1および2 で使った教科書を参照すること。国際法 1 および 2 で使われる教科書は、本シラバスの参考書の欄に示すが、それ以外の国際法の概説書でも構わない。

参考文献(Readings)

1. 岩沢雄司、東大出版会、『国際法』、2020
2. 西村弓ほか、有斐閣、『国際法』、2011
3. 浅田正彦ほか、東信堂、『国際法(第四版)』、2019
4. 中谷和弘ほか、有斐閣、『国際法(第四版)』、2021

教科書・参考書については、初回授業時に指定する。初回時には、国際法1および2 で使った教科書を参照すること。なお、国際法1 および2 で使われる教科書・参考書は、本シラバスの参考書の欄に示すが、それ以外でも構わない。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

本講義を受講するか考える際の参考動画を一つだけ挙げる。

<https://www.bbc.com/japanese/video-51171995>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX458／法学特殊講義(西豪州大学短期研修) (Special Lecture on Law(UWA Law Study Tour))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	西オーストラリア大学における講義を通じて大学での学びを経験しつつ、オーストラリアの法律、文化、歴史について学ぶ to learn the basics of Australian law while immersing yourself in the academic milieu at the University of Western Australia and Australian culture		
担当者名 (Instructor)	早川 雄一郎(HAYAKAWA YUICHIRO) 佐伯 昌彦(SAEKI MASAHICO)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2930	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録(定員 25 名程度)		

授業の目標 (Course Objectives)

3 週間の西オーストラリア大学での短期研修プログラムにおいて、オーストラリアの法律、文化、歴史について学ぶことを通して、法律、文化、社会の多様性を学び、経験する。

The objective of this course is to learn diversity in law and culture by learning the basics of Australian law, and the culture and history of Australia at the University of Western Australia.

授業の内容 (Course Contents)

西オーストラリア大学での短期研修プログラムへの参加に向けて、事前準備講義を受けるとともに、プログラムへの参加後に、振り返り会に参加し、プログラムで学んだことに関するレポートを提出することで、本講義を修了する。

実施期間: 2023 年 8 月 6 日から 8 月 26 日 (3 週間)。

西オーストラリア大学での講義の他に、国会・美術館・自然公園への訪問など、フィールドトリップやアクティビティが予定される。

研修プログラムへの参加の前には、数回の事前準備講義が予定されている(オーストラリアへの渡航準備としての海外保険やその他の説明についても、事前準備講義に含まれる)。

研修プログラム参加後のレポートについて、課題は追って提示する。

事前のオンラインガイダンスにて、プログラムについての説明や応募方法の詳細を説明するため、ガイダンスに参加の上、応募をしていただきたい。説明会の日程変更や体調不良等のために説明会に出席できない場合は、ガイダンスの録画ビデオを閲覧の上、応募をしていただきたい。応募者多数の場合は抽選により選考する。

This course is consisted of (1) the study tours at the University of Western Australia, (2) preparatory sessions prior to the study tours, and (3) submissions of research papers after the study tours.

(1) The study tours are organized from August 6th to August 26th, 2023.

(2) In order to make the most of the study tours, a handful of preparatory sessions are arranged prior to the study tours. Preparatory sessions also include administrative guidance sessions (e.g., as for manners to pay the fees for the study tours, acquire travel insurance, and arranging the accommodation).

(3) After the study tours, students are expected to attend a review session and submit research papers. The theme of the papers will be notified during the spring semester.

For further details, an online guidance session will be held prior to the first round of the application.

授業計画 (Course Schedule)

- Preparatory session (1): introduction and preparation for learning in another country
初めて外国の大学で学ぶ、あるいは、外国で数週間生活するという学生も念頭に置き、そのための準備としてできることの指導をします。
- Preparatory session (2): introduction and preparation for learning in another country
初めて外国の大学で学ぶ、あるいは、外国で数週間生活するという学生も念頭に置き、そのための準備としてできることの指導をします。
- Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
- Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
- Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture

- 西オーストラリア大学での研修プログラム参加
6. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 7. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 8. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 9. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 10. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 11. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 12. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 13. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 14. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 15. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 16. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 17. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 18. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 19. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 20. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 21. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 22. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 23. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 24. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 25. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 26. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 27. Study tours: learning the basics of Australian law, and Australian history and culture
西オーストラリア大学での研修プログラム参加
 28. Review session
研修プログラムのふりかえり

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

研修に出発する前の準備として、現地での学習の仕方などを学びます。事前準備のための講義には、必ず参加してください。
Since preparation for the study tours is critical for gaining fruitful experience in Australia, attending the preparatory sessions is mandatory.

成績評価方法・基準(Evaluation)

研修プログラムへの参加(Participation in the study tours)(60%)/最終レポート(Final Report)(20%)/事前準備講義及び振り返り会への参加(participation in the preparatory sessions and a review session)(20%)
成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 河野康子、2006、『英語で読む日本史(増補改訂2版)』、講談社インターナショナル (ISBN:978-4770040183)
2. ジェームス M バーダマン、2015、『シンプルな英語で話す日本史』、ジャパンタイムズ (ISBN:978-4789015943)
3. 鎌田真弓、2012、『日本とオーストラリアの太平洋戦争:記憶の国境線を問う』、お茶の水書房 (ISBN:978-4275009784)
4. 司馬遼太郎、2011、『木曜島の夜会』、文藝春秋 (ISBN:978-4167663360)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

募集条件

履修対象学生: 本学1～4年次生。

募集人数: 25名程度

選考方法: 本授業の履修手続ガイダンスに出席の上、応募を決定すること(ガイダンス3月前半にオンライン実施)。履修を希望するものは、所定の期間内に所定の申込フォームより申し込みを行うこと。説明会の日程変更や体調不良等のために説明会に出席できない場合は、ガイダンスの録画ビデオを閲覧の上、応募をしていただきたい。第一次募集は3月20日(月)10時から3月23日(木)15時(結果発表は3月24日(金))。第二次募集(1年次優先)は、4月6日(木)10時から4月10日(月)15時(結果発表は4月11日(火))。

応募者多数の場合は抽選により選考にする。

英語力は問わないが、現地大学でのディスカッション・プレゼンテーションも予定されているため、積極的に取り組む意欲があることを前提とする。

* 本科目は、登録後取り消すことはできない(履修が許可された場合には、それ以降の履修取消は原則として認めない)。

* 履修者が10名に満たない場合は、本科目は開講しない。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX464／法学特殊講義(金融商品取引法) (Special Lecture on Law(Financial Instruments and Exchange Law))		
担当者名 (Instructor)	遠藤 元一(ENDO MOTOKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

金融・資本市場を支える法制度の重要性を理解する。

この科目は法学特殊講義の1つである。金融・資本市場に関する知識とともに理解できるように講義していく予定である。

To understand the importance of legal systems that support financial and capital markets.

This course is one of the Special Lectures on Law. This course is one of the special lectures on law and will be taught in such a way that students can understand it along with their knowledge of financial and capital markets.

授業の内容(Course Contents)

金融商品取引法は、企業内容等の開示制度を整備するとともに、金融商品取引業を行う者に関し必要な事項を定めること等により、有価証券の発行及び取引を公正なものとし、公正な価格形成を図ることを目的とする法律であり、わが国の金融・資本市場の基本法である。授業では、金融商品取引業者等や金融商品取引所等に関する規制、③内部者取引(インサイダー取引)や相場操縦等に関する規制等を中心に、経済ニュースも題材としながら、進める

The Financial Instruments and Exchange Law (FIEL) is a basic law for Japan's financial and capital markets. Its purpose is to ensure fairness in the issuance and trading of securities and fair price formation by establishing a system for the disclosure of corporate details and other information, as well as providing for necessary matters concerning persons engaged in the financial instruments business. The class will focus on (1) regulations concerning financial instruments business operators and financial instruments exchanges, and (2) regulations concerning insider trading and market manipulation, while using economic news as a topic.

授業計画(Course Schedule)

- 序論・ガイダンス～本講義の目的と概要 市場規制の目的
- 有価証券概念総論、デリバティブ取引、有価証券各論
- 情報開示(1)
～情報開示規制の概要、発行市場における情報開示
- 情報開示(2)
～発行市場における情報開示
- 情報開示(3)
～流通市場における情報開示(継続開示)
- 情報開示(4)
～開示の実効性確保のための措置
- 情報開示(5)
～公開買付け
- 情報開示(6)
～公開買付け(続)、大量保有報告
- 不公正取引(1)
～インサイダー取引
- 不公正取引(2)
～インサイダー取引(続)、相場操縦
- 不公正取引(3)
～相場操縦(続)、包括的な詐欺禁止、風説の流布・偽計取引等
- 金融商品取引業者等の規制(1)
～第1種・第2種金融商品取引業、投資運用業、投資助言・代理業、登録金融機関、金融商品仲介業等
- 金融商品取引業者等の規制(2)
～誠実公正義務、不招請勧誘、適合性原則、説明義務
- 自主規制と行政監督規制

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に予習・復習について指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

授業開始時に指示する。

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX466／法学特殊講義(地方自治法) (Special Lecture on Law(Local Government Law))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地方自治法／身近な行政の存在およびその法制度を考える		
担当者名 (Instructor)	小澤 久仁男(OZAWA KUNIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、①地方自治を巡る法的課題としてどのようなものがあるのか、ということの主たる目標となります。その上で、②過去から現在まで生じている法的課題をどのように解決するべきかを受講生が考えられるようになっていただくこと、および、③地方自治はどうあるべきかを考えられるようになっていただくことが、最終的な目標となります。

This lecture's main target is ①What kind of legal problems in local autonomy exists. Moreover, this lecture's last target are ②Student have be able to think how to settle a legal problem in the local autonomy which has formed in the past and present now, ③Student have be able to think how there should be local autonomy.

授業の内容(Course Contents)

地方自治は、現代国家において、住民の人権と民主主義を実現する上で不可欠な制度・存在となっています。けれども、わが国は長く中央集権国家として発展してきたということもあって、そこにはさまざまな障害も生じています。

そこで、本講義においては、地方自治法で規定されている重要な制度を取り上げることで、住民が各地方公共団体に対してどのような権利を有しているのか、そして各地方公共団体はどのような権限を有しているのか、といった基礎知識を養うこととなります。その上で、国と地方公共団体の関係や地方公共団体と住民の関係といった地方自治はどうあるべきかを考えて貰えるきっかけを提供できれば、と思っています。

In a modern nation, local autonomy is indispensable system and existence to achieve resident's human rights and Democracy. However, our country was developing as the centralized government lengthily. Therefore various problems have also occurred there.

So, in this lecture, the important system prescribed by a local government law will be taken up. Specifically, student can get basic knowledge about what kind of right a resident possesses to a local government and what kind of authority each local government possesses. Then, I'd like to offer the motive which can think how there should be local autonomy on it. For example it's possible to give this a thing such as relations between a state and a local government, and relations between a local government and a resident.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、地方自治とは何か：日本国憲法と地方自治
2. 地方自治の歴史：戦前・戦後の展開
3. 地方自治を巡る法的制度：地方自治の法源・法制度
4. 地方公共団体の種類：普通地方公共団体・特別地方公共団体
5. 地方公共団体の事務①：自治事務と法定受託事務
6. 地方公共団体の事務②：事務処理の原則と国・都道府県との関与
7. 自治立法権：条例と規則、条例制定権の限界
8. 自治財政権：地方公共団体の歳入・歳出と財産
9. 地方公共団体の組織①：地方議会
10. 地方公共団体の組織②：長・その他の執行機関
11. 住民の権利と義務①：住民の意義、直接請求①
12. 住民の権利と義務②：直接請求②、住民投票
13. 住民監査請求：意義、要件、手続
14. 住民訴訟：意義、要件、手続、2017年改正

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前にBlackboardで配信するレジュメに目を通すとともに、テキストの該当箇所も読んでおくことにより一層の理解に役立つものと思われます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 宇賀克也、2021、『地方自治法概説(第9版)』、有斐閣 (ISBN:9784641228061)
2. 高橋明男・佐藤英世編、2022、『地方自治法の基本』、法律文化社 (ISBN:9784589041807)

上記のテキストのうち、いずれを購入しても構いません。ご自身の関心などに合うテキストを見つけていただけたらと思います。

参考文献(Readings)

1. 磯部力・小幡純子・斎藤誠編、2013、『地方自治判例百選(第4版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115156)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

参考資料などについては、授業時に配付します(但し、配付は1回のみとなり、欠席などで受け取れない場合にはご自身で印刷をお願いいたします)。また、授業中の私語・スマホの操作などについては、ご遠慮ください(いずれも教室外で行うことは妨げません)。これらを守っていただけない場合については、参考資料などの配付を中止し、各自で印刷していただくことに変更する場合があります。

その他、過去の履修者の状況を踏まえますと、行政法Ⅰ・行政法Ⅱを履修していない方は、本講義に苦戦しているため、行政法Ⅰ・行政法Ⅱを履修済・履修中が望ましいと思われます。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX473／法学特殊講義 (Comparative F (Special Lecture on Law(Comparative Family Law))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Introduction to Comparative Family Law		
担当者名 (Instructor)	デ アウカンタ(DE ALCANTARA MARCELO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

This course aims to provide students with a general understanding of family law from a comparative and international perspective.

授業の内容 (Course Contents)

The course will cover a wide range of topics concerning domestic and cross-border family disputes, such as marriage, parent and child relationship, parental responsibility, child abduction, surrogacy and other forms of assisted reproduction. The course will also cover legal issues concerning sexual and gender minority families.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Case Study (1)
3. Case Study (2)
4. Case Study (3)
5. Case Study (4)
6. Case Study (5)
7. Case Study (6)
8. Case Study (7)
9. Case Study (8)
10. Case Study (9)
11. Case Study (10)
12. Case Study (11)
13. Case Study (12)
14. Review

*The course schedule is subject to change

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are expected to have read the assigned readings and required to write one short essay prior to class. Detailed instructions for each assignment will be distributed in class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/Short Essays(40%)/Class Participation(30%)

テキスト (Textbooks)

Digital course materials will be provided to students.

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX475／法学特殊講義(立法学) (Special Lecture on Law(Legislation))		
担当者名 (Instructor)	奥津 伸(OKUTSU SHIN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

我が国の法令に関する基礎的な知識を習得するとともに立法の実務について理解する。

The objectives of this course are to acquire fundamental knowledge regarding the laws and regulations of Japan while understanding the actual practice of legislation.

授業の内容(Course Contents)

我が国においては、社会や経済の変化によって生ずる様々な問題を解決するための政策手段として、毎年、新たな法律が制定され、また、既存の法律の改正が数多く行われている。本講義においては、こうした我が国の立法に関し、国の成文法の形式とその効力関係など我が国の法令全般に関する基礎的事項を解説した上で、実際の法律案の立案に必要なとされる法令用語、法律の基本的な構成、本則規定の内容など法律の規定に関する一般的事項を解説し、併せて法律案が国会に提出され成立に至るまでの過程を解説する。

Every year, new laws are enacted and many existing laws are amended as policy instruments to resolve various problems occurring due to social or economic changes. With respect to legislation in Japan, the lectures will explain fundamental matters concerning general laws and ordinances in Japan such as the format of written law in Japan and the relationship with their validity before proceeding to explain general matters concerning legal provisions such as the legal terminology required to propose an actual bill, the fundamental composition of a law, and the content of the main provisions as well as the process through which a bill is submitted to the National Diet and comes into effect.

授業計画(Course Schedule)

1. 「立法学」について
2. 法律案の企画立案の概観
3. 国の成文法の形式とその効力関係(1)
4. 国の成文法の形式とその効力関係(2)
5. 委任立法及び告示・訓令・通達
6. 地方公共団体の条例等
7. 法律の文体・表記と法令用語
8. 法律の基本的な構成等
9. 法律の本則規定の内容(1)
10. 法律の本則規定の内容(2)
11. 法律の附則
12. 法律の改正と廃止・失効
13. 法律案の国会への提出
14. 法律案の国会審議

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じ別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

講義の都度、レジュメ等を配布する。

参考文献(Readings)

1. 大島稔彦、2013、『立法学－理論と実務－』、第一法規 (ISBN:978-4-474-02892-0)
2. 大森政輔・鎌田薫、2011、『立法学講義』、商事法務 (ISBN:978-4-7857-1863-3)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX478／法学特講(企業のビジネス戦略と契約実務) (Special Lecture on Law(Corporate Business Strategies and Contract Practice))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業がグローバルなビジネスを展開する上で最適な契約スキームの検討と交渉戦略を学ぶ ～具体的なビジネス事例を取上げながら～		
担当者名 (Instructor)	石川 文夫(ISHIKAWA FUMIO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業がグローバルなビジネスを展開する上で必要な契約スキーム及び契約交渉について、まずビジネスの内容を理解し、その上で最適な契約スキームを検討し、交渉のスタイルを学ぶ。具体的な契約例も可能な限り活用し契約書の文言の意味、役割も理解出来るようにする。

. In this course, which aims to teach contract schemes and contract negotiations that are necessary for companies to do business on a global scale, the students will first understand the content of the business, then consider appropriate contract scheme that is most suitable for the business, and finally learn how to negotiate based on the contract. Actual business contract will be used so that the students will be able to understand the meanings and roles of the respective words used in contracts.

授業の内容(Course Contents)

現実に発生しているビジネス事案(講師作成のケース、報道されているケース等)を使用し、ビジネスの内容を理解しながら最適な契約スキームを考えて契約交渉についても講義の中で実践して見たい。また、具体的な契約書を使用しながら契約の条文も理解出来るようにする。

海外、国内問わず、弁護士さんなど有識者を招いた話も聴く機会を設けたい。

Using examples of business situations currently observed (including those created by the lecturer and those covered by news reports), the students will consider the optimal contract scheme based on understanding of the business content and engage in simulated contract negotiations. The lecturer will teach them how to understand the meanings of the clauses contained in specific contracts. The lecturer plans to invite both domestic and foreign lawyers and other specialists as guest speakers.

授業計画(Course Schedule)

1. 講師自己紹介、本講座の狙い、全体日程の説明等を含めた講義概要説明
2. 契約書の位置付けと契約の種別説明、企業における基本的な業務フローの理解(ビジネスの発生から契約締結まで)
3. 日本の契約と欧米の契約の考え方の相違と契約書の違いについての理解
4. 知的財産(権)についての理解、ライセンスの理解
5. ビジネスを遂行する為に必要なコラボレーションの役割と理解
6. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース1
7. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース2
8. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース3
9. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース4
10. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース5
11. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース6
12. 具体的なケースを使用してビジネス内容の理解と契約スキームの検討、交渉スタイルを学ぶ、グループで討論し結果を報告する。 ケース7
13. 専門分野の弁護士さんなど有識者による講演(テーマは別途検討し最適な題材を選択する。)
14. これまでの講義の纏め

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義の復習はすること。予習については事前に講義の中で翌週の内容を話すので予習を行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(80%)/最終テスト(Final Test)(10%)/講義における発言、態度(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 石川文夫、2018、『企業間コラボレーションを成功させる契約交渉の進め方』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-25901-2)
参考文献などは講義の中で適宜話しをする予定。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX480／統計学 (Statistics)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	データ分析のための統計学		
担当者名 (Instructor)	今泉 忠(IMAIZUMI TADASHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会での事象の変化などを捉えるためにはデータに基づいた科学的思考力と検証力が重要である。そのための統計学の基礎について理解し、データをもとに統計モデルとして表現し、検証し扱えるようになることを目標とする。

In order to understand the changes in events within society, the ability to think scientifically based on data and the ability to verify are important. Therefore, the objectives of this course are to understand the fundamentals of Statistics, express data as a statistical model, verify the model, and become able to work with it.

授業の内容(Course Contents)

社会においてデータに基づいた科学的思考力や問題解決力は必須の能力である。本講義では、次のような項目についてPPDAC(Problem-Plan-Data-Analysis-Conclusion)の枠組みを用いて学ぶことで社会現象を統計モデルとして扱うために必要な統計的な概念を理解し活用できるようにする。

The ability to think scientifically and solve problems based on data is essential in society. In these lectures, students will understand and become able to utilize the statistical concepts which are required to treat social phenomena as a statistical model by using and learning the PPDAC (Problem-Plan-Data-Analysis-Conclusion) framework for the following types of items.

授業計画(Course Schedule)

1. 前期全体の講義概要説明および各自のPCへのソフトのインストールなどを行う
2. データの変数の型として「量的変数」と「質的変数」および統計グラフについて講義する
キーワード: 棒グラフ、円グラフ、度数分布、相対度数、ヒストグラム
3. ヒストグラムからの分布の特徴についても講義する。
キーワード: ベル型、右に裾が長い、左に裾が長い、累積分布図
4. 代表値を用いてデータを見る。代表値としての平均、中央値について講義する。また、平均と関係する分散について講義する。
キーワード: 分散、標準偏差
5. 平均と標準偏差との関係に対応する中央値と四分位範囲などについて講義する。
キーワード: Q1、Q3、四分位範囲
6. 代表値として中央値を用いる場合にデータの特徴を捉える図としての箱ひげ図がある。これについて講義する。
キーワード: 箱、ひげ、はずれ値
7. 代表値として平均を用いる場合に、平均からの偏差について講義する。標準化得点について講義する。
キーワード: 変動係数
8. 2変数の関係を図で表現する場合の散布図について講義する。また、相関係数や共分散についても講義する。
キーワード: 変数変換
9. 2変数が共に質的変数である場合の二元表(クロス表)について講義する。
キーワード: 独立、 χ^2 乗値
10. 2変数のうち、一方が量的変数、他方が質的変数である場合の関連性の分析について講義する。
キーワード: 相関比、分散分析
11. 2変数のうち、一方が量的変数、他方が質的変数である場合の因果関係の捉え方について講義する。
キーワード: 平均値の差、標準偏差、標準誤差、図的表現
12. 2変数が共に量的変数である場合の手法としての単回帰分析について講義する。
キーワード: 決定係数、分散分析表、回帰係数
13. 問題解決のために実験データを収集して、分析する
キーワード: 標準誤差、平均の分布
14. まとめ1ここまでの講義に関してのテストを行なう。
15. 調査の方法と実験の計画について講義する。
キーワード: 単純無作為抽出、比較実験
16. 母集団と標本について講義する

- キーワード: 有限母集団と無限母集団
17. 確率の基礎について講義する。
キーワード: 条件付き確率
 18. 代表的な分布としての二項分布について講義する。
キーワード: ベルヌーイ試行
 19. 統計学での分布の基本である正規分布について講義する。
キーワード: 平均と分散
 20. 標本比率や標本平均それぞれの標本分布について講義する。中心極限定理についても講義する。
キーワード: 平均の分布、t 分布、 χ^2 乗分布
 21. 平均の信頼区間について講義する。
キーワード: 母平均
 22. 比率の信頼区間について講義する。
キーワード: 母比率
 23. 2 つの平均に関する信頼区間について講義する。
 24. まとめ2: ここまでのまとめ中間テストその2を行なう。
 25. 平均に関する有意性検定について講義する。
キーワード: 帰無仮説、対立仮説、z 検定、t 検定
 26. 比率に関する有意性検定について講義する。
キーワード: 第1種の過誤、第2種の過誤
 27. 2 つの平均の差に関する有意性検定について講義する。
キーワード: 等分散性の検定
 28. 単回帰分析での係数の有意性検定について講義する。
キーワード: F 検定

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外学習に関する指示は、履修登録完了後に Web 上で履修者に対して行う。
Web(classroom.google.com)にアップされている教材などをダウンロードして、一読しておくこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(41%)/授業内レポート(複数回)(35%)/コメントペーパー(10%)/理解度確認テスト(14%)

テキスト(Textbooks)

1. 倉田 博史、2017、『大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる』、KADOKAWA (ISBN:9784046020000)
- 講義資料を電子ファイルとして配布する。

参考文献(Readings)

1. 日本統計学会、『データの分析』、東京図書 (2012978-4-489-02132-9 C3040)
2. 日本統計学会、2015、『改訂版統計学基礎』、東京図書 (978-4-489-02227-2 C3040)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

春学期第1回と第2回の講義では使用する分析ソフトウェアのインストールを予定していますので、ノートPCを持っている履修者は持参してください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX481／法学特講(Comp Const Law) (Special Lecture on Law(Comparative Constitutional Law))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	To understand the foundational structure of the country and judiciary, as well as the society		
担当者名 (Instructor)	田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2101	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

This course will introduce students to the major components of Japanese Constitution (e.g., what each provision of the Constitution means, and how it can/should be interpreted), and its interrelationship with Japanese society through the study of various contemporary social issues involving Japanese constitutional law. The course consists of (a) lectures and (b) case studies.

(a) During lectures, we will explore (i) fundamental principles of the Japanese Constitution, (ii) the Japanese political system, and (iii) various concepts, theories, and standards that have been developed in the Japanese constitutional law discipline, which will provide students with a legal and critical foundation for examinations of the selected cases.

(b) Case studies are intended to examine actual operations of the Japanese Constitution, and interrelationships between the Japanese Constitution and Japanese society. Since each provision of the Constitution does not have fixed meanings, but rather is subject to interpretations in specific social contexts where the provision is applicable, the meanings of legal concepts, theories, and standards develop and change in response to changes in the society. Accordingly, the society affects the Constitution as much as the Constitution affects the society. Through case studies, students will gain a deeper understanding of the Constitution, as well as its fluid nature reflecting the complexity of the society.

Conducting case studies is also designed to have students consider the roles of constitutional law and the legal justice system in resolving conflicts that arise in the society.

Since students will be required to examine cases from legal, political, and social aspects, students should become better at analyzing factual situations from various viewpoints, and carefully and objectively weighing competing interests of the relevant parties in the cases.

As students are expected to make presentations and participate in class-wide and group discussions throughout the semester, students should be able to further their skills to communicate their knowledge and opinions in a logically clearer manner.

Classroom discussion is also important to advance students' ability to carefully listen and respond to others' opinions while succinctly identifying the points of discussion, and most importantly, to constantly test their own opinions against others'. In addition, in order to facilitate the development of these skills, students will be asked to make counter-arguments against others' arguments even when the counter-arguments are not necessarily what the students support.

授業の内容(Course Contents)

The lectures will be provided with PowerPoint. However, the sessions will be based on the discussions with the students.

Reading materials will be provided in class. Read the assigned material before each class. Students are required to participate in classroom discussion based on the reading assignment that has been given for the session. To help provide the requisite motivation to stay current on the readings, students may be called on in class.

Active participation in class is expected from everyone. Please note that class participation makes up a significant portion of your grade, which means that you must come to class diligently prepared to take part in interactions in class. Also be aware that credit is not given merely for attendance. Your participation, not presence, is what counts toward your grade. The success of the course will depend greatly on your preparedness for class and willingness to engage in dialogue in class.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction of the course, Japanese law and Japanese Constitutional law
Provide general information about the course (e.g., aims of the course, course schedule, writing assignments, ways to prepare for sessions, grading methods).
Understand function and purpose of constitutional law through comparisons between constitutional law, criminal law, and civil law.
2. Constitutional Law in the Modern Sense
The Japanese Political System (1): Structures and Functions of the Diet and Cabinet
3. The Japanese Political System (2): Roles of the Judiciary and the Separation of Power
4. Japanese Lay Judge System: Understand the historical origins and purposes of a jury system and lay person participation system

Learn the characteristics of the Japanese lay judge system by comparing it with lay person participation systems and jury systems of other countries

5. Freedom of Thought and Roles of the National Flag and Anthem
6. Academic Freedom and a Basic Education for Children
7. Freedom of Expression
8. Article 9 and National Defense 1: Right to Self-Defense
9. Article 9 and National Defense 2: Legal Standing to Sue
10. Article 9 and National Defense 3: Right to Collective Self-Defense, and Right to Live in Peace
11. Freedom of Religion
12. Freedom of Religion and the Separation of State and Religion
13. Freedom of Religion, the Separation of State and Religion, and Incidental Constitutional Review
14. Constitution and Family Law: Equal Protection and Laws of Marriage and Divorce, and Personal Autonomy and the Idea of Family in the Society

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

As for the reading assignment, it is highly recommended that you brief the assigned cases, the legal issues of the cases, and the key facts determinant to the conclusions, in preparation for class. This will not only help you effectively participate in class activities, but also give you a set of briefs of the cases at the end of the semester which you can easily refer to for the final exam.

Writing assignments will also be given.

Topics for presentations, classroom discussions, and writing assignments involve mainly examinations of cases and elaborations of opinions on topics that are to be discussed in class. But sometimes you are required to conduct research on the laws, history, and society of Japan, or those of the countries' of your choosing.

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/Participation in class(45%)/Writing assignment(15%)

The final report will take a form of take home exam. The question will be notified 5 to 8 hours prior to the due date/time of the submission of the report. The exact duration from the notification of the question and before the submission of the report will be notified at the end of the course.

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／法学特講(ODR) (Special Lecture on Law(Online Dispute Resolution))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ODR and communication in digital space		
担当者名 (Instructor)	渡邊 真由(WATANABE MAYU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	定員 36 名 グローバルコースの学生優先		

授業の目標 (Course Objectives)

This class aims to develop your understanding of the basic concepts of ODR (online dispute resolution)

授業の内容 (Course Contents)

ODR (Online dispute resolution) is the use of information and communications technology to help disputants find a resolution to their disputes. With the digitalization of society and the limitation of face-to-face communication, it is expected to be a new approach to dispute resolution. In this class, we will learn about the global discussion of ODR and examples of social implementation. Then we will learn about the current policy development of ODR in Japan. In the second half of the semester, students will have the opportunity to participate in online mediation using the ODR platform and VR devices.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Basic concepts of ADR and ODR
2. ODR developments in the world (1): Group Research
3. ODR developments in the world (2): Group Research
4. ODR developments in the world (3): Presentation
5. ODR discussions in Japan
6. Digital Justice and Fairness (1)
7. Digital Justice and Fairness (2) ODR and AI
8. Online Communication Exercise: E-mail Negotiation
9. Online Communication Exercise: Video Negotiation
10. ODR exercise: ODR platform (1)
11. ODR exercise: ODR platform (2)
12. ODR exercise: Metaverse (1)
13. ODR exercise: Metaverse (2)
14. Wrap-up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

This interactive class will require group research, discussion, and role-plays. You may have to work outside of class for the group project. Participation in the class discussion is valued, attendance, class participation, and written assignments are the core evaluation components.

As this is an advanced class of "Dispute Resolution," Students who are interested in taking "Online Dispute Resolution" are recommended to "Dispute Resolution" in the spring semester.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/Class Participation(70%)

テキスト (Textbooks)

Readings will be distributed in the class.

参考文献 (Readings)

1. Richard Susskind. 2019. Online Courts and the Future of Justice (English Edition). OUP Oxford (ISBN:978-0198838364)
2. Ethan Katsh, Orna Rabinovich-Einy. 2017. Digital Justice: Technology and the Internet of Disputes. Oxford Univ Press (ISBN:978-0190464585)
3. Amy J. Schmitz, Colin Rule. 2018. The New Handshake: Online Dispute Resolution and the Future of Consumer Protection. ABA (ISBN:978-1634257671)
4. Daniel Rainey, Ethan Katsh, Mohamed S. Abdel Wahab. 2021. Online Dispute Resolution – Theory and Practice: A Treatise on Technology and Dispute Resolution. Eleven International Publishing (ISBN:978-9462361836)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX483／法学特講(Crim Proc) (Special Lecture on Law(Criminal Procedure))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Japanese Criminal Procedure in Comparative Perspective		
担当者名 (Instructor)	オルトラニ(ORTOLANI ANDREA) 中原 隆雅(NAKAHARA TAKAMASA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2301	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of this course is to present Japanese criminal procedure as seen by Japanese and international scholars.

授業の内容 (Course Contents)

This course will present Japanese criminal procedure from a historical and comparative perspective.

The lessons will touch upon on all aspects related to Japanese criminal procedure: its history, its present form, its constitutional dimension, with a particular focus on its current practice.

授業計画 (Course Schedule)

- History of criminal law and procedure before Meiji.
- The reception of Western criminal law in The Meiji period.
- Criminal law 1900–1945. The first jury.
- Criminal law reforms after WWII: Constitution and laws.
- Overview of the criminal trial: Basic structure, participants in criminal proceedings.
- Investigation: Beginning of investigation, compulsory and voluntary investigations.
- Investigation: Arrest and detention, search and seizure, interrogation.
- Trial: Overview, lay judge system.
- Evidence: Confession, hearsay.
- Death Penalty: Nagayama Criteria and Hikari parent-child murder incident.
- Prisons in Japan.
- Support for victims.
- Comparative remarks I.
- Comparative remarks II.

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Participants will be required to read materials in English in preparation for the lessons.

Participants will have to submit three Mini-Tests at regular intervals during the term.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(5%)/最終レポート(Final Report)(5%)/Three Mini-Tests(70%)/Self-evaluation(20%)

テキスト (Textbooks)

- M. Mitsui, T. Sakamaki. 2022. An Introduction to Japanese Criminal Procedure Law. Yuhikaku

Purchase of the textbook is not mandatory.

The instructors will distribute all mandatory reading materials.

参考文献 (Readings)

Additional reading materials (books, articles, and other resources) will be provided during the semester.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／社会科学情報処理 (Information Processing for Social Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	SPSS を利用した社会調査データの分析と解釈		
担当者名 (Instructor)	蔵本 知子(KURAMOTO TOMOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 48 名		

授業の目標 (Course Objectives)

社会科学分野の調査データから全体的な行動傾向やその要因を読み取るための統計処理、発展的な情報処理に関する知識や技術を習得する。

The objective of this course is to master the knowledge and techniques of statistical processing and advanced data processing for reading overall behavioral trends and their causes from survey data in the field of social sciences.

授業の内容 (Course Contents)

コンピュータ教室を使用し、実習形式で授業を行う。授業は以下の内容で構成される。

(1) 調査データと統計分析

様々な統計分析の手法、調査データの内容から統計手法を選択するポイント、手法や結果解釈に存在する問題点等について説明する。

(2) 操作方法実習

コンピュータを操作しながら SPSS の利用方法や結果の読み取り・解釈の要点を習得する。

(3) 統計解析実習

操作方法実習をふまえ、調査データを分析、項目内容と照らし合わせ結果から行動傾向を読み取る。

The computer classroom will be used to conduct the class in a practical training format. The classes are composed of the following elements.

(1) Survey data and statistical analysis

This section will explain various methods of statistical analysis, the key points for selecting statistical methods based on the content of the survey data, and the problems which lie in the methods and interpretation of the results

(2) Operating procedure practice

Students will learn how to use SPSS and the essentials of reading and interpreting the results while operating the computer.

(3) Statistical analysis practice

Based on the operating procedure practice, students will analyze survey data and compare against the item content to pick up behavioral trends from the results.

授業計画 (Course Schedule)

1. SPSS の基本操作とデータ要約／データ加工と記述統計
2. 回答の分布傾向から行動の偏りや質問の問題点を考える／度数分布表とヒストグラム
3. データの単位を揃えて測定値同士を比較する／標準化
4. 人数の偏りを元に選択項目が別の項目に与えた影響を見出す／クロス表とカイニ乗検定
5. クロス表の「個別のセル」のずれを確認する／残差分析
6. 2 条件間で行動傾向に違いがあるかを検討する／t 検定
7. 3 条件間で行動傾向に違いがあるかを検討する／1 要因の分散分析と多重比較
8. 要因の組合せが行動・心理傾向を促進・抑制するか検討する／2 要因の分散分析
9. 2つの項目間の関係性を図と数値で表す／散布図と相関係数
10. 行動傾向の強さをいくつかの要因を利用して説明・予測する／重回帰分析
11. 傾向の説明にグループの違いを利用する／ダミーデータを利用した重回帰分析
12. 行動が 2 種類に分かれる場合にどちらの行動をとるかを予測する／判別分析
13. 調査対象者をいくつかの行動傾向を元にグループ分けする／クラスター分析
14. 調査項目を回答傾向でまとめる／主成分分析

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

配布された資料に基づいて、各回の授業で取り上げた統計手法について内容をよく確認すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(45%)/授業時に行う小テスト(30%)/授業への参加態度(25%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 内藤統也・秋川卓也、2007 年、『文系のための SPSS 超入門』、プレアデス出版 (ISBN:978-4-903814-03-2)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

SPSS(IBM 社が提供する統計解析ソフトウェア)を利用するにあたり、必要な統計学の知識は授業内で随時取り上げる。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／社会科学情報処理 (Information Processing for Social Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	SPSS を利用した社会調査データの分析手法と解析結果の解釈		
担当者名 (Instructor)	古賀 ひろみ(KOGA HIROMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 48 名		

授業の目標 (Course Objectives)

社会調査で収集されたデータを分析するための能力を養うとともに、法学を学ぶ上で必要不可欠な論理的思考能力を鍛錬する。

The objective of this course is to cultivate the ability to analyze the data collected in a social survey while training the ability to think logically which is essential to studying law.

授業の内容 (Course Contents)

実際の社会調査で収集されたデータを利用し、統計解析ソフト SPSS を利用した統計解析の手法について実習を交えて説明する。授業は以下の内容で構成される。

(1) 質問項目と調査方法の妥当性と信頼性の概説

調査自体に問題が存在するとデータを分析しても的確な結果は得られない。

質問項目や調査方法に生じる妥当性・信頼性の問題について概説する。

(2) データ傾向の把握と全体的傾向の推測

データを整理・要約し行動傾向を記述するためには、項目の内容に応じた適切な手法を選択する必要がある。項目を表す数値の種類と統計的な記述方法との関係や留意点について説明し実習するとともに、データから全体的傾向を推測する方法についても実習する。

(3) 調査目的と質問内容に応じた分析手法の選択

調査では行動傾向をつかむだけでなく、行動の要因を探り、関連性を把握し、今後の行動予測に応用することも目的であり、そのためには統計解析による分析が必要となる。実際に調査分析で利用されている分析の内容や、統計解析の種類、選択のポイントについて説明する。

(3) 分析結果の解釈

実際に統計解析を実行するとどのような結果が得られるのか。またその数値からどこまで解釈することが可能なのか。分析結果の読み取り方について説明するとともに、手法や結果の解釈にひそむ問題点についても述べる。あわせて統計解析ソフト SPSS を利用したデータ分析と解釈の実習もおこなう。

Using the data collected in actual social surveys, we will explain the statistical analysis method using the statistical analysis software SPSS with practical training. The course consists of the following contents.

(1) Overview of validity and reliability of question items and survey methods

If there is a problem with the survey itself, the analysis of the data will not yield accurate results.

I will outline the validity and reliability issues that arise in question items and survey methods.

(2) Understanding data trends and estimating overall trends

In order to organize and summarize data and describe behavioral tendencies, it is necessary to select an appropriate method according to the content of the item. In addition to explaining and practicing the relationship between the types of numerical values that represent items and the statistical description methods and points to keep in mind, we will also practice how to infer overall trends from data.

(3) Selection of analysis method according to survey purpose and question content

The purpose of the survey is not only to grasp behavioral trends, but also to explore the causes of behavior, understand the relationships, and apply it to future behavior predictions, which requires statistical analysis. Explains the content of analysis actually used in survey analysis, types of statistical analysis, and selection points.

(3) Interpretation of analysis results

What kind of results do you get when you actually run a statistical analysis? And to what extent can the numbers be interpreted? In addition to explaining how to interpret the analysis results, I will also discuss the problems that lie behind the methods and the interpretation of the results. At the same time, students will also practice data analysis and interpretation using the statistical analysis software SPSS.

授業計画 (Course Schedule)

1. 社会調査の実施手順および質問項目と妥当性の関係
2. 調査の信頼性と尺度の分類
3. 調査データの傾向と妥当性を数値で表す: 記述統計
4. 調査データの傾向から全体的な行動傾向を推測する: 区間推定
5. 調査データの傾向は全体的な行動傾向を表しているか: 統計的検定と有意確率
6. 項目選択人数の偏りから 2 項目の関係性を検討する: カイニ乗検定
7. 行動傾向の強さから 2 項目の関係性を調べ図と値で表現する: 散布図と相関係数
8. 2つの質問項目間で回答の平均値を比較する: 対応のある t 検定
9. 2つのグループ間で回答の平均値を比較する: 対応の無い t 検定
10. 3 グループ以上の回答の平均値を比較する: 分散分析と多重比較
11. ある行動傾向を他の複数の行動傾向から予測する: 重回帰分析
12. ある行動傾向を複数の選択項目から予測する: ダミー変数を利用した重回帰分析
13. 2つのどちらを選ぶのか行動傾向から推測する: 判別分析
14. 行動傾向を利用して回答者をグループ分けする: クラスター分析

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

資料と分析に利用する質問項目の内容を確認、分析の疑問点を整理し、また質問項目の回答に影響を与えようと考えられる要因、質問項目同士の関係性について自分なりに仮説をたてておくこと。また扱った分析はどのような行動の分析に応用可能か、その際どのような点に留意して質問項目を設定する必要があるか整理すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験 (Written Exam) (45%) / 授業時に指定する複数回の課題提出 (55%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しない。

参考文献 (Readings)

1. 栗原伸一・丸山敦史、2017、『統計学図鑑』、オーム社 (ISBN:978-4-274-22080-7)
2. 内藤統也・秋川卓也、2007、『文系のための SPSS 超入門』、プレアデス出版 (ISBN:978-4-903814-03-2)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

メディアセンター実習室の WindowsPC を利用して実習する。
授業資料配布及び課題提出には Canvas LMS を利用する。

SPSS を利用するには実習室の Windows で作業する必要があるが、出力結果の整理および提出については学外での作業や Macintosh の利用も可能。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX486／会計学 (Accounting)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会計学の基本的な知識を習得する		
担当者名 (Instructor)	坂内 慧		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

1. 会計が、誰に向けて、何のために行われるのかを理解し説明できるようになる
 2. 企業の財務諸表を作成する上での考え方を理解し説明できるようになる
1. To understand and be able to explain to whom and for what purpose accounting is performed.
 2. To be able to understand and explain the concept of preparing financial statements of companies

授業の内容 (Course Contents)

会計は、一定のルールのもと、経済主体の活動を主に貨幣額によって測定・伝達するプロセスです。本講義では、会計の基礎的な考え方を理解するとともに、企業が財務諸表をどのように作成・報告しているのかということについて学習し、会計学に関する基本的理論を習得してもらうことを目的としています。

Accounting is the process of measuring and communicating the activities of economic entities under certain rules, mainly in terms of monetary amounts. The aim of this course is to provide students with an understanding of the basic concepts of accounting and how companies prepare and report their financial statements, as well as to provide them with a basic theory of accounting.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 会計の仕組みと会計計算書の基本
3. 様々な会計学
4. 現金出納帳と会計報告書
5. 財務諸表の関係と複式簿記の仕組み
6. 問題演習(1): 第5回まで
7. 株式会社と計算書
8. 会計公準と一般原則
9. 会社の設立等
10. 貸借対照表の表示法と営業開始取引
11. 簿記会計の基本構造、会計学と簿記記録の関係
12. 当期の収入・支出と収益・費用の不一致
13. 損益計算書と貸借対照表の作成
14. 問題演習(2): 第13回まで
15. 損益計算書の概観
16. 売上高の計算基準(売上総利益の計算①)
17. 売上原価の計算基準(売上総利益の計算②)
18. 販売費及び一般管理費の計算基準と見越繰延(営業利益の計算①)
19. 販売費及び一般管理費の計算基準と営業用固定資産(営業利益の計算②)
20. 販売費及び一般管理費の計算基準と引当金(営業利益の計算③)
21. 問題演習(3): 営業利益の計算までの問題演習
22. 営業外収益の計算基準(経常利益の計算①)
23. 営業外費用の計算基準(経常利益の計算②)
24. 問題演習(4): 経常利益の計算までの問題演習
25. 特別損益の計算および当期純利益の計算
26. 財務諸表の作成
27. 財務諸表分析の基礎
28. 講義のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習:各講義回に対応する教科書の該当部分を読む
復習:講義資料の復習と小テストの受験をする

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 新田忠誓・佐々木隆志他、2021、『会計学・簿記入門』(第 16 版)、白桃書房 (ISBN:9784561352259)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

パワーポイントを使った講義を行います。

Blackboard にアップロードされる小テストを毎回受験してください

講義に関する質問は、Blackboard の掲示板ないし Email にてお願いします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX487／社会政策論 (Social Policy & Administration)		
担当者名 (Instructor)	宮崎 理枝(MIYAZAKI RIE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

- 社会政策の基礎的知識を習得する。具体的には、社会保障に焦点をあて、社会保障の定義と分類、成り立ち、そして諸制度（年金・医療・介護・公的扶助・諸福祉サービス）の仕組みを理解する。
- 日本と主要諸外国の政治・経済・社会動向と社会政策の関係を理解する。
- 日本の福祉国家としての現状と将来的展望の大局を把握する。
- To acquire fundamental knowledge about social policy. Specifically, this course will focus on Social Security to understand the definition and classifications of Social Security, its origins, and the structure of the various systems (pension, medical, nursing, public assistance, and various welfare services).
- To understand the relationship between social policy and the political, economic, and social trends in Japan and other major foreign countries.
- To grasp the current situation and general future prospects of Japan as a welfare state.

授業の内容 (Course Contents)

- 講義内容は、下記授業計画の通り、諸制度の原則と日本の現行制度の説明を主とする。しかし国際比較の観点や政策研究のトレンド、最新の時事問題といった多様な観点を織りまぜた補論も取り入れる。また多様な見解や情報の共有、その精査を行うことを目的に、適宜、小グループの受講者によるオープンなディスカッション・フリートークを行う時間を設ける。
- 講義内容：春学期は、社会政策（社会保障）の定義・分類等に関わる基礎理論と現金給付中心の制度を扱う。具体的には租税方式の公的扶助制度と社会保険方式の年金制度、そして労働保険を論じる。秋学期は、現物給付中心の制度と社会保障制度、今後の展望ならびに歴史を扱う。具体的には、社会保険方式の健康保険と介護保険、そして税方式の諸現物給付を論じる。
- Due to a change in the class time starting from the 2019 academic year, the classes are scheduled to combine a basic lecture described in the following class plan description, a more academic short lecture, viewing of audiovisual materials, as well as the use of reaction papers.
- The spring semester will focus on fundamental theories concerning the definition and classification, etc., of social policy (social security) and cash benefit centered systems. Specifically, we will discuss the taxation based public assistance system, the social insurance based pension system, and labor insurance. The fall semester will cover the benefit in kind based system and the social security system, as well as the future prospects and history. Specifically, we will discuss the social insurance based health insurance and nursing insurance as well as the various tax based benefits in kind. The classes will primarily explain the fundamental principles of the various systems and the mechanisms of Japan's current systems, but international comparative viewpoints, trends in policy research, and other diverse perspectives will be woven into the discussion at that time.
- Aiming for sharing various opinions and information of participants, time for small group discussions and free talk will be included in lecture time.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション（社会政策と社会保障の関係、現代の社会保障の課題、歴史概観）
2. 社会保障の類型化（租税・社会保険方式、現金・現物給付）
3. 公的扶助制度（公的扶助と生活保護制度、当該制度の原則）
4. 公的扶助制度（保護基準、仕組み 1）
5. 公的扶助制度（保護基準、仕組み 2）
6. 社会保険の理論（諸原則、被保険者、保険者保険料、保険給付のあり方）
7. 年金制度（原則・基本体系）
8. 年金制度（保険者と被保険者）
9. 年金制度（財政方式、給付水準）
10. 年金制度（その他の仕組みと制度改革）

11. 失業保険制度(原則と特徴, 日本の当該制度の仕組み)
12. 失業保険制度(日本の当該制度の仕組み2)
13. 労働災害保険制度(原則と特徴, 日本の当該制度の仕組み)
14. まとめ(新しい現金給付の可能性—社会手当, 給付付き税額控除, BI等)
15. 現物給付の社会保険(現金給付とのちがい, 健康保険と介護保険の原則的なちがい)
16. 健康保険制度(健康保険制度の原則)
17. 健康保険制度(健康保険制度の基本構造)
18. 健康保険制度(財政方式)
19. 健康保険制度(給付の仕組みと決定プロセス)
20. 健康保険制度(高齢者医療制度と制度改革)
21. 介護保険制度(制度創設の背景, 当該制度の原則)
22. 介護保険制度(制度の基本設計と保険の仕組み)
23. 介護保険制度(財政方式と給付)
24. 介護保険制度(給付内容と制度改革)
25. 今後の社会保障の展望—ワーク・ライフ・バランスと社会保障制度(範疇扶助と社会参加の概念)
26. 今後の社会保障の展望—ワーク・ライフ・バランスと社会保障制度(税方式の現物給付—チャイルドケアを中心に)
27. 社会保障制度の歴史(諸外国の社会保障制度の成立史を中心に)
28. 社会保障制度の歴史(日本の成立史を中心に)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内及び Blackboard において適宜指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/授業時のコメントシート(30%)

コメントシートは内容を重視する。

テキスト(Textbooks)

1. 田中・椋野著、『初めての社会保障』、有斐閣

田中耕太郎・椋野美智子『はじめての社会保障』(有斐閣アルマ)(本年度4月時点での最新版が望ましいが、最新版でなくとも授業内容にはおおむね対応可である・ただし、最新版との内容の差異については念のため確認しておくこと)

※2023年3月末に第20版(ISBN:9784641222151)が発売予定。

参考文献(Readings)

1. 菅沼隆他編、2014、『多元的共生社会の構想』、現代書館 (ISBN:4768435297)

2. 土田武史編、2015、『社会保障論』、成文堂 (ISBN:4792342546)

その他、資料や文献は授業中に適宜紹介する。

過去2年間の試験問題は、Blackboard(Canvas LMS)にて公開する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

●Blackboard(Canvas LMS)を通じて、一般のお知らせ、参考資料、補助的な教材資料は適宜発信・提供する。

●授業の目指すところや趣旨、進め方、試験等の重要点は初回に説明するので、受講者は必ず出席し、これらを理解してから受講すること。

●チャイルドケア・給付付き税額控除・社会保障史の講義回は適宜移動する場合があるので留意すること。

●上記授業内容の性質上、講義時間の一部でスマートフォン(タブレット、PC)を使用することがある。

●受講には、上記の通り、適宜コメントシートの提出及びグループディスカッションへの参加が含まれる。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX488／財政学 (Public Finance)		
担当者名 (Instructor)	古市 将人(FURUICHI MASATO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

現代経済において、政府の活動は大きな役割を果たしている。経済の動きを理解するためには、政府活動の実態を正確に理解できなければならない。そのような政府活動の実態を分析する学問が財政学である。履修者が財政学の基本的な知識を用いて現代の諸問題を理解できるようになることが、本講義の基本的な目標である。

Government activities play a significant role in Contemporary Economics. To understand economic trends, one must accurately understand the current state of government activities. Public Finance is the academic discipline that analyzes the current state of such government activities. The fundamental objective of this course is to enable students to use basic knowledge of Public Finance to better understand various contemporary problems.

授業の内容 (Course Contents)

前半の講義(1～14回)では、財政学の基本的な知識を説明する。特に、経費論、予算論、租税論の基礎を講義にて扱う。前半で学んだ知識を用いて、15回目以降からは、財政政策の基礎(15～17回)、再分配政策(18～22回)、教育財政(23回)、地方財政(24・25回)、社会保障制度(26～28回)について説明をする。各講義では、具体的な制度と関連する理論を中心に説明をする。また、国際比較と歴史的な視点から財政について説明をする。

During the first half of the course (sessions 1 through 14), the lectures will impart fundamental knowledge concerning Public Finance. In particular, classes will cover the fundamental aspects of the public expenditure, budget, and tax. Using this knowledge, the lectures starting from the fifteenth session will discuss the fundamentals of fiscal policy (sessions 15 through 17), redistribution policy (sessions 18 through 22), education finance (sessions 23), local government finance (sessions 24 and 25), and the social security system (sessions 26 to 28). Each lecture will focus on the theory associated with a specific system. Moreover, government activities will also be explained through international comparisons and from a historical perspective.

授業計画 (Course Schedule)

1. 財政学入門の入門：財政学とは何か、財政社会学とは何か
2. 財政の機能から政府の役割を学ぶ：政府規模拡大と財政の三機能論
3. 経費論と財政の意思決定をめぐる議論
4. 政府規模拡大と財政の「正統性」：財政史と財政学
5. 予算論入門：予算制度の権力抑制機能と必要充足機能について
6. 予算制度と戦後の予算編成過程
7. 予算制度と2000年代の予算編成過程
8. 公共事業と日本財政
9. 租税論入門－財政の正統性と租税への同意
10. 所得課税の理論と制度(1)：なぜ、各国に累進課税が存在するのか
11. 所得課税の理論と制度(2)：日本の所得税制度について
12. 消費課税と財政(1)：消費課税の基本的論点
13. 消費課税と財政(2)：現代国家と付加価値税
14. 環境税の理論と制度
15. 公債論：公債論の基礎と日本財政
16. 国民経済計算入門の入門
17. 経済成長と所得分配の関係について
18. 不平等の測定：ジニ係数入門
19. 給付の集中度係数：「再分配のパラドックス」論について
20. 税の集中度係数：福祉国家と租税構造
21. 財政と社会：所得再分配政策の支持要因について
22. 国際比較と財政研究：比較による問題発見
23. 教育と財政
24. 地方財政論(1)：地方交付税の意義とその役割
25. 地方財政論(2)：財源保障と公共サービス
26. 公的年金制度の基礎

27. 公的年金制度が直面する課題
28. 医療保険制度の基礎

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキスト、講義ノート、配付資料、参考文献などを用いて、履修者は講義の復習をするのが望ましい。事前学習については、上記の資料を用いて、講義中に指示したトピックや用語について予習をすること。あるいは、事前に示した練習問題や例題を利用して、履修者は予習をするのが望ましい。講義に関連する参考文献については、講義内で紹介をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(46%)/リアクションペーパー(20%)/講義中に指示した提出物(34%)

テキスト(Textbooks)

1. 井手英策・倉地真太郎・佐藤滋・古市将人・村松怜・茂住政一郎、2022、『財政社会学とは何か -- 危機の学から分析の学へ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16612-7)

講義にて、講義ノートや資料等を配布する。第1回目の講義で、テキストと講義ノート・資料との関係について説明をする。財政学の基本知識を学んだ上で、テキストの内容を講義で説明する。また、リアクションペーパーや提出物作成に、テキストを用いる。テキストと講義との関係については、講義にて説明をする。

参考文献(Readings)

1. 池上岳彦(編)、2015、『現代財政を学ぶ』、有斐閣 (ISBN:978-4641184244)
 2. 神野直彦、2021、『財政学[第3版]』、有斐閣 (ISBN: 978-4641165816)
 3. 高端正幸・伊集守直(編)、2018、『福祉財政』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623083695)
 4. 佐々木伯朗編、2019、『財政学 制度と組織を学ぶ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16554-0)
 5. 赤井伸郎編、2017、『実践 財政学 基礎・理論・政策を学ぶ』、有斐閣 (ISBN:978-4641165045)
 6. 寺井公子・肥前洋一、2015、『私たちと公共経済』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15020-1)
 7. 高端正幸・佐藤滋、2020、『財政学の扉をひらく』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15082-9)
- 講義内容と関係のある参考文献は、講義ノートにて紹介をする。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX491／日本史概説 (Japanese History)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本の対外関係と文化交流		
担当者名 (Instructor)	岡 美穂子(OKA MIHOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	法学部教職課程登録者のみ		

授業の目標(Course Objectives)

古代から明治期までの日本の対外関係を東アジア史・グローバル・ヒストリーとの関連性から学ぶ

Learning about Japan's external relations from ancient period to the Meiji era from its relevance to East Asian history and global history

授業の内容(Course Contents)

私たち日本人が「日本らしい」と思っているものの中には、海外との通交の影響を大きく受けて形成されたものが相当あります。日本人にとって海外の文化は憧れの対象であると同時に、宗教などを通じて、かなり身近なものでした。通史として学ぶことで、日本人の「日本意識の形成」に、海外との関係がどのような影響をもたらしているのか、俯瞰的に考えることができます。授業では、高校の世界史、日本史のテキストを再読して、そこから知識を深める形態をとります。世界史のテキストも多く使いますので、純粋な日本史とは思わない方が良いでしょう。

Many of the things that we Japanese think are "Japanese" were formed under the influence of communication with foreign countries. For Japanese people, foreign cultures have been an object of admiration, and at the same time, they have become quite familiar through religious and cultural intercourses. By studying a history from the Ancient period to the Modern, it will make students get a bird's-eye view of how relationships with foreign countries have an impact on the formation of Japanese national consciousness. In this class, we learn many items from World History, not only Japanese History.

授業計画(Course Schedule)

1. 邪馬台国・ヤマト王権の対外関係
2. 厩戸皇子と大陸文化
3. 世界の仏教史
4. 神道発展史 神道は純粋に「日本」のものか？
5. 平安時代 遣唐使と空海
6. 鎌倉時代 渡唐僧と中国の仏教文化
7. 室町時代 日本の王権と対外関係
8. 戦国大名の貿易と外交
9. 天正少年遣欧使節と日本人奴隷
10. 鎖国期の日本の対外関係と外国認識
11. 開国をめぐる紛争
12. 征韓論・日清戦争・日露戦争
13. ユーラシア大陸への進出
14. 第一次・第二次世界大戦

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

岡美穂子他編『つなぐ世界史』1巻・2巻(清水書院)を読む

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/ランダムに指定するミニレポート(その際の出席もカウント)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 桃木至朗ほか編、2008、『海域アジア史研究入門』、岩波書店
2. 羽田正編、2013、『海からみた歴史』、東京大学出版会
3. 岡美穂子ほか編、2023、『つなぐ世界史』、清水書院

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

高校世界史、日本史の教科書をサブテキストとして使用。購入の必要はありません。授業の前日までにブラックボードに資料をアップデートします。授業中にプリントは配布しませんので、各自、自分のパソコンにダウンロードするかプリントアウトをして持参すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX492／世界史概説 (World History)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近代世界とアジア		
担当者名 (Instructor)	島田 竜登(SHIMADA RYUTO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

本講義では、16世紀以降の近代世界の諸相を検討しながら、グローバル化時代の現代に生きるわれわれにとって、世界史とは何かということを考える。15世紀末から、アメリカ大陸を含めた世界の一体化が急速に進展する。モノや人、情報がグローバルなスケールで移動し、人々の生活が大きく変化し、現在のわれわれの社会を生み出していったのである。本講義は近年盛んとなっているグローバル・ヒストリーの立場から、近代世界の形成と変容について概観を試みたい。

The objective of this course is to think about what world history means to us as we live in this current age of globalization while examining the various phases of the modern world since the sixteenth century. From the end of the fifteenth century, the integration of the world including the American continent rapidly advanced. Things, people, and information moved on a global scale, people's lives significantly changed, and it brought about the creation of our current society. This course will attempt to provide a general overview of the formation and transformation of the modern world from the perspective of global history, which has become popular in recent years.

授業の内容 (Course Contents)

講義は、第一に産業革命以前のグローバル・ヒストリーを、第二に、産業革命以後のグローバル・ヒストリーを検討する。最終的には、世界史の見方、歴史学の方法について考究する。なお、講義にあたっては、日本を含むアジアを近代世界の中にどのように位置づけるかについて注意深く考察を行うことにする。

The lectures will first examine global history before the Industrial Revolution and then during the second stage after the Industrial Revolution. Finally, this course will investigate the perspectives of World History and the methods of historical science. Furthermore, the lectures will carefully examine how Asia including Japan is positioned within the modern world.

授業計画 (Course Schedule)

1. 問題の所在：グローバル・ヒストリーとは何か
2. 大航海時代と銀
3. オランダ東インド会社の世界貿易
4. 近世アジアと異文化接触
5. 近世日本の世界史的位罫
6. 産業革命の世界史的意義
7. 綿布のグローバル・ヒストリー
8. アジアの開発と世界商品
9. 世界の緊密化とアジア
10. 金融制度とグローバル経済
11. グローバル化とライフスタイル
12. エネルギーと近代世界
13. リオリエントへの展望
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

とくに復習に力を入れて下さい。講義の際、適宜、参考文献を紹介するので、紹介文献を手始めに、多読を望みます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 水島司・島田竜登、2018、『グローバル経済史』、放送大学教育振興会 (ISBN:9784595318818)

参考文献 (Readings)

1. 小川幸司・島田竜登編、2022、『構造化される世界：14～19 世紀』、岩波書店（ISBN:9784000114219）
2. 島田竜登編、2018、『1683 年 近世世界の変容』、山川出版社（ISBN:9784634445079）
3. 島田竜登編、2018、『1789 年 自由を求める時代』、山川出版社（ISBN:9784634445086）
4. 金澤周作監修、2020、『論点・西洋史学』、ミネルヴァ書房（ISBN:9784623087792）
5. 吉澤誠一郎監修、2022、『論点・東洋史学』、ミネルヴァ書房（ISBN:9784623092178）
6. 水島司、2010、『グローバル・ヒストリー入門』、山川出版社（ISBN:9784634349650）

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／日本史概説 (Japanese History)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本の対外関係と文化交流		
担当者名 (Instructor)	岡 美穂子(OKA MIHOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 150 名 法学部教職課程登録者は、科目コード EX491 を登録すること		

授業の目標 (Course Objectives)

古代から明治期までの日本の対外関係を東アジア史・グローバル・ヒストリーとの関連性から学ぶ

Learning about Japan's external relations from ancient period to the Meiji era from its relevance to East Asian history and global history

授業の内容 (Course Contents)

私たち日本人が「日本らしい」と思っているものの中には、海外との通交の影響を大きく受けて形成されたものが相当あります。日本人にとって海外の文化は憧れの対象であると同時に、宗教などを通じて、かなり身近なものでした。通史として学ぶことで、日本人の「日本意識の形成」に、海外との関係がどのような影響をもたらしているのか、俯瞰的に考えることができます。授業では、高校の世界史、日本史のテキストを再読して、そこから知識を深める形態をとります。世界史のテキストも多く使いますので、純粋な日本史とは思わない方が良いでしょう。

Many of the things that we Japanese think are "Japanese" were formed under the influence of communication with foreign countries. For Japanese people, foreign cultures have been an object of admiration, and at the same time, they have become quite familiar through religious and cultural intercourses. By studying a history from the Ancient period to the Modern, it will make students get a bird's-eye view of how relationships with foreign countries have an impact on the formation of Japanese national consciousness. In this class, we learn many items from World History, not only Japanese History.

授業計画 (Course Schedule)

1. 邪馬台国・ヤマト王権の対外関係
2. 厩戸皇子と大陸文化
3. 世界の仏教史
4. 神道発展史 神道は純粋に「日本」のものか？
5. 平安時代 遣唐使と空海
6. 鎌倉時代 渡唐僧と中国の仏教文化
7. 室町時代 日本の王権と対外関係
8. 戦国大名の貿易と外交
9. 天正少年遣欧使節と日本人奴隷
10. 鎖国期の日本の対外関係と外国認識
11. 開国をめぐる紛争
12. 征韓論・日清戦争・日露戦争
13. ユーラシア大陸への進出
14. 第一次・第二次世界大戦

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

岡美穂子他編『つなぐ世界史』1巻・2巻(清水書院)を読む

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%)/ランダムに指定するミニレポート(その際の出席もカウント)(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 桃木至朗ほか編、2008、『海域アジア史研究入門』、岩波書店
2. 羽田正編、2013、『海からみた歴史』、東京大学出版会
3. 岡美穂子ほか編、2023、『つなぐ世界史』、清水書院

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

高校世界史、日本史の教科書をサブテキストとして使用。購入の必要はありません。授業の前日までにブラックボードに資料をアップデートします。授業中にプリントは配布しませんので、各自、自分のパソコンにダウンロードするかプリントアウトをして持参すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX494／法政リーディング＆ライティング (Japanese Reading & Writing(Law and Politics))		
担当者名 (Instructor)	鹿目 葉子(KANOME YOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

法学部の学生が、法学部における講義の理解に必要な日本語のリーディングスキルを身に着ける。また、法学部におけるレポート作成、試験問題への回答などのために必要なライティングスキルを身に着ける。

The purpose of this course is to provide students of the Faculty of Law with the reading skill in Japanese required to understand lectures at the Faculty of Law. In addition, the students enrolled in this course will acquire the writing skills necessary for preparing reports at the Faculty of Law and answering exam questions.

授業の内容 (Course Contents)

法学部での学びに関連した内容の文章を読み、その内容を自分の言葉で説明する。また、理解した内容を基礎として、自分なりの意見をまとめて書くことにつなげる。「書く」ことに関しては、①読んだ内容をふまえ、さらに文献などを調べて、レポートにまとめる、②読んだ内容を理解し、出された問に文章で制限時間内に回答する、という2つのスキルに焦点をあてて扱う。さらに、日本語で書くために必要な語彙や文型についても扱う。授業後半には、専門科目でのレポートや試験を想定した筆記テストを行い、法学部での学びに十分な日本語力が身に着いたかを各自が確認する。

Students will read texts pertinent to their studies at the Faculty of Law and will explain the content in their own words. Additionally, based on the content they understood, students will link it to summarize and write their opinions. The following skills will be focused in writing: (1) based on what students have read, they conduct further research by reading additional literatures and others and write a summary in a report, and (2) students comprehend the content of the reading materials and answer questions in writing within a given time limit. In addition, vocabulary and sentence pattern required for writing in Japanese will also be covered. In the second half of the course, students will report in specialized courses and take a written test simulating the examination to determine whether they have acquired sufficient Japanese language skills for their studies at the Faculty of Law.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 読む・書く技術①
3. 読む・書く技術②
4. 読む・書く技術③
5. 読む・書く技術④
6. 読む・書く技術⑤
7. 読む・書く技術⑥
8. 読む・書く技術⑦
9. 読む・書く技術⑧
10. 読む・書く技術⑨
11. 読む・書く技術⑩
12. 読む・書く技術⑪
13. 筆記テスト(読み、書き能力測定テスト)
14. テストのフィードバック

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の授業で、予習、復習等については指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

課題(35%)／参加度(30%)／伸長度確認テスト(35%)

テキスト (Textbooks)

授業で適宜紹介する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

法学部で 4 年間学んでいくための日本語を身に着ける科目です。責任をもって、毎回の課題に積極的に取り組んでください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX495／法政リーディング＆ライティング (Japanese Reading & Writing(Law and Politics))		
担当者名 (Instructor)	鹿目 葉子(KANOME YOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

法学部の学生が、法学部における講義の理解に必要な日本語のリーディングスキルを身に着ける。また、法学部におけるレポート作成、試験問題への回答などのために必要なライティングスキルを身に着ける。

The purpose of this course is to provide students of the Faculty of Law with the reading skill in Japanese required to understand lectures at the Faculty of Law. In addition, the students enrolled in this course will acquire the writing skills necessary for preparing reports at the Faculty of Law and answering exam questions.

授業の内容 (Course Contents)

法学部での学びに関連した内容の文章を読み、その内容を自分の言葉で説明する。また、理解した内容を基礎として、自分なりの意見をまとめて書くことにつなげる。「書く」ことに関しては、①読んだ内容をふまえ、さらに文献などを調べて、レポートにまとめる、②読んだ内容を理解し、出された問に文章で制限時間内に回答する、という2つのスキルに焦点をあてて扱う。さらに、日本語で書くために必要な語彙や文型についても扱う。授業後半には、専門科目でのレポートや試験を想定した筆記テストを行い、法学部での学びに十分な日本語力が身に着いたかを各自が確認する。

Students will read texts pertinent to their studies at the Faculty of Law and will explain the content in their own words. Additionally, based on the content they understood, students will link it to summarize and write their opinions. The following skills will be focused in writing: (1) based on what students have read, they conduct further research by reading additional literatures and others and write a summary in a report, and (2) students comprehend the content of the reading materials and answer questions in writing within a given time limit. In addition, vocabulary and sentence pattern required for writing in Japanese will also be covered. In the second half of the course, students will report in specialized courses and take a written test simulating the examination to determine whether they have acquired sufficient Japanese language skills for their studies at the Faculty of Law.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 読む・書く技術①
3. 読む・書く技術②
4. 読む・書く技術③
5. 読む・書く技術④
6. 読む・書く技術⑤
7. 読む・書く技術⑥
8. 読む・書く技術⑦
9. 読む・書く技術⑧
10. 読む・書く技術⑨
11. 読む・書く技術⑩
12. 読む・書く技術⑪
13. 筆記テスト(読み、書き能力測定テスト)
14. テストのフィードバック

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の授業で、予習、復習等については指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

課題(35%)／参加度(30%)／伸長度確認テスト(35%)

テキスト (Textbooks)

授業で適宜紹介する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

法学部で 4 年間学んでいくための日本語を身に着ける科目です。責任をもって、毎回の課題に積極的に取り組んでください。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX499／キャリア意識の形成 (Career Planning Formation)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	キャリア形成のための自覚的検討とコミュニケーション能力の向上		
担当者名 (Instructor)	薬師丸 正二郎(YAKUSHIMARU SHOJIRO) 長谷川 遼(HASEGAWA RYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

この授業は、受講者一人一人が、将来の進路を考えるに際して必要な情報を手に入れる手がかりを得るとともに、法学部での学修が社会とどのように関わっているかについて考えることにより、各自にふさわしいキャリアを形成するための方法について、自覚的に検討する機会を与えることを目的とする。

The purpose of this course is to provide each student with an opportunity to consciously examine the methods used to build a career which is well-suited to them by thinking about how their studies in the College of Law and Politics relate to society while receiving clues to obtain the information which is necessary when thinking about a future career path.

授業の内容 (Course Contents)

多様な考え方を知り、自分のキャリアについて広く深く考え、行動する契機とするとともに、社会で生きていくために不可欠なコミュニケーション能力がいかなるものかを体験的に学ぶ。さらに、2 年次秋学期という専門科目を本格的に学び始めた時期において、法学部の学修の意義と方法を再確認する。

具体的には、本学法学部卒業生を中心としたゲストスピーカーを招き、キャリアに関する情報や考え方を提供する。ゲストスピーカーと受講生との質疑応答、コメント・カードの提出、レポート作成等を行い、法学部における学修とキャリアとの関係、また「働く」こと、さらには、「生きる」ことについて、受講生が自己の見解を明確にもち、それを表現できるようにする。あわせて、個人、ペア、グループワークによるコミュニケーション能力向上のトレーニングを行う。

In this class, students will learn from direct experience what the essential communication skills for living in society are while understanding diverse ways of thinking, broadly and deeply considering their own career, and using it as an opportunity to take action. In addition, when taken during the fall semester of the second year when students begin to formally study the specialized disciplines, this course will reconfirm the significance and methods of study within the College of Law and Politics.

Specifically, this course will invite guest speakers who are primarily graduates of the university's College of Law and Politics to provide information and points of view about careers. Through Q&A sessions between the guest speakers and students, comment card submissions, and writing reports, students will clarify and become able to express their own self opinion in regard to the relationship between their studies in the College of Law and Politics and their career as well as what it means "to work" and "to live". In addition, training will be conducted to improve communication skills through individual, pair, and group work. ,

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. スキルトレーニング(1)
3. ゲスト・スピーカー
4. ゲスト・スピーカー
5. ゲスト・スピーカー
6. ゲスト・スピーカー
7. スキルトレーニング(2)
8. ゲスト・スピーカー
9. ゲスト・スピーカー
10. ゲスト・スピーカー
11. スキルトレーニング(3)
12. スキルトレーニング(4)
13. ゲスト・スピーカー
14. スキルトレーニング(5)と全体ふり返り

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

本講義では学生の積極的な参加が望まれるので、事前に問題意識を持って参加すること。
参考文献に掲げた書物を中心に、キャリアデザインに関する基本的知識を得たり、ゲストスピーカーの業界や職種、企業などについて、会社四季報や諸文献、インターネットによって情報を随時得ておくこと。日頃から、社会の動きにアンテナを張り、分野を

問わず、さまざまな問題について関心を持ち、自分で調べておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席を含めた講義への積極的参加(60%)/レポート(40%)

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト (Textbooks)

指定しない

参考文献 (Readings)

1. ビル・バーネット&デイブ・エヴァンス、2019、『スタンフォード式人生デザイン講座』、早川書房 (ISBN:9784150505462)
2. 小塩真司、2021、『非認知能力: 概念・測定と教育の可能性』、北大路書房 (ISBN:9784762831645)
3. 新井紀子、2018、『AI vs.教科書が読めない子どもたち』、東洋経済新報社 (ISBN:9784492762394)
4. 児美川 孝一郎、2013、『キャリア教育のウソ』、筑摩書房 (ISBN:9784480688996)
5. 本田由紀、2009、『教育の職業的意義—若者、学校、社会をつなぐ』、筑摩書房 (ISBN:9784480065230)
6. 水國照充他、2018、『楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学』、北樹出版 (ISBN:978-4779305771)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

採用人数は 100 名程度、配当学年は 2 年次のみ。履修申込の際、提出するレポートにより選考する。

題目は、「法学部の学修は社会に出て、どのように役立つと考えるか」。字数: 1000 字程度。Word 形式とする。

やむを得ない理由で履修を辞退する場合は、履修要項を確認の上、必要な手続を取ること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／基礎文献講読 (Basic Readings)		
担当者名 (Instructor)	各科目担当者は、各自時間割計画シートで確認すること		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標 (Course Objectives)

法学や政治学などの社会科学を専門的に学ぶための導入として、基本的で含蓄のある文献を素材として適宜用いながら、文献や資料の収集方法・プレゼンテーションの作法・レポート作成の方法・読解力・論理的思考力などを身につける。

This is an introductory course for freshmen students who are going to major in law and political science. By using basic yet significant literature as reading materials, this course aims to provide students with a comprehensive knowledge on how to gather materials, skills for making a presentation, how to write a report, reading comprehension skills, and logical thinking methods.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は、次のスタイルで実施する予定である。

履修者は、全員、授業回ごとに指定する文献の該当範囲をよく読んで授業に参加する。あらかじめこちらから提示する論点などについて、コメントカードの作成を求めることもある。また、報告者を指名して、文献の要約を中心とするレジュメの作成と報告を求めることもある。授業では、報告者による発表や、各自のコメントカードなどを基に、履修者全員が各自の意見・疑問を示しつつ、それをふまえて全員で討論することで理解を深める。

また、講読する文献や討論から浮かび上がってきた論題や、発展的な論題をいくつか選び、それらについての討論を行う授業回を設ける場合もある。その際に履修者は、関連する情報を丹念に収集・調査して自己の見解を事前にまとめる等、十分に準備をする。授業を通じて履修者は、意見交換やお互いの疑問や批判に応えることを通じて、自らの見解を深め、説得力のある主張を示すことができるように努める。

This course is going to be conducted in the following ways.

All students shall participate in class after reading assigned readings for each week. Students may be required to write reaction papers regarding issues presented by the lecturer. Student presenters will be nominated to create an outline summarizing the reading assignments and asked to make a presentation. Based on the presentations and reaction papers, students are to take part by speaking in the discussion to deepen their understanding.

In some cases, specific topics may be selected to conduct a discussion session for the subjects. Students are required to prepare for the session by gathering related information in order to establish their own views on the issues. This class aims to enable students to deepen their own views and become able to make persuasive statements through the exchange of opinions and by responding to mutual questions and criticism.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 図書館情報検索講習会(他の回に行う場合もある)
3. 文献の講読および討論①
4. 文献の講読および討論②
5. 文献の講読および討論③
6. 文献の講読および討論④
7. 文献の講読および討論⑤
8. 文献の講読および討論⑥
9. 文献の講読および討論⑦
10. 文献の講読および討論⑧
11. 文献の講読および討論⑨
12. 文献の講読および討論⑩
13. 文献の講読および討論⑪
14. 文献の講読および討論⑫

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

担当教員の指示に従うこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業参加度(70%)/最終レポート(Final Report)(30%)

2 回連続無断欠席, 通算 3 回欠席の場合, もしくは最終レポートを提出しない場合, 原則として履修放棄として扱われる。

テキスト(Textbooks)

授業の最初の回に指示する。テキスト・参考文献のいずれについても, 必要があればコピーを配布することもある。

参考文献(Readings)

授業の最初の回などに, 適宜, 指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

＜授業形態＞

演習形式の授業である。

＜フィードバック＞

最終回の授業で全体につきフィードバックを行う。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX560／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	いのちの法と倫理－生命倫理とはじめ		
担当者名 (Instructor)	土屋 裕子(TSUCHIYA YUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

人のいのちをめぐる問題を法的・倫理的側面から検討し、多角的な視点から物事を考察する力を身に付けます。

The purposes of this course are (1) to examine problems around human life from legal and ethical aspects and (2) to develop the ability to observe through a multifaceted perspective.

授業の内容(Course Contents)

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中、私たちは日々医療や健康、そして生や死という問題と向き合いながら生きています。これらの問題は、「生命倫理」の問題と呼ばれ、それは誰もが生きている限り避けては通れない問題です。この授業では、人間のいのちをめぐるどのような問題が存在し、それに対してどのような議論がなされているのか、そして皆さんが大学で学んでいる「法」がどのように関連しているのかを考えてみたいと思います。

毎回、指定テキストから生命倫理に関する具体的な事例を取り上げ、全員で議論を行います。なお、この授業は「正しい答え」を提供するものではありません。答えのない問題に自分なりの答えを導き、様々な価値観を持つ仲間との議論を通じて、自分の価値観や既存の倫理観を再考してみましよう。

In the midst of the pandemic of Covid-19, we live daily with the issues of medicine and health, as well as life and death. These issues are called “bioethical” issues, which are unavoidable as long as anyone is alive. In this class, we will consider what kind of issues exist concerning human life, what kind of arguments are being made against them, and how the “law” you are studying at university is related to them.

We will take up a specific case study on bioethics from the assigned text and discuss it with all the students. But the course is not intended to provide a “correct answer.” All students should reconsider their values and existing ethical perspectives, then derive individual answers to problems that have no clear answers, and discuss them with others who have different values.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 【医療をめぐる生命倫理1】限られた医療資源の配分問題
3. 【医療をめぐる生命倫理2】新型コロナウイルス感染症と生命倫理
4. 【医療をめぐる生命倫理3】自己決定権とインフォームド・コンセント
5. 【医療をめぐる生命倫理4】小児医療・新生児医療
6. 【医療をめぐる生命倫理5】生体間移植・臓器売買
7. 【出生をめぐる生命倫理1】出生前診断
8. 【出生をめぐる生命倫理2】人工妊娠中絶
9. 【出生をめぐる生命倫理3】生殖補助医療
10. 【出生をめぐる生命倫理4】代理出産
11. 【死をめぐる生命倫理1】脳死・臓器移植
12. 【死をめぐる生命倫理2】安楽死
13. 【死をめぐる生命倫理3】尊厳死
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

報告者は担当テーマに関する情報収集、レジュメ作成等、周到な準備が必要となります。また、最先端のテーマを扱いますので、日頃から新聞やニュース等で医療や科学技術に関する情報に関心を持つようにしてください。

なお、この授業では生命倫理に関する予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への貢献度(70%)／報告の内容(30%)

なお、正当な理由なく欠席回数が3回を超えた場合は単位を認めません。

テキスト(Textbooks)

1. 香川知晶、2021、『命は誰のものか 増補改訂版』、ディスカヴァー携書 (ISBN:4799327291)

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:15 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

- ① 題目:このゼミの志望理由と意気込み
- ② 字数:1,200 字程度

ゼミ運営の都合上、合格後は必ずゼミに参加する意思のある方のご応募をお待ちしております。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX561／法学基礎演習(法曹) (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	法曹志望者のための刑法基礎演習		
担当者名 (Instructor)	三代川 邦夫(MIYOKAWA KUNIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

将来、司法試験を受験するための基礎として、学修方法を確立し、法律文書の書き方を理解すること。

As a basis for taking the bar examination in the future, this course aims to establish learning methods for and impart understanding of how to write legal documents.

授業の内容(Course Contents)

この演習では、正当防衛に関する地裁判決を取り扱います。

正当防衛は、(このシラバスをみている段階では)まだ授業で習っていないでしょうが、ある程度のイメージは沸くと思います。しかし、相手を挑発した場合でも、正当防衛は成立するのでしょうか。殺意があった場合は、どうでしょうか。あるいは、相手が素手で殴ってきたのに対し、こっちは包丁でやり返した場合はどうでしょうか。正当防衛は、単純なようでいて奥が深く、しかも実際によく事件になります。

正当防衛を考えるにあたって、実際の事件を取り上げます。本当に人が殺されている事件において、裁判官はどう答えを出したのか、そのような答えは本当に正しいのか、といった点を、考えていきます。最高裁判例よりも、むしろ地裁判決の方が考えさせられる事件が多く、詳細な事実関係が載っていることもあるので、地裁判決を取り上げることにします。それによって、事実関係を正確に理解する能力、事案の本質を見極める能力などを、磨くことができるはずです。

演習の形式としては、報告者が事実関係と判決を要約し、報告者の意見を交えて報告して貰います。それに対し、参加者全員で議論をします。

さらに、本演習では、報告者には報告後、次回演習までに、正当防衛の成否について、模擬判決文を起案して貰います。法律家を目指すためには司法試験という筆記試験を突破することが必要であり、さらに合格後も種々の文書を起案する必要があるため、文章作成能力は法律家として必須の能力です。そこで、法的な文章の書き方を身につけるべく、議論を踏まえてその内容を的確に書く訓練をします。書いたものに対しては、教員が添削をします。

This course aims to deal with district court rulings on self-defense.

(1) Students are unlikely to have learned much about self-defense, but they generally understand the concept. However, is self-defense possible even if the defender provokes the aggressor? If the aggressor has murderous intention or if the aggressor hits with his bare hand, but the defender uses a knife, is self-defense established? Self-defense seems simple, but it is deep, and in fact, often an accident.

The course considers self-defense by examining actual cases. Students consider how the judge arrived at a verdict when a person was actually killed and whether the judge's verdict was really correct. Because many cases are more likely to be heard by district courts than by the Supreme Court and are likely to contain detailed facts, the course focuses on district court cases. This activity should improve students' ability to understand facts accurately and to determine the essence of a case.

(2) As an exercise, adopt a style in which a reporter summarizes facts and judgments and reports his/her opinions.

All students are required to join the discussion. Furthermore, in this exercise, the reporter is obliged to draft a mock judgment on the success or failure of self-defense after the report and before the next seminar. In order to become a lawyer, it is necessary to pass the written test called the bar exam, and since it is necessary to draft various documents even after passing, the ability to prepare sentences is essential for a lawyer. Therefore, to learn how to write legal sentences, students practice writing contents properly based on the discussion. The teacher corrects students' writings.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス・報告の割り振り
2. 判例データベース講習会

3. 報告者による報告および議論(1)
4. 報告者による報告および議論(2)
5. 報告者による報告および議論(3)
6. 報告者による報告および議論(4)
7. 報告者による報告および議論(5)
8. 報告者による報告および議論(6)
9. 報告者による報告および議論(7)
10. 報告者による報告および議論(8)
11. 報告者による報告および議論(9)
12. 報告者による報告および議論(10)
13. 報告者による報告および議論(11)
14. 報告者による報告および議論(12)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

報告者は、レジュメを作成するために事前の準備が必要である。他の参加者は、事前の準備をする必要はない。
報告者は、授業後に前記のとおり模擬判決文の起案をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当回の報告内容(30%) / 議論への参加度・貢献度(50%) / 模擬判決文(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストを使用する予定はありません。

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 10～15 名

配当年次: 1 年次

選考方法: レポート

① 題目: 演習の志望動機を、具体的に書いて下さい。本演習は法曹養成コースを念頭に置いた演習であるため、将来の進路について考えていることにも触れて下さい。

② 字数: A4 用紙 1～3 枚

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX562／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル社会と法学／グローバル化現象の分析に有用な方法論を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	荻村 慎一郎(OGIMURA SHINICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

企業活動と就業・労働の領域を対象に、法学の方法論を用いて、グローバリゼーションの深化・拡大に伴って生じている諸問題について考察します。

Using legal methodology, we will examine the problems that arise with the deepening and expansion of globalization, targeting the areas of corporate activities and employment and labor.

授業の内容 (Course Contents)

企業活動が地球規模で展開されている現代においては、営利追求に熱心なビジネス・コミュニティの振る舞いと世界各地域に固有の法制度、文化、慣習との間の関係が、グローバル化現象を映す象徴的な問題として考えられるようになっています。

そこで、本演習では、比較法学の知見をもとに、日本、米州諸国、欧州諸国、アジア諸国を対象としながら、グローバル化現象が私たちの生活にもたらす核心的な意味について把握することを試みます。

具体的には、農業・食品業を例に、取引活動、知的財産の保護、雇用および労働、農業政策に関する法的諸問題を検討します。

また、基礎演習であることから、普段の学修への取り組み方や試験に対する準備と心構えについても、適宜助言する予定です。

In the current world where corporate activities are developed on a global scale, the relationship between the behavior of the business community which seeks to pursue profits and the legal system, culture and customs unique to each region of the world can be considered to be a symbolic problem that reflects the phenomenon of globalization.

Therefore, in this seminar, based on the knowledge of comparative law, we will try to understand the core meaning that the phenomenon of globalization brings to our lives, targeting Japan, the Americas, European countries, and Asian countries.

Specifically, we will examine legal issues related to trading activities, protection of intellectual property, employment and labor, and policy processes taking the food and agriculture sector as examples.

Because this is an introductory seminar, students will receive proper counseling about how to undertake their regular studies and the preparation and mental attitude required for tests.

授業計画 (Course Schedule)

1. 演習全体の準備と展望：チームの編成と前提知識の説明
2. 労働の問題（労働法の初歩）①：課題の把握
3. 労働の問題（労働法の初歩）②：分析と準備
4. 労働の問題（労働法の初歩）③：中間報告（プレゼンテーション）
5. 農業市場の問題（経済法の初歩）①：課題の把握
6. 農業市場の問題（経済法の初歩）②：分析と準備
7. 農業市場の問題（経済法の初歩）③：中間報告（プレゼンテーション）
8. 知的財産の問題（知的財産法の初歩）①：課題の把握
9. 知的財産の問題（知的財産法の初歩）②：分析と準備
10. 知的財産の問題（知的財産法の初歩）③：中間報告（プレゼンテーション）
11. 農業政策全体の問題（憲法・行政法・国際法の初歩）①：課題の把握
12. 農業政策全体の問題（憲法・行政法・国際法の初歩）②：分析と準備
13. 農業政策全体の問題（憲法・行政法・国際法の初歩）③：中間報告（プレゼンテーション）
14. 全チームによる最終報告会（プレゼンテーションと報告レポートの完成）

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

チームごとに半年間をかけて、一つのテーマに取り組みます。

共通の関心分野(問題)を持つ仲間同士でチームを組んだうえで、各チームが担当した分野(問題)については、教員の助力を得ながらも、そのチームが中心となってゼミを進行してもらいます。

したがってそのための準備を、仲間同士で互いに協力し合って、無理のない範囲で授業時間外に進めて頂きます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

通常回における参加と取組み(60%)/中間報告および最終報告における報告の内容(40%)

テキスト(Textbooks)

オリジナル教材を毎回配布します。

参考文献 (Readings)

1. 生源寺眞一、2018、『農業がわかると、社会のしくみが見えてくる 新版』、家の光協会 (ISBN:978-4259518660)

英語や言語 B で履修している外国語(担当教員が対応できるのはスペイン、フランス、ドイツ、中国の各言語)の自学自習の方法についても、ご関心のある方には助言できれば、と考えています。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:16 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:レポートによる

① 題目: 農業・食品業に関する法的問題について

「牛肉」「和牛」「農協」「種子」「種苗」の 1 語単独または「農業」と「協定」もしくは「実習生」の 2 語の組み合わせの中から関心を持った言葉をてがかりに、東京新聞のウェブサイトのサイト内検索機能を用いて、2017 年以降の記事から 1 つを選んでください(誰でも無料で利用できる記事が多いことから、東京新聞を指定しています)。

選ぶ基準としては、何らかの法律または法的な話題に関係していることが求められます。

まず、選んだ記事の日付と見出しを掲げたうえで、記事の内容を簡潔に要約してください。

次いで、その記事を選んだ理由(あなたが関心をもっている学問分野や進路・職業を示せるという意味で、自己紹介になります)と自分なりにある程度調べたもののよくわからなかったので仲間と一緒に勉強してみたい点(この演習に対するあなたの知的動機を示すこととなります)、この 2 点について、わかりやすくまとめてみてください。

② 字数: 1,200 字程度(A4 用紙で表面 1 枚以内を厳守のこと)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX563／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	倫理学トレーニング(心と体の倫理学)		
担当者名 (Instructor)	宮澤 弘(MIYAZAWA HIROSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

二つの目標があります。一つは、倫理学の基本的な知識を獲得すること、もう一つは、ある概念につき、そこに横たわる論点を見つけ出して解釈し整理する力を文献講読を通してトレーニングすることです。

There are two objectives of this course. One is to acquire basic knowledge of the ethics. Another is to train the ability to interpret and organize the points which lie within a certain idea by reading literature.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、倫理学の基礎的な知識を学び、その知識を使って現在の様々な道徳的諸問題、特に心と体に関わる倫理問題について議論していきます。心と体に関わる倫理問題とは、例えば記憶力や推論能力を強化するために薬を使用して脳の機能を向上させることの是非や、環境への耐久力増進を目的とした身体の生化学的な改造に関わる問題などを指します。授業の前半では倫理学の基本を学び、後半でその応用として心と体の倫理問題を扱う予定です。

In this seminar, students will learn basic knowledge of ethics and then discuss a number of contemporary moral issues, especially the mind-body ethics (human enhancements) using that obtained knowledge. Ethical issues concerning mind and body is, for example brain modifications by using drugs to increase memory or reasoning capabilities, alterations to biochemistry to increase resilience to the environment or the creation of new capacities. In the first half of the class, students will learn the basic knowledge of ethics, the second half of the class will deal with ethical issues related to mind and body.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに(授業の進め方、参考文献の提示、説明、時間外学習について)、演習を始めるにあたっての準備(ディスカッション)
2. 倫理とは何か 法・政治・経済・宗教と倫理
3. 代表的な倫理理論1 社会契約論 義務倫理学
4. 代表的な倫理理論2 功利主義 共感理論 徳倫理学
5. 現在世代と将来世代の対話; 未来倫理学
6. 人間と環境
7. AI(人工知能)と倫理学
8. 容姿を整える～美容整形の倫理
9. 運動能力を増強する～ドーピングの倫理
10. 身体を機械化する～サイボーグ化の倫理
11. 気分・感情・性格を変化させる～感情制御の倫理
12. 性を一致させる～性別移行をめぐる倫理
13. 遺伝子を操作する～遺伝子操作の倫理
14. 善人を作り出す～モラル・エンハンスメントの倫理

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業毎に割り当てられる文献は必ず熟読してください。毎回コメントカードを作成し提出をしてもらいます。初回授業時に関連する文献を紹介しますので、関連文献は積極的に読み進めてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業中の積極的な発言(60%)/テキストの予習(事前学習)(20%)/報告の内容(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 品川哲彦、2020、『倫理学入門』、中央公論新社 (ISBN:9784121025982)
 2. 佐藤岳詩、2021、『心とからだの倫理学』、筑摩書房 (ISBN:9784480684066)
- その他に必要な資料は配布します。

参考文献(Readings)

1. ジュリアン・バギーニ、向和美訳、2012、『100の思考実験』、紀伊國屋書店 (ISBN:9784314010917)
 2. ジュリアン・バギーニ他、長滝祥司他訳、2012、『倫理学の道具箱』、共立出版 (ISBN:9784320005860)
 3. 小林亜津子、2019、『はじめて学ぶ生命倫理』、筑摩書房 (ISBN:9784480688682)
 4. 児玉聡、2012、『功利主義入門』、筑摩書房 (ISBN:9784480066718)
 5. マイケル・J・サンデル、林芳紀他訳、2010、『完全な人間を目指さなくてもよい理由』、ナカニシヤ出版 (ISBN:9784779504761)
- その他の参考文献は適宜授業中に示します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15人

配当年次:1年次

選考方法:レポート

①題目:この演習を志望した理由

②字数:1200 字程度

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX564／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	交渉学入門(Introduction to negotiation studies)		
担当者名 (Instructor)	濱野 亮(HAMANO RYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

交渉に関する基本的知識とスキルを身につける。与えられた論点に関する短文作成能力と、口頭によるプレゼンテーションとディスカッションの能力を身につける。

Develop basic knowledge and skills in negotiation. Acquire the ability to write short texts on given issues and develop short writing skills and oral presentation and discussion skills on given issues.

授業の内容(Course Contents)

アルバイトのシフトの変更、サークルでの行事の決定、就活、会社での営業、企業買収、結婚、交通事故・相続・離婚などの紛争解決、どれをとっても、複数の人間が関わる全てのことは「交渉 negotiation」です。交渉の基本的知識とスキルを知っておくことは、これから社会に出ていく皆さんにとって役に立ちます。この演習は、交渉学の入門書を読み、交渉のルール・プレーとその振り返りを行うことで、交渉学の基礎的知識を得てもらうことをめざしています。なお、交渉には大きく取引交渉と紛争解決交渉の2つの類型がありますが、今年度は紛争解決交渉ではなく、ビジネスに関する取引交渉が中心になります。

文献を読む回は、私が事前に提示した3つ程度の論点に対して、全員がテキストを正確に読んで自分の考えを文章にして毎回提出してもらいます。毎回の予習はかなりの分量になりますので、意欲ある人の履修を希望します。また、課題について班内で発表・議論し、班の見解をまとめるグループワークをします。毎回、報告担当班を定め、テキストの担当部分の要約を分担して発表してもらいます。

また、交渉や調停のルール・プレーを全員が行う回を数回設け、文献で学んだことを実際に経験してもらいます。

以上を通じて、2年次以降に開講予定の交渉学ゼミの導入とします。

Changing shifts at part-time jobs, deciding on events at clubs, job hunting, sales at the company, the company acquisitions, marriages, resolving disputes such as traffic accidents, inheritance and divorce, all of which involve more than one person, are all "negotiations". Knowing the basic knowledge and skills of negotiation will be useful for everyone.

This seminar is an introduction to negotiation studies. This seminar will help you in your future career by reading an introduction to negotiation studies, role-playing a negotiation and reflecting on it.

There are two main types of negotiation: deal-making negotiation and conflict resolution negotiation. In this year's course, the focus is on business deal-making negotiations rather than conflict resolution negotiations.

In the literature reading sessions, all students are required to read the text accurately and to write their own ideas on the three or so issues I have presented to them beforehand. The amount of preparatory work for each session is quite large. The students will also have group work and they will present and discuss the issues and summarise their group's views on the issues. Each time, a group in charge of reporting will be assigned and will be asked to present a summary of the part of the text for which they are responsible.

In addition, there are several times when everyone takes part in role-plays of negotiation and mediation, so that the students can actually experience what they have learned from the literature.

The above will serve as an introduction to the negotiation seminar to be held from the second year and after.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 交渉理論の基本的分析概念
3. ロールプレー
4. 交渉を失敗させる三つの誤解、交渉を成功させる三つの原則
5. 感情と心理バイアス、そして合理性
6. パワープレーを打ち破るには
7. ロールプレー
8. 振り返り
9. 交渉戦略を立案する——事前準備の方法論
10. 交渉をマネジメントする

11. 最高の合意を作り出す交渉の進め方
12. 対立を乗り越えて—コンフリクト・マネジメント
13. ロールプレー
14. ロールプレーの振り返りとまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回、全員、事前に示された論点(3つ程度)について、レポートを作成し提出する。ロールプレーについては、振り返りのレポートを提出する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の課題(40%)/担当報告の内容(30%)/平常の授業態度(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 田村次朗・隅田浩司、2014、『戦略的交渉入門』、日本経済新聞出版 (ISBN:9784532112998)

参考文献(Readings)

1. フィッシャー&ユーリー、1989、『ハーバード流交渉術』、三笠書房 (ISBN:9784837903604)
2. マルホトラ&ベイザーマン、2016、『交渉の達人』、パン・ローリング (97847759416348)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:12名程度

配当年次:1年次

選考方法:

- ① 題目:このゼミを志望する理由
- ② 字数:1600字以上

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX565／法学基礎演習(法曹) (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	法曹志望者のための民法基礎演習		
担当者名 (Instructor)	原田 昌和(HARADA MASAKAZU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

将来、司法試験を受験するための基礎として、学修方法を確立し、法律文書の書き方を理解すること。この演習は、法曹志望者のみを対象にしている。

The objective of this course is to establish a learning method and understand how to write legal documents as a basis for taking the Bar Examination in the future. This seminar is only for prospective legal professionals.

授業の内容(Course Contents)

学習内容として扱う分野は、民法総則とする。百選などに掲載されている判例を検討し、関連する事例問題(毎回数人の人に答案を書いてきてもらう予定)を考えることによって、民法の基礎知識を身につける。判例検討の方法は、判例報告の方法による。下記のテーマを予定しているが、受講者の学習進度によって変更することがある。

The classes will cover the general provisions in Part I of the Civil Code. This objective of this seminar is to deepen students' knowledge of Civil Law by studying the judicial precedents listed in the Top One Hundred etc. and related case issues. Classes may be reported. The following themes are planned and are subject to change depending on student progress.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 情報検索講習会
3. 94条2項類推適用1
4. 94条2項類推適用2
5. 錯誤1
6. 錯誤2
7. 表見代理1
8. 表見代理2
9. 表見代理3
10. 表見代理4
11. 無権代理と相続1
12. 無権代理と相続2
13. 公序良俗違反1
14. 公序良俗違反2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回のテーマに合わせて各自の教科書の該当部分を予習し、そのうえで、問題に対する各自の解答を考えておくこと。各回の担当者は、さらに、報告を文書化して、全員に配布する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート(40%)／報告(30%)／発言(30%)

テキスト(Textbooks)

授業内で指示する。

参考文献(Readings)

予復習は各自の教科書でよいが、報告、ディベートの際には、図書館に備え付けられている教科書、体系書などの参照が必須である。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:15 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:

- ① 題目: 自己紹介、法曹三者のどれを目指しているか、そのような志望に至ったきっかけ
- ② 字数: 1500 字程度

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	The Language of International Business Law		
担当者名 (Instructor)	ウィタカ, B. (WHITTAKER BRANDON M.)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

The main objective of this course is to provide students with an opportunity to improve their English reading, writing, speaking and listening skills by reading and discussing, in oral and written form, various legal materials. An ancillary objective of the course is for students to get a glimpse of what legal education and practice in the United States look like, and to become familiar with various types of legal texts.

授業の内容 (Course Contents)

The course will take students on a journey from life as a U.S. law school student through to that of a junior associate at a U.S. law firm. We will begin by examining legal texts that U.S. law school students might encounter, and as we progress through the semester, we will examine legal documents that junior associates might draft or review. Each week, I will provide an overview of the reading for that day's seminar and then ask for students' thoughts on the readings.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course overview and discussion
2. Contracts hornbook reading
3. Contracts hornbook reading
4. Contracts legal case reading
5. Reading regarding fiduciary duties (part 1)
6. Reading regarding fiduciary duties (part 2)
7. Law review article regarding fiduciary duties (part 1)
8. Law review article regarding fiduciary duties (part 2)
9. Legal memo reading
10. Reading about the practice of corporate law
11. Securities offerings
12. Officer's certificates
13. Resolutions
14. Final quiz

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Reflections, preparation for quizzes: See "Evaluation" for further information.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Reflection papers(20%)/Quizzes(15%)/Participation(30%)/Final quiz(35%)

Reflections: From the third week, students will write a short reflection (150 words or more) in response to questions I will provide regarding the reading. Reflections are due at least 24 hours prior to the seminar. As long as a student has completed the assignment on time, full credit will be given. If the reflection is received less than 24 hours before the seminar but by the time the seminar begins, 75% credit will be given. Reflections received after the seminar but within the day of the seminar will receive 50% credit. Reflections received later than the day of the seminar but prior to the end of the semester will receive 25% credit. All reflections must be received in order to receive credit for this seminar. Quizzes: From the third week, at the beginning of each seminar, students will take a quiz of 10 questions that will cover the information we discussed in the prior seminar. The two lowest scores will be dropped, and the remaining scores will be averaged. A student will not need to take the quiz corresponding to the information they presented in their student presentation. Participation: It is expected that this will be a small seminar. As such, students' active participation will be required. Each student should speak multiple times during each seminar, but at a minimum four times. The final quiz will be an oral quiz. The final quiz will cover information we have discussed during the semester, and students will be given a topic ahead of time so that they can prepare. The grade for the final quiz will be based on how well students know, and are able to communicate, the material.

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

Reading pack to be provided.

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX567／法学基礎演習(法曹) (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	法曹志望者のための憲法基礎演習		
担当者名 (Instructor)	守田 大悟(MORITA DAIGO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

将来、司法試験を受験するための基礎として、学修方法を確立し、法律文書の書き方を理解すること

By the end of the course, students will be able to 1) establish the methods of studying jurisprudence, 2) write legal documents, with a view to taking the National Bar Examination of Japan.

授業の内容(Course Contents)

日本国憲法が関係する判例を3～4つほど選択し、約2～3回の演習で一つの判例を学ぶこととする。一つのセットとなる2～3回の演習は以下のように行われる。

- (1) 対象判例を読む
- (2) 対象判例の理解の助けになるような文献(例えば、判例評釈、調査官解説、論文)を読む
- (3) 対象判例とは少しだけ異なる事例問題について、議論する。
 - ・(1)と(2)では、報告者を指名して、判例又は文献の要約を行ってもらい。報告者はレジュメを書き、報告を行う。
 - ・(3)の討論は、参加者が事前に起案したレポートを基に行う。
 - ・(2)又は(3)を進行に応じて省略する場合もある。
 - ・(1)において、事実を詳しく知るために、第一審判決を検討することもある。

In this course, we will study several cases with which the Constitution of Japan is related. For each case, two to three classes will be spared. A set of these two to three classes will be carried as follows:

- (1) We will read the case in question.
- (2) We will read some documents which may help to understand the case studied in Class (1), such as commentaries written by scholars or clerks (Judicial Research Officials of Supreme Court of Japan), and academic papers.
- (3) We will have a discussion on a case example which is slightly different from the case studied in Class (1).
 - ・In Classes (1) and (2), some students will be assigned to summarize a case or a document. Those students will be required to write a handout in advance and to make a presentation.
 - ・Class (3) discussion will be based on reports written by students in advance.
 - ・We may sometimes dispense with Class (2) or (3), according to the progress of the course.
 - ・In Class (1), we may examine the adjudication of first instance to know the facts in detail.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス①(演習の進め方の説明等)
2. ガイダンス②(教員によるプレ報告等)
3. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
4. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
5. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
6. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
7. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
8. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
9. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
10. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
11. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
12. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
13. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論
14. 判例講読、文献講読、又は事例問題に関する討論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回について、主に以下のような予習を行うこと。

- (1) 対象判例を原文で読んでくること。

(2) 指定された文献を読んできること。

(3) 課題となる事例について、(1)(2)で学んだことを活かしてどう解決できるか、(訴訟代理人か裁判官になったつもりで)自分なりに考えてくること。起案レポートの執筆を課す場合もある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当回の報告とレジュメの内容(50%)/出席状況と学習状況(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 14 名程度

配当年次: 1 年次

選考方法:

① 題目: この演習を志望する動機

② 字数: A4 で 1 枚

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX568／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	いのちの法と倫理－生命倫理とはじめ		
担当者名 (Instructor)	土屋 裕子(TSUCHIYA YUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

人のいのちをめぐる問題を法的・倫理的側面から検討し、多角的な視点から物事を考察する力を身に付けます。

The purposes of this course are (1) to examine problems around human life from legal and ethical aspects and (2) to develop the ability to observe through a multifaceted perspective.

授業の内容(Course Contents)

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中、私たちは日々医療や健康、そして生や死という問題と向き合いながら生きています。これらの問題は、「生命倫理」の問題と呼ばれ、それは誰もが生きている限り避けては通れない問題です。この授業では、人間のいのちをめぐるどのような問題が存在し、それに対してどのような議論がなされているのか、そして皆さんが大学で学んでいる「法」がどのように関連しているのかを考えてみたいと思います。

毎回、指定テキストから生命倫理に関する具体的な事例を取り上げ、全員で議論を行います。なお、この授業は「正しい答え」を提供するものではありません。答えのない問題に自分なりの答えを導き、様々な価値観を持つ仲間との議論を通じて、自分の価値観や既存の倫理観を再考してみましよう。

In the midst of the pandemic of Covid-19, we live daily with the issues of medicine and health, as well as life and death. These issues are called “bioethical” issues, which are unavoidable as long as anyone is alive. In this class, we will consider what kind of issues exist concerning human life, what kind of arguments are being made against them, and how the “law” you are studying at university is related to them.

We will take up a specific case study on bioethics from the assigned text and discuss it with all the students. But the course is not intended to provide a “correct answer.” All students should reconsider their values and existing ethical perspectives, then derive individual answers to problems that have no clear answers, and discuss them with others who have different values.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 【医療をめぐる生命倫理1】限られた医療資源の配分問題
3. 【医療をめぐる生命倫理2】新型コロナウイルス感染症と生命倫理
4. 【医療をめぐる生命倫理3】自己決定権とインフォームド・コンセント
5. 【医療をめぐる生命倫理4】小児医療・新生児医療
6. 【医療をめぐる生命倫理5】生体間移植・臓器売買
7. 【出生をめぐる生命倫理1】出生前診断
8. 【出生をめぐる生命倫理2】人工妊娠中絶
9. 【出生をめぐる生命倫理3】生殖補助医療
10. 【出生をめぐる生命倫理4】代理出産
11. 【死をめぐる生命倫理1】脳死・臓器移植
12. 【死をめぐる生命倫理2】安楽死
13. 【死をめぐる生命倫理3】尊厳死
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

報告者は担当テーマに関する情報収集、レジュメ作成等、周到な準備が必要となります。また、最先端のテーマを扱いますので、日頃から新聞やニュース等で医療や科学技術に関する情報に関心を持つようにしてください。

なお、この授業では生命倫理に関する予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への貢献度(70%)／報告の内容(30%)

なお、正当な理由なく欠席回数が3回を超えた場合は単位を認めません。

テキスト(Textbooks)

1. 香川知晶、2021、『命は誰のものか 増補改訂版』、ディスカヴァー携書 (ISBN:4799327291)

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:15 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

- ① 題目:このゼミの志望理由と意気込み
- ② 字数:1,200 字程度

ゼミ運営の都合上、合格後は必ずゼミに参加する意思のある方のご応募をお待ちしております。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Future Skills Project		
担当者名 (Instructor)	薬師丸 正二郎(YAKUSHIMARU SHOJIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 42 名 Future Skills Project		

授業の目標 (Course Objectives)

この授業は、社会や企業が現実抱える問題や課題を知り、チームで課題解決に向けて取り組むことを目指す。課題を解決する過程で、実社会に触れることにより、社会で必要とされる能力に気づき、その活用方法を学んでゆく。また課題解決を図る上で、必要と気付いた様々な能力を身につけるために、大学生活をどのように過ごし、学んでいくかについて、自ら考え、主体的に行動する力を養うことを目標としている。

This class aims to have students understand the problems and issues actually faced by society and companies and to work in teams to resolve these issues. Through the process of resolving these issues, students will gain exposure to the real world, become aware of the abilities which are required in society, and learn how to apply them. Moreover, in order to enable students to develop the various abilities which are realized to be necessary during the problem-solving process, the objective of this course is to help students think on their own about how to spend their time at university and the learning process to cultivate the ability to take self-directed action.

授業の内容 (Course Contents)

- ◇ 本講義は、大教室での受動的な講義ではなく、学生自らが能動的に議論に参加し、発表する学習方法(アクティブ・ラーニング形式)で行う課題解決型学習(PBL: Problem Based Learning)である。
- ◇ 講義は、前半に1企業、後半にもう1企業(合計2社)の協力を得て、それぞれから課題を提示してもらい、提示された課題に対して、チームで取り組み、成果を出してゆく。
- ◇ 企業の担当者から提示された課題に対して、受講者は「社員の立場(当事者目線)」でチームによる解決を目指す(当事者意識を持って課題解決に取り組むこと)。課題解決を通して、必要な情報を収集・分析し、自分の意見を出し、DATAや資料により自らの主張を裏付けること。そして、他人に自分の意見を伝え、相手の意見を引き出して理解し、チームで検討することにより、チームの結束力を高めることにより、特定の課題を解決していくことを学ぶ。
- ◇ 中間プレゼンと最終プレゼンでは、チームで考え抜いた課題解決策を企業担当者に提示し、そこでのフィードバックから自分と自らのチームの取り組みを振り返る。
- ◇ 本講義は、一般社団法人 Future Skills Project 研究会がプラットフォームとなり、その協力を受けながら、実施されるプログラムである(<http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>)。
- ◇ The lectures will not consist of passive lectures in a large auditorium but instead be conducted using Problem Based Learning (PBL) in which students learn through active participation in discussions and by giving presentations (active learning format).
- ◇ The first half of the lectures will obtain the cooperation of one company, and the second half will work with one additional company (total of two companies). Each company will present an issue which the students will take on in teams to produce results.
- ◇ The teams will aim to resolve the issues (approach the problem solving with an awareness of the concerned parties) presented by the company representatives from the "employee's perspective (viewpoint of the concerned parties)." Students will collect and analyze the required information, come up with their own opinions, and substantiate their own statements with data and documentation through the problem-solving process. Finally, students will learn how to resolve a specific issue by increasing team cohesiveness through stating their own opinion to others, soliciting and understanding the opinion of others, and evaluating the issue as a team.
- ◇ During the intermediate and final presentations, students will present the solution thought up by the team to the company representatives to review their own and the team's effort based on the feedback received.
- ◇ The platform for these lectures is the Future Skills Project Research Society and the program is presented in cooperation with the Future Skills Project. (<http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>)

授業計画 (Course Schedule)

1. マインドセット・ルール説明
2. 課題とは？
ディスカッションとは？
《企業①》
3. 企業(第一登壇企業)からの課題提示 ★ (★:企業参加の回)
4. グループ活動
5. 企業への中間プレゼン ★
6. グループ活動
7. 企業への最終プレゼン・評価 ★
8. 振り返り・スキル紹介
チーム再編
《企業②》
9. 企業(第二登壇企業)からの課題提示 ★
10. グループ活動
11. 企業への中間プレゼン ★
12. グループ活動
13. 企業への最終プレゼン・評価 ★
14. 全体の振り返り
今後の大学生活での学びを検討する

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ◇ この講義は、企業の第一線で活躍する方々を招いて行われる。したがって、講座への出席とチームへの参画には責任をもって、積極的に取り組むことが必要条件である。
- ◇ 受講者は、①授業時間の大半がチームワークであること、②授業外でのフィールドワークやディスカッション、サブゼミ等も必要であること、③自分の行動に責任をもって積極的にチームに貢献すること、④講義終了時に振り返りを行うことが必須条件である。
- 以上のことを理解して主体性を持って、積極的な意欲をもって参加して欲しい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出欠・参加姿勢(20%)/リフレクションシートの内容(30%)/チームへの貢献(25%)/プレゼンの内容(25%)

テキスト(Textbooks)

1. FSP 研究会. Project Support Notebook. Future Skills Project 研究会事務局
- 講義は、毎回、FSP 研究会作成のテキスト『Project Support Notebook』を使用する。
- 初回の講義から使用するため、受講者各自で購入し、講義に持参すること。

参考文献(Readings)

1. 上野千鶴子、2018、『情報生産者になる』、筑摩書房 (ISBN:4480071679)
2. 桑田てるみ、2015、『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版: スキルを学ぶ 21 のワーク』、実教出版 (ISBN:4407336145)
3. パーバラ ミント、1999、『考える技術・書く技術—問題解決力を伸ばすピラミッド原則』、ダイヤモンド社 (ISBN:4478490279)
4. ジャスパー・ウ、2019、『実践 スタンフォード式 デザイン思考』、インプレス (ISBN:9784295007326)
5. デイヴィッド・ケリー他、2014、『クリエイティブ・マインドセット』、日経 BP (ISBN:9784822250256)
6. 中村善貞、2018、『図解 新規事業を創出する方法』、言視社 (ISBN:9784865651164)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

・一年生の春学期科目であることから、今後、4 年間の大学生活をどのように過ごすかについて考える貴重な機会になります。是非、主体的に、チャレンジして下さい！

・抽選登録のため、選考なし。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	自動登録／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	To examine the society from a legal point of view and train your independent research, logical thinking, writing and presentation skills		
担当者名 (Instructor)	田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	法学部国際ビジネス法学科グローバルコース生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

This seminar is designed to train students' logical thinking, writing and presentation skills, while examining the society from the legal, sociological, cultural and political points of view.

Through examining modern social issues from a legal point of view, students can also gain insights into the modern society in Japan.

授業の内容 (Course Contents)

The seminar is an introduction to Japanese law and legal studies. Social issues are examined from legal, sociological, cultural, historical and political points of view.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to the seminar
Logical thinking and presentation skills. The topic will be provided by the instructor.
2. Logical thinking and presentation skills. The topic will be provided by the instructor.
3. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
4. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
5. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
6. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
7. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
8. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
9. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
10. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
11. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
12. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
13. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
14. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

There will be reading assignments every week. Students must complete the reading assignments. Occasional writing assignments may be given, as well. For preparing for the presentations, independent research will be required as well.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Presentation and participation in class(80%)/Writing assignments(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX571／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代民主主義理論を基本から読む		
担当者名 (Instructor)	高橋 和則(TAKAHASHI KAZUNORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

現代民主主義理論の著作を読解することで、民主主義についての理解を深める

To understand the democracy by reading the works of Robert Dahl

授業の内容(Course Contents)

ロバート・ダールの名前は教科書にもよく出てきます。現代民主主義理論の基礎をなしたアメリカの理論家です。教科書で名前をよく見かけられるけど、読んだことがある人はそう多くないかもしれません。教科書ではかなり短くしか説明できませんが、実際に読んでみると、彼がどうして民主主義を現代風にバージョン・アップしなければと思ったのかよくわかります。ここでは実際にダールの『ポリアーキー』と『現代民主主義理論の基礎』を読んで、現代民主主義理論を理解してみたいと思います。

articulate the modern democratic theory in the Dahl's "Polyarchy" and "Preface to the democracy"

授業計画(Course Schedule)

1. ゼミの構成と進行について
2. ダール『ポリアーキー』1・2章精読
3. ダール『ポリアーキー』3・4章精読
4. ダール『ポリアーキー』5・6章精読
5. ダール『ポリアーキー』7・8章精読
6. ダール『ポリアーキー』9・10章精読
7. ダール『ポリアーキー』11章精読
8. ダール『民主主義理論の基礎』1章精読
9. ダール『民主主義理論の基礎』2章精読
10. ダール『民主主義理論の基礎』3章精読
11. ダール『民主主義理論の基礎』4章精読
12. ダール『民主主義理論の基礎』5章精読
13. ダール現代民主主義理論の再検討
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの精読

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)／ゼミへの貢献(50%)

テキスト(Textbooks)

1. ロバート・A・ダール、2014、『ポリアーキー』、岩波書店(文庫)(ISBN:978-4-00-340291-7)
- ロバート・ダール『民主主義理論の基礎』はこちらでコピーして配布する

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 15名前後

配当年次: 1年次

選考方法: レポート

- ①題目: 志望動機と自己紹介
- ②字数: 合わせて 1200 字程度

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX572／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代の国際政治を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	白鳥 潤一郎(SHIRATORI JUNICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

国際政治は激動の時代を迎えている。しかし、そうした時代の変化を的確に把握するためには論理的な思考と歴史や思想に根差した視座が必要となる。本演習から国際政治や外交について考えを深めるきっかけを得て欲しい。また、授業への参加を通じて、文章を読みこなし、報告・議論・コメントカード及びレポート執筆等に関する学術的な能力の基礎を身に付けて欲しい。

International Politics is facing a turbulent era. However, in order to accurately understand such changing times, logical thinking and a viewpoint based in history and ideas are required. The objective of this seminar is to provide students with an opportunity to deepen their thinking about International Politics and foreign policy. Moreover, it is hoped that participation in class will enable students to effectively understand writing and master the fundamentals of academic capabilities with respect to presenting reports, engaging in discussions, and writing comment cards.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では国際政治学の文献を輪読する。課題量は受講者の人数次第で調整する。第2回以降は事前にコメントカード(400字程度)を提出を求める。各回は、報告担当者が課題文献の内容報告を行い、その後は討論者の問題提起をふまえた全体討論を行う形で授業を進めて行く。

In this seminar, students will read the textbook of International Politics literature which are said to be "modern classics." The volume of assigned literature reading will be adjusted based on the number of participants. Starting from the second session, students will be required to submit comment cards (approximately 400 characters in Japanese) in advance. During each class session, the student in charge of presenting will report on the content of the assigned literature reading followed by an overall discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション／自己紹介／担当決め
2. 「現代の国際政治」に関するレクチャー
3. 課題文献の輪読
4. 課題文献の輪読
5. 課題文献の輪読
6. 課題文献の輪読
7. 課題文献の輪読
8. 課題文献の輪読
9. 課題文献の輪読
10. 課題文献の輪読
11. 課題文献の輪読
12. 課題文献の輪読
13. 課題文献の輪読
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回授業開始までに指定文献に目を通していただくことを前提に授業を進める。基礎知識に自信が無い受講者には授業開始前の夏期休暇期間中に参考文献に目を通していただくことを推奨する。特に『国際政治をつかむ 新版』と『国際政治史』を優先するとよいだろう。なお、ゼミ形式の授業は参加者に積極的な発言と活発な討論が期待される。授業準備は授業で発言することを念頭に持って欲しい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

コメントカード(20%)／報告(30%)／授業での発言及び議論への参加(30%)／最終レポート(Final Report)(20%)
上記を基本とするが受講者数次第で調整する。最終レポートは輪読するテキストの書評(4000字程度)を予定しているが、参加人数次第で調整する。

テキスト(Textbooks)

1. 田中明彦、2017、『新しい中世——相互依存の世界システム』、講談社 (ISBN:9784062924412)

参考文献(Readings)

1. 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将、2015、『国際政治学をつかむ 新版』、有斐閣 (ISBN:978-4641177222)
2. ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ、2017、『国際紛争——理論と歴史 原書第10版』、有斐閣 (ISBN:978-4641149175)
3. 藤原帰一、2007、『国際政治』、放送大学教育振興会 (ISBN:978-4595135040)
4. 中西寛・石田淳・田所昌幸、2013、『国際政治学』、有斐閣 (ISBN:978-4641053786)
5. 小川浩之・板橋拓己・青野利彦、2018、『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』、有斐閣 (ISBN:978-4641150522)
6. モーリス・ヴァイス、2018、『戦後国際関係史——二極化世界から混迷の時代へ』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4766425345)
7. 白鳥潤一郎・高橋和夫、2022、『現代の国際政治』、放送大学教育振興会 (ISBN:978-4-595-32340-9)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:12名以内

配当年次:1年次

選考方法:レポート

①題目:志望動機及び授業に求めること

②字数:1000字程度

※初回授業について担当者から連絡するのでパソコンのメールアドレスを必ずレポート内に記載すること。また授業開始前に参考文献の中から少なくとも1冊を読んでおくことを推奨します。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX573／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	21 世紀の危機と平和を考える		
担当者名 (Instructor)	永野 和茂(NAGANO KAZUSHIGE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

パンデミック、気候変動、テクノロジーの脅威、グローバル経済と格差、リベラル・デモクラシーの動揺、社会の「分断」など、現在、私たちは 21 世紀の様々な諸課題に直面している。本演習は、これらの問題を素描する文献を読み解き、国際政治学における基本的な概念や議論について学ぶことを目的とする。また、授業への参加を通じて、テキスト要約の報告、論点の提出および討論、レポート執筆に関する学術的な基礎能力を身につけることも目標とする。

We are currently facing a range of the 21st century challenges: pandemic, climate change, technological threats, the global economy and inequality, the unrest of liberal democracy, the 'fragmentation' of society, etc. This seminar aims to acquaint students with the basic concepts and debates in international politics by reading the literature that sketches these issues. Students will also develop their academic skills such as presentation, debate and report writing through participation in the course.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、国際政治に関わる文献を輪読しながら、各テーマについて討論する。報告担当者はテキストの内容報告を行い、それ以外の受講生は事前にコメント・ペーパー(400 字程度)を提出する。各回とも、討論者の問題提起をふまえた全体討論を行う形で授業を進めて行く。必要に応じて、小グループに分かれて討論することもある。

In this seminar, we will read introductory literature on international politics and discuss each topic. The presenter will summarise the contents of the texts. The rest will submit a comment paper in advance. If necessary, students will be divided into small groups for discussion in the class.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション、自己紹介、担当決め
2. 文献講読 1
3. 文献講読 2
4. 文献講読 3
5. 文献講読 4
6. 文献講読 5
7. 文献講読 6
8. グループワーク
9. 文献講読 7
10. 文献講読 8
11. グループワーク
12. 文献講読 9
13. グループ報告
14. グループ報告

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

受講生は毎回指定された範囲のテキストを事前に読み、演習開始前にコメント・ペーパーを提出する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)／授業への参加度(30%)／報告(20%)／コメント・ペーパー(20%)

テキスト(Textbooks)

1. イアン・ブレマー(稲田誠士監訳)、2022、『危機の地政学——感染爆発、気候変動、テクノロジーの脅威』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4296113941)
2. 山田満、2021、『平和構築のトリロジー——民主化・発展・平和を再考する』、岩波書店 (ISBN:978-4750352046)

参考文献 (Readings)

1. ファリード・ザカリア (上原裕美子訳)、2021、『パンデミック後の世界——10 の教訓』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532358631)
2. ブランコ・ミラノヴィッチ (立木勝訳)、2017、『大不平等——エレファントカーブが予測する未来』、みすず書房 (ISBN:978-4622086130)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 15 名程度

配当年次: 1 年次

選考方法: レポート

- ① 題目: 本演習を履修する動機とテーマについての関心を自由に書いてください。
- ② 字数: 1000～1200 字程度

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX574／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	丸山眞男を読み直す		
担当者名 (Instructor)	田頭 慎一郎(DENDO SHINICHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

指定した著作の輪読を通して、内容を要約し論点を発見し議論する能力を身につける。

The objective of this course is to master the ability to summarize content, discover issues, and engage in discussion through reading the specified work in turn.

授業の内容 (Course Contents)

戦後日本の民主主義論の古典とも言える丸山眞男の主要著作を読むことを通して、「軍国日本」と世界における全体主義的体制と権力の問題、また政治的なものの考え方を学ぶ。

Students will learn about "militarist Japan," totalitarian systems around the world, and the problems of power as well as how to think in a political manner by reading Masao Maruyama's major work on democratic theory in postwar Japan, which is said to be a classic.

授業計画 (Course Schedule)

1. 演習の概要説明
2. 「政治と台所の直結について」「デモクラシーと人間性」
3. 「拳銃を…」「偽善のすすめ」「日本人の政治意識」
4. 「「である」ことと「する」こと」
5. 「政治的判断」①
6. 「政治的判断」②
7. 「人間と政治」
8. 「肉体文学から肉体政治まで」
9. 「民主主義の歴史的背景」「戦後民主主義の「原点」」
10. 「超国家主義の論理と心理」
11. 「軍国支配者の精神形態」①
12. 「軍国支配者の精神形態」②
13. 「現代における人間と政治」
14. 「憲法第九条をめぐる若干の考察」

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

課題となった作品を読んでくこと、授業内で音読することがあるので、読めない漢字や外国語があった場合は調べてフリガナをふっておくこと。また、授業中に紹介した参考文献を参照しつつ討論に備えること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席・コメントペーパーの提出(40%)/レジュメ作成・報告(20%)/授業内での討論(40%)

テキスト (Textbooks)

テキストは、担当教員が用意する。

参考文献 (Readings)

1. 丸山眞男、1964、『(増補版)現代政治の思想と行動』、未来社
2. 荻部直、2006、『丸山眞男』、岩波新書

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数：10人程度

配当年次：1年次

選考方法：レポート

①題目：志望動機について

②字数：1000 字程度

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX575／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	デジタル・テクノロジーと政治・社会 (Digital Technologies, Politics and Society)		
担当者名 (Instructor)	宮内 悠輔(MIYAUCHI YUUSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

この演習では、複数の文献を手掛かりとしながら、デジタル・テクノロジーと政治・社会の関係、およびそれが引き起こす現象や問題について議論する。それぞれ異なったアプローチで論じられた複数の文献を輪読することで、デジタル・テクノロジーがもたらした政治・社会の変化、およびデジタル・テクノロジーと人々との望ましい関係を模索していく。

The objective of this seminar is to discuss issues of the relation between digital technologies and the society.

授業の内容 (Course Contents)

受講者は、予習として事前に文献を読み、Canvas LMS の公開トピックへ考察・疑問点を書き込む(予習課題)。授業時は、報告者の内容要約・論点提起および受講者の書き込みに基づいて議論を行う。また、授業の終わり際に、ウェブ上からコメントを提出する(授業後コメント)。

なお、予習課題および授業後コメントは後日、1 つに集約した上で教員のリプライを添え、Canvas LMS へアップロードする。授業後コメントについては匿名化し、個人が特定されることのないよう配慮する。

The students will read the literature and submit a comment in advance. In the class, the student in charge of presenting will report the summary of the literature and question points. After the reporting, all the participants will discuss regarding the issues of the literature based on the report.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 自己紹介・分担決定
2. 配布資料の輪読①
3. 1 冊目の指定テキストの輪読①
4. 1 冊目の指定テキストの輪読②
5. 1 冊目の指定テキストの輪読③
6. 1 冊目の指定テキストの輪読④
7. 1 冊目の指定テキストの輪読⑤
8. 配布資料の輪読②
9. 2 冊目の指定テキストの輪読①
10. 2 冊目の指定テキストの輪読②
11. 2 冊目の指定テキストの輪読③
12. 2 冊目の指定テキストの輪読④
13. 2 冊目の指定テキストの輪読⑤
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の文献に事前に目を通すことをもって予習とする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

予習課題(25%)/授業後コメント(25%)/議論への貢献(レジュメ作成・報告および各回の発言)(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 谷川嘉浩、2022、『スマホ時代の哲学——失われた孤独をめぐる冒険』、ディスカヴァー・トゥエンティワン (ISBN:9784799329139)

2. ジェイミー・パートレット、2020、『操られる民主主義——デジタル・テクノロジーはいかにして社会を破壊するか』文庫版、草思社 (ISBN:9784794224743)
その他、必要に応じて講師が適宜、文献を配布する。

参考文献 (Readings)

1. 稲田豊史、2022、『映画を早送りで観る人たち ファスト映画・ネタバレ——コンテンツ消費の現在形』、光文社 (ISBN:9784334046002)
2. ニック・スルネック、2022、『プラットフォーム資本主義』、人文書院 (ISBN:9784409031193)
3. スコット・ギャロウェイ、2018、『the four GAFA——四騎士が創り変えた世界』、東洋経済新報社 (ISBN:9784492503027)
4. キャス・サンスティーン、2018、『#リパブリック——インターネットは民主主義になにをもたらすのか』、勁草書房 (ISBN:9784326351763)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

・報告者は、事前にレジュメを Canvas LMS 上に提出する。また、報告者以外は、事前に Canvas LMS 上で予習課題を提出する。期日に間に合うよう、また偶発的なトラブル等にも備え、余裕を持って準備すること。
・授業の終わりに、ウェブ上から授業後コメントを提出する。そのため、ノート PC やタブレット端末、スマートフォンなどを忘れずに持参すること(原則として事後提出は不可)。
・毎回、一度に読む文献の分量がそれなりに多い。演習に振り向けなくてはならない負担の大きさを考慮した上で応募してほしい。なお、極力、講義時間の延長は行わない。

<選考方法>

採用人数:10 人

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

- ① 題目:まず、この演習を志望する理由をできるだけ具体的に教えてください(必須)。これに加えて、自己紹介、これまででもっとも印象に残っている大学の授業(全学共通科目や語学クラス等も可)、読んでみて面白かった本の紹介、大学・法学部への不満や大学生活における悩み、など自由に任意の話題も交えてまとめてください。
- ② 字数:800 字以上 2000 字以内(A4 用紙 1~2 枚程度)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX576／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	バーリンの自由主義		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬 佳也(ICHINOSE YOSHIYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

本演習は、政治学に関わる基礎的な文献を読むことによって、学生のプレゼンテーションやディスカッションの力をつけていくことを目標としている。特に、バーリンのテキストを読み、自由主義について学んでいく

The objective of this seminar is that student improve their abilities of presentation and discussion by reading some elementary books concerning Politics. Especially, we will read books written by Isaiah Berlin, and learn about Liberalism.

授業の内容(Course Contents)

この演習では、アイザイア・バーリンのテキストを読み、自由主義について学んでいく。

この授業は「演習」形式で行われる。報告者がテキストの担当箇所についてのプレゼンを行い、その論点についてみんなで議論することを通じて理解を深めていく。

In this seminar, we will read books written by Isaiah Berlin, and learn about Liberalism.

This lecture has a style of seminar. Students will report the section of textbook that they are assigned, and deepen their understanding by discussing the issues with all members.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 第1章 ハリネズミ族と狐族/第2章 『戦争と平和』に対する批判
3. 第3章 歴史叙述と形而上学/第4章 トルストイ思想の源流
4. 第5章 メーストールとトルストイ/第6章 科学と現実感覚
5. 第7章 狐の戦いとその矛盾/第8章 狐の逆説
6. 前半まとめ
7. 序論
8. 序論:積極的自由対消極的自由
9. 20世紀の政治思想
10. 歴史の必然性
11. 歴史の必然性
12. 二つの自由概念
13. 二つの自由概念
14. ジョン・ステュアート・ミルと生の目的

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

受講生は毎回指定された範囲のテキストを事前に読み、コメントペーパーを提出する

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加度(20%)/プレゼンテーション(30%)/コメントペーパー(30%)/最終レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

1. バーリン、1997、『ハリネズミと狐:『戦争と平和』の歴史哲学』、岩波文庫 (ISBN:4-00-336841-X)
2. アイザイア・バーリン、2000、『自由論』、みすず書房 (ISBN:4-622-04974-0)

参考文献(Readings)

1. ジョン・グレイ、2009、『バーリンの政治哲学入門』、岩波書店 (ISBN:978-4000244480)
2. マイケル・イグナティエフ、2004、『アイザイア・バーリン』、みすず書房 (ISBN:978-4622070979)
3. 森達也、2018、『思想の政治学:アイザイア・バーリン研究』、早稲田大学出版部 (ISBN:978-4657188038)
4. バーリン、2021、『反啓蒙思想』、岩波文庫 (ISBN:978-4003368428)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:10 名前後

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

- ① 題目:本演習で履修する動機とテーマについての関心を自由に書いてください。
- ② 字数:1000 字

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX577／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	フェミニズム／ジェンダーに関する基本的論点を理解し、議論する		
担当者名 (Instructor)	笠井 昭文(KASAI AKIFUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

1. レポート作成やグループ・プレゼンテーションを通じて、学生にとって必要となる基礎的技術の向上を目指します。2. テキストの報告と議論を通じて、フェミニズムやジェンダーに関する基本的論点の理解を図ると共に、生きづらい社会を乗り越えていくために、どのような考え方や行動が必要となるのかについて考えていきます。3. 以上の目標を通じて、現代社会の諸問題について、自ら考え、自分の言葉で表現しようとする人間を育てたいと思います。

1) Through report writing and group presentations, this course aims to improve the fundamental skills that students need. 2) Through the text report and discussion, we will try to understand the basic issues related to feminism and gender, and think about what kind of thinking and actions are necessary to overcome the difficult society. 3) Through the objectives described above, I would like to train people who can think on their own about the various problems in contemporary society and who try to express their ideas in their own words.

授業の内容 (Course Contents)

この演習は、大きく二つの部分から構成されています。一つは、「法学部ラーニングガイド」や「Master of Writing/Presentation」で紹介されている学生にとって必要な技能を、グループ・プレゼンテーションやレポート作成を進めることで、一年次の内に実践的に身に付けてもらうことです。もう一つは、テキストの報告と議論を通じて、フェミニズムやジェンダーに関する様々な論点への理解を深めると共に、生きづらい社会を乗り越えていくために、私たちはどのような考え方や行動を身に付けていくべきかについて考えていきたいと思います。それはまた、多様な人々が共に生きていく際に、必要となる知恵や配慮についても検討していくことになるでしょう。

演習で取り組む課題は難しいものではありませんが、演習の時間とは別に、学生自身が調べ、学生同士で議論し、そして自分の言葉で書くことが求められる「出力」重視の演習です。得られる単位は2単位だけなので、単位取得効率の点から言えば甚だ「コスパ／タイパ」の悪い講義ですが、自らの考えを深め、それを他者に向けて表現していくことを大切にしたい人には良い機会になると思います。

The seminar is composed of two sections. In the first section, students will learn practical skills within the first year through group presentations and report writing, which are introduced in "the Faculty of Law Learning Guide" and "Master of Writing/Presentation". In the second section, through the text report and discussion, we will deepen our understanding of various issues related to feminism and gender, and think about what kind of thoughts and actions we should acquire in order to overcome the difficult society. It will also consider the wisdom and considerations that are necessary when diverse people live together.

The assignments in this seminar will not be difficult, but this seminar will be an "output"-oriented exercise in which students research themselves, discuss with each other, and write in their own words even outside of the seminar time. Since only two credits will be received, in terms of the efficiency of acquiring credits, this course has poor "cost performance or time performance". But I think this course will be a good opportunity for those who want to deepen their own thoughts and value expressing them to others.

授業計画 (Course Schedule)

1. アイスブレイク、ガイダンス
2. 小レポートへの相互評価、プレゼンのためのブレイン・ストーミング
3. プレゼン準備、『フェミニズムがひらいた道』報告と議論
4. プレゼン準備、『フェミニズムがひらいた道』報告と議論
5. プレゼン準備、『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』報告と議論
6. プレゼン準備、『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』報告と議論
7. グループ・プレゼンテーションの実施
8. ゼミレポートの構想報告
9. ゼミレポートの構想報告
10. 『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』報告と議論
11. 『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』報告と議論

12. 『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』報告と議論
13. レポート講評会の実施
14. 生きづらさを減らしていく上で意識すべき事柄についての議論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

履修者は毎回、テキストをしっかりと読んで参加して下さい。テキストの報告については、担当者を決め、分担して報告してもらいます。また、小レポートの執筆、小レポートの相互評価、グループ・プレゼンテーションの準備作業とプレゼンの実施、ゼミレポート集の作成、レポート講評会での書評報告といった課題を予定しています。計画的に取り組み、準備に時間をかければ、いずれも難しい課題ではありません。

成績評価方法・基準(Evaluation)

テキストの報告と議論への参加(40%) / プレゼンテーションの準備作業と発表(30%) / 小レポートおよびレポート集への原稿作成(30%)

すべての課題を達成して、初めて成績評価の対象とします。正当な理由がない4回以上の欠席は、成績評価の対象とはなりません。

テキスト(Textbooks)

1. 上野千鶴子、2022、『フェミニズムがひらいた道』、NHK出版 (ISBN:9784144072819)
2. 佐藤文香監修、2019、『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』、明石書店 (ISBN:9784750348520)

参考文献(Readings)

演習の中で随時紹介します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:12名程度

配当年次:1年次

選考方法:レポート

- ① 題目:取り上げるテキストないしテーマに対する自分自身の関心と、この演習への志望動機について報告して下さい。
- ② 字数:1600字程度(40字×40行、A4用紙1枚程度)

演習計画は、履修者数や学生の関心に配慮して随時組み替えていきます。履修者数が多くなった場合は、集中ゼミや合宿を行うことで対応しようと思います。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX578／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近代的個人、近代国家、近代社会の輪郭を捉える (Tracing the Outline of Modern Individual, State, and Society)		
担当者名 (Instructor)	安藤 有史(ANDO YUJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

今日私たちが生きている時代は近代(modern)だといえるでしょうか。それともよく言われるようにすでに近代は終わったのでしょうか。そもそもなぜ近代が重要なのでしょうか。近代には単なる時期区分以上にどんな意味が込められているのでしょうか。これらの問いに答えるためには、近代の特徴を知る必要があります。この演習では、近代とは何かを考えるために、初歩的な手がかりとなる文献を読みます。授業名に「輪郭を捉える」とあるように、近代という概念を完全に理解するには数冊の本だけでは到底足りません。近代とは何かはあまりに巨大な問いですが、挑戦してみる価値のある重要なテーマです。本演習は受講者にこのテーマについて考えるきっかけを与えることを目標としています。

Is it appropriate to call the era of our present period modern, or has the modern been already over as is often said? Why does the modern matter in the first place? What does the modern mean other than mere periodization? To answer these questions, we must know the traits of the modern. The purpose of this seminar is to read basic books to grasp what the modern is. As indicated in the title of the seminar, Tracing the Outline, just a few books are hardly enough to fully comprehend the concept of the modern. Even though thinking about the modern is a formidable task, it is worthy of study. This seminar is for inspiring the students to think about the subject.

授業の内容(Course Contents)

近代に関する3つの文献を読みます。それぞれが個人、国家、社会というテーマに対応していますが、互いに重なっている部分もあります。「授業計画」記載の2冊目以降は一冊すべてを読むわけではなく、一部抜粋を扱います。テキストは授業内で指示があるまで用意する必要はありません。

We will read three books regarding the modern. Each of them, overlapping each other, respectively deal with the theme of individual, state, and society. We will read the whole of the first book, but the second and third books will be partially dealt with in this seminar. Students do not have to purchase the books before the first class.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 近代的個人についての文献を読む(大塚久雄『社会科学における人間』)
3. 近代的個人についての文献を読む(同上)
4. 近代的個人についての文献を読む(同上)
5. 近代的個人についての文献を読む(同上)
6. 近代的個人についての文献を読む(同上)
7. 近代的個人についての文献を読む(同上)
8. 近代的個人についての文献を読む(同上)
9. 近代国家についての文献を読む(國分功一郎『近代政治哲学』一部抜粋)
10. 近代国家についての文献を読む(同上)
11. 近代国家についての文献を読む(同上)
12. 近代社会についての文献を読む(アンソニー・ギデンズ『近代とはいかなる時代か』一部抜粋)
13. 近代社会についての文献を読む(同上)
14. 近代社会についての文献を読む(同上)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

全受講者は毎回、文献の指定範囲を読んだ状態で出席してください。
各回の報告担当者は内容要約のレジュメを準備してください。
報告者以外も毎回簡潔なコメント(400字程度)を授業前に提出してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告担当時の報告内容(40%)/出席・毎回の授業での議論への貢献(30%)/コメントペーパーの提出・内容(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 大塚久雄、1977、『社会科学における人間』、岩波書店 (ISBN:9784004200116)
 2. 國分功一郎、2015、『近代政治哲学——自然・主権・行政』、筑摩書房 (ISBN:9784480068200)
 3. アンソニー・ギデンズ、1993、『近代とはいかなる時代か？——モダニティの帰結——』、而立書房 (ISBN:9784880591810)
- 1冊目はすべてを読みますので、購入をお勧めします。2、3冊目は一部だけコピー配布して読みますので、購入は必須ではありません。

参考文献(Readings)

1. 篠原一、2004、『市民の政治学：討議デモクラシーとは何か』、岩波書店 (ISBN:9784004308720)
2. 今村仁司、1994、『近代性の構造：「企て」から「試み」へ』、講談社 (ISBN:9784062580014)
3. イマニエル・ウォーラステイン、2006、『入門・世界システム分析』、藤原書店 (ISBN:9784894345386)
4. ラインハルト・コゼレック、1989、『批判と危機——市民的世界の病因論のための一研究』、未来社 (ISBN:9784624020255)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数：10～15名程度

配当年次：1年次

選考方法：レポート

- ① 題目：この演習の志望理由や関心のある学問テーマについて
- ② 字数：800～1200字程度

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX579／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際関係史入門(Introduction to International History)		
担当者名 (Instructor)	清水 謙(SHIMIZU KEN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

国際政治を通史的に学ぶことで、21世紀におけるさまざまな国際問題を理解し体系的に分析する基礎を培うことを狙いとする。できるだけ多くの国・地域の政治や歴史、文化などにも目を向け、国際的な相互理解を深めて、複眼的な視野を涵養することも目指したい。

The objective of this course is to build a foundation to understand and systematically analyze various international problems in the twenty-first century by studying an overview of International Politics. This course aims to focus on the politics, history, and culture of as many countries and regions as possible to deepen international mutual understanding and to cultivate a multifaceted point of view.

授業の内容(Course Contents)

本演習では、国際政治史の基本的な文献を輪読しながら各章について議論をする。受講生には報告を担当してもらったテキストの章を割り当て、担当者の報告のあと教員が解説を加えてから、受講生が提出する「準備メモ」をもとに全体で議論をする。演習では実際に史料を読解し、そこから読み取れる国際政治史を分析する切り口なども共に考えていきたい。また、理論的な枠組みも適宜紹介することで、国際政治学の方法論なども修得していく。より立体的な理解のため、史料調査やフィールドワークなどから教員が得た成果も各回のテーマに合わせて紹介していく。

In this seminar, students will read in turn from the fundamental literature in the history of International Politics while discussing each chapter. Participants will be assigned chapters in the textbook to present reports. After the report has been presented, the faculty member will add an explanation followed by a discussion among all the students based on the "preparatory notes" submitted by the participants. In the class, we are also going to read historical materials which the faculty member would like the students to actually interpret for discussion to think together about ways of analyzing the history of international politics. Moreover, students will also learn the methodology of the study of International Politics by introducing theoretical frameworks as needed. Investigations into historical materials, fieldwork, and other results achieved by the faculty member will also be introduced according to the topic of each session to achieve a more multifaceted understanding.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 「ヨーロッパの時代からアメリカの時代へ」の輪読と議論
3. 「第二次世界大戦終結前後の世界」の輪読と議論(ヨーロッパ編)
4. 「第二次世界大戦終結前後の世界」の輪読と議論(アジア編)
5. 「ヨーロッパの冷戦とアジアの戦争」(ヨーロッパ編)
6. 「ヨーロッパの冷戦とアジアの戦争」(アジア編)
7. 「西欧帝国主義の終焉と米ソ冷戦の継続」の輪読と議論(1955年体制)
8. 「西欧帝国主義の終焉と米ソ冷戦の継続」の輪読と議論(ハンガリー動乱から日米安全保障条約改定まで)
9. 「ベトナム戦争と米ソ中三国関係」の輪読と議論(ベトナム戦争から第三次中東戦争まで)
10. 「ベトナム戦争と米ソ中三国関係」の輪読と議論(ニクソン・キッシンジャー外交)
11. 「第三世界の激動と米ソ・デタントの退潮」の輪読と議論(第四次中東戦争からデタントの凋落まで)
12. 「第三世界の激動と米ソ・デタントの退潮」の輪読と議論(ヘルシンキ合意から大平首相の環太平洋連帯構想まで)
13. 「冷戦の終結」、「冷戦後の国際関係」、「アメリカの時代の終わり」の輪読と議論
14. まとめの議論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回のテキスト輪読に際して演習で扱う章を事前に通読し、コメントや疑問点、演習で議論したい論点などを整理した「準備メモ」を作成し、演習開始前までに提出してもらう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当箇所の報告(60%)／準備メモ・議論への積極的参加度など(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 有賀貞、2019、『現代国際関係史：1945 年から 21 世紀初頭まで』、東京大学出版会（978-4-032228-7）

参考文献(Readings)

受講者の関心を汲み取りながら演習中に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数：15 名程度

配当年次：1 年次

選考方法：レポート

① 題目：本演習を志望する理由と、国際政治で関心のあるテーマについて自由に論じて下さい。

② 字数：1000～1200 字程度（A4 用紙1枚以内）

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Future Skills Project		
担当者名 (Instructor)	横山 政司(YOKOYAMA MASASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 42 名 Future Skills Project		

授業の目標(Course Objectives)

この授業は、社会や企業が現実抱える問題や課題を知り、チームで課題解決に向けて取り組む。課題を解決する過程で、実社会に触れることにより、社会で必要とされる能力に気づき、その活用方法を学ぶ。また課題解決を図るために必要であると気付いた様々な能力を身につけるために、大学生活をどのように過ごし、学んでいくかについて、自ら考え、主体的に行動する力を養うことを目標としている。

This class aims to have students understand the problems and issues actually faced by society and companies and to work in teams to resolve these issues. Through the process of resolving these issues, students will gain exposure to the real world, become aware of the abilities which are required in society, and learn how to apply them. Moreover, in order to enable students to develop the various abilities which are realized to be necessary during the problem-solving process, the objective of this course is to help students think on their own about how to spend their time at university and the learning process to cultivate the ability to take self-directed action.

授業の内容(Course Contents)

- ◇ 本講義は、大教室での受動的な講義ではなく、学生自らが能動的に議論に参加し、発表する学習方法(アクティブ・ラーニング形式)で行う課題解決型学習(PBL: Problem Based Learning)である。
- ◇ 講義は、前半に 1 企業、後半にもう 1 企業(合計 2 社)の協力を得て、それぞれから課題を提示してもらい、提示された課題に対して、チームで取り組み、成果を出す。
- ◇ 企業の担当者から提示された課題に対して、受講者は「社員の立場(当事者目線)」でチームによる解決を目指す(当事者意識を持って課題解決に取り組む)。課題解決を通して、必要な情報を収集・分析し、自分の意見を出し、DATA や資料により自らの主張を裏付ける。そして、他人に自分の意見を伝え、相手の意見を引き出して理解し、チームで検討を重ねる。それにより、チームの結束力を高め、特定の課題を解決していくことを学ぶ。
- ◇ 中間プレゼンと最終プレゼンでは、チームで考え抜いた課題解決策を企業担当者に提示し、そこでのフィードバックから自分とチームの取り組みを振り返る。
- ◇ 本講義は、一般社団法人 Future Skills Project 研究会がプラットフォームとなり、協力を受けながら、実施されるプログラムである(<http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>)。
- ◇ The lectures will not consist of passive lectures in a large auditorium but instead be conducted using Problem Based Learning (PBL) in which students learn through active participation in discussions and by giving presentations (active learning format).
- ◇ The first half of the lectures will obtain the cooperation of one company, and the second half will work with one additional company (total of two companies). Each company will present an issue which the students will take on in teams to produce results.
- ◇ The teams will aim to resolve the issues (approach the problem solving with an awareness of the concerned parties) presented by the company representatives from the "employee's perspective (viewpoint of the concerned parties)." Students will collect and analyze the required information, come up with their own opinions, and substantiate their own statements with data and documentation through the problem-solving process. Finally, students will learn how to resolve a specific issue by increasing team cohesiveness through stating their own opinion to others, soliciting and understanding the opinion of others, and evaluating the issue as a team.
- ◇ During the intermediate and final presentations, students will present the solution thought up by the team to the company representatives to review their own and the team's effort based on the feedback received.
- ◇ These lectures are the program conducted by the Future Skills Project Research Society as a platform and with cooperation from it. (<http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>)

授業計画(Course Schedule)

1. マインドセット・ルール説明
2. 課題とは？
ディスカッションとは？
《企業①》
3. 企業(第一登壇企業)からの課題提示 ★ (★:企業参加の回)
4. グループ活動
5. 企業への中間プレゼン ★
6. グループ活動
7. 企業への最終プレゼン・評価 ★
8. 振り返り・スキル紹介
チーム再編
《企業②》
9. 企業(第二登壇企業)からの課題提示 ★
10. グループ活動
11. 企業への中間プレゼン ★
12. グループ活動
13. 企業への最終プレゼン・評価 ★
14. 全体の振り返り
今後の大学生活での学びを検討する

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ◇ この講義は、企業の第一線で活躍する方々を招いて行われる。したがって、講座への出席とチームへの参画には責任をもって取り組むことが必要条件である。
 - ◇ 具体的には、授業時間内のグループワークに加え、授業時間外でのフィールドワークやディスカッション等に積極的に積極的に参加し、チームに貢献する必要がある。
- 以上のことを理解したうえで、主体性を持って参加して欲しい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出欠・参加姿勢(20%)/リフレクションシートの内容(30%)/チームへの貢献(30%)/プレゼンの内容(20%)

テキスト(Textbooks)

- ・講義は、Future Skills Project 研究会作成のテキスト『Project Support Notebook』を使用する。
- ・初回の講義から使用するため、受講者各自で購入し、講義に持参すること。

参考文献(Readings)

1. ハンス・ロスリング. 2019. FACT FULNESS. 日経 BP (ISBN:4822289605)
2. 成毛真, 2021, 『2040 年の未来予測』, 日経 BP (ISBN:4822288900)
3. 西村佳哲, 2012, 『なんのための仕事?』, 河出書房新社 (ISBN:4309245897)
4. 宇田川元一, 2019, 『他者と働く』, NewsPicks パブリッシング (ISBN:4910063013)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

- ・抽選登録のため、選考なし。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX582／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ビジネスに関する基礎的な法律知識の修得		
担当者名 (Instructor)	鄭 燦玉(JUNG CHANOK)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

ビジネス法のエッセンスを学び、その内容を理解しておくことで、各法律の本格的な学習に備える。

This seminar can help students prepare for an in-depth study of each law by learning the essence of business law and understanding its contents.

授業の内容 (Course Contents)

法は社会生活のあらゆる領域を規律していますが、とりわけ企業活動は法的規律なしには成立しえません。たとえ企業に所属せず、ビジネス活動を日常的に行うわけではない一般個人であるとしても、企業から商品を購入するなど、日常生活において企業を相手に契約を結ぶことは数多くあります。法的紛争の防止・解決のためにも、社会人にとって関連する法律知識を備えておく必要性は高いといえます。

本演習は、民法や会社法などのより専門的な法学科目への橋渡しの役割を演じるためのものであり、授業の中ではビジネスに関係する法律の基本的な規律内容について勉強していきます。具体的には、ビジネス法の入門書である中村信男ほか『ビジネス法入門』の各パートを適当に割り当てたうえ、担当者に該当部分を事前に精読してもらい、その内容を要約・報告してもらいます。

* 本演習では、報告レジュメの出来について教員が綿密に検討し、授業中に頻繁にコメントをします。他人からコメントや指摘を受けることに拒否感をもつ学生は、本演習への志望を再考してください。

In this seminar, we will study the basic regulations of business-related laws such as civil law and corporate law. In the seminar presentation, students read an introduction to business law attentively, write a report and give a presentation to other students.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション(1)—テキストと参考文献の紹介、授業の進め方と準備・報告の方法の説明—
2. イントロダクション(2)
3. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(1)
4. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(2)
5. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(3)
6. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(4)
7. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(5)
8. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(6)
9. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(7)
10. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(8)
11. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(9)
12. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(10)
13. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(11)
14. 担当者による該当パートの報告と教員からのコメント(12)、まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

学習の効率を高めるためにも、担当者が事前にアップロードする報告レジュメやテキストの該当部分を一読してくる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レジュメの出来と報告内容(70%) / 質疑応答やディスカッションへの参加度(30%)

ただし、欠席回数が5回以上である場合、または、自分の報告日に正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。

テキスト (Textbooks)

1. 中村信男ほか、『ビジネス法入門』、中央経済社 (ISBN:9784502346514)

テキストは教員が用意し提供するもので、必ずしも購入する必要はない。

* 状況に応じて追加のテキストを検討する。

参考文献(Readings)

参考文献については、授業中に適宜紹介します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

①題目:自己紹介と志望動機等

②字数:700 字程度(例:自己紹介 200 字、志望動機やゼミ授業に臨む心構え 500 字)

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX583／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Law and Contemporary Social Issues		
担当者名 (Instructor)	アシュリー(Ashley Gregory M.)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2913	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

Our main objectives are (i) to explore the connections between law and real-world issues facing societies, companies, and individuals and (ii) to become comfortable and confident using English legal terminology to share our views on various legal topics.

授業の内容 (Course Contents)

This is a seminar course in which we will create an active and exciting — yet comfortable and respectful — environment for learning. Through interactive discussions as a whole class, in small groups, and with a partner depending on the session/topic, we will discover how the field of law connects with today's pressing and hotly-debated social issues.

In principle, at least two seminar sessions will be devoted to a specific theme: for example, Constitutional Law issues, Law and Technology, Law and the Environment, Law and the SDGs, and Law and Human Rights/Relationships. Students will be expected to read two to four English items (e.g., news articles) and/or watch short English videos in preparation for each session. Our classes will begin with lectures involving back-and-forth discussions in a Socratic style before shifting to further debates in small groups or pairs.

授業計画 (Course Schedule)

1. Orientation/Introduction
2. Discovering and Thinking about Legal Issues in the News and Everyday Life (1)
3. Discovering and Thinking about Legal Issues in the News and Everyday Life (2)
4. Constitutional Law Issues in the Real World (e.g., free expression vs. hate speech) (1)
5. Constitutional Law Issues in the Real World (2)
6. The Law and Technology (e.g., AI, privacy, SNS harassment, protecting children online) (1)
7. The Law and Technology (2)
8. The Law and the Environment (e.g., laws regarding climate change)
9. The Law and the SDGs (e.g., workers' rights, SDG #16 Peace, Justice and Strong Institutions) (1)
10. The Law and the SDGs (2)
11. The Law and Human Rights/Relationships (e.g., same-sex marriage, diversity) (1)
12. The Law and Human Rights/Relationships (2)
13. Other Connections: The Law and Conflict/War
14. New Trends: ESG, Gender Identity, Etc.

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

The instructor will provide reading materials based on the progress and/or theme of each class. Students are asked to (i) read and think about the materials and (ii) prepare for class/group discussion before each session.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

In-class participation/effort(80%)/Written opinion statement(s)(20%)

テキスト (Textbooks)

The lecturer will provide copies of reading materials.

参考文献 (Readings)

The lecturer will provide copies of reading materials.

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

Admission Policy

Number of students: 25

Eligibility: First priority: first-year students in Department of International Business Law (especially students considering transferring to Global Program); however, other first-year students may apply as well

※In the case of a large number of applicants, the instructor will select the seminar members and priority will be given to Department of International Business Law students

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	英語で学ぶ法学入門－英語専門科目の受講準備として－		
担当者名 (Instructor)	高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 30 名 国際ビジネス法学科生優先		

授業の目標 (Course Objectives)

法学の基本的な知識を英語で学ぶ
法律学に特有の英語表現・語彙を学ぶ

This course will give students basic knowledge of legal studies in English and English legal terminology.

授業の内容 (Course Contents)

法学部で展開されている英語による専門科目を受講する前に、法律学の基本的な構造や特有の英語表現を身につけるために、文献を輪読し、合わせて内容について議論をする。授業内使用言語は日本語だが、マテリアルは全て英語になる。取り上げるマテリアルは下記を参照されたい。
特に英語授業に関心がある者、グローバルコースへの転コースを検討している者の受講を推奨する。
なお、期間中に担当者が追加される可能性がある。

This course will provide an opportunity for students who are the beginner of law to get familiar with English legal terminology before the specialized English courses offered by the Faculty of Law. Students will be required to read basic legal materials and discuss their contents in the class. Language in class is Japanese but all materials will be provided in English. See below for a list of materials.

This course is particularly recommended for students who are interested in English language teaching and who are considering transferring to the Global Program.

Note that native English-speaking teacher may be added to the teaching staff during the course period.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読
3. 文献講読
4. 文献講読
5. 文献講読
6. 文献講読
7. 文献講読
8. 文献講読
9. 文献講読
10. 文献講読
11. 文献講読
12. 文献講読
13. 文献講読
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

担当者は該当箇所の予習が必須である。クイズの形で課題を出すので、それに答える形で担当箇所を確認し、あわせて内容について議論すべき点を検討する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告担当(60%)／質問・議論等、授業への貢献(40%)

テキスト (Textbooks)

1. Raymond Wacks. 2015. *LAW: A Very Short Introduction* 2nd ed.. Oxford University Press (ISBN:9780198745624)

参考文献 (Readings)

1. Shinichiro Torikai 他, 2014. *Legal Minds*. Kinseido (ISBN:9784764739840)
 2. 南野森編、2019、『〔新版〕法学の世界』、日本評論社 (ISBN:9784535523685)
- 授業で取り上げる部分はコピーを配布するが、購入して自習に利用しても良い。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

・抽選登録のため、選考なし。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX591 / Law and Society in Japan A		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Japanese Law in Comparative Perspective		
担当者名 (Instructor)	オルトラニー(ORTOLANI ANDREA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of this course is to present Japanese law as seen by Japanese and international scholars.

授業の内容 (Course Contents)

This course will present some areas of the Japanese legal system from a historical and comparative perspective. The focus will be on constitutional law and on criminal law.

授業計画 (Course Schedule)

1. Historical background
2. The Meiji Constitution
3. The current Constitution: The drafting, fundamental principles
4. The current Constitution: Article 9, pacifism and refusal of war
5. The current Constitution: Fundamental rights and freedoms
6. The current Constitution: The Parliament, the Government
7. The current Constitution: The courts, judicial review
8. Criminal law: Historical background
9. Criminal law: General principles
10. Criminal law: Prosecutors
11. Criminal law: Penalties
12. Criminal law: Prisons
13. Criminal law: Lay participation in the criminal trial
14. Criminal law: The Constitution and criminal law

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Participants will be required to read materials in English in preparation for the lessons.
Participants will have to submit three Mini-Tests at regular intervals during the term.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Three Mini-Tests(70%) / 最終テスト(Final Test)(5%) / 最終レポート(Final Report)(5%) / Self-evaluation(20%)

テキスト (Textbooks)

1. C. P. A. Jones, F. S. Ravitch. 2020. *The Japanese Legal System - In a Nutshell*. West (ISBN:978-1-68328-110-8)
Purchase of the textbook is not mandatory.
The instructor will distribute all mandatory reading materials.

参考文献 (Readings)

Additional reading materials (books, articles, and other resources) will be provided during the semester.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX592／Law and Society in Japan B		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Japanese Law in Comparative Perspective		
担当者名 (Instructor)	オルトラニー(ORTOLANI ANDREA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX1901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	グローバルコース 1 年次自動登録 グローバルコース 2 年次以降科目コード登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of this course is to present Japanese law as seen by Japanese and international scholars.

授業の内容 (Course Contents)

This course will present some areas of the Japanese legal system from a historical and comparative perspective. The focus will be on legal education, private law and family law.

授業計画 (Course Schedule)

1. Historical background
2. Legal education: Before WWII
3. Legal education: After WWII
4. Civil law: Tort law, medical malpractice
5. Civil law: Privacy
6. Civil law: The reform of the civil code
7. Environmental law: Kogai and mass torts
8. Environmental law: Nuclear power, accidents and compensation
9. Family law: The koseki
10. Family law: Marriage and divorce
11. Family law: Filiation, adoption, rights of the children
12. Japanese legal consciousness: Law and apologies
13. Japanese legal consciousness: The "reluctant litigant"
14. Review: Private law, culture and society in Japan

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Participants will be required to read relevant materials in English in preparation for the lessons.
Participants will have to submit three Mini-Tests at regular intervals during the term.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(5%)/最終レポート(Final Report)(5%)/Self-evaluation(20%)/Three Mini-Tests(70%)

テキスト (Textbooks)

1. C. P. A. Jones, F. S. Ravitch. 2020. *The Japanese Legal System - In a Nutshell*. West (ISBN:978-1-68328-110-8)
- Purchase of the textbook is not mandatory.
The instructor will distribute all mandatory reading materials.

参考文献 (Readings)

Additional reading materials (books, articles, and other resources) will be provided during the semester.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX593／政治学基礎演習 (Introductory Seminar on Political Science)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	政治学をめぐる思考力		
担当者名 (Instructor)	崔 先鎬(CHOI SEONHO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

政治学を構成する様々なテーマを扱いながら論理的思考力を蓄える。
これをもとに、この演習の参加者たち各自の専門分野に応用して貰うこと。

Improve the logic of seminar students by dealing with various basic themes of political science.
Based on this, the participants of this exercise are to apply it to their own specialized academic fields

授業の内容(Course Contents)

この演習では、日本と世界で扱われてきた政治理論と思想体系についてテキストを中心に考察して行く。

In this seminar, we will examine political theories and thought systems that have been considered in Japan and the world, focusing on texts

授業計画(Course Schedule)

1. この演習の概要について説明、参加者の自己紹介・各自の担当について話し合う
2. 政治学の概念と価値
3. 政治と道徳
4. 政治と宗教
5. 政治と経済
6. 政治理念の類型 - ナショナリズム
7. 政治理念の類型 - リベラリズム
8. 政治理念の類型 - デモクラシー
9. 政治理念の類型 - マルキシズム・アナーキズム
10. 政治理念の類型 - ソーシャルリズム・イデオリズム
11. 政治的権威 - 一元性と多元性
12. 公権力
13. 主権
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの中に登場する用語と文脈を「丁寧に」読むこと。
テキストを「事前に」読んで纏めること。
演習開始前にレジメとコメントペーパーを提出したうえ参加者「全員に」配布すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加度・姿勢(25%)／発表・論議(25%)／レジメ(25%)／最終レポート(25%)

テキスト(Textbooks)

1. 南原繁、2006 年、『政治哲学序説』、岩波書店 (ISBN:ISBN9784000011853)
 2. 杉田敦、2014 年、『政治的思考』、岩波新書 新赤版 1402 (ISBN:ISBN9784004314028)
- 『政治哲学序説』はコピーを配布する。

参考文献(Readings)

1. 野口雅弘・山本圭・高山裕二 編、2021 年、『よくわかる政治思想』、ミネルヴァ書房 (ISBN:ISBN9784623090990)
2. 川崎修・杉田敦 編、2014 年、『現代政治理論』、有斐閣 (ISBN:ISBN9784641124547)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:10 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

①題目:この演習科目に興味をもった理由と日韓をめぐる事柄の中で各自の関心事について

②字数:合計 800 字～1000 字

(ボールペン手書きの場合は A4 一枚の合計 800 字(PDF 可)、
Word 文書で作成の場合は 10.5 ポイントにて A4 一枚の合計 1000 字)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX597／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際法の視点から国際問題を考える		
担当者名 (Instructor)	鈴木 孟(SUZUKI TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

日々生起する様々な国際問題について、国際法の視点から考え、分析できるようになる。

This course aims to acquire the ability to consider and examine various international problems from the perspective of international law.

授業の内容(Course Contents)

今日の国際社会では日々様々な国際問題(*)が生じており、それらのうちのほとんどは国際法上の論点を孕んでいる。この演習では、そのような種々の国際問題について、事実関係を踏まえた上で、そこに含まれる国際法上の論点を抽出し、国際法の観点から検討する素地を養う。

各回の具体的な内容は次の通りである。はじめに報告者が、予め自身の関心に基づいて選んだ国際問題につき報告を行う。この報告の後で、司会者の学生による進行のもと、受講者全員で討論を行う。この討論は、受講者全員が前日までに提出するコメントを土台として行われる。

各受講者は、報告者と司会者をそれぞれ一回ずつ担当する。報告する国際問題については、指定テキスト(森川幸一他(編)『国際法で世界がわかる』)の各章から選んでもらう予定である。この本が扱っていない国際問題に関心がある場合は、独自のテーマを設定しても差し支えないが、その場合は、必ず他の受講生のために予習用の文献を別に指定すること。

学期末に、クラス内での議論を踏まえた最終レポートを提出する。

*ここでの「国際問題」とは、典型的には複数国家間の紛争(領土問題、国家間武力紛争など)や、国際社会で協働して対処する必要のある各国共通の問題(地球環境問題など)を指すものの、それ以外にも、例えばある国の国内措置や国内問題のうち、他国や国際機関による、抗議以外の何らかの反応(非難、承認、支援など)を呼び起こすような国際的影響を持つもの(一部地域の独立による新国家の創設、人権問題など)も含める。さらに、「問題」という語感とは馴染まないものの、各国が協働して一定の共通利益を促進する措置も含める(自由貿易の促進など)。

There arise various international problems (*) on a daily basis in the current international society, most of which hold some aspects of international law. This seminar aims to enhance the ability to find such legal aspects and examine, based on the relevant facts, various international problems from the perspective of international law.

More specifically, in each class, one presenter will make a presentation on the international problem which he/she will have chosen according to his/her interest, followed by a discussion among all the participants under the direction of a facilitator student. This debate will be based on the comments submitted by all the participants by the day before.

Every student will be a presenter and a facilitator at least once for each. They are suggested to choose from the chapters in the designated text an international problem on which they will make a presentation, but they are not prevented from choosing other topics not dealt with in the text if they would like. In the latter case, presenters are required to designate another text such as an academic article for other participants' preparation for the class.

At the end of the semester, every student will be required to submit their final report based on the discussion in class.

*“An international problem” in this context typically refers to a dispute between States (e.g. territorial disputes or international armed conflicts) or a global issue to be addressed in collaboration by the whole international society (e.g. environmental problems), but also includes a domestic measure or problem that has such an international influence as to provoke some responses other than protest, namely, condemnation, recognition or support etc., from other states or international organizations (e.g. creation of a new State as a result of independence of an area from the original State or human rights problems). In addition, notwithstanding some deviation from the original meaning of the word “problem”, it also includes some collaborative measures to enhance common interests among States (e.g. promotion of free trade).

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション、各回のテーマと報告者・司会者の決定
2. 調査方法、発表方法などの解説

3. 報告者による報告と討論①
4. 報告者による報告と討論②
5. 報告者による報告と討論③
6. 報告者による報告と討論④
7. 報告者による報告と討論⑤
8. 報告者による報告と討論⑥
9. 報告者による報告と討論⑦
10. 報告者による報告と討論⑧
11. 報告者による報告と討論⑨
12. 報告者による報告と討論⑩
13. 報告者による報告と討論⑪
14. 報告者による報告と討論⑫・総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

【各回の報告者がやること】

自らの選んだ国際問題について、①事実関係、②関連する法規、③関係当事国(または国際機関)の主張、④自身の見解を含んだレジュメを作成し、報告日の4日前までに Canvas LMS を通じて配布する。

【各回の司会者がやること】

関連するテキストの章、報告者のレジュメ、(できれば)全員のコメントに目を通した上で、当日の議論をリードする。

【毎回参加者全員がやること】

関連するテキストの章と報告者のレジュメを読んだ上で、疑問点や報告者に対する賛同・異論などを書いたコメント(A4で半頁から1頁くらい)を、授業日前日の正午までに Canvas LMS を通じて提出する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%) / 報告内容(40%) / 出席状況・毎回のコメント・議論への貢献度(30%) / 司会進行(10%)

テキスト(Textbooks)

1. 森川幸一・森肇志・岩月直樹・藤澤巖・北村朋史(編)、2016年、『国際法で世界がわかる ニュースを読み解く32講』、岩波書店 (ISBN:9784000229555)

条約集を持参することが望ましい。例えば、

植木俊哉・中谷和弘(編)『国際条約集(2023年版)』(有斐閣、2023年)

参考文献(Readings)

1. 岩沢雄司、2020年、『国際法』、東京大学出版会

2. 浅田正彦(編)、2022年、『国際法[第5版]』、東信堂

3. 杉原高嶺、2013年、『国際法学講義[第2版]』、有斐閣

4. 酒井啓亘・寺谷広司・西村弓・瀧本正太郎、2011年、『国際法』、有斐閣

5. 中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山本良、2021年、『国際法[第4版]』、有斐閣

上記は国際法学の教科書の一例であるが、これらに限られない。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 12名前後

配当年次: 1年次

選考方法: レポート

① 題目: (1)本ゼミを選ぶ理由、(2)現時点で自らの報告したい国際問題を1つ選び、その国際問題を選ぶ理由を述べて下さい(授業時には選択する問題を変更しても構いません)。上記のテキストの目次(下記 URL を参照)を見て、同書で扱われている国際問題から選択してもよいですし、自身で別のテーマを設定しても構いません。なお「国際問題」の定義は「授業の内容」を参照。
https://www.u-tokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/C_00002.html

② 字数: (1)(2)を合わせて、A4で1枚程度

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX601／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	憲法判例を多角的に読む		
担当者名 (Instructor)	岡野 誠樹(OKANO NOBUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

法律学の学習上、判例を的確に理解していることは否が応でも求められる。教科書類でも判例に全然触れないというものは見当たらず、憲法学についても事情は変わらない。ただ、そこで判例についてまとめられた内容だけでは、判例の十分な理解に至ることは、往々にして難しい。時には判例集で原典に直接当たることが、望ましい所以である。

さらに付け加えれば、判例集に当たった方が、判例の学習を(私見で言えば少なくとも10倍は)楽しめる。判例集のテキストは、多様なアプローチを許すものであるから、楽しみ方は色々である。その色々な楽しみ方を試してみようというのが、目標だということになる。

An accurate understanding of judicial precedents is essential for studying law. Every textbook addresses judicial precedents in some way, and the same holds true for constitutional law. However, it is sometimes difficult to reach a sufficient understanding of judicial precedents with just the summarized contents. In some cases, it is desirable to directly refer to the original text in the official reports. Furthermore, referencing the original text makes the study of judicial precedents enjoyable (according to the instructor's viewpoint at least ten times more). Because the original text allows for various approaches, there are many ways to enjoy reading judicial precedents. The objective of this seminar is to try out various ways of enjoying the study of judicial precedents.

授業の内容 (Course Contents)

春学期は個々のケース、秋学期は複数の判例のまとめ(例えば、平等判例)を、それぞれ単位として授業を進める。対象の単位のとり方が違うことに応じて、春は個別報告、秋はグループ報告を、授業の中心とすることを想定している。そこで扱う判例は、参加者の関心に沿って選ぶことになる。ただ、それに先立って、判例の多角的検討がコンセプトであるから、検討の焦点となり得る複数の候補を、教員が指定する判例を素材に確認する回がある。(ただし、この間も参加者に担当を割り当てる。)全体を通じて、担当者、担当者以外の参加者ともに、相応に準備した上で主体的に議論に参加する姿勢が求められる。準備のために予備ゼミを行うことも、奨励される。

The classes will be conducted in separate units with the spring semester covering individual cases and the fall semester focusing on summaries of multiple judicial precedents (for example, judicial precedents about equality). Due to the different way in which the units are taken, it is expected that classes will focus on individual reports in the spring and group reports in the fall. The judicial precedents which are covered will be selected according to the interests of the participants. Nonetheless, because the seminar concept is the multilateral examination of judicial precedents, for some sessions multiple possible options which can be a focus of discussion will be confirmed using the judicial precedent designated by the instructor as material. (However, participants will still be assigned judicial precedents to cover at this time as well.) Throughout the entire seminar, students in charge of a particular topic as well as the other participants are required to sufficiently prepare and actively participate in the discussions. Students are also encouraged to hold a preliminary seminar to prepare.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 個別意見を読む
3. 下級審判決を読む
4. 事案を読む
5. 法廷意見を読む
6. 個別報告(1)
7. 個別報告(2)
8. 個別報告(3)
9. 個別報告(4)
10. 個別報告(5)
11. 個別報告(6)
12. 個別報告(7)
13. 個別報告(8)

14. 個別報告(9)
15. 判例の展開を辿る(1)
16. 判例の展開を辿る(2)
17. グループ報告(1)
18. グループ報告(2)
19. グループ報告(3)
20. グループ報告(4)
21. グループ報告(5)
22. グループ報告(6)
23. グループ報告(7)
24. グループ報告(8)
25. グループ報告(9)
26. グループ報告(10)
27. グループ報告(11)
28. グループ報告(12)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・各回の担当者は、周到に自身の担当箇所について準備する。
- ・個別報告、グループ報告については、報告 1 週間前までに報告者がプレレジュメを作成して、問題の所在と報告の方向性を、参加者・教員と共有する。
- ・報告などの担当に当たらない参加者も、プレレジュメも参考に、質問・議論の準備として十分な予習をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当箇所の学習度(50%)/平常の出席状況及び議論への貢献度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 長谷部恭男＝石川健治＝穴戸常寿編、2019、『憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641115453)
2. 長谷部恭男＝石川健治＝穴戸常寿編、2019、『憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641115460)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:最大 20 名程度

配当年次:2-4 年次

選考方法:レポート

①題目:あなたがこれまで最も興味関心をそそられた判例について、そのポイントをまとめ、どこがあなたにとって面白いと感じられたか、説明しなさい。(憲法判例に限る必要はなく、また、端緒が報道などで触れたことであっても構わない。)

②字数:A4 で 1～2 枚

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX602／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	憲法判例の多角的な検討		
担当者名 (Instructor)	原田 一明(HARADA KAZUAKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

人権や統治機構に関する新しい憲法判例と基本的な憲法判例を素材として、近年の憲法問題について深く議論することを目標とする。

The fall semester will primarily use new constitutional precedents concerning human rights and government organizations and fundamental constitutional precedents as source material with the objective of engaging in a deep discussion about constitutional problems in recent years.

授業の内容 (Course Contents)

受講者に、それぞれ担当する判例を1つ以上割り当てる。担当者は、自分の担当判例について、事実の概要、判決内容、判決の研究を記したペーパーを予め作成する。授業では、そのペーパーに基づいて報告し、質疑応答するという形式で討論を行う。

During the fall semester, each participant will be put in charge of one or more judicial precedents. Students will write a paper in advance which states an overview of the facts, the details of the decision, and research about the decision for the judicial precedent that they are in charge of. Students will present a report based on that paper in class and debate the issues in a question and answer format.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション; 担当判例の割り当てなど
2. 基本的な憲法判例の検討(1)
3. 基本的な憲法判例の検討(2)
4. 基本的な憲法判例の検討(3)
5. 基本的な憲法判例の検討(4)
6. 基本的な憲法判例の検討(5)
7. 基本的な憲法判例の検討(6)
8. 基本的な憲法判例の検討(7)
9. 基本的な憲法判例の検討(8)
10. 基本的な憲法判例の検討(9)
11. 基本的な憲法判例の検討(10)
12. 基本的な憲法判例の検討(11)
13. 基本的な憲法判例の検討(12)
14. 基本的な憲法判例の検討(13)
15. 最新憲法判例の検討(1)
16. 最新憲法判例の検討(2)
17. 最新憲法判例の検討(3)
18. 最新憲法判例の検討(4)
19. 最新憲法判例の検討(5)
20. 最新憲法判例の検討(6)
21. 最新憲法判例の検討(7)
22. 最新憲法判例の検討(8)
23. 最新憲法判例の検討(9)
24. 最新憲法判例の検討(10)
25. 最新憲法判例の検討(11)
26. 最新憲法判例の検討(12)
27. 最新憲法判例の検討(13)
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

憲法の講義内容の復習

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポーターとしての報告内容(50%)/平常の出席状況及び学習態度(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ(第7版)』、法学教室判例セレクト Monthly、令和3年度・令和4年度等の重要判例解説など。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:15名程度

配当年次:3, 4年次

選考方法:レポート

①題目:本演習に参加する理由

②字数:1000字程度

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX603／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業がグローバルなビジネスを遂行する上での法的課題と取組みについて～具体的な事例を使用しながら意見交換・検討・考察をして理解をする。～		
担当者名 (Instructor)	石川 文夫(ISHIKAWA FUMIO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

企業が実施している種々のビジネスのしくみを考えて理解しながら、ビジネス取引に伴う法的課題や具体的な契約についてメンバーで意見交換しながら課題解決をしていきます。
メンバーが企業社会等に入った時に求められると考えられる課題の抽出力、課題を解決する力を醸成したいと考えます。

In this course, the students will review various business schemes carried out by companies and discuss legal issues and specific contracts associated with business transactions, with a view to finding solutions to the issues. The lecturer aims to enhance the abilities to identify issues and skills to solve issues that students will need when they enter the business community.

授業の内容 (Course Contents)

講師が執筆したテキストやオリジナル作成資料、日々のビジネス関連の報道事案(業界、海外・国内を問わない)を抽出して適宜それらを使用しながら進めていきます。

講師が企業社会で経験した契約交渉などの実務経験、保有する人脈、その他保有する有用な資料などを最大限活用、提供しながらメンバーのナレッジを拡大していきます。

上記に加えて、演習で取り上げたテーマに関して有識者を必要に応じてゲストで参加いただきアドバイスを受ける機会も設けたいと思います。

また、産業界における実状を把握する為にチームに分けて特定の業界について調査する活動も行います。その為に講師のネットワークで特定の企業にヒアリング活動も行う予定です。(例 半導体業界、IT 業界など、昨年、1 昨年度実施) 調査活動については 12 月末を目処に演習内で成果報告会も実施する予定です。

上記の活動などを通じて法律が実社会でどのように活用されているか、どこに問題があるか等に関してメンバーの知見(ナレッジ)をさらに広げてください。

また必修ではありませんが、もし自分の関心がある法的課題のテーマを設定し 1 年間当該テーマについて調査・研究し論稿として纏めたい方がいればその為の指導も行います。

In this course, textbooks and materials written by the lecturer and news reports on day-to-day business topics (at home and abroad, regardless of business sector) will be used.

The lecturer's practical experience in the business community (e.g., experience in contract negotiations), personal connections, and other valuable resources will be utilized to the maximum extent possible to enhance the students' knowledge on business.

In addition, the lecturer plans to invite specialists associated with respective seminar topics as guest speakers so that the students will be able to hear advice from them.

In addition, in order to understand the actual situation in the industrial world, we will divide into teams and conduct research on specific industries. For that reason, we are planning to conduct interviews with specific companies in the lecturer network. (For example, the semiconductor industry, the IT industry, etc., conducted last year and the year before) We plan to hold a results report meeting within the exercise around the end of December for research activities

The lecturer hopes that the students will further enhance their knowledge regarding how law is being used in the practical world and where legal issues exist

.In addition, although it is not essential, if there is a person who would like to set a theme of a legal issue that they are interested in, investigate and research the theme for one year, and summarize it as a thesis, I will provide guidance for that purpose..

授業計画 (Course Schedule)

1. 講師紹介、本演習の狙い、全体説明等を行う。
2. 契約の位置付け、企業における契約交渉の実状、組織について。社会全体の動きなどの説明、理解、意見交換等を実施。
3. 企業間コラボレーションについて。その実状と役割を理解する。ライセンス、共同開発、外部委託、合併会社、M&A 等の説明
4. 企業ビジネス展開の最初に必要な秘密保持契約と秘密情報の重要性について具体的な契約書を使用しその役割と内容の理解をする。

5. 知的財産(権)の理解とライセンス契約について、その意義と位置付けを具体的な契約書を使用して理解する。
6. 企業間の共同開発契約について、その意義と位置付けを具体的な契約書を使用して理解する。
7. 企業間の委託・受託契約について、その意義と位置付けを具体的な契約書を使用して理解する。
8. 企業間の販売店契約について、その意義と位置付けを具体的な契約書を使用して理解する。
9. 製造物責任法について具体的な例を使用し、問題点、対処方法について考える。
10. 技術標準について具体的な例を使用し、問題点及びその役割と重要性を理解する。
11. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
12. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
13. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
14. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
15. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
16. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
17. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
18. 国内外の有識者をゲストに招いて、テーマを設定した上で話を聴いて理解をする、(ON LINE も活用)
19. 企業におけるコンプライアンスの取組みについて(SDGsを含む)専門家をゲストに招いて話を聴き理解をする。
20. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
21. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
22. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
23. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
24. 弁護士さんをゲストに招いて、国内・海外を問わず現状の訴訟など公開可能な範囲で最新の問題事案についての話を聴いて知見を拡大する、
25. 具体的なビジネス事例(ケース)を使用して、ビジネススキームの理解と法的な課題、ビジネスリスク、契約条件などを参加メンバーで討議を行い各々発表し理解を深める。
26. 産業界別の調査活動についての成果報告会を実施、意見交換を行う。
27. 産業界別の調査活動についての成果報告会を実施、意見交換を行う。
28. 演習全般を通じての振り返りと総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

演習の中で随時話しをします。事前に現実のビジネスケースを読んで理解をしておく必要がある場合もあります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(20%)/最終レポート(Final Report)(40%)/意見交換での姿勢(20%)/出席態度(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 石川文夫、2018、『企業間コラボレーションを成功させる契約交渉の進め方』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-25901-2)
演習内で適宜紹介します。

参考文献(Readings)

資料、書籍は演習内で随時紹介します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:10人

配当年次:2年、3年

選考方法:

①題目:本演習に期待すること、本演習で自分が目標とすること、実現したいこと及び本演習を希望した理由について簡略に記載をお願いします。

また、参考まで 民法の契約法、知的財産法を受講した、

またはしている方はその旨付記ください。

あくまで参考であり選考には影響しませんのでよろしくお願い致します。

②字数:原則 A4 1 枚以内

演習論文:実施しないが、将来大学院などで研究をしたい目的で論文を書きたい学生がいれば指導・アドバイス等可能な範囲でします。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX604／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	生命倫理と法ーいのちの問いに真っ向から挑む法律学		
担当者名 (Instructor)	土屋 裕子(TSUCHIYA YUKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

人の命をめぐる問題について多角的な視点から考察し、答えのない問題に自分なりの答えを導き出す能力を養います。

The objective of this seminar is to examine problems concerning human life from various perspectives to cultivate the ability to derive your own answer to problems that have no answer.

授業の内容(Course Contents)

あなたの命は誰のものですか？もしあなた自身のものだとなると、あなたはあなたの命を自由に処分することができるでしょうか？たとえば、死にたいと思ったら死んだり、臓器を売ってお金に換えたり。もしそのようなことが制限されるとしたら、それは何によってどのような理由で制限されるのでしょうか？

いわゆる、「生命倫理」に関する問題が提起されるたびに、それに関する法整備を求める声が上がります。しかし生命倫理の分野には、法律論だけでは解決のできない倫理的に困難な問題が多数存在します。

この演習では、例えば生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植など、生命倫理に関する具体的な事例を法的・倫理的側面から検討するとともに、医療における法の目的・役割、そして限界について考えてみたいと思います。

毎回生命倫理に関する具体的な事例を取り上げ、全員で議論を行います。そのため、参加者には議論への積極的な参加と発言が求められます。なお、この授業は「正しい答え」を提供するものではありません。答えのない問題に自分なりの答えを導き、様々な価値観を持つ仲間との議論を通じて、自分の価値観や既存の倫理観を再考してみましょう。もしかしたら、あなたにとっての常識が、誰かにとっての非常識であることに気付くかもしれません。

なお、具体的な授業計画は、参加者の関心によって決定します。

Who does your life belong to? If it belongs to you, can you freely take your own life? For example, if you wish to die, can you do so and sell your organs for money? If such an action is to be restricted, on what basis and for what reasons is it restricted?

When problems concerning what is called "bioethics" are presented, there are calls for corresponding legislation. However, in the field of bioethics there are many ethically challenging problems which cannot be resolved using only legal theory.

In this seminar, the instructor would like to consider specific cases concerning bioethics, for example assisted reproductive technology, prenatal diagnosis, euthanasia, death with dignity, brain death and organ transplantation, from legal and ethical perspectives while thinking about the purpose, role, and limitations of law within medicine.

Each class session will raise a specific case concerning bioethics followed by a discussion among all of the students. Therefore, participants are required to actively participate and speak out during the discussion. Furthermore, this class is not intended to provide a "correct answer." Let us all reconsider our own sense of values and existing ethical perspectives by deriving our own answer to problems that have no answer and discussing these problems with others who have a different sense of values. You might realize that what you consider to be common sense is regarded as absurd by someone else.

Furthermore, the specific class plan will be determined according to the interests of the participants.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. イントロダクトリー・ディスカッション～生命倫理について論じてみよう～
3. テーマの発見・抽出・選択～自分で問題を見つけてみよう～
4. 報告と議論
5. 報告と議論
6. 報告と議論
7. 報告と議論
8. 報告と議論
9. 報告と議論
10. 報告と議論
11. 報告と議論
12. 報告と議論
13. 報告と議論

14. 報告と議論
15. 報告と議論
16. 報告と議論
17. 報告と議論
18. 報告と議論
19. 報告と議論
20. 報告と議論
21. 報告と議論
22. 報告と議論
23. 報告と議論
24. 報告と議論
25. 報告と議論
26. 報告と議論
27. 報告と議論
28. 全体の統括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

報告者はレジュメの作成等、周知な準備が求められます。また、日々進歩する医療技術について扱うため、日頃から新聞やニュース等で関連する情報を収集しておいてください。

なお、この授業では生命倫理の予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への貢献度(70%)/担当報告の内容(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

テキスト・参考文献は指定しませんが、必要に応じて関連資料や新聞記事の配布、視聴覚教材などを使用します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 15名程度

配当年次: 3,4年次

選考方法: レポート

①題目:

(i) 自己PRと志望動機

(ii) あなたの目の前で3人の人が溺れています。1人しか助けられない場合、あなたなら誰を助けますか? 下記の選択肢の中から選び、その理由を論じてください(なお、救出に伴いあなたに命の危険が及ぶ可能性はないものとします)。

a. 重度の心臓病をかかえた余命3ヶ月の1歳児

b. 3人の子供を持つ35歳シングルファーザーの殺人犯

c. 65歳の総理大臣

d. 誰も助けない

②字数: 2,000字程度

演習論文: 実施しない

※ゼミ運営の都合上、合格後は必ずゼミに参加する意思のある方のご応募をお待ちしております。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX605／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際法の現代的論点に関する文献を読む		
担当者名 (Instructor)	鈴木 孟(SUZUKI TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

- ・国際法の現代的論点につき、従来の国際法の枠組と比較しながら、指定テキストを基に理解を深める。
- ・比較的平易な国際法の論文を正確に読む力をつける。

This course aims to understand contemporary topics in international law comparing them with the traditional framework of international law, based on the designated textbook, and to enhance the ability to read plain academic articles on international law correctly and precisely.

授業の内容 (Course Contents)

現代の国際社会では新しい事象や問題が日々生起しており、それらは既存の国際法に関する新たな議論を引き起こしたり、既存の国際法とは異なる(又はそれに追加される)新たな規範の形成を促したりしている。しかし、通常の国際法の講義ではこれらを深く掘り下げて扱うことが難しい。

本演習では、これらの発展的・現代的論点に関し、指定テキスト(森肇志・岩月直樹(編)『サブテキスト国際法 教科書の一步先へ』(日本評論社、2020年))を基に議論しつつ理解を深めることを目指す。特に、基本的な又は従来の国際法の枠組みに対し、これらの論点は何を提起しているのか、問題の核心はどこにあるのか(そして具体的な問題が生じている場合には、それをいかに解決すべきか)を考える。

本演習では、テキストの章を毎回1章ずつ読み進めていく。その際、毎回1人の報告者が、①テキストの担当章の要約、②その章で扱われている現代的論点の核心、③それを踏まえた自身の見解、の3点を示したレジュメを作成した上で報告し、その後受講者全員による討論を行う。②については、国際法の教科書の該当部分を適宜参照しつつ、従来の枠組との比較を意識しながら示してほしい。

なお、国際法の講義を受講中であることが望ましいが、必須要件ではない。

Today's international society witnesses new events or new problems arising on the daily basis, which provoke new discussions on the existing international law or urge us to make new norms different from, or additional to, the existing international law. Nevertheless, normal lectures on international law do not have enough time to deal with these problems.

This seminar aims to understand these advanced and contemporary topics in international law, making discussions based on the designated textbook, especially in light of the following questions: what these new topics pose against the basic or traditional framework of international law, what the essential points are, and in case there are some concrete problems, how to solve them appropriately.

In each class, we will read one chapter and there one presenter will make a presentation based on his/her handout, which should include (1) an abstract of the assigned chapter, (2) the essential point(s) of the modern topic dealt with in the chapter and (3) his/her own opinion on it, followed by a discussion among all the participants. As for the point (2), the presenter is required to compare the new topic with the basic or traditional framework of international law, making reference to normal textbooks on international law.

Participants are also recommended to take lectures on international law, but it is not a prerequisite for applying to this seminar.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション、各回のテーマと報告者の決定
2. 報告者による報告と討論①(第1章 国際法と立憲主義)
3. 報告者による報告と討論②(第2章 サイバー空間における主権)
4. 報告者による報告と討論③(第3章 法の欠缺補充)
5. 報告者による報告と討論④(第4章 条約の「発展的解釈」)
6. 報告者による報告と討論⑤(第5章 国の元首や政府の長らの特権免除)
7. 報告者による報告と討論⑥(第6章 国際組織の私人に対する責任とアカウンタビリティ)
8. 報告者による報告と討論⑦(第7章 第三国による対抗措置)
9. 報告者による報告と討論⑧(第8章 領域に関する原始権原)

10. 報告者による報告と討論⑨(第9章 公海漁業規制)
11. 報告者による報告と討論⑩(第10章 宇宙の商業利用)
12. 報告者による報告と討論⑪(第11章 国際刑事裁判所の展開)
13. 報告者による報告と討論⑫(第12章 人権条約の域外適用)
14. 報告者による報告と討論⑬(第13章 パリ協定における義務づけと履行確保の手続の特徴)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

【報告者がやること】

①担当する章の要約、②その章で扱われている現代的論点の核心、③それを踏まえた自身の見解、の3点を示したレジュメを作成し、報告日の4日前までにCanvas LMSを通じて配布する。

【毎回参加者全員がやること】

毎回の章を熟読し、報告者のレジュメを読んだ上で、疑問点や報告者に対する賛同・異論などを書いたコメント(A4で半頁から1頁くらい)を、授業日前日の正午までにCanvas LMSを通じて提出する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席状況(30%)/報告内容(40%)/毎回のコメントと議論への貢献度(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 森肇志・岩月直樹(編)、2020年、『サブテキスト国際法 教科書の一步先へ』、日本評論社 (ISBN:9784535524729)
 条約集を持参することが望ましい。例えば、
 植木俊哉・中谷和弘(編)『国際条約集(2023年版)』(有斐閣、2023年)

参考文献(Readings)

1. 岩沢雄司、2020年、『国際法』、東京大学出版会
 2. 浅田正彦(編)、2022年、『国際法[第5版]』、東信堂
 3. 杉原高嶺、2013年、『国際法学講義[第2版]』、有斐閣
 4. 酒井啓亘・寺谷広司・西村弓・濱本正太郎、2011年、『国際法』、有斐閣
 上記は国際法学の教科書の一例であり、これらに限られない。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

【注意事項】

本書は序章を除けば17章から構成されているが、回数の関係で全ての章を扱うことはできないため、受講者の関心に沿って章を選択してもらう。よって上記の章の振り分けはあくまで一例である。テキストの目次は次のURLを参照。なおテキストは購入を前提とする。

<https://www.nippyo.co.jp/shop/book/8264.html>

また、特に扱いたい現代的問題が他にある場合は、必ずしも指定テキストの章から選択しなくとも構わないが、その場合はそれに関する論文を必ず1本指定すること。

【選考方法】

採用人数:13名前後

配当年次:2年次

選考方法:レポート

①題目:(1)本ゼミを選ぶ理由、(2)指定テキストの目次のうち、現時点で関心のある章(またはテキストの章以外で特に扱いたい現代的問題)について理由と共に述べて下さい。

②字数:A4で1枚程度

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX606／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	AI が民法に与える影響		
担当者名 (Instructor)	幡野 弘樹(HATANO HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

民法に関するさまざまな問題点を検討しながら、問題の正確な位置づけを把握し、法的な思考に基づいて自分の考えを導くことができるようになることを目指します。それとともに、文献を調べる、グループで発表の準備をし報告をする、報告に基づき議論するといった、学問をする上でも社会に出る上でも必要な技術を習得することを目指します。

The objectives of this seminar are to examine the various problems in Civil Law while accurately understanding the positioning of those problems and to become able to derive your own ideas based on legal thinking. At the same time, this seminar aims to enable students to master the techniques which are required for learning and to become a member of society which include researching the literature, preparing as a group for a presentation and giving a report, and engaging in a debate based on a report.

授業の内容(Course Contents)

このゼミでは、AI が民法に与える影響について考えます。

AI に関する近時の技術革新は目を見張るものがあります。このような技術の進展は、法の世界、とりわけ民法の世界にどのような影響を与えるのでしょうか？

たとえば、次のような問題が考えられます。将来、AI が独自の判断能力を獲得できるようになり、AI 設計者の責任を問うことができなくなるような事態が生じた場合に、AI が引き起こした損害に対する責任を AI 自身に負わせることができるでしょうか？仮にできるとしたら、AI に法の世界での主体としての地位を認める必要があります。では、AI は法の世界の主体たりうのでしょうか？

このような AI と民法に関連する様々な問いに取り組むのがこのゼミの課題です。

これらの問いに答えるにあたって、まず人格権やプライバシーに関する基本的な判例を学ぶことから始めます。その上で、関連する論文を講読します。

12 月には AI 法の専門家であるカナダ・オタワ大学の Céline Castets-Renard(セリーヌ・カステルナル)教授を招き、2 回にわたって授業をしてもらいます(幡野が通訳をします)。

このゼミでは、毎回 2-3 名の報告者が該当テーマに関する報告を行い、それに基づいて討論をします(各参加者は、学期中に 1 回報告することになります)。また、報告後の討論の司会をする、つまり論点を提示するのも報告者です(教員が必要に応じて手助けをします)。皆さんの自主性を重んじたいと思っています。十分な予習、積極的な発言が求められます。

また、このゼミでは、法政大学・大澤彩先生のゼミとの合同ゼミを予定しています。報告の準備に加えて、合同ゼミの作問か解答、いずれかに参加してもらいます。

配当年次は 2・4 年となっています。とりわけ 2 年生は、十分な予習が求められます。また、報告者は、前提知識がない 2 年生にも理解ができるように発表の準備をしてもらう必要があります。就職活動についても、できる限り配慮します。3・4 年生も積極的にご参加ください。

In this seminar, we will examine the impact of AI on civil law.

Recent technological innovations in AI are remarkable. How will these technological advances affect the world of law, especially the world of civil law? In the future, if AI acquires the ability to make decisions on its own and a situation arises in which the responsibility of the AI designer cannot be held, will AI itself be held responsible for the damage caused by AI? If we can, we need to give AI its status as a subject in the legal world. So, can AI be the subject of the legal world?

The task of this seminar is to struggle with various questions related to AI and civil law.

To answer these questions, we begin by studying basic legal precedents regarding privacy. After that, we will read related papers.

In December, we will invite Professor Céline Castets-Renard of the University of Ottawa, Canada, who is an expert in AI law, to give two classes (Hatano will serve as an interpreter).

In this seminar, during each session two or three students will present a report on the relevant topic which will form the basis of discussion (each participant will give one reports during the semester). Moreover, the students giving the report will also present the arguments after the report to lead the discussion (the instructor may assist as needed). The instructor wishes to respect the autonomy of all students. Students are required to sufficiently prepare and actively speak up in discussion.

In addition, this seminar is scheduled to be a joint seminar with Professor Aya Osawa (Hosei University). In addition to preparing a report, you are invited to participate in either the question or the answer of the joint seminar.

The assigned years for this seminar are the second through the fourth year. Sufficient preparation is particularly required for second-year students. In addition, students presenting reports will need to prepare their presentations such that they can be understood by second-year students without the prerequisite level of knowledge. Consideration will be given to students involved in job searching activities. 3rd and 4th grade students are encouraged to participate.

授業計画 (Course Schedule)

1. ——以下の予定は、皆さんのレポートの内容などを反映させるため、変更の可能性があります——
概要説明・報告割り当て
2. 自己決定権の判例——エホバの証人輸血拒絶事件——
最判平成 12・2・29 民集 54 巻 2 号 582 頁
憲法判例百選 I [第 7 版] 23 事件
3. プライバシー権の判例①——『宴のあと』事件——
東京地判昭和 39・9・28 判時 385 号 12 頁
メディア判例百選 [第 2 版] 40 事件
4. プライバシー権の判例②——講演会参加者リストの漏洩——
最判平成 15・9・12 民集 57 巻 8 号 973 頁
憲法判例百選 I [第 7 版]・18 事件
5. 行動ターゲティング広告と消費者のプライバシー・自己決定
6. 就職活動における AI による評価予測の使用
7. AI と個人情報保護法
8. 自動運転車と損害賠償責任
9. 合同ゼミ・作問班の検討
10. 弁護士による法律実務の紹介
11. AI と個人情報: EU とカナダ①
12. AI と個人情報: EU とカナダ②
13. 合同ゼミ・解答班の検討
14. AI は人たりうのか? ——動物と比較しながら——

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告者は周知な準備が求められます。報告者でない参加者も、十分な予習が求められます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告の内容(40%)/出席態度(30%)/発言の内容・積極性(30%)

テキスト (Textbooks)

開講時に教材を配布します。Canvas LMS や Google Drive などを使用します(開講時に指示します)。

参考文献 (Readings)

1. 山本龍彦編、2018、『AI と憲法』、日本経済新聞社
 2. 弥永真生・山田剛志編著、2021、『AI・DX が変える現代社会と法』、商事法務
 3. 小塚莊一郎、2019、『AI の時代と法』、岩波新書
 4. 弥永真生・矢野常寿編、2018、『ロボット・AI と法』、有斐閣
- このゼミで扱う問題をより具体的にイメージしたい方は上記の本も参照してみてください。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数:20 人

配当年次:2-4 年

選考方法:レポート

①題目:自己紹介およびシラバスを見て関心を持ったテーマについて

②字数:1000 字程度

演習論文:実施しません。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX607／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業法務演習		
担当者名 (Instructor)	松本 真輔(MATSUMOTO SHINSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

会社法をはじめとする企業法について実務的な理解(企業法の条文・ルールが実務においてどのように適用・使用されているのか等の理解)を得るとともに、実務に必要な質問能力、法律調査能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力等を習得してもらうことを目標とする。

The objectives of this seminar are to acquire a practical understanding of business law, including, but not limited to the Companies Act, (an understanding of how the provisions and rules of business law are applied and used, etc. in practice) while mastering the abilities to inquire, conduct legal research, draft documents, give presentations, etc. required for practice.

授業の内容(Course Contents)

企業法務の弁護士が行うM&Aの具体的な作業内容について、まず講師からそれらについて実務的な観点から概説する講義を行った上で、具体的な事例に基づき、受講者にその基本的な作業を実際に体験してもらい、それに対して適宜講師からコメント・指導等を行う。チームでの共同作業や、会社法に加え、金融商品取引法、独占禁止法、労働法、証券取引所規則等の複数の法令等が問題になる作業も体験してもらう予定である。

First, the lecturer will give lectures from practical perspectives outlining the specific types of work for M&A performed by corporate lawyers. Thereafter, the students will actually experience those basic tasks based on specific cases with the lecturer providing comments and guidance as necessary. The students are planned to experience team-based group work and the work in which multiple laws and ordinances, including the Financial Instruments and Exchange Act, Anti-monopoly Act, Labor Law, and stock exchange regulations, in addition to the Companies Act, become a problem.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. M&Aのプランニングに関する講義
3. M&Aのプランニングに関する演習(ストラクチャーの検討等)(1)
4. M&Aのプランニングに関する演習(スケジュールの作成等)(2)
5. M&Aの法務デュー・ディリジェンスに関する講義
6. M&Aの法務デュー・ディリジェンスに関する演習
7. M&A契約の講義(株式譲渡契約～前提条件、表明保証、誓約、補償等)(1)
8. M&A契約の講義(組織再編契約・計画)(2)
9. M&A契約の作成(1)
10. M&A契約の作成(2)
11. MBO・敵対的買収と防衛策に関する講義
12. M&Aの判例研究(キャッシュアウトに関する判例)(1)
13. M&Aの判例研究(買収防衛策に関する判例)(2)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

演習の回については、事前に課題を出すので、授業までにそれを行ってきてもらう必要がある。また、M&A契約の作成やM&Aの判例研究はチーム単位で行ってもらったことがあり、チームのメンバー間で連絡を取り合い、共同での作業を行ってもらった必要がある場合がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内外で行った作業結果(60%)・授業への参加態度等(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 藤田友敬、2018 年、『M&A 契約研究 理論・実証研究とモデル契約条項』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-13800-1)
 2. 中東正文＝大杉謙一＝石綿学、2010 年、『M&A 判例の分析と展開Ⅱ』、経済法令研究会 (ISBN:978-4-7668-2199-4)
- 上記のほか、必要に応じて授業時に紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数: 14 名程度

配当年次: 3・4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 自己紹介及び本演習の志望理由

② 字数: 400 字以内

演習論文: 実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX608／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	表現規制と刑法		
担当者名 (Instructor)	深町 晋也(FUKAMACHI SHINYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

この演習は、私たちの日常生活における多様な表現に介入して規制する刑法について認識し、どのような問題を刑罰・刑事的制裁によって解決するのが妥当であるのか(なぜ刑罰を用いて解決する必要があるのか)について学ぶことを目標とする。

This seminar aims to recognize the criminal law that intervenes and regulates the various expressions in our daily lives, and to learn which problems are appropriate to be solved by punishment or criminal sanctions (and why it is necessary to use punishment to solve them).

授業の内容 (Course Contents)

表現の自由は、その重要性を理由に憲法上厚く保障されており、とりわけ表現内容に対する刑事的制裁は極めて抑制的にのみなされるべきものと考えられている。しかし、著作権や名誉を侵害する表現行為については、様々な形で刑事的な規制がなされており、その可否や限界が大きな問題となる。著作権法に関して言えば、著作権侵害がいかなる場合に認められて刑罰の対象となるのか、過度に広汎な処罰とならないか、といった点が重要な検討課題となる。

また、名誉に関して言えば、表現の自由と名誉の保護の調整が刑法 230 条の2との関係で従来問題とされているが、近時はオンラインにおける名誉侵害表現の規制のあり方が大きな問題となっている。更に、オンラインにおける侵害行為としては、人の私生活上の平穏や人の感情を侵害する表現行為に対する刑事的規制のあり方が重要な論点となっている。

本演習では、このような表現行為に対する刑事的規制の可否を正面から扱い、その問題点や今後のあるべき立法論も含めた検討を行うことを予定している。

The freedom of expression is deeply guaranteed under the Constitution due to its importance, and criminal sanctions on the content of expression, in particular, are considered to be extremely restrained and limited. However, there are various forms of criminal restrictions on expressions that infringe on copyright or honor, and the appropriateness and limits of such restrictions are a major issue. With regard to copyright law, important issues to consider are when infringement of copyrights can and should be punished, and whether the punishment should be overly broad.

In addition, with regard to honor, the coordination of freedom of expression and protection of honor has been an issue in relation to Article 230-2 of the Penal Code, and recently, the regulation of online infringing expressions has become a major issue. In addition, the criminal regulation of online infringements that violate people's private tranquility or human emotions has become an important issue.

In this seminar, we plan to deal with the question of criminal regulation of such expressive acts and discuss its problems as well as the ideal legislative theory for the future.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 著作権法と刑法(1)
リーチサイト規制の概観
3. 著作権法と刑法(2)
リーチサイトを巡る刑法的問題
4. 著作権法と刑法(3)
リーチサイトを巡る更なる問題
5. 著作権法と刑法(4)
リツイート事案の検討
6. 著作権法と刑法(5)
リツイートを巡る刑法的問題
7. 著作権法と刑法(6)
リツイートをめぐる更なる諸問題
8. 名誉と刑法(1)
名誉毀損罪の概観
9. 名誉と刑法(2)

- 名誉毀損罪の現状
10. 名誉と刑法(3)
オンラインにおける名誉毀損
 11. 名誉と刑法(4)
侮辱罪の法定刑引上げ
 12. 名誉と刑法(5)
オンラインハラスメントと刑法
 13. 表現規制と違法性阻却(1)
 14. 表現規制と違法性阻却(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

原則として全員が最低 1 回ずつ報告を担当することになるため、担当回に向けての事前準備等が欠かせない。また、各回の報告に対する活発な質疑応答のため、事前に配布される資料やレジュメについて予習することが不可欠となる。

なお、この演習で扱うテーマは、憲法における表現の自由の保障とその限界に大きく関わるため、憲法におけるこうした議論についての最低限の知識が前提となる。

更に、この演習で扱うテーマは、学部の刑法(1)・(2)では履修しないものもあり、また、履修対象であっても十分に講義においては扱われないものも多い。しかし、基本的な刑法総論及び各論の知識は必須となるため、なるべく刑法(1)・(2)を履修することが望ましい。

日頃から刑法のみならず多様な問題について関心を持ち、積極的に学習する学生の参加を希望する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

演習中の報告(40%) / 演習における発言など(40%) / 演習への参加意欲(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

演習の前半では、法律時報 2022 年 10 月号から連載中の「著作権法と刑法の語らい」を主として用いる。演習の後半では適宜参考文献を指定する。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 15 名程度

配当年次: 2・3・4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 「表現に関わる刑法」についてあなたが関心を持つ問題を自由に論じてください。

② 字数: 1500 字程度

演習論文: なし

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX609／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	プラトンの政治哲学 —『国家』と現代—		
担当者名 (Instructor)	面 一也(OMOTE KAZUYA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

1. プラトン『国家』の内容を正確に理解する。
2. プラトン『国家』の政治哲学上の意義を理解する。
3. 上記の二点を踏まえ、現代の政治的諸問題を批判的に考察する力を身につける。

1. Students will understand the contents of Plato's "Republic" accurately.
2. Students will understand the significance of Plato's "Republic" in the political philosophy.
3. Students will acquire the ability to consider the contemporary political issues critically, based on the above-mentioned points.

授業の内容(Course Contents)

本演習では、プラトンの『国家』を精読しながら(今学期は第5巻まで)、現代の政治的諸問題について議論を行なう。
西洋哲学の歴史は「プラトンへの注釈」にすぎない(A・N・ホワイトヘッド)、とまで言われる。とりわけ『国家』は、プラトンの主著の中の主著として、そればかりか西洋哲学の古典の中の古典として、二千年以上の長きにわたり読み継がれてきた。その理由は、この対話篇が政治のあり方をめぐって、時代を超えて問われるべき根本的テーマを扱っているからである。
『国家』は、哲人王支配による最善国家を説くものとして知られるが、その背景には、当時の墮落したデモクラシーに対するプラトンの強い危機意識が見て取れる。近年もまた、デモクラシーの危機が指摘されている。実際に、議事堂襲撃(アメリカ、ブラジル)や国家転覆計画(ドイツ)を企てた、反デモクラシー的な政治勢力が、世界各地で台頭している。日本においても、投票率の低下や国会審議の形骸化など、デモクラシーの機能不全が長く続いている。プラトンの議論は、現代の政治のあり方を考えるうえで、大きな示唆を与えてくれる。

In this seminar, we will discuss contemporary political issues through a close reading of Plato's "Republic".

It is said that the history of Western philosophy is but "a series of footnotes to Plato" (A. N. Whitehead). The "Republic," in particular, has been read for more than 2,000 years as Plato's masterpiece among his major works and as a classic among the classics of Western philosophy. The reason is that the Dialogue deals with the fundamental themes of the nature of politics, which should be questioned throughout the ages.

The "Republic" is known as the advocating of the best state under the rule of the philosopher-king, but in its background, we can see Plato's strong sense of crisis against the corrupt democracy of that time. Also in recent years, the crisis of democracy has been pointed out. In fact, anti-democratic political forces have emerged in many parts of the world, plotting to storm the Capitol (U.S., Brazil) and overthrow the state (Germany). In Japan, too, democracy has been dysfunctional for a long time, as evidenced by the declining voter turnout and the disorganization of parliamentary deliberations. Plato's argument offers a great deal of insight into the nature of politics today.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 正義をめぐる問いへの導入: ケパロスとの対話(1巻 1-5章)
3. 正義は相手にふさわしいものを返し与えることか: ポレマルコスとの対話(1巻 6-9章)
4. 正義は強者の利益か: トラシュマコスとの対話①(1巻 10-19章)
5. 不正義は正義にまさるか: トラシュマコスとの対話②(1巻 20-24章)
6. 正義は不正義にまさるか: グラウコンとアデイマントスによる根本的な問い(2巻 1-9章)
7. 必要国家と贅沢国家(2巻 10-16章)
8. 守護者の教育①: 音楽と文芸(2巻 17-3巻 5章)
9. 守護者の教育②: 体育と医術(3巻 6-18章)
10. 守護者の条件: 建国神話("高貴な嘘")、私有財産の禁止(3巻 19-4巻 5章)
11. 知恵、勇気、節制、正義; 魂の三分(4巻 6-15章)
12. 最善国家(王制または優秀者支配制)、三つの波①: 男女平等(4巻 16-5巻 6章)
13. 三つの波②: 妻子共有(5巻 7-16章)

14. 三つの波③: 哲学者とアイデア (5 巻 17-22 章)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習に関しても復習に関しても、以下の三点を行なうこと。

- ・テキストの精読
- ・論点の抽出
- ・論点に関する考察

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表(50%)/議論への参加(50%)

テキスト (Textbooks)

1. プラトン、2008 年改版、『国家(上)』、岩波文庫 (ISBN:4003360176)
2008 年以降に刊行された「改版」を入手すること。

参考文献 (Readings)

授業時に適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 15 名程度

配当年次: 2-4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 志望理由

② 字数: 1,000 字程度

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX610／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	刑法総論・各論の重要判例検討		
担当者名 (Instructor)	永井 紹裕(NAGAI AKIHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

刑法総論や刑法各論で扱われる重要判例についての理解を深める

Deepen your understanding of important judicial precedents dealt with in criminal law general theory and criminal law specific theory

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、刑法総論や刑法各論の授業で扱われる判例の中で特に重要だと考えられるものを取り上げ検討を加える。皆さんが報告で扱う判例については、教員からいくつか候補を示したうえで、興味をもったものを選んでもらう。報告者は扱う判例について調査したうえで、学説上の議論もフォローし、参加者に説明し、議論を促す。参加者は報告をもとに、議論に加わる。

刑法総論と刑法各論の成績は考慮しない。刑法に興味があり、流暢ではないが、積極的に議論に参加しようとする意欲ある学生であれば大歓迎である。

In this seminar, we will take up and examine the cases that are considered to be particularly important among the judicial precedents dealt with in the general part of criminal law and the specific part of criminal law. As for the judicial precedents that you will discuss in your presentation, teacher will present several candidates and have you choose the one that interests you. After researching the judicial precedent to be handled, the reporter follows up on the theoretical discussion, explains to the participants, and encourages discussion. Participants participate in discussions based on their discussion.

Scores in general part of criminal law and the specific part of criminal law will not be taken into consideration. Students interested in criminal law who are not fluent but willing to actively participate in discussions are welcome.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション(報告順、扱う判例の決定)、これまでの学習の復習①
2. これまでの学習の復習②
3. 重要判例の検討①
4. 重要判例の検討②
5. 重要判例の検討③
6. 重要判例の検討④
7. 重要判例の検討⑤
8. 重要判例の検討⑥
9. 重要判例の検討⑦
10. 重要判例の検討⑧
11. 重要判例の検討⑨
12. 重要判例の検討⑩
13. これまでのまとめ①
14. これまでのまとめ②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告で扱う判決文はもちろんのこと、当該判例についての評釈等も読んで授業に臨むこと

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告の内容(60%)/議論への積極的参加(40%)

1回の授業で必ず1回は発言すること

テキスト (Textbooks)

特に指定しない

参考文献(Readings)

1. 佐伯仁志・橋爪隆編、2020、『刑法判例百選 総論(第8版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115507)
2. 佐伯仁志・橋爪隆編、2020、『刑法判例百選 各論(第8版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115514)
3. 松原芳博編、2022、『続・刑法の判例 総論』、成文堂 (ISBN:9784792353797)
4. 松原芳博編、2022、『続・刑法の判例 各論』、成文堂 (ISBN:9784792353803)

報告で扱う判例についての参考文献はその都度指示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:3～4年次

選考方法:レポートによる

①題目:「刑法総論もしくは各論の中で興味を持ったことについて」もしくは「本演習を希望する理由」

②字数:指定しない(ただし字数も考慮のうえ選考する)

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX611／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	知的財産法プレゼン&ディスカッションゼミ		
担当者名 (Instructor)	長谷川 遼(HASEGAWA RYO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

裁判例・学説等の分析を通して知的財産法に関する理解を深める。併せて、プレゼンの能力や、ディスカッションを充実したものにするための力を養う。

The objective of this seminar is to deepen the students' understanding of Intellectual Property Law through an analysis of court precedents and theories, etc. At the same time, it will also cultivate the students' abilities to give presentations and engage in thorough discussions.

授業の内容 (Course Contents)

参加者には、指定する裁判例を、関連する学説・裁判例や時事問題も含めて調査した上で、グループ発表を行ってもらいます。知的財産法は、エンターテインメント、デザイン、技術、ブランド、営業秘密といった、様々な分野に関わる法領域ですが、今年度のゼミは、ブランドに関わる商標法と、技術に関わる特許法に焦点を当てます(来年度は、不正競争防止法と著作権法を扱う予定です)。報告者の人数や報告回数等は、参加人数や各自の関心を考慮して後ほど決定します。

報告の後に、参加者全員で議論を行います。議論の形式は報告者に任せられますが、最近はグループディスカッションを交えた形を採ることが多いです。

演習を充実したものにするためにも、報告者・報告者以外の参加者ともに相応の準備が求められます。報告者には、本報告の一週間前に、プレジюмеによって、報告内容の簡略な予告と最低限の参考文献の指定を行ってもらいます。報告者以外の参加者には、指定された裁判例を事前に読み、プレジюмеを参考に当該テーマについてある程度理解を深めた上で本報告に臨んでもらいます。

なお本演習は、知的財産法の講義を受講中又は受講済みの方以外でも、知識の不足を補うに足る熱意を持った方であれば、参加可能です。議論を楽しいものにするためにも、多様なバックグラウンドや関心を持った皆さんの参加を期待しています。

Participants will give group presentations after researching the specified court precedents including related theories, precedents, and current topics. Intellectual Property Law is an area of law which is involved with various fields such as entertainment, design, technology, branding, and trade secrets, but the seminar during this academic year will focus on Trademark Law involving brands and Patent Law involving technology (the seminar during the following academic year is scheduled to cover the Unfair Competition Prevention Act and the Copyright Act). The number of presenters and the number of reports will be decided later based on the number of participants and in consideration of individual interests.

After the reports, all participants will engage in a discussion. The discussion format will be left up to the presenters, but recently many students adopt a format which mixes in group discussion.

In order to make it a productive seminar, presenting students as well as other participants are required to carry out a suitable level of preparation. One week before a report is given, the presenters will provide a brief preview of the report content and specify the minimum reference literature through a pre-summary. Participants who are not presenting will read the specified court precedent in advance and attend the report presentation after deepening their understanding of the relevant topic to a certain degree by referring to the pre-summary.

Furthermore, please note that students who are not currently taking or have not previously taken a lecture on Intellectual Property Law may participate in this seminar if they have the enthusiasm to make up for their lack of knowledge. To make the discussions more enjoyable, it is hoped that students with a diverse range of backgrounds and interests will participate.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. オリエンテーション
3. 商標法1
4. 商標法2
5. 商標法3
6. 商標法4
7. 商標法5

8. 商標法6
9. 商標法7
10. 商標法8
11. 商標法9
12. 商標法10
13. 商標法11
14. 商標法12
15. オリエンテーション
16. 特許法1
17. 特許法2
18. 特許法3
19. 特許法4
20. 特許法5
21. 特許法6
22. 特許法7
23. 特許法8
24. 特許法9
25. 特許法10
26. 特許法11
27. 特許法12
28. その他

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定された裁判例と、次回報告者が1週間前に配布するプレレジュメを読み込むとともに、教科書等で関連分野の予習を行ってることが要求されます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(プレレジュメ・レジュメ・プレゼン態様を含む)(50%)/議論や運営への参加態様(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 茶園成樹編、2018、『商標法〔第2版〕』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-24311-8)
 2. 島並良・上野達弘・横山久芳、2021、『特許法入門〔第2版〕』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-24350-7)
 3. 小泉直樹、2010、『知的財産法入門』(岩波新書)、岩波書店 (ISBN:978-4004312666)
- ゼミ開始前に知的財産法の分野全体の概要を掴んでおきたい方には、小泉・前掲書をお勧めします。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数 : 約20名

配当年次 : 2~4年次

選考方法 : レポート

①題目 : 簡略な自己紹介(知財の創作・利用との関わりがあれば教えてください(必須ではありません))/知的財産法について関心のあるテーマとその理由

②字数 : A4で1~2枚

演習論文 : 実施しません

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX612／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	排除の中で仲間をつくる; 排除された人々が、排除に抵抗するために仲間をつくるやり方について考える。		
担当者名 (Instructor)	浪岡 新太郎(NAMIOKA SHINTARO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

現代社会において階層の違い、エスニシティの違い、ジェンダーの違いを理由とする排除にどのように人々が抵抗していくことができるのかを理解する。

The objective of this seminar is to understand how people in modern society can resist exclusions based on the reason of social class, ethnicity and gender.

授業の内容 (Course Contents)

多文化主義は異なったコミュニケーションスタイルをもつ人々の終わることのない努力を前提としている。異なった特徴をもつマイノリティの人々を理解するための努力の増大にマジョリティの人々は耐えられなくなっている。治安のため、人権のために理由とした画一的な排除(例えばムスリムの入国禁止など)はこのような事例として考えることができる。排除に対する抵抗の仕方を学ぶ。

Multiculturalism supposes endless efforts to understand people with different communication styles. But the majority of people can not assume the increase in effort in order to get along with minority people of different social classes, ethnicities and genders. Thus we see the spread of categorical exclusions in the name of security and human rights that are actually based on characteristics particular to minorities (for example the Muslim ban). Students will learn how to struggle with these categorical exclusions.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 報告と議論: 排外主義についての文献1
3. 報告と議論: 排外主義についての文献2
4. 報告と議論: 多文化主義についての文献1
5. 報告と議論: 多文化主義についての文献2
6. 報告と議論: 多文化主義についての文献3
7. 報告と議論: 民主主義についての文献1
8. 報告と議論: 民主主義についての文献2
9. 報告と議論: 民主主義についての文献3
10. 報告と議論: 民主主義についての文献4
11. 報告と議論: 民主主義についての文献5
12. 報告と議論: ジェンダーについての文献1
13. 報告と議論: ポストコロニアリズムについての文献2
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定された文献を読んで自分なりのコメントを考えてくること。また、前回の内容を復習すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/出席・発言(60%)

学生の議論を中心に進むので、学生の参加が重視される。また、映像資料を使用する場合やゲストを呼ぶ場合もあり、授業が伸びる場合が多いので次の時間に予定のない学生に向いている。

テキスト(Textbooks)

学生の希望を聞いた上で適宜指定する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数： 15 名程度

配当年次： 2,3,4 年次

選考方法： レポート提出

①題目：自分が興味を持つ現代のマジョリティがマイノリティを排除する現象をあげ、自分が興味を持つ理由を説明する。

②字数： 2000 字程度

演習論文：実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX613／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	法現象を解明するための社会科学的アプローチ		
担当者名 (Instructor)	佐伯 昌彦(SAEKI MASAHIKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

法的な問題を特定し、その問題を考えるために必要な社会調査を構想する能力を涵養することを目標とする。

This seminar aims to acquire the ability to identify the issue about laws to be solved and imagine the scientific approach which could provide helpful findings while considering that issue.

授業の内容(Course Contents)

法社会学に関連する実証研究の具体例に触れるため、関連する論文を読み進めるとともに、自分の関心のあるテーマについて問題を特定し、調査の方法について構想を練っていく。

In this seminar, students are required to read articles about empirical legal studies. Simultaneously, students are also required to identify the issue to be solved and design a rough research plan that could contribute to the discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス(1)授業の進め方の説明や自己紹介等
2. ガイダンス(2)法社会学分野における実証研究の概観
3. 文献講読(1)
4. 文献講読(2)
5. 文献講読(3)
6. 文献講読(4)
7. 文献講読(5)
8. 文献講読(6)
9. 文献講読(7)
10. 文献講読(8)
11. 文献講読(9)
12. 中間報告(1)
13. 中間報告(2)
14. 中間報告(3)
15. 文献講読(10)
16. 文献講読(11)
17. 文献講読(12)
18. 文献講読(13)
19. 文献講読(14)
20. 文献講読(15)
21. 文献講読(16)
22. 文献講読(17)
23. 文献講読(18)
24. ディスカッション
25. 最終報告(1)
26. 最終報告(2)
27. 最終報告(3)
28. 最終報告(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

文献講読の回は、報告担当者を決めて、担当学生に報告をしてもらう。そのため、担当となった学生には、論文の内容をまとめ、疑問点や論点を整理したレジュメを準備してもらう。また、担当となっていない学生も対象文献に事前に目を通す。また、本演習では、各自がテーマを定めて大まかな調査方法について提案をまとめてもらう。したがって、演習で扱う論文を参考にしながら、自分の関心に即した研究論文や調査方法に関する参考書を読み進めていくことが求められる(どのような文献を読

むべきかについては、各自の関心に即して適宜助言する)。その内容について、春学期の終わりに中間的な報告をしてもらい、さらに秋学期の終わりに最終報告をしてもらう。

なお、文献講読や中間／最終報告の回数は、履修学生の人数に応じて調整をすることがある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業中の貢献度(40%)/中間報告の内容(20%)/最終報告の内容(40%)

無断欠席又は正当な理由のない欠席が3回以上の場合、成績評価の対象としません。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 和田仁孝・阿部昌樹・太田勝造編、2004、『法と社会へのアプローチ』、日本評論社 (ISBN:978-4535511422)
2. 太田勝造・ダニエル・H・フット・濱野亮・村山眞維編、2009、『法社会学の新世代』、有斐閣 (ISBN:978-4641125339)
3. 日本法社会学会編、2017、『法社会学 83号 <<法>>を見る』、有斐閣 (ISBN:978-4641125940)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:最大18名程度

配当年次:2～4年次

選考方法:レポート

①題目:この演習を志望する理由・現時点で関心のある法的問題

②字数:1,200字程度(字数を超過する分には差し支えない)

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX614／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会社法演習－会社関係書類を読む－		
担当者名 (Instructor)	高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

- ① 会社法の基本的事項を学ぶこと
- ② 情報検索や文献調査のスキルの向上
- ③ プレゼンテーション・スキルの向上

- (1) To study fundamental matters of corporate law
- (2) To improve information search and literature research skills
- (3) To improve presentation skills

授業の内容 (Course Contents)

株式会社、特に上場企業ではさまざまな文書が公表される。株主総会にかかる参考書類や各種決算書類、証券市場に対して公表する有価証券報告書、コーポレートガバナンス報告書、「不祥事」があったときに特別委員会を構成して発表される第三者委員会調査報告書など、法律上公表が求められているものもあれば、任意で公表されているものもある。それらの内容は、当該株式会社の事業状況を解説する手がかりとなるのみならず、環境問題やグローバル化など会社を取り巻く社会的な課題にどのように対応すべきなのかを考える手がかりにもなるだろう。この授業では参加者が、まずどのような資料をピックアップするか考えるところから始め、投資家、従業員、経営者、一般消費者などの視点からこれらの報告書をどのように評価するか、検討する。参加者は、グループまたは個人で学期中、2～3回報告する機会がある。

This seminar will cover the topic on the various documents which listed companies would publish. Listed companies publish a wide range of documents, such as reference documents for general meetings of shareholders, various financial statements, securities reports published to the securities markets, corporate governance reports and third-party committee investigation reports that are published when a special committee is formed in the event of 'misconduct'. Some are legally required to be published, while others are published on a voluntary basis. Their contents not only provide clues to deciphering the business situation of the company in question, but also provide clues as to how the company should respond to social issues surrounding the company, such as environmental problems.

In this class, participants will start by considering which materials to pick up and how to evaluate these reports from the perspectives of investors, employees, managers and consumers..

Participants will have the opportunity to present a report individually or as a group two to three times during the semester.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 情報検索講習
3. 株式売買シミュレーション／企業研究の手法①
4. 企業研究の手法② 対象となる資料の洗い出し
5. 株主総会関係書類
6. 有価証券報告書
7. 決算関係書類①
8. 決算関係書類②
9. コーポレートガバナンス報告書①
10. コーポレートガバナンス報告書②
11. 第三者委員会報告書①
12. 第三者委員会報告書②
13. 第三者委員会報告書③
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

プレゼンテーションの準備にはグループによるサブゼミ等、ある程度の時間外学習が必要になる。また、商法(1)の授業を聴講済

みであるか、並行して受講していることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当する報告(60%)/ゼミ内での発言・議論などの貢献(40%)

テキスト (Textbooks)

開講時に指示する

参考文献 (Readings)

1. 伊藤靖史＝大杉謙一＝田中亘＝松井秀征、2021、『リーガルクエスト会社法(第5版)』、有斐閣
2. 高橋美加＝笠原武朗＝久保大作＝久保田安彦、2020、『会社法(第3版)』、弘文堂 (ISBN:9784335358395)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:15名～20名

配当年次:2年～4年

選考方法:レポート

①題目:商法・会社法に関連する裁判例や新聞報道であなたの興味のあるものを取り上げて、なぜそれに興味があるか解説しなさい。

②字数:1000字程度

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX615／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ディスカッションを通じて学ぶ法、金融&ビジネス		
担当者名 (Instructor)	久保 淳一(KUBO JUNICHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

- (1) 経済の基盤である金融についての基本的な知識とともに、法、金融及び経済(ビジネス)との深いつながりを学ぶこと、および
(2) ディスカッションを通じて自分の考えを深めて発信する力を養うことを目標とします。

The objectives of this course are to (1) acquire fundamental knowledge about finance which forms the foundation of the economy while learning about the deep connections between law, finance, and the economy (business) and (2) to deepen the students' ideas and cultivate their ability to communicate through discussions.

授業の内容 (Course Contents)

法、金融、経済の分野から選んだテーマについて、基礎的な部分の説明を適宜補いながら、事例や設例についてワークショップ形式でディスカッションを行います。

授業は、(1) 事前課題について各自で検討する、(2) 少人数のグループで(1)の検討結果を踏まえて議論しグループ毎の意見を発表する、(3) グループの意見について全体で議論する、という形で進めます。

なお、授業には継続して出席することが前提です(基礎的なテーマから順番に取り上げていくほか、授業内容もそれまでの授業を踏まえたものになるため)。また、時間を超過することもあります。

また、様々なバックグラウンドを持つゲストスピーカーを迎えてのワークショップのほか、任意参加の課外活動も行う予定です。

This seminar will cover the fundamental aspects of topics selected from the fields of law, finance, and the economy with supplemental explanations provided as needed while engaging in discussions about case studies and created examples in a workshop format.

As a general rule, the classes will be carried out by (1) having each student think individually about the advance assignment, (2) discussing the results of the work in part (1) in a small group of people and announcing the opinions of each group, and (3) discussing the group opinions as an entire class. The seminar will be led by the instructor and the moderators appointed for each session.

Please keep in mind that (i) you are strongly encouraged to attend every class (because the class will progress from fundamental to more advanced topics, and each class will be based on the contents of previous classes), and (ii) there may in some cases be activities outside of the normal class time.

In addition, the schedule will also include workshops with guest speakers having various backgrounds, and optional extracurricular activities.

授業計画 (Course Schedule)

- ガイダンス
- 金融とは何か ー金融の役割ー
- 金融の種類 ー直接金融と間接金融、他人資本と自己資本ー その1
- 金融の種類 ー直接金融と間接金融、他人資本と自己資本ー その2
- 銀行・銀行業とは何か
- 預金とは何か
- 資金決済 ー振込とは何かー
- 資金決済 ー手形とは何かー
- 貸付とは何か
- 貸金と預金との相殺とは何か
- 債権譲渡とは何か
- 手形割引とは何か
- 将来債権の譲渡とは何か
- 証券化取引とは何か ー証券化取引が行われる理由ー その1
- 証券化取引とは何か ー証券化取引が行われる理由ー その2
- 証券化取引とは何か ー証券化取引が行われる理由ー その3
- 信託とは何か ー歴史ー

18. 信託とは何か ―受託者の義務―
19. 信託とは何か ―信託財産の独立―
20. お金とは何か ―法定通貨と仮想通貨、預金― その1
21. お金とは何か ―法定通貨と仮想通貨、預金― その2
22. お金とは何か ―法定通貨と仮想通貨、預金― その3
23. インサイダー取引とは何か ―インサイダー取引が禁止される理由― その1
24. インサイダー取引とは何か ―インサイダー取引が禁止される理由― その2
25. ゲストスピーカー(時期は未定ですが、2～3か月に1回のペースで招聘予定)
26. ゲストスピーカー(時期は未定ですが、2～3か月に1回のペースで招聘予定)
27. ゲストスピーカー(時期は未定ですが、2～3か月に1回のペースで招聘予定)
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前課題は、授業でのディスカッションを活発化し、また授業の内容を十分に理解するための“準備作業”です。自分でしっかりと調べて考え、自分なりの意見を発表できるように準備しておいてください。(注: 正解を見つけてくることを求めているわけではありません)

また、日頃から、メディアで取り上げられるニュースに目を通し、金融や企業法務、ビジネス全般などに(正解を求めているわけではありません)についての関心を高めておくようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ゼミ活動への参加態度(授業中の発言、事前準備など)(70%)/ゼミ活動への寄与度(ゼミ運営、ゲストスピーカー招聘など)(30%)

テキスト(Textbooks)

講師の作成するパワーポイントのプレゼンテーションをベースに授業を進め、必要に応じて資料を配布します。

参考文献(Readings)

授業中、または課題を出す時に、指示します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

【採用人数】30名前後

【配当年次】三、四年次

金融関係の知識がなくてもディスカッションが苦手でも構いません。レベルアップしたいという意欲があれば、それで十分です。

ただし、一般的な講義とは違いますので、①事前課題についてきちんと準備してくること、及び②ゲスト・スピーカーとのディスカッションなど通常の授業以外の活動にも意欲的に参加すること、を履修の条件とします。

また、授業はそれまでの授業内容を踏まえて進めていきますので、③毎回出席も履修の条件です(やむを得ない事情により事前に連絡があった場合を除きます。また、無断欠席が続く場合は、履修を認めないことがあります。)

【選考方法】レポート及び任意面接

①レポート

題目は「(ア)自己紹介、(イ)今まで本気で打ち込んできたこと、及び(ウ)本演習を志望する理由」、字数は2,000字以内(長さではなく内容を重視します)。

※ レポートは、本演習を継続して履修する新四年生も内容をチェックし評価します。

②任意面談

本演習の内容や雰囲気を理解してもらうために、2023年3月の第1週から第3週に、継続する新四年生も参加しての面談(オンラインを予定)を行います。希望者は、講師宛にメール(j.kubo@rikkyo.ac.jp)で申し込んでください。具体的なスケジュールは追って連絡します。

※ 面談を受けるかどうかは任意ですが、選考にあたっての評価項目の一つとします。

【演習論文】実施しません。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX616／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業法務-リスク分析と法務インテリジェンス		
担当者名 (Instructor)	畑 勝之(HATA KATSUYUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

英文の国際売買契約をもとに取引リスク分析・法務情報収集の手法に触れつつ、国際建設請負契約・国際融資契約及び企業売買契約に関する関連法規・仕組み・法的論点について参加者間にて意見交換を行い、国際企業法務において必要とされる知的な好奇心を深めてもらう。法務インテリジェンス、リーガルテックなど実務上の最新動向にも触れる。

Based on international sales contracts in English, we will study methods of transaction risk analysis and legal information collection. We will also study legal issues and mechanism about international construction contracts, international financing contracts, and business acquisition contracts, exchange opinions among participants, and deepen our intellectual curiosity required as international inhouse counsel. We will also study the latest trends in practice, such as legal intelligence and legal-tech.

授業の内容 (Course Contents)

導入として企業法務に従事するに際して必要となる事実確認・リスク分析・契約書作成・相手方交渉の方法・過程を確認する。アングロサクソンモデルの英文国際売買契約書をもとに、参加者に割り当てられた箇所について関係するリスク分析、適用される法律、交渉上の勘所・論点などを発表して意見交換を行う。また、契約条項が直接に触れている部分に限らず、独占禁止法、贈収賄防止関連法規、安全保障貿易・制裁関連法規などのコンプライアンスの領域にも目配りして発表して意見交換を行う。基本的な学びを応用して、国際建設請負契約・国際融資契約・企業買収契約におけるリスクの所在や適切なリスク分配方法についても検討する。

なお、発表者は、予め配布予定のポイントや参考文献などをもとに発表を準備する。他の参加者も、各発表内容に関して意見を取り交わす。互いの意見交換を通じて知的な好奇心を醸成し、企業法務に関する意識・知識を体感する。契約審査のみならず、紛争処理やコンプライアンス・危機管理といった企業法務活動についても理解を深める。英米法の最新状況に加えて、日本法・中国法・イスラム法など英米法と異なる概念で構築される法制・執行状況についてのインテリジェンスや、法務業務の効率化・高度化を支えるリーガルテックの活用状況についても理解する。

As an introduction, we will study methods and processes of fact check, risk analysis, contract drafting, and negotiations with counterparty that are necessary when engaging in corporate legal affairs as inhouse counsel. Based on the Anglo-Saxon model international sales contract in English, we will present and exchange opinions on risk analysis, applicable laws and key points regarding the assignment to each participant. In addition to issues that are directly related to contract clauses, we will also pay attention to compliance areas such as antitrust laws, anti-bribery laws, security trade and sanctions laws, and make presentations and exchange opinions. Applying the basic learning, we will also examine the location of risks and appropriate risk allocation methods in international construction contracts, international financing contracts, and business acquisition contracts.

The presenter will prepare its presentation in advance based on the suggested points and other reference materials. Other participants exchange opinions on the presentation. We will foster our own intellectual curiosity through mutual exchange of opinions, and obtain awareness and knowledge of corporate legal affairs as inhouse counsel.

We will deepen understanding of corporate legal activities such as dispute resolution, compliance and risk management as well as review of contracts. In addition to the latest status of Anglo-American law, we will also study intelligence on legal systems and enforcement trends that are built on concepts that differ from Anglo-American law, such as Japanese law, Chinese law, and Islamic law. Furthermore, we will study the trend of legal tech that supports the efficiency and sophistication of services as inhouse counsel.

授業計画 (Course Schedule)

1. 企業法務総論:オリエンテーション(講義中心)
2. 契約審査実務:事実確認・リスク分析・契約書作成・相手方交渉(講義中心)
3. 契約の相対性:秘密保持契約を題材に(発表と意見交換)
4. 国際売買契約(1):国際売買の特色・アングロサクソンフォーマット(講義と意見交換)
5. 国際売買契約(2):登場人物・仕組み・商務条件(発表と意見交換)
6. 国際売買契約(3):主な契約条項(1)(発表と意見交換)

7. 国際売買契約(4): 主な契約条項(2)(発表と意見交換)
8. 国際売買契約(5): 主な契約条項(3)(発表と意見交換)
9. 国際売買契約(6): 法令遵守(1) 安全保障貿易・制裁(発表と意見交換)
10. 国際売買契約(7): 法令遵守(2) 贈収賄防止(発表と意見交換)
11. 国際売買契約(8): 法令遵守(3) 人権・トレーサビリティ(発表と意見交換)
12. 国際売買契約(9): 準拠法・紛争処理条項(発表と意見交換)
13. 紛争処理実務: 送達手続・米国訴訟手続(発表と意見交換)
14. 法務情報の収集: 取引リスク分析とコンプライアンス／危機管理(講義と意見交換)
15. 国際建設請負契約(1): 国際建設請負契約の特色・モデルフォーム(講義と意見交換)
16. 国際建設請負契約(2): 登場人物・関連契約・商務条件(発表と意見交換)
17. 国際建設請負契約(3): 設計リスク・完エリスク(発表と意見交換)
18. 国際融資契約(1): プロジェクト・ファイナンスの特色(講義と意見交換)
19. 国際融資契約(2): 登場人物・関連契約・商務条件(発表と意見交換)
20. 国際融資契約(3): 融資実行条件・各種担保条件(発表と意見交換)
21. 国際融資契約(4): イスラム金融(発表と意見交換)
22. 企業買収契約(1): 企業買収契約の特色(講義と意見交換)
23. 企業買収契約(2): 登場人物・仕組み(発表と意見交換)
24. 企業買収契約(3): デューデリジェンス(発表と意見交換)
25. 企業買収契約(4): 企業結合規制及び独禁法総論(発表と意見交換)
26. 企業買収契約(5): 買収実行条件・価格調整条件(発表と意見交換)
27. 法務業務の補完: 外部弁護士とリーガルテック(講義中心)
28. 全体総括:(発表と意見交換)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

「発表と意見交換」の回では、各参加者(2名一組)が担当箇所に関して事前に関係法令や法的論点などを検討してプレゼンテーションを行う。他の参加者も積極的に意見交換に参加できるように予習・復習する。また、「講義中心」「講義と意見交換」の回では、担当教官からの講義を中心とするが、参加者も積極的な意見交換のために予習・復習する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表の内容(50%)/議論への貢献度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 松尾剛行、2022、『キャリアデザインのための企業法務入門』、有斐閣 (ISBN:9784641126374)
2. 河村寛治、2018、『契約実務と法』、第一法規 (ISBN:9784474062528)
3. 三菱商事株式会社法務部、2021、『新・国際売買契約ハンドブック』、有斐閣 (ISBN:9784641046894)
4. 森下哲郎・平野温郎・森口聡・山本卓、2017、『国際企業法務のエッセンス』、有斐閣 (ISBN:9784641046795)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:20名程度

配当年次:2年次～4年次

選考方法:レポート

①題目:自己紹介及び本演習の志望理由

②字数:800字以内

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX617／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アダム・スミス『国富論』を読む		
担当者名 (Instructor)	高橋 和則(TAKAHASHI KAZUNORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

- ① 政治思想上の「文明社会論」と政治経済学を理解する
 - ② 商業社会化したヨーロッパの論理をアダム・スミスの『国富論』から読み取る
- ① understand the theory of civilized society and the political economy
 - ② articulate the logic of commercial society by reading Adam Smith's "The Wealth of Nations"

授業の内容(Course Contents)

経済学の古典中の古典、アダム・スミスの『国富論』の名前を知らない人は少ないでしょう。しかし最後まで読んだという人も少ないと思います。彼は当時のヨーロッパを文明社会、商業社会と見做し、そこにはどのような論理が働いているのかを分析したと言ってもいいと思います。そこには長所もあれば短所もある。それを丁寧に論じています。それは現代でも共通点が多いと思います。ここでは社会と政治という観点を意識して読んでみたいと思います。前半は上巻を読んでみましょう。

This seminar tries to understand the logic of civilized and commercial society in Adam Smith's "The Wealth of Nations"

授業計画(Course Schedule)

1. ゼミの構成と進行について
2. アダム・スミスとその時代
3. アダム・スミス『国富論』1 編 1-4 章
4. アダム・スミス『国富論』1 編 5-7 章
5. アダム・スミス『国富論』1 編 8-9 章
6. アダム・スミス『国富論』1 編 10 章
7. アダム・スミス『国富論』1 編 11 章
8. アダム・スミス『国富論』1 編 11 章 229 ページまで
9. アダム・スミス『国富論』1 編最後まで
10. アダム・スミス『国富論』2 編 1-2 章
11. アダム・スミス『国富論』2 編 3-5 章
12. アダム・スミス『国富論』3 編 1-2 章
13. アダム・スミス『国富論』3 編 3-4 章
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの精読

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)/ゼミへの貢献(50%)

テキスト(Textbooks)

1. アダム・スミス、2007、『国富論(上)』、日本経済新聞社 (ISBN:978-4-532-13326-9)

参考文献(Readings)

1. 廣松渉ほか編、1998、『岩波哲学・思想事典』、岩波書店 (ISBN:4000800892)
2. 今村仁司・三島憲一・川崎修 編集、2008、『岩波社会思想事典』、岩波書店 (ISBN:9784000803120)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数:15名前後

配当年次:2－4年

選考方法:レポート

①題目:志望動機と自己紹介

②字数:合わせて1200字程度

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX618／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アダム・スミス『国富論』を読む		
担当者名 (Instructor)	高橋 和則(TAKAHASHI KAZUNORI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

- ① 政治思想上の「文明社会論」と政治経済学を理解する
 - ② 商業社会化したヨーロッパの論理をアダム・スミスの『国富論』から読み取る
- ① understand the theory of civilized society and the political economy
 - ② articulate the logic of commercial society by reading Adam Smith's "The Wealth of Nations"

授業の内容(Course Contents)

経済学の古典中の古典、アダム・スミスの『国富論』の名前を知らない人は少ないでしょう。しかし最後まで読んだという人も少ないと思います。彼は当時のヨーロッパを文明社会、商業社会と見做し、そこにはどういう論理が働いているのかを分析したと言ってもいいと思います。そこには長所もあれば短所もある。それを丁寧に論じています。それは現代でも共通点が多いと思います。ここでは社会と政治という観点を意識して読んでみたいと思います。後半は下巻を読んでみましょう。

This seminar tries to understand the logic of civilizad and commercial society in Adam Smith's "The Wealth of Nations"

授業計画(Course Schedule)

1. ゼミの構成と進行について
2. アダム・スミス『国富論』4 編 1-2 章
3. アダム・スミス『国富論』4 編 3-4 章
4. アダム・スミス『国富論』1 編 5 章
5. アダム・スミス『国富論』4 編 6-7 章 2 節
6. アダム・スミス『国富論』4 編 7 章 3 節
7. アダム・スミス『国富論』4 編 8-9 章
8. アダム・スミス『国富論』5 編 1 章 1 節—3 節 1 項その1
9. アダム・スミス『国富論』5 編 1 章 3 節 1 項その 2—2 項
10. アダム・スミス『国富論』5 編 1 章 3 項—1 章 終わり
11. アダム・スミス『国富論』5 編 2 章—2 節 2 項
12. アダム・スミス『国富論』5 編 2 章 2 節 3 項—1 章 終わり
13. アダム・スミス『国富論』5 編 3 章
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの精読
報告用のパワーポイントの作成

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)/ゼミへの貢献(50%)

テキスト(Textbooks)

1. アダム・スミス、2007、『国富論(下)』、日本経済新聞社 (ISBN:978-4-532-13327-6)

参考文献(Readings)

1. 廣松渉ほか編、1998、『岩波哲学・思想事典』、岩波書店 (ISBN:4000800892)
2. 今村仁司・三島憲一・川崎修 編集、2008、『岩波社会思想事典』、岩波書店 (ISBN:9784000803120)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15名前後

配当年次:2-4年

選考方法:レポート

①題目:志望動機と自己紹介

②字数:合わせて1200字程度

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX619／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	プラトンの政治哲学 —『国家』と現代—		
担当者名 (Instructor)	面 一也(OMOTE KAZUYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

1. プラトン『国家』の内容を正確に理解する。
2. プラトン『国家』の政治哲学上の意義を理解する。
3. 上記の二点を踏まえ、現代の政治的諸問題を批判的に考察する力を身につける。

1. Students will understand the contents of Plato's "Republic" accurately.
2. Students will understand the significance of Plato's "Republic" in the political philosophy.
3. Students will acquire the ability to consider the contemporary political issues critically, based on the above-mentioned points.

授業の内容(Course Contents)

本演習では、プラトンの『国家』を精読しながら(今学期は第6巻以降)、現代の政治的諸問題について議論を行なう。
西洋哲学の歴史は「プラトンへの注釈」にすぎない(A・N・ホワイトヘッド)、とまで言われる。とりわけ『国家』は、プラトンの主著の中の主著として、そればかりか西洋哲学の古典の中の古典として、二千年以上の長きにわたり読み継がれてきた。その理由は、この対話篇が政治のあり方をめぐって、時代を超えて問われるべき根本的テーマを扱っているからである。
『国家』は、哲人王支配による最善国家を説くものとして知られるが、その背景には、当時の墮落したデモクラシーに対するプラトンの強い危機意識が見て取れる。近年もまた、デモクラシーの危機が指摘されている。実際に、議事堂襲撃(アメリカ、ブラジル)や国家転覆計画(ドイツ)を企てた、反デモクラシー的な政治勢力が、世界各地で台頭している。日本においても、投票率の低下や国会審議の形骸化など、デモクラシーの機能不全が長く続いている。プラトンの議論は、現代の政治のあり方を考えるうえで、大きな示唆を与えてくれる。

In this seminar, we will discuss contemporary political issues through a close reading of Plato's "Republic".

It is said that the history of Western philosophy is but "a series of footnotes to Plato" (A. N. Whitehead). The "Republic," in particular, has been read for more than 2,000 years as Plato's masterpiece among his major works and as a classic among the classics of Western philosophy. The reason is that the Dialogue deals with the fundamental themes of the nature of politics, which should be questioned throughout the ages.

The "Republic" is known as the advocating of the best state under the rule of the philosopher-king, but in its background, we can see Plato's strong sense of crisis against the corrupt democracy of that time. Also in recent years, the crisis of democracy has been pointed out. In fact, anti-democratic political forces have emerged in many parts of the world, plotting to storm the Capitol (U.S., Brazil) and overthrow the state (Germany). In Japan, too, democracy has been dysfunctional for a long time, as evidenced by the declining voter turnout and the disorganization of parliamentary deliberations. Plato's argument offers a great deal of insight into the nature of politics today.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 哲学者無用論(6巻1-7章)
3. 哲人王(6巻8-14章)
4. 哲人王の教育①: 善のアイデア、太陽の比喩、線分の比喩(6巻15-21章)
5. 哲人王の教育②: 洞窟の比喩(7巻1-5章)
6. 教育=魂の向けかえ①: 数学、天文学、音楽(7巻6-12章)
7. 教育=魂の向けかえ②: 哲学的問答法(ディアレクティケー)(7巻13-18章)
8. 国家の墮落①: 最善国家から名誉支配制へ(8巻1-5章)
9. 国家の墮落②: 寡頭制(8巻6-9章)
10. 国家の墮落③: 民主制(8巻10-13章)
11. 国家の墮落④: 僭主制(8巻14-9巻3章)
12. 正しい生き方(哲学者)と不正な生き方(僭主)(9巻4-13章)
13. 詩人(ギリシア神話: 宗教)の追放(10巻1-8章)

14. 魂の不死:正義の報酬(10 巻 9-16 章)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習に関しても復習に関しても、以下の三点を行なうこと。

- ・テキストの精読
- ・論点の抽出
- ・論点に関する考察

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表(50%)/議論への参加(50%)

テキスト(Textbooks)

1. プラトン、2008 年改版、『国家(下)』、岩波文庫 (ISBN:4003360184)
2008 年以降に刊行された「改版」を入手すること。

参考文献(Readings)

授業時に適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:15 名程度

配当年次:2～4 年次

選考方法:レポート

①題目:志望理由

②字数:1,000 字程度

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX620／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	事例・判例を通じて憲法・行政法の「基礎」を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	神橋 一彦(KANBASHI KAZUHIKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

憲法と行政法は、ともに国家(国や地方公共団体など)の作用・活動に関する法という点で共通している。したがって、憲法や行政法をめぐる諸問題の中には、妥当な結論を得るために、この両方の法分野からの検討を要するものが数多く存在する。すなわち、憲法の抽象的な原理や法理のみで妥当な解決に至るかどうかは疑わしく、他方で、憲法の基本原理を考慮に入れず、個別の行政法規のみで説得的な議論をすることは難しい、そのような問題が生じることがあるのである。

この演習は、(1)憲法に次いで、行政法を(本格的に、あるいはもう一度心を入れ替えて)学ぼうとする2年次・3年次生・4年次生をまず想定するが、さらには(2)行政の制度のあり方や運用について、憲法や行政法の観点からもう少し掘り下げて考えてみたいと希望する3年次・4年次生の参加も歓迎する。(報告の分担などにおいて、学年次のバランスなどは配慮するとともに、4年次生については就職活動など合理的な理由も考慮する。)

この演習のテーマである「憲法・行政法の『基礎』」の「基礎」には、憲法や行政法の初歩的な知識の習得だけではなく、そのさらにベースにある「本質」についても考えてみようというメッセージが込められている(「基礎」とは、必ずしも「初歩」とは同義ではない)。1つのテーマについても、さまざまな問題点や考察の視点があることを具体的に理解できれば、この演習のさしあたりの目標は達せられたことになるが。このような学習は、特に法曹や公務員、さらには民間企業(企業法務など)を目指す学生にとっても有益である。

Administrative Law in order to reach a valid conclusion for problems concerning both of these areas. In other words, while it is doubtful that a valid solution can be reached with just the abstract principles and legal principles of the Constitution, on the other hand there are also problems where it is difficult to derive a persuasive argument with only the individual administrative laws and regulations without considering the fundamental principles of the Constitution.

In this seminar (1) Participants are expected to be second, third and fourth-year students who wish to study Administrative Law (formally or to review one more time) following Constitutional Law. (2) Third and fourth-year students who wish to dig into the state and operation of the administrative system from the perspectives of Constitutional and Administrative Law are also welcome to participate. (Consideration will be given to the balance between different class years in regard to the reporting assignments.)

The “fundamental” aspect of the “Fundamentals of Constitutional and Administrative Law”, which is the topic of this seminar, includes not only mastering a rudimentary knowledge of Constitutional and Administrative Law but also contains the message of thinking about the “essence” which forms the foundation of those areas (“fundamentals” does not necessarily mean the same thing as “rudiments”). If the students are able to concretely understand that even one topic has various problems and perspectives to examine, then the objective of this seminar has been achieved for the time being. This type of study is particularly beneficial for those students who aim to become legal professionals and civil servants or work at private companies (corporate law and other departments).

授業の内容(Course Contents)

憲法や行政法双方にかかわる具体的なテーマを取り上げ、(1)基本事項の確認、(2)関連する判例の検討、さらに(3)具体的な制度の運用などについて検討する。

具体的なテーマとしては、基本的人権、地方自治、環境、情報などに関する事例や判例、さらには時事的な問題などで憲法と行政法にかかわるものを取り上げるが、受講生の希望もきいて最終的に決めることにする。秋学期は少しずつ行政法固有の問題を検討することを予定している。

さらに通年開講であるため、このような取り上げたテーマに関連して、ゲストスピーカーからお話を聞いて理解を深める機会や、受講生と相談の上、文章の書き方などについても検討する機会を持つことを考えたい。

The classes will raise specific themes concerning both Constitutional Law and Administrative Law to (1) confirm basic matters, (2) examine related judicial precedents, and (3) examine the specific operation and other aspects of systems.

Specific topics will cover the cases about the fundamental human rights, the local self-government and the current topics, which concern the theory of Constitutional Law and Administrative Law. The classes will raise specific themes concerning both Constitutional Law and Administrative Law to (1) confirm basic matters, (2) examine related judicial precedents, and (3) examine the specific

operation and other aspects of systems.

Specific topics will cover the cases about the fundamental human rights, the local self- government, the environment, the management of information and otherwise the current topics , which concern the theory of Constitutional Law and Administrative Law .The instructor would like to raise these topics at the beginning to examine several arguments, but these topics will ultimately be decided according to the wishes of the students.

In addition, the instructor would also like to provide an opportunity for the students to deepen their understanding by listening to a guest speaker talk in reference to these topics, and the training for the art of writing on the legal topics.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス・春学期の打合せ
2. レポートの仕方・必要事項の確認
3. 憲法と行政法の全体像の概観
4. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
5. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
6. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
7. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
8. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
9. 行政実務の実例的な事例(ゲストスピーカー)
10. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
11. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
12. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
13. 基本的人権と行政法が関連する事例・判例
14. まとめ
15. 統治機構・地方自治に関する事例・判例
16. 統治機構・地方自治に関する事例・判例
17. 統治機構・地方自治に関する事例・判例
18. 統治機構・地方自治に関する事例・判例
19. 時事問題に関する事例・判例
20. 時事問題に関する事例・判例
21. 時事問題に関する事例・判例
22. 裁判実務の実例的な事例(ゲスト・スピーカー)
23. 行政上の権利救済に関する事例・判例
24. 行政上の権利救済に関する事例・判例
25. 行政上の権利救済に関する事例・判例
26. 行政上の権利救済に関する事例・判例
27. 行政上の権利救済に関する事例・判例
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

割り当てられた報告の準備のほか、毎回、指定された文献や判例を読んでおくこと。レポーター以外の参加者も、事前にコメントを提出することが望ましい(判例などを読むときのポイントは予め知らせる)。
また、所属学年に応じて、憲法・行政法の講義系科目(憲法1、憲法2、行政法1、行政法2)を履修することが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告の内容(30%)/授業中の発言・取り組み(70%)

テキスト (Textbooks)

授業で取り上げる判例・文献は配布する。
憲法・行政法の標準的な教科書は、各自で必ず用意すること。

参考文献 (Readings)

1. 神橋一彦、2023、『行政救済法 第3版』、信山社
 2. 木下昌彦ほか(編)、2018、『精読憲法判例[人権編]』、弘文堂 (ISBN:978-4335357251)
 3. 木下昌彦ほか(編)、2021、『精読憲法判例[統治編]』、弘文堂 (ISBN:978-4641228207)
 4. 原田大樹、2020、『判例で学ぶ法学 行政法』、新世社 (ISBN:978-4-88384-321-3)
 5. 大橋洋一、2021、『社会とつながる行政法入門 第2版』、有斐閣 (ISBN:978-4641228207)
 6. 笹田栄司 ほか、2019、『トピックからはじめる統治制度 -- 憲法を考える 第2版』、有斐閣 (ISBN:978-4641227804)
 7. 棟居 快行 ほか、2019、『基本的人権の事件簿 第6版』、有斐閣 (ISBN:978-4641228207)
- 詳細は開講時に説明する。

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:20 名

配当年次:2・3・4年次

選考方法:レポート

①題目:演習に期待すること、憲法・行政法で興味のあるテーマ(ある程度自由)

②字数:1000 字程度(字数が多くなるのは構わない。)

演習論文:実施しない

演習の内容などについて質問がある場合は、個別に相談に応ずる(メールで事前連絡すること)。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX621／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代日本政治英語文献講読		
担当者名 (Instructor)	孫 斉庸(SOHN JEYONG)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

現代日本政治を題材とした英語文献の講読を通して、日本の政治について多角的に考察する力を養うと共に、政治学分野の英語文献を読解する能力を身につける。

This course aims to offer a comprehensive examination of the political landscape of Japan by means of reading selected English literature on the subject. Through this course, students will acquire the capability to comprehend and critically evaluate English-language research on Japanese politics, thereby deepening their understanding of the crucial issues, actors, and institutions that shape the current political landscape of Japan.

授業の内容 (Course Contents)

この授業では、日本の2021年衆院選を研究対象とした英語文献を講読する。そこには、国内外の日本政治研究の専門家たちが、政党政治、世論とメディア、政策争点、コロナ禍の影響、ジェンダー、オリンピック、人種問題、外交政策など様々な角度から分析を加えている論文が収録されている。受講者は、海外研究者が日本政治をどのように認識しているかにふれることで、現代日本政治を多面的に理解できる能力を身につけることができると期待される。授業は、毎回報告担当者にレジュメを作成してもらい、それをもとにディスカッションを行う形式をとる。

This class will involve reading English literature pertaining to research on the 2021 Japanese House of Representatives election. The literature includes papers written by both foreign and domestic experts in the field of Japanese political studies, which analyze various topics such as party politics, public opinion, the media, policy issues, the impact of COVID-19, gender, the Tokyo Olympics, issues related to racial discrimination, and foreign policy. It is hoped that through exposure to the perspectives of foreign researchers, students will develop the ability to understand modern Japanese politics from a multifaceted perspective. Classes will be conducted by having a designated student present a summary of the assigned literature, followed by group discussion.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 報告と議論
3. 報告と議論
4. 報告と議論
5. 報告と議論
6. 報告と議論
7. 報告と議論
8. 報告と議論
9. 報告と議論
10. 報告と議論
11. 報告と議論
12. 報告と議論
13. 報告と議論
14. 報告と議論・総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当箇所への報告(50%)・授業・討論への参加度(50%)

テキスト (Textbooks)

1. Pekkanen, R., Reed, S. R., & Scheiner, E. (Eds.). 2022. Japan Decides 2021: The Japanese General Election. Palgrave Macmillan (ISBN:9783031113239)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数: 15 名程度

配当年次: 2～4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 本演習を志望する理由

② 字数: 自由

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX623／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	サンデルを哲学する		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬 佳也(ICHINOSE YOSHIYA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

本演習においては、マイケル・サンデルの著書を読み、サンデルの思想について理解していく。

In this seminar, students will read some books written by M. Sandel, and understand Sandel's philosophy.

授業の内容 (Course Contents)

本演習においては、マイケル・サンデルの著書を読み、サンデルの思想について理解していく。

本授業は「演習」形式で行う。毎回、報告者が担当箇所を要約した発表を行い、コメンテーターが論点と問題点を提起する。特定の予備知識を必要とするわけではないが、受講生には議論や発言に積極的に参加することを求める。

In this seminar, students will read some books written by M. Sandel, and understand Sandel's philosophy.

This lecture has a style of "seminar". Students must have some presentations and comments concerning pages of the book that they are specified. Students need to speak in this seminar positively.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 殺人に正義があるか
3. 命に値段をつけられるのか
4. 「富」は誰のもの？
5. この土地は誰のもの？
6. お金で買えるもの、買えないもの
7. なぜ人を使ってはならないのか
8. 嘘をつかない教訓
9. 能力主義に正義はない？
10. 入学資格を議論する
11. アリストテレスは死んでいない
12. 愛国心と正義 どちらが大切？
13. 善き生を追及する
14. 前期のまとめ
15. プロローグ＋序論－入学すること
16. 勝者と敗者
17. 「偉大なのは善良だから」——能力の道德の簡単な歴史——
18. 出世のレトリック
19. 学歴偏重主義——容認されている最後の偏見
20. 成功の倫理学
21. 選別装置
22. 労働を承認する＋結論
23. はじがき＋正義、調和、共同体
24. 正義、調和、共同体
25. 市民の徳の道德教育
26. 多元主義と完全性——サンデルと道家思想の伝統
27. 人間の概念——サンデルと儒教的伝統
28. 人間の概念＋サンデルによる応答

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回、必ずテキストを読んできて、コメントペーパーを提出してください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加度(35%)/プレゼンテーション(35%)/コメントペーパー(30%)

テキスト(Textbooks)

1. マイケル・サンデル、2012、『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業(上)』、ハヤカワ文庫 (ISBN:978-4-15-050378-9)
2. マイケル・サンデル、2012、『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業(下)』、ハヤカワ文庫 (ISBN:978-4-15-050378-9)
3. マイケル・サンデル、2021、『実力も運のうち、能力主義は正義か?』、早川書房 (ISBN:978-4-15-210016-0)
4. マイケル・サンデル、2019、『サンデル教授、中国哲学に出会う』、早川書房 (ISBN:978-4-15-209832-0)

参考文献(Readings)

1. マイケル・サンデル、2009、『リベラリズムと正義の限界』、勁草書房 (ISBN:978-4326101887)
2. マイケル・サンデル、2010、『民主政の不満:公共哲学を求めるアメリカ(上)』、勁草書房 (ISBN:978-4326101962)
3. マイケル・サンデル、2011、『民主政の不満:公共哲学を求めるアメリカ(下)』、勁草書房 (ISBN:978-4326101979)
4. 仲正昌樹、2013、『政治思想の知恵:マキャベリからサンデルまで』、法律文化社 (ISBN:978-4589034793)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:20

配当年次:2, 3, 4

選考方法:レポート

①題目:本演習を履修する理由とテーマへの関心について記すこと

②字数:1000字以上

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX624／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	法学部の学修と社会を繋ぐ ～まちづくりを題材に～		
担当者名 (Instructor)	薬師丸 正二郎(YAKUSHIMARU SHOJIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

法は社会規範の一つであり、「人」に対して働きかけるものである。従って、「法学部で学ぶ」ということは、人一倍、社会や人に関心を持ち、学び続けることが必要である。授業では「地域が抱える現実の問題」を素材に法学部の学修を通じて獲得する論理的な思考力、対立する利害関係を調整する力等を学び、社会や人への関心を高める。さらに、地域の抱える課題を「発見」し、観光政策を含む様々な観点から地域振興の在り方について考え、課題「解決」に導く力も養うことを目標とする。

Law is one type of social norm, and it has an effect on "people." Therefore, "studying in the College of Law and Politics" requires students to have an uncommon level of interest in society and people as well as to continue learning. In this class, students will use "real problems faced by local communities" as subject material to cultivate the ability to think logically, learn how to align opposing interests, and increase their interest in society and people through their studies in the College of Law and Politics. In addition, the objectives for this academic year are to have students "discover" issues faced by local communities, think about the state of regional development from various perspectives including tourism policy, and cultivate the ability to derive "solutions" to the issues.

授業の内容(Course Contents)

1 「法学部で学ぶことが社会とどのような形で繋がっているのか」について様々な角度から考える。法学部の学修を通して、論理的思考力、情報収集能力等、利害関係調整力等、社会で必要な様々な能力を獲得できる。法学部で学び、身に付けることができるこれらの能力を実戦で使いこなせるようにすることを目的とする。

2 演習で取り扱う素材は、現実社会で発生する問題の中でも最も複雑で、解決が困難とされている「地域が抱える現実の課題」を素材にする。「地域が抱える現実の課題」を素材とする理由は、「利害関係者(ステークホルダー)」が複数存在し、それぞれの利害が複雑に絡み合っているため、利害関係を調整し、解決に導くことが困難な事柄だからである。このように「地域が抱える現実の課題」を素材に利害関係者それぞれの主張及び取り巻く状況について分析・検討することにより、通常の講義では得ることが困難な課題発見力、分析力、課題解決力、実行力、コミュニケーション力など様々な能力を学び、身に付けていく。

3 授業では、まちづくりに関する基礎知識や分析に必要な視点を獲得するために、外部環境に関する知識(少子・高齢化等の社会問題、第四次産業革命の技術革新、Society5.0 など)のほか、法制度(まちづくり三法等)、中心市街地活性化、観光政策、地域コミュニティの形成・活性化に関する文献を検討する。

4 地域の抱える問題や課題を発見し、解決案を探す上で必要な視点を得るために、地方創生・地域活性化の先行事例として紹介されている地域を対象にヒアリング調査を行う。ヒアリングは、利害関係者(行政、民間企業、観光協会、商工会議所、銀行、商店街、NPO 法人、住民(第一次産業を含む))ごとにグループを作り、実施する。

5 本年度は、昨年度(埼玉県志木市、川越市、小鹿野町、神奈川県横須賀市、東京都葛飾区、練馬区)に引き続き、中心市街地活性化の現状及び活性化の構造を調査、分析すると共に、具体的に地域の人々と地域活性化に関する具体的な提言及び提言の実行を行う予定である(協力企業、対象地域等、詳細については随時ゼミの広報 Facebook 等を通じて掲載する)。

6 具体的な提案に向けて必要となる能力を養うために、演習時間外においてもサブゼミ、勉強会を別途開催する予定である。

1. Students will think from various angles about "how studying in the College of Law and Politics is connected to society." Through studying in the College of Law and Politics, students will cultivate various abilities which are required in society such as the ability to think logically, gather information, and align different interests. The objective is to become able to effectively apply these skills which can be learned in the College of Law and Politics under real-world conditions. This will enhance various abilities which were cultivated through previous studies in the College of Law and Politics.

2. The materials covered in the seminar are based on "real issues faced by local communities" which are among the most complex problems occurring in the real world and are believed to be difficult to solve. The reason why "real issues faced by local communities" are being used as material is because there are multiple "interested parties (stakeholders)," and the interests are entangled in complex ways, which naturally makes it difficult to align interests and derive a solution. Using "real

issues faced by local communities” as material to analyze and examine the statements and situations surrounding each stakeholder will enable the students to learn and master various abilities which cannot be learned in the typical seminar such as the abilities to discover issues, analyze, resolve issues, take action, and communicate.

3. In order to cultivate fundamental knowledge and the perspectives required to analyze community planning, students in this class will examine the literature about legal systems (the three community planning laws, etc.), city center revitalization, tourism policy, and the formation and revitalization of regional communities in addition to acquiring knowledge about the external environment (social problems such as the low birthrate and aging society and technology innovations of the Fourth Industrial Revolution).

4. In order to develop the perspectives required to discover the problems and issues faced by local communities and search for solutions, students will conduct interview surveys of regions introduced as precedents for regional revitalization and regional development. The interviews will be conducted by breaking into six groups for each interested party (government, private companies & tourism association, Chamber of Commerce and Industry & banks, shopping district, incorporated NPOs, and residents (including primary industries)).

5. Continuing from the previous academic year, this year’s seminar (the previous academic year conducted in Shiki city, Kawagoe City, Ogano town (Saitama Prefecture) and Yokosuka City (Kanagawa Prefecture)), Katsushika city (Tokyo Prefecture)) is scheduled to survey and analyze the present state of city center revitalization and the structure of revitalization as well as making and implementing specific suggestions for regional revitalization together with people from the regions (details about the cooperating companies and target regions will be posted as needed on the official seminar Facebook page).

6. In order to cultivate the abilities required to make concrete proposals, sub-seminars and study sessions will be separately convened outside of the seminar class hours.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 地域創生に関する分析手法を学ぶ
3. 課題解決のための考え方、分析手法を学ぶ
4. 課題解決のための考え方、提案・企画書の作成法を学ぶ
5. まちづくりに関連する法的基礎知識を学ぶ(1)
6. まちづくりに関連する法的基礎知識を学ぶ(2)
7. まちづくりに関連する法的基礎知識を学ぶ(3)
8. まちづくりに関する先行事例研究・報告(1)
9. まちづくりに関する先行事例研究・報告(2)
- 課題調査地域の確定
10. 現地調査に関する報告及び検討(1)
11. 現地調査に関する報告及び検討(2)
12. 現地調査に関する報告及び検討(3)
13. 中間報告会
14. 前期のまとめ
15. 現地調査に関する報告(5)
16. 現地調査に関する報告(6)
17. 外部環境について学ぶ
18. 外部環境について学ぶ
19. 社会のニーズ、世の中の動向を知る
20. 日本の現状を知る(少子高齢化問題等)
21. 地域が抱える課題の検討&提案(1)
22. 地域が抱える課題の検討&提案(2)
23. 地域が抱える課題の検討&提案(3)
24. 地域が抱える課題の検討&提案(4)
25. グループによる報告会(1)
26. グループによる報告会(2)
27. 最終報告会
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

【授業時間外の学習】

・報告、調査はグループ毎に行うため、サブゼミ、ヒアリング等、相当の準備を要する。

また、4限の開講科目であるが、毎回、5限まで延長するため(18:50 終了予定)、時間的に余裕のない人の受講は絶対に勧めない。

・グループ毎の調査とは別にゼミ単位での現地調査及びゼミ合宿も予定している(コロナ感染状況を踏まえて判断する)。日程は、第一次調査(5月又は6月)と第二次調査(夏期休暇中)、第三次調査(秋休み又は2、3月)に合宿を予定。

・本ゼミでは事前の文献調査、報告のみならず、現地調査も実施する予定である。演習外でも相当な準備を必要とするため、受け身ではなく、積極的、能動的な態度を持って臨むことを要する。

・個人の理解度を知り、グループへの貢献度を測るため、各自の学修進度、理解の程度を知るためにコメントペーパーの提出を毎回義務付ける。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席点・コメントペーパー(30%) / 平常の授業態度(30%) / グループによる報告内容、グループへの貢献度(20%) / ヒアリング調査への参加、調査報告内容(20%)

テキスト(Textbooks)

今年度は、特に指定しない。

講義で取り扱う書籍、文献、資料は適宜、指示する。

その他、自身のキャリアを形成し、ステークホルダーとのコミュニケーション力を養うために、適宜、資料を配布し、スキルトレーニングも取り入れる予定。

参考文献 (Readings)

1. バーバラ ミント、1999、『考える技術・書く技術 新版一問題解決力を伸ばすピラミッド原則』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4478490273)
 2. 竹本昌史、2016、『地方創生まちづくり大事典』、国書刊行会 (ISBN:978-4-336-05975-8)
 3. クラウス・シュワブ、2016、『第四次産業革命』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-32111-6)
 4. 上野 千鶴子、2018、『情報生産者になる』、筑摩書房 (ISBN:978-4480071675)
 5. 渡辺政之 (監修)、2017、『カラー版 マンガでわかる 事業計画書の作り方』、西東社 (ISBN:978-4791625109)
 6. ビル バーネット、デイヴ エヴァンス、2019、『スタンフォード式 人生デザイン講座』、ハヤカワ文庫 NF (ISBN:978-4-15¥050546-2)
 7. 中村善貞、2018、『図解 新規事業を創出する方法』、言視社 (ISBN:9784865651164)
- ・内閣府「RESAS 地域経済分析システム」〈<https://resas.go.jp/#/11/11365>〉
 - ・地方創生カレッジ eラーニング講座〈<https://chihousei-college.jp>〉
 - ・まちづくりの推進(METI/経済産業省) 〈http://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/town_planning/〉
 - ・中心市街地活性化資料集・事例集—国土交通省 〈<http://www.mlit.go.jp/crd/index/case/>〉
 - ・「観光地域づくり」(国土交通省 観光庁 HP) 〈<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/index.html>〉
 - ・観光地域づくり事例集〈<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/ikiiki.html>〉
 - ・地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム(成 23 年)—総務省—
〈http://www.soumu.go.jp/main_content/000115383.pdf〉

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

- ◇ 採用人数:36 名
- ◇ 配当年次:2～4 年次
- ◇ 選考方法:レポート及び任意面談

1) レポート

題目:①自己PR、②本演習の志望理由、③13年後の社会(2035年)を想像し、そのときに生活していくため、あるいは社会人として働いていくために必要と考える知識、資質、あるいは能力は何であるかについて述べよ。その上でこれらの知識、資質、あるいは能力をどのように身につけようとするか述べよ(③については正解はありません。知識の有無を確認する趣旨ではないので、様々な資料を基にして、創造力を膨らませながら、自分の意見を書いてください)。

字数:1200 字以上(①②③合計で 1200 字以上あれば、字数を問わない)。

2) 任意面談

本ゼミは、様々な社会人(行政、民間企業を問わず)の方々と交流します。

このため、演習内容を理解してもらうために、初めて履修を希望する学生を対象として、「任意」面談を行います。とくにゼミの活動内容、合宿、雰囲気などについて話を聞きたい方は、メールで連絡を下さい(yakushimaru0625@rikkyo.ac.jp)。面談の日時は、相談の上、随時実施します。

なお、面談は「任意」ではあるが、応募者が募集人員を超えた場合には、面談受講生を優先することもあるので、その際はご容赦ください。

＜演習論文＞

実施しない

<その他>

- ① このゼミの目的の一つに、「自らの望む人生及びキャリアを、自らが選択して、切り拓いていける力を養い、実行できる人物を育てること。」があります。社会の変化が目まぐるしいこれからの時代において、「どのような能力や資質が必要か」について自分で考えることができるようになることを目指していますので、好奇心、冒険心の旺盛な方は、遺憾なくこれらの能力を発揮してください！
- ② 皆さんの生きていく社会は「正解のない社会」であり、すべてを自分で考えながら、行動していかなければならないため、フィールドワークで気づいたことを基に、主体的に行動し、各自で書籍を調べ、試行錯誤しながら行動することを前提にしていました(助言はこれらに対するコメントが中心)。
- ③ 今年度は、前半の時間では、指定テキストについてグループ報告を行うとともに、テーマへの理解を深めるための議論を行います。
後半の時間は、ディベート、グループ活動報告、その他、「企画」の立て方、キャリアデザインに関するテキストを選び、読み進める予定です。
なお、今年度の地域活性化活動は、別の講義【EX730】キャリアデザイン～インターンシップの学生(希望者)と合同で行う予定である。
- ④ 現時点で、ゼミで調査する地域は東京都葛飾区、豊島区、練馬区、埼玉県志木市、小鹿野町、川越市、神奈川県横須賀市などを予定。そのほか希望があれば、ゼミ生の意見を取り入れながら考えていきます。これまでのゼミ活動の一部が Facebook に紹介されていますので、ご参照下さい<<https://www.facebook.com/rikkyolawyakushimaru/>>。
- ⑤ 本ゼミの内容は、複数の行政機関及び民間企業、そして様々な方々の協力を頂きながら実施しています。大学生であっても、社会人としてのマナーを大切に守るように意識して臨んで下さい。
- ⑥ ゼミを通して、キャリア教育支援も行います。具体的には、各種社会人との交流会、イベント、学術会議等の企画・運営への参加をはじめ、社会人基礎力等の基本的資質・能力やコンピテンシーを分析し、演習や大学生活を通して、どのような力や能力が身に付いたかについて振り返り等も行います。
- ⑦ ゼミ活動は課題解決をするため、多くの人々を巻き込みながら、行う活動である。課題解決するうえで、情報発信力も重視する。特に動画作成、SNS を用いての情報発信などに関心のある人も参加して欲しい。
- ⑧ 3 月上旬にゼミ活動の最終報告会を実施する予定です。開催日など詳細は決まり次第、Facebook、Twitter などの SNS を通じて告知するので、ゼミに興味のある学生は、雰囲気を知むために参照してください。
そのほか、ゼミ活動について知りたい方は、2023 年 1 月にゼミ紹介企画で行ったゼミ生による紹介動画を参照してください。
<<https://www.youtube.com/watch?v=37ukCSrfxBc>>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX625／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	労働法・社会保障法		
担当者名 (Instructor)	島村 暁代(SHIMAMURA AKIYO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

労働法と社会保障法に関する政策や裁判例を検討することを通じて、正確な知識と深い理解にもとづく議論ができるようになり、具体的な課題に対して自分なりの展望が描けるようになること。

The purpose of this course is for students to be able to engage in discussion based on accurate knowledge and deep understanding gained by examining court precedents that cover the major arguments of Labor Law and Social Security Law and their systems so that they can depict their own vision for specific issues.

授業の内容 (Course Contents)

労働法と社会保障法に関する政策や裁判例の検討を通じて、労働法や社会保障法に関する理論的な枠組みを理解してもらいます。

受講生の中からゼミ長を選び、受講生中心にゼミの運営が進むことを期待します。グループ作業による学生主体の報告・討論が中心となるため、授業外の準備を含めた、相当の時間を要する見込みです。場合によっては、週末や夕刻の時間帯にかかる作業もあります。受講生の希望等に応じて、ゲストスピーカーの招へいや、合宿、施設見学等も予定しています。また、1年を通じて自分の関心のあるテーマをマイテーマとして模索・設定し、研究していただきます。最後にマイテーマレポートとして総括してもらいます。

これらのことを理解して、積極的かつ主体的に参加できる人の参加を歓迎します。
なお、以下の授業計画は一例であり、受講生の関心や希望により、随時変更します。

To handle workplace issues, students must first pin down the fundamental knowledge and understand the theoretical framework of the dispute resolution system by studying politics and court precedents on Labor Law and Social Security Law. Students elect a Seminar Organizer and Vice Organizer from among them, and they mainly manage and coordinate the course. Because the focus is on student-led reports and debates based on group work, this course is expected to require considerable time to prepare outside the classroom. In addition, the final report requires an overall summary. Depending on circumstances, work may be required on weekends or in the evening. Students who understand these requirements and can participate proactively and independently are welcome to enroll. Note: The following plan is an example and changes as necessary according to student requests and the state of progress.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
- 2.ブレインストーミング
3. 基本的な知識の確認
4. 裁判例の検討
5. 裁判例の検討
6. 裁判例の検討
7. 裁判例の検討
8. 裁判例の検討
9. 裁判例の検討
10. 裁判例の検討
11. 裁判例の検討
12. 施設見学
13. 中間小括
14. 政策の検討
15. 政策の検討
16. 政策の検討
17. 政策の検討
18. 政策の検討
19. 政策の検討

20. 政策の検討
21. 政策の検討
22. 政策の検討
23. 報告と討論
24. 報告と討論
25. 報告と討論
26. 報告と討論
27. 報告と討論
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

憲法、行政法、民法、労働法、社会保障法を履修済みか、並行して履修予定であることが望ましいです。インターンシップなど、労働現場の体験を強く推奨します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席・発言内容(40%) / 報告内容(40%) / マイテーマレポート(20%)
無断欠席が3回以上の場合、成績評価の対象としません。

テキスト(Textbooks)

使用する裁判例等については、授業中に指示します。

参考文献(Readings)

授業中に指示します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

選考された場合は辞退しないで下さい。また、学期中の連絡は email を使用しますので、使えるようにしておいて下さい。

<選考方法>

採用人数: 10名程度

配当年次: 2～4年次

選考方法: レポート

① 題目: ゼミで勉強したいことと将来の展望について

② 字数: 1200字程度

演習論文: 実施しない もっとも、マイテーマを設定し、最後にレポートを書いていただきます

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX626／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	知的財産法ディベートゼミ		
担当者名 (Instructor)	上野 達弘(UENO TATSUHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

知的財産法をテーマにディベートを行うことにより法的思考力とプレゼンテーション能力を養う。

The purpose of this seminar is to develop the students' legal thinking and skills for presentation and discussion through debates on intellectual property law.

授業の内容 (Course Contents)

著作権法に関する現実の事件をテーマとして、原告 3 人×被告 3 人のディベートを行います。残りの参加者は全員ジャッジとしてコメント付き判定を下します。こうして1年間同じチームでリーグ戦を行い、優勝チームを決定するというプログラムです。

ディベーターは準備と理論武装が求められ、他のジャッジも公平な判断が求められます。こうしてディベーターは、柔軟な思考力と説得的な論理性を鍛え、あわせてプレゼン技術を磨きます。ジャッジは、主張の正当性を適切に見極める判断力を養います。

毎回 20 分程度延長あり。他大学(昨年度は北大と早稲田)との親善試合も開催。

[お問い合わせ]

教員: uenot@waseda.jp

ゼミ生: twitter アカウント (@rikkyo_uenozemi)

This seminar holds debates between the plaintiff (3 persons) and the defendant (3 persons) on the topic of real case law concerning copyright law, for one year. The rest of the students give their judgements with comments.

The debaters have to prepare for the debates, while the judges are expected to be impartial. In the course of this seminar, the students can develop flexible legal thinking and skills for presentation and discussion.

There is an extension of about 20 minutes each time. It is planned to hold the friendly matches with other universities (e.g. Hokkaido University, Waseda University).

For further information, please contact:

uenot@waseda.jp

Twitter: @rikkyo_uenozemi

授業計画 (Course Schedule)

1. Team organization
2. 大阪地判平成21年3月26日〔マンション読本事件〕
3. 東京地判平成26年10月30日〔ふわふわ四季のたより事件〕
4. 大阪地判平成31年4月18日〔眠り猫事件〕
5. 知財高判平成27年6月24日〔プロ野球ドリームナイン事件〕
6. 東京地判平成27年11月30日〔全脳記憶英単語事件〕
7. 知財高判平成25年9月30日〔風にそよぐ墓標事件〕
8. 東京高判昭和62年2月19日〔当落予想表事件〕
9. 知財高判平成27年4月14日〔TRIPP TRAPP 事件〕
10. 知財高判平成25年4月18日〔治療薬ハンドブック事件〕
11. 知財高判平成18年3月15日〔通勤大学法律コース事件〕
12. 知財高判平成26年10月22日〔自炊代行業事件〕
13. Test Match

14. Friendly Match vs. 早稲田大学上野ゼミ
15. 知財高判平成22年10月13日〔美術鑑定証書事件〕
16. 東京地判平成13年7月25日〔はたらくじどうしゃ事件〕
17. 大阪地決定平成25年9月6日〔希望の壁事件〕
18. 東京地判令和3年4月14日〔懲戒請求書事件〕
19. 知財高判平成19年5月31日〔東京アウトサイダーズ事件〕
20. 東京高裁平成16年3月31日〔DEAD OR ALIVE 2 事件〕
21. 最一小判平成23年1月20日〔ロクラクⅡ 事件〕
22. 東京高判平成14年2月18日〔雪月花事件〕
23. Test Match
24. Friendly Match vs. 北海道大学吉田ゼミ
25. Special 1
26. Special 2
27. Retirement Match 1
28. Retirement Match 2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ケースの予習のほか、チームメンバーは授業外でディベートの打合せを行う必要がありますので、授業外もゼミに一定の時間をかけられるような学生を特に歓迎しています。

ご質問・ご相談は気楽にお寄せ下さい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ゼミへの参加姿勢(50%)/議論内容(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 島並良・上野達弘・横山久芳、2021、『著作権法入門(第3版)』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-24327-9)
2. 上野達弘・前田哲男、2021、『〈ケース研究〉著作物の類似性判断——ビジュアルアート編』、勁草書房 (ISBN:978-4-326-40392-9)

参考文献(Readings)

1. 小泉直樹・田村善之・駒田泰士・上野達弘編、2019、『著作権判例百選(第6版)』、有斐閣

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 30名

配当年次: 2~4年次

選考方法: レポート

①題目: 自己PRおよび志望理由

②字数: 自由

演習論文: 実施しない

※ 自主面談を希望される方は、上野(下記)宛てにご連絡ください。

<連絡先>

上野達弘

uenot@waseda.jp

※参考※

[Twitter]

https://twitter.com/rikkyo_uenozemi

[ゼミに関するエッセイ]

<http://www.f.waseda.jp/uenot/debateseminar.pdf>

[注意] もし採用後に辞退される場合は、発表後、直ちに上野まで連絡してください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX627／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	グローバル化時代のビジネス社会と法		
担当者名 (Instructor)	早川 吉尚(HAYAKAWA YOSHIHISA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

グローバル化時代の様々な新しいビジネスの展開とこれに対する法規制を考察する。

The objective of this course is to examine the development of various new businesses and the corresponding legal regulations in an era of globalization.

授業の内容 (Course Contents)

この 10 年ほど世界のビジネスシーンにおいてはますますグローバル化が進んでいます。

本演習においては、その関心領域に応じて参加学生を幾つかのグループに分けた上で、そのグループごとに、文献の渉猟、企業・業界団体・官庁に対する直接の取材等を通じて、そのような新しいビジネスの詳細や新たな法規制に関して調査・研究してもらいます。その上で、全員参加の演習の場においてパワーポイントを用いた報告をしてもらい、さらに、全員による討議・検討を経るという形をとることになります。

なお、各グループの報告の内容は、ウェブサイトを通じて内外に発信される予定です。

During the past ten years or so, globalization has made further advances in the global business scene.

In this seminar, participating students will be separated into several groups according to their areas of interest to investigate and research the details of such new businesses and the new legal regulations by extensively reading the literature and directly interviewing companies, business groups, and government agencies by group. In addition, students will use PowerPoint to present reports during seminar sessions attended by all students which will be followed by further debate and discussion among all of the students.

Furthermore, please note that the content of each group's report is scheduled to be published internally and externally through a website.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. テーマ設定、グループ分け
3. 中間報告
4. 第 1 回報告①
5. 第 1 回報告②
6. 第 1 回報告③
7. 第 2 回報告①
8. 第 2 回報告②
9. 第 2 回報告③
10. 第 3 回報告①
11. 第 3 回報告②
12. 第 3 回報告③
13. 総 括①
14. 総 括②
15. テーマ設定
16. テーマ設定、グループ分け
17. 中間報告
18. 第 1 回報告①
19. 第 1 回報告②
20. 第 1 回報告③

21. 第2回報告①
22. 第2回報告②
23. 第2回報告③
24. 第3回報告①
25. 第3回報告②
26. 第3回報告③
27. 総括①
28. 総括②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

グループでの報告が主となるため、授業時間以外にグループで集まり、報告内容の検討を行うことが多くなります。
なお、本演習は延長するのが通常です。正規授業時間の後の時間についても、19:00 までは予定を入れないようにお願いします。

成績評価方法・基準(Evaluation)

グループでの報告の報告内容(100%)

理由の如何を問わず3割を超えて欠席・遅刻・早退をした学生には基本的には単位を与えることができませんので、インターンや就職活動等で欠席・遅刻・早退が多く見込まれる学生はこの点に注意して応募してください。

テキスト(Textbooks)

演習の中で指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

採用人数 : 30 名程度

配当年次 : 3・4 年次(内容につき継続性が重視されるため、4 年次生については前年度に受講していた学生が選考において優先されることがあります)

選考方法 : 選考レポート

①題目 : 自己紹介、及び、グローバル化が社会に与える影響につき、自分の経験を踏まえながら、自由に記述してください。

②字数 : 自由

演習論文 : なし

理由の如何を問わず3割を超えて欠席・遅刻・早退をした学生には基本的には単位を与えることができませんので、インターンや就職活動等で欠席・遅刻・早退が多く見込まれる学生はこの点に注意して応募してください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX628／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際法の現代的課題		
担当者名 (Instructor)	許 淑娟(HUH SOOKYEON)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

現代の国際問題に対して適切に分析できるために、国際法に関する知識と適切な理解の習得および国内外の情報収集(主に英語を用いて)のスキルを身に着ける。

This course aims at enabling students to acquire basic knowledge of public international law and the skill for access of information provided mainly by English language.

授業の内容(Course Contents)

本コースは、国際法に関する最新の論文(日本語文献)を読むことと時事的な国際問題を調べることから成り立つ。日本語文献としては『国際法外交雑誌』の最新号やその他法律雑誌における国際法の論文を読む。時事的な国際問題を扱うに際しては、国連のプレスリリースや、アメリカ国際法学会ニュースレター、ヨーロッパ国際法学会ブログ、The Economist の記事など(いずれも英文)を用いて、全員による議論を行う。

* 国際法1および2を履修済みあるいは履修中であることを前提とする。履修していないものは、事前に、概説書入手し読んでおくこと

This course consists of two elements: reading critically classic international law articles written in Japanese and analyzing current issues concerning public international law by using global news materials.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 授業の進め方
2. 参加者による報告と討論
3. 参加者による報告と討論
4. 参加者による報告と討論
5. 参加者による報告と討論
6. 参加者による報告と討論
7. 参加者による報告と討論
8. 参加者による報告と討論
9. 参加者による報告と討論
10. 参加者による報告と討論
11. 参加者による報告と討論
12. 参加者による報告と討論
13. 参加者による報告と討論
14. 参加者による報告と討論
15. 中間のまとめ
16. 参加者による報告と討論
17. 参加者による報告と討論
18. 参加者による報告と討論
19. 参加者による報告と討論
20. 参加者による報告と討論
21. 参加者による報告と討論
22. 参加者による報告と討論
23. 参加者による報告と討論
24. 参加者による報告と討論
25. 参加者による報告と討論
26. 参加者による報告と討論
27. 参加者による報告と討論
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の検討テーマについて、テキストの読解、教科書と基本関連する基本文献を調べ、準備する必要がある。論文講読の場合、報告者に当たったものは、要約および考察レジュメを用意する。時事ニュースを扱う場合は全員がその場で日本語訳できる程度の準備をしておく必要がある。

英語が堪能であることは求めないが、自らの英語の実力に応じた相応の努力と時間の投資が求められる。

国際法 1 を履修済みあるいは履修中であることが求められる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

テキストの読解およびそのための関連文献調査(50%)/わかりやすい報告(30%)/議論への建設的な参加(20%)

テキスト(Textbooks)

* 各論題に関連する基本資料は、適宜配布する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数: 15 名程度

配当年次: 3～4 年

選考方法: レポート

① 題目: 関心のある国際問題について。

② 字数: 1000 字程度。

演習論文: 実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX629／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際法専門文献講読(判例研究)		
担当者名 (Instructor)	岩月 直樹(IWATSUKI NAOKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

国際法に関する専門文献の講読、特に国際判例研究に関する論文の検討を通じて、法的思考力を養う。

The aim of this course is to develop participants' legal thinking skills through analyzing specialized literatures on international law.

授業の内容(Course Contents)

最初の数回は、国際法の基本的事項について、基本文献の購読を通じて確認する。
その後、各回のテーマに応じた対象文献についての参加者による報告と質疑応答、議論を通して検討する。
対象文献は、国際法の基本事項に関わるものから、先端的な問題を扱ったものまで、参加者の関心に応じて決定する。

Designated participants prepare and submit a report on assigned literatures in advance.

The literatures to be picked up will be assigned according to the interests of the participants, ranging from those related to the basic issues of international law to those dealing with cutting-edge issues.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 授業の進め方
2. 国際法の基本1: 法源
3. 国際法の基本2: 国際裁判
4. 国際法の基本3: 国家管轄権
5. 国際法の基本4: 国家責任
6. 国際法の基本5: 武力行使
7. 専門文献研究1
8. 国際判例研究1
9. 専門文献研究2
10. 国際判例研究2
11. 専門文献研究3
12. 国際判例研究3
13. 専門文献研究4
14. 国際判例研究4
15. 中間のまとめ
16. 専門文献研究5
17. 国際判例研究5
18. 専門文献研究6
19. 国際判例研究6
20. 専門文献研究7
21. 国際判例研究7
22. 専門文献研究8
23. 国際判例研究8
24. 専門文献研究9
25. 国際判例研究9
26. 専門文献研究10
27. 国際判例研究10
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の対象文献について、全員が熟読の上、報告者はレジュメを作成し事前に配布することが求められる。
演習では、報告書について、質疑応答を通して内容の正確な理解を深めると同時に、批判的な検討を加える。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

検討事項の積極的な提起(20%)/調査に基づく情報の提供(30%)/建設的な批判・意見の提示(30%)/読み手を意識した適切な資料作成(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 岩沢雄司、2020、『国際法』、東京大学出版会 (ISBN:9784130323918)

* 各論題に関連する基本資料は、適宜配布する。

参考文献 (Readings)

1. 森川幸一(他)、2016、『国際法で世界がわかる』、岩波書店 (ISBN:9784000229555)

2. 森肇志・岩月直樹(編)、2020、『サブテキスト国際法』、日本評論社 (ISBN:9784535524729)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15 名程度

配当年次:2~4 年

選考方法:レポート

①題目:本演習への参加を希望する理由。どのような問題について関心を持ち、どんなことを知りたいと考えているか。

②字数:1200 字以内。

演習論文:実施しない。

この演習は参加者が調査をふまえた報告書を提出し、それについてお互いに建設的な意見の交換を行うことで成立します。国際法を学びつつ、法的議論の組み立て方、法的視点に基づく文章の書き方を身につけたい学生、議論を通じて自らの理解・知識を確かなものにしたいと考える学生の参加を期待します。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX630／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際貿易・投資に関する規制と国際紛争－グローバル経済と国際協力		
担当者名 (Instructor)	濱田 太郎(HAMADA TARO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

春学期では、主要な WTO 判例の意義や問題点を理解する。秋学期では、国際経済法上の問題について法解釈だけでなく立法論ないし政策論的な検討も行う。

In the spring semester, you will understand the significance and problems of major WTO panel and Appellate body reports. In the fall semester, we will try to combine cutting-edge, legal and political research of some relevant legal issues of international economy through discussions.

授業の内容 (Course Contents)

経済がグローバル化し、人、物品・サービス、資本は日常的に国境を越えて移動している。環境保護、感染症、移民・難民問題、強制労働・児童労働等に対処するため各国は国際協力を推進していく必要がある。しかし、米国・中国の経済覇権の争い、通商摩擦の深刻化、イギリスの欧州連合からの脱退等を見ても、国際社会は順調に統合の方向に向かっているわけではない。国際法・国際経済法は、地球規模の課題の解決に向けて、どのような役割を果たすことができるのかを考えたい。

春学期は、WTO の主要判例の日本語解説(要すれば判例原文)を分析し WTO 協定の意義や問題点を考える。秋学期は、各自が関心を有する国際経済法上の問題を分析・報告し、解釈論だけでなく立法論・法政策論も考察したい。

履修者数や希望に応じて、判例分析報告あるいは個別報告の回数を増減する。

People, goods and services, and capital are moving across borders in the global economy.

Sovereign states should promote international cooperation to deal with global issues: environmental protection, infectious diseases, immigration and refugee, forced labor, child labor etc. However, the international community is not always moving toward integration, as we see it in our daily news: hegemonistic struggle and trade war between the United States and China, the withdrawal of the United Kingdom from the European Union etc. This seminar will examine any positive role of the international law and international economic law in resolving these global issues. In the spring semester, we will analyze major WTO panel and Appellate body reports. In the fall semester, we will combine cutting-edge, legal and political research of some relevant legal issues of international economy through discussion.

We may focus either WTO case analysis or cross cutting individual research, depending on the number of students and their requests.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション WTO 協定の概要、演習の進め方
2. WTO 判例分析報告・討議: 事例①
3. WTO 判例分析報告・討議: 事例①
4. WTO 判例分析報告・討議: 事例②
5. WTO 判例分析報告・討議: 事例③
6. WTO 判例分析報告・討議: 事例④
7. WTO 判例分析報告・討議: 事例⑤
8. WTO 判例分析報告・討議: 事例⑥
9. WTO 判例分析報告・討議: 事例⑦
10. WTO 判例分析報告・討議: 事例⑧
11. WTO 判例分析報告・討議: 事例⑨
12. WTO 判例分析報告・討議: 事例⑩
13. WTO 判例分析報告・討議: 事例⑩
14. 春学期のまとめ、後期の担当割り当て
15. 秋学期のイントロダクション 専門文献の調査方法、演習の進め方
16. 個別報告①(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議

17. 個別報告①(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
18. 個別報告②(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
19. 個別報告③(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
20. 個別報告④(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
21. 個別報告⑤(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
22. 個別報告⑥(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
23. 個別報告⑦(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
24. 個別報告⑧(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
25. 個別報告⑨(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
26. 個別報告⑩(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
27. 個別報告⑪(国際経済法上の諸問題に関する報告)・討議
28. 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・報告者は、事前に報告課題を周到に調査し、適切にその内容をまとめた報告レジュメを提出すること。
- ・国際経済法を履修することが望ましい。
- ・米国第1主義によるWTO上級委員会の麻痺、米中貿易摩擦等、近年の国際経済法は激動の時代を迎えている。WTO、TPP、FTAなどに関するニュースにぜひ注目してほしい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表内容及び課題の提出(60%)/質疑応答などの授業への貢献(40%)

テキスト(Textbooks)

授業中に指示する。判例は経済産業省ホームページの「不公正貿易報告書」及び「WTO パネル・上級委員会報告書に関する調査研究報告書」を参照すること。

参考文献(Readings)

1. 関根 豪政、2021、『国際貿易法入門 ―WTO と FTA の共存へ』、筑摩書房 (ISBN:4480074147)
- その他の参考文献は、授業中に指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 20名

配当年次: 3・4年次

選考方法: レポート

①題目: 本演習の志望理由

②字数: 1200 字程度

演習論文: 実施しない

○担当教員への問い合わせ

メールアドレス: thamada at isc.senshu-u.ac.jp

※at を @ に置き換えてください

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX631／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ルソーの『エミール』を読む		
担当者名 (Instructor)	安藤 裕介(ANDO YUSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

ルソーの『エミール』を輪読し、人間にとっての自然と文明、感受性と道徳的判断、国家と市民の関係について議論する。また、個人研究を通じて自分なりの問題意識と見解をもち、読解力・調査力・分析力を鍛える。

The objective of this seminar is to read Rousseau's *Emile ou l'éducation*, and to discuss the relationship between nature and civilization, between sensibility and moral judgement as well as between country and citizenship. In addition, students develop their awareness of issues and opinions through individual research in order to improve their investigative and analytical abilities.

授業の内容 (Course Contents)

政治思想の古典『社会契約論』(1762 年)で知られるルソーは、同時期に『エミール』という教育論を世に問うた。この二作品は相互に関連する彼の代表作であり、またルソーが『人間不平等起源論』(1755 年)で展開した近代文明批判への彼なりの処方箋でもある。人間の自然的善性を信じるルソーは、いかなる教育を通じて架空の少年エミールを理想の成長へと導こうとするのか。ルソーの『エミール』を丁寧に読み解くことで、自然と文明、感受性と道徳的判断、国家と市民の関係について考えたい。また本演習では、単に文献を輪読するだけでなく、個人研究に基づくプレゼンテーションもおこなってもらう。さらに他大学との合同ゼミやインカレのプレゼン大会(12 月中旬)への出場も予定している。

Jean-Jacques Rousseau, known as the author of *Du contract social* (1762), wrote *Emile* at the same time in order to reveal his political and moral philosophy. These two works were produced in the interrelated way as the remedies for the corruption of modern civilization that he criticized in his *Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité parmi les hommes*. Based on his belief that human nature is good, how would Rousseau educate an imaginary student, Emile? Reading carefully Rousseau's treatise on education, we examine the relationship between nature and civilization, between sensibility and moral judgement as well as between country and citizenship in his thought.

Besides reading the literature, students also give presentations based on individual research. In addition, students are scheduled to participate in a joint seminar with other universities and compete in an intercollegiate presentation contest (middle of December).

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. テキスト輪読(1)
3. テキスト輪読(2)
4. テキスト輪読(3)
5. テキスト輪読(4)
6. テキスト輪読(5)
7. テキスト輪読(6)
8. テキスト輪読(7)
9. テキスト輪読(8)
10. テキスト輪読(9)
11. テキスト輪読(10)
12. テキスト輪読(11)
13. テキスト輪読(12)
14. テキスト輪読(13)
15. テキスト輪読(14)
16. テキスト輪読(15)
17. 他大学との合同ゼミ
18. テキスト輪読(16)
19. テキスト輪読(17)
20. テキスト輪読(18)

21. 個人研究の構想発表(1)
22. 個人研究の構想発表(2)
23. テキスト輪読(19)
24. テキスト輪読(20)
25. テキスト輪読(21)
26. テキスト輪読(22)
27. 個人研究プレゼンテーション(1)
28. 個人研究プレゼンテーション(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 1) 課題テキストに対する感想や疑問点をコメントペーパーの形で毎回提出してもらう。
- 2) 個人研究については各自で設定したテーマを掘り下げるための文献収集や論点整理をおこなってもらう。
- 3) 個人研究発表にあたってパワーポイントスライドを作成してもらう(分からない場合は個別指導する)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業態度・議論への参加および貢献度(40%)/コメントペーパー(30%)/個人研究発表(30%)
自分から積極的に発言し、熱意をもって毎回の演習に取り組む学生を歓迎する。

テキスト(Textbooks)

1. ジャン＝ジャック・ルソー(今野一雄訳)、1962年、『エミール』(上)、岩波文庫 (ISBN:4003362217)
2. ジャン＝ジャック・ルソー(今野一雄訳)、1963年、『エミール』(中)、岩波文庫 (ISBN:4003362225)
3. ジャン＝ジャック・ルソー(今野一雄訳)、1964年、『エミール』(下)、岩波文庫 (ISBN:4003362233)

参考文献(Readings)

1. 桑瀬章二郎編、2010年、『ルソーを学ぶ人のために』、世界思想社
2. 永見文雄、2021年、『ルソー エミール(シリーズ 世界の思想)』、KADOKAWA
3. 福田歓一、2012年、『ルソー』、岩波現代文庫
4. 吉岡知哉、1988年、『ジャン＝ジャック・ルソー論』、東京大学出版会
5. Robert Wokler. 2001年. Rousseau: A Very Short Introduction. Oxford University Press

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 15名程度

配当年次: 2～4年次

選考方法: レポート

① 題目: この演習を志望する理由(ルソーについて知っていること・調べたことを含む)

② 字数: 1,500字程度

演習論文: 実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX632／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	交渉学(Negotiation)		
担当者名 (Instructor)	濱野 亮(HAMANO RYO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

交渉に関する基本的知識とスキルを身につける。与えられた論点に関する短文作成能力と、口頭によるプレゼンテーションとディスカッションの能力を身につける。

The Objective of this course is to provide students with basic knowledge and skills of negotiation., and skills for writing a short essay, presentation and discussion.

授業の内容 (Course Contents)

昨年に引き続き交渉について学びます。アルバイトのシフトの変更、就活、会社での営業、企業買収、結婚、交通事故・相続・離婚などの紛争解決、どれをとっても、複数の人間が関わる全てのことは「交渉 negotiation」です。交渉の基本的知識とスキルを知っておくことは、これから社会に出ていく皆さんにとって役に立ちます。この演習は、交渉学の代表的な教科書を読み、ロール・プレーとその振り返りを行うことで、社会に出て交渉経験を積み重ねるための基礎を築いてもらうことをめざしています。

また、文献を読む回は、私が提示した3つ程度の論点に対して、テキストを正確に読んで自分の考えを文章にする作業を通じて、文章力をつけます。また、班内で発表・議論し、班の見解をまとめるグループワークをします。グループワークは社会生活の基本です。

交渉学の教科書(『交渉の作法—法交渉学入門』)を用いて、交渉学の理解を深めます。具体的な内容は授業計画を参照してください。また、交渉や調停のロール・プレーをグループに分かれて行う回を春、秋それぞれ数回設け、文献で学んだことを実際に経験してもらいます。

なお、リサーチペーパー(自分で設定したテーマで15,000字程度の論文、ただし任意であり、執筆の有無に関わらず、成績評価には含みません)の執筆を希望する人には論文作成の指導を行います。大学時代に論文を書く経験は社会に出てから役にたつので、積極的にチャレンジしてください。

採用にあたっては、昨年度のこの演習の履修者を優先しますが、新規に履修を希望する人も歓迎します。

Continuing from last year, students will learn about negotiation. Changing part-time shifts, job hunting, sales in the office, corporate acquisitions, marriages, resolving disputes such as traffic accidents, inheritances and divorces, all require having the basic knowledge and skills of negotiation.

This seminar aims to build a foundation for negotiation skills by reading textbooks on negotiation studies, role-playing and reflecting on the role-playing. The literature reading sessions are also aimed at developing writing skills through the process of reading texts accurately and putting their ideas into writing in response to the three or so issues I present. In addition, group work is carried out in which the students present and discuss their own views in groups and summarise them.

Students deepen their understanding of negotiation studies by using a textbook on negotiation studies. See lesson plan below for specific details. In addition, students will be divided into groups to role-play negotiations and mediation several times in spring and autumn, so that they can actually experience what they have learnt from the literature.

The students who wish to write a research paper (a paper of around 15,000 words on a theme of their own choice, but this is optional and is not included in the grade, regardless of whether it is written or not) will receive my guidance in writing the paper.

Priority is given to students who completed this seminar in the previous year, but new students who wish to take the course are also welcome.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション、自己紹介、授業計画
2. 序章とロール・プレー
3. 分配型交渉(1)
4. 分配型交渉(2)
5. ロール・プレー
6. 振り返り
7. 統合型交渉(1)
8. 統合型交渉(2)

9. 分配型交渉と統合型交渉の調和
10. ロール・プレー
11. 振り返り
12. 交渉の経済学—ゲーム理論(1)
13. 交渉の経済学—ゲーム理論(2)
14. 春学期の振り返り
15. 交渉の心理学(1)
16. 交渉の心理学(2)
17. ロール・プレー
18. 振り返り
19. 交渉の社会学(1)
20. 交渉の社会学(2)
21. 交渉と弁護士
22. ロールプレー
23. 振り返り
24. 交渉学と民事紛争解決制度
25. 交渉学と調停
26. ロールプレー
27. 振り返り
28. 1年間全体のふりかえり

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回必ず、3つ程度の論点を教員が事前に提示し、それに対するレポートを履修者は事前に提出する。ロールプレーについては振り返りを各自で行い、課題としてレポートを提出する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前の課題に対するレポート(40%)/担当報告の内容(30%)/平常の授業態度(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 小林秀之編、2012、『交渉の作法—法交渉学入門』、弘文堂 (ISBN:9784335355349)

参考文献(Readings)

1. マルホトラ&ベークマン、2016、『交渉の達人』、パンローリング (ISBN:9784775941638)
2. アラン・ランブルウ&オウレリアン・コルソン、2014、『交渉のメソッド—リーダーのコア・スキル』、白桃書房 (ISBN:9784561236283)
3. フィッシャー&ユーマー、1989、『ハーバード流交渉術』、三笠書房 (ISBN:9784837903604)
4. 名古屋ロイヤリング研究会編、2009、『実務ロイヤリング講義 第2版』、民事法研究会 (ISBN:9784896285086)
5. レビスキーほか、2011、『交渉力—最高のバイブル』、日本経済新聞出版社 (ISBN:9784532605148)
6. ニール&リース、2017、『スタンフォード&ノースウエスタン大学教授の交渉戦略教室』、講談社 (ISBN:9784062202213)
7. 榎本修、2022、『ローヤリングの考え方』、名古屋大学出版局 (ISBN:9784815810931)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:12人~24人程度(前年からの継続者を優先しますが、新規の人も歓迎します)

配当年次:2~4年次

選考方法:レポート

①題目:このゼミを志望する理由

②字数:1600字以上(横書)

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX633／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	戦後東アジアにおける歴史問題		
担当者名 (Instructor)	庄司 潤一郎(SHOJI JUNICHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

戦後 70 年以上が経過した現在でも、東アジアでは歴史問題をめぐって論争が続いており、日本の外交に大きな影響を及ぼしている。そこで、本演習では、戦後日本の歴史問題の変遷と、東アジアにおける歴史認識問題の背景・要因・特質、及び近年の動向について、多角的に考えることを目的とする。それにより、皆さんが自身の歴史認識を身に着ける一助とすると同時に、外国の方と議論し得る基盤を習得して欲しい。

Today, more than 70 years after the end of the Pacific War, East Asia continues to be engaged in furious debates over historical perception. Such debates have influenced on the Japanese diplomacy. The purpose of this seminar is to think the backgrounds, elements and characteristics of historical perception issue in East Asia from a multifaceted.

授業の内容(Course Contents)

春学期は、日本の歴史問題に関する基本的文献を輪読、各回報告を踏まえて議論を行う。秋学期は、各人が歴史認識問題に関する具体的なテーマを選定し、考察の結果を発表、相互に議論を行う。

At Spring Semester each student in this seminar shall read the basic texts concerning historical perception issue in turns and at Autumn Semester research the selected specific topics to present and engage in discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. 導入(演習の進め方)
2. 歴史認識問題とは
3. 歴史認識問題に関する基本的文献の輪読・議論①
4. 同上②
5. 同上③
6. 同上④
7. 同上⑤
8. 同上⑥
9. 同上⑦
10. 同上⑧
11. 同上⑨
12. 同上⑩
13. 同上⑪
14. 同上⑫
15. 事例研究の方法について
16. 事例研究の報告・議論①
17. 同上②
18. 同上③
19. 同上④
20. 同上⑤
21. 同上⑥
22. 同上⑦
23. 同上⑧
24. 同上⑨
25. 同上⑩
26. 同上⑪
27. 同上⑫
28. 総合討議

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当報告の内容(50%)/出席態度(20%)/演習に対する姿勢(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 波多野澄雄、2022、『日本の歴史問題』、中央公論新社 (ISBN:978-4-12-102733-7)

参考文献 (Readings)

1. 大沼保昭、2015、『「歴史認識」とは何か』、中央公論新社 (ISBN:978-4-12-102332-2)
2. 庄司潤一郎ほか、2021、『決定版 大東亜戦争 下』、新潮社 (ISBN:978-4-10-610914-0)
3. 読売新聞戦争責任検証委員会、2009、『検証 戦争責任 下』、中央公論新社 (ISBN:978-4-12-205177-5)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 20 名以内

配当年次: 2～4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 本演習の志望理由と関心のある具体的なテーマ

② 字数: 1000 字

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX634／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	法教育実践 / 大学生活と法－調査・発表		
担当者名 (Instructor)	山口 敬介(YAMAGUCHI KEISUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

講義では実現困難な調査・分析・報告・討論・学外での発表を通じて、民法、ひいては法への理解を深めること。

The aim of this course is to promote a deeper understanding not only of Civil Law but also law in general through researches, analysis, reporting, discussions, and presentations outside the campus.

授業の内容(Course Contents)

1. 法教育実践: 実践を通じて、各自が法学部に入ってわかった法・法学の意義・魅力を、法を学んでいない人にわかりやすく伝える能力を養います。「他人に教える」ことを通じて、日頃法学部で勉強していることの意味等を「自分たちが学び直す」ことが目標です。具体的な実践方法としては、夏休みのオープンキャンパスで模擬授業を行うこと、中学校や高校で法に関する授業を行うことを予定しています。実践場所の確保も全て自分たちで行います。過去の活動例については、下記 HP・SNS・参考文献を参照してください。

2. 大学生活と法－調査・発表: 大学生も、大学生活においてさまざまな法的問題に直面する可能性があります。そして、多くの大学生(とりわけ法学部以外の学生)はその問題に関わる法ルールの内容を、まして、その法ルールの趣旨・考え方を理解しているわけではありません。そこで、このプロジェクトでは、大学の関係部局に話をうかがうなどしながら、大学生が直面する法的問題としてどのようなものがあるかを調査し、その問題についての基礎知識、さらには法の考え方をゼミの外に向けて発表します。どのような形で発表するのがよいかも、受講者の皆さんに考えてもらいます。

これらの授業内容は民法全体の学習を前提とします。したがって、民法 1～5 もしくは民法(1)～(4)のうちで未習の科目がある方は、必要に応じて、各自で自習することが不可欠です。

参加者には、報告及び毎回の周到な予習はもちろん、ゼミ内で自分の貢献できる場所を見出し積極的な参加をすることが求められます。いずれの活動も正規の授業時間外の活動が必要となります。例えば、上記 1 については、本番まで、毎週 1 回程度のミーティングを行うのが通例です。これらに十分参加できる時間的余裕のある方であり、かつ、全ての活動についてやる気を持ち、それを持続できそうな方のみ応募してください。

※下記の授業計画は、諸般の事情により、変更することがあります。

1. Law education. The aim of this project is to develop an ability to explain significance and fascination of law and jurisprudence to people who are unfamiliar with law. It is expected that the participants will rediscover the significance of what they are studying in the College of Law and Politics. Participants will give lectures on law in junior high schools or high schools. Participants shall take the initiative in planning the lectures, including choosing subjects of lectures and finding appropriate schools.

2. University life and Law –Research and Presentation. In this project, participants should survey legal problems that students in our university are facing, and make presentations outside this seminar about basic knowledge and fundamental concepts of those problems.

Participants are urged to prepare carefully for each class, make presentations, and participate actively in the projects. Every participant should find what he/she can do to make the projects successful.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 法教育: 先行実践例の検討
3. 法教育実践準備 1
4. 法教育実践準備 2
5. 法教育実践準備 3
6. 法教育実践準備 4
7. 大学生活と法: 問題の探索 1

8. 大学生活と法:問題の探索 2
9. 大学生活と法:問題の探索 3
10. 法教育実践準備 5
11. 法教育実践準備 6
12. 法教育実践準備 7
13. 法教育実践準備 8
14. 春学期の振り返り
15. 秋学期の計画
16. 法教育実践準備 9
17. 大学生活と法:中間報告 1
18. 大学生活と法:中間報告 2
19. 法教育実践リハーサル 1
20. 法教育実践リハーサル 2
21. 法教育実践リハーサル 3
22. 法教育実践リハーサル 4
23. 大学生活と法:最終報告 1
24. 大学生活と法:最終報告 2
25. 大学生活と法:最終報告 3
26. 大学生活と法:最終報告 4
27. 法教育実践報告・反省会
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)/討議内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 山口敬介、2017、『法学部生による法教育実践の一例ー現状の紹介と展開可能性』『法と教育』8号所収、商事法務 (ISBN:9784785726607)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<前年度以前のゼミ生作成のHPやSNS>

HP:

<http://kyamaguchiseminar.wix.com/law-education>

Twitter:

@yama_zemi_

Instagram:

rikkyo.law_yamaguchiseminar

<選考方法>

採用人数:12~15名

配当年次:2~4年次

選考方法:レポート

①題目:本演習の志望動機

②字数:自由(但し、手書きは不可とします)

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX635／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	経済法実務演習－独禁法・競争法の実務的・現代的側面を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	高宮 雄介(TAKAMIYA YUSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

独禁法・競争法に関し、基礎的な考え方を確認しつつ、企業法務の現場における課題や現代社会における諸問題に独禁法・競争法がどのように絡むのかを学ぶことを通じ、独禁法・競争法に関する複合的、立体的な理解を得るとともに、独禁法・競争法分野に取り組むことの面白さを感じてもらうことを目標とする。

なお、当該目標に向けてアプローチする過程で、企業法務の仕事の魅力を伝えとともに、リサーチ能力やプレゼンテーション能力等、実社会において必要とされる能力を習得してもらうことも目指す。

The goal of this seminar is (i) to provide participants with a comprehensive and three-dimensional understanding of antitrust and competition law, and (ii) to help the participants feel the attractiveness of the antitrust and competition law. To achieve the goal, participants would confirm fundamental concepts of antitrust and competition laws and learn how antitrust and competition law are related to issues in the field of business laws and various issues in our society.

In the process of approaching this goal, the participants could also understand the attractiveness of the work of business law firm. The participants are expected to acquire skills needed in the real world, such as research and presentation skills.

授業の内容 (Course Contents)

本演習は、企業法務を扱う大手法律事務所において国内外の独禁法・競争法分野を専門に執務している弁護士が開講する。本演習において扱う内容は概ね以下の通りである。

まず、演習初回にオリエンテーションを行った後、独禁法・競争法分野の全体像について講師から講義を行う。

その後、数回の演習を1セットとして構成されるチームを設定し、各チームの初回において、初学者も想定し、当該分野に関し、講師から基本的な考え方及び実務上問題になる論点について講義を行う。その後、各チームのテーマに関係した課題(設例や審判決、報告書等を想定している。)に関し、受講者複数名からなる担当チームに発表してもらい、その内容に関し、講師及び他の受講者との間で質疑応答を行う。

チーム毎に予定しているテーマは授業計画の箇所を参照されたい。受講者と相談をしつつ進めるが、各チームにおいても、基礎的な課題だけでなく、諸外国における近時の動きも適宜取り入れる。特に、演習終盤では、デジタルプラットフォームと独禁法・競争法、グリーン社会の実現や持続可能性(SDGs)と独禁法・競争法、民主主義と独禁法・競争法といった現代的・先端的なトピックに関しても盛り込む予定である。

本演習にあたり、独禁法・競争法(経済法)科目を履修済みであることは求めない。独禁法・競争法にかかる企業法務の実務に興味がある学生、デジタルプラットフォームやグリーン社会といった先端的なトピックと独禁法・競争法の関わりに興味がある学生の参加を歓迎する。

This seminar will be taught by an attorney specializing in domestic and international antitrust and competition law at a major corporate law firm. The contents of the seminar are as follows.

First, an orientation session will be held at the beginning of the seminar. Then, the lecturer will provide the overall picture of the field of antitrust and competition law.

The seminar will consist of several terms after the orientation and introductory session.

In the first session of each term, the lecturer will give a lecture on the fundamental concepts and practical issues in the relevant field of antitrust and competition law, assuming that the participants have not learned relevant courses. After that, a team consists of several participants needs to provide presentation on issues relevant to the theme of each term (hypotheticals, court decisions, government reports, etc. are assumed). The presentation will be followed by questions and

answers session with the lecturers and other participants. For the themes planned for each term, please refer to the seminar plan below.

The contents of the session will be determined in consultation with the students, and each term may include not only basic issues but also recent developments in other jurisdictions. In particular, the final part of the seminar will include contemporary and cutting-edge topics such as digital platforms and antitrust and competition law, the realization of a green society, sustainability (SDGs) and antitrust and competition law, and democracy and antitrust and competition law.

Participants are not required to have taken a course of antitrust and competition law. Participants interested in the legal practice of antitrust and competition law, as well as those interested in the relationship between antitrust and competition law and cutting-edge topics such as digital platforms and green society, are certainly welcome.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 独禁法・競争法の基礎に関する講義
3. 競争事業者間の協調行為(カルテル・談合)に関する講義
4. 競争事業者間の協調行為(カルテル・談合)に関する演習(1)
5. 競争事業者間の協調行為(カルテル・談合)に関する演習(2)
6. 単独行為規制に関する講義
7. 単独行為規制に関する演習(1)
8. 単独行為規制に関する演習(2)
9. 企業結合規制に関する講義
10. 企業結合規制に関する演習(1)
11. 企業結合規制に関する演習(2)
12. 実務的・現代的なトピックに関する講義
13. 実務的・現代的なトピックに関する演習(1)
14. 実務的・現代的なトピックに関する演習(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・講義の回については、できる限り事前に参考資料の関連箇所等を読んで予習をして頂くことが求められる。
- ・演習の回については、少人数のグループによる報告(発表)を求めることを想定している。このため、担当回においては、グループのメンバー間で連絡をとったうえで、発表の準備をすることが求められる。また、担当回以外についても、できる限り事前に課題等に目を通して頂くことが求められる。
- ・後記参考文献については、初回の演習時に説明する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容(50%) / 演習への参加態度・ディスカッションへの貢献度(50%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. 菅久修一ほか編、2020、『独占禁止法(第4版)』、商事法務 (ISBN:9784785728229)
2. 土田和博ほか、2019、『条文から学ぶ独占禁止法(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641243149)
3. 幕田英雄、2022、『公取委実務から考える独占禁止法(第2版)』、商事法務 (ISBN:9784785729882)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 10-15名程度

配当年次: 3、4年次

選考方法: レポート

① 題目: 本演習を志望する理由(以下のいずれも含むこと)

(a) 自己紹介

(b) 本演習に参加した際に取り扱うことを希望するトピック

② 字数: 1000字から1200字程度(多少の増減は問わない)

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX636／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民法事例・判例演習		
担当者名 (Instructor)	野澤 正充(NOZAWA MASAMICHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

民法の重要判例およびケース問題(司法試験の問題を含む)を検討することにより、民法の考え方を学ぶ。将来、法曹を目指す者だけではなく、公務員や企業・会社に勤務することを考えている者に有用な内容を考えている。

Students will learn the concept of civil law by examining recent important judicial precedents. The content of the course is designed to be useful not only for those who aim to become legal professionals in the future, but also for those who are thinking of working for public officials, companies, or corporations.

授業の内容(Course Contents)

民法の重要判例およびケース問題の内容を検討する。具体的には、報告者が報告をし、その内容を議論したり、裁判形式で、裁判官・原告・被告の3つのグループに分かれ、事例問題を議論する。受講生は、自らの報告および発言によって、プレゼンテーション能力を培うとともに、他人の報告を聴いて考え、議論することにより、コミュニケーション能力を養うことが可能となる。

In each session, we will read an important precedent in civil law and discuss its contents. Specifically, the presenter will give a report and the contents will be discussed. Students will be able to cultivate their presentation skills through their own reports, as well as their communication skills by listening to, thinking about, and discussing the reports of others.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 民法総則の事例・判例
3. 民法(財産法)の事例・重要判例1
4. 民法(財産法)の事例・重要判例2
5. 民法(財産法)の事例・重要判例3
6. 民法(財産法)の事例・重要判例4
7. 民法(財産法)の事例・重要判例5
8. 民法(財産法)の事例・重要判例6
9. 民法(財産法)の事例・重要判例7
10. 民法(財産法)の事例・重要判例8
11. 民法(財産法)の事例・重要判例9
12. 民法(家族法)の事例・重要判例1
13. 民法(家族法)の事例・重要判例2
14. 民法(家族法)の事例・重要判例3

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

判例の原本や複数の評釈を事前に検討する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当報告の内容(50%)/平常の授業態度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 20名程度

配当年次:2 年次～4 年次

選考方法:レポート

①題目:この演習に参加を希望する理由

②字数:1600 字程度(A4用紙1 枚程度)

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX637／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	金融システムと法／新たな課題を考える		
担当者名 (Instructor)	信森 毅博(NOBUMORI TAKEHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

金融システムに関する法制度の基本的考え方を理解し、金融に関する新たな動きについて議論する。

Understand the basic concepts of the legal system regarding the financial system and discuss new developments..

授業の内容 (Course Contents)

金融システムにおける主体・ルールの特徴の説明を踏めて、参加者が興味を有する新たな金融システムの課題を検討する。参加者は、演習中に自らの考えを積極的に発言することが求められるほか、自らが興味を有する金融に関するテーマについて2回程度、報告する機会がある。なお、テーマは講師と相談の上で決定し、参考資料等は指示がある。

Based on the explanation of the characteristics of entities and rules in the financial system, the participants will examine new financial system issues in which they are interested. Participants are expected to actively express their own ideas during the exercise, and will have two opportunities to report on financial topics in which they are interested. Themes will be decided upon consultation with the instructor, and reference materials will be provided as instructed.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロ：金融市場と取引主体の概要；金融市場は何故必要か。
2. 金融システムにおける銀行の位置付け；なぜ銀行は規制されるのか。
3. 決済システムとは何か；暗号資産はなぜ注目されるのか。
4. 証券会社の役割；なぜクラウドファンディングが着目されるのか。
5. 日本銀行（中央銀行）は何をしているのか。なぜ政府とは別に存在するのか。
6. 金融庁（規制当局）は何をしているのか；なぜ国によって形態が異なるのか。
7. 法体系（法律、規制、ガイドライン）；なぜ、段階的な構成なのか。
8. 銀行規制；なぜ、銀行は規制されるのか。
9. 証券規制；なぜ、開示が大切なのか。
10. その他の規制；なぜ、マネーロンダリング対策が必要なのか。
11. リーマンショックとは何か。なぜ、危機は繰り返されるのか。
12. パーゼル規制。なぜ、国際規制が大切なのか。
13. 新しい課題；カルチャーと気候変動。なぜ、金融機関が期待するのか。
14. まとめ：金融機関が果たすべき役割は何か。

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

次回テーマの議論に関して、自分の考え方を簡単に整理することが必要になる（30－1 時間程度）。また、理解を深める観点からは、経済学・会計学の基礎的な知識が望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当する報告(50%)/ゼミ内での発言・議論などへの貢献(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 川西諭／山崎福寿、2013、『金融のエッセンス』、有斐閣（ISBN:4641150044）
2. 川口恭弘、2015、『現代の金融機関と法（第5版）』、中央経済社（ISBN:4502176311）

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:10－15 名

配当年次:3－4 年

選考方法:レポート

①題目:①ゼミの志望動機、②金融関係で興味のあるトピック、③簡単な自己紹介(金融に関係するエピソードがあると良い)。

②字数:1,500 字程度

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX638／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アメリカの重要独占禁止法判例を物語式に解説した英語専門文献を精読する		
担当者名 (Instructor)	早川 雄一郎(HAYAKAWA YUICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

このゼミでは、アメリカ独占禁止法の英語専門文献の精読を通じて、法学の英語専門文献を読解する能力を身につけるとともに、日米の比較法的な視点を交えつつ独占禁止法の基本的な考え方を理解することを目標とする。

The objective of this seminar is to develop reading comprehension of specialized English-language literature in law through intensive reading of literature on U.S. antitrust law, as well as to understand the basic concepts of antitrust law with a comparative legal perspective between Japan and the United States.

授業の内容 (Course Contents)

アメリカ独占禁止法の有名判例を物語式に解説したテキストの指定箇所について担当者が日本語訳を作成・報告し、日本語訳及び独禁法上の考え方について受講者全体で検討する。日本語訳の作成に際しては、文の構造を一文ごとに丁寧に把握することが求められる。

(履修に当たっての留意事項)

- ・使用言語は日本語である。
- ・同じ文献を継続的に講読するため、継続的に出席することが前提となる。体調不良等のやむを得ない事情による欠席は考慮するが、欠席回数が多くなると授業についてくるのが困難になりうる。
- ・本演習では、いわゆる速読方式ではなく精読方式を用いて英語専門文献を丁寧に講読する。英文を構造的に把握する能力を強化することを通じて法学の英語専門文献の読解力を向上させたい学生の参加を歓迎する。

In this seminar, students will prepare and report Japanese translations of designated parts of the text, and the entire class will discuss the Japanese translations and the concept underlying the Antimonopoly Law. In preparing the Japanese translation, students are expected to carefully identify the structure of each sentence.

(Points to keep in mind when enrolling in this seminar)

- ・The course language is Japanese.
- ・Since the same literature will be read continuously, continuous attendance is a prerequisite. Absences due to unavoidable reasons such as illness will be considered, but the more absences you have, the more difficult it will be to keep up with the class.
- ・In this seminar, students will read English literature using the method of intensive reading, rather than the method of extensive reading. Students who want to improve their reading comprehension of English legal literature by strengthening their ability to understand English texts structurally are welcomed.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 日本とアメリカの独占禁止法概説
3. 文献講読と受講者全体による検討
4. 文献講読と受講者全体による検討
5. 文献講読と受講者全体による検討
6. 文献講読と受講者全体による検討
7. 文献講読と受講者全体による検討
8. 文献講読と受講者全体による検討
9. 文献講読と受講者全体による検討
10. 文献講読と受講者全体による検討
11. 文献講読と受講者全体による検討
12. 文献講読と受講者全体による検討
13. 文献講読と受講者全体による検討
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

テキストの指定箇所について、毎回、事前に日本語訳を作成して予習することが求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容(50%)/平常の授業態度・議論への参加度(50%)

テキスト (Textbooks)

1. Eleanor M. Fox and Daniel A. Crane. 2007. Antitrust Stories. Foundation Press (ISBN:9781599410920)

参考文献 (Readings)

1. 金井貴嗣ほか編、2017、『経済法判例・審決百選(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115347)
2. 土田和博ほか、2019、『条文から学ぶ独占禁止法(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641243149)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 5名~10名程度

配当年次: 2、3、4年次

選考方法: レポート

① 題目: 次の(a)及び(b)の両方。

(a) このゼミを志望した理由。

(b) 次の英文を日本語訳しなさい(辞書は使用してよいが、翻訳ソフトは使用してはならない(翻訳ソフトを使用しても適切な日本語訳にはなりません))。While the Alcoa case is first and foremost the story of aluminum, it is also the story of a quirky chemist who invented a new industry, the investors who joined the inventor in commercializing the new way to smelt aluminum, a diminutive boarding house acquaintance of the inventor who worked his way up from laborer to chairman of the board over nearly sixty years with the company, one of the most prominent financier families in American history who bankrolled Alcoa's development and expansion, a crusading head of the Antitrust Division who finally brought Alcoa to trial for monopolization, and one of the most famous Second Circuit judges who had to step in to author the landmark opinion when the Supreme Court could not muster a quorum to hear the case.

② 字数: (a)は1000字から2000字程度。(b)は字数制限なし。

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX639／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	消費者問題の学びを通じて法律を学ぶ意味を考える		
担当者名 (Instructor)	細川 幸一(HOSOKAWA KOICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

1. 消費者トラブルを法的な問題として認識し、その解決策を考える。
2. 法律を学ぶ意義を理解し、リーガルマインドを身につける。

- 1: Recognize consumer troubles as legal problems and consider their solution
- 2: Understand the significance of studying law and acquire a legal mind.

授業の内容(Course Contents)

法学部で2年間法律を学んでいながら、その意義や楽しさを実感できない学生が多い。
定期試験のために学説や判例を暗記するだけで、自らの思考力の向上、法律の存在意義を理解することにつなげていない。
生活する上で身近な問題である消費者トラブルを法的に分析することで、法律を学ぶ意義を自覚し、今後の法学部での学びを実りあるものとするを授業の目的とする。
この授業では全員がグループに分かれて4回課される課題についてレポートを作成し、発表する。
授業以外に、グループ活動が十分できる学生のみ募集する。
なお、秋学期演習(EX640)と同一内容であるので、どちらか一方のみ履修できる。

There are many students who have studied law for two years in the Faculty of Law, but do not feel the significance and enjoyment of it.

Many students merely memorize theories and judicial precedents for regular examinations, and do not improve their thinking ability or understand the significance of the law.

The purpose of this course is to make students aware of the significance of studying law and enrich their future studies at the Faculty of Law by legally analyzing consumer troubles, which are familiar problems in everyday life.

In this class, all students will be divided into groups to write and present reports on assignments given four times.

We only recruit students who are able to participate in group activities outside of class.

Since it has the same content as the fall semester seminar (EX640), only one of them can be taken.

授業計画(Course Schedule)

1. 現在の経済社会で生きるということ
2. 消費者の権利とは何か
3. 企業の社会的責任とは何か
4. グループ別討議①
5. 競争と消費者
6. グループ別討議②
7. サービスの適正化とは
8. グループ別討議③
9. 食品表示の適正化
10. 製造物の安全
11. グループ別討議④
12. 消費者問題に関する調査発表準備
13. 消費者問題に関する調査発表
14. ゼミの総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

生活上の身近な問題や疑問を法的に分析する習慣をつけておくといでしょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への貢献度(60%)/レポートの内容(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 細川幸一、2018、『大学生が知っておきたい消費生活と法律』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4-7664-2569-7)

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:15名程度

募集年次:3年次のみ

選考方法:下記2点のレポート提出による

①題目:

A. 志望動機

B. 以下の二つのホテルがある。

1. 朝食付きシングルルームー泊8千円

2. シングルルームー泊8千円(朝食無料サービス付)

ホテルの都合で朝食が提供されなかったとき、消費者の権利に違いがあるか？

考えを述べなさい。

②字数:A.自由 B. 自由

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX640／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	消費者問題の学びを通じて法律を学ぶ意味を考える		
担当者名 (Instructor)	細川 幸一(HOSOKAWA KOICHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

1. 消費者トラブルを法的な問題として認識し、その解決策を考える。
2. 法律を学ぶ意義を理解し、リーガルマインドを身につける。

- 1: Recognize consumer troubles as legal problems and consider their solution
- 2: Understand the significance of studying law and acquire a legal mind.

授業の内容 (Course Contents)

法学部で2年間法律を学んでいながら、その意義や楽しさを実感できない学生が多い。
定期試験のために学説や判例を暗記するだけで、自らの思考力の向上、法律の存在意義を理解することにつながらない。
生活する上で身近な問題である消費者トラブルを法的に分析することで、法律を学ぶ意義を自覚し、今後の法学部での学びを実りあるものとするを授業の目的とする。
この授業では全員がグループに分かれて4回課される課題についてレポートを作成し、発表する。
授業以外に、グループ活動が十分できる学生のみ募集する。
なお、春学期演習(EX639)と同一内容であるので、どちらか一方のみ履修できる。

There are many students who have studied law for two years in the Faculty of Law, but do not feel the significance and enjoyment of it.

Many students merely memorize theories and judicial precedents for regular examinations, and do not improve their thinking ability or understand the significance of the law.

The purpose of this course is to make students aware of the significance of studying law and enrich their future studies at the Faculty of Law by legally analyzing consumer troubles, which are familiar problems in everyday life.

In this class, all students will be divided into groups to write and present reports on assignments given four times.

We only recruit students who are able to participate in group activities outside of class.

Since it has the same content as the spring semester seminar (EX639), only one of them can be taken.

授業計画 (Course Schedule)

1. 現在の経済社会で生きるということ
2. 消費者の権利とは何か
3. 企業の社会的責任とは何か
4. グループ別討議①
5. 競争と消費者
6. グループ別討議②
7. サービスの適正化とは
8. グループ別討議③
9. 食品表示の適正化
10. 製造物の安全
11. グループ別討議④
12. 消費者問題に関する調査発表準備
13. 消費者問題に関する調査発表
14. ゼミの総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

生活上の身近な問題や疑問を法的に分析する習慣をつけておくといでしょう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への貢献度(60%)/レポートの内容(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 細川幸一、2018、『大学生が知っておきたい消費生活と法律』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4-7664-2569-7)

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15名程度

募集年次:3年次のみ

選考方法:下記2点のレポート提出による

①題目:

A. 志望動機

B. 以下の二つのホテルがある。

1. 朝食付きシングルルームー泊8千円

2. シングルルームー泊8千円(朝食無料サービス付)

ホテルの都合で朝食が提供されなかったとき、消費者の権利に違いがあるか?

考えを述べなさい。

②字数:A.自由 B. 自由

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX641／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ハンナ・アーレント『全体主義の起原』を読む		
担当者名 (Instructor)	川崎 修(KAWASAKI OSAMU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

20 世紀を代表する政治思想家の一人であるハンナ・アーレントの著作、『全体主義の起原』の第三部と関連文献を一年かけて精読する。

Students in this seminar will spend one year carefully reading the work titled, "The Origins of Totalitarianism" (Part 3) by Hannah Arendt, who was one of the most influential political thinkers of the twentieth century.

授業の内容 (Course Contents)

ハンナ・アーレント『全体主義の起原 3-----全体主義(新版)』(大久保和郎・大島かおり訳、みすず書房、2017 年)を精読する。

その前提として、『精読アレント『全体主義の起源』』(牧野雅彦著、講談社メチエ、2015 年)を講読する。

Students will conduct a careful reading of Hannah Arendt's "The Origins of Totalitarianism" (Part 3) (Japanese translation, Misuzu shobou, 2017).

They will also read "Seidoku Arendt's "The Origins of Totalitarianism" (Masahiko Makino, Kodansha, 2015).

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 『精読アレント『全体主義の起源』』の講読
3. 『精読アレント『全体主義の起源』』の講読
4. 『精読アレント『全体主義の起源』』の講読
5. 『精読アレント『全体主義の起源』』の講読
6. 『精読アレント『全体主義の起源』』の講読
7. 『精読アレント『全体主義の起源』』の講読
8. アーレント『全体主義の起原』第 10 章の講読
9. アーレント『全体主義の起原』第 10 章の講読
10. アーレント『全体主義の起原』第 11 章の講読
11. アーレント『全体主義の起原』第 11 章の講読
12. アーレント『全体主義の起原』第 11 章の講読
13. アーレント『全体主義の起原』第 12 章の講読
14. アーレント『全体主義の起原』第 12 章の講読
15. アーレント『全体主義の起原』第 12 章の講読
16. アーレント『全体主義の起原』第 12 章の講読
17. アーレント『全体主義の起原』第 13 章の講読
18. アーレント『全体主義の起原』第 13 章の講読
19. アーレント『全体主義の起原』第 13 章の講読
20. アーレント『全体主義の起原』第三部の総括
21. アーレント『全体主義の起原』第三部の総括
22. 『全体主義の起原』関連文献の講読
23. 『全体主義の起原』関連文献の講読
24. 『全体主義の起原』関連文献の講読
25. 『全体主義の起原』関連文献の講読
26. 『全体主義の起原』関連文献の講読
27. 『全体主義の起原』関連文献の講読
28. 全体の総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

報告者は報告の準備をすること。

報告者以外の参加者は当該箇所を必ず事前に読んでくること。

なお、授業の進行や方法、内容の一部は、状況に応じて、変更されることがあります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当報告の内容(50%)/平常の授業態度(50%)

テキスト(Textbooks)

1. ハンナ・アーレント、2017、『全体主義の起原 3-----全体主義(新版)』、みすず書房 (ISBN:978-462-2086277)
2. 牧野 雅彦、2015、『精読アレント『全体主義の起源』』、講談社 (ISBN:978-4062586078)

参考文献(Readings)

1. Hannah Arendt. 2017. The Origins of Totalitarianism. Penguin Modern Classics (ISBN:978-0241-316-757)
2. 川崎修、2014、『ハンナ・アーレント』、講談社 (ISBN:978-40629-22364)
3. 矢野久美子、2014、『ハンナ・アーレント』、中公新書 (ISBN:412 1022572)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 10 名程度

配当年次: 2~4 年次

選考方法: レポート

①題目: 本演習の志望理由

②字数: 1000~2000 字程度

演習論文: 実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX642／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会社法判例演習		
担当者名 (Instructor)	高橋 美加(TAKAHASHI MIKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

会社法の重要判例を検討することにより、基本的かつ実践的な法律解釈論を身につけることを目標とする。

The aim of this seminar is to cultivate a basic and practical legal interpretation ability through examination of the latest important judicial precedents on corporate law.

授業の内容 (Course Contents)

会社法の判例は複雑な事例であることが多い。社会を騒がせた有名な事案であっても、法的な論点は何であったのかは知られていない場合もある。本演習はいわゆるケーススタディとして、比較的最近の会社法の判例・裁判例をいくつか取り上げ、紛争に至る背景を詳細に調査・解説し、何が争点となったか、解決方法として裁判所が提示した内容は妥当であったのかなどを分析する。扱う内容は多岐にわたるが、企業不祥事と内部統制システム、M&Aと少数株主保護など、参加者の関心対象を調査した上で題材を相談する。参加者は法律論のみならず広く経済社会に興味を持って取り組むことが望まれる。

Case law in corporate law is often very complex. Even in famous cases that you might have heard the news, it is not always known what the legal issues were. In this seminar, we will take up some relatively recent cases, investigate and explain the background to the disputes in detail, and analyze what became the points of contention and whether what the court proposed was appropriate as a solution for the case. The topics to be covered will be diverse, but we will consult with the participants on the subjects they are interested in, such as corporate governance, mergers and acquisitions, and protection of minority shareholders. Participants are expected to be interested not only in legal theory but also in economic and social issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス、判例・文献検索について
2. 判例の検討＜事例編＞
3. 判例の検討＜判旨編＞
4. 判例の検討＜事例編＞
5. 判例の検討＜判旨編＞
6. 判例の検討＜事例編＞
7. 判例の検討＜判旨編＞
8. 判例の検討＜事例編＞
9. 判例の検討＜判旨編＞
10. 判例の検討＜事例編＞
11. 判例の検討＜判旨編＞
12. 判例の検討＜事例編＞
13. 判例の検討＜判旨編＞
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告はグループ単位で行うので、サブゼミを行うなど相当の準備を要する。
報告者以外も、事前配布された判例に目を通し、基本的な法律構成について理解しておくことが望まれる。
すでに商法(1)(2)の授業を履修済みであるか、並行して履修していることが望まれる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当する報告(60%)／ゼミ内での発言・議論などの貢献(20%)／提出物等(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 神作裕之他、2021、『会社法判例百選(第4版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115545)

参考文献 (Readings)

1. 伊藤靖史ほか、2021、『リーガルクエスト会社法』、有斐閣 (ISBN:9784641179462)
 2. 高橋美加ほか、2020、『会社法(第3版)』、弘文堂 (ISBN:9784335358395)
- 授業までに新版が出版された場合には新版を準備することを勧めます。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数：15名程度

配当年次：2～4年次

選考方法：レポート

①題目：商法・会社法に関連する裁判例や新聞報道であなたの興味のあるものを取り上げて解説しなさい(春学期演習履修者で継続希望者には、別途演習中指示します)。

②字数：1000字程度

演習論文：実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX643／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「江戸」で考える政治学		
担当者名 (Instructor)	菅原 光(SUGAWARA HIKARU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

本ゼミナールでは、江戸の文化に関連する基本的テキストを講読し議論します。講読する文献は江戸時代の文化や社会に関連するものですが、常に現代日本で発生している諸問題をも視野に入れ比較しながら読み、議論していきたいと思います。この作業を通じ、皆さんは、テキストを正確に読解し、発表し、議論する技術、さらにはレポート等の文章執筆の秘訣をも習得することになります。

The objectives of this seminar are to read and discuss about the fundamental texts about culture in the Edo period. In this works, we also consider contemporary Japan. Through this works, students will learn techniques such as reporting, presenting and discussing based on a careful review of the textbook.

授業の内容 (Course Contents)

近代化と西洋化とが同義だった日本の宿命として、法学・政治学などの社会科学は基本的に西洋(由来)の法学・政治学であり続けていますが、法が適用され政治が営まれる現実の日本社会は、江戸時代以来の伝統や歴史的経緯の中に位置付けられる存在です。そのため、制度の建前と社会の現実との間には、常に齟齬が生じざるを得ません。それに由来して、〈日本人には社会科学が真には理解し難い〉とか、〈舶来のものに過ぎない学問などは現実の(日本)社会では役に立たない〉などと言われることもあります。それは時に、〈「民主主義」とか「討論を通じた合意形成」などは、西洋のものであり、日本(人)には合わないのではないか〉といった議論につながることもあります。実際には、どうなのでしょう？本ゼミでは、西洋由来の社会科学を学ぶだけでは理解し得ない日本社会の実態を、江戸時代の文化や社会にまで遡って検討したいと思います。

Because modernization and westernization were synonymous with Japan's destiny, social sciences such as Law and Political Science fundamentally continue to be Western (origin) Law and Political Science, but the actual Japanese society where law is applied and politics operate is positioned within the pre-westernized traditions and historical background. Therefore, discrepancies between the stated reasons of the system and the realities of society are unavoidable. Because of this, it is said that, "it is difficult for Japanese people to truly understand the social sciences" and "academic disciplines which are merely imported are useless in the real society (in Japan)." This sometimes leads to arguments that "democracy" and consensus building through discussion are Western constructs that do not suit Japan (or Japanese people). So, what is the actual truth? This seminar will examine the actual state of Japanese society, which cannot be understood with just a surface level study of "social sciences originating in the West", by adding "Japanese history and intellectual traditions."

授業計画 (Course Schedule)

1. 演習についてのガイダンスと履修者の自己紹介
2. 課題テキスト講読と討論
3. 課題テキスト講読と討論
4. 課題テキスト講読と討論
5. 課題テキスト講読と討論
6. 課題テキスト講読と討論
7. 課題テキスト講読と討論
8. 課題テキスト講読と討論
9. 課題テキスト講読と討論
10. 課題テキスト講読と討論
11. 課題テキスト講読と討論
12. 課題テキスト講読と討論
13. 課題テキスト講読と討論
14. 総合討論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

コメントカード(課題テキストに関する感想、疑問点、意見など)の作成。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

予習(30%)/プレゼンテーション(30%)/授業中の討論(40%)

江戸時代の思想に関心がある学生ばかりではなく、江戸の文化には興味あるかな？という学生の履修も歓迎します。

テキスト (Textbooks)

1. 高橋敏、2007、『江戸の教育力』、ちくま新書 (ISBN:978-4480063984)
2. 氏家幹人、2016、『江戸藩邸物語』、角川ソフィア文庫 (ISBN:978-4044001339)
3. 船曳 建夫、2010、『「日本人論」再考』、講談社学術文庫 (ISBN:978-4062919906)

テキストについては、履修学生の関心などを踏まえて変更する可能性があります。その他、絶版テキストや史料などは授業時にコピーを配付します。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:15 人程度

配当年次:2 年次以上

選考方法:レポート

①題目:自己紹介と本演習の履修を希望する理由

②字数:1000～1200 字程度

演習論文:なし

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX644／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	この国のかたち ―歴史と現状から見る日本政治のなかの地方／中央		
担当者名 (Instructor)	松浦 正孝(MATSUURA MASATAKA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

「大学に入ったら、好きな勉強を、思いっきりしたい!」。こんな志を持っていた学生に、初心を思い出して、合宿なども含むゼミ活動を通じて仲間を作り、「勉強した」と言える充実した大学生活を送ってもらうことが、このゼミの目標である。政治学・歴史学のアプローチにより、現代日本の地方と大都市が直面する問題を理解し相対化する視座を獲得し、議論を通じて自分なりの意見を形成することを学ぶ。また、テキストをきちんと読み報告・プレゼンしたり、自ら企画して取材・調査してレポートを書いたり、議論したりする技術を習得する。

“When I enter university, I want to spend a lot of time studying what I like!” The objectives of this seminar are to have students who carried such an intention remember their original purpose and make friends through training camps and other seminar activities to lead a fulfilling university life where they can say that they, “really studied.” Through political science and historical approaches, students will understand the problems faced by rural areas and major cities in contemporary Japan, acquire relativistic points of view, and learn to form their own opinions through discussion. Moreover, students will learn techniques such as reporting and presenting based on a careful review of the textbook, writing reports after conducting interviews/research on their own ideas and initiative, and engaging in discussion.

授業の内容(Course Contents)

人口減少問題は、地方だけの問題ではなく大都市の問題でもあり、これにどう対応するかが日本の運命を決めると言ってもよい。労働力や消費者、税金や産業、エネルギー・資源や自然、インフラや文化。これらをめぐり大都市と地方は争奪し、譲り合ってきた。近代から現在に至る日本は、人口や国土、エネルギー、環境、食糧など国のかたちをどう造って来たのか。本ゼミでは、現代日本の大都市/地方の問題を政治学的視角から理解し、歴史的・比較視座から現代を相対化するために、多角的に選んだ重要なテキストを輪読・報告し、問題意識や分析枠組みを共有した上で、議論する。座学だけではなく、現場での研修(合宿と遠足)、ジャーナリストや外交官、テキストの著者などを招いての研究会なども行う予定である。本ゼミのメイン・イベントでもある合宿では、今年度は宮崎県を訪れる予定である。宮崎県の農業・畜産業・観光業などがどのような歴史と現状を擁し、その人口動態・財政状況や生活インフラがどのような問題を抱え、それらに対して当局はどのような政策を講じようとしているのか。それらを事前に学習した上で、合宿では、地元公立大学のゼミと交流すると共に、県庁や市役所などの政策担当者に取材を申し込み、地域の成り立ち、生業、暮らしに触れ、現代日本の地方／都市の問題の凝縮された課題を実地に学ぶ。なお、新型コロナ・ウィルスの感染状況やその他の状況次第で、合宿が延期または中止になる可能性もある。実施の場合は感染対策や検査などを求めることもあり得るが、予め理解を求める。合宿は、楽しいだけではなく、学生時代の忘れ得ぬ思い出になると共に、準備と運営とを通じて大きく成長できる機会となる。調査・計画・手配・調整・交渉・討論などのプロセスが参加者全員にミッションとして与えられ、授業時間以外の準備と積極的な参加が義務である。なお、合宿を終えた秋学期は、合宿などで掘んだ論点について深く掘り下げて学ぶ。この他にも、参加者が企画やテキストを提案することを歓迎する。ゼミは、君たちが作るものだから。

The problem of depopulation is not only a problem in rural areas as it also affects large cities, and it can be said that how this problem is dealt with will determine the fate of Japan. Manpower and consumers, taxes and industry, energy, resources and nature, as well as infrastructure and culture. Large cities and rural areas have been struggling with these issues and making mutual concessions. How did Japan create the country in terms of population and territory, energy, environment, and food from modern times until the present?

In order to understand the problems of large cities and rural areas in contemporary Japan from a political science perspective and to relativize modern times from historical and comparative viewpoints, students in this seminar will read in turns and report on important texts selected in a diversified manner and engage in discussion after sharing their awareness of the issues and analytical frameworks. This seminar will incorporate not only classroom learning but also on-site training (overnight camps and excursions), and workshops which invite journalists, diplomats, and textbook authors.

For the overnight camp, which is the main event of this seminar, students during this academic year are scheduled to visit Miyazaki prefecture. What is the history and current status of the agriculture, livestock, and tourism industries in Miyazaki, what are the demographic, financial, and living infrastructure problems? And what policies is the government planning to implement in response to these problems? After learning about these issues in advance, students will interact with seminar students from the

Miyazaki Municipal University and apply for interviews with policy makers at the prefectural government and city governments. They will be exposed to the local history, occupations, and lifestyles to learn about the condensed issues of rural/urban problems in contemporary Japan in a practical manner.

The applicants have to know that there is a possibility the overnight camp will be postponed or cancelled because of the COVID-19 pandemic or another reason. If the overnight camp is held, infection control measures and testing may be required, so we request your understanding in advance.

The overnight camp will not only be enjoyable but create unforgettable memories of your school days while also providing an opportunity for significant growth through the process of preparing and managing the camp. Processes including surveys, planning, arrangements, adjustments, negotiations, and debates will be assigned as a mission to all participants, who will be required to prepare and actively participate outside of class time. In the fall semester, after the camp is over, students will study in depth the issues that they have encountered at the camp.

In addition, participants are also welcome to propose plans and textbooks. This is because the seminar will be created by you, the students.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. テキスト輪読 1
3. テキスト輪読 2
4. テキスト輪読 3
5. テキスト輪読 4
6. テキスト輪読 5
7. テキスト輪読 6
8. ゲスト研究会
9. テキスト輪読 7
10. テキスト輪読 8
11. テキスト輪読 9
12. テキスト輪読 10
13. テキスト輪読 11
14. 合宿準備会
15. テキスト輪読 12
16. テキスト輪読 13
17. テキスト輪読 14
18. テキスト輪読 15
19. テキスト輪読 16
20. テキスト輪読 17
21. ゲスト研究会
22. テキスト輪読 18
23. テキスト輪読 19
24. テキスト輪読 20
25. テキスト輪読 21
26. テキスト輪読 22
27. ゼミ論報告会
28. ゼミ論報告会

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献の輪読では、報告者が報告を準備する他、毎回コーディネーターが議論を整理する。報告者は他の文献を参照してテキストを補いつつ、テキストの要旨・論点を整理する。また、報告者とコーディネーターはゼミ当日までにサブゼミを行い、疑問を事前にできるだけ解消すると共に、当日の議論の構成を準備する。それ以外の参加者は、毎回授業日の前々日零時まで(授業は木曜なので、火曜日の終わる夜12時まで)に該当する論文を読み、コメントを Blackboard の掲示板に書き込む。コーディネーターはこれを編集し、当日の議論のために印刷して配布し、当日の議論をコーディネートする。研究会や外交講座、ゼミ論中間報告会なども、事前に資料を読み、事前に提出したコメントを踏まえて、議論を行う。

当日は全員が積極的に議論に参加できるよう、体調を整えて参加すること。
原則として、合宿への参加を必須とする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告・コメントなどの内容(50%)/議論やゼミ活動に対する積極的参加(50%)

病気・就職活動などの特別な事由を除き、欠席は認めない。欠席の場合も、できるだけ早く連絡し許可を得ること。2回連続無断欠席、通算3回欠席の場合には、原則として成績評価の対象としない。

テキスト (Textbooks)

1. 坂上康俊、2015、『宮崎県の歴史』、山川出版社 (ISBN:978-4-634-32451-0)

2. 広井良典、2019、『人口減少社会のデザイン』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-39647-6)
3. 石井幸孝、2018、『人口減少と鉄道』、朝日新聞出版 (ISBN:978-4-02-273760-1)
4. 佐藤嘉彦、2022、『鉄道会社サバイバル』、日経 BP (ISBN:978-4-296-20141-9)
5. 宮崎雅人、2021、『地域衰退』、岩波書店 (ISBN:978-4-00-431864-4)

当初、とりあえず上記のうち上記 5 冊をテキストとしておくが、あくまでもテキスト候補である。また、このテーマは現在進行形なので、新刊も続々出て来る。受講者の興味や状況の変化などにあわせて、下記の参考文献を含む候補から読むべき本を考える。

参考文献 (Readings)

1. 諸富徹、2018、『人口減少時代の都市』、中央公論新社 (ISBN:978-4-12-102473-2)
2. 木下斉、2021、『まちづくり幻想』、SB クリエイティブ (ISBN:978-4-815-60912-2)
3. 山崎史郎、2021、『人口戦略法案』、日経 BP (ISBN:978-4-532-17710-2)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法> レポート

採用人数: 15 名前後

配当年次: 2~4 年次

選考方法: レポート

①題目: 本演習志望の理由+私の考える「人口減少社会」の問題点と解決策+私がゼミで貢献できること

②字数: 2000 字以上

演習論文: 実施する。

一年間の総仕上げとして演習論文を完成し提出することを目標とする。また演習論文は貴重な 2 単位となる。しかし、やむを得ない事情がある場合には、相談の上、12 月の履修中止期間に演習論文の履修中止をすることもできる。また、その後であっても、GPA で多少不利にはなるが、演習論文を提出しないという選択をすることもできる。

参加者は、ゼミ合宿、懇親会などゼミ関係の行事において、未成年飲酒・アルハラ・迷惑行為は絶対に許されないことを銘記すること。授業や行事、論文、メールなどにおけるマナーを、次第に身につけることも必要である。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX645／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	刑事訴訟法の基本問題		
担当者名 (Instructor)	川島 享祐(KAWASHIMA KYOSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

刑事訴訟法の理解を深めるとともに、資料を集めてその内容を正確に理解し、自分の意見を明確に伝え、建設的な議論をする能力を身につける。

The purpose of this class is to deepen students' understanding of the law of criminal procedure and to acquire the skills for gathering materials, understanding their contents accurately, communicating their own opinions clearly, and engaging in constructive discussions.

授業の内容 (Course Contents)

この演習では、刑事訴訟法に関する重要な理論的問題について検討します。各回の報告者は、担当するテーマについて調査し、調査結果をまとめたレジュメを作成します。報告後には、報告内容について、履修者全員で議論します。

In this class, we will examine important theoretical issues related to the law of criminal procedure. Reporters are required to research their assigned theme and prepare a resume summarizing the results of their research. After the presentation, all students discuss the contents of the report.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション・テーマ設定
2. 報告準備
3. テーマ①の報告・議論
4. テーマ②の報告・議論
5. テーマ③の報告・議論
6. テーマ④の報告・議論
7. テーマ⑤の報告・議論
8. 予備日(追加報告など)
9. テーマ⑥の報告・議論
10. テーマ⑦の報告・議論
11. テーマ⑧の報告・議論
12. テーマ⑨の報告・議論
13. テーマ⑩の報告・議論
14. 総括・追加報告など

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告者は、自分が担当するテーマについて、図書館で文献を収集し調査することになります。また、教員が主要検討文献(論文や判例など)を指定することもあります。いずれにしても、報告に臨むに当たっては、授業時間外のある程度の時間を調査・検討に割かなければならなくなることをよく理解しておいてください。

報告者以外の履修者も、授業での議論に積極的に参加できるよう、参考文献やレジュメに事前に目を通しておく必要があります。「刑事訴訟法」の授業で扱う事項についての理解が必要になりますので、原則として、同授業を履修済みであることが求められます。また、関連する事項について、自ら意欲をもって勉強を進める必要があります。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容(40%)/議論への積極的な参加(出席状況を含む)(60%)

無断欠席又は正当な理由のない欠席が3回以上となった場合には、成績評価の対象としません。

テキスト(Textbooks)

オリエンテーションの際に報告するテーマを選んでもらいますが、その際に主要検討文献などを紹介します。

参考文献(Readings)

オリエンテーションの際に、参考文献を紹介します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:15名程度

配当年次:3・4年次 ※原則として、既に「刑事訴訟法」を履修し単位を取得済みであること

選考方法:レポート

①題目:刑事訴訟法に興味を持った理由(具体的なトピックや論点、判例など)と、本演習への参加を志望する理由を、具体的に述べてください。「刑事訴訟法」の単位を取得していない場合には、これまでに刑事訴訟法の学習をどのように進めてきたかや、本演習の内外でどのように学習を進めていきたいかについて記述してください。

②字数:1000字以上

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX646／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	EU とグローバルガバナンス: コロナ後・ウクライナ紛争後の世界を構想する		
担当者名 (Instructor)	明田 ゆかり(AKEDA YUKARI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

気候変動、パンデミック、平和構築といったグローバルな課題に対する欧州連合 (EU) の取り組みをテーマとして、情報収集と分析、討論と対話、プレゼンテーション、レポート作成から成るアカデミックリサーチの技能を向上させるとともに、今日的課題に対する問題意識と批判的視点を育成する。

The objectives of this seminar are for the participants to improve their abilities on academic research, including presentation and communication, and to rise their awareness with critical views on global issues through studying the EU's role in global governance.

授業の内容 (Course Contents)

EU はヨーロッパの価値に基づき、気候変動、デジタル経済、社会的公正、多国間主義といったグローバルな課題分野のガバナンス形成を目指してきた。だがコロナとウクライナ紛争という二つの危機により、この EU のグローバル戦略のレジリエンスが今試されている。この演習では EU についての基本知識を習得した後、各自が関心を持つ分野において、ヨーロッパの描くポストコロナ・ポストウクライナの世界はどのようなものか、何故そのような未来像を追求するのかを解明し、その実効性と限界、日本への影響を考察する。具体的には、関連文献講読と討論、グループ及び個人による調査とプレゼンテーション、レポートの執筆を行う。さらに、ゲストスピーカー (EU の外交官等) や他学部・他大学の学生との交流、ヨーロッパ関連のイベントへの参加を通じて、多様な見解・価値観・文化に触れる機会も提供していく。

The EU has been actively engaging with shaping governance on global issues such as climate change, digital economy, social justice, and multilateralism, based on European values. However, the twin-crisis of Covid-19 and Ukraine now challenges the resilience of such strategy. The contents of the seminar are, first, sharing the basic information on EU's relevant policies, then, investigating particular issue areas by individual students based on their own interests, with the view to the future world the EU expects. Practical parts are: literature and material reading; investigation, presentation and discussion (by groups and individuals); writing reports; interacting with guest speakers and students of other departments/universities for broadening viewpoint.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス・自己紹介 (含む関心テーマ)・EU 最新ニュースを用いたキックオフ討論
2. ヨーロッパを知らう！バーチャルツアー個人提案とグループ編成
3. EU 最新ニュースを用いた討論 (2)・バーチャルツアー・グループワーク
4. ヨーロッパを知らう！バーチャルツアー・プレゼン大会と講評
5. ヨーロッパ・デイ関連イベント参加 (フィルムフェス/コンサート等) (オンラインまたは対面)
6. 文献 (テキスト: EU 政治論) 講読と討論 1 (EU の歴史)
7. 文献 (テキスト) 講読と討論 2 (EU の制度)
8. 文献 (テキスト) 講読と討論 3 (EU の政策)
9. 文献 (テキスト) 講読と討論 4 (世界の中の EU / 日 EU 関係)
10. ゲストスピーカー (EU の外交官・専門家等) との意見交換
11. EU の政策文書を英語で読んでみよう (EU Strategic Compass, etc.)
12. EU の政策文書講読と討論 (続き)
13. グループワーク (EU の模擬意思決定等)
14. 前期の総括・総合討論
15. 他学部/大学との合同セミナー準備 (※ 日程は流動的) または骨太の古典講読
16. 合同セミナー成果のレビュー・フォローアップ (※ 日程は流動的) または骨太の古典講読
17. グループ研究: 各自の関心テーマのプレゼンとグループ編成
18. グループワーク: プレゼン準備
19. グループ研究プレゼン大会と講評
20. EU 代表部訪問 (EU 外交官との意見交換) (予定)
21. アカデミックレポート作成ガイダンス

22. 個人研究テーマについての第1回発表と意見交換
23. 個人研究テーマについての第1回発表と意見交換2
24. ゲストスピーカー(NGO/外務省関係)との意見交換
25. 個人研究プレゼンテーション1
26. 個人研究プレゼンテーション2
27. レポート集編集会議
28. 全体総括:2023年のEUと世界

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回のテーマに関し、情報を収集し自らの意見や疑問点をまとめておくこと。

EU やヨーロッパについての最新の動向についてアンテナを張っておくこと。

EU のウェブサイトやメディア報道等を通じて、英語に触れておくこと。(リサーチは日本語の資料が中心でも構わないが、必要に応じて英語資料も活用できればなお良い。)

グループワークは、メンバーのスケジュールを調整して時間外にも協力して行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席態度(20%)/プレゼンテーション(30%)/討論への参加(20%)/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 中村民雄、2019、『EU とは何かー国家ではない未来の形』、信山社 (ISBN:978-4-7972-3627-9)
2. 井上淳、2020、『はじめて学ぶ EUー歴史・制度・政策』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-04060-2)
3. 池本太輔 他、2020、『EU 政治論ー国境を超えた統治のゆくえ』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-15073-7)

駐日欧州連合代表部公式ウェブマガジン『EUMAG』 <http://eumag.jp>

受講生の関心に応じて、テキストを追加する予定である。

参考文献(Readings)

1. 羽場久美子編著、2017、『EUを知るための63章』、明石書店 (ISBN:978-4-7503-3900-9)
2. 安江則子編著、2013、『EUとグローバル・ガバナンス』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03536-3)
3. 臼井陽一郎編著、2020、『変わりゆくEUー永遠平和のプロジェクトの行方』、明石書店 (ISBN:978-4-7503-5503-5)

その他の主要参考文献・サイトは演習中に提示する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:約20名

配当年次:2~4年次

選考方法:レポート

①題目:本演習の志望動機:なぜEU(またはヨーロッパ)について学ぶのか

②字数:1000字前後

演習論文:実施しない

<注意事項>

夏合宿、他大学との合同セミナー等(時間外・任意参加)を開催予定。参加は任意であるが、日程が確定すれば演習時間にその準備とフォローアップを行う可能性がある。また2023年のヨーロッパ関係のイベントの日程も現時点では未確定であるため、授業計画が前後にずれることも想定される。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX647／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アメリカの対外関係		
担当者名 (Instructor)	佐々木 卓也(SASAKI TAKUYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

アメリカ政治・外交に関する基本的知識の習得、およびプレゼンテーションと討論の能力の向上

The objectives of this seminar are to acquire a basic knowledge about American politics and diplomacy, and to improve the students' presentation and debating skills

授業の内容 (Course Contents)

アメリカ政治・外交と国際関係について学ぶ。ゼミではアメリカの対外関係、とくに日米中関係、アジア・太平洋国際関係、日米関係、さらにはバイデン政権の内政・外交に関するテキストを輪読し、毎週二名程度の報告者のレジュメをもとに出席者の議論によって進める。毎回相当の読書量を課し、ゼミへの積極的参加を求める。また学習院大庄司ゼミとの合同研究会、同志社大大矢根ゼミ・青山学院大和田ゼミとの交流会を予定している。

ゼミでの議論は、自己を表現し、他者と討論する能力を養い、向上させる良い機会になるであろう。なお英語文献も使用する予定である。今年度は秋学期に開講する。

In this seminar, students will study American politics, diplomacy, and international relations. The seminar will have students read texts about American foreign relations including Japan-US-China relations, Asian-Pacific international relations, and Japan-US relations, as well as the Biden administration's policies at home and abroad. The attendees will engage in a discussion based on summaries provided by pre assigned students. Each session will assign a considerable amount of reading, so this seminar requires an active level of participation. The joint workshop with Prof. Shoji's seminar of Gakushuin University, and the tripartite workshop with Prof. Oyane's seminar of Doshisha Univ. and Prof. Wada's seminar of Aoyama Gakuin Univ. are scheduled to be held.

The seminar discussions will likely prove to be a good opportunity for students to express themselves, cultivate and improve the ability to debate with others. Furthermore, please note that the seminar is also scheduled to use English language literature.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. アメリカ外交の基本テキストの輪読1
3. アメリカ外交の基本テキストの輪読2
4. アメリカ外交の基本テキストの輪読3
5. アメリカ外交の基本テキストの輪読4
6. 日米中関係のテキストの輪読1
7. 日米中関係のテキストの輪読2
8. 日米中関係のテキストの輪読3
9. 日米中関係のテキストの輪読4
10. 国際関係史の基本テキストの輪読1
11. 国際関係史の基本テキストの輪読2
12. 国際関係史の基本テキストの輪読3
13. 国際関係史の基本テキストの輪読4
14. まとめ・総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

レジュメ、資料は事前に Canvas LMS にアップするので、十分に準備して演習に臨むこと。なお本演習の履修にあたっては、アメリカ政治論(今年度は春学期に開講)を履修済みであることが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席態度(30%)/クラスの議論への参加(40%)/レジュメ報告(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐々木卓也、2017、『戦後アメリカ外交史』、有斐閣
 2. 簗原俊洋、2016、『アメリカの排日運動と日米関係』、朝日新聞出版
 3. 古矢旬、2020、『グローバル時代のアメリカ』、岩波新書
 4. 渡辺靖、2022、『アメリカとは何か』、岩波新書
 5. 渡邊啓貴、2018、『アメリカとヨーロッパ』、中公新書
- 第一回授業時に詳しいシラバスを配布する。使用テキストについては、適宜出席者と相談する。

参考文献(Readings)

1. 滝田賢治、2022、『国際政治史講義』、有信堂
2. 佐々木卓也、2011、『冷戦』、有斐閣
3. 久保文明ほか、2017、『アメリカ政治 第三版』、有斐閣
4. 青野利彦・倉科一希・宮田伊知郎編、2020、『現代アメリカ政治外交史』、ミネルヴァ書房
5. G・ケナン、2000、『アメリカ外交 50 年』、岩波現代文庫
6. 石井修、2000、『国際政治史としての二〇世紀』、有信堂
7. 岡山裕、2020、『アメリカの政党政治』、中公新書

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:約 20 名

配当年次:2 年次以上

選考方法:レポート

①題目:演習志望の理由とアメリカ、国際関係に対する関心

②字数:2000 字以上

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX648／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	対立を超える道？－国際政治学		
担当者名 (Instructor)	玉置 敦彦(TAMAKI NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

米中対立が激しさを増すなか、世界が新たな「冷戦」に突入するのではないかとの言説が広がっている。現代の世界を民主主義と権威主義の対立と捉える論者も少なくない。また軍事や外交のみならず経済にも安全保障上の対立が波及し、政治体制や価値の違いも影響を及ぼしはじめている。では日本はどうすればよいのか？本演習では、歴史と理論に立ち返り、現在の対立を超える道があるのか否か、考えてみたい。

This course explores possible policy choices for Japan in the era of great power competition. The contemporary United States and China rivalry is sometimes described as the “New Cold War.” Some analysts, and even the Biden administration, described it as the clash between democracies and autocracies. What can Japan do in these severe international circumstances? By investigating contemporary analyses and historical lessons of the U.S.–Russian Cold War, students can acquire some clues to understand current and future international relations.

授業の内容 (Course Contents)

春学期では、現在の米中対立について、書籍及び論文を輪読しながら体系的に理解する。これをふまえて秋学期では、米ソ冷戦期に日本の立場から米ソ冷戦の克服を試みた思想的潮流についての諸論文を検討したうえで、米中対立について現在提起されている多様な議論を批判的に検討し、日本にはどのような選択肢があるのか、考えてみたい。

* 履修者数に応じて演習のスケジュールは柔軟に運用し、場合によっては一部オンラインも用いることを考慮する。

* 研究論文の執筆を望む履修者には個別に対応するので、早めに申し出ること(なお、研究論文は成績評価の対象とはならないので注意すること)。

The spring semester focuses on the current U.S.–China competition by reading recent think-tank analyses. In the autumn semester, students must read the articles written in early Cold War Japan, which sought policy alternatives other than strengthening its alliance with the United States.

* The schedules will be revised, and some classes will be held online.

* I welcome students who wish to write a research paper but note that they are not graded.

授業計画 (Course Schedule)

1. はじめに
2. 国際政治学の基礎①
3. 国際政治学の基礎②
4. 国際政治学の基礎③
5. 国際政治学の基礎④
6. デンジャー・ゾーン イン트로 & 第一章
7. デンジャー・ゾーン 第二章
8. デンジャー・ゾーン 第三章
9. デンジャー・ゾーン 第四章
10. デンジャー・ゾーン 第五章
11. デンジャー・ゾーン 第六章
12. デンジャー・ゾーン 第七章
13. デンジャー・ゾーン 第八章
14. おわりに
15. はじめに
16. 冷戦史学の基礎

17. 米ソ冷戦の起源
18. 冷戦期の日本
19. 日本の国際政治思想
20. 日本の思想的挑戦①
21. 日本の思想的挑戦②
22. 日本の思想的挑戦③
23. 日本の思想的挑戦④
24. 米中対立を巡る論争①
25. 米中対立を巡る論争②
26. 米中対立を巡る論争③
27. 米中対立を巡る論争④
28. おわりに

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと。また関連すると思われる文献を自ら調査することが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告(70%)/討論(30%)

報告・討論・レジュメを評価する。出席しなければ報告・討論は当然低評価となる。

テキスト (Textbooks)

1. ハル・ブランズ 著、マイケル・ベックリー著、奥山真司翻訳、2023、『デンジャー・ゾーンー迫る中国との衝突』、飛鳥新社 (ISBN:978-4864109291)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 5~15 名程度

配当年次: 2~4 年次

選考方法: レポート

①題目: 米中対立において、日本にはどのような選択肢があるか。複数のシナリオの長短を比較して論じなさい。

②字数: A4 で 1 頁~2 頁程度(字数制限は設けないので、長くなった場合はそのまま提出してよい)

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX649／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	アジアの民主主義		
担当者名 (Instructor)	倉田 徹(KURATA TORU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

このゼミの目標は、アジア各地の民主主義の態様を知り、その共通点や相違点を理解することと、それによって民主主義の意味や価値について自身の考えを深めることである。

The goal of this seminar is to get to know the democracies of various parts of Asia, to understand their similarities and differences, and to deepen their own thoughts about the meaning and value of democracy.

授業の内容 (Course Contents)

アジアでは近年、韓国や台湾で政権交代や大規模な市民運動を原動力とする政策変更が起きるなど、民主主義の活力が示されています。一方、フィリピンやインドでは指導者の権威主義化が指摘され、香港やミャンマーでは民主化運動に対する大規模な弾圧が発生しました。中国や北朝鮮の独裁体制は民主化の兆しを見せません。アジアで民主主義が直面している問題は多種多様です。この演習では、アジアの民主主義にかかわる問題を幅広く考察し、深く理解することで、アジア政治の将来を展望します。ゼミ全体でアジアの民主主義をめぐる諸問題についての理解を共有した上で、グループに分かれて事例研究を行います。希望者には演習論文を執筆してもらい、その内容についてもゼミで議論して行きます。

なお、本ゼミでは時間を延長して開講する場合がありますので、可能な限り、6限の時間も他の授業や私用を入れないこと、グループ研究を重視するため、受講者相互間の連絡や協力などに、課外の時間にも積極的に対応すること、また、他大学との合同ゼミを計画しているので、これらの正規の開講時間以外の各種行事にも、労を惜しまず積極的に参加することを求めます。頻繁に報告を行うことを求められますので、準備に相当な時間と労力を割く必要があることも理解した上で、参加して下さい。

In recent years, the power of democracy has been demonstrated in Asia, with changes in government and policy changes driven by large-scale citizen movements in South Korea and Taiwan. On the other hand, in the Philippines and India, it has been pointed out that the leaders have become authoritarian, and in Hong Kong and Myanmar, large-scale suppression of pro-democracy movements has occurred. The dictatorships of China and North Korea show no signs of democratization. The challenges facing democracy in Asia are manifold. In this seminar, we will look into the future of Asian politics by considering a wide range of issues related to democracy in Asia and gaining a deep understanding of them.

After sharing an understanding of various issues surrounding democracy in Asia in the seminar as a whole, students will be divided into groups to conduct case studies.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス・グループ分け
2. 共通文献輪読①
3. 共通文献輪読②
4. 共通文献輪読③
5. 共通文献輪読④
6. 共通文献輪読⑤
7. 事例研究とグループ発表①
8. 事例研究とグループ発表②
9. 事例研究とグループ発表③
10. 事例研究とグループ発表④
11. 事例研究とグループ発表⑤
12. 事例研究とグループ発表⑥
13. 事例研究とグループ発表⑦
14. 演習論文中間報告会
15. 事例研究とグループ発表⑧
16. 事例研究とグループ発表⑨
17. 事例研究とグループ発表⑩
18. 事例研究とグループ発表⑪
19. 事例研究とグループ発表⑫

20. 事例研究とグループ発表⑬
21. 事例研究とグループ発表⑭
22. 事例研究とグループ発表⑮
23. 事例研究とグループ発表⑯
24. 事例研究とグループ発表⑰
25. 事例研究とグループ発表⑱
26. 事例研究とグループ発表⑲
27. 事例研究とグループ発表⑳
28. 演習論文最終報告会

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

常にアジアに関する報道をチェックしておくこと。また、予告された教材の熟読や、それに関連する課題などの予習が求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当部分の報告(50%)/出席状況と議論への参加度(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 山崎望、2022、『民主主義に未来はあるのか?』、法政大学出版局 (ISBN:9784588603655)
2. 池田謙一編著、2021、『日本とアジアの民主主義を測る』、勁草書房 (ISBN:9784326251551)
3. 日下部尚徳ほか編著、2022、『アジアからみるコロナと世界』、毎日新聞出版 (ISBN:9784620550039)
4. 川島真・池内恵編、2021、『新興国から見るアフターコロナの時代』、東京大学出版会 (ISBN:9784130333023)

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 20 名

配当年次: 2-4 年次

選考方法: レポート

①題目: あなたはアジアの政治文化に民主主義は適合しているか、具体的な事例を説明しながら論じなさい。

②字数: 2000 字程度

演習論文: 実施する

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX650／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	～ヘーゲル『精神現象学』を読む～		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬 佳也(ICHINOSE YOSHIYA)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

本演習においては、ヘーゲルの『精神現象学』について学んでいく。

In this seminar, students will read some books concerning *Phänomenologie des Geistes*, written by G.W.F. Hegel. .

授業の内容 (Course Contents)

この演習では、ヘーゲルの『精神現象学』を読み、個人と他者の関係に理解を深めていく。

本授業は「演習」形式で行う。毎回、報告者が担当箇所を要約した発表を行い、コメンテーターが論点と問題点を提起する。受講生には議論や発言に積極的に参加することを求める。

In this seminar, students will read some books concerning *Phänomenologie des Geistes*, written by G.W.F. Hegel and deepen their understanding of relationship between individuals and others.

This lecture have a style of "seminar". Students must have some presentations and comments concerning pages of the book that they are specified. Students need to speak in this seminar, positively.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. まえがき＋緒論
3. 第1章 意識：知覚、あるいは物と錯覚
4. 第2章 自己意識：自分自身だという確信の真理
5. 第3章 理性：理性の確信と真理
6. 第4章 精神：A 真実な精神 人倫＋B 自分から疎遠になった精神 教養
7. 第4章 精神：C 自分自身を確信している精神 道徳性
8. 第5章 宗教＋第6章 絶対知
9. 前期(前半)のまとめ
10. まえがき
11. はじめに＋感覚的確信——「目の前のこれ」と「思い込み」
12. 知覚：物と錯覚＋力と科学的思考——現象界と超感覚的世界
13. 自己確信の真理(A 自己意識の自立性と非自立性——支配と隷属)＋B 自己意識の自由——ストア主義、懐疑主義、不幸な意識
14. 前期(後半)のまとめ
15. 後期ガイダンス
16. 理性の確信と真理(観察する理性：a 自然の観察)＋自己意識と身体との関係
17. 理性的な自己意識の自己実現
18. 絶対的な現実性を獲得した個人
19. 精神：真の精神(共同体精神)
20. 精神：疎外された精神——教養
21. 啓蒙思想
22. 絶対的自由と死の恐怖
23. 良心——美しい魂、悪、悪のゆるし
24. 精神についてのまとめ
25. 宗教：自然宗教
26. 宗教：啓示宗教
27. 絶対知
28. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回、必ずテキストを読んできて、コメントペーパーを提出してください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加度(35%)/プレゼンテーション(35%)/コメントペーパー(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 竹田青嗣、西研、2010、『超解説 はじめてのヘーゲル『精神現象学』』、講談社現代新書 (ISBN:978-4-06-288050-3)
2. ヘーゲル、1998、『精神現象学』、作品社 (ISBN:978-4-87893-294-6)

参考文献 (Readings)

1. ヘーゲル、1994、『歴史哲学講義(上)』、岩波文庫 (ISBN:978-4003362990)
2. ヘーゲル、1994、『歴史哲学講義(下)』、岩波文庫 (ISBN:978-4003363003)
3. 西研、1995、『ヘーゲル 大人のなり方』、NHK 出版 (ISBN:978-4140017258)
4. 仲正昌樹、2018、『ヘーゲルを越えるヘーゲル』、講談社 (ISBN:978-4065130759)
5. 権左武志、2013、『ヘーゲルとその時代』、岩波新書 (ISBN:978-4004314547)
6. カール・マルクス、1974、『ユダヤ人問題によせて/ヘーゲル法哲学批判序説』、岩波文庫 (ISBN:978-4003412411)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:20

配当年次:2, 3, 4

選考方法:レポート

①題目:本演習を履修する理由とテーマへの関心について記すこと

②字数:1000 字以上

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX651／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ヨーロッパのポピュリズム		
担当者名 (Instructor)	作内 由子(SAKUUCHI YUKO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

現代政治におけるポピュリズムについて文献を読み、理解する。自分の選んだヨーロッパの一国(専攻国)について、その比較政治的な位置づけを理解し、そのうえで自分でテーマを選び、問いを立て、文献を探し、文献を読み、議論を構成することを目標とする。

This seminar aims, first, to cultivate the participant's abilities to read and understand the literature on populism in contemporary politics, second, to understand the comparative political position of one European country of your choice (your major country), and then to choose your theme, formulate your research questions, search the literature, read the literature and structure your argument.

授業の内容 (Course Contents)

1. 内容の側面

① 現代政治におけるポピュリズムについて理解する

ポピュリズムというと、扇動的な政治家を問題視したり、有権者の「民度」を非難したりという方向に向きがちです。しかしそれでは問題を実際に直視していることにはなりません。ここでは、ポピュリズムを制度的構造的側面から理解することを目指します。

② 「専攻国」を持つ

このゼミでは、各ゼミ生に自分の専門とする国を一つ選んで、その国の政治について掘り下げていただきたいと思います。

2. 技術的な側面

① 論理的な文章が読めるようになる

論理的な文章が読めるということは、文章を構造的に理解することです。単に知識を身に着けるということだけでなく、相手が主張していることを正確に把握できるようになることを目指します。

② 適切な質問ができるようになる

適切な質問は、相手とのコミュニケーションです。つまり、相手の主張を理解し、そのうえでさらに自分の疑問を構築して投げ返す必要があります。ゼミの中の議論を通じてこのようなスキルを身に付けていただきたいと思います。

③ 論理的な文章が書けるようになる

知識や情報の羅列ではなく、主張が明確で、根拠に基づいた論理一貫性のある文章を書く訓練をします。

1. content aspects

(i) Understanding populism in contemporary politics

Populism tends to be seen as a problem for agitated politicians or as an indictment of the 'populace' of the electorate. However, this does not mean that we are facing up to the problem. Here, we aim to understand populism from an institutional and structural aspect.

(ii) Having a 'major country'.

In this seminar, each seminar student is asked to choose one country as his or her specialization and delve into the politics of that country.

2. technical aspects.

(i) to read logical texts.

Being able to read logical texts means understanding texts structurally. It is not just about acquiring knowledge, but also about being able to understand exactly what the other person is arguing.

(ii) to ask appropriate questions.

Appropriate questioning is communication with the other person. In other words, you need to understand what the other person is arguing and then construct your questions further and throw them back at them. We hope that you will acquire these skills through discussions in the seminar.

(iii) to write logical sentences.

You will be trained to write sentences that are not just a list of knowledge and information, but that have a clear argument and are logically coherent based on evidence.

授業計画 (Course Schedule)

1. 演習ガイダンスと各自の問題関心の紹介
2. 文献①を読む
3. 文献①を分析する
4. オンデマンド: 報告レジュメの作り方講座・文献の探し方講座
5. 専攻国の政治システムについてグループの中で報告する①(各自 20 分程度)
6. 文献②を読む
7. テーマを決める
8. 文献③④⑤いずれかをグループの中で報告する(各自 20 分程度)
9. 文献を探す
10. 文献⑥を読む
11. 専攻国の政治システムについてグループの中で報告する②(各自 20 分程度)
12. 文献比較①
13. 問いを立てる
14. 問いをブラッシュアップする
15. 自分で選んだ文献をグループの中で報告する(各自 20 分程度)
16. 「教科書」に自分のレポートを位置づける
17. 全体に対して自分の専攻国の紹介①
18. 全体に対して自分の専攻国の紹介②
19. 目次を作る
20. オンデマンド: レポートの書き方
21. 文献⑥を分析する
22. 文献比較②
23. 文献比較③
24. 進捗報告
25. レポートの内容をグループの中で報告する①
26. レポートの内容をグループの中で報告する②
27. 仮提出: ピアレビュー
28. 本提出

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

授業中に与えられる課題を実施すること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 授業期間中の課題 / 報告(50%) / 授業中の発言(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 水島治郎編、2020、『ポピュリズムという挑戦』、岩波書店 (ISBN: 978-4000613934)

参考文献 (Readings)

1. 伊藤武・網谷龍介編、2021、『ヨーロッパ・デモクラシーの論点』、ナカニシヤ出版

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 15 名程度

配当年次: 2-4 年

選考方法: レポートによる

① 題目: 専攻国とその国を選んだ理由・ゼミに入ってできるようになりたいこと

② 字数: それぞれ 300 字以上(一つのファイルに項目を分けてお書きください)

*「ゼミに入ってできるようになりたいこと」は教員がゼミの中で機会を提供する際に参考にするものなので、志の高さよりもある程度の具体性があることが評価される。

* 字数は長くても構わないが、長いことそのものは評価されない。

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX652／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	公園のにぎわいはいかにして創出されたか？		
担当者名 (Instructor)	原田 久(HARADA HISASHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

みなさんは南池袋公園を訪れたことがありますか？ 近年、公民連携による都市公園づくりが行われています。この演習の目標は、都市公園政策の変遷を辿り、公民連携による都市公園づくりが進展した要因を明らかにすることです。

Have you ever visited Minami Ikebukuro Park? In recent years, many urban parks were constructed through public-private partnerships. The goal of this seminar is to trace the evolution of urban park policies and identify the causes of the development of urban parks through public-private partnerships.

授業の内容(Course Contents)

春学期は都市公園管理の入門書を輪読します。秋学期には、班ごとに官民連携による都市公園づくりに取り組む地方自治体を調査します。

In spring semester, students will read introductory books on urban park management. In autumn semester, they will research local governments that constructed urban parks through public-private partnerships.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション(自己紹介、班分け、ゴールの確認)
2. 塚田洋「都市公園制度の変遷と公民連携の課題」(レファレンス 832 号、2020 年)の輪読
3. 同上
4. 平塚勇司『都市公園のトリセツ』(学芸出版社、2020 年)第 1～第 2 話の輪読
5. 同上・第 3～第 4 話の輪読
6. 同上・第 5～第 6 話の輪読
7. 同上・第 7～第 8 話の輪読
8. 同上・第 9～第 10 話の輪読
9. 同上・第 11～第 12 話の輪読
10. 同上・第 13～第 14 話の輪読
11. 同上・第 15～第 16 話の輪読
12. 同上・第 17～第 18 話の輪読
13. Park-PFI の全国的動向の調査(A 班～D 班)
14. 先進自治体へのヒアリング項目の調整
15. 調査自治体の選定(A 班、B 班)
16. 調査自治体の選定(C 班、D 班)
17. 調査自治体のヒアリング項目調整(A 班、B 班)
18. 調査自治体のヒアリング項目調整(C 班、D 班)
19. ヒアリング結果の報告(A 班)
20. ヒアリング結果の報告(B 班)
21. ヒアリング結果の報告(C 班)
22. ヒアリング結果の報告(D 班)
23. ゼミ論文の発表(A 班)
24. ゼミ論文の発表(B 班)
25. ゼミ論文の発表(C 班)
26. ゼミ論文の発表(D 班)
27. ゼミ論文のリライト発表(A 班、B 班)
28. ゼミ論文のリライト発表(C 班、D 班)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

普段から公民連携に関する新聞記事に目を通すこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

出席及び討論(50%)/ゼミ論文(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 平塚勇司、2020、『都市公園のトリセツ』、学芸出版社 (ISBN:4761527412)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 12~16 名

配当年次: 2~4 年

選考方法: レポート

① 題目: 官民連携による都市公園づくりについて論じなさい。

② 字数: 400 字程度

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX653／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	刑法総論の重要問題についての検討		
担当者名 (Instructor)	永井 紹裕(NAGAI AKIHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

刑法総論で取り扱われている重要なテーマについての理解を深めるとともに、判例や基礎的な学術論文を理解できる能力を養う

Deepen your understanding of the important themes dealt with in general criminal law, and cultivate the ability to understand judicial precedents and basic academic articles.

授業の内容 (Course Contents)

刑法総論は極めて抽象度が高く、苦手とする学生も多いと思われる。本演習では、総論において重要だと考えられる問題を取り上げ、判例や基礎的な学術論文の検討を通じて、刑法総論についての理解を深めることを目的とする。各テーマの検討の初回は判例について検討し、続いて当該テーマに関する学説上の議論について検討を加える。
刑法は苦手だがなんとなく勉強してみたいという学生も歓迎する。

The general part of criminal law is extremely abstract, therefore, many students may have difficulty with it. This seminar aims to deepen students' understanding of general theory of criminal law through the examination of precedents and basic academic articles, focusing on issues that are considered particularly important in general theory. In the first part of each theme, precedents will be discussed, followed by a discussion of the academic debate on the topic.

I welcome students who are not good at criminal law but want to study it somehow.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション、これまでの学習の復習①
2. これまでの学習の復習②
3. 総論の重要問題の検討① 判例編
4. 総論の重要問題の検討① 学説編
5. 総論の重要問題の検討② 判例編
6. 総論の重要問題の検討② 学説編
7. 総論の重要問題の検討③ 判例編
8. 総論の重要問題の検討③ 学説編
9. 総論の重要問題の検討④ 判例編
10. 総論の重要問題の検討④ 学説編
11. 総論の重要問題の検討⑤ 判例編
12. 総論の重要問題の検討⑤ 学説編
13. これまでのまとめ①
14. これまでのまとめ②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回で扱う文献は必ず熟読した上で演習に臨むこと

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告の内容(60%)/議論への積極的参加(40%)
1回の授業で必ず1回は発言すること

テキスト (Textbooks)

特に指定しない

参考文献 (Readings)

1. 松原芳博編、2022、『続・刑法の判例 総論』、成文堂 (ISBN:9784792353797)

2. 松原芳博編、2022、『続・刑法の判例 各論』、成文堂 (ISBN:9784792353803)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:10 名程度

配当年次:3～4 年

選考方法:レポートによる

①題目:本演習に興味をもった理由

②字数:指定しないが字数も選考の要素にする

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX654／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	立法学演習		
担当者名 (Instructor)	奥津 伸(OKUTSU SHIN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

我が国のいくつかの法律の制定経過とその内容を検討し我が国における立法の実際を理解する。

This course aims to examine the enactment process of several Japanese laws, along with their details, in order to understand the practice of legislation in Japan.

授業の内容 (Course Contents)

我が国においては、社会や経済の変化によって生ずる様々な問題を解決するための政策手段として、毎年、新たな法律が制定され、また、既存の法律の改正が数多く行われている。本演習においては、まず、こうした我が国の立法に関し、法律案の立案及び法律案が国会に提出され成立に至るまでの過程について講師から概説し、その上で、いくつかの具体的な立法の事例を授業で取り上げて、法律の制定経過とその内容を検討する。

Every year, new laws are enacted and many existing laws are amended as policy instruments to resolve various problems occurring due to social or economic changes. First, with respect to legislation in Japan, the course provides a summary lecture about a bill's drafting process and the process through which it is submitted to the National Diet and comes into effect. Thereafter, several specific examples of legislation are provided to help students examine the process of enactment of the laws and their details.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 講義①：法律案が国会に提出されるまで
3. 講義②：法律案の企画立案
4. 講義③：法律案の国会審議
5. 立法の事例(1)についての検討①
6. 立法の事例(1)についての検討②
7. 立法の事例(1)についての検討③
8. 立法の事例(2)についての検討①
9. 立法の事例(2)についての検討②
10. 立法の事例(2)についての検討③
11. 立法の事例(2)についての検討④
12. 立法の事例(3)についての検討①
13. 立法の事例(3)についての検討②
14. 立法の事例(3)についての検討③

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

受講者には少なくとも1回は報告を行ってもらうことを予定しているので、そのための準備が必要となる。また、自分が報告を行う回以外の回についても、事前に指定された資料は読んでおくことが求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加(50%)/報告の内容(50%)

なお、授業を欠席した回数が授業実施回数の1/3を超えた場合には、成績評価の対象としない。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

授業の際に必要な応じ提示する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 10 名程度まで

配当年次: 3～4 年

選考方法: レポート

① 題目: 本演習を受講したい理由

② 字数: 1000 字程度

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX655／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	森と里山の環境政治		
担当者名 (Instructor)	尾内 隆之(ONAI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

環境・人間・社会の多面的な関わりを踏まえて、環境問題をめぐる政治を分析し、これからの方向性を構想する。

The objectives of this seminar are;

- to analyze the politics of environmental issues in view of the multifaceted relationships between the environment, human beings, and society
- to design a future direction on the basis of our analysis.

授業の内容 (Course Contents)

2023 年度の環境政治ゼミは、森と人間の関わりを切り口に、環境政治のさまざまな論点を探究します。

森林保全は現在、環境対策の最重要論点になっています。森林の減少は、言うまでもなく生物多様性の損失であり、気候変動の観点からは CO2 吸収源の減少を意味します。プラスチックの多用から抜け出すためにも、自然素材(その多くは植物由来)の供給源として樹木が欠かせません。

ところが日本では、森があまりに当たり前に、身近に存在するからか、危機感が高まっているように見えません。何もしなくても森は豊かに繁り、恩恵を与えてくれる、そんな感覚があるのかもしれません。世界で通じるようになった「里山」という日本語も、そうした森と人間の共生を讃える言葉ですが、私たちは本当に安心して良いのでしょうか。

このゼミでは、森と人間の間を通じた、自然と人間社会の複雑な結びつきを理解し直します。「政治学のゼミなのに？」と思う人もいるかもしれませんが、森を伐り尽くした国や地域が衰退した歴史を想起すればわかるように、古くから人間社会のあり方は自然環境に影響を及ぼしつつ、逆に自然から影響を受けてきました。最近世界各地で深刻化している山火事も、日本では稀なため文字通り「対岸の火事」に見えますが、自然をコントロールすることの難しさをあらためて突きつけています。

確かに政治自体は人間の営みですが、人間が自然環境の制約の中で生きている以上、政治も例外でないのは当然でしょう。事実、気候変動や生物多様性問題に向き合うと、自然環境と政治との関係は、解き切れないパズルにすら見えてきます。そのことを、「森」という対象を通して考えたいと思います。

さらに私たちは、単に「考える」だけでなく実際に森に入り、触れることができます。物質的存在としての森を体感して学ぶことも、今年度の目標です。このゼミではフィールドワークを中心とする夏合宿を恒例行事としてきたので、ゼミ参加者には、そうした企画にも主体的に取り組むことを期待します。

In the Environmental Politics Seminar in 2023, we will explore the relationship between forests and humans in order to research the issues of environmental politics from various angles.

Forests preservation have become the most important issue for environmental measures. Deforestation is, needless to say, a loss of biodiversity. From the perspective of climate change, that means a reduction in CO2 sinks. Trees are also essential as a source of natural materials, most of them derived from plants, which enable us to get away from the heavy use of plastics.

In Japan, however, people seem not to care for the crisis of forests. Perhaps because forests are so commonplace and so close at hand in Japan, we may think that forests thrive and provide benefits even if we do nothing to nurture them. The Japanese term 'Satoyama', which has now been well known around the world, praises the symbiosis between forests and humans. But can we really rest easy?

By considering the relationship between forests and humans, we will examine the complex links between nature and human society. You may wonder if that's not the subject on political science. However, human society has both influenced the natural environment and been severely affected by nature, as can be seen from the history of the decline of countries and regions that had cut thorough there forests. In recent years, wildfires are causing serious damage in many regions of the world, so that we're reminded of the difficulty of controlling our relationship with nature.

Politics itself is surely a human activity, but as humans live within the constraints of nature, it is no surprise that politics is no exception. In fact, when faced with climate change and biodiversity issues, the relationship between the natural environment and politics even appears to be an insoluble puzzle. We'd like to discuss this agenda with considering and feeling the current situations of 'forests'.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス&アイスブレイク
2. 環境問題を考えるための基礎的考察(ブレインストーミング)
3. 環境問題を考えるための基礎的考察(ブレインストーミング)
4. テキスト 序章
5. テキスト 第1章
6. 寒冷地と気候変動
7. テキスト 第2章
8. 砂漠化と国際協力
9. テキスト 第3章
10. 熱帯雨林と日本社会
11. テキスト 第4章
12. 「里山」の現在
13. テキスト 第5章
14. 春学期のまとめ
15. グループリサーチのテーマ選定
16. グループワーク (1)
17. 追加テキストの輪読 (1)
18. 追加テキストの輪読 (2)
19. COP28 の動向 (1)
20. COP28 の動向 (2)
21. グループワーク (2)
22. COP28 に関するまとめと討論
23. 追加テキストの輪読 (3)
24. 追加テキストの輪読 (4)
25. グループリサーチの中間報告 (1)
26. グループリサーチの中間報告 (2)
27. グループリサーチの成果発表①
28. グループリサーチの成果発表②

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

事前の準備課題を毎回課すので、必ず取り組んだ上で出席すること。また課題以外にも、新聞やテレビ、インターネット等で、環境問題や環境政策の動向について積極的に情報収集しながら、演習に臨むこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当報告の内容(30%)/議論への貢献度(40%)/リサーチの最終発表内容(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 吉川 賢、2022、『森林に何が起きているのか』、中央公論新社 (ISBN:4121027329)
追加のテキストはゼミの進行を踏まえて選定。
また必要に応じ、適宜プリントにて配布する。

参考文献 (Readings)

開講後に随時紹介する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

<HP> 担当教員の情報は <http://researchmap.jp/takaonai/> を参照

<選考方法>

採用人数: 20名まで

配当年次: 2～4年次

選考方法: レポート

① 題目: 自己紹介と志望理由

② 字数: 1,600～2,000字

演習論文: 実施しません

講義科目「環境政治」を履修済みか、秋学期に併行履修することが望ましい(必須ではない)。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX656／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民法ケースディベート		
担当者名 (Instructor)	原田 昌和(HARADA MASAKAZU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

民法に関するディベートを通じて、民法の基礎知識、法的思考能力、プレゼンテーション能力を養う

The objectives of this course are to cultivate the students' knowledge about Civil Law, the ability to think in a legal manner, and the ability to give presentations through debates about Civil Law.

授業の内容 (Course Contents)

大人数講義では、しばしば判例についての説明が行われますが、実際の判例を読めると、講義で聞いたのとはまったく違う事件の背景を知ることがよくあります。このゼミでは、大人数講義では十分に学ぶことのできない実際の事件についてより深く勉強するために、主に百選や判例 30！シリーズに掲載されている判例を取り上げて、原告側対被告側に分かれてディベートを行います。上級生と一緒にチームを組みますので、2 年生からも参加可能です。

進行方法としては、民法に関する知識を段階的に深められるように、事前に予習用レジュメが配布され、教員や先輩による事前学習会を経たうえで、ディベートを行い、翌週に検討会を行って知識を深めます。財産法に関する論点が中心になりますが、履修を通じて、民法の基礎知識のほか、柔軟な思考力、自説を説得的に論証する能力、他人の話を理解して論理的に判断する能力を養うことを目標としています。

ディベート以外にも、ゼミ旅行、弁護士事務所や企業への訪問、他大学との討論会などの課外活動も行っています。演習参加希望者には、任意の面談を実施しますので、メールでアポイントをとって下さい。

1 年を通して、民法の財産法部分を一通り学習します。

Judicial precedents are often explained in lectures with large numbers of students, but in many cases if you read the actual judicial precedent, you will become aware of case backgrounds which are completely different from what was described in the lecture. In order to study actual cases which cannot be sufficiently learned in large-scale lectures on a deeper level, this seminar will primarily cover the judicial precedents listed in the Top One Hundred and 30 Judicial Precedents! series and separate students into the roles of plaintiff and defendant for debate. Teams will be formed together with upper-class students, so students are welcome to participate starting from the second year.

The seminar will be conducted in a manner which will enable students to deepen their knowledge of Civil Law in a phased manner by passing out preparatory summaries in advance, staging study sessions run by the upper-class students beforehand, holding the debates, and holding a review session the following week to deepen the students' knowledge. The focus will be on arguments about Property Law, but in addition to acquiring fundamental knowledge about Civil Law, the objectives over this seminar are to cultivate flexible thinking, the ability to demonstrate theories in a persuasive manner, and the ability to understand another person's remarks and judge them in a logical manner.

In addition to the debates, this seminar will also include extracurricular activities such as seminar trips, visits to law offices and companies, and discussions with other universities. Optional interviews will be held for students who wish to participate in the seminar, so please set up an appointment by email. Throughout the year, students will study the entire property law portion of the Civil Code.

授業計画 (Course Schedule)

1. 春学期オリエンテーション
2. 情報検索講習会
3. 春学期第1回ディベート
4. シンポジウム型討論
5. 春学期第2回ディベート
6. シンポジウム型討論
7. 春学期第3回ディベート
8. シンポジウム型討論
9. 春学期第4回ディベート
10. シンポジウム型討論

11. 春学期第5回ディベート
12. シンポジウム型討論
13. 春学期第6回ディベート
14. シンポジウム型討論
15. 秋学期オリエンテーション
16. 秋学期第1回ディベート
17. シンポジウム型討論
18. 秋学期第2回ディベート
19. シンポジウム型討論
20. 秋学期第3回ディベート
21. シンポジウム型討論
22. 秋学期第4回ディベート
23. シンポジウム型討論
24. 秋学期第5回ディベート
25. シンポジウム型討論
26. 秋学期第6回ディベート
27. シンポジウム型討論
28. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席態度(30%)/担当回の報告内容(35%)/発言・コメントペーパー等平常の授業態度(35%)

テキスト(Textbooks)

1. 秋山靖浩・原田昌和・田高寛貴、2019、『リーガル・リサーチ／レポート(第2版)』、有斐閣 (ISBN:9784641126114)

参考文献(Readings)

1. 潮見佳男他、2018、『民法判例百選Ⅰ(第8版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115378)
2. 潮見佳男他、2018、『民法判例百選Ⅱ(第8版)』、有斐閣 (ISBN:9784641115385)
3. 原田昌和、2017、『民法1総則 判例30!(STARTUP)』、有斐閣 (ISBN:9784641137820)
4. 水津太郎他、2017、『民法2物権 判例30!(STARTUP)』、有斐閣 (ISBN:9784641137851)
5. 田高寛貴他、2017、『民法3債権総論 判例30!(STARTUP!)』、有斐閣 (ISBN:9784641137776)
6. 中原太郎他、2017、『民法4債権各論 判例30!(STARTUP)』、有斐閣 (ISBN:9784641137790)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 20名程度

配当年次: 2～4年次

選考方法: レポート(必須)、および、任意での面談

①題目: i 自己PR(あなたの物事への取り組み姿勢を、部活動やサークル、勉強などに関する具体的なエピソードに関連付けて論じてください)、ii 志望理由(ゼミで身につけたい能力を、希望進路などに関連付けて書いてください)、iii ディベートで取り上げたい判例

②字数: 2000字程度

面談予約: mharada@rikkyo.ac.jp

演習論文: 実施しません

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX657／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	医薬品・医療技術と法 Laws on Drugs and Medical Technologies		
担当者名 (Instructor)	秋元 奈穂子(AKIMOTO NAOKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

医療に関する法という医師・患者関係に関する規律や終末期医療といったテーマに関する法が想起されるが、現代の医療において医療の質及び医療費の額のいずれの点からも大きな重要性を占めるのは実は「医薬品」である。本ゼミでは、医薬品・医療技術にまつわるアメリカ及び日本の規律について理解し、議論することで、医薬品を通して医療に関する法政策を検討することを目的とする。

In modern medicine, drugs (pharmaceuticals) play a significant role both in the quality of medicine and quantity of medical expenditure, although laws on physician-patient relationships or laws on end-of-life seem to represent “medical law.” This seminar aims to analyze legal policies on medicine through the lenses of laws relating to drugs in the U.S. and Japan.

授業の内容(Course Contents)

各回に設定されたテーマ(トピック)につき、アメリカにおける法規律を中心としつつ、日本における法規律を比較として参照しながら現状の規律を確認するとともにあるべき規律を検討し議論する。

学生は各回のテーマに関して配布される資料(判例、教科書抜粋、論文等)を事前に講読したうえでゼミに参加し議論を行う。アメリカに関する文献は英語文献、日本に関する文献は日本語文献である。教員からの説明や学生同士の議論は日本語で行う。

On the topics specified in each class, students will understand the current regulations in the U.S. and Japan and discuss the surrounding problems.

Students are required to read the materials (court cases, excerpts of textbooks, articles) in advance and discuss legal issues in class. Reading materials on American law are in English and those on Japanese law are in Japanese. Lectures and discussions in class will be in Japanese.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション Introduction
2. 「薬(医薬品)」とは何か？食品や化粧品との違い What is Drug?
3. 医薬品に関する規律の概観 Regulation of Drugs -preliminary
4. 臨床試験 Clinical Trials
5. 未承認薬へのアクセス“未承認薬の人道的使用” Access to Unapproved Drugs “Compassionate Use”
6. 公衆衛生上の緊急事態における緊急使用許可 Emergency Use Authorization in Public Health Emergency
7. 副作用被害と補償 Injury Resulting from Side Effects and Compensation (1)
8. 副作用被害と補償 Injury Resulting from Side Effects and Compensation (2)
9. 医師に対する処方箋医薬品のプロモーション Promotion to Physicians (1)
10. 医師に対する処方箋医薬品のプロモーション Promotion to Physicians (2)
11. 医薬品の消費者向け広告 Direct-to-Consumer Advertisement
12. 価格設定と医療保険 Drug Pricing and Health Insurance
13. 特許による保護と貧困国における医薬品へのアクセス Patent Protection and Access to Drugs in Poor Countries
14. まとめ Course Wrap Up

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

指定された文献を事前に読んで演習にのぞむこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

議論への参加(100%)

テキスト(Textbooks)

使用する文献は授業時に配布する

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数:20

配当年次:2 年次以上

選考方法:

①題目: 本ゼミを志望する理由

②字数:700字以内

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX658／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	生と死を問う法律学		
担当者名 (Instructor)	土屋 裕子(TSUCHIYA YUKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

人の生と死をめぐる問題を法的・倫理的側面から検討し、多角的な視点から物事を考察する力を身に付けます。

The purposes of this course are (1) to examine problems around human life and death from legal and ethical aspects and (2) to develop the ability to observe through a multifaceted perspective.

授業の内容(Course Contents)

出生前診断、代理母出産、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植など、人の生と死をめぐる問題は多岐に渡ります。これらの問題は、「生命倫理」の問題として知られていますが、この授業では、生命倫理の問題を単に倫理的な側面からだけでなく、法的な側面からも考察します。

1 年次に修得したリサーチやプレゼンテーションのスキルは活かし、生命倫理に関する問題を参加者自身で設定し、それについて自ら調べ報告を行い、クラス全員で議論を行います。なお、この授業は「正しい答え」を提供するものではありません。答えのない問題に自分なりの答えを導き、様々な価値観を持つ仲間との議論を通じて、自分の価値観や既存の倫理観を再考してみましょう。

なお、下記の授業計画はあくまでも一例であり、実際に授業で扱うテーマについては参加者の関心や希望により決定します。

A wide range of problems surround human life and death including prenatal diagnosis, surrogacy, euthanasia, death with dignity, brain death and organ transplantation. These are problems of bioethics, but this course considers them from a legal viewpoint as well.

Participants will be required to set their own bioethical issues, conduct their own research and report on their findings, and discuss them with the entire class, making use of the research and presentation skills you acquired in the first year. But the course is not intended to provide a "correct answer." All students should reconsider their values and existing ethical perspectives, then derive individual answers to problems that have no clear answers, and discuss them with others who have different values.

Note: The following course plan is only an example, and the actual topics to be covered will be determined according to the interests and wishes of the participants.

授業計画(Course Schedule)

- ガイダンス
- 【医療をめぐる生命倫理1】限られた医療資源の配分問題
- 【医療をめぐる生命倫理2】新型コロナウイルス感染症と生命倫理
- 【医療をめぐる生命倫理3】自己決定権とインフォームド・コンセント
- 【医療をめぐる生命倫理4】小児医療・新生児医療
- 【医療をめぐる生命倫理5】生体間移植・臓器売買
- 【出生をめぐる生命倫理1】出生前診断
- 【出生をめぐる生命倫理2】人工妊娠中絶
- 【出生をめぐる生命倫理3】生殖補助医療
- 【出生をめぐる生命倫理4】代理出産
- 【死をめぐる生命倫理1】脳死・臓器移植
- 【死をめぐる生命倫理2】安楽死
- 【死をめぐる生命倫理3】尊厳死
- まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

報告者は担当テーマに関する情報収集やレジュメの作成など周到な準備が求められます。また、最先端のテーマを扱いますので、日頃から新聞やニュース等で医療や科学技術に関する情報に関心を持つようにしてください。

なお、この授業では生命倫理に関する予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への貢献度(70%)/報告の内容(30%)

なお、正当な理由なく欠席回数が3回を超えた場合は単位を認めません。

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:15名程度

配当年次:2年次

選考方法:レポート

- ① 題目:このゼミの志望理由と意気込み
- ② 字数:1,200字程度

ゼミ運営の都合上、合格後は必ずゼミに参加する意思のある方のご応募をお待ちしております。一人でも多くの方にご参加いただけるよう、ご協力をお願いいたします。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX659／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	SDGs と企業・ビジネスロー		
担当者名 (Instructor)	河村 賢治(KAWAMURA KENJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

国連が定めた持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するために、企業やビジネスローがどのような役割を果たしているのか知ると同時に、自分自身が一市民として何ができるのか考える。

The goal of this class is to know what role firms and the business law plays in achieving the United Nations Sustainable Development Goals (SDGs) and at the same time think about what we can do as a citizen.

授業の内容 (Course Contents)

SDGs を達成するためには、政府や非営利団体などだけでなく、民間企業の力を活用することが大切になります。実際に、多くの企業が事業活動と社会課題解決の両立に向けた取り組みを進めています。また、投資家も環境・社会・ガバナンス (ESG) を考慮した投資を拡大しています。この授業では、こうした企業や投資家の活動とそれを後押しするビジネスローについて学びます (これらの動きに対して懐疑的な見解も取り上げます)。それと同時に、私たち自身が、例えば消費者・投資者・労働者/経営者などとして、何ができるのか考えたいと思います。

* なお、私は商法(会社法等)と金融商品取引法の教員です。

In order to achieve the SDGs, it is important to utilize the power of private companies as well as governments and non-profit organizations. In fact, many companies are making efforts to achieve both business activities and solving social issues. Investors are also expanding their investment in consideration of environment, society and governance (ESG). In this class, you'll learn about the activities of these companies and investors and the business law that drives those activities (and skeptical views on these moves). At the same time, we would like to think about what we can do, for example, as consumers, investors, or workers / managers.

* I am a professor of commercial law (company law, etc.) and financial instruments and exchange law.

授業計画 (Course Schedule)

1. SDGs と ESG の基本
2. 株式会社・資本市場の歴史 (東インド会社から現代そして未来)
3. 企業統治に関するルールと最新動向 (株主利益最大化原則の可否をめぐる議論など)
4. 企業統治に関するルールと最新動向 (続き)
5. 投資に関するルールや最新動向 (SDGs・ESG と業績・株価の関係など)
6. 受講生の皆さんからの話題提供 (事業会社や資産運用会社等による SDGs/ESG 活動の紹介など)
7. 環境に関するルールと最新動向 (気候変動問題への対応など)
8. 環境に関するルールと最新動向 (続き)
9. 受講生の皆さんからの話題提供 (事業会社や資産運用会社等による SDGs/ESG 活動の紹介など)
10. 働き方に関するルールや最新動向 (ジェンダーやワークライフバランスへの対応など)
11. 働き方に関するルールや最新動向 (続き)
12. 受講生の皆さんからの話題提供 (事業会社や資産運用会社等による SDGs/ESG 活動の紹介など)
13. 受講生の皆さんからの話題提供 (事業会社や資産運用会社等による SDGs/ESG 活動の紹介など)
14. 受講生の皆さんからの話題提供 (事業会社や資産運用会社等による SDGs/ESG 活動の紹介など) & まとめ

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

受講生には SDGs に関連する企業の取り組みや法制度などの研究報告をしてもらう予定です。授業計画に「話題提供」とありますが、企業のホームページ情報を要約するだけの報告では不十分であり、話題提供のために相応の授業時間外学習が必要となります。受け身で教えてもらおう、楽をして単位を取りたい、という考えの学生は、本演習を取らないほうが良いと思います。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業時の発表や意見・質問など(100%)

テキスト (Textbooks)

特に指定しません。

参考文献 (Readings)

授業時に紹介します。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数: 15 名から 20 名程度

配当年次: 2 年・3 年・4 年

選考方法: レポート

① 題目: SDGs や ESG に関するニュースや議論等で気になったものを説明してください。

② 本文の字数: 1000 字から 1500 字程度

* 参考文献を明示すること。

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX660／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際ビジネスにおける仲裁とネゴシエーション/ Arbitration and Negotiation		
担当者名 (Instructor)	小川 和茂(OGAWA KAZUSHIGE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

国際ビジネス法を学ぶとともに、複雑な事実関係を前提に繰り上げられる論理的で説得力ある主張ができるように法的思考力や弁論術を学び、仲裁対応力や交渉力を高める。

The objectives of this seminar are to study international business law while improving the students' abilities to negotiate and think in a legal manner so as to be able to make logical and persuasive statements predicated on complex factual relationships.

授業の内容 (Course Contents)

純粋に国内のみで活動する企業は少ない。多くの企業は、グローバルな市場において日々事業活動を行っている。そのような企業に法はどのように関わっているのだろうか？ また、トラブルが生じたときに、あるいは生じないようにどのようなテクニックが用いられているのだろうか？

春学期には、国際ビジネス法や国際ビジネス紛争解決の基礎理論及び交渉(ネゴシエーション)の基礎理論について、他大学の学生との模擬交渉・仲裁といった実践も交えながら学ぶことになります。

そして、秋学期には、国内外の大学が参加して 11 月下旬～12 月上旬に開催されるインターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション(インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティションについては、www.negocom.jp を参照して下さい。)の日本語の部と英語の部に参加します。

上記を通じて、国際ビジネス法の基礎的な知識を習得するとともに、法的思考力や交渉力を高めます。

There are few companies today which simply do business only in Japan. Many companies conduct business activities in global markets on a daily basis. How does the law impact such companies? Moreover, what techniques are used when trouble occurs or to prevent them from occurring?

During the spring semester, students will learn the basic theories of international business law, international business dispute resolution, and negotiation while combining practice through mock negotiations and arbitrations with students from other universities.

Furthermore, during the fall semester, students will participate in the Japanese and English sections of the Intercollegiate Negotiation Competition (for more details, see <http://www.negocom.jp/>) held in late November or early December together with students from other Japanese and foreign universities.

In this way, students will acquire a fundamental knowledge of international business law while improving their abilities to negotiate and think in a legal manner.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. 国際ビジネス法の全体像
3. 国際契約法 1
4. 国際契約法 2
5. 国際契約法 3
6. 交渉 1 基礎編
7. 交渉 2 基礎編
8. 交渉 3 基礎編
9. 仲裁 1 基礎編
10. 仲裁 2 基礎編
11. 仲裁 3 基礎編

12. 交渉 4 ロールプレイ
13. 仲裁 4 ロールプレイ
14. まとめ
15. 仲裁 5 コンペティションに向けた準備
16. 交渉 5 コンペティションに向けた準備
17. 仲裁 6 コンペティションに向けた準備
18. 交渉 6 コンペティションに向けた準備
19. 仲裁 7 コンペティションに向けた準備
20. 交渉 7 コンペティションに向けた準備
21. 仲裁 8 コンペティションに向けた準備
22. 交渉 8 コンペティションに向けた準備
23. 仲裁 9
24. 交渉 9
25. まとめ
26. コンペティションへの参加
27. 総括 1
28. 総括 2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特に秋学期は大会参加準備などで延長が有り得るため、演習後の時間帯の予定はあけておくこと。

また、予習復習に十分な時間をかける必要があるほか、グループワーク・練習試合など演習時間以外にも演習参加者が集まって調査・議論することが必要です。

大学対抗交渉コンペティション(11月中旬から12月上旬の間の土日で開催されます。)への参加は必須です。

これら点に留意の上申込みして頂きたい。

本演習に並行して国際私法、国際ビジネス法総合、英米法、国際経済法、国際法、法政外国語演習などの履修を推奨します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告の内容(50%)/議論への参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

1. マルホトラ＝バイザーマン、2016、『交渉の達人』、パンローリング (ISBN:4775941631)
2. UNIDROIT、2020、『UNIDROIT 国際商事契約原則 2016』、商事法務 (ISBN:4785727683)

参考文献(Readings)

1. 谷口安平＝鈴木五十三編著、2016、『国際商事仲裁の法と実務』、丸善雄松堂 (ISBN:9784841906752)
- その他参考文献については追って指定する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 15~20名

配当年次: 2~4年次

選考方法:

①題目: ①どのような国際ビジネスに興味を持つのかについて、②直近でどのような交渉をしたのかについて、③ゼミにどうやって貢献することができるのか、及び、④自己紹介

②字数: 指定しない

演習論文:実施しない

2022年度に履修した学生によれば、以下のような仲間を求めているとのことであった。

- ・積極的にゼミに参加し、自分の意見を発信できる人
- ・論理的思考力を身に付けたい人
- ・交渉術を学んで実践してみたい人
- ・チームメイトと協力するのが好きな人
- ・英語力に自信のある人(必須ではない)
- ・留学や国際交流に興味のある人

ゼミの雰囲気については、ゼミ生がinstaを運営しているので探してみてください。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX661／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	憲法判例講読		
担当者名 (Instructor)	守田 大悟(MORITA DAIGO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

この演習の目的は、憲法判例を読み、対象判例に対する深い理解を獲得することにある。

By the end of the course, students will gain a deep understanding of the constitutional cases which are covered in the course.

授業の内容(Course Contents)

この演習では、憲法判例を原文で読む。読む判例の数よりも、読み方の質を重視する。従って、1つの判例の研究に複数回を要することもある。また、対象判例の理解に有益と思われる文献(例えば、判例評釈、調査官解説、論文)も扱う。各回において、報告者を指名して、判例又は文献の要約を行ってもらう。報告者は、レジュメを書き、報告を行う。

In this course, we will read some constitutional cases in the original text. We regard the quality of reading as important, rather than its quantity, so it may take more than one class to study a constitutional case. We will also read some documents which may help to understand these cases, such as commentaries written by scholars or clerks (Judicial Research Officials of Supreme Court of Japan), and academic papers.

In each class, some students will be assigned to summarize a case or a document. Those students will be required to write a handout in advance and to make a presentation.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス①(演習の進め方の説明等)
2. ガイダンス②(教員によるプレ報告等)
3. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
4. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
5. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
6. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
7. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
8. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
9. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
10. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
11. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
12. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
13. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読
14. 判例又は文献(判例評釈、調査官解説、論文)の講読

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参加者は、全員、予め対象判例(原文)や指定された文献を通読しておくこと。

復習として、各自が、演習での議論を踏まえて、対象判例や指定文献を簡潔に要約してみることが望ましい(提出を求めることはしない)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当回の報告とレジュメの内容(50%)/出席状況と学習状況(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:10~20 名

配当年次:2 年次

選考方法:

①題目:この演習を志望する動機

②字数:A4 で 1 枚

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX662／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	英米法文献の読み方		
担当者名 (Instructor)	鄭 燦玉(JUNG CHANOK)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

- ・英語で書かれた法律文献の読解力を涵養する。
- ・外国語で書かれた法律文章を正確な日本語に翻訳する能力を身につける。
- ・保険法学の基礎知識を習得する。

Improve reading comprehension of literature on jurisprudence written in English.

授業の内容 (Course Contents)

人間は最小限の経済生活が保障されて初めて安定した生活を送ることができるが、こうした経済生活の安定を脅かすような不測の事故に遭遇することがしばしばある。そこで、同じ危険にさらされている多数の人々が偶然の事故に備えるために力を合わせるような方法が考案されたわけであるが、それが保険制度である。

われわれは人生を生きていくなかで何らかの保険に加入しているにもかかわらず、法学部 4 年間を通して保険に関する法的規律について学ぶ機会ほとんどない。

このような状況を受け、本演習では、保険法に関する代表的な英文概説書を講読し、英米法文献の読解能力を養うとともに、保険法の基本概念の理解を図る。

授業では、John Birds & Katie Richards, *Birds' Modern Insurance Law* (12th ed. 2022)を講読します。第1回の授業では、テキストと参考文献を紹介し、授業の進め方と準備・報告の方法の説明を行います。第2回以降は、テキストを講読します。事前に割り当てられた部分を担当者が日本語に翻訳し、予め Blackboard などを通じて訳文を提出します。授業当日には教員と参加者全員で訳文の検討を行います。

In this seminar, the instructor will read and interpret a textbook on insurance law written in English. Students are required to translate it into Japanese and submit the translation in advance.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(1)
3. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(2)
4. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(3)
5. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(4)
6. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(5)
7. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(6)
8. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(7)
9. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(8)
10. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(9)
11. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(10)
12. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(11)
13. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(12)
14. 文献講読－担当者による訳文の報告と全員での検討－(13)、まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

- ・報告者以外の参加者も、Blackboard などにアップロードされる訳文を毎回精読し、自分ならどう翻訳したであろうかを考えてくること。
- ・本演習の主目的は英米法文献の読解力向上にあるため、流暢な英語会話力は要しない。また、基本概念等については必要に応じて教員が説明するので、受講にあたり保険法に関する予備知識は必ずしも必要ではない。

* 本演習では、英米法文献の読み方を体得するために、少しずつでもいいので日々学習していこうという意欲をもっている学生の参加を望んでいます。

単純に単位さえ修得できればいいと思っている学生や、欠席が頻繁になりそうな学生は、本演習への志望を再考してください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告レジュメ(日本語訳の出来)と報告内容(70%)/授業への参加度(30%)

ただし、欠席回数が5回以上である場合、または、自分の報告日に正当な理由なく欠席した場合は、単位を認めない。

テキスト(Textbooks)

1. John Birds & Katie Richards. Birds' Modern Insurance Law. Sweet & Maxwell (ISBN:9780414102743)

テキストは教員が用意し提供するので、購入する必要はない。

参考文献 (Readings)

1. 竹濱 修、『保険法入門』、日本経済新聞出版社 (ISBN:9784532111984)

2. 山下友信ほか、『保険法』、有斐閣 (ISBN:9784641221291)

受講にあたり保険法に関する予備知識が必要なわけではありませんが、可能であれば夏休み期間を利用して参考文献に接してみることをお勧めします。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:15名程度

配当年次:2年次

選考方法:レポート

①題目:自己紹介と志望動機等

②字数:700字程度(例:自己紹介200字、志望動機500字)

* 文の末尾に、民法・商法の既習範囲について書いてください。

(例:

民法:総則、不動産・動産の物権変動、所有権について学習済み。債権総論を履修中。

商法:会社法、特に株式会社について学習済み。)

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX663／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	冷戦史研究 (Cold War Studies)		
担当者名 (Instructor)	清水 謙 (SHIMIZU KEN)		
学期 (Semester)	春学期 (Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位 (2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

果たして「冷戦」は終わったのか？これは本演習で検討する最も大きなテーマである。2014年にロシアがクリミア半島を併合した事件や2022年のロシアによるウクライナ侵攻はヨーロッパに大きな緊張をもたらし、国際紛争となっているシリアでも米露の駆け引きが繰り返されている。アジアに目を向ければ、米朝首脳会談によって軍事的緊張が和らいだように見える一方で、経済や貿易問題を中心に米中の摩擦が激化している状況にある。本演習では、いまいちど冷戦とは何であったのかを再検討することで、21世紀の時代に国際政治をどのように理解するのかを分析する視座を共に考えたい。

Did the "Cold War" really end? This is the most significant topic which will be examined in this seminar. The Russian annexation of the Crimean Peninsula in 2014 and Russian invasion of Ukraine in 2022 caused significant tensions in Europe, and maneuvering between the US and Russia is unfolding in Syria which has become an international conflict. Looking at Asia, while it would appear that military tensions have eased due to the summit between the US and North Korea, the friction between the US and China concerning economic and trade problems is intensifying. In this seminar, the instructor would like to re-examine together with the students once more what the Cold War was to acquire a perspective for analyzing how to understand International Politics during the period of the twenty-first century.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、オックスフォード大学出版局から出版されている冷戦史の文献を輪読しながら各章について議論をする。受講生には報告と討論を担当してもらう章を割り当てる。担当者のレジュメを基にした報告のあと、討論者が報告者に対して疑問点や論点を挙げてもらい、教員が議論を整理した上で解説を加えながら全体で議論をする。演習の進度にもよるが、教科書を読了したあとは、受講者の関心を汲み取りながら、冷戦史や国際政治学などの学術論文を読むことで、より専門的に体系的な理解を深めていく。

In this seminar, students will read in turn literature about the history of the Cold War published by Oxford University Press while discussing each chapter. Students will be assigned chapters to present reports and moderate debates. After the student in charge presents a report based on the summary, debaters will raise questions and arguments with the presenter. The faculty member will organize the discussion and provide commentary while the entire class engages in discussion. After the students finish reading the textbook, though depending on how far the seminar progress is, we will try to deepen their systematic understanding in a more specialized manner by reading scholarly papers about the history of the Cold War and International Politics etc, considering the participants' interests.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 「第二次世界大戦と旧秩序の破壊」の輪読と議論
3. 「ヨーロッパにおける冷戦の起源」の輪読と議論
4. 「アジアにおける「熱戦」に向かって」の輪読と議論
5. 「グローバル化した冷戦」の輪読と議論
6. 「対立からデタントへ」の輪読と議論
7. 「国内冷戦の諸相」の輪読と議論
8. 「超大国デタントの興亡」の輪読と議論
9. 「冷戦の最終局面」の輪読と議論
10. 冷戦史または国際政治学の論文の輪読と議論(1)
11. 冷戦史または国際政治学の論文の輪読と議論(2)
12. 冷戦史または国際政治学の論文の輪読と議論(3)
13. 冷戦史または国際政治学の論文の輪読と議論(4)
14. まとめの議論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回のテキスト輪読に際して演習で扱う章を事前に通読し、コメントや疑問点などを整理したメモを作成し、演習開始時に提出し

てもらう。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当箇所の報告(60%)/準備メモ・議論への積極的参加度など(40%)

テキスト (Textbooks)

1. ロバート・マクマン、2018、『冷戦史』、勁草書房 (ISBN:978-4-326-35175-6)

参考文献 (Readings)

1. O・A・ウェスタッド著、佐々木雄太監訳、小川浩之・益田 実・三須拓也・三宅康之・山本 健訳、2010、『グローバル冷戦史 第三世界への介入と現代世界の形成』、名古屋大学出版会 (ISBN:978-4-8158-0643-9)
 2. 益田実、池田亮、青野利彦、齋藤嘉臣編著、2015、『冷戦史を問いなおす:「冷戦」と「非冷戦」の境界』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623074709)
 3. 益田知佐子、2019、『中国の行動原理:国内潮流が決める国際関係』、中央公論社 (ISBN:978-4121025685)
 4. O.A.ウェスタッド著、益田実監訳、山本健、小川浩之訳、2020、『冷戦:ワールド・ヒストリー(上)』、岩波書店 (ISBN:978-4000256728)
 5. O.A.ウェスタッド著、益田実監訳、山本健、小川浩之訳、2020、『冷戦:ワールド・ヒストリー(下)』、岩波書店 (ISBN:978-4000256735)
 6. 小泉悠、2021、『現代ロシアの軍事戦略』、筑摩書房 (ISBN:978-4480073952)
 7. 佐橋亮、2021、『米中対立:アメリカの戦略転換と分断される世界』、中央公論社 (ISBN:978-4121026507)
- その他、受講者の関心を汲み取りながら演習中に適宜紹介する。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15 名程度

配当年次:2 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習を志望する理由と、国際政治で関心のあるテーマについて自由に論じて下さい。

②字数:1000～1200 字程度 (A4 用紙一枚以内)

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX664／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ジェンダー、家族、福祉をめぐる政治・政策の国際比較		
担当者名 (Instructor)	浅井 亜希(ASAI AKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

ジェンダーや家族、福祉に関する文献を講読し、参加者がグループ・リサーチを行い発表し、各自でレポートを作成する能力を獲得する。

The objectives of this course are: to read articles on gender, family, and welfare; to have students conduct and present group research; and to write reports.

授業の内容 (Course Contents)

本セミナーでは、ジェンダー、家族、福祉をめぐる現状、歴史、政策、課題等について国際比較研究を行う。

はじめに、基礎的なアカデミックスキル(レジュメの作成、報告、資料収集、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法)を学びながら、文献講読およびディスカッションを行う。文献講読においては、担当回の報告レジュメの作成とコメントの準備が求められる。

次に、テーマを決めてグループ・リサーチを行う。日本、アジア、ヨーロッパ、北欧など地域に分かれ、グループでその地域の特徴をまとめ、報告を行う。

本科目は他大学または他のゼミとの合同ゼミ報告会を行う。グループワークや他大学との交流にも積極的に取り組むことが求められる。

In this course we will compare the politics and policies of gender, family, and welfare internationally.

First, students will learn basic academic skills, and then read and discuss articles. In the reading, students will be required to prepare a report resume and comments.

Next, group research will be conducted. The students will be divided into regions such as Japan, Asia, Europe, and Scandinavia, and each group will summarize the characteristics of the region and make a report.

In this course, research sessions will be held with other seminars. Students are expected to participate actively.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス、各自の問題関心の紹介
2. 文献講読とディスカッション(1)
3. 文献講読とディスカッション(2)
4. 文献講読とディスカッション(3)
5. 文献講読とディスカッション(4)
6. グループ・リサーチ準備
7. グループ・リサーチ(1)
8. グループ・リサーチ(2)
9. 個人レポート準備
10. グループ・リサーチ(3)
11. グループ・リサーチ(4)
12. 個人レポート報告
13. グループ・リサーチ合同発表会(1)
14. グループ・リサーチ合同発表会(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

本科目は演習という授業形式のため、予習・復習といった時間外の学習が多く求められる。

◆予習

文献講読においては、報告者によるレジュメの準備だけでなく、全員があらかじめ決められた範囲を読み、ディスカッションのためのコメントを準備する必要がある。グループ・リサーチでは、各自決められた部分を準備する。日ごろからジェンダー、家族、福祉に関心を持ち、ニュース等に目を配ること。

◆復習

授業の内容をふまえ、最終レポートにむけた各自の準備、またグループ・リサーチを進める。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/グループ・リサーチ(40%)/ディスカッション(20%)

テキスト(Textbooks)

参加者の関心に沿って決定する。

参考文献 (Readings)

授業時に適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:20 名程度

配当年次:2 年次

選考方法:

- ①題目:研究テーマ、研究テーマに関する先行研究やニュースおよび自身の視点、自己紹介
参考資料として、研究テーマに関するニュース記事または資料などを添付してよい。

- ②字数:A4 で1 枚程度

演習論文:実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX665／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	気候変動を政治学する		
担当者名 (Instructor)	永野 和茂(NAGANO KAZUSHIGE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

気候変動は政治のあり方に影響を与えるか。それはどのようにしてか。気候変動によって社会は不安定化するのか。本演習は、気候変動問題の政治学的側面に焦点を当て、こうした問いに関する最新の文献を読み解く。とくに、グローバルレベルでの理論的な議論だけでなく、グローバルサウスと呼ばれる地域の事例を学ぶことで、具体的な課題に対する視野を深める。

Does climate change affect the way of politics? How is it doing so? Will climate change destabilise societies? This seminar will focus on the political science aspects of climate change issues, reading the latest literature on these questions. In particular, students will deepen their perspective on specific issues by studying theoretical debates at the global level as well as cases from the regional level, known as the Global South.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、指定された文献を輪読しながら、各テーマについて討論する。報告担当者はテキストの内容報告を行い、それ以外の受講生は事前にコメント・ペーパー(400字程度)を提出する。各回とも、討論者の問題提起をふまえた全体討論を行う形で授業を進めて行く。必要に応じて、小グループに分かれて討論することもある。

In this seminar, we will read assigned books in rotation and discuss each topic. The presenter will summarise the contents of the texts, and the rest will submit a comment paper in advance. In each session, the class will proceed with a discussion based on the issues raised by the discussants. If necessary, students will be divided into small groups for discussion in the class.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 文献講読 1
3. 文献講読 2
4. 文献講読 3
5. 文献講読 4
6. 文献講読 5
7. 文献講読 6
8. グループワーク
9. 文献講読 7
10. 文献講読 8
11. グループワーク
12. 文献講読 9
13. グループ報告
14. グループ報告

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

受講生は毎回指定された範囲のテキストを事前に読み、演習開始前にコメント・ペーパーを提出する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 出席・議論への貢献度(30%) / 報告(20%) / コメントペーパー(20%)

テキスト (Textbooks)

1. 笹川平和財団海洋政策研究所編、2021、『気候安全保障——地球温暖化と自由で開かれたインド太平洋』、東海教育研究所 (ISBN:978-4924523258)
2. 藤原帰一ほか、2022、『気候変動は社会を不安定化させるか——水資源をめぐる国際政治の力学』、日本評論社 (ISBN:978-4535540323)

参考文献(Readings)

参考文献・資料は授業内で適宜紹介する。

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数: 15 名程度

配当年次: 2 年次

選考方法: レポート

① 題目: 本演習を履修する動機と、テーマについての関心を自由に書いてください。

② 字数: 1000～1200 字程度

演習論文: 実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX666／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	都市・コミュニティと格差 (Cities, Communities and Disparity)		
担当者名 (Instructor)	宮内 悠輔(MIYAUCHI YUUSUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

この演習では、複数の文献を手掛かりとしながら、都市やコミュニティといわゆる「格差」の関係・問題について議論する。主に、日本や欧米の具体的な事例を論じた文献を輪読し、現代において社会経済的な(さらには政治的な)分断がどのように発生しているのかを検討していく。

The objective of this seminar is to discuss issues of the relation between a community and the disparity.

授業の内容 (Course Contents)

受講者は、予習として事前に文献を読み、Canvas LMS の公開トピックへ考察・疑問点を書き込む(予習課題)。授業時は、報告者の内容要約・論点提起および受講者の書き込みに基づいて議論を行う。また、授業の終わり際に、ウェブ上からコメントを提出する(授業後コメント)。

なお、予習課題および授業後コメントは後日、1 つに集約した上で教員のリプライを添え、Canvas LMS へアップロードする。授業後コメントについては匿名化し、個人が特定されることのないよう配慮する。

The students will read the literature and submit a comment in advance. In the class, the student in charge of presenting will report the summary of the literature and question points. After the reporting, all the participants will discuss regarding the issues of the literature based on the report.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 自己紹介・分担決定
2. 配布資料の輪読①
3. 配布資料の輪読②
4. 1 冊目の指定テキストの輪読①
5. 1 冊目の指定テキストの輪読②
6. 1 冊目の指定テキストの輪読③
7. 1 冊目の指定テキストの輪読④
8. 配布資料の輪読③
9. 配布資料の輪読④
10. 2 冊目の指定テキストの輪読①
11. 2 冊目の指定テキストの輪読②
12. 2 冊目の指定テキストの輪読③
13. 2 冊目の指定テキストの輪読④
14. 全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の文献に事前に目を通すことをもって予習とする。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

予習課題(25%)/授業後コメント(25%)/議論への貢献(レジュメ作成・報告および各回の発言)(50%)

テキスト (Textbooks)

1. 橋本健二、2021、『東京 23 区×格差と階級』、中央公論新社 (ISBN:9784121507419)
2. ジェームズ・ブラッドワース、2022、『アマゾンの倉庫で絶望し、ウーバーの車で発狂した——潜入・最低賃金労働の現場』文庫版、光文社 (ISBN:9784334770563)

その他、必要に応じて講師が適宜、文献を配布する。

参考文献 (Readings)

1. 打越正行、2019、『ヤンキーと地元——解体屋、風俗経営者、ヤミ業者になった沖縄の若者たち』、筑摩書房 (ISBN:9784480864659)
2. J・D・ヴァンス、2022、『ヒルビリー・エレジー——アメリカの繁栄から取り残された白人たち』文庫版、光文社 (ISBN:9784334770525)
3. アリス・ゴッフマン、2021、『逃亡者の社会学——アメリカの都市に生きる黒人たち』、亜紀書房 (ISBN:9784750516387)
4. ジャスティン・ガスト、2019、『新たなマイノリティの誕生——声を奪われた白人労働者たち』、弘文堂 (ISBN:9784335460388)

その他(HP等) (Others(e.g.HP))

・報告者は、事前にレジュメを Canvas LMS 上に提出する。また、報告者以外は、事前に Canvas LMS 上で予習課題を提出する。期日に間に合うよう、また偶発的なトラブル等にも備え、余裕を持って準備すること。

・授業の終わりに、ウェブ上から授業後コメントを提出する。そのため、ノート PC やタブレット端末、スマートフォンなどを忘れずに持参すること(原則として事後提出は不可)。

・毎回、一度に読む文献の分量がそれなりに多い。演習に振り向けなくてはならない負担の大きさを考慮した上で応募してほしい。なお、極力、講義時間の延長は行わない。

<選考方法>

採用人数:10 人

配当年次:2 年次

選考方法:レポート

①題目:まず、この演習を志望する理由をできるだけ具体的に教えてください(必須)。これに加えて、自己紹介、これまででもっとも印象に残っている大学の授業(全学共通科目や語学クラス等も可)、読んでみて面白いと思った本の紹介、大学・法学部への不満や大学生活における悩み、など自由に任意の話題も交えてまとめてください。

②字数:800 字以上 2000 字以内(A4 用紙 1~2 枚程度)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX667／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ディベートで学ぶビジネスと法		
担当者名 (Instructor)	藤澤 治奈(FUJISAWA HARUNA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

- ① ディベートを通してよりよい法, 制度, そして社会の在り方について構想する思考力を養う
- ② ビジネスと法に関連する最新の知識を得る

- (1) To cultivate the ability to think critically in conceiving better laws, systems, and the ideal state of society through debate
- (2) To acquire the latest knowledge concerning business and law

授業の内容(Course Contents)

この授業では、ビジネスと法に関連するテーマを取り上げ、それについてディベートを行います。テーマは、履修者の関心に合ったものを選びますが、担当教員が専攻する民法だけではなく、多岐にわたる可能性があります。履修者は、自らがディベートを行う回はもちろん、それ以外の回にも、ジャッジとして授業に参加します。そのため、授業の予習のために、グループで集まったり、資料を集めたり、多くの時間を必要とします。また、ディベートを通じて他大学と交流することも予定しています。そこで、この演習のために、十分な時間を割くことのできる履修者を募集しています。

なお、履修希望者を対象として、面接を行います。面接を希望する方は、3月20日までに申込みを行ってください。面接の申込は、メールで受け付けています(fujisawa@rikkyo.ac.jp)。

This class will raise topics concerning business and law and engage in debates about these topics. The topics will be selected according to the interests of the students, but they may be wide-ranging and include not only Civil Law, which is the instructor's specialization. During some sessions, students will hold debates on their own and at other times participate in class as judges. Therefore, students will need a significant amount of time to gather in groups, collect documents, etc. to prepare for class. In addition, students are also scheduled to participate in exchanges with other universities through debates. Therefore, this seminar is open to students who are able to devote a sufficient amount of time.

Furthermore, please note that students who wish to take this seminar will be interviewed. If you wish to be interviewed, please apply by March 20th. Interview applications are being accepted by email (fujisawa@rikkyo.ac.jp).

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 「論理的に話す」とは?
3. ディベートの準備
4. ディベート(1班 vs. 2班)
5. ディベート(3班 vs. 4班)
6. ディベート(1班 vs. 3班)
7. ディベート(2班 vs. 4班)
8. ディベート(1班 vs. 4班)
9. ディベート(2班 vs. 3班)
10. 他大学との交流会準備(1)
11. 他大学との交流会準備(2)
12. 他大学との交流会総括
13. ディベートのまとめ(1)
14. ディベートのまとめ(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の予習として、①ディベートの準備のために、グループで集まり、資料の収集および検討を行うこと、②ディベートのジャッジのために、指定された資料および自ら集めた資料に目を通すことが必要とされます。また、講義で未履修のテーマに取り組む場合には、各自、教科書などを読み、基本的な知識を身につけることが必要です。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ディベートの内容(50%)/ジャッジとしての発言内容(50%)

テキスト(Textbooks)

授業中に適宜指定します。

参考文献(Readings)

授業中に適宜指定します。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:20

配当年次:2~4 年次

選考方法:レポートおよび面接

①題目:ディベートしてみたいテーマ(それについて自分がどのような意見を持っているか)

②字数:1000 字

演習論文:実施しない

<授業形態>

ディベートを行う演習であり、グループワークがあります。

<フィードバック>

毎回の授業の最後に、担当教員からディベートの内容について講評を行います。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX668／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ASEAN 諸国(東南アジア諸国)の法, 政治および経済制度を考察する		
担当者名 (Instructor)	荻村 慎一郎(OGIMURA SHINICHIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

比較研究(法学, 政治学, 経済学)の手法を用いつつ, ASEAN 諸国(東南アジア諸国)の社会的特徴を検討することを通じて, 世界のそれぞれの国に対してグローバル化がもたらす制度的影響について, 客観的に分析および考察する姿勢を鍛えます。

Using comparative research methods (law, politics and economics), we try to analyze social similarities and differences between ASEAN countries.

That will help us enhance penetrating insights into institutional issues in a country that results from the phenomenon of globalization.

授業の内容(Course Contents)

授業で学んでいる法学や政治学の知識を活用しながら, 東南アジア諸国について調査し, 考察を加えます。

どのようなテーマを探究するかは, 参加者のみなさんが話し合っ, 主体的に決めて頂きます。
経済学, 歴史学の成果を段階的に学んだうえで, 法学・政治学の専門的な問題に取り組みます。

タイ, マレーシア, インドネシア, ベトナムは調査対象国として必ず扱う予定です。

We will conduct basic research on legal and political problems of the ASEAN countries.

This seminar will be developed in stages from the basics to application.
Students should decide what theme to explore after some discussion.

In the first half of the seminar, we will see the problems from economic and historical perspectives based on the textbook.
The second half of the seminar will deal with team-by-team themes in the fields of law and politics.

Our study will focus mainly on the following countries (Thailand, Malaysia, Indonesia, and Vietnam).

授業計画(Course Schedule)

- この演習全体および春学期の展望とアプローチについて
- 東南アジア諸国の経済状況の分析①
- 東南アジア諸国の経済状況の分析②
- 東南アジア諸国の経済状況の分析③
- 東南アジア諸国の経済状況の分析④
- 東南アジア諸国の経済状況の分析⑤
- 課題の全体像の整理と把握①
- 東南アジア地域と欧米諸国, 中印両国との間の歴史的関係の分析①
- 東南アジア地域と欧米諸国, 中印両国との間の歴史的関係の分析②
- 東南アジア地域と欧米諸国, 中印両国との間の歴史的関係の分析③
- 東南アジア地域と欧米諸国, 中印両国との間の歴史的関係の分析④
- 東南アジア地域と欧米諸国, 中印両国との間の歴史的関係の分析⑤
- 課題の全体像の整理と把握②
- 中間報告と中間のまとめ
- 秋学期の展望とアプローチについて
- 欧州連合(高所得国から中所得国にわたる地域統合)の諸制度の分析①
- 欧州連合(高所得国から中所得国にわたる地域統合)の諸制度の分析②
- 欧州連合(高所得国から中所得国にわたる地域経済統合)の諸制度の分析③
- 課題の全体像の整理と把握③
- ASEAN(高所得国から後発開発途上国にわたる地域統合)の諸制度の分析①

21. ASEAN(高所得国から後発開発途上国にわたる地域統合)の諸制度の分析②
22. ASEAN(高所得国から後発開発途上国にわたる地域統合)の諸制度の分析③
23. 課題の全体像の整理と把握④
24. ASEAN(高所得国から後発開発途上国にわたる地域統合)の諸制度の分析④
25. ASEAN(高所得国から後発開発途上国にわたる地域統合)の諸制度の分析⑤
26. ASEAN(高所得国から後発開発途上国にわたる地域統合)の諸制度の分析⑥
27. 課題の全体像の整理と把握⑤
28. 最終報告とこの演習全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

探求するテーマを決めたうえで、調査対象国別にチームを編成し、グループ・ワークを中心に進めていきます。そして各チーム内で各自が担当する資料について、無理のない範囲で調査および報告(発表)等をして頂きます。

したがって、毎週 1 時間程度の個人的な学修時間を確保するようにしましょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/中間報告(20%)/各回における各自の取組み(50%)

テキスト(Textbooks)

1. トラン・ヴァン・トゥ, 菊込 俊二, 2019,『中所得国の罫と中国・ASEAN』, 勁草書房 (ISBN:978-4326504589)
リンク先から教科書の目次を確認して、授業で取り組む内容についてあらかじめ把握してください。
なお、教科書(テキスト)以外に購入して頂く文献はありません。

参考文献(Readings)

1. 田中明彦, 川島真編, 2020,『20 世紀の東アジア史: 全 3 巻』, 東京大学出版会
2. 川勝平太編著, 網野善彦, 石井米雄, 鈴木董, 二宮宏之, 浜下武志, 家島彦一, 山内昌之, イマニュエル・ウォーラーステイン, 2020,『海から見た歴史(増補新版)——ブローデル『地中海』を読む』, 藤原書店 (ISBN:978-4865782899)
3. 小川有美監修・編著, 1999,『EU 諸国(国際情勢ベーシックシリーズ)』, 自由国民社 (ISBN:4426138000)
教科書(テキスト)以外の文献については、演習の進展段階に応じて適宜助言します。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 16 名程度

配当年次: 2 年次および 3 年次

選考方法: レポートによる

①題目: ASEAN 諸国における日本の自動車産業の展開について

この演習で取り組んでみたい国を 1 つ選んで、その国に進出(=投資)している日本の自動車会社が直面している課題(取引法, 会社法, 労働法, 知的財産法, 経済法のいずれかの法分野に関係していることが望ましい)について、以下の手順で論じてください。

最初に、新聞記事を 1 つ挙げ、新聞名, 見出し, 日付を掲げたうえで、内容を簡潔に要約してください。
次いで、その記事に興味を持った理由とこの演習で調査および考察してみたい課題を説明してください。
最後に、志望にあたっての意気込みや個人的背景等がある場合は、それらについても教えてください。

新聞については、図書館で提供されているデータベース(読売, 朝日, 日経, 毎日, 東京(中日), 産経)の中から選んでください。

新聞記事の検索用語としては、「ASEAN」または「東南アジア」に加えて、以下の用語を活用されるとよいでしょう。

自動車, 自動車産業, 自動車生産, 自動車部品, 自動車組み立て, 自動車販売,
日本車, コロナ, サプライチェーン,
東南アジアの個別の国名(タイ, マレーシア, インドネシア, ベトナム, フィリピン),
個別の日系企業名(トヨタ, ホンダ, 日産, スズキ, マツダ, スバル, 三菱, いすゞ, 日野, ダイハツ)

②字数: 1,200 字程度(A4 用紙で表面 1 枚を厳守してください)

演習論文: 実施しない

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX669／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	比較憲法学入門: 主要先進諸国の統治機構を理解する		
担当者名 (Instructor)	荻村 慎一郎(OGIMURA SHINICHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

比較研究(法学, 政治学)の手法を用いて, 主要先進諸国の統治機構の特徴について学びます。
それによって, 日本国憲法そのものの理解を深めることを目指します。

Using comparative research methods (law and politics), we will examine the different forms of government structures in Western countries.

That makes us understand the 1947 Constitution of Japan more deeply.

授業の内容 (Course Contents)

近現代(modern age)という長期の時間軸の中で, 主要先進諸国の統治機構の変化を理解します。
そのために, 歴史学と地理学の成果も活用します。

前半は, 歴史学と地理学の分野が対象です。教科書の内容を理解する作業が中心となります。
後半は, 比較憲法学の分野が対象です。各国の統治機構について調査し, 考察を加えます。

米国, 英国, フランス, ドイツ, イタリア, スペインを調査対象国とする予定です。
なお, 本演習では, 特に立法権と行政権について扱います。

また, 日本国憲法の基礎知識(憲法(2)の範囲)についても段階的に確認していきます。

We will understand the historical change and geographical diffusion of G7 countries' polities in a time span of four centuries.

In the first half of the seminar, we will see the problems from historical and geographical perspectives based on the textbook.
The second half of the seminar will cover conventional Comparative Constitutional Law, especially polity theory.

Students will focus on legislative and executive branches of the following countries (U.S.A., U.K., France, Germany, Italy, and Spain).

This seminar also prioritizes accurate acquisition of basic knowledge of Constitutional Law (2).

授業計画 (Course Schedule)

1. この演習全体の展望: 150年前と現在を比較し, 主要先進諸国と日本を比較する
2. 世界初の近代的共和国: アメリカ合衆国
3. 先進ヨーロッパ①: 英国
4. 先進ヨーロッパ②: フランス
5. 後進ヨーロッパ: ドイツ語圏地域(とロシア)
6. 非大国としてのヨーロッパ: 北欧と南欧
7. 中間のまとめ①: 明治日本にとっての欧米諸国の位置づけ
8. 中間のまとめ②: 比較憲法学の基本と大日本帝国時代の統治機構の特徴
9. アメリカ合衆国の統治機構の特徴
10. 英国の統治機構の特徴
11. フランスの統治機構の特徴
12. ドイツの統治機構の特徴
13. イタリアまたはスペインの統治機構の特徴
14. この演習全体のまとめ: 現代日本の統治機構の特徴

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

調査対象国別にチームを編成し, グループ・ワークを中心に進めていきます。

そして各チーム内で各自が担当する資料について、無理のない範囲で調査および報告(発表)等をして頂きます。

したがって、毎週 1 時間程度の個人的な学修時間を確保するようにしましょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当回の報告(春学期中, 1 チームあたり 3 回行って頂きます)(60%)/毎回の授業での取り組み(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 田中 彰、2003、『明治維新と西洋文明―岩倉使節団は何を見たか(岩波新書)』、岩波書店 (ISBN:978-4004308621)
リンク先から教科書の目次を確認して、授業で取り組む内容についてあらかじめ把握してください。
なお、教科書(テキスト)以外に購入して頂く文献はありません。

参考文献(Readings)

1. 新井誠, 上田健介, 大河内美紀, 山田哲史編、2022、『世界の憲法・日本の憲法: 比較憲法入門』、有斐閣 (ISBN:978-4641228344)
2. 笹田栄司, 原田一明, 山崎友也, 遠藤美奈、2019、『トピックからはじめる統治制度 ― 憲法を考える 第2版』、有斐閣 (ISBN:978-4641227804)
3. 安念潤司, 小山剛, 青井未帆, 穴戸常寿, 山本龍彦、2014、『憲法を学ぶための基礎知識 論点 日本国憲法〔第二版〕』、東京法令出版 (ISBN:978-4809063077)
4. 原田 一明、1997、『議会制度―議会法学入門』、信山社出版 (ISBN:978-4797250220)
5. 久米邦武編, 田中彰校注、1982、『特命全権大使 米欧回覧実記 1 から 5 (岩波文庫)』、岩波書店 (ISBN:978-4003314111)
6. 久米邦武編, 水沢周訳、2005、『現代語訳 特命全権大使米欧回覧実記: 全 5 巻』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4766411270)
参考文献リスト中、授業内で全員が利用する資料については教員が準備します。
上記以外の文献については、演習の進展段階に応じて適宜助言します。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 16 名程度

配当年次: 2 年次

選考方法: レポートによる

①題目: コロナ禍における私権制限(外出禁止令, 行動制限令, 行動自粛要請など)のあり方について

この演習で取り組んでみたい国を 1 つ選んで、その国の私権制限措置に関連する立法権または行政権の問題について、以下の手順で論じてください。

最初に、新聞記事を 1 つ挙げ、新聞名、見出し、日付を掲げたいうえで、内容を簡潔に要約してください。
次いで、その記事に興味を持った理由とこの演習で調査および考察してみたい課題を説明してください。
最後に、志望にあたっての意気込みや個人的背景等がある場合は、それらについても教えてください。

新聞については、図書館で提供されているデータベース(読売, 朝日, 日経, 毎日, 東京(中日), 産経)の中から選んでください。

新聞記事の検索用語としては、「私権制限」に加えて、以下の用語を活用されるとよいでしょう。

外出禁止令, 行動制限, 自粛要請, 緊急事態, 緊急条項

②字数: 1,200 字程度(A4 用紙で表面 1 枚を厳守してください)

演習論文: 実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX670／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Introduction to U.S. Securities Regulation		
担当者名 (Instructor)	法)金融庁職員		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

米国の証券取引法を始めとする証券規制は、クロスボーダーの M&A や証券発行など、将来皆さんが国際的なビジネスに携わるにあたっては必須の知識である。米国証券規制の違反は厳格な法執行の対象となり得る。

本演習では、英語テキストを読み進めながら、米国の証券規制の全体像及び具体的な適用事例/判例について知見を深めることを目指す。

The US Securities Regulation is the essential knowledge when you would engage in the international businesses in the future, such as cross-border M&A and cross-border securities issuance. Violation of the US Securities Laws can be subject to rigorous enforcement by the US authorities.

In this seminar, participants are expected to understand and deepen their insights on the framework of U.S. Securities Regulation as well as its practical applications/court cases through reading the specified textbook.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、報告者が指定されたテキストの範囲を読み、報告する。報告後には全体でのディスカッションを行う。

特定のレベルの英語力や前提知識は求めているが、受講する学生には、各テーマについて好奇心をもって学習することが求められる。

In this seminar, participants are expected to read and present on the sections of the textbook that are allocated to each of them, followed by the discussions among the participants.

Participants are not required to have specific level of English nor background knowledge, but are expected to have strong curiosity in learning each topic.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introductions
2. Introduction to Securities Markets and Regulation
3. Definition of Security
4. Registration of Securities Offerings
5. Exemptions from Securities Act Registration
6. Securities Act Liability
7. Regulation of Securities Trading Markets
8. Regulation of Public Companies
9. Proxies and Tender Offers
10. Rule 10b-5
11. Insider Trading
12. Regulation of Brokers, Dealers, and Investment Advisors
13. Public Enforcement
14. U.S. Regulation of Cross-Border Securities Transactions

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Participants are expected to read specified section of the textbook before classes to facilitate discussions.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and Participation(60%)/Preparation and Presentation(40%)

テキスト (Textbooks)

1. Alan R. Palmiter. 2021. *Examples & Explanations for Securities Regulation (Examples & Explanations Series) 8th Edition*. ASPEN Publishing (ISBN:9781543807684)

参考文献(Readings)

1. 黒沼 悦郎、2004、『アメリカ証券取引法（アメリカ法ベーシックス）(第2版)』、弘文堂 (ISBN:9784335301094)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数: 20 名以内

配当年次: 2 年次以上

選考方法: レポート

① 題目: 自己紹介および志望動機

② 字数: 1000 字 (A4 用紙 1 枚) 程度

演習論文: 実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX671／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会と法律 ～民法の判例・事例を中心に、社会と法律の関わりを学ぶ～		
担当者名 (Instructor)	関口 康晴(SEKIGUCHI YASUHARU)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 実務家が担当		

授業の目標 (Course Objectives)

民法の判例や事例の勉強を中心に、社会と法律の関わりを学ぶとともに、日々生ずる社会事象に対し法的思考ができるようになることを目標としている。また、発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。

This course aims for students to learn about the relationship between society and law, with a focus on studying Civil Law judicial precedents and cases, while becoming able to think legally about daily societal events. Furthermore, students hone their oral skills by giving presentations.

授業の内容 (Course Contents)

レポーターの報告を題材に、民法の考え方や事実の把握等を丁寧に考察する。また、法律が私たちの生活にどのような影響を及ぼしているかを知るために、以下の内容を予定している。

【1】ゲストスピーカーとの議論

弁護士等の法実務家や会社経営者に、法律が企業活動や個人の生活でどのように利用されているかについて語ってもらい、ゼミ参加者と議論してもらうことを予定している(例年、2名のゲストスピーカーにお話しいただいている)

【2】裁判傍聴

実際の裁判を傍聴し、裁判手続を勉強することを予定している(例年、民事裁判及び刑事裁判を傍聴している)。

ゼミ参加者には複数回、自ら検討した判例や事例を報告してもらうとともに、ゲストスピーカーが来られたときや裁判傍聴に関しては、レポートを作成してもらう。

より深い理解のために、参加を希望する学生には積極的な参加及び発言を求める。

なお、授業内容は、必要に応じて変更することがある。また、就職活動、教職課程など可能な範囲で配慮する。

Reports by student presenters are used as subject material for thoughtful examination of ways of thinking in Civil Law and how facts are viewed. In addition, the following content is planned so that students may understand the influence that law has on our daily lives.

[1] Discussions with guest speakers

Legal practitioners such as lawyers and company executives are scheduled to speak about how laws are used in corporate activities and the lives of individuals and to engage in discussion with students (Usually, two guest speakers are invited).

[2] Court hearing

Students are scheduled to attend an actual court hearing and study court procedures (Usually, students attended a criminal court and a civil court).

Students have multiple opportunities to present reports about judicial precedents and cases they have examined independently. Too, students are required to make reports about discussions with guest speakers and court hearings.

Furthermore, please note that to achieve deeper understanding, students who wish to participate are required to participate actively and speak up.

Course content may be changed as necessary. To the extent possible, consideration is given to job searching activities and Teacher Training Courses.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション・自己紹介

2. レポーターの報告に基づく議論
3. レポーターの報告に基づく議論
4. レポーターの報告に基づく議論
5. レポーターの報告に基づく議論
6. レポーターの報告に基づく議論
7. レポーターの報告に基づく議論
8. レポーターの報告に基づく議論
9. レポーターの報告に基づく議論
10. レポーターの報告に基づく議論
11. 裁判手続の概観(刑事裁判)
12. 裁判手続の概観(刑事裁判)
13. 裁判手続の概観(民事裁判)
14. 裁判手続の概観(民事裁判)
15. 秋学期の題材に関する打合せ、裁判傍聴に基づくディスカッション
16. レポーターの報告に基づく議論
17. レポーターの報告に基づく議論
18. レポーターの報告に基づく議論
19. レポーターの報告に基づく議論
20. レポーターの報告に基づく議論
21. レポーターの報告に基づく議論
22. レポーターの報告に基づく議論
23. レポーターの報告に基づく議論
24. レポーターの報告に基づく議論
25. レポーターの報告に基づく議論
26. レポーターの報告に基づく議論
27. レポーターの報告に基づく議論
28. レポーターの報告に基づく議論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

レポーターは、報告予定の判例や事例の選択、検討及び報告準備。
レポーター以外のゼミ参加者は、報告が予定されている判例や事例の予習。
これ以外については、授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加の態度(発言の積極性など)(60%)/報告の内容(40%)
成績評価の前提として出席を重視するため、3/4 以上の出席を必要とする。また、提出物の提出期限は守られたい。

テキスト(Textbooks)

1. 山本和彦、2018、『よくわかる民事裁判[第3版]』、(株)有斐閣
 2. 三井誠・酒巻匡、2020、『入門 刑事手続法[第8版]』、(株)有斐閣
- 上記テキストは、裁判手続の概観を学ぶために使用する。

参考文献(Readings)

六法及び発表対象となる判例の分野に関する民法の教科書は、各自用意されたい。

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

原則として全授業回対面実施予定

<選考方法>

採用人数:14 名程度
配当年次:2 年次～4 年次

選考方法:レポート

①題目:以下の内容を全て含めて作成すること

- 【1】自己紹介(本演習の志望動機+大学生活で真剣に取り組んでいる活動(学内外を問わず)の紹介)
- 【2】民法判例百選掲載の判例(但し、平成元年以降の判例)から、関心を抱いた判例の紹介及びその判例を選択した理由(選択した判例を、ゼミで発表してもらうことがある)

②字数: A4 用紙 1 枚以内(字数制限なし)

演習論文:実施しない

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX672／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民法判例－判例を素材として民法を楽しむ－		
担当者名 (Instructor)	水野 賢一(MIZUNO KENICHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 実務家が担当		

授業の目標(Course Objectives)

民法判例を素材として、事案に関連する基礎知識や問題点についての議論やディベートをすることで、民法の理解を深めることを通して法律的な思考を楽しむ。

The objectives of this seminar are to deepen the students' understanding of Civil Law and to enjoy legal thought through discussions and debates about fundamental knowledge and problems pertaining to cases using Civil Law judicial precedents as source material.

授業の内容(Course Contents)

ゼミ員が選択して報告する民法判例に基づいた事案や基礎知識の検討と議論とが、授業の中心となる。
ゼミ員は、基本的に単独で春学期と秋学期に各1回以上、各自が選択した民法判例の報告を行う。また、秋学期初めには、民法判例を素材としたディベートを行う。
議論が授業の中心であるため、「法律解釈論に誤りはない」との考えで、臆せずに積極的に発言をする学生の参加を期待する。
出席・発言・判例報告(ディベート参加)で、単位取得となる。

The classes will focus on an examination and discussion of judicial precedents based on Civil Law judicial precedents selected and reported on by the seminar students.

Fundamentally, each seminar student will present a report on an individually selected Civil Law judicial precedent one or more times during the spring semester and the fall semester. In addition, a debate will be held during the beginning of the fall semester based on a Civil Law judicial precedent.

Because discussion will be the focus of the class, students are expected to participate by boldly and actively speaking up based on the idea that "there are no mistakes in legal interpretive theory."

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
3. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
4. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
5. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
6. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
7. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
8. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
9. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
10. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
11. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
12. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
13. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
14. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
15. ディベート
16. ディベート、もしくは、判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
17. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
18. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
19. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
20. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
21. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
22. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
23. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
24. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論

25. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
26. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
27. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論
28. 判例報告及びこれを素材とする事案検討等と議論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表の内容(40%)/授業態度(発言の積極性など)(60%)

原則として3/4以上の出席を必要とする。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 24名

配当年次: 3, 4年次

選考方法: レポート

①題目: 選択動機。なお、選択動機の本文とは別に次のことを記載する。

- 1 報告希望民法判例を1つ(例・最判平25. 2. 28民集67-2-343 相殺適状の要件)
- 2 民法判例百選Ⅰ～Ⅲの所持の有無と所持する版数(例・Ⅰ第7版 Ⅱ第8版 Ⅲ無)

②字数: 字数制限なし(A4用紙1枚以内)

演習論文: 実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX673／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	実社会での問題解決		
担当者名 (Instructor)	栗原 亮介(KURIHARA RYOSUKE)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 実務家が担当		

授業の目標 (Course Objectives)

- ① 実社会での問題を法的視点で見られるようにする。
- ② 問題解決に必要な能力を身につける。
- ③ 将来も付き合い合える仲間をつくる。

- (1) To become able to view real-world problems from a legal perspective.
- (2) To develop the abilities required to resolve problems.
- (3) To make friends that you can continue to associate with in the future as well.

授業の内容 (Course Contents)

立教大学卒業の弁護士が担当します。ゼミでは、問題解決について検討します。
進路にかかわらず、社会に出てから役立つ内容にします。

- ① 実社会の問題を検討する前提として、基本的な法的視点を学んでもらいます。そのうえで、現実起きた事件を検討してもらいます。
 - ② 相手の望んでいることは何なのか、何に苦しんでいるのかを把握するためにヒアリングについて学びます。模擬の相談をしながら、解決策を探ってもらいます。
 - ③ グループ発表では、チームで意見をまとめる過程を学んでもらいます。そして、プレゼンテーションとして、自分の主張を相手に分かりやすく伝えることを経験してもらいます。対立する当事者に分かれて、主張を争うこともあります。
 - ④ 実務での問題解決方法を学んでもらいます。夏には、裁判傍聴を予定しています。東京地方裁判所に刑事裁判を見に行きます。また、ゼミに各種実務家に来てもらい経験から学んだことを共有してもらいます。せっかくゼミに参加するのですから、意味のある時間にしたいと考えています。ゼミでは、必ず意見を言ってもらうことになります。どのような意見でも、建設的な議論になるように否定しませんので、意見を言う練習をゼミでしましょう。座っているだけでは評価が付きません。大変な部分もあると思いますが、実務対応の基礎をつくれるように一緒に取り組みましょう。
- 授業内容は、受講生の意見を聞いて変更することがあります。就職活動、教職課程など可能な範囲で配慮します。

This seminar will be led by a lawyer who graduated from Rikkyo University. In this seminar, students will study problem-solving. Regardless of the path you take, this information will prove useful when you go out into society.

- (1) Students will learn fundamental legal perspectives as premises for examining real-world problems. Moreover, they will examine cases which actually occurred based on the perspectives learned.
- (2) Students will learn how to interview people in order to understand what the other person wants and what is troubling them. Students will engage in mock counseling while exploring solutions.
- (3) In the group presentations, students will learn the process of summarizing opinions in a team. Then, as part of the presentations, they will experience how to communicate their own arguments to others in a manner which is easy to understand.
- (4) Students will learn how to resolve problems in business. Students are scheduled to attend a court hearing in the summer. Students will go see a criminal trial at the Tokyo District Court. In addition, various practitioners will visit the seminar to share what they have learned from their experiences.

Because students are making the effort to participate in the seminar, the instructor hopes to make the time spent meaningful. Students will be expected to voice their opinions in the seminar. In order to create a constructive discussion, no opinion will be denied whatsoever, so please use the seminar as an opportunity to practice speaking your own opinions.

The class content may be changed after listening to the opinions of the students. To the extent possible, consideration will be given to job searching activities and Teacher Training Courses.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション、自己紹介
2. 視点について(民事・刑事・公法での関係、主張と証拠、事実と評価等)

3. 視点について(民事・刑事・公法での関係、主張と証拠、事実と評価等)
4. ニュースをもとに検討
5. ニュースをもとに検討
6. グループ発表
7. グループ発表
8. 模擬相談
9. 模擬相談
10. 模擬相談
11. 模擬相談
12. 模擬相談
13. 裁判の流れ・傍聴準備
14. 裁判の流れ・傍聴準備
15. 実務家による授業
16. 実務家による授業
17. 実務家による授業
18. 実務家による授業
19. 紛争解決(対立形式)
20. 紛争解決(対立形式)
21. 紛争解決(対立形式)
22. 紛争解決(対立形式)
23. 紛争解決(対立形式)
24. 紛争解決(対立形式)
25. 紛争解決(対立形式)
26. 紛争解決(対立形式)
27. 人生で気を付けるべきこと(労働、賃貸借、相続、離婚、消費者問題など)
28. さいごに

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

レポート提出、グループ発表の準備。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加、授業態度(発言の積極性など)(70%)/レポート、発表内容(30%)

テキスト(Textbooks)

六法を確認できるようにしておくこと

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:3、4年

選考方法:レポート

①題目:「今一番興味がある身近な法律問題」

②字数:A4用紙1枚以内

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX674／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際法模擬裁判		
担当者名 (Instructor)	岩月 直樹(IWATSUKI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

国際法模擬裁判へ参加し、原則及び規則の実践的な解釈適用を通じて、国際法の理解を深める。

Learning public international law through moot court competition.

授業の内容 (Course Contents)

7月に東京で開催される国際法模擬裁判 Japan Cup (日本語)への参加を希望する学生を対象に、自主的に進める書面および弁論の準備作業に関する報告と準備内容の検討を行う。
なお、参加者が5名に満たない場合には、授業内容を変更することがある。

Preparing Memorials and Oral Pleadings on behalf of the Applicant State and the Respondent States upon the in-depth analysis and research of the topics dealt with in the Compromis (hypothetical facts as agreed between disputing States).
If participants are less than 5, the course contents will be changed.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション: 国際法の基本事項の説明
2. 事実関係の検討1: 事実の整理と論点の検討
3. 事実関係の検討2: 請求内容に関連する法的争点の特定
4. 法的争点の検討1: 法的争点に関わる知識の確認
5. 法的争点の検討2: 法的争点に関わる知識の確認
6. 書面準備1: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
7. 書面準備2: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
8. 書面準備3: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
9. 書面準備4: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
10. 書面準備5: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
11. 書面準備6: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
12. 弁論準備1: 裁判官の前で行う口頭弁論と質問への対応の仕方を検討
13. 弁論準備2: 裁判官の前で行う口頭弁論と質問への対応の仕方を検討
14. 大会への参加

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

模擬裁判大会へ参加することを希望する学生による自主的な活動を前提とするため、演習時間外でのサブゼミによる調査・検討へできる限り参加すること。その他、チームとして参加するため、作業を進める上では他の参加者との連絡・協力を適切に行うことが求められる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

書面作成への積極的貢献(35%) / 準備段階での議論への建設的貢献(30%) / 弁論準備における積極的貢献(35%)

テキスト (Textbooks)

1. 岩沢雄司、2020、『国際法』、東京大学出版会 (ISBN:9784130323918)
- 文献・資料は授業内で適宜指示する。

参考文献 (Readings)

- * 書面・弁論準備の中で自ら積極的に関連文献を調査することが求められる。
- * 国際法模擬裁判がどのような活動かについて、まず知りたい場合には、<<https://www.youtube.com/watch?v=dnccctJOQ1PI>>を参照するか、岩月に問い合わせること (naokiwa@rikkyo.ac.jp)。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:10 名程度

配当年次:2～4年

選考方法:レポート

①題目:本演習への参加を希望する理由・動機。

* 下記の参考にある HP の記載を参照のこと。

②字数:1,200 字以内。

演習論文:実施しない。

* 大学時代に集中して特定の問題について調査し研究したという実感を得たい学生、また立教大学代表としての模擬裁判大会への参加に意欲的な学生を歓迎する。

* 参考: <http://www.rikkyo.ne.jp/web/naokiwa/page_folder/moot_court.html>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX675／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	International Law Moot Court		
担当者名 (Instructor)	岩月 直樹(IWATSUKI NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition 日本国内予選へ参加し、原則及び規則の実践的な解釈適用を通じて、国際法の理解を深める。

Learning public international law through participating in Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition.

授業の内容(Course Contents)

米国で本大会が行われる Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition の日本国内予選(英語)に参加することを希望する学生を対象に、書面および弁論の準備作業に関する報告をふまえた準備内容の検討を行う。準備作業として、争点となる問題に関する専門的な英語文献・資料の検討を行うことが中心となる。
なお、参加者が5名に満たない場合には、授業内容を変更することがある。

Preparing Memorials on behalf of the Applicant State and the Respondent States upon the in-depth analysis and research of the topics dealt with in the Compromis (hypothetical facts as agreed between the disputing States).

If participants are less than 5, the course contents will be changed.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 国際法の基本事項の説明
2. 事実関係の検討1: 事実の整理と論点の検討
3. 事実関係の検討2: 請求内容に関連する法的争点の特定
4. 法的争点の検討1: 法的争点に関わる知識の確認
5. 法的争点の検討2: 法的争点に関わる知識の確認
6. 書面準備1: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
7. 書面準備2: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
8. 書面準備3: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
9. 書面準備4: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
10. 書面準備5: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
11. 書面準備6: 原告・被告それぞれの立場から請求事項を基礎づける主張の仕方を検討
12. 弁論準備1: 裁判官の前で行う口頭弁論と質問への対応の仕方を検討
13. 弁論準備2: 裁判官の前で行う口頭弁論と質問への対応の仕方を検討
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

模擬裁判大会へ参加することを希望する学生による自主的な活動を前提とするため、演習時間外でのサブゼミによる調査・検討へできる限り参加すること。その他、チームとして参加するため、作業を進める上では他の参加者との連絡・協力を適切に行うことが求められる。

積極的に英語文献を読み、英文での書面作成に取り組むことのできることを。

* 2月中旬に京都で行われる日本国内予選に、ゼミ合宿として参加する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

書面作成への積極的貢献(35%) / 準備段階での議論への建設的貢献(30%) / 弁論準備における積極的貢献(35%)

テキスト(Textbooks)

1. 岩沢雄司、2020、『国際法』、東京大学出版会 (ISBN:9784130323918)
 2. James Crawford. 2019. Brownlie's Principles of Public International Law. Oxford University Press (ISBN:9780198737445)
- 文献・資料は授業内で適宜指示する。

参考文献(Readings)

* 書面・弁論準備の中で自ら積極的に関連文献を調査することが求められる。
* Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition が何かを、まず知りたい場合には、次を参照く
<https://www.youtube.com/watch?v=3bj0Oak-ku0>。または、岩月まで問い合わせること(naokiwa@rikkyo.ac.jp)。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:10 名程度

配当年次:2~4年

選考方法:レポート

①題目:Philip C. Jessup International Law Moot Court Competition の日本国内予選への参加を希望する理由・動機。

* 下記参考にある HP の記載を参照のこと。

②字数:1,200 字以内。

演習論文:実施しない。

* 大学時代に集中して特定の問題について調査し研究したという実感を得たい学生の参加を歓迎する。

* 参考:<http://www.rikkyo.ne.jp/web/naokiwa/page_folder/moot_court.html>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX676／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「明治」で考える政治学		
担当者名 (Instructor)	菅原 光(SUGAWARA HIKARU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

本ゼミナールでは、明治時代の思想に関連するテキストを講読し議論します。講読する文献は明治時代の文化や社会、思想に関連するものですが、常に現代日本で発生している諸問題をも視野に入れ比較しながら読み、議論していきたいと思ひます。この作業を通じ、皆さんは、テキストを正確に読解し、発表し、議論する技術、レポートなどの文章執筆のための秘訣をも習得することになります。

The objectives of this seminar are to read and discuss about the texts about thought in the Edo period. In this works, we also consider contemporary Japan. Through this works, students will learn techniques such as reporting, presenting and discussing based on a careful review of the textbook.

授業の内容 (Course Contents)

近代化と西洋化とが同義だった日本の宿命として、法学・政治学などの社会科学は基本的に西洋(由来)の法学・政治学であり続けていますが、法が適用され政治が営まれる現実の日本社会は、江戸時代以来の伝統や歴史的経緯の中に位置付けられる存在です。そのため、制度の建前と社会の現実との間には、常に齟齬が生じざるを得ません。それに由来して、〈日本人には社会科学が真には理解し難い〉とか、〈舶来のものに過ぎない学問などは現実の(日本)社会では役に立たない〉などと言われることもあります。それは時に、〈「民主主義」とか「討論を通じた合意形成」などは、西洋のものであり、日本(人)には合わないのではないか〉といった議論につながることもあります。実際には、どうなのでしょう？本ゼミでは、西洋由来の社会科学を学ぶだけでは理解し得ない日本社会の実態を、明治時代の社会や思想にまで遡って検討したいと思ひます。

Because modernization and westernization were synonymous with Japan's destiny, social sciences such as Law and Political Science fundamentally continue to be Western (origin) Law and Political Science, but the actual Japanese society where law is applied and politics operate is positioned within the pre-westernized traditions and historical background. Therefore, discrepancies between the stated reasons of the system and the realities of society are unavoidable. Because of this, it is said that, "it is difficult for Japanese people to truly understand the social sciences" and "academic disciplines which are merely imported are useless in the real society (in Japan)." This sometimes leads to arguments that "democracy" and consensus building through discussion are Western constructs that do not suit Japan (or Japanese people). So, what is the actual truth? This seminar will examine the actual state of Japanese society, which cannot be understood with just a surface level study of "social sciences originating in the West", by adding "Japanese history and intellectual traditions."

授業計画 (Course Schedule)

1. 演習についてのガイダンスと履修者の自己紹介
2. 課題テキスト講読と討論
3. 課題テキスト講読と討論
4. 課題テキスト講読と討論
5. 課題テキスト講読と討論
6. 課題テキスト講読と討論
7. 課題テキスト講読と討論
8. 課題テキスト講読と討論
9. 課題テキスト講読と討論
10. 課題テキスト講読と討論
11. 課題テキスト講読と討論
12. 課題テキスト講読と討論
13. 課題テキスト講読と討論
14. 総合討論

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

コメントカード(課題テキストに関する感想、疑問点、意見など)の作成。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

予習(30%)/プレゼンテーション(30%)/授業中の討論(40%)

明治時代の思想や政治学に関心がある学生ばかりではなく、歴史や伝統文化には興味あるかな？という学生の履修も歓迎します。

テキスト (Textbooks)

1. 西周、2019、『西周 現代語訳セレクション』、慶應義塾大学出版会 (ISBN:978-4766426205)

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 15 人程度

配当年次: 2 年次以上

選考方法: レポート

① 題目: 自己紹介と本演習の履修を希望する理由

② 字数: 1000～1200 字程度

演習論文: なし

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX679／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Mediation and Consensus Building (Advanced Negotiation)		
担当者名 (Instructor)	渡邊 真由(WATANABE MAYU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

This seminar aims to develop an understanding of collaborative processes to help multi-stakeholder groups create solutions to complex problems.

授業の内容 (Course Contents)

Mediation is a private and consensual process in which an impartial person, a mediator, works with disputing parties to help them explore settlement, reconciliation, and understanding among them. This class is designed to enhance your facilitation skills and learn practical approaches to mediation. Throughout the semester, you will explore the strategies and theories of mediation to produce creative and mutually beneficial results on complex issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Understanding key mediation concepts (1)
2. Understanding key mediation concepts (2)
3. Understanding key mediation concepts (3)
4. Mediation exercise (1)
5. Mediation exercise (2)
6. Mediation exercise (3)
7. Mediation exercise (4)
8. Mediation exercise (5)
9. Mediation exercise (6)
10. Mediation exercise (7)
11. Mediation exercise (8)
12. Mediation exercise (9)
13. Mediation exercise (10)
14. Wrap-up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

This is an interactive seminar that will require weekly readings and preparation. Because the role-plays are the main activity, participation in the class discussion is valued; attendance, class participation, and written assignments are the core evaluation components.

As this is an advanced class of "Negotiation Basics," students interested in taking this seminar are recommended to take it in advance.

The students in this seminar may have the opportunity to participate in the ICC mediation competition (<https://2go.iccwbo.org/>).

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and class participation(70%)/Written assignment(30%)

テキスト (Textbooks)

Readings will be distributed in the class.

参考文献 (Readings)

1. Douglas Stone, Bruce Patton, Sheila Heen. 2010. Difficult Conversations: How to Discuss What Matters Most. Penguin Books (ISBN:978-0143118442)

2. Dr. Jennifer E. Beer PhD, Caroline C. Packard JD. 2012. The Mediator's Handbook: Revised & Expanded fourth edition. New Society Publishers (ISBN:978-0865717220)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 10-20

配当年次: 2-4 年次

選考方法: Short essay

① 題目: What do you hope to learn from this class?

② 字数: 400 words (approx.) (英語)

※春学期に基礎的なケースを使ってロールプレイを行い、秋学期ではより複雑なケースを扱うことでメディエーションのスキル向上を目指します。春学期及び秋学期の演習を連続して履修した学生の中から数名を選抜して、フランス・パリで開催される ICC Mediation Competition に出場する可能性があります(例年 2 月上旬に開催、コンペの出場に審査があるため海外渡航が確定しているわけではありません)。

※秋学期から履修することも可能です。

※学生の経験に応じて、授業計画 1～3 の "Understanding key mediation concepts" をロールプレイに変えることもあります。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX680／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Understanding Capital Markets		
担当者名 (Instructor)	ウィタカ, B. (WHITTAKER BRANDON M.)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The objectives of this course are to help students gain a good understanding of the laws that govern capital markets transactions, as well as what is like to practice law as a capital markets lawyer.

授業の内容 (Course Contents)

This course will first provide an overview of securities regulations and the role of the SEC. The course will also cover both public and private debt and equity offerings, including IPOs, SPACs and shelf offerings. The course will also touch on tender offers. Students will be asked to present to the class on a topic related to capital markets.

授業計画 (Course Schedule)

1. What are capital markets, and why do we need them anyway?
2. "Offers" and the role of the SEC
3. Equity offerings (part 1)
4. Equity offerings (part 2)
5. Debt offerings (part 1)
6. Debt offerings (part 2)
7. The underwriting agreement (part 1)
8. The underwriting agreement (part 2)
9. Ancillary documents
10. Tender offers (part 1)
11. Tender offers (part 2)
12. Student presentations (part 1)
13. Student presentations (part 2)
14. Final quiz

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Reflections, preparation for quizzes and for student presentation. See "Evaluation" for further information.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Reflection papers(10%)/Quizzes(15%)/Participation(15%)/Student presentations(35%)/Final quiz(25%)

Reflections: From the third week, students will write a short reflection (150 words or more) in response to questions I will provide regarding the reading. Reflections are due at least 24 hours prior to the seminar. As long as a student has completed the assignment on time, full credit will be given. If the reflection is received less than 24 hours before the seminar but by the time the seminar begins, 75% credit will be given. Reflections received after the seminar but within the day of the seminar will receive 50% credit. Reflections received later than the day of the seminar but prior to the end of the semester will receive 25% credit. All reflections must be received in order to receive credit for this seminar. Quizzes: From the third week, at the beginning of each seminar, students will take a quiz of 10 questions that will cover the information we discussed in the prior seminar. The two lowest scores will be dropped, and the remaining scores will be averaged. A student will not need to take the quiz corresponding to the information they presented in their student presentation. Participation: It is expected that this will be a small seminar. As such, students' active participation will be required. Each student should speak multiple times during each seminar, but at a minimum four times. Student Presentation: Each student will present (either individually or in a group) a topic related to the purchase agreement for 45 minutes. The presentation should include written materials. At the end of the presentation, each student presenter will be asked questions by fellow students and me. Students will be graded based on their level of preparation and the quality of the written materials. Final Quiz: The final quiz will be held during the time of the final seminar, and will cover material discussed during the entire semester, but mostly the material covered during the final four seminars. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the weekly quizzes, (c) attended all of the seminars, (d) taken and reviewed notes and (e) actively participated in each seminar,

they should be prepared for the final quiz.

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

Reading pack to be provided.

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:6

配当年次:2~4

選考方法:Short answer question

①題目:Why do you want to take this course?

②字数:100 words

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX681／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	オーストラリアの政治		
担当者名 (Instructor)	杉田 弘也(SUGITA HIROYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

オーストラリア政治に関する英語文献の講読を通じ、現代社会・政治について考える。

The objective of this seminar is to think about contemporary society and politics by reading literature in the English language about Australian politics.

授業の内容(Course Contents)

2022年5月の連邦総選挙において、アンソニー・アルバネージ率いるオーストラリア労働党が8年9か月振りに政権に復帰した。この選挙では、政府の気候変動政策や政治倫理の欠如に業を煮やしたプロフェッショナルな職業に就く女性たちが、無所属候補として当選を果たし、オーストラリアの政党制度を根本から変えようとしている。新政権は、外交面で積極的な動きを見せると同時に、先住民を憲法の中に位置づけるため憲法改正にも着手している。この演習では、そういった動きに関する英語文献を読み、ともに考えていきたい。

At the May 2022 Federal elections, the Australian Labor Party, led by Anthony Albanese, returned to power for the first time since September 2013. In a meanwhile, group of articulate professional women, who have had enough in the previous conservative government's inaction on climate change and integrity issues, successfully obtained seats previously held safely by the Liberal Party and appeared to cause the realignment of Australia's party system. The new government has embarked on dynamic foreign policy. The government also pledged to amend the Constitution so that the First Nations peoples' Voice can be reflected to legislation. This year, we are going to read and discuss the materials on these remarkable developments.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 1
3. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 2
4. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 3
5. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 4
6. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 5
7. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 6
8. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 7
9. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 8
10. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 9
11. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 10
12. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 11
13. オーストラリアの政治・社会に関する英語文献の講読 12
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

配付された文献を読み、疑問点や自分の意見を明確にしたうえで授業に臨むこと

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/出席・授業への参加(30%)/報告(35%)

テキスト(Textbooks)

印刷教材をそのつど配布する

参考文献(Readings)

授業中随時紹介する

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 10 名程度

配当年次: 2～4 年次

選考方法: レポート

① 題目: この演習を志望する理由

② 字数: 1000 字 (A4 用紙 1 枚) 程度

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX682／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	現代世界と宗教		
担当者名 (Instructor)	澤田 初美(SAWADA HATSUMI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

- (1) 世界の主な宗教、およびこれらの宗教に関連して現代世界が直面している課題について、基礎的な知識を得ること
- (2) ノートの取り方やプレゼンテーション能力といったアカデミック・スキルを向上させ、主体的に学習する姿勢を身につけること
- (3) 英語力の向上

- (1) To acquire the basic knowledge about the world's major religions, as well as modern global issues related to them
- (2) To improve academic skills, such as note-taking and presentation skills, and independent learning attitudes
- (3) To improve English language skills

授業の内容 (Course Contents)

使用言語

日本語および「簡単な」英語の二言語を使用します。ノート作成やプレゼンテーションは英語で行うことが望ましいですが、必要に応じ日本語を使ってもかまいません。ペアワークは主に英語、グループディスカッションは日本語で行います。語学に自信がない学生も歓迎しますので、安心して参加してください。

アクティブラーニング

このコースでは、学生主体のいわゆるアクティブラーニング方式を採用します。講師はほとんど講義を行いません。学生自身が自分の調査テーマについて学んだことをお互いに説明しあいます。授業中は、(1)個人ワーク、(2)ペアワーク、(3)グループワークが課されます。

授業中に行う課題と作業

マインドマップやリサーチノートの作成、ミニプレゼンテーションなど、学生が主体となって作業します。

リサーチ資料

講師が授業中に、またはオンライン上で参考資料を提示します。あるいは、学生が自分自身で資料を用意することもできます。

Languages:

The course is conducted bilingually in Japanese and simple English. Although you are encouraged to take notes and give presentations in English, you may always use Japanese whenever necessary. In pair work sessions, you are expected to speak bilingually, while in group discussions, you will use Japanese. You are welcome even if you are not very confident with your English skills. Don't hesitate to join us.

Active learning:

This course is student-centered. The instructor rarely gives you lectures. You are the ones who explain what you have learned about your research topics. In each class, you will be asked to work (1) on your own, (2) in a pair, or (3) in a group.

In-class tasks and assignments:

You will be assigned different types of student-centered tasks, such as mind mapping, research note-taking, and mini-presentations.

Research materials:

The instructor will provide a list of research materials in class and online. Alternatively, you can search for materials yourself.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス／リサーチサイクル1:リサーチトピックの選択／ノートテイキング(1)
2. リサーチサイクル1:ノートテイキング(2)
3. リサーチサイクル1:ノートテイキング(3)
4. リサーチサイクル1:ノートテイキング(4)

5. リサーチサイクル1:ノートテイキング(5)
6. リサーチサイクル1:プレゼンテーション準備
7. リサーチサイクル1:プレゼンテーション
8. リサーチサイクル2:リサーチトピックの選択/ノートテイキング(1)
9. リサーチサイクル2:ノートテイキング(2)
10. リサーチサイクル2:ノートテイキング(3)
11. リサーチサイクル2:ノートテイキング(4)
12. リサーチサイクル2:ノートテイキング(5)
13. リサーチサイクル2:プレゼンテーション準備
14. リサーチサイクル2:プレゼンテーション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・担当するテキストの精読。
- ・授業中に与えられた課題が終わらなかった場合、翌週までに完成させておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への積極的参加(30%)/プレゼンテーション(40%)/提出物(30%)

テキスト(Textbooks)

ウェブサイトから利用できるオンライン資料を適宜提示する。また、Google Drive 上で資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. キュング、ハンス、2004、『DVD 世界諸宗教の道——その跡を求めて(全7巻)』、丸善

その他(HP 等)(Others(e.g. HP))

<履修者の選考について>

採用人数: 20人まで

配当年次: 2-4年

選考方法: 以下の内容を A4 用紙1枚以内に記入。

- (1) 氏名、所属、学年、学籍番号
- (2) 最新の TOEIC スコア
- (3) 以下の3つの問いに対する回答(日本語または英語で記入)

Q1. 以下のうちあなたが最も興味を惹かれるトピックは何ですか? (Which of the following topics are you most interested in?)

1. ユダヤ教 (Judaism)
2. キリスト教 (Christianity)
3. イスラーム (Islam)
4. 仏教 (Buddhism)
5. ヒンドゥー教 (Hinduism)
6. 上記以外 (Other than the above)

Q.2 そのトピックについてあなたが既に知っていることは何ですか? What do you already know about the topic?

Q.3 そのトピックについて、あなたは特に何を知りたいですか? What exactly do you want to know about the topic?

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX683／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	The Power of Music: Songs that Shape Our World		
担当者名 (Instructor)	バード, B. (BYRD BRIAN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

To learn the lyrics of famous songs
 To consider how music influences our life and society
 To know the stories and history of songs and songwriters
 To better understand our complex, troubled, and beautiful world through music.

授業の内容 (Course Contents)

This class introduces music that shapes our world.
 We listen to and discuss songs and their meaning for our life and society.
 We use videos, movie clips and live music (violin, gospel singer, etc.).
 Students share music they find meaningful.
 Students write short reflections after class.
 Students write a final reflection paper after the last class.

授業計画 (Course Schedule)

1. Know Music. Know Life.
Music and Me
2. Our Music Memories
Amazing Grace and Social Change
3. Amazing Grace Movie and Song
4. The Dream and Songs of Martin Luther King
5. The Beatles
Halloween
6. Disney's Magic Kingdom
7. Musicals: The Sound of Music, etc.
8. Home
Furusato and Country Roads
9. Art and Music: Vincent van Gogh's Starry, Starry Night
10. What is Christmas?
Silent Night, Joy to the World, Handel's Messiah
11. Santa Claus in Coming to Town?
In Class Christmas Party
12. Music and Friendship
13. I Can Only Imagine: Music of the Heart
John Lennon's Imagine
14. Classical music
Review and Reflections

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students listen to songs and fill in missing lyrics.
 Students review and preview music covered in class.
 Students explore the stories behind songs and songwriters.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Class reflections and worksheets(60%)/Class discussions and group work(20%)/Final Reflection Paper(20%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<Selection method>

Recruits: 10–30 people

Dividend year: 2nd to 4th year

Selection method: application only

※Lottery in the case of a large number of applicants

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX684／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	政府を新たにつくる(スコットランド)/Creating New Government in Scotland		
担当者名 (Instructor)	一ノ瀬 佳也(ICHINOSE YOSHIYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

本講義においては、いかに政府を新たにつくるのかについての理解を深めていくことになる。特に、スコットランドの‘Devolution’ (自治権委譲) に焦点をあて、地方自治の役割と意義について学んでいく。

In this lecture, students can understand how people can create a new government. Especially, we focus on ‘Devolution’ in Scotland, and learn the role and meaning of local government.

授業の内容 (Course Contents)

本授業においては、『スコットランド政治』のテキストをとりあげ、いかにして自分たちの政府をつくりだすことができるのかについて学んでいく。その中で、「自由」や「法」、「統治」、「経済」、「国際関係」に焦点をあて、それらの課題について議論していく。

本授業は「演習」形式で行う。報告者が指定されたテキストの範囲についての発表を行う。受講する学生には、授業において積極的に発言することを求める。

In this lecture, students will read a book concerning Scottish Politics, and learn how people can create a new government. Especially, we will focus on Liberty, Law, Government, Economy, International relationship and discuss with their issues in Scotland.

This lecture has a style of “seminar”. A reporter must have a presentation concerning the pages of the text that they are specified. Students need to speak in this seminar, positively.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. What is Scottish Politics
3. Devolution: Historical and Social and Economic Context
4. Scotland's Political Parties
5. Scottish Elections and Voting Behaviour
6. Scottish Parliament and ‘New Politics’
7. The Scottish Government
8. Governance Beyond the Scottish Government
9. Pressure Politics and the ‘Scottish Policy style’
10. Public Policy in Scotland since Devolution
11. Intergovernmental Relations and Multilevel Governance
12. Money and Power: Public Expenditure in Scotland
13. Constitutional Change and the Referendum on Independence
14. Conclusion

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

受講生は指定されたテキストの範囲を毎回読んできてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加度(40%)/プレゼンテーション(30%)/コメントペーパー(30%)

テキスト (Textbooks)

1. Paul Cairney, Neil McGarvey, 2013. Scottish Politics(second edition). Red Globe Press (ISBN:978-0230390461)

参考文献 (Readings)

1. リチャード・キレン、2002、『図説 スコットランドの歴史』、彩流社 (ISBN:978-4882027720)

2. 高橋哲雄、2004、『スコットランド 歴史を歩く』、岩波書店 (ISBN:978-4004308959)
3. Michael Keating, Craig Mcangus (ed.). 2020. The Oxford Handbook of Scottish Politics. Oxford Univ Pr (ISBN:978-0198825098)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:10 名

配当年次:2 年次

選考方法: レポート

① 題目: 本演習を志望する理由とテーマへの関心を自由に記してください。

② 字数: 1000 字以上

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX685／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Modern East Asian Political History		
担当者名 (Instructor)	周 雨霏(ZHOU YUFEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

第一に、19世紀半ば以降の東アジア政治史の展開について通史的な知識を獲得すること。第二に、現在の東アジア地域、特に米中対立を背景に日中関係における対立や紛争を、その歴史的背景をふまえて分析できること。

This course aims (1) to outline the historical process of the geopolitical transformation in East Asia since the mid-nineteenth century, (2) to analyze the rising friction and conflict in East Asia against the background of the escalating US-China rivalry from a historical and comparative perspective.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、前近代の朝貢体制の崩壊からグローバル化時代までの東アジア国際政治の形成と展開を概観し、経済・社会史及び文化・思想史からの視点を取り入れながら、主要な歴史事象とその背景を解説する。

This course provides an overview over the geopolitical transformation in East Asia from the dawn of the tribute-system in the mid-nineteenth century to the age of globalization. By integrating perspectives from economic history and intellectual history, this course seeks to analyze the key political events in the context of the region's social and cultural developments.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. East Asia in the 19th Century and the Tribute System
3. "Western Impact" and the Transformation of East Asia: World Market and the Industrial Revolution
4. "Western Impact" and the Transformation of East Asia: Social Movements and the Constitution
5. "Western Impact" and the Transformation of East Asia: Modernization of Knowledge
6. From the Sino-Japanese War (1894-1895) to the Russo-Japanese War (1904-1905)
7. Empire and Colonialization: Taiwan and Korea
8. WWI and the World Order under Washington Naval Treaty
9. Russian Revolution and the Communist Movement in East Asia
10. From the Great Depression to the Manchurian Incident
11. The Asian-Pacific War: Chronology and Background
12. The Asian-Pacific War: Mass Mobilization
13. The Asian-Pacific War: Ideology and Discourses
14. Students' Presentation

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Preparatory studying and review of previously learnt material for each class are compulsory.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/Student Presentation(30%)/In-Class-Performance(30%)

テキスト (Textbooks)

講義で用いる史料・資料を講義の前に配布する。
Reading materials will be distributed in advance.

参考文献 (Readings)

1. Eckhardt Fuchs, Tokushi Kasahara, Sven Saaler (eds.). 2018. A New Modern History of East Asia.. V&R unipress
2. 田中明彦・川島真編、2020、『20世紀の東アジア史』、東京大学出版会

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15

配当年次:over second grade

選考方法:submission of essay

①題目:reason to take this seminar

②字数:ca. 200 words (English)

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX686／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Modern East Asian Political History		
担当者名 (Instructor)	周 雨霏(ZHOU YUFEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

第一に、1945 年以降の東アジア政治史の展開について通史的な知識を獲得すること。第二に、現在の東アジア地域、特に米中対立を背景に日中関係における対立や紛争を、その歴史的背景をふまえて分析できること。

This course aims (1) to outline the historical process of the geopolitical transformation in East Asia since 1945, (2) to analyze the rising friction and conflict in East Asia against the background of escalating US-China rivalry from a historical and comparative perspective.

授業の内容 (Course Contents)

本講義では、終戦直後から今現在に至るまでの東アジア国際政治の形成と展開を概観し、経済・社会史及び文化・思想史からの視点を取り入れながら、主要な歴史事象とその背景を解説する。

This course provides an overview over the geopolitical transformation in East Asia from 1945 to nowadays. By integrating perspectives from economic history and intellectual history, this course seeks to analyze the key political events in the context of the region's social and cultural developments.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Total War and the Mass Mobilization
3. Japan under the Occupation
4. Japan and Asia: Towards the Reconciliation
5. Japan and Asia: US Military Bases in Japan
6. Japan and Asia: The "Zainichi" Koreans in Japan
7. The Sino-Soviet Split
8. The "Global 1968" and the New Left Movements
9. The Vietnam War and the Antiwar Movement in East Asia
10. The "East Asian Miracle"
11. The "History Problem": Textbook Controversies
12. The "History Problem": Contradicting Narratives of Atom Bombing in Hiroshima and Nagasaki
13. The "History Problem": The "Comfort Women" Issue
14. Students' Presentation

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Preparatory studying and review of previously learnt material for each class are compulsory.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/Student Presentation(30%)/In-Class-Performance(30%)

テキスト (Textbooks)

講義で用いる史料・資料を講義の前に配布する。
Reading materials will be distributed in advance.

参考文献 (Readings)

Eckhardt Fuchs, Tokushi Kasahara, Sven Saaler (eds.), A New Modern History of East Asia. Göttingen: V&R unipress, 2018.

田中明彦・川島真編『20 世紀の東アジア史』(I.)、東京大学出版会、2020 年。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15

配当年次: over second grade

選考方法: submission of essay

①題目: reason to take this seminar

②字数: ca. 200 words (English)

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX687／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Making M&A Mean Something		
担当者名 (Instructor)	ウィタカ, B. (WHITTAKER BRANDON M.)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The main objective of this course is to provide students with an opportunity to gain a thorough understanding of a core M&A transaction document. By the end of the course, students should know what a purchase agreement is, when one is used, who the typical parties are, what those parties' motivations are, typical ancillary agreements to the purchase agreement and typical issues that arise as part of the negotiation process.

授業の内容 (Course Contents)

The course will begin with an overview of the purchase agreement. Each week, we will read portions of an actual purchase agreement and supplementary materials and then discuss those materials in the seminar. Toward the end of the seminar, a student (or group of students) will present about a topic related to the purchase agreement for half of the seminar time. The remaining half of the time will be used for discussion and/or to provide supplementary information regarding the topic.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course overview and discussion
2. Target assets and liabilities, consideration, timing to signing (part 1)
3. Target assets and liabilities, consideration, timing to signing (part 2)
4. Reps and warranties (part 1)
5. Reps and warranties (part 2)
6. Employees and employment law issues
7. Intellectual property
8. Closing conditions
9. Survival and boilerplate provisions
10. Introduction to Private Equity (part 1)
11. Introduction to Private Equity (part 2)
12. Student presentations
13. Student presentations
14. Final quiz

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Reflections, preparation for quizzes, preparation for student presentation. See "Evaluation" for further information.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Reflection papers(10%)/Quizzes(15%)/Participation(15%)/Student presentations(35%)/Final quiz(25%)

Final Quiz: The final quiz will be held during the time of the final seminar, and will cover material discussed during the entire semester, but mostly the material covered during the final four seminars. If students have (a) done and reviewed all of the readings, (b) reviewed and understood the answers to the weekly quizzes, (c) attended all of the seminars, (d) taken and reviewed notes and (e) actively participated in each seminar, they should be prepared for the final quiz.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

Reading pack to be provided.

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:6

配当年次:2 ~ 4

選考方法:Short answer question

①題目:Please tell me why you would like to take this course. The response should be at least 100 words long.

②字数:

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX688／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Basic		
担当者名 (Instructor)	クッション(CUSHION NICHOLAS J.)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of the class is to give students an opportunity to use English in a fun and engaging way through the discussion of political issues.

Students will enhance their vocabulary, use of expressions and confidence with using English.

This class is for students who have little or no experience in expressing their opinions in English.

The objective of the class is to give students an opportunity to use English in a fun and engaging way through the discussion of political issues.

Students will enhance their vocabulary, use of expressions and confidence with using English.

This class is for students who have little or no experience in expressing their opinions in English.

授業の内容 (Course Contents)

The course will be a combination of topics chosen by the instructor and presentations given by students.

Topics and presentations will focus on a different political issue each week.

Students will discuss their opinions in small and large groups.

The instructor will prepare reading materials and arrange speaking activities.

The course will be a combination of topics chosen by the instructor and presentations given by students.

Topics and presentations will focus on a different political issue each week.

Students will discuss their opinions in small and large groups.

The instructor will prepare reading materials and arrange speaking activities.

授業計画 (Course Schedule)

1. Class introduction
2. Current discussion topic presented by instructor
3. Student presentation(s) and follow-up activities
4. Current discussion topic presented by instructor
5. Student presentation(s) and follow-up activities
6. Current discussion topic presented by instructor
7. Student presentation(s) and follow-up activities
8. Current discussion topic presented by instructor
9. Student presentation(s) and follow-up activities
10. Current discussion topic presented by instructor
11. Student presentation(s) and follow-up activities
12. Current discussion topic presented by instructor
13. Student presentation(s) and follow-up activities
14. Current discussion topic presented by instructor

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Presenter(s) will prepare a presentation.

Students are expected to be prepared to discuss their ideas and opinions.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Class participation(70%)/Presentations(30%)

Students must attend at least 70% of classes to be eligible for a grade

テキスト (Textbooks)

Handouts will be given by the instructor.

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数： 10-30 名

配当年次： 2-4 年次

選考方法： Report

① 題目： What do you want to achieve in this class?

② 字数： 250 words in English

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX689／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Intermediate		
担当者名 (Instructor)	クッション(CUSHION NICHOLAS J.)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The objective of the class is to give students an opportunity to use English in a fun and engaging way through the discussion of political issues.

Students will enhance their vocabulary, use of expressions and confidence with using English.

This class is for students who have some experience in expressing their opinions in English.

The objective of the class is to give students an opportunity to use English in a fun and engaging way through the discussion of political issues.

Students will enhance their vocabulary, use of expressions and confidence with using English.

This class is for students who have some experience in expressing their opinions in English.

授業の内容 (Course Contents)

The course will be a combination of topics chosen by the instructor and presentations given by students.

Topics and presentations will focus on a different political issue each week.

Students will discuss their opinions in small and large groups.

The instructor will prepare reading materials and arrange speaking activities.

The course will be a combination of topics chosen by the instructor and presentations given by students.

Topics and presentations will focus on a different political issue each week.

Students will discuss their opinions in small and large groups.

The instructor will prepare reading materials and arrange speaking activities.

授業計画 (Course Schedule)

1. Class introduction
2. Current discussion topic presented by instructor
3. Student presentation(s) and follow-up activities
4. Current discussion topic presented by instructor
5. Student presentation(s) and follow-up activities
6. Current discussion topic presented by instructor
7. Student presentation(s) and follow-up activities
8. Current discussion topic presented by instructor
9. Student presentation(s) and follow-up activities
10. Current discussion topic presented by instructor
11. Student presentation(s) and follow-up activities
12. Current discussion topic presented by instructor
13. Student presentation(s) and follow-up activities

14. Current discussion topic presented by instructor

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Presenter(s) will prepare a presentation.

Students are expected to be prepared to discuss their ideas and opinions.

成績評価方法・基準(Evaluation)

Class Participation(70%)/Presentation(30%)

Students must attend at least 70% of classes to be eligible for a grade

テキスト(Textbooks)

Handouts will be given by the instructor

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 10~30 名

配当年次: 2~4 年次

選考方法: Report

① 題目: What do you want to achieve in this class?

② 字数: 250 words in English

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX691／法政外国語演習<フランス語> (Seminar on Law and Politics(French))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	読解力アップの手引き		
担当者名 (Instructor)	斎藤 かぐみ(SAITO KAGUMI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

フランス語の初級文法を学んだ者が、社会科学分野その他の語彙を増やしつつ、自力で文献に当たっていくためのセンスと自信を養う。

Non-beginner students will increase their vocabulary (of social sciences and others) and enhance their reading skills of the French language. Through such practices, they will develop self-confidence for future reading on their own initiative.

授業の内容 (Course Contents)

平易なフランス語で書かれた教科書から 10 本あまりのテキスト(本文は各 2 ページ)を選び、文法事項を確認しながら読解を進める。2 回目以降は交互に分担し、授業時に教員のサポートを受けつつ発表する。

You will read a dozen texts (2 pages by text), to be selected from a textbook written in plain French, while checking concerned grammar points. From the second session, you will take turns to present your work in class with the support of the instructor.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション(テキスト選定と次回からの講読に先立って、履修生の関心分野や文法知識を教員が把握し、あわせて練習問題ページの扱いについても相談したい)
2. 講読 1
3. 講読 2
4. 講読 3
5. 講読 4
6. 講読 5
7. 講読 6
8. 講読 7
9. 講読 8
10. 講読 9
11. 講読 10
12. 講読 11
13. 講読 12
14. 講読 13

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

発表の有無にかかわらず、予習したうえで授業に臨みましょう(語義が多岐にわたる単語には注意、特に電子辞書使用の場合には)。予習時には、何がわからないのか(構文、語義、比喩の解釈、背景知識、等々)を明確化しておきましょう。復習時には、それらに加え、読み違えた点についても同様に振り返りましょう。文法をひととおり終えたレベルを想定していますが、条件法・接続法、中性代名詞など必要に応じて補足を加えます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

準備学習と授業参加の度合い(65%)/最終レポート(Final Report)(35%)

テキスト (Textbooks)

1. 石井洋二郎 / ミシェル・サガズ、2023、『時事フランス語 - 2023 年度版 -』、朝日出版社 (ISBN:978-4-255-35343-2)

参考文献 (Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

＜選考方法＞ 採用人数：～15 名程度

配当年次：2 年次以上

選考方法：レポート

1 題目：本演習を希望する動機

2 字数：400 字程度

「立教時間」を用います。授業支援システム(Blackboard, Canvas LMS)も必要に応じて併用する可能性があります。学期開始の少し前から随時チェックしてください。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX692／法政外国語演習<フランス語> (Seminar on Law and Politics(French))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	フランス語の読解を通じて、映画と映画を取り巻く環境、および、その著作権について考える。		
担当者名 (Instructor)	土田 環(TSUCHIDA TAMAKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

フランス語の読解を通じて社会科学の基礎的な仏単語や構文を学び、レポートや卒業論文を書く際に仏語文献を参照できるような力を身につける。また、テキストの内容を発展させながら、映画そのものについて理解を深める。

The objectives of this seminar are to learn the fundamental French words and sentence syntax in the field of social sciences by reading French and to develop the ability to reference literature written in French when writing a report or a graduation thesis. In addition, while expanding on the content of the text, students will deepen their understanding of the relationship between movies and copyright.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、著作物を「精神の著作物」と規定するフランス著作権法や、著作権に関する新聞記事の読解を最終的な目的として、芸術ととりわけ映画の領域で作者の権利が問題となるさまざまな事例を考察する(知的財産権、盗作と模倣の差異、国際共同製作など)。

ただし、受講者のフランス語レベルも考慮したうえで、映画に関する比較的簡単なテキストを読みながら、基本的な構文読解を行うことから始める(1年次で学ぶフランス語初級文法程度)。フランス語既習者が望ましいが、未習ないしは自信のない学生は、初級文法を積極的に自習・復習してほしい。

フランス語の復習をわかりやすく行えるように授業を進行するが、同時に、映画祭や映画館を紹介し、履修者が映画により親しむことができるようにつとめる。

This seminar will examine various cases where the rights of the creator become a problem, particularly the field of movies within the arts, with the ultimate goal of reading French Copyright Law, which stipulates that works are “mental works” and newspaper articles about copyright (including issues such as personality rights, the differences between plagiarism and imitation, joint international productions). However, after considering the students’ level of French language, students will read a comparatively simple textbook about movies while initially reading basic sentence structures (roughly equivalent to the elementary French grammar learned during the first year). The review will be conducted at a fast pace, so participants should make efforts to prepare in advance.

In addition to using visual materials as needed, the seminar plans to create many opportunities to become exposed to visual culture through movie festivals and participation in symposiums. The instructor hopes that this seminar will lead to an overall understanding of copyright which is not limited to France.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス—フランス語の学習法
2. テキスト読解—映画の誕生(1)
3. テキスト読解—映画の誕生(2)
4. テキスト読解—映画と観客(1)
5. テキスト読解—映画と観客(2)
6. テキスト読解—映画とテレビ(1)
7. テキスト読解—映画とテレビ(2)
8. テキスト読解—映画の描く歴史(1)
9. テキスト読解—映画の描く歴史(2)
10. テキスト読解—映画と法(1)
11. テキスト読解—映画と法(2)
12. テキスト読解—映画と法(3)
13. テキスト読解—映画と文化政策(1)
14. テキスト読解—映画と文化政策(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

読解するテキストに関して、単語を調べ、構文読解をあらかじめ終えた状態で演習にのぞむこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/担当報告の内容(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 清岡智比古、2021、『ル・フランセ・クレール[三訂版]』、白水社 (ISBN:9784560061381)
 2. 清岡智比古、2019、『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある！改訂新版』、白水社 (ISBN:9784560088517)
- 読解するテキストは、基本的にはプリント配布する。文法の参考書については、必ず購入しなければならない、というわけではないが、上記を参照して、自身の使いやすいものを用意すること。

参考文献 (Readings)

1. ミシェル・フーコー、1990、『作者とは何か？』、哲学書房 (ISBN:4886790429)
2. 宮沢溥明、1998、『著作権の誕生 フランス著作権史』、日本ユニ著作権センター (ISBN:4872334280)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数： 15 名程度

配当年次： 2～4 年次

選考方法：申込による(丁寧に文法を復習するので仏語未修者でも履修することは可能だが、応募者多数の場合には抽選とし、仏語既修者を優先する)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX693／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Introduction to Aviation Law		
担当者名 (Instructor)	コラサ S. (KOLASA SOKOLOWSKA K.)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

The course constitutes an introduction to the public and private aviation law. The objective of the course is to examine the role of law and politics in the regulation of air transport, as well as to provide an overview of selected legal regimes governing various aspects of aviation activities. By the end of this course students should be able to synthesize and use information from all the topics discussed in the classes.

授業の内容 (Course Contents)

The course covers basic remarks on fundamental rules governing the use of airspace, aviation safety, aviation security, air carrier liability, aircraft financing, and rights of passengers. The course addresses also emerging issues in the area of aviation law, such as artificial intelligence or drones.

授業計画 (Course Schedule)

1. Aviation industry: factual background, current uses and participants in aviation activities
2. Sources of aviation law
3. Principal rules governing the use of airspace
4. Aviation organizations and their functions
5. Aviation safety and aircraft accident investigation
6. Aviation security
7. Passenger rights
8. Liability and insurance in aviation industry
9. Aircraft financing
10. Emerging issues: environmental challenges
11. Emerging issues: cyber security and application of artificial intelligence in aviation
12. Emerging issues: increasing automation and unmanned aerial aircraft ("drones")
13. Questions – answers, general discussion, wrap up
14. Final test

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Explorative learning will be announced as needed.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/Paper(40%)/Presentation(20%)

20 % will be based on 10 minute presentation, 40% will be based on a 3–5 page paper. The paper should be double spaced, 12 point font Times New Roman (10 point for footnotes), and is due on the last day of class. It can be the same topic as the presentation. 40% of the grade in this course will be based on student performance on the final test.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

- Number of students to attend 25
- Acceptable grade 2・3・4

- Selection method application only
- ※ Lottery in the case of a large number of applicants

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX694／法政外国語演習<ドイツ語> (Seminar on Law and Politics(German))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ドイツ憲法の基礎		
担当者名 (Instructor)	玉蟲 由樹(TAMAMUSHI YUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

ドイツの法学文献の講読を通じて、ドイツ法の理解およびドイツ語能力を向上させる。

The objectives of this seminar are to improve the students' understanding of German law and their German language ability by reading literature about German law.

授業の内容(Course Contents)

ドイツ法一般について、ドイツの大学法学部における外国人留学生、エラスムスプログラム学生向けに執筆された比較的容易に読めるテキスト等を中心に講読する。その後は受講生のレベルとニーズに応じ決定するが、現在のところ、ドイツ憲法に関する文献を講読したいと考えている。

ドイツ法に興味があれば、まったくのドイツ語初学者でも歓迎する。ただしドイツ語レベルにかかわらず、受講者には等しく翻訳等の担当をお願いするので、その労力をいとわないことが求められる。もちろん法学ないし政治学研究者を目指す者も歓迎する。

The reading will focus on a comparatively easy-to-read textbook about general German law which is written for international students in the College of Law and Politics at German universities and students in the ERASMUS program. Subsequent reading will be determined according to the students' level and needs, at present the instructor would like to read literature about the German Constitution.

Students with an interest in German law are welcome to participate even if they are complete beginners in the German language. However, regardless of the level of German language, students will be equally given translation and other assignments, so a willingness to do the work is required. Of course, students aiming to become Law and Political Science researchers are also welcomed to participate.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ドイツ法入門(1)
3. ドイツ法入門(2)
4. ドイツ法入門(3)
5. ドイツ法入門(4)
6. ドイツ法入門(5)
7. ドイツ憲法の基礎(1)
8. ドイツ憲法の基礎(2)
9. ドイツ憲法の基礎(3)
10. ドイツ憲法の基礎(4)
11. ドイツ憲法の基礎(5)
12. ドイツの憲法裁判(1)
13. ドイツの憲法裁判(2)
14. ドイツの憲法裁判(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前にテキストを読んで来ること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加(70%)/課題など(30%)

テキスト(Textbooks)

コピーを配布する。

参考文献(Readings)

1. ドイツ憲法判例研究会、『ドイツの憲法判例1～4』、信山社
2. 村上淳一・守矢健一／ハンス・ペーター・マルチュケ、2018、『ドイツ法入門[改訂第9版]』、有斐閣 (ISBN:9784641048225)
3. 大林啓吾・見平典、2016、『憲法用語の源泉をよむ』、三省堂 (ISBN:9784385320854)
4. 畑尻剛・工藤達朗編、2013、『ドイツの憲法裁判(第2版)』、中央大学出版部 (ISBN:9784805705872)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 20名

配当年次: 2～4年次

選考方法: レポート

①題目: 自己紹介および志望動機について

②字数: 1000字程度

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX695／法政外国語演習<中国語> (Seminar on Law and Politics(Chinese))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	中国における政治・経済・法律及び教育などの仕組み (最新の新聞と動画などを通して習近平政権の中国を解明する)		
担当者名 (Instructor)	王 佩民(WANG PEIMIN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

中国は現在世界一人口が多い国で中国共産党により統治されるヘゲモニー政党制である。中国が予想より5年早い2028年に米国を追い抜き、世界1位の経済大国になるだろうと、英国のシンクタンク“経済経営研究センター(CEBR)”が推測した。新型コロナウイルス感染症パンデミックに対する政府の対応の差により、中国の経済回復が米国をリードしている点が反映されているということである。この講義は中国の政治、経済、社会、法律と教育などの仕組みを知ることを目標とする。

China is the country with the world's largest population, and it is a hegemonic party system governed by the Chinese Communist Party. In 2028, the GDP of China surpassed Japan to become the number two leading economic power behind the United States. The objective of this seminar is to understand the Chinese system.

授業の内容 (Course Contents)

この演習では、中国の政治、経済、社会、法律と教育などの仕組みを理解するために、ドキュメンタリーや視聴覚教材を使用し、国家の統治体制、行政区分、国家機関、国民と社会、教育、宗教などを取り上げて講義する。また、現地最新の資料を理解するために中国語の基本的な構造をも教える。

In order to understand the Chinese system, the seminar will have students learn the syllables and tones of the Chinese language while using documentary and audiovisual course materials and lecturing about topics such as the governing system of the state, administrative divisions, state organs, the people and society, religion and culture, etc.

During classes, the students will debate the topic for each session and submit a review of about one page.

授業計画 (Course Schedule)

1. 中国基礎データ: 中華人民共和国の仕組みについて問題の提起
2. 中国の政治の仕組み(2023年習近平政権の政治制度と体制を分かりやすく解説)
3. 2023年3月5日の中国の全国人民代表大会(全人代)と中国人民政治協商会議
4. 現行憲法における「改革・開放」路線の下で言論自由・人権問題について
5. 中国の司法制度と司法機関(ここまで進んでいる裁判のオープン化)
6. 中国経済の急速な発展を振り返る
7. 日中知財教育比較(知財強国実現の為知財保護を加速)
8. 中国の宗教信仰の現状(仏教・道教・儒教・イスラム教とキリスト教)
9. チベットと新疆ウイグルの最新動向
10. 中国の教育の特徴はPISAで世界第1位の制度、日本との違いが何か?
11. 中国の若者文化を育んだ日本の漫画とアニメ(中国動漫画産業の実態と動向)
12. 現代中国女性の恋愛観と結婚観
13. 中国の最新養老施設事情
14. 総括討議(学習の振り返り)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

配布資料はざっと読んだだけでは分からないかもしれない。それでも必ず目を通し、①自分の理解が正しいか? ②理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。③配布資料には書かれていないが授業内で理解のために「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモをとる。

授業では毎回のテーマに対して討論を行い1枚程度のレビューを提出するのでその為に事前予習が必要である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回の授業後レポート提出(30%) / 平常の授業態度(40%) / 最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト (Textbooks)

教科書は使用しない。講義資料は講師が用意する。Blackboard(Canvas LMS)に掲載・配信する。

授業中にパソコンを必ず用意すること。
プリントを必要に応じて Web 上に UP する。
紙媒体で授業中に配布する場合もある。

参考文献 (Readings)

授業に関する講義資料は Blackboard (Canvas LMS) にて事前に配信します。
授業に必ずパソコンを持ってくるください。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数 : 25 名

配当年次 : 2-4 年次

選考方法 : 申し込みによる (応募者多数の場合は抽選)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX696／法政外国語演習<中国語> (Seminar on Law and Politics(Chinese))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	2023 年習近平政権の下で多様な中国社会に重点をおいた中国経済・社会の展望と課題		
担当者名 (Instructor)	王 佩民(WANG PEIMIN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

将来、真の国際人として中国語を運用するコミュニケーション能力を育成する。米中貿易戦争とコロナ禍をきっかけに露呈した中国政治と経済の構造問題を取り上げて習近平政権下の中国の仕組みを考察し理解を深めることを目標とする。

The objective of this seminar is to cultivate communication skills to use Chinese as a true globally-minded person in the future. This seminar will examine the politics, economy, and social structure of China to deepen the students' understanding.

授業の内容 (Course Contents)

以下の話題を取り上げて講義する。

- ①中国共産党の国家統治、②米中関係と日中関係、③コロナゼロ感染政策がなくす経緯と功罪
④小中高大学の教育問題、⑤若者達の恋愛と結婚、⑥高齢化社会、⑦貧富の格差、⑧法制度など

4. テーマごとに担当者を設けて、独自の観点で分析し発表してもらう。

中国に関するの面白さと中国政治・経済と法制度のプラスアルファを求めていく。

学生は、クラスメートと自分の好みや経験について活発に意見を交換しながら、関心あるテーマについて理解を深めていく。毎回配った資料を理解したうえで質問や感想を書いて提出すること。

The topics covered will relate to the students' lives and interests.

1. The lectures will raise various aspects about the current situation in China (including the national governance of the Communist Party, US-China relations and Japan-China relations, the arrest of a Huawei executive).

2. Education problems, aging society, and wealth disparity

3. Love and marriage

4. A student will be put in charge of each topic to analyze the topic based on their own perspective and present a report.

This seminar will seek the interesting aspects of Chinese law as well as something extra about Chinese law as a whole.

Students will actively exchange opinions with classmates about their own preferences and experiences while deepening their understanding of the topics that they are interested in.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業内容の紹介や各自問題担当の議論
2. 法源：憲法、行政法規、地方性法規、自治条例、行政規則
3. 立法府：全国人民代表大会、全人代常務委員会と国务院
4. 司法組織：人民法院、人民検察院
5. 中国のコロナゼロ感染政策大転換の功罪
6. 教育制度（幼稚園から大学までの受験戦争）
7. 恋愛と結婚（結婚難）
8. 高齢化社会の現状と課題（空巢老人）
9. 中国の医療制度（看病難）
10. 民事紛争処理制度：人民調停委員会
11. 改革開放 40 年に経た今の中国
12. 北京大学と清華大学の学生達の実情
13. 多民族と宗教信仰自由について
14. 総括討議（学習の振り返り）

授業時間外（予習・復習等）の学習 (Study Required Outside of Class)

受講者は、授業前に配布した資料を読むことが求められる。また、講義ごとに授業で用いた動画・資料に基づき予習することと復習することが望ましい。パソコンを用意して事前に配信した資料をダウンロードしてください。資料の中に分からないところがあればメモにして授業中に話してください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加態度と積極的な発言(40%)/レポート提出(30%)/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト (Textbooks)

テキストは使用しない。講師が講義資料を用意する。資料を読んで議論や理解するためにパソコンを必ず持ってきてください。
Blackboard(Canvas LMS)を利用して資料配信する。

参考文献 (Readings)

授業に関する講義資料は事前に Blackboard (Canvas LMS)に配信します。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数: 25 名

配当年次: 2 - 4 年次

選考方法: 申し込みによる(応募者多数の場合は抽選)

パソコンを用意すること。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX697／法政外国語演習<中国語> (Seminar on Law and Politics(Chinese))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	2023 年習近平政権下の中国における政治・経済と社会などの展望と課題 (最新新聞と動画を通して見るゼロコロナ政策を一気に軌道修正された中国の現状)		
担当者名 (Instructor)	王 佩民(WANG PEIMIN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

中国は現在世界一人口が多い国で中国共産党により統治されるヘゲモニー政党制である。中国が予想より 5 年早い 2028 年に米国を追い抜き、世界 1 位の経済大国になるだろうと、英国のシンクタンク“経済経営研究センター (CEBR)”が推測した。新型コロナウイルス感染症パンデミックに対する政府の対応の差により、規制緩和を受けた感染拡大が中国経済に逆風される点が反映されているということである。この講義は中国の政治、経済、社会、法律と教育などの仕組みを知ることを目指す。

China is the country with the world's largest population, and it is a hegemonic party system governed by the Chinese Communist Party. In 2028, the GDP of China surpassed Japan to become the number two leading economic power behind the United States. The objective of this seminar is to understand the Chinese system.

授業の内容 (Course Contents)

この演習では、中国の政治、経済、社会、法律と教育などの仕組みを理解するために、ドキュメンタリーや視聴覚教材を使用し、国家の統治体制、行政区分、国家機関、国民と社会、教育、宗教などを取り上げて講義する。現地の最新資料や動画を理解するために中国語の基本的な構造をも教える。

事前に毎回の授業内容を Blackboard(Canvas LMS)にお知らせと教材の欄に配信する。受講者はこれらの資料と動画をダウンロードしてよく読んでみてください。授業開始後、基本的な中国語実用会話と文法を教える(約 30 分)。講義内容を担当者に発表してもらう。分からない内容について講師が説明する。取り上げた内容について質問や感想を書いて提出してもらう。

In order to understand the Chinese system, the seminar will have students learn the syllables and tones of the Chinese language while using documentary and audiovisual course materials and lecturing about topics such as the governing system of the state, administrative divisions, state organs, the people and society, religion and culture, etc.

During classes, the students will debate the topic for each session and submit a review of about one page.

授業計画 (Course Schedule)

1. 2023 年習近平政権の下において中国の展望と課題を説明する
2. 中国の政治の仕組み(図解: 中国の政治制度と体制を分かりやすく解説)
3. 中国の全国人民代表大会(全人代)と中国人民政治協商会議
4. 現行憲法の改正によるゼロコロナ政策大転換の功罪
5. 中国の司法制度と司法機関(ここまで進んでいる裁判のオープン化)
6. 中国経済の急速な発展を振り返る
7. 日中知財教育比較(知財強国実現の為に知財保護を加速)
8. 中国の宗教信仰の現状(仏教・道教・儒教・イスラム教とキリスト教)
9. チベットと新疆ウイグルの最新動向
10. 中国の教育の特徴は PISA で世界第 1 位の制度、日本との違いとは?
11. 中国の若者文化を育んだ日本の漫画とアニメ(中国動漫産業の実態と動向)
12. 現代中国女性の恋愛観と結婚観
13. 中国の最新養老施設事情
14. 総括討議(学習の振り返り)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

配布資料はざっと読んだだけでは分からないかもしれない。それでも必ず目を通し、①自分の理解が正しいか? ②理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。③配布資料には書かれていないが授業内で理解のために「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモをとる。

授業では毎回のテーマに対して討論を行い 1 枚程度のレビューを提出するのでその為に事前予習が必要である。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

毎回の授業後レポート提出(30%)/平常の授業態度(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト(Textbooks)

教科書は使用しない。講師が資料を用意する。
Blackboard(Canvas LMS)に配信する。
プリントを必要に応じて Web 上に UP する。
紙媒体で授業中に配布する場合もある。

参考文献(Readings)

授業に関する講義資料は Blackboard(Canvas LMS)にて事前に配信します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数 : 25 名

配当年次 : 2-4 年次

選考方法 : 申し込みによる(応募者多数の場合は抽選)

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX698／法政外国語演習<朝鮮語> (Seminar on Law and Politics(Korean))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日韓交流・連帯の歴史から考える人権と平和		
担当者名 (Instructor)	李 リョン京(LEE RYONGYON)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

朝鮮半島と日本の関係を中心に現代韓国、日本の政治・文化・社会状況について考察し、理解を深めることを目標とする。

The objectives of this seminar are to examine the politics, culture, and social conditions of contemporary South Korean society and Japan-Korean relations to deepen the students' understanding.

授業の内容 (Course Contents)

この演習では、朝鮮語と日本語の論文やドキュメンタリー、TV 番組など視聴覚教材を使用して、日韓関係の歴史と現代東北アジアの政治・文化・社会状況を考察し、東北アジアにおける平和構築と日本について討論します。

とりわけ今年は日韓交流、市民連帯史を中心に考察します。そして、関連した活動をやってきたゲストスピーカーをお招きして特別講義をして頂き、話し合う時間を設けます。

最終的には、この授業で扱ったテーマの中から、特に関心のある事柄について、独自の観点から分析、批判できる力を養うようにします。

授業では、毎回、テーマごとに担当者を設け、他の学生は各自A4用紙1枚程度のレビューを提出する。それに基づいた討論を行います。

朝鮮語ができなくても受講は可能です。ただし、議論を深めるために、普段新聞などニュースを細かくチェックしてもらいたいです。

This seminar will use papers, documentaries, television programs, and other audiovisual course materials in Korean and Japanese to examine the history of Japan-Korea relations and the politics, culture, and social conditions of contemporary Northeast Asia, and to build peace in Northeast Asia.

In particular, this year we will focus on Japan-Korea exchanges and the history of civil solidarity. Then, we invite guest speakers who have been involved in related activities to give special lectures and set aside time for discussion.

Finally, students will analyze from their own perspective a matter of particular interest from among the topics covered in class to cultivate their critical abilities.

During each class session, a student will be placed in charge of the topic, and the other students will submit a review which is approximately the length of one sheet of A4 paper. A debate will be conducted based on those reviews.

This seminar may be taken even if you do not understand Korean. However, in order to deepen the discussion, the instructor would like to have students carefully check the newspapers and other sources of news on a regular basis.

授業計画 (Course Schedule)

1. 授業の紹介、各自問題意識の共有
2. 第1テーマ: 朝鮮半島と日本の交流史1
3. 第1テーマ: 朝鮮半島と日本の交流史2
4. 第1テーマの総括議論
5. 第2テーマ: 関東大震災と市民連帯1
6. 第2テーマ: 関東大震災と市民連帯2
7. 「関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会」による特別講義
8. 第2テーマの総括討論

9. 第3テーマ;女性の人権のための市民連帯史1
10. 映画『わたしの描きたいこと 絵本作家クオン・ユンドクと『花ばあば』の物語』を題材に
11. 第3テーマ;議論
12. 第4テーマ;在日韓国人「スパイ」捏造被害者の救援運動から考える市民連帯
13. 在日韓国人「スパイ」捏造被害者「姜宇奎さんを救う会」による特別講義
14. 総括討議

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前学習として、常に関連ニュースなどをチェックして自分の考えを整理しておくこと。
 事後学習として、授業で議論されたテーマや他の人の発表について質問と議論ができるようにすること。
 ゲストスピーカーの予定によって授業計画が変更される場合もあります。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当報告内容(40%)/毎回のコメント(30%)/授業態度(30%)

テキスト(Textbooks)

参加者と相談して最終的に決定します。参考資料は印刷教材などをその都度配布します。

参考文献(Readings)

1. 李 鍾元／編、2018、『朝鮮半島 危機から対話へ 変動する東アジアの地政図』、岩波書店
 2. 金 孝淳、2018、『祖国が棄てた人びとー在日韓国人留学生スパイ事件の記録』、明石書店
 3. ほうせんか、2021、『風よ鳳仙花の歌をはこべー関東大震災・朝鮮人虐殺から 70 年』、ころから
- 適宜提示します

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:10 名程度

配当年次:2-4 年次

選考方法:レポート

1. 題目

- 1) 自己紹介として民族、国家、人種、階級、性別などから自分は何者であるのかを記述する。
- 2) ゼミの選択理由
- 3) 以下のテーマのうち一つを選んで例を挙げながら書く
 - ① 日本と朝鮮半島の交流の事例について
 - ② 日本と韓国における市民連帯の事例について
 - ③ 日韓関係に関する自由テーマ

2. 字数:2000 字程度

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX701／憲法発展演習 (Progressive Seminar in Constitutional Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	憲法論を書く		
担当者名 (Instructor)	岡野 誠樹(OKANO NOBUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 (法曹コース2年次生は自動登録)		

授業の目標(Course Objectives)

本演習は、法学部において憲法の基本的な知識を習得した学生を対象に、人権・統治両分野における発展的な知識を定着させ、またその知識を応用して問題を解決し、説得力ある文章を作成する能力を獲得することを目標とする。

This seminar is intended for students who have acquired basic knowledge of the constitution in the College of Law and Politics. The objective is to bestow upon such students advanced knowledge in the fields of both human rights and government structure, allowing them to solve problems with the application of said knowledge and gain the ability to write persuasively.

授業の内容(Course Contents)

この授業は2年次生を対象とする。主に法曹志望者を念頭に置いた授業を行うが、それに限らず、法的に説得力のある文章を書けるようになりたいという学生であれば歓迎する。

あらかじめ指定された教材に示された判例、あるいは設問等について、各自が分析し、解答し、そして文章を作成したうえで、授業に参加する。一部の回については、作成した文章を事前に提出することが求められる。また授業では、各自が予習してきた内容を発表し、授業参加者全員でこれを分析し、討論を行う。その過程において、各自の人権・統治に関する知識の応用力、そして文章作成能力を深めることとする。

This class is for second-year students. While this class is primarily aimed at aspiring legal professionals, students who want to learn to write legally persuasive documents, etc., are also welcome.

Learners are expected to prepare by analyzing precedents, answering questions from the textbook or casebook, and drafting notes. In some cases, it is required to submit essays, etc., in advance. Students will also give presentations on what information they have prepared, which will then be analyzed and discussed by all of the participants. Throughout this process, each member should work toward deepening their ability to apply their knowledge of human rights and government structure and their ability to write.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 法の下での平等(1)
3. 法の下での平等(2)
4. 公務員の政治活動の自由(1)
5. 公務員の政治活動の自由(2)
6. 表現の自由と名誉・プライバシー(1)
7. 筆記テスト(1)
8. 表現の自由と名誉・プライバシー(2)
9. 経済的自由
10. 統治機構論概観
11. 生存権と財政
12. 違憲審査と救済上の諸問題
13. 総合演習
14. 筆記テスト(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

あらかじめ指定された教材の判例を読んで分析するとともに、教材に示された課題に解答し、文章としてまとめておくことが要求される(週に3時間程度の準備が必要となるだろう)。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内筆記テスト2回(60%)/レポート(20%)/授業における参加(20%)

テキスト(Textbooks)

教材は、教員が毎回用意する。

参考文献 (Readings)

1. 棟居快行ほか、2019、『基本的人権の事件簿〔第 6 版〕』、有斐閣 (ISBN:9784641281479)
2. 笹田栄司ほか、2014、『Law Practice 憲法〔第 2 版〕』、商事法務 (ISBN:9784785722296)
3. 矢戸常寿=曾我部真裕編著、2021、『憲法演習サブノート 210 問』、弘文堂 (ISBN:9784335358616)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数: 若干名

配当年次: 2 年次

選考方法: 自動登録となる法曹コース所属学生以外については、レポートによる。

- ① 題目: 人権分野においてもっとも印象に残っている判例を簡単に紹介し、その理由を説明する
- ② 字数: A4 1 枚以内

※法曹コース 2 年次生は自動登録科目。3 年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込みこと。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX702／民法発展演習 (Progressive Seminar in Civil Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民法の重要論点を通じて学ぶ法的文書作成法		
担当者名 (Instructor)	本多 基記(HONDA MOTONORI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 (法曹コース2年次生は自動登録)		

授業の目標 (Course Objectives)

民法の基本知識を定着させるとともに、その理解した内容を説得的に文章で表現する力を修得する。

To firmly establish a basic knowledge of Civil law and give students the ability to convincingly express their understanding in writing.

授業の内容 (Course Contents)

この授業は2年次生を対象とするものです。

民法1, 2, (1), (2), (3)(財産法)の分野について、社会に起こりうる具体的な事例問題を解決する際に必要となる基本的知識(学説・判例)を確認するとともに、学んだ知識を説得的に文章で表現できるようになるためのトレーニングを行います。本講座と並行して開講される民法2(3)で学習する分野については授業の進行によって、2年次秋学期に開講される民法(2)については未修の分野を取り扱うこととなりますが、重要な事項について、先取りして学ぶこととなります。演習に近い形式の授業になります。主に法曹コースの学生を念頭に置いた授業を行います。法曹コースの学生に限らず、法的に説得力のある文書を書けるようになりたいという学生も歓迎します。1年次に法曹志望者向けの法学基礎演習を受講していることを前提に授業を行います。法学基礎演習を受講していない学生でも意欲的な学生の参加を歓迎します。

各回の授業は、以下のような形式で行います。

- 1 毎回、事前に予習問題を配布しますので、受講生は予習を行った上で授業に参加します。
- 2 授業では、その予習問題を解決するために必要な知識について、講義形式で再確認をします。基本的な知識を共有した上で、あり得る解決策について、受講生との間での議論も行います。そして、自分の考えた解決策をどのようにして文章で表現するのか、どうすれば法的な意味で説得力のある文章になるのかについても検討を行います。取り扱った分野の知識を確認するための択一式問題も取り上げ、考え方について解説します。
- 3 1学期に数回、予習問題に対する答案を提出してもらいます。それとともに、最終回に知識の定着度を確認するテストを行います。講義では実務家法曹としての活動内容も紹介しますので、将来の進路検討の1つとして、仕事内容や学習方法などの質問も待っています。

法曹を目指したい、あるいは民法をより深く勉強したいという意欲的な学生の参加を期待しています。共通の目標を持つ仲間とともに有意義な時間を過ごせる場になりたいと思っています。

This class is for second-year students. While confirming students have the basic knowledge necessary to resolve specific cases in the fields of Civil law 1, 2, (1), (2), and (3), they will also receive training to allow them to persuasively express the knowledge they have learned in writing. Fields studied in Civil law 2 and (3), which are held in parallel with this course, will be touched upon based on the progress of the class, and fields that will be studied in Civil law (2), which will be taken in the fall semester of the second year, will also be discussed, so students will learn important matters in advance. The class is in a format similar to a seminar.

While this class is primarily aimed at students in the legal professional course, those who want to learn to write legally persuasive documents, etc., are also welcome. This course is based on the assumption that students have taken the first year Introductory Seminar on Law for aspiring legal professionals. However, we welcome the participation of motivated students even if they have not taken the Basic Law Seminar.

Each class is conducted in the following format.

1. Preparatory questions are distributed prior to each class, so students will participate in the class after preparing as necessary.
2. In class, students reconfirm the knowledge necessary to solve the preparatory questions in a lecture format. Basic knowledge is shared and possible solutions are discussed with the students. Students then consider how to express the solutions they have come up with in writing and how to make them convincing in a legal sense. We will also discuss alternative questions to confirm knowledge of the relevant domain and explain the way of thinking.

3. Students are asked to submit their answers to the preparatory questions several times throughout the semester. In addition, a test is conducted in the final class to confirm the degree of knowledge retention. During the course, we will also introduce the content of activities as a lawyer as one of the future career studies, we expect questions such as work content and learning methods.

We look forward to the participation of motivated students who want to become legal professionals or who want to study Civil law on a deeper level. Let us make this a space where we can spend meaningful time with colleagues who share common goals.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 【総則】制限行為能力者の取消しと現存利益
3. 【総則】通謀虚偽表示(94条2項類推適用)
4. 【総則】錯誤
5. 【総則】代理(表見代理)
6. 【物権】物権的請求権
7. 【物権】共有
8. 【物権】物権変動(相続と登記)
9. 【債権各論】不法行為(被害者側の過失)
10. 【契約法】契約の成立・契約準備段階の過失
11. 【契約法】移転型契約 (売買契約(契約内容不適合など))
12. 【契約法】貸借型契約 (賃貸借契約)
13. 【契約法】役務提供型契約 (請負契約)
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

事前に予習問題を提示し、講義までに各自検討する必要がある。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

授業への参加態度(予習, 発言の積極性)(30%)/課題の提出(30%)/最終テスト(Final Test)(40%)

テキスト(Textbooks)

教材は教員が用意する。民法 1, 2, (2), (3)で指定された教科書も適宜参照する。

参考文献 (Readings)

適宜指示する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

採用人数: 若干名

配当年次: 2 年次

選考方法: 法曹コース学生はレポートなしに登録できます。法曹コース学生以外はレポートにより選考します。

① 題目: 自己紹介(とりわけ 1 年次にどのような勉強をしてきたか)とこのゼミに参加するにあたっての抱負を説明してください。

② 字数: 500 字から 1000 字

※法曹コース 2 年次生は自動登録科目。3 年次以降は自動登録されないで、履修希望者は選考に申込みこと。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX703／商法発展演習 (Progressive Seminar in Commercial Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	会社法発展演習		
担当者名 (Instructor)	松井 秀征(MATSUI HIDEYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 (法曹コース2年次生は自動登録)		

授業の目標 (Course Objectives)

法曹を目指す学生を対象として、会社法の各分野についての理解を深めるとともに、その理解をもとに文章作成能力を高めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen students' understanding of various fields of corporate law and to improve their writing skills based on this understanding.

授業の内容 (Course Contents)

毎回、会社法の各分野の判例を素材として、これを批判的に分析し、当該分野における理解を深めることとする。また、設問形式の課題レポートを適宜提出し、会社法分野における文章作成能力を養っていくこととしたい。

Each class, we shall critically analyze judicial precedents in various fields of corporate law to deepen our understanding in the relevant field. In addition, students will be requested to submit question-style assignment reports as appropriate to develop their writing skills in the field of corporate law.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 株主総会(1)
3. 株主総会(2)
4. 取締役・取締役会(1)
5. 取締役・取締役会(2)
6. 取締役・取締役会(3)
7. 取締役・取締役会(4)
8. 中間テスト
9. 株式(1)
10. 株式(2)
11. 株式発行(1)
12. 株式発行(2)
13. M&A
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回の課題となる判例について事前に読み込み、その内容を理解し、かつ当該判例に関する課題に取り組んだ上で授業に臨むほか、授業で扱った内容については、テストに向けて復習をすることが望まれる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(20%)／中間テスト(20%)／授業内レポート(20%)／授業への参加(40%)

テキスト (Textbooks)

各回について、資料を配布する。

参考文献 (Readings)

授業内で指示する。

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 若干名

配当年次:2年次以上

選考方法:

- ①題目:会社法をめぐる解釈問題で興味を持ったものを1つ選び、その理由を述べる
- ②字数:A4 1枚程度

※法曹コース所属学生は自動登録科目

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX704／刑法発展演習 (Progressive Seminar in Criminal Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	刑法全般に関する演習		
担当者名 (Instructor)	小林 憲太郎(KOBAYASHI KENTARO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 (法曹コース2年次生は自動登録)		

授業の目標 (Course Objectives)

本演習は、法学部において刑法の基本的な知識を修得した学生で、法科大学院進学、ひいては法曹を目指すものを対象とするものである。当該学生に対して、刑法分野における発展的な知識を修得させ、またその知識を応用して問題を解決し、ひいては法曹として必要な文章を作成する能力を獲得させることを目標とする。

This seminar is intended for students who have acquired a basic knowledge of criminal law in the College of Law and Politics and aim to enter Law School and eventually a legal profession. The objective is to bestow upon such students advanced knowledge in regard to the field of criminal law, allowing them to solve problems with the application of said knowledge and eventually procure the ability to write as a legal professional.

授業の内容 (Course Contents)

あらかじめ指定された教材に示された判例、あるいは設問等について、各自が分析し、解答し、そして文章を作成したうえで(当該文章はレポートとして提出してもらうことがある)、授業に参加する。また授業では、各自が予習してきた内容を発表し、授業参加者全員でこれを分析し、討論を行う。その過程において、各自の刑法に関する知識の応用力、そして文章作成能力を深めることとする。

Learners are expected to prepare by analyzing precedents, answering questions from the textbook or casebook, and drafting notes. They are sometimes required to submit their notes as reports. Students will also give presentations on what information they have prepared, which will then be analyzed and discussed by all of the participants. Throughout this process, each member should work toward deepening their ability to apply their knowledge of criminal law and their ability to write.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 因果関係
3. 不作為犯
4. 正当防衛
5. 故意と錯誤
6. 過失犯
7. 未遂犯
8. 共犯
9. 生命・身体に対する罪
10. 財産犯①
11. 財産犯②
12. 社会的法益に対する罪
13. 国家的法益に対する罪
14. 過去に出された資格試験問題の検討

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

あらかじめ指定された(裁)判例と、それに関する解説や評釈、論文を、できる限り多く渉猟してから授業に臨むこと。予習した内容が文章化されていればなお望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

各自が授業において発表した内容(40%)／議論における積極性や発言内容の的確さ(30%)／最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数: 若干名

配当年次: 2 年次

選考方法:

選考に当たっては、以下のレポートを提出する。

・レポート課題: 刑法分野において最も興味をもった判例(特別法違反を含む)を簡単に紹介し、興味を持った理由を説明せよ(A4 1枚以内)。

※法曹コース 2 年次生は自動登録科目。3 年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込むこと。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX705／民事訴訟法発展演習 (Progressive Seminar in Civil Procedure Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民事訴訟法の試験問題を検討する。		
担当者名 (Instructor)	安達 栄司(ADACHI EIJI) 牧内 靖成(MAKIUCHI YASUNARI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 (法曹コース3年次生は自動登録)		

授業の目標(Course Objectives)

法科大学院進学または司法試験予備試験のための民事訴訟法の実力をつける。

授業の内容(Course Contents)

司法試験予備試験(択一、論文)および主要法科大学院の入学試験を素材にして、民事訴訟法の問題を検討し、答案を書き、添削される。

法曹コース生に限らず、法科大学院進学または予備試験受験を考えている学生で、民訴法の勉強に苦手意識を持っている人も気軽に参加できる演習にしたい。

授業計画(Course Schedule)

1. 短答式問題の検討
2. 短答式問題の検討
3. 短答式問題の検討
4. 短答式問題の検討
5. 短答式問題の検討
6. 法科大学院入試問題の検討
7. 法科大学院入試問題の検討
8. 法科大学院入試問題の検討
9. 法科大学院入試問題の検討
10. 法科大学院入試問題の検討
11. 予備試験(論文)の検討
12. 予備試験(論文)の検討
13. 予備試験(論文)の検討
14. 予備試験(論文)の検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

設問に対する解答、答案を準備して、演習に臨むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題提出 1(20%)/課題提出 2(20%)/課題提出 3(20%)/課題提出 4(20%)/課題提出 5(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:若干名

配当年次:3・4年次

選考方法:レポート

①題目:これまでの勉強の中で関心のある民事訴訟法の論点を取り上げて、その意義、判例および学説を簡潔に論じなさい。

②字数:800字程度

※法曹コース所属学生は自動登録科目

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX706／刑事訴訟法発展演習 (Progressive Seminar in Criminal Procedure Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	事例で考える刑事訴訟法		
担当者名 (Instructor)	川島 享祐(KAWASHIMA KYOSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 (法曹コース3年次生は自動登録)		

授業の目標 (Course Objectives)

本演習の目的は、法曹を志望し刑事訴訟法をひととおり学んだ学生が、具体的な事例を検討することで、刑事訴訟法に関する基本的な知識・理解を深めつつ、法的問題点を抽出して的確に法の解釈・適用を行い、その結果を文章で表現する能力を獲得することである。

This seminar is for students who aspire to become legal professionals and have studied criminal procedure law. The purpose of this seminar is for them to deepen their basic knowledge and understanding of criminal procedure law by examining specific cases, and to acquire the ability to extract legal issues, appropriately interpret and apply the law, and express the outcome in writing.

授業の内容 (Course Contents)

受講生は、事前に配布する予習課題を検討し、解答を作成したうえで授業に参加する。授業では、各自が予習してきた内容を発表し、授業参加者全員でこれを分析し、討論を行う。

なお、本演習は次時限まで延長して実施する可能性もあるので、注意してほしい。

Students will prepare answers to a preparatory assignment in advance. Each student will present their analysis in class and discuss legal issues in the case.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 捜査法事例演習①
3. 捜査法事例演習②
4. 捜査法事例演習③
5. 捜査法事例演習④
6. 捜査法事例演習⑤
7. 中間テスト
8. 証拠法事例演習①
9. 証拠法事例演習②
10. 証拠法事例演習③
11. 証拠法事例演習④
12. 公判法事例演習①
13. 公判法事例演習②
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

予習として、「刑事訴訟法」の授業で扱った内容を復習したうえで、あらかじめ指定された教材に示された課題に解答し、文章としてまとめておく必要がある(週に3時間程度の準備が必要となるだろう)。また、中間・最終テストに向けて、授業で学習した内容を復習する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(30%) / 中間テスト(30%) / 授業態度(予習の程度を含む)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 吉開多一ほか、2021年、『基本刑事訴訟法Ⅱ 論点理解編』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-52420-0)

「刑事訴訟法」の授業で使用した判例百選(井上正仁ほか『刑事訴訟法判例百選(第10版)』(有斐閣、2017年))は、この授業でも引き続き使用する。

参考文献(Readings)

「刑事訴訟法」の授業で紹介した参考文献。その他の参考文献は、適宜授業中に紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数:3月19日に発表

配当年次:3・4年次

選考方法:レポート

①題目:「刑事訴訟法」の授業を受講した際に興味を持った判例の内容を簡単に説明し、興味を持った理由を説明してください。

②字数:A4で1～2枚程度

※法曹コース所属学生優先のため、法曹コース所属学生以外の定員は、法曹コース合格者発表後の3月19日に発表

※法曹コース所属学生は自動登録科目

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX707／行政法発展演習 (Progressive Seminar in Administrative Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行政法に関する具体的事例の検討		
担当者名 (Instructor)	松戸 浩(MATSUDO HIROSHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 (法曹コース3年次生は自動登録)		

授業の目標 (Course Objectives)

行政法は学部段階では抽象的な形で論じられるのが主であるが、本授業は、行政法 1,2 を履修した者を対象に、これらの授業で学んだ行政法の様々な解釈論を具体的な事例に即した形で修得することをその目的とする。

As for the administrative law, in main, but what is discussed in an abstract form acquiring a various interpretation theory of the administrative law that this class learned by these classes targeting at the people who studied administrative law 1,2 in the form that accorded with a concrete example at the department stage; is intended.

授業の内容 (Course Contents)

本授業では配布するレジュメを元に、より発展的な行政法の内容を扱う。具体的には下記に挙げる授業計画に挙げられた諸項目に関する基本的な学説判例を学び、これにより行政法の法的枠組を理解することに努める。

We treat contents of a more progressive administrative law for the cause in resume to distribute by this class. Specifically, we learn the basic theory precedent about the items which class plans to give as follows included and act in in this way understanding a legal frame of administrative law.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス・行政法の概要
2. 法律による行政の原理・法の一般原則
3. 行政行為
4. 行政裁量
5. 行政立法・行政指導
6. 行政手続
7. 行政上の義務の強制手段
8. 行政訴訟概説・取消訴訟(1)
9. 取消訴訟(2)
10. 原告適格(1)
11. 原告適格(2)・いわゆる狭義の訴えの利益
12. 訴えの審理・判決
13. その他の抗告訴訟・当事者訴訟
14. 国家賠償・まとめと講評

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

事前に対象範囲の教科書及びシラバスを読んでおくこと。またシラバス内で逐次挙げられる判例・裁判例に就いては『ケースブック行政法』でその内容を把握しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)／授業の予習の程度・授業に対する積極的姿勢等(60%)

テキスト (Textbooks)

1. 櫻井敬子・橋本博之、2019、『行政法第6版』、弘文堂 (ISBN:978433537978)
2. 稲葉・下井・中原・野呂、2022、『ケースブック行政法第7版』、弘文堂 (ISBN:9784335305207)

参考文献 (Readings)

1. 宇賀・交告・山本、2022、『行政判例百選Ⅰ第8版』、有斐閣 (ISBN:9784641115606)
2. 宇賀・交告・山本、2022、『行政判例百選Ⅱ第8版』、有斐閣 (ISBN:9784641115613)
3. 塩野宏、2015、『行政法Ⅰ第6版』、有斐閣 (ISBN:9784641131866)

4. 塩野宏、2019、『行政法Ⅱ第6版』、有斐閣 (ISBN:9784641227712)
5. 宇賀克也、2020、『行政法概説Ⅰ第7版』、有斐閣 (ISBN:9784641227835)
6. 宇賀克也、2021、『行政法概説Ⅱ第7版』、有斐閣 (ISBN:9784641228030)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

＜選考方法＞

採用人数:5名程度(法曹コース生を除く)

配当年次:3年

選考方法:

- ①題目:行政法1,2で扱ったテーマのうち関心を持ったものに就いて論ぜよ。
- ②字数:制限なし

※法曹コース3年次生は自動登録科目。4年次以降は自動登録されないので、履修希望者は選考に申込むこと。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX710／公務基礎演習 (Introductory Seminar on Public Administration)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地方自治を読む・聞く・語る (Reading, Listening, and Speaking about Local Governance)		
担当者名 (Instructor)	山田 健(YAMADA KEN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

本演習の目標は、履修者の皆さんが地方自治に対する理解を深めることです。また、皆さんが充実した大学生活を過ごすための基礎的能力を涵養することも併せて目標とします。

Main objective of this course is students challenge to study about local governance. In addition, the instructor hopes students will develop your basic skills.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、戦後日本の地方自治について、多角的に捉えることで理解を深めることを目指します。具体的には、①地方自治に関する文献の輪読・②実務経験者への聞き取り調査・③得られた知見をもとにした議論の提示といった「読む・聞く・語る」活動をバランスよく行うことで、様々な角度から地方自治の世界に光を当て、その諸相にふれることを試みます。演習の醍醐味は、皆で意見を交わしながら議論を深めていくことです。その観点から、本演習はグループディスカッションの機会を積極的に取り入れる予定です。

In this course, students will reading, listening, and speaking about local governance with your classmates.

授業計画 (Course Schedule)

1. 地方自治への誘い
2. 文献輪読 『県庁おもてなし課』①
3. 文献輪読 『県庁おもてなし課』②
4. 文献輪読 『県庁おもてなし課』③
5. 文献輪読 『「質問力」の教科書』
6. 聞き取り調査①の準備学習(関連する論文の輪読)
7. 聞き取り調査①
8. 聞き取り調査①の成果とりまとめ
9. 聞き取り調査②の準備学習(関連する論文の輪読)
10. 聞き取り調査②
11. 聞き取り調査②の成果とりまとめ
12. グループ報告①
13. グループ報告②
14. グループ報告③

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

各回、履修者の皆さんには、司会・報告・コメントの役割を分担していただきます。それぞれの役割に応じて、課題文献や関連文献を予習・復習することが求められます。また、一連の活動においては、ご自身なりのポイントを発見し、そのポイントをもとに考えることも期待されます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

文献輪読への主体的な参加(30%)／聞き取り調査への主体的な参加(30%)／グループ報告への主体的な参加(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 有川浩、2011 年、『県庁おもてなし課』、角川書店 (ISBN:9784048741828)
 テキストについては、初回講義の際に改めてご案内します。また、履修者の関心・時事的動向・研究動向・新型コロナウイルス感染症の流行状況といったことがらに応じて、テキストを変更する可能性があります。

参考文献 (Readings)

1. 原田久、2022、『行政学(第2版)』、法律文化社 (ISBN:9784589041951)

2. 宇野二郎・長野基・山崎幹根、2022、『テキストブック 地方自治の論点』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623091690)
参考文献についても、初回講義の際に改めてご案内します。

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:10 名程度

配当年次:1 年次

選考方法:レポート

①題目:好きな地方とその理由

②字数:1000 字程度

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX711／公務基礎演習 (Introductory Seminar on Public Administration)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	公務員の仕事と中央省庁の役割を考える		
担当者名 (Instructor)	若林 悠(WAKABAYASHI YU)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

現代社会は、自然災害の頻発、科学技術の高度化に伴う事故の深刻化、財政赤字、人口減少社会の進展といった様々な難題に直面している。日本の行政は、こうした政策的課題をいかに解決しようとしてきたのだろうか。また、皆さんが公務員を目指すなら、一人の公務員として何が出来るのだろうか。本演習を通じて、日本の行政に関する理解を深め、公務員の仕事を自分事として考えるきっかけにして欲しい。

Contemporary society is facing various problems such as the frequent occurrence of natural disasters, the exacerbation of accidents due to the advancement of science and technology, financial deficits, and the progress of population decline. In response to these policy issues, how did the Japanese government attempt to solve these? And what can you do as a public servant? I hope that by participating in this seminar, students will deepen your understanding of Japanese public administration, and give you an opportunity to think about public service.

授業の内容(Course Contents)

本演習は、日本の行政に関する基礎的な文献を輪読し、皆で議論していく。授業では、公務とは何かを中心に考えながら、各テーマの問題関心や分析概念への理解を深める。進め方は、毎回担当者が課題文献の内容報告を行い、その論点について全体で議論をしながら授業を進める。

In this seminar, students will read in turn the foundational literature relating to Japanese public administrations, and discuss the issues. During the class, students will deepen their understanding of the important problems and the analytical concepts while focusing on what public service is. Each class will be conducted by having the student in charge of the assigned literature report on the contents, followed by a discussion of the issues with all of the students.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション及び報告担当者の決定
2. 村木厚子『公務員という仕事』はじめに、第1章
3. 村木厚子『公務員という仕事』第2章
4. 村木厚子『公務員という仕事』第3章
5. 村木厚子『公務員という仕事』第4章
6. 村木厚子『公務員という仕事』第5章
7. 鈴木穰『厚労省』はじめに、第1章、第2章
8. 鈴木穰『厚労省』第3章
9. 鈴木穰『厚労省』第4章
10. 鈴木穰『厚労省』第5章
11. 鈴木穰『厚労省』第6章、おわりに
12. 嶋田博子『職業としての官僚』はじめに、第1章
13. 嶋田博子『職業としての官僚』第2章、第3章
14. 嶋田博子『職業としての官僚』第4章、結び

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

受講者は、担当報告の時以外にも事前に課題文献の該当箇所を読み、疑問点や感想をメモしたペーパーを準備して出席することが求められます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当箇所の報告(60%)／授業での出席態度と議論への参加(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 村木厚子、2020、『公務員という仕事』、筑摩書房

2. 鈴木穰、2022、『厚労省一劣化する巨大官庁』、新潮社
3. 嶋田博子、2022、『職業としての官僚』、岩波書店

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 10 名程度

配当年次: 1 年次

選考方法: レポート

① 題目: 本演習を志望する理由と日本の行政で重要と考えるテーマについて自由に書いてください。

② 字数: 1000 字程度

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX712／公務実践演習 (Seminar on Administrative Praxis)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	公務員として働くイメージを持とう		
担当者名 (Instructor)	渡邊 恵子(WATANABE KEIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

公務員を卒業後の進路の一つとして検討している学生が、実際の行政のあり方や活動を学んで理解を深め、国の行政機関で働く具体的なイメージを持てるようになること。

The target of this seminar is students who are considering working as a civil servant as one of their career options after university.

The goal is for students to learn about and deepen their understanding of the realities of public administration so that they can have a concrete image of working in a national government agency.

授業の内容 (Course Contents)

国の行政の「中の人」が書いたパンフレットや書籍の輪読が主な内容です。霞が関のフィールドワークや現職公務員(複数名)を招いて話を聞くことも予定しています。国家公務員、特に霞が関で働く公務員に焦点を当てます。地方公務員についてはほとんど扱いませんが、地方公務員志望者の参加も歓迎します。

The main content of this seminar is to read pamphlets and books written by "insiders" of the national administration. We also plan to do fieldwork in Kasumigaseki and invite several current civil servants to talk to us. The focus will be on national civil servants, especially those working in Kasumigaseki. Although we rarely deal with local public officials, we welcome the participation of those who wish to become local public officials.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 国家公務員の職場環境とキャリアパス
3. 公務員の採用パンフレットを読み解く①
4. 公務員の採用パンフレットを読み解く②
5. 嶋田博子『職業としての官僚』(岩波新書)はじめに～第1章の輪読
6. 嶋田博子『職業としての官僚』(岩波新書)第2～3章の輪読
7. 嶋田博子『職業としての官僚』(岩波新書)第4章～結びの輪読
8. フィールドワーク
9. 千正康裕『ブラック霞が関』(新潮新書)第1～2章の輪読
10. 千正康裕『ブラック霞が関』(新潮新書)第3～4章の輪読
11. 千正康裕『ブラック霞が関』(新潮新書)第5～7章の輪読
12. 現職公務員(ゲストスピーカー①)による講話
13. 現職公務員(ゲストスピーカー②)による講話
14. 講義のまとめ(現職公務員の講話を踏まえての意見交換)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

公務員の採用パンフレットを読み、その概要をまとめる(第3回及び第4回予習)
 担当する書籍の担当章を読み、その概要やそれに対する自身の疑問点や意見をまとめる(担当回予習)
 授業で輪読する書籍を事前に読む(第5～7回及び第9～11回の予習)
 ゲストスピーカーの講話によって理解を深めた内容について1,000字程度にまとめる(第14回予習)
 毎回の授業後には、授業の内容を振り返り、内容に対する理解を深める。
 その他、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容(60%)／議論への参加と貢献度(40%)
 「議論への参加と貢献度」については、報告内容への質問や講話への質問の内容・回数を特に重視する。

テキスト (Textbooks)

1. 嶋田博子、2022、『職業としての官僚』、岩波新書 (ISBN:9784004319276)
2. 千正康裕、2022、『ブラック霞が関』、新潮新書 (ISBN:9784106108853)

参考文献 (Readings)

1. 金井利之、2020、『行政学概説』、放送大学教育振興会 (ISBN:9784595322051)
2. 伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔、2022、『はじめての行政学[新版]』、有斐閣 (ISBN:9784641150997)
3. 岡田淳志、2022、『公務員が人事異動に悩んだら読む本』、学陽書房 (ISBN:9784313151376)
4. 林誠、2020、『どんな部署でも必ず役立つ 公務員の読み書きそろばん』、学陽書房 (ISBN:9784313151062)
5. NHK 取材班、2021、『霞が関のリアル』、岩波書店 (ISBN:9784000614726)

授業計画はおよその目安なので、受講生の関心や理解の進展等によって内容の変更もありうる。

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 15 人

配当年次: 3,4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 公務員として働くことに興味を持った理由

② 字数: 1,000～1,500 字

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX713／公務実践演習 (Seminar on Administrative Praxis)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	行政のジレンマ		
担当者名 (Instructor)	松島 悠史(MATSUSHIMA YUJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

行政の実際の現場で起きる理想と現実の観察を通じて、行政の構造の多角的・立体的な理解を得る

Acquire a multifaceted and three-dimensional understanding of structures of administration through observation of ideals and realities that occur in actual administrative settings

授業の内容 (Course Contents)

当初の理念からずれていった行政施策や、理想像とは異なる行政実務等、行政官がその政策形成およびその実施にあたって”ジレンマ”を感じた事例の検証を通じ、行政のメカニズムを研究する。

In this class, students will study the mechanism of administration through the examination of actual cases where administrative officials felt "dilemmas" in policy formulation and implementation, such as administrative measures that deviated from the original idea and administrative practices that differed from the ideal image.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション-担当教官の紹介、コースの目的、内容、課題の説明などー
2. 政策形成・実施のメカニズム1
3. 政策形成・実施のメカニズム2
4. 行政官のジレンマ1ー行政官(※)の実例ー ※現役の行政官を中心に、実際に行政に携わる者を招き、実際に経験したジレンマを共有・検証する。招く行政官の予定により日程を調整するため、具体的に招く行政官は授業開始時に紹介。国家公務員が中心。ー
5. 行政官のジレンマ2
6. 行政官のジレンマ3
7. 行政官のジレンマ4
8. 行政官のジレンマ5
9. 行政官のジレンマ6
10. 行政官のジレンマ7
11. 行政官のジレンマ8
12. 行政のジレンマの研究1
13. 行政のジレンマの研究2
14. 行政のジレンマの研究3

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

リアクションペーパー5回

行政のジレンマの研究のために自身で行政のジレンマ事例の収集・取材

最終レポート

成績評価方法・基準 (Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業参加点(発言)(30%)/リアクションペーパー5回(30%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

授業計画はおよその目安。集まった受講生の状況や関心によっては内容の変更はその都度あり得る。

<選考方法>

採用人数:20 人

配当年次:3～4年次

選考方法:レポート

①題目:行政・公務員に対する自身の興味・関心について(公務員を志望している者はその理由やきっかけなどでもいい。行政全体ではなくても特定のトピックやニュースへの関心でもいい。)

②字数:1500字程度

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX714／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	To examine the society from a legal point of view and train your independent research, logical thinking, writing and presentation skills		
担当者名 (Instructor)	田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

This seminar is designed to train students' logical thinking and presentation skills, while examining the society from the legal, sociological, cultural and political points of view.

Through examining modern social issues from a legal point of view, students can also gain insights into the modern society in Japan.

授業の内容 (Course Contents)

The area of law addressed in the seminar will be mainly Japanese civil law. However, since social issues are commonly related to not only Japanese civil law but also various kinds of laws, such related laws will also be covered.

The seminar will be inclined more toward learning civil-law related social issues from legal, sociological, cultural, historical and political points of view, rather than delving into doctrinal aspects of legal studies.

As for the first half of the semester, the topics for the seminar will be provided by the instructor.

The second half of the semester will be for training students' independent research skills, as well. Therefore, students will be asked to find the topics to research on and present the research in class. Students may choose any topic involving social issues related to the Japanese law or other countries'. However, since the research materials may be limited depending on the topics, consultation with the instructor will be required before starting the research. It is recommended to decide the topic earlier during the first half of the semester. For those who may find it hard to select their research topics, a list of possible research topics will be provided at the beginning of the semester.

Students are also required to write a short research paper on the topics that they selected.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to the seminar
Logical thinking and presentation skills (1) The topic will be provided by the instructor.
2. Logical thinking and presentation skills (2) The topic will be provided by the instructor.
3. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
4. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
5. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
6. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
7. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
8. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
9. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
10. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
11. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
12. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
13. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
14. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

There will be reading assignments in the first half of the semester. Students must complete the reading assignments.

Occasional writing assignments may be given, as well. For preparing for the presentations, independent research will be required

as well.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Presentation and participation in class(60%)/Research papers(40%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

the maximum number of students: 15

the targeted grades: from second year and above

the way of selection: through seminar registration (a ballot in the case where the applicants exceed the maximum number)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX715／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	To examine the society from a legal point of view and train your independent research, logical thinking, writing and presentation skills		
担当者名 (Instructor)	田岡 絵理子(TAOKA ERIKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

This seminar is designed to train students' logical thinking and presentation skills, while examining the society from the legal, sociological, cultural and political points of view.

Through examining modern social issues from a legal point of view, students can also gain insights into the modern society in Japan.

授業の内容 (Course Contents)

The area of law addressed in the seminar will be mainly Japanese civil law. However, since social issues are commonly related to not only Japanese civil law but also various kinds of laws, such related laws will also be covered.

The seminar will be inclined more toward learning civil-law related social issues from legal, sociological, cultural, historical and political points of view, rather than delving into doctrinal aspects of legal studies.

As for the first half of the semester, the topics for the seminar will be provided by the instructor.

The second half of the semester will be for training students' independent research skills, as well. Therefore, students will be asked to find the topics to research on and present the research in class. Students may choose any topic involving social issues related to the Japanese law or other countries'. However, since the research materials may be limited depending on the topics, consultation with the instructor will be required before starting the research. It is recommended to decide the topic earlier during the first half of the semester. For those who may find it hard to select their research topics, a list of possible research topics will be provided at the beginning of the semester.

Students are also required to write a short research paper on the topics that they selected.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to the seminar
Logical thinking and presentation skills (1) The topic will be provided by the instructor.
2. Logical thinking and presentation skills (2) The topic will be provided by the instructor.
3. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
4. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
5. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
6. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
7. Presentations and discussion: The topic will be provided by the instructor.
8. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
9. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
10. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
11. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
12. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
13. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)
14. Students presentation(s) and discussion
Research paper(s)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

There will be reading assignments in the first half of the semester. Students must complete the reading assignments.

Occasional writing assignments may be given, as well. For preparing for the presentations, independent research will be required

as well.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Presentation and participation in class(60%)/Research papers(40%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

the maximum number of students: 15

the targeted grades: from second year and above

the way of selection: through seminar registration (a ballot in the case where the applicants exceed the maximum number)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX716／法政外国語演習<英語> (Seminar on Law and Politics(English))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Mediation and Consensus Building (Advanced Negotiation)		
担当者名 (Instructor)	渡邊 真由(WATANABE MAYU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2911	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

This seminar aims to develop an understanding of collaborative processes to help multi-stakeholder groups create solutions to complex problems.

授業の内容 (Course Contents)

Mediation is a private and consensual process in which an impartial person, a mediator, works with disputing parties to help them explore settlement, reconciliation, and understanding among them. This class is designed to enhance your facilitation skills and learn practical approaches to mediation. Throughout the semester, you will explore the strategies and theories of mediation to produce creative and mutually beneficial results on complex issues.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Understanding key mediation concepts (1)
2. Understanding key mediation concepts (2)
3. Understanding key mediation concepts (3)
4. Mediation exercise (1)
5. Mediation exercise (2)
6. Mediation exercise (3)
7. Mediation exercise (4)
8. Mediation exercise (5)
9. Mediation exercise (6)
10. Mediation exercise (7)
11. Mediation exercise (8)
12. Mediation exercise (9)
13. Mediation exercise (10)
14. Wrap-up

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

This is an interactive seminar that will require weekly readings and preparation. Because role-plays are the main activity, participation in the class discussion is valued; attendance, class participation, and written assignments are the core evaluation components.

As this is an advanced class of "Negotiation Basics," students interested in taking this seminar are recommended to take it in advance.

The students in this seminar may have the opportunity to participate in the ICC mediation competition (<https://2go.iccwbo.org/>).

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and class participation(70%)/Written assignment(30%)

テキスト (Textbooks)

Readings will be distributed in the class.

参考文献 (Readings)

1. Douglas Stone, Bruce Patton, Sheila Heen. 2010. Difficult Conversations: How to Discuss What Matters Most. Penguin Books (ISBN:978-0143118442)

2. Dr. Jennifer E. Beer PhD, Caroline C. Packard JD. 2012. The Mediator's Handbook: Revised & Expanded fourth edition. New Society Publishers (ISBN:978-0865717220)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:10-20

配当年次:2-4 年次

選考方法:Short essay

①題目:What do you hope to learn from this class?

②字数:400 words (approx.) (英語)

※春学期に基礎的なケースを使ってロールプレイを行い、秋学期ではより複雑なケースを扱うことでメディエーションのスキル向上を目指します。春学期及び秋学期の演習を連続して履修した学生の中から数名を選抜して、フランス・パリで開催される ICC Mediation Competition に出場する可能性があります(例年 2 月上旬に開催、コンペの出場に審査があるため海外渡航が確定しているわけではありません)。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX717／法政外国語演習<ドイツ語> (Seminar on Law and Politics(German))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ドイツ語法律文献講読		
担当者名 (Instructor)	神橋 一彦(KANBASHI KAZUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 ND164「法学政治学特別リサーチ」と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

ドイツの憲法や政治に関する文献を講読し、ドイツ語の基本的読解力を養成するとともに、法治主義、民主主義、国民主権や歴史も含めた日独の違いについても考える。

By reading literature on the German constitution and politics, students develop basic reading comprehension skills in German, while also thinking about the differences between Japan and Germany, including the rule of law, democracy, sovereignty of the people, and the history.

..

授業の内容 (Course Contents)

各自、テキストを事前に読んできてもらい、予め決められた受講生が分担部分について訳す。内容や文法について授業担当者が解説するとともに、参加者全員で内容について議論を行う。読む分量は、毎回1～2 頁と多くはないが、初級文法をベースに文章を正確に理解する能力の養成を目指す。

This course requires each student to read the text in advance, and a predetermined student translates the assignment. The instructor explains the contents and grammar, and all participants discuss the contents. The readings are not long, 1-2 pages each, but the aim is to develop the ability to understand sentences accurately based on elementary grammar.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. ドイツ語文献講読
3. ドイツ語文献講読
4. ドイツ語文献講読
5. ドイツ語文献講読
6. ドイツ語文献講読
7. ドイツ語文献講読
8. ドイツ語文献講読
9. ドイツ語文献講読
10. ドイツ語文献講読
11. ドイツ語文献講読
12. ドイツ語文献講読
13. ドイツ語文献講読
14. ドイツ語文献講読

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

毎回扱う部分について、文法の知識を踏まえ、必ず事前に訳してくる。また、ドイツ憲法に関する背景知識については、参考文献所掲の『ドイツ憲法集[第8版]』の説明が有益であるので、一読することが望ましい。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

発表と授業への参加(100%)

テキスト (Textbooks)

テキストは比較的平易なものを予定している。
最終的には受講生の希望も勘案して決定する。

参考文献 (Readings)

1. 高田 敏ほか(編集, 翻訳)、2020、『ドイツ憲法集[第8版]』、信山社 (ISBN:978-4797223705)

2. 初宿 正典 (著, 翻訳)、2018、『ドイツ連邦共和国基本法—全訳と第 62 回改正までの全経過』、信山社 (ISBN:978-4797223590)
3. 初宿 正典ほか(編)、2020、『新解説 世界憲法集 第5版』、三省堂 (ISBN:978-4-385-31311-5)
4. 鈴木 秀美 ほか(著, 編集)、2020、『〈ガイドブック〉ドイツの憲法判例』、信山社 (ISBN:978-4560088074)
5. ボード・ピエロートほか (著)、2019、『現代ドイツ基本権〔第 2 版〕』、法律文化社 (ISBN:978-4589039859)
6. 村上 淳一ほか (著)、2018、『ドイツ法入門 改訂第 9 版』、有斐閣 (ISBN:978-4641048225)
7. 中山 豊、2018、『中級ドイツ文法(新装版)』、白水社 (ISBN:978-4560088074)

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

＜選考方法＞

採用人数: 10 人

配当年次: 2 年、3 年、4 年

選考方法: レポート

① 題目: 志望動機と今までのドイツ語学習歴(本学でドイツ語を履修していた場合は、そのことについても記載すること)について

② 字数: A4 1 枚

履修に当たっては、ドイツ語の初級文法について一通り学習していることを要する。なお、内容等について質問があるときは、授業担当者まで問い合わせること(メールで事前連絡すること)。

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX730／キャリアデザイン－インターンシップ (Internship Study)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	予測困難な時代において自分の人生を考える		
担当者名 (Instructor)	薬師丸 正二郎(YAKUSHIMARU SHOJIRO)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

不確実な時代において、自らのキャリアを自分自身で考える機会を与え、大学生活を目的をもって過ごす力を養う。講義では学修教材を通して、自分のキャリア形成および自己理解を深めるとともに、法学部の学修と社会の繋がりを考えるために、インターンシップへの参加、その後の振り返りを行う。民間企業志望、公務員志望を問わず、両者に対応できるように配慮する。

This course provides students with opportunities to think about their own careers in uncertain times, and cultivates the ability to spend university life with purpose. In the lectures, students will use learning materials to deepen their career development and self-understanding, as well as participate in internships and reflect on their experiences in order to consider the connection between their Faculty of Law education and society. Consideration will be given so that students who wish to work in both the private and public sectors can do so.

授業の内容(Course Contents)

- 社会で生きていくうえで、他者とのかわり合いは不可欠であること、コロナ禍において、対面での交流が減り、オンライン上でのコミュニケーションが増えたこと。これらの時代(ポスト コロナ)で求められるコミュニケーションとは何かについてもワークシートの作成などを通して考える。
- インターンシップは、各自、自分の興味・関心のある業界、企業などを探し出し、公募でエントリーすることを原則とする。

In the Corona disaster, face-to-face interaction has decreased and online communication has increased. We will also consider what kind of communication is required in these times (post-Corona).

As a general rule, each student is expected to find an industry or company of his/her own interest and enter the internship through an open competition.

授業計画(Course Schedule)

1. (4月12日) ガイダンス
2. (4月26日) 自己理解
3. (5月10日) 他者理解
4. (5月24日) インターンシップ編 ① ～準備編～
5. (6月7日) 「働くこと」の意味について考える
6. (6月21日) インターンシップ編 ② ～目標設定・課題の共有～
7. (7月5日) 春学期のまとめ
8. (9月20日) インターンシップ編 ③ ～報告～
9. (10月4日) コミュニケーションについて考える
10. (10月18日) 「傾聴力」について考える
11. (11月8日) 「話すこと」について考える
12. (11月22日) 今後の学生生活の戦略を立てる
13. (12月6日) インターンシップ編 ④ ～成果報告会事前準備～
14. (1月10日) まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 講義では、テキストのほか、プリントを配布し、各自でワークシートを完成し、提出するため、課題や復習について必ず行うこと。
- 適宜、個人面談を行う予定である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%) / 出席・リアクションペーパー(15%) / 課題提出物(30%) / 出席態度・発言(25%)

成績評価は合格・不合格のみとする。

テキスト(Textbooks)

1. 水國照充他、2018、『楽しく学んで実践できる対人コミュニケーションの心理学』、北樹出版 (ISBN:9784779305771)

参考文献(Readings)

1. ビル・バーネット他、2019、『スタンフォード式人生デザイン講座』、早川書房 (ISBN:9784150505462)
2. 小塩 真司、2021、『非認知能力 - 概念・測定と教育の可能性』、北大路書房 (ISBN:9784762831645)
3. スティーブン・R・コヴィー、2013、『完訳 7つの習慣』、キングベアー出版 (ISBN:9784863940246)
4. 山内雅恵 監修、2019、『人間関係づくりとコミュニケーション』、金子書房 (ISBN:9784760830398)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

- ① 採用人数は、50名程度、配当学年は2年次、3年次。履修申込の際、提出するレポートにより選考する。
(1)「キャリアデザインインターンシップを通じた学修(Internship Study)」に参加を希望する理由
(2) 自己PR
(3) 将来の就きたい職業(公務員、民間企業、その他、未定)について、現時点での考えを、理由を付して述べよ。
字数:(1)(2)600字程度。(3)400字以上。Word形式とする。
やむを得ない理由で履修を辞退する場合は、履修要項を確認の上、必要な手続きを取ること。
- ② 講義期間は、通年を通して行う。講義の開催は、2単位のため、隔週開催を原則とするが、受講生の成果報告会(12月開催予定)、各自のふりかえりを伴う回、ゲストスピーカーによる講演会を実施する際は、昼休みの時間を用いたり、翌週の講義回ではない週も続けて開催するので覚悟して欲しい(事前に連絡をする)。
- ③ インターンシップへの参加も講義の内容となっているが、公募から漏れ、参加できなかったとしても、同様の効果を得る機会を設ける(本講座受講生向けのインターンシップ案内、各種対外的活動)ので安心して参加して欲しい。
具体的には、社会の現実の課題を解決する体験として、自治体あるいは、企業とのコラボにより実施するプログラムを複数設け、実施する(昨年度の実施例:アサヒビール(株)、SDGs 研究所との連携による適正飲酒の普及活動など
(<https://www.asahigroup-holdings.com/pressroom/2022/1020.html>))。
- 2023年度は、上記プログラムの他、各種自治体、NPO法人などと共同で実施する地域活性化活動への参加機会を設ける予定(来年度の予定:豊島区トキワ荘協働プロジェクト協議会との共同事業、埼玉県志木市の多世代交流拠点の構築、その他【EX624】演習で実施するまちづくり活動)。
- ④ 人間関係づくりのコミュニケーションについても学び(自己理解、他者理解、相互理解など)、今後のキャリア形成について考える契機となるので、意欲のある人は、積極的に参加して欲しい。
- ⑤ 民間企業志望、公務員志望双方の学生についても公募型によるインターンシップに参加することを前提とする。本講座対象者向けに、民間企業からインターンシップ案内が来た際は、その都度、知らせる。
- ⑥ 講義では、適宜、社会人(インターンシップ学修会及び本ゼミ元受講生)と交流する場を設けることから、積極的に参加し、自己理解、自身のキャリア形成に役立ててほしい。
- ⑦ その他
本講義の講義内容、インターンシップや対外的活動に関する疑問、質問など詳細を確認したい学生向けに随時、質問を受け付けています。2023年2月1日~3月21日まで受け付けるので、メールにて申し込みを行って下さい
(yakushimaru0625@rikkyo.ac.jp)。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX731／自治体長期インターンシップ (Internship)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地方自治体での就業体験による学びの再確認と今後のキャリア目標の設定		
担当者名 (Instructor)	原田 久(HARADA HISASHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3950	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

この授業の目標は、地方自治体での就業体験を通じて自らのキャリア目標を設定できるようになることです。

We aim to help students set their own career goals through work experience in local government.

授業の内容 (Course Contents)

地方自治体におけるインターンシップの目的、心構え及びビジネス・マナーを事前学習した上で、毎週1回(水曜: 15:35～17:15)、豊島区役所(住所: 豊島区南池袋 2-45-1)に派遣します。派遣先では実際の業務補助に携わります。

After learning about the purpose of internships, participation mindset, and manners in local government, students will participate in a 100-minute internship each week at Toshima Ward Office.

授業計画 (Course Schedule)

1. 事前学習(インターンシップの目的・目標の確認、実習先の研究及びビジネスマナーの習得)
2. 派遣先での事前研修(豊島区役所)
3. インターンシップ実習(豊島区役所)
4. インターンシップ実習(豊島区役所)
5. インターンシップ実習(豊島区役所)
6. インターンシップ実習(豊島区役所)
7. インターンシップ実習(豊島区役所)
8. インターンシップ実習(豊島区役所)
9. インターンシップ実習(豊島区役所)
10. インターンシップ実習(豊島区役所)
11. インターンシップ実習(豊島区役所)
12. インターンシップ実習(豊島区役所)
13. インターンシップ実習(豊島区役所)
14. インターンシップ報告会(豊島区役所)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

豊島区役所の各種施策について学習を深めておいてください。また、地方自治の教科書を事前に読んでおいてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

現場実習の評価(50%)/毎週の実習後のレポート(25%)/報告会(25%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

【履修定員】: 1 名

【履修対象者】: 3, 4 年生

◆オンライン・ガイダンスについて◆

【実施日時】 2023 年 3 月 7 日(火) 12:00～12:30

Zoom リンク:

<https://rikkyo-ac-jp.zoom.us/j/87201917022?pwd=RGszU2dwTGZlK2tKYi9xcWdueTVlZz09>

ミーティング ID: 872 0191 7022

パスコード: 782584

※履修を検討している学生はできる限り参加してください。詳細は法学部公式 twitter 等でご案内します。

◆レポート及び面接による選抜について◆

本科目履修にあたってはレポート及び面接によって受講者を決定します。

【レポートのテーマ】:「自治体長期インターンシップを履修する目的について」(word/1,000 字程度)

【提出期間】: 法学部掲示板、シラバス・時間割検索システムのトップページ、R Guide(3/20 以降)に掲載されている申込要領を確認してください。

【提出先】: Blackboard を通じて提出してください。

【レポート合格者の発表】: R Guide で発表します。レポート合格者に対して教員による面接を行います。

注意事項 (Notice)

本科目は、インターンシップや学外活動等の実践的な学びを中心に構成する授業である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX732／自治体長期インターンシップ (Internship)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	地方自治体での就業体験による学びの再確認と今後のキャリア目標の設定		
担当者名 (Instructor)	原田 久(HARADA HISASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3950	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

この授業の目標は、地方自治体での就業体験を通じて自らのキャリア目標を設定できるようになることです。

We aim to help students set their own career goals through work experience in local government.

授業の内容 (Course Contents)

地方自治体におけるインターンシップの目的、心構え及びビジネス・マナーを事前学習した上で、毎週1回(水曜: 15:35～17:15)、豊島区役所(住所: 豊島区南池袋 2-45-1)に派遣します。派遣先では実際の業務補助に携わります。

After learning about the purpose of internships, participation mindset, and manners in local government, students will participate in a 100-minute internship each week at Toshima Ward Office.

授業計画 (Course Schedule)

1. 事前学習(インターンシップの目的・目標の確認、実習先の研究及びビジネスマナーの習得)
2. 派遣先での事前研修(豊島区役所)
3. インターンシップ実習(豊島区役所)
4. インターンシップ実習(豊島区役所)
5. インターンシップ実習(豊島区役所)
6. インターンシップ実習(豊島区役所)
7. インターンシップ実習(豊島区役所)
8. インターンシップ実習(豊島区役所)
9. インターンシップ実習(豊島区役所)
10. インターンシップ実習(豊島区役所)
11. インターンシップ実習(豊島区役所)
12. インターンシップ実習(豊島区役所)
13. インターンシップ実習(豊島区役所)
14. インターンシップ報告会(豊島区役所)

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

豊島区役所の各種施策について学習を深めておいてください。また、地方自治の教科書を事前に読んでおいてください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

現場実習の評価(50%)/毎週の実習後のレポート(25%)/報告会(25%)

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

【履修定員】: 1 名

【履修対象者】: 3, 4 年生

◆オンライン・ガイダンスについて◆

5月22日(月)12時半からオンライン・ガイダンスを実施します。履修を検討している学生はできる限り参加してください。詳細は法学部公式 twitter 等でご案内します。

<https://rikkyo-ac-jp.zoom.us/j/85291391676?pwd=WmVFMHFSSWnV6cXpKZ3lxdEWeWpTZz09>

ミーティング ID: 852 9139 1676

パスコード: 630498

◆レポート及び面接による選抜について◆

本科目履修にあたってはレポート及び面接によって受講者を決定します。

【レポートのテーマ】:「自治体長期インターンシップを履修する目的について」(word/1,000 字程度)

【提出期間】:後日、R Guide にて発表いたします。

【提出先】:後日、R Guide にて発表いたします。

【レポート合格者の発表】: R Guide で発表します。レポート合格者に対して教員による面接を行います。

注意事項 (Notice)

本科目は、インターンシップや学外活動等の実践的な学びを中心に構成する授業である。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX761／合同講義(オックスフォード・サマー) (Law Faculty Joint Lecture(Oxford Summer Program))		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	イギリス法学・西洋古典・自主研究		
担当者名 (Instructor)	小川 和茂(OGAWA KAZUSHIGE) 溜箭 将之(TAMARUYA MASAYUKI)		
学期 (Semester)	通年他(Full year Others)	単位 (Credit)	6単位(6 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2933	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標(Course Objectives)

夏期 4 週間(8 月 5 日～9 月 4 日)をイギリスのオックスフォードなどで過ごし、西洋古典とイングランド法の基礎を学ぶこと。

The objective of this seminar is to have students spend four weeks during the summer term (August 5 to September 4) in Oxford, England to learn the fundamentals of Western classics and English law.

授業の内容(Course Contents)

授業の中核は、オックスフォード大学で 4 週間にわたり、東京大学と青山学院大学と合同で行うサマー・プログラムにある。プログラム前半の 2 週間では、オックスフォード大学の若手教員らにより、契約法・不法行為法など法学基本科目の少人数講義と、ホメロスなどを扱った西洋古典学や西洋文学の少人数講義が行われる。イングランドの法律家の基本的な思考様式を学ぶとともに、イギリスを含めた西洋社会の伝統に接することで、強烈な異文化体験をするとともに、是非はともあれ今日国際的に影響力のある西欧的思考とどのように対峙できるか、自ら考えてもらう。プログラム後半の 2 週間では、イギリスの裁判所等を見学するとともに、自ら課題を設定して個別研究を行う。最後に研究成果のプレゼンテーション及びレポートが求められる。

なお、春学期に 4～5 回の事前学習、秋学期に 1 回の総括の授業を行う。

* 2023 年 3 月 20 日(月)17:00～18:30 に実施される履修手続ガイダンスに出席のこと。

* 費用(渡航費・宿泊費・プログラム費用等)は 75 万～85 万円程度を想定するが、為替や自由行動の内容により変動する。

* 本合同講義は単年度開講である。2014 年度・2015 年度・2016 年度・2017 年度・2018 年度・2019 年度・2021 年度、2022 年度の合同講義を履修した者は、本年度の合同講義を履修することはできない。

* オックスフォード大学の正規プログラムではないため、同大学による単位認定や修了証明書発行等はなされない。

The core of the class will spend four weeks at Oxford University as part of a joint summer program with The University of Tokyo and Aoyama Gakuin University. During the first two weeks of the program, young faculty members from Oxford University will lecture to small groups of students about fundamental legal disciplines including contract law and tort law as well as Western Classics including the works of Homer and Western literature. In addition to studying the fundamental ways of thinking of English lawyers, students will engage in an intense intercultural experience by coming into contact with the traditions of Western society including England while thinking on their own about how they can confront Western European thought, which by all means is internationally influential today. During the latter two weeks of the program, students will take field trips to an English court and other locations while selecting their own topic to conduct individual research. Finally, students will be required to present their research results and submit a report.

Furthermore, please note that four to five advance learning sessions will be held during the spring semester, and one general class will be held during the fall semester.

* Students are required to attend a course guidance session held between 5.00pm and 6.30pm on 20 March.

* The cost (travel, lodging, program, and other fees) is expected to be between 750,000 and 850,000 yen, but it may fluctuate due to exchange rates and unorganized activities.

* This joint lecture is only held during a single academic year. Students who took the joint lecture during the 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2021 or 2022 academic years cannot take the joint lecture during this academic year.

* Because this is not an official Oxford University program, there will be no credit approval or completion certificates issued by Oxford university.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション[4 月 15 日(金)6 限(予定)]
2. 事前研究①: イギリスの教育制度
3. 事前研究②: 西洋古典の基礎
4. 事前研究③: イギリス法の基礎
5. コモンロー契約法入門①
6. コモンロー契約法入門②
7. コモンロー契約法入門③

8. コモンロー契約法入門④
9. コモンロー契約法入門⑤
10. コモンロー不法行為入門①
11. コモンロー不法行為入門②
12. コモンロー不法行為入門③
13. コモンロー不法行為入門④
14. コモンロー不法行為入門⑤
15. ホメロス『イリアス』①
16. ホメロス『イリアス』②
17. ホメロス『イリアス』③
18. ホメロス『イリアス』④
19. ホメロス『イリアス』⑤
20. 西洋文学①
21. 西洋文学②
22. 西洋文学③
23. 西洋文学④
24. 西洋文学⑤
25. 自主研究①
26. 自主研究②
27. 自主研究報告スピーチ
28. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回準備課題を指定する。また、上記に示された各回の講義内容は便宜上記入したものである。
詳細については履修ガイダンスに参加すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

自主研究報告スピーチ(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/参加態度(20%)

テキスト(Textbooks)

1. John Cartwright. 2016. "An Introduction to the English Law of Contract for the Civil Lawyer (3rd ed.)". Hart Publishing (ISBN:9781509902910)
2. Alastair Mullis and Ken Oliphant. 2011. "Torts (4th ed.)". Palgrave Macmillan (ISBN:9780230576759)
3. ホメロス・松平千秋訳、1992、『イリアス』(上)(下)、岩波文庫 (978-4003210215, 978-4003210222)
4. ホメロス・松平千秋訳、1994、『オデュッセイア』(上)(下)、岩波文庫 (978-4003210246, 978-4003210253)

参考文献(Readings)

1. 池田潔、1949、『自由と規律——イギリスの学校生活』、岩波新書 (ISBN:978-4004121411)
2. 藤原正彦、1994、『遥かなるケンブリッジ——数学者のイギリス』、新潮文庫 (ISBN:978-4101248042)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

募集条件

履修対象学生： 本学2～4年次生。

募集人数： 10名程度

選考方法： 3月20日(月)17:00～18:30くらいまでに開催される本授業の履修手続ガイダンスに出席した上で、レポートにより選考する。

履修が許可された場合には、それ以降の履修取消は原則として認めない。

英語力による選抜は行わない。ただし、英語で知的にタフな内容を議論することに意味があることを理解して参加されたい。

* 本科目は、登録後取り消すことはできない。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX801 / Contemporary Culture in Japan		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Tracing critical issues in Japanese media/pop culture creations		
担当者名 (Instructor)	ヨ イエジ(YEO YEZI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標(Course Objectives)

In this course students will explore concepts and subjects concerning media/cultural studies in contemporary Japan. Students will examine media discourse and representation with conceptual tools to better understand contexts and issues arising from gender, race, and class dynamics in contemporary Japanese society.

授業の内容(Course Contents)

This is an intensive discussion-oriented course, in which students are expected to read academic texts, present individually/as a group, analyze media/pop culture products, collaborate for classwork, and actively discuss theoretical concepts, observations, and opinions every week.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction to the course
2. The queer world of manga:
Love Pistols (2004–2020)
3. The binary world of anime:
Demon Slayer (2016–2020)
4. Dramatizing dis/obedient femininities:
Tokyo Love Story (1991 & 2020)
5. Evolving masculinities on TV:
Rent a Person who Does Nothing (2020)
6. Screening subversive bodies:
Go (2001)
7. Fashioning alternative styles:
Colorful Love: My Androgynous Boyfriend (2021)
8. Contemporary art & shojo/moe bodies:
Warlords of Sigdrifa (2020)
9. Digital racism & misogyny:
Naomi Osaka and Ariana Miyamoto
10. Branding & consuming fandoms:
Train Man (2005)
11. Final presentations and discussions 1
12. Final presentations and discussions 2
13. Final presentations and discussions 3
14. Guest speaker

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Students are expected to come to class having done the weekly reading assignments.

成績評価方法・基準(Evaluation)

Attendance: Active participation(30%)/Assignments: In-class reflections(30%)/Presentations: Weekly & final(40%)

テキスト(Textbooks)

Materials will be provided by the instructor.

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

Schedule, off/online format, and syllabus content are subject to change. Up to seven classes will be held via Zoom.

注意事項 (Notice)

It is recommended that the student's English level is at or above
TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX802／Orientalism in Media		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	East Asia and Asians in Hollywood Films		
担当者名 (Instructor)	青木 敦子(AOKI ATSUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

In this course we will revisit the concept of Orientalism and examine a variety of cinematic representations of Asia and Asians in Western, English-language, commercial films. We will interrogate what these imaginings tell us about anxieties over and/or desire for diversity, multiculturalism, and globalization.

授業の内容 (Course Contents)

On completion of this course, the students will be able to: (a) have a grasp of the history of cinematic representations of race, gender, nation, and multiculturalism and (b) think critically of the mechanisms and processes by which Orientalist representations are produced.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course Introduction
2. The Persistence of Yellow Peril Discourse
3. Representations of Asian Gender
4. Yellowface / The Oriental Detective
5. First Film Review and Discussion
6. World War II Films
7. Cold War Films
8. East Asian Affluence in Film
9. Second Film Review and Discussion
10. Martial Arts Action Films
11. Techno-Orientalism
12. Transpacific Crossovers
13. New Trends
14. Final Film Review and Discussion

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are expected to prepare for each session by making notes on the assigned reading(s) of the week for submission, and to be sure to review the class content after each session.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Class Participation(10%)/Note-taking Assignments(30%)/Film Reviews(60%)

Students are expected to attend every class. Students need to attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.

テキスト (Textbooks)

1. Karla Rae Fuller. 2010. *Hollywood Goes Oriental: CaucAsian Performance in American Film*. Wayne State University Press (ISBN:978-0814334676)
2. Kent A. Ono and Vincent N. Pham. 2009. *Asian Americans and the Media: Media and Minorities*. Polity (ISBN:978-0745642734)
3. Jane Chi Hyun Park. 2010. *Yellow Future: Oriental Style in Hollywood Cinema*. University of Minnesota Press (ISBN:978-0816649808)

参考文献 (Readings)

1. Andrew Dix. 2016. *Beginning Film Studies: Second Edition*. Manchester University Press (ISBN:978-1784991388)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

It is recommended that the student's English level is at or above
TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX803／Religion and Society in Asia		
担当者名 (Instructor)	ムスリン, I(MUSULIN ILJA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標(Course Objectives)

The main goal of this course is acquiring basic knowledge of religions in Asia, with a focus on Japan and East Asia. The course also aims to help students develop the ability to think of social and cultural issues pertaining to religion from different angles, and to encourage them to foster an attitude of understanding and respect for different worldviews and value systems.

授業の内容(Course Contents)

In this course, through a study of different religious worldviews and values, students will explore the role of religious thought and practice in various social issues and the formation of culture. The course will focus on Shinto, Taoism, Buddhism and Confucianism in East Asia, but will also touch on other religions and on India.

授業計画(Course Schedule)

- Course introduction; Religions in Asia
The main objectives, the content of the course, as well as the requirements for students and grading criteria will be introduced.
We shall take a broad look at the Asian continent and religions present on it, with a focus on those religions that have had a significant cultural and social influence on Japan and East Asia.
- Shamanism in East Siberia, Korea and Japan
During this class we shall talk about shamanistic practices in East Asia, the powers shamans are believed to possess and their spiritual and social role.
- Shinto and Japanese Society and Culture I
Here we shall take a broad look at Shinto: examine what kind of a religion it is, how it could be classified, and what its main characteristics are in terms of faith, ritual and values. We shall also consider how its worldview has influenced Japanese culture.
- Shinto and Japanese Society and Culture II
We shall take up the topic of polytheistic beliefs in the Japanese Archipelago in ancient times and explore the early influence of Taoism and Buddhism on Shinto. We shall particularly focus on the fusion of Shinto and Buddhism (shinbutsu shuugou).
- Shinto and Japanese Society and Culture III
Here we shall trace the development of Shinto doctrine in Medieval and Premodern times in relation to Buddhism and Confucianism, examine the National Learning (kokugaku) teachings and the shift towards the so-called "state Shinto" in the Meiji era. We shall also discuss the issue of whether there is one, single Shinto, or whether "Shinto" is a construct consisting of several different traditions.
- Taoism I: its cosmology and worldview
This lesson will be dedicated to the Taoist thought and practices in China: the concept of Tao, the theory of yin-yang and the theory of five phases (elements).
- Taoism II: various religious practices
In this class we will learn about Taoist divination methods and techniques for improving health, achieving longevity and immortality
- Guidelines for writing the term-end paper.
During this class students will be given concrete and detailed advice on how to write a well-structured, objective and logically consistent paper, how to select and use literature and argue in a persuasive way.
- Religions in India
Here, we shall talk about religions in India, with a focus on pre-Buddhist religious thought and the birth of Buddhism.
- Buddhism in East Asia I
Here we shall take up topics such as the spread of Buddhism through Asia, the differences between Theravada and Mahayana Buddhism and consider how Buddhism has influenced the culture and society of Southeast and East Asia.
- Buddhism in East Asia II
We shall learn about the doctrines of main strands of Buddhism present in East Asia and their influence on the worldview and customs of East Asian people.

12. Confucianism in China and Japan I

Here we shall introduce the main tenets of classical Confucianism and examine the influence of Confucianism on the family, interpersonal relationships, social status of men and women, and attitudes toward learning, work and the state in East Asia.

13. Confucianism in China and Japan II

We shall learn about Neoconfucianism and debate the role Confucianism has played in East Asian societies in terms of education, politics and modernization.

14. Christianity in East Asia; Religions and Religiosity in East Asia

We shall examine the history of Christianity in East Asia, how the religion has been perceived and treated and what cultural, organizational and political challenges it has encountered in East Asia.

In closing the course, we shall examine some overall characteristics of religion in East Asia, such as rich diversity, pervasive syncretism and adaptability, as well as current attitudes of East Asians toward religion.

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students will be required to read one or more books so that they can write their term-end assignment.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(80%)/Attitude in class(20%)

テキスト (Textbooks)

Handouts will be distributed in each lesson.

参考文献 (Readings)

1. Eliade, Mircea (ed.). 1987. *The Encyclopedia of Religions*. Macmillan
2. Hawkins, Bradley .K.. 2003. *Introduction to Asian Religions*. Longman
3. Kasahara, Kazuo. 2002. *A History of Japanese Religions*. Kosei

Other reading material will be introduced in the class.

その他(HP 等) (Others(e.g. HP))

注意事項 (Notice)

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX804／Japan in Asia		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Japan and its Relations with Korea and its Neighbors		
担当者名 (Instructor)	カプリオ, M. (CAPRIO MARK E.)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標(Course Objectives)

This class will explore the long relations, the good as well as the not so good, that Japanese have shared with primarily the Korean peninsula but also with China where appropriate. It will consider issues from both a global and a local perspective.

To gain an understanding of Japan's relations with its Asian neighbors, particularly with its closest neighbor, Korea.
To be able to formulate a particular problem as a research question, and to address that question objectively.

授業の内容(Course Contents)

The class will be both lecture and discussion. Participants will be expected to read prepared articles in advance to prepare for the class.

The course is about Japan and Asia but its particular focus will be on the Japan-Korea relationship. Students are encouraged to consider Japan's relations with other Asian states depending on their individual interests.

授業計画(Course Schedule)

1. Intro. to Class/Lecture: Problems in Northeast Asian Relations
2. Traditional Roots
3. Problems of Modernization
4. First Short Paper: Reports/Discussion
5. Changing of the Guard: China⇒Japan
6. Northeast Asian Wars and Colonization
7. Japanese Colonial Practices
8. Wartime Japan-Northeast Asian relations and its legacies
9. Second Short Paper Reports/Discussion
10. Postwar Occupations
11. The Korean War and Japan
12. Contemporary Northeast Asian Issues
13. Korean Views of Japan
14. Third Short Paper Reports/Discussion

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Students will be expected to do readings prepared for the class, and also prepare three short papers (3-5 pages), as well as a longer paper (10 pages) that can be based on one of the shorter papers. For the longer paper students will be expected to find extra resources. The shorter papers can be based on class readings.

成績評価方法・基準(Evaluation)

Short Paper 1(20%)/Short Paper 2(20%)/Short Paper 3(20%)/Long Paper(40%)

テキスト(Textbooks)

Readings will be provided on Blackboard

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

Of the 14 total classes, 7 or more are carried out face-to-face and 7 or fewer are carried out online.

注意事項 (Notice)

It is recommended that the student's English level is at or above
TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX805/Ethnicity and Globalization in Japan		
担当者名 (Instructor)	ティンティン(TIN TIN HTUN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

This class will help you to

- critically analyze race and racism in Japan from historical, economic, legal, and political perspectives
- explore and understand social inequality experienced by various ethnic groups in Japan
- construct your own arguments, using data/evidence appropriately

授業の内容 (Course Contents)

In this course, we will critically analyze issues of race and racism in Japan, as well as discuss various problems facing various ethnic minorities and how globalization impacts ethnic issues in Japan. The course focuses on discrimination against Ainu, Buraku, Zainichi Koreans, Okinawans, and foreign migrant workers. We will examine how race and ethnicity are conceptualized in Japan, and how the ideology of racial and cultural homogeneity has an impact on institutional, legal, and social discrimination against various ethnic groups.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Overview of the course
2. Defining race and ethnicity in Japan
3. Hafu
4. Ainu
5. Buraku
6. Zainichi Koreans
7. Fieldwork plan presentations
8. Okinawans
9. Migrant care workers
10. Fieldwork
11. Fieldwork
12. Fieldwork presentation preparation
13. Fieldwork presentations
14. Reflection and feedback

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

You will need one to two hours a week to prepare for the class. Prepare the readings for the discussion before coming to the class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Reading and posting on discussion board(25%)/Participation in discussion(15%)/Discussion leader(10%)/Fieldwork/Research(35%)/Presentation(10%)/Reflection paper(5%)

テキスト (Textbooks)

No textbook required.

参考文献 (Readings)

Students have to download readings from the blackboard.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

It is recommended that the student's English level is at or above

TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX806/Multiculturalism in Japan		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Culture, Power and Identities in Diversifying Japan		
担当者名 (Instructor)	森田 京子(MORITA KYOKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

The aims of this course are to explore realities of multiculturalism in contemporary Japan and to increase our awareness of the dynamics of racial/ethnic, gender/sexual, and class differences in the situated society. We will examine relations of difference and inequality in everyday practice and consider how to make a difference to realize the Japanese form of integration. For this purpose, we will take account of various positions on the issue of human rights and identity politics, in terms of the interrelationship of blood/lineage, ethnicity, and nationality. Throughout we will deliberate on the following two aspects usually overlooked in the current minority controversy: the intra-group diversity and the multiplicity of social identity.

授業の内容 (Course Contents)

To deal with the highly sensitive and political issues, this course will be conducted partly in English and partly in Japanese. The class will be very interactive, including group project, discussion and presentation. Students are encouraged to transcend politically correct silencing and actively exchange multiple perspectives. Thereby, we will think critically about the legitimacy of certain images of "different" groups of people, and will seek possible solutions to integrate various "differences" into ethnically and socially diversifying Japan.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course introduction
The myth of homogenous Japan
2. The paradigm of "Japanese" to "Non-Japanese":
blood/lineage, culture, and nationality
3. Kikokushijo (Japanese returnees)
Hafu (Mixed parentage)
4. Nikkeijin (e.g., Brazilians of Japanese parentage)
Newcomer Chinese and other Asians
5. Muslim communities
"Pure non-Japanese"
6. Midterm Project I
7. Midterm Project II
8. The Dowa issue
The Ainu, The Okinawans
9. Ethnic Koreans in Japan
10. Educational issues:
School difficulty, Unschooled children etc.
11. Working issues:
The technical intern training program etc.
12. Immigration issues:
Illegal entrants and overstayers, Refugees (asylum seekers)
13. Final Presentation I
14. Final Presentation II

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Reading assignments and research projects will be distributed in class meetings.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Attendance and Participation (incl. volunteer speech)(30%)/In-Class Activities & Midterm Project (group)(40%)/Final Project (individual)(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 森田京子、2007、『子どもたちのアイデンティティ・ポリティックス：ブラジル人のいる小学校のエスノグラフィー』、新曜社 (ISBN:978-4-7885-1063-0)

Other references will be introduced in class.

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

Due to the limitations of latest English literatures on this issue, international students are highly recommended to have Japanese language proficiency, including reading literacy. In addition, students need to know Japanese history to better understand the content. Most of all, however, this course requires students' special commitment since the contents cover highly sensitive human rights issues.

注意事項(Notice)

It is recommended that the student's English level is at or above TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700, or TOEIC IP 700.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX807 / Social Movements and Social Change		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Social Movements in Modern and Contemporary Japanese History		
担当者名 (Instructor)	アコスタ, A. (ACOSTA ARIEL KATHLEE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX3901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:異文化コミュニケーション学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

By the end of the course, students will be able to:

- 1) Have a sense of the role of social movements in Japan's modern history and connect them with contemporary society and politics
- 2) Gain exposure to different primary and secondary texts in Japanese history (in English translation)
- 3) Learn research and writing skills
- 4) Hone media literacy skills

授業の内容 (Course Contents)

This course investigates the role of social movements in enacting social, cultural, and political change in Japanese society. We will bring an awareness of contemporary movements when studying historical protests, and an understanding of deep historical roots when examining the social movements of today. This course will ask, among many other questions— Who gets to be defined as 'Japanese'? Why is Japanese society often described as 'low-conflict'? How do social movements and protests function as agents of cultural/political/social change? What role does the media play in social movements? How are social movements linked across the globe?

授業計画 (Course Schedule)

1. Conflict and Uprising in Japanese History One: Re-thinking the Meiji Restoration and the Formation of Modern Japan
2. Conflict and Uprising in Japanese Society Two: The Turbulent Early 20th Century
3. Interwar Radicalism: Anarchists, Marxists, Thought Police
4. Interwar Radicalism: Rightwing Coups Against a Rightwing State
5. Citizenship and Ethnicity in a Time of Imperial War
6. Mid-term Presentations
7. Against a Nuclear Japan: Anti-Nuclear and Environmental Movements from Hiroshima to Fukushima
8. The LDP Postwar Order and its Discontents
9. Student Movements from ANPO to Today
10. Okinawa and Anti-base Struggles
11. Gender and Media in the 21st Century
12. Rethinking Race in Contemporary Japan
13. Contemporary LGBTQ Movements
14. Final Presentations

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students will be expected to read approximately one academic article per week. Articles will vary in length, but students should set aside at least 90-120 minutes per week for reading and writing responses in the class discussion board.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(45%)/Class Participation(40%)/Mid-Term Presentation(15%)

テキスト (Textbooks)

All readings will be provided by the professor

参考文献 (Readings)

All readings will be provided by the professor

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

注意事項 (Notice)

It is recommended that the student's English level is at or above
TOEFL iBT 76, IELTS 6.0, TOEIC 700 , or TOEIC IP 700.

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX808／Tourism Study 1 (Business)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Understanding businesses in tourism		
担当者名 (Instructor)	韓 志昊(HAN JIHO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:観光学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

This course aims to provide students with the understanding of businesses in tourism by reading various references on tourism business.

授業の内容 (Course Contents)

This first half of the course discusses the basic terms and concepts of tourism in English to prepare students to complete the second half of the course which requires students to analyze information from various sources for tourism research in English.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Definitions of terms and basic concepts of business in tourism
3. Travel business
4. Accommodation
5. Food and Beverage
6. Meetings Industry
7. Transportation
8. How to use online databases to search references on tourism businesses in English
9. Reading newspaper articles on tourism business
10. Reading magazine articles on tourism business
11. Reading reports on tourism business by various organizations
12. Reading textbooks on tourism business
13. Reading journal articles on tourism business
14. Review

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to prepare for a quiz every class.

It is preferable to have completed "Introduction to Tourism 1" before taking this class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Quiz (5点 X 10回) (50%) / 最終レポート(Final Report) (30%) / 授業内参加 (Participation) (20%)

テキスト (Textbooks)

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 (Readings)

Reading materials will be introduced during the course.

その他 (HP等) (Others (e.g. HP))

Information resources will be introduced during the course.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX809／Tourism Study 2 (Society)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Tourism and (Local) Community		
担当者名 (Instructor)	ハサン, E. (HASAN EID-UL)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:観光学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

This course aims to provide students with a understanding of different aspects of the concepts of local community and sustainability, and the relationships between them, in relation to tourism development. At the end of the course, students will be able to engage analytically in the discussions about the impacts of tourism on local communities around the world and relate their own community to this broader picture, as well as identify ways to translate such knowledge to solve current issues related to the development of tourism.

授業の内容 (Course Contents)

The course introduces students with different perspectives and cases of tourism and local community research in various national and international contexts. Students will explore the impacts of tourism on local communities and vice versa, from a variety of perspectives including sociology, by asking in what ways tourism can coexist with local communities and contribute to the sustainable community development.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and presentations. Each session is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own community through reflection papers and presentation. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.

The course is taught in easy-to-understand English.

授業計画 (Course Schedule)

1. Orientation: nature and scope of the course
2. Tourism resources, local community and sustainability 1
3. Tourism resources, local community and sustainability 2
4. Short film screening & guidance for reflection papers
5. Tourism and community development: community-based tourism 1
6. Tourism and community development: community-based tourism 2
7. Farming community and tourism 1
8. Farming community and tourism 2
9. Mountain community and tourism 1
10. Mountain community and tourism 2
11. Coastal community and tourism
12. Urban community and tourism
Guidance for final presentation
13. Students' presentation session 1
14. Students' presentation session 2; summary

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to actively participate in-class discussions and group/pair work, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussions, reflection papers and presentation.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Active participation in class discussions and punctual submission of assignments/homework(40%)/Individual reflection papers (2 times)(30%)/Individual/group presentation(30%)

テキスト (Textbooks)

There is no required textbook for this course.

参考文献 (Readings)

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX810／Tourism Study 3 (Destination)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Business Statistics		
担当者名 (Instructor)	徐 翰林(XU HANLIN)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:観光学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

Upon completion of this course, the student will be able to

- ① Understand and explain basic tourism concepts and destination marketing elements.
- ② Understand the DCOVA framework
- ③ Able to apply statistics to solve business problems

授業の内容 (Course Contents)

Tourism is the world's most significant employment and global production industry. This course introduces the key statistics of tourism. The student will learn the DCOVA framework for applying statistics that can help solve business problems in the hospitality industry. By the end of this course, students will be required to write an English report by applying the DCOVA framework.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Important Things to Learn First
2. Defining and Collecting Data 【Quiz 1】
3. Organizing and Visualizing Variables 【Quiz 2】
4. Numerical Descriptive Measures 【Quiz 3】
5. Discrete Probability Distributions 【Quiz 4】
6. The Normal Distribution 【Quiz 5】
7. Presentation and Discussion 【Quiz 6】
8. Sampling Distributions 【Quiz 7】
9. Confidence Interval Estimation 【Quiz 8】
10. Fundamentals of Hypothesis Testing: One-Sample Tests 【Quiz 9】
11. Two-Sample Tests and One-Way ANOVA 【Quiz 10】
12. Chi-Square Test 【Quiz 11】
13. Simple Linear Regression 【Quiz 12】
14. Overview

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Read in English

成績評価方法・基準 (Evaluation)

In-class Participation (English)(10%)/Quiz (English) X12(60%)/Final Report (English)(30%)

テキスト (Textbooks)

Reading materials will be distributed in class

参考文献 (Readings)

1. David M. Levine; Kathryn A. 2016. Business Statistics: A First Course 7th Edition. Pearson (13. 978-0134268149)
- Others will be introduced during the course

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

Will be introduced during the course

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX811／Tourism Study 4 (Culture)		
担当者名 (Instructor)	ハサン, E. (HASAN EID-UL)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:観光学部) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

The course aims to provide students with a understanding of the relationship between tourism and culture. Students will explore the impacts of tourism on culture and vice versa, from a variety of perspectives including anthropology and cultural studies.

授業の内容 (Course Contents)

The course introduces students with key concepts and cases in relation to the cultural study of tourism, paying special attention on specific types of tourism and their relations with culture. At the end of the course, students will develop a good understanding of the impacts of tourism on culture and vice versa.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions, group/pair study, and presentations. Each session is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own society/community through reflection papers and presentation. Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.

The course is taught in easy-to-understand English.

授業計画 (Course Schedule)

1. Orientation: nature and scope of the course
2. Conceptual issues 1: host and guest
3. Conceptual issues 2: authenticity
4. Conceptual issues 3: tourist gaze
5. Short film screening & guidance for reflection papers
6. Heritage as a tourism resource
7. Local culture as a tourism resource
8. Popular culture as a tourism resource
9. Material culture of tourism: souvenirs
10. Representations of tourism 1: photographs, travel guidebooks
11. Representations of tourism 2: official tourism campaigns (promotional videos)
12. Representations of tourism 3: social media
Guidance for final presentation
13. Students' presentation session 1
14. Students' presentation session 2; summary.

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are required to actively participate in-class discussions and group/pair work, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussions, reflection papers and presentation.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Active participation in class discussions and punctual submission of assignments/homework(40%)/Individual reflection papers (2 times)(30%)/Individual/group presentation(30%)

テキスト (Textbooks)

There is no required textbook for this course.

参考文献 (Readings)

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Japanese Economy1		
担当者名 (Instructor)	西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

- a) Students will understand major events and the characteristics of the Japanese economy, relevant theories, concepts, and terminologies.
- b) Students will develop critical skills by working on a project topic of their choice.
- c) In class discussions, students have an opportunity to present their thoughts and exchange ideas to develop arguments.

授業の内容 (Course Contents)

Economics considers how businesses, governments, and individuals allocate their scarce resources for production, distribution, and consumption. This introductory course will develop a basic knowledge of the Japanese economy. "Japanese Economy 1" covers the trends of growth and stagnation, the characteristics of Japanese businesses and industrial structure, the economic policies of the government, and financial markets. "Japanese Economy 2" focuses on savings, demography, the labor market, and international trade and finance. This course consists of lectures and class discussions, in which students are expected to participate actively. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction (Chapter 1 of The Japanese Economy, Second Edition)
2. Economic growth 1: Postwar economic growth (Chapter 3)
3. Economic growth 2: Oil shocks and the bubble economy (Chapter 3)
4. Basics of academic writing and presentation
5. The Japanese economy and business cycles (Chapter 4)
6. Financial markets and supervision 1: Supporting the growth (Chapter 5)
7. Financial markets and supervision 2: Deregulation, banking crises and new financial systems (Chapter 5)
8. Current topics
9. Monetary policy 1: The 1950–1970s (Chapter 6)
10. Monetary policy 2: The bubble economy and the challenge of deflation (Chapter 6)
11. Public finance 1: The tax system (Chapter 7)
12. Public finance 2: The rise and fall of government debt (Chapter 7)
13. Industrial structure and policies (Chapter 9)
14. Conclusion

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Please read the assigned readings before each class meeting.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/8–10 mini assignments (quizzes, short presentations, and mini papers).(50%)

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. [If applicable] A rubric for a presentation and a short essay will be available for students. Academic Honesty: [If applicable] Students are required to prepare an original presentation and essay. Severe penalties are in place for students found guilty of plagiarism offenses. The submission of identical pieces of work for different courses is also considered an academic offense.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. Takatoshi Ito and Takeo Hoshi. 2020. *The Japanese Economy, Second Edition*. The MIT Press (ISBN:978-0262538244)
2. Takatoshi Ito. 1991. *The Japanese Economy*. The MIT Press (ISBN:978-0262090292)
3. N・グレゴリー・マンキュー(足立 英之, 石川 城太, 小川 英治, 地主 敏樹訳)、2019、『マンキュー入門経済学(第3版)』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492315217)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

The Economist: <https://www.economist.com/>

The Financial Times: <https://www.ft.com/> (Please create an account via the Rikkyo Library Website).

The Wall Street Journal: <https://www.wsj.com/>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Japanese Economy2		
担当者名 (Instructor)	西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

- a) Students will understand major events and the characteristics of the Japanese economy, relevant theories, concepts, and terminologies.
- b) Students will develop critical skills by working on a project topic of their choice.
- c) In class discussions, students have an opportunity to present their thoughts and exchange ideas to develop arguments.

授業の内容 (Course Contents)

Economics considers how businesses, governments, and individuals allocate their scarce resources for production, distribution, and consumption. This introductory course will develop a basic knowledge of the Japanese economy. "Japanese Economy 1" covers the trends of growth and stagnation, the characteristics of Japanese businesses and industrial structure, the economic policies of the government, and financial markets. "Japanese Economy 2" focuses on savings, demography, the labor market, and international trade and finance. This course consists of lectures and class discussions, in which students are expected to participate actively. The order of topics may be adjusted to maximize learning outcomes.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Japan in the 21st century. Summary of Japanese Economy 1 contents.
2. Industrial structure and policies (Chapter 9)
3. Saving, demography, and social security 1: Japan's saving rate and consumption (Chapter 8 of The Japanese Economy, Second Edition)
4. Basics of academic writing and presentation
5. The labor market 1: Basic statistics and stylized facts (Chapter 10)
6. The labor market 2: Changing labor market (Chapter 10)
7. International trade 1: Balance of payments, comparative advantage, and the pattern of trade (Chapter 11)
8. International trade 2: Trade policies and the international system (Chapter 11)
9. International finance 1: Balance of payments, exchange rates, capital flows and controls (Chapter 12)
10. International finance 2 (Chapter 12)
11. Japan's energy mix: Oil and natural gas imports and green businesses
12. The lost two decades and Abenomics 1 (Chapter 14)
13. The lost two decades and Abenomics 2 (Chapter 14)
14. Conclusion: Predicting and designing a future

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Please go through the assigned readings before each class meeting.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/Presentation and short assignments (quizzes, short writing assignments)(50%)

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. [If applicable] A rubric for a presentation and essay will be available for students. Academic Honesty: [If applicable] Students are required to prepare an original presentation and essay. Severe penalties are in place for students found guilty of plagiarism offenses. The submission of identical pieces of work for different courses is also considered an academic offense.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. Takatoshi Ito and Takeo Hoshi. 2020. *The Japanese Economy, Second Edition*. The MIT Press (ISBN:978-0262538244)
2. Takatoshi Ito. 1991. *The Japanese Economy*. The MIT Press (ISBN:978-0262090292)
3. N・グレゴリー・マンキュー(足立 英之, 石川 城太, 小川 英治, 地主 敏樹訳)、2019、『マンキュー入門経済学(第3版)』、東

洋経済新報社 (ISBN:978-4492315217)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

The Economist: <https://www.economist.com/>

The Financial Times: <https://www.ft.com/> (Please create an account via the Rikkyo Library Website).

The Wall Street Journal: <https://www.wsj.com/>

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Japanese Economic History1		
担当者名 (Instructor)	西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

- a) Students will understand major economic events in Japanese history and their influence on contemporary Japan.
- b) Students will be able to identify distinctive characteristics throughout Japanese economic history and common features shared with other economies.
- c) Students will be able to critically analyze a topic of their choice in assignments.
- d) In class discussions, students will present their thoughts and exchange ideas to develop arguments.

授業の内容 (Course Contents)

To understand how Japan transformed itself from a developing to a developed country, it is critical to examine the economic activities of the government, businesses, and people in the past. We also discuss political and social change because Japan's history has important implications for Japan in the 21st century. "Japanese Economic History 1" covers the period between the 17th century up to, but not including the First World War. "Japanese Economic History 2" covers the period between 1914 and the 1960s. This course consists of lectures and class discussions.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: Overview of Japanese economic history from the 16th to 21st centuries
2. The Edo period: The institutional framework and foreign trade
(Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 1, Chapter 1&2)
3. The Edo period: The Osaka rice market
(Reference reading: Moss, D. (2009). The Dojima Rice Market and the Origins of Futures Trading. Harvard Business Review Case Collection. <https://www.hbs.edu/faculty/Pages/item.aspx?num=36846>)
4. The Edo period: The transformation of industries
(Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 1, Chapter 9)
5. The Edo period: The finance of the Tokugawa Shogunate
(Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 1, Chapter 6)
6. The Edo period: Demography and living standards
(Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 1, Chapter 7)
7. The Edo period: The economy on the eve of industrialization
(Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 1, Chapter 11)
8. Japanese and global economic history in the 19th century
9. The Meiji period: Institutions and modern economic growth
(Reference reading: Francks, Chapter 10)
10. The Meiji period: Modernization and the growth of the urban industrial economy
(Reference reading: Francks, Chapter 10 & 11)
11. The Meiji period: The technology of Japan's industrialization
(Reference reading: Francks, Chapter 12)
12. The Meiji period: Industrial labor force, capital, corporate governance and business organizations (Reference reading: Francks, Chapter 13 and 14)
13. The Meiji period: Social, economic, environmental, and cultural transformations
(Reference reading: Gordon, Chapter 7)
14. Conclusion

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Please go through the assigned one before each class meeting.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/8-10 Short assignments (Presentation and short assignments)(50%)

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. [If applicable] A rubric for a presentation and

essay will be available. Academic Honesty: [If applicable] Students are required to prepare an original presentation and essay. Severe penalties are in place for students found guilty of plagiarism offenses. The submission of identical pieces of work for different courses is also considered an academic offense.

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby. 2004. *The Economic History of Japan, 1600–1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600–1859*. Oxford University Press (ISBN:978–0198289050)
2. Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen. 2003. *The Economic History of Japan, 1600–1990: Volume 3: A Dual Structure*. Oxford University Press (ISBN:978–0198289074)
3. Penelope Francks. 2015. *Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition*. Routledge (ISBN:978–0415739344)
4. Andrew Gordon. 2019. *A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition*. Oxford University Press (ISBN:978–0190920555)

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Japanese Economic History2		
担当者名 (Instructor)	西崎 純代(NISHIZAKI SUMIYO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

- Students will understand major economic events in Japanese history and their influence on contemporary Japan.
- Students will be able to identify distinctive characteristics throughout Japanese economic history and common features shared with other economies.
- Students will be able to critically analyze a topic of their choice in assignments.
- In class discussions, students will present their thoughts and exchange ideas to develop arguments.

授業の内容 (Course Contents)

To understand how Japan transformed itself from a developing to a developed country, it is critical to examine the economic activities of the government, businesses, and people in the past. We also discuss political and social change because Japan's history has important implications for Japan in the 21st century. "Japanese Economic History 1" covers the period between the 17th century up to, but not including the First World War. "Japanese Economic History 2" covers the period between 1914 and the 1960s. This course consists of lectures and class discussions.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction: The summary of Japanese Economic History 1 (The Edo and early Meiji periods)
2. The First World War and the inter-war period, 1914-37 (Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 3, Chapter 1)
3. Economy and society (Reference reading: Gordon, Chapter 9)
4. Basics of academic writing and presentation
5. Economic effects of the Spanish flu pandemic and the Great Kanto Earthquake
6. The depression crisis and responses in the 1920s and 1930s (Reference reading: Gordon, Chapter 11)
7. Japanese empire and colonial management (Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 3, Chapter 6)
8. Japan in wartime 1: Development and transformation of the financial system and monetary policy (Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 3, Chapter 4)
9. Japan in wartime 2: (Reference reading: Gordon, Chapter 12)
10. Wartime controls and transformation of industries (Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 3, Chapter 7 & 8)
11. Postwar reconstruction 1 (Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 3, Chapter 9)
12. Postwar reconstruction 2 (Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 3, Chapter 9)
13. Path to the postwar growth (Reference reading: The Economic History of Modern Japan: Volume 3, Chapter 10)
14. Conclusion: Growth versus success
(Reference reading, Hein, L. (1993). Growth versus success In A. Gordon (Eds.), Postwar Japan as History. Berkeley, CA: University of California Press.

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Please go through the assigned one before each class meeting.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(50%)/Short assignments (Presentation and short assignments)(50%)

The contents of mini assignments will be decided after the class size is finalized. [If applicable] A rubric for a presentation and essay will be available. Academic Honesty: [If applicable] Students are required to prepare an original presentation and essay. Severe penalties are in place for students found guilty of plagiarism offenses. The submission of identical pieces of work for different courses is also considered an academic offense.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

1. Akira Hayami; Osamu Saito; Ronald P. Toby. 2004. *The Economic History of Japan, 1600–1990: Volume 1: Emergence of Economic Society in Japan, 1600–1859*. Oxford University Press (ISBN:978-0198289050)
 2. Takafusa Nakamura; Konosuke Odaka; Noah S. Brannen. 2003. *The Economic History of Japan, 1600–1990: Volume 3: A Dual Structure*. Oxford University Press (ISBN:978-0198289074)
 3. Penelope Francks. 2015. *Japanese Economic Development: Theory and Practice, 3rd edition*. Routledge (ISBN:978-0415739344)
 4. Andrew Gordon. 2019. *A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present, 4th Edition*. Oxford University Press (ISBN:978-0190920555)
 5. John Dower. 2000. *Embracing defeat: Japan in the wake of World War II*. W.W. Norton & Co. (ISBN:978-0393320275)
- MIT Visualizing Cultures. (2002). <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Marketing Management in Japan		
担当者名 (Instructor)	キャロライン(CAROLINE TAN)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経営学部) 定員 10 名 グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

The Marketing Management course will provide the basic concepts, theories and methods; the necessary building blocks in understanding marketing. This course has three main objectives. The first is to help students understand how organizations in Japan create value in their practice of marketing. Primary emphasis is placed on marketing management in Japan with emphasis on branding, consumer behavior, segmentation and positioning, the marketing mix variables, distribution and communications. We will also be looking at different case examples ranging from Japanese corporations to Multinationals in Japan. Students will develop an understanding of marketing practice through extensive readings and class lectures. The second objective is to develop students' ability to think analytically and strategically in addressing marketing problems. Finally, students will acquire the skills in analyzing and applying decision tools and the know-how of analyzing business situations and developing marketing plans as well as perform marketing research.

授業の内容 (Course Contents)

This course is focusing on marketing management in Japan with emphasis on branding, consumer behavior, segmentation and positioning, the marketing mix variables, distribution and communications. We will also be looking at different case examples ranging from Japanese corporations to Multinationals in Japan.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction to the course, expectations and grading.
Situational Analysis and Value Creation
2. Micro environment Analysis
3. Macro environment Analysis
4. Segmentation, Target and Positioning
5. B2C
6. Mid term test
7. B2B
8. Pricing
9. Branding
10. Marcom
11. Social Marketing and Cause Marketing
12. Sustainable & Green Marketing
13. Final Presentation
14. Final Presentation

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Reading assignments will be advised during class (and also announced on Canvas LMS) and students are expected to read before coming to class.

Discussions will also be held and students are expected to formulate and debate their ideas (per the reading assignments and assigned classes).

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Class Participation(20%)/Midterm Test(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト (Textbooks)

Materials will be provided over Canvas LMS respectively.

参考文献 (Readings)

Materials will be provided over Canvas LMS respectively.

その他(HP 等) (Others(e.g.HP))

This is a tentative schedule and subject to change. Changes will be communicated in class accordingly.

注意事項 (Notice)

Sheltered Course(Min.TOEIC:730)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Business and Society		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Trends and Issues in "Business and Society" today		
担当者名 (Instructor)	西原 文乃(NISHIHARA AYANO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経営学部) 定員 10 名 グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

The relationship between businesses and society has been changing since around 2000. Social innovation (including CSR, CSV, and SDGs) is becoming the major and crucial requirements to businesses today. In such context, this course aims at; a) providing up-to-date trends and issues on the relationship between business and society, and b) helping students to think and act as "good" business leaders.

授業の内容 (Course Contents)

This course will consist of three sections; a) relationship between business and society, b) ethical shift, and c) social innovation. Sessions will consist of the lecture and the group dialogue to analyze and exchange ideas. To enhance learning effect, pre-assignment before the session and reaction paper after the session will be conducted.

授業計画 (Course Schedule)

1. Course Introduction
2. Business and Society: CSR and CSV
3. Business and Society: SDGs and sustainability
4. Business and Society: ESG and New Capitalism
5. Guest Speaker
6. Ethical shift: Business Ethics
7. Ethical shift: Ethical Consumption
8. Ethical shift: Ethical Production
9. Guest Speaker
10. Social Innovation: Diversity and inclusion
11. Social Innovation: Collaboration and co-creation
12. Social Innovation: Community of Practice
13. Wrap-Up
14. Final Test

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

Students are requested to read material or watch videos and do the pre-assignments before coming to the class, and do the reactions after the class. Details to be advised in class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

Class contribution (including group dialogue)(30%)/Pre-assignment and reaction(30%)/最終テスト(Final Test)(40%)
If the score for the final test is 0 point, course grade will be automatically "D" regardless of the other in-class points.
If you are an exchange student, or will be going to an exchange, and need some arrangements, please consult the lecturer in advance.</BR>

テキスト (Textbooks)

To be advised in class

参考文献 (Readings)

To be advised in class

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

注意事項 (Notice)

Sheltered Course (Min. TOEIC: 730)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Accounting1		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Accounting for Investors		
担当者名 (Instructor)	法)担当者未定		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

This course will introduce Accounting & financial statements to students, from the perspective of an investor, case studying two well-known companies, Tesla and Softbank.

授業の内容 (Course Contents)

This course will introduce basic accounting concepts in financial accounting.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Accounting conventions & principles
3. Corporate and Securities Environment
4. What are the financial statements
5. How to evaluate performance
6. Income statement & profitability
7. Balance sheet, liquidity & solvency
8. Cashflow statement: operating & free
9. Unrealised gains & other comprehensive income
10. Peer Comparison & valuation
11. Limitations of financial analysis
12. Non-financial risk factors
13. What are investment analyst research reports
14. Investment thesis & recommendations

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(45%)/Class presentations(10%)/Assignment 1(25%)/Assignment 2(20%)
Assignments are individual written or presentation assignments.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

The study material for this course will be referenced in the lecture slides as weblinks. They will all be freely available internet resources or articles.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Each class will be divided into 2 parts. The first half will be a lecture presentation using powerpoint slides. The second half will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings. It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in group discussion.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Accounting2		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Accounting for Managers		
担当者名 (Instructor)	法)担当者未定		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

This course will introduce students to the use of accounting numbers from the perspective of a manager or business owner, in developing a business plan, raising funds, setting up an accounting information system, and making decisions such as in costing, pricing, planning, control and evaluation.

授業の内容 (Course Contents)

This course will introduce basic accounting concepts that a manager or business owner would need to know.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction & starting up your business
2. Business Plans 1: conduct the analysis
3. Business Plans 2: write the report & presentation
4. Financing your start-up
5. Accounting information systems 1: Build, Buy or Rent?
6. Accounting information systems 2: Data & security
7. What is management accounting
8. Costs described
9. Product costing
10. Cost analysis
11. Costs for Decision-making
12. Budgeting for planning and control
13. Performance evaluation
14. Final Test

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(45%)/Class Presentations(10%)/Assignment 1(25%)/Assignment 2(20%)
The Final Test will be conducted in-class in the last week of Semester.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

The study material for this course will be referenced in the lecture slides as weblinks. They will all be freely available internet resources or articles.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Each class will be divided into 2 parts. The first half will be a lecture presentation using powerpoint slides. The second half will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings. It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in group discussion.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Finance1		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Stockmarkets & corporate action		
担当者名 (Instructor)	法)担当者未定		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

This course is a practical introduction to corporate finance for lay people.

授業の内容 (Course Contents)

By demonstrating how companies listed on stockmarkets make announcements, conduct fund raising and engage in corporate action, it will prepare students to become well-informed retail investors.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Stockmarkets & participants
3. Overview of some stockmarkets: US NYSE & NASDAQ, SEHK, SGX, ASX
4. Corporate filings: US SEC, SGX, SEHK, ASX
5. Company announcements & financial results
6. Trading hours, after hours & trading halts
7. Initial Public Offerings
8. Secondary offerings
9. How to read a prospectus
10. Placements, rights issues, retail tranches
11. Investor protection & corporate governance
12. Board of Directors & Duty of Care
13. Related party transactions
14. Summary & conclusions

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(45%)/Class presentations(10%)/Assignment 1(25%)/Assignment 2(20%)
Assignments are individual written or presentation assignments.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

The study material for this course will be referenced in the lecture slides as weblinks. They will all be freely available internet resources or articles.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Each class will be divided into 2 parts. The first half will be a lecture presentation using powerpoint slides. The second half will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings. It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in group discussion.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／Finance2		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	Markets: theory & reality		
担当者名 (Instructor)	法) 担当者未定		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2901	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)	※併置科目(親科目:経済学部) 定員 10 名(異文化コミュニケーション学部と合わせて) グローバルコースの学生のみ		

授業の目標 (Course Objectives)

This course is a practical introduction to theories in corporate finance.

授業の内容 (Course Contents)

This course presents basic theories from corporate finance, regarding markets and pricing, and sees how well they explain the real world.

授業計画 (Course Schedule)

1. Introduction
2. Market efficiency
3. Good news & bad news
4. Regime change: Good news is bad news & bad news is good news
5. Central banks have distorted markets
6. Plunge Protection Team, National Team and Bank of Japan
7. Derivatives: tail wags dog
8. Portfolio Theory
9. Passive investments & Exchange Traded Funds
10. Problem of correlation
11. Asset pricing
12. Fundamentals or factors
13. Hedge funds & hedged portfolios
14. Summary & conclusions

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

It is recommended that students read the prescribed weekly materials before class, in order to be ready for group discussion during class.

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(45%)/Class presentations(10%)/Assignment 1(25%)/Assignment 2(20%)
Assignments are individual written or presentation assignments.

テキスト (Textbooks)

なし

参考文献 (Readings)

The study material for this course will be referenced in the lecture slides as weblinks. They will all be freely available internet resources or articles.

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

Each class will be divided into 2 parts. The first half will be a lecture presentation using powerpoint slides. The second half will be group discussions, with 4 or 5 students per group. A member of each group may be required to present the group's findings. It would be helpful if students bring along an internet accessible device (tablet, laptop) for use in group discussion.

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX850／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	比較法の基礎理論		
担当者名 (Instructor)	貝瀬 幸雄(KAISE YUKIO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

比較法の基礎理論を学ぶ。比較法の方法を中心に『現代アメリカ比較法学の行方』および若干の日本語論文を精読する。

We will study the basic theory of comparative law. We will read New Directions of Modern American Comparative Law and some articles on the method of comparative law.

授業の内容 (Course Contents)

私の著書『現代アメリカ比較法学の行方』を精読し、その内容について参加者に報告・議論してもらう。比較法の方法についても詳しい論文を読む。

授業計画 (Course Schedule)

1. 現代アメリカ比較法学の行方(1)
2. 現代アメリカ比較法学の行方(2)
3. 現代アメリカ比較法学の行方(3)
4. 現代アメリカ比較法学の行方(4)
5. 現代アメリカ比較法学の行方(5)
6. 現代アメリカ比較法学の行方(6)
7. 現代アメリカ比較法学の行方(7)
8. 現代アメリカ比較法学の行方(8)
9. 現代アメリカ比較法学の行方(9)
10. 現代アメリカ比較法学の行方(10)
11. 比較法方法論(1)
12. 比較法方法論(2)
13. 比較法方法論(3)
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

指定されたテキストを精読し、レジュメを作成しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当報告の内容(60%)／平常の授業態度(40%)

テキスト (Textbooks)

1. 貝瀬幸雄、2022、『現代アメリカ比較法学の行方』、日本評論社

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:10名程度

配当年次:2・3・4年次生

選考方法:レポート

①題目:この演習に参加を希望する理由

②字数:1000字程度

演習論文:実施しない

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX851／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	近時の最高裁判例の分析		
担当者名 (Instructor)	松戸 浩(MATSUDO HIROSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

行政法は他の法分野と比べ、授業では抽象的な理論が展開される傾向が強いが、本演習では近時の最高裁判例を素材として、具体的な事案に対する行政法の適用を学び、以て現実社会に妥当する行政法の在り方を理解することを目標とする。

Compared to other legal fields, administrative law tends to develop abstract theories in the lecture. In this seminar, we will study the application of administrative law to specific cases using recent Supreme Court precedents, with the aim of understanding the nature of administrative law as it applies to the real world.

授業の内容 (Course Contents)

注目される近時の最高裁判例を受講者に割り当て、報告してもらい、その上で議論を行ない、解決できなかった論点につき、報告者が次週の回でその検討結果を報告する。従って報告は連続する2週で同一の受講者が担当することになる。

I will assign recent Supreme Court cases of interest to each student and ask them to report on them. We will then discuss the cases, and the presenters will report the study results of the unresolved issues in the next week's session. Therefore, the same student will be in charge of reporting for two consecutive weeks.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス・打ち合わせ
2. レポートの仕方・必要事項の確認
3. 判例報告
4. 前週の議論を受けた再報告
5. 判例報告
6. 前週の議論を受けた再報告
7. 判例報告
8. 前週の議論を受けた再報告
9. 判例報告
10. 前週の議論を受けた再報告
11. 判例報告
12. 前週の議論を受けた再報告
13. 判例報告
14. 前週の議論を受けた再報告

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

報告担当者は、割り当てられた報告を、文献などに当たった上で準備すること。ここでいう文献は担当判例に関する全ての判例評釈が含まれるが、それにとどまらず、関係する内容を論ずる文献・論文を渉猟すること。文献調査につき分からない点が生じた場合には適宜相談に応じる。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告の内容、議論への積極的参加(100%)

テキスト (Textbooks)

行政法 1・2 の講義で用いた教科書及び判例集を毎回使用する。その他参考文献は適宜指示する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:12 名
配当年次:3,4 年次
選考方法:レポート

①題目:演習に期待すること及び行政法で興味のあるテーマ

②字数:A4 一枚程度

演習論文:実施しない

行政法 1,2 をいずれも履修済又は演習開講中に履修すること(単位修得の有無は問わない)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX852／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「中華民族の偉大なる復興」の光と影		
担当者名 (Instructor)	馬 嘉嘉(MA JIAJIA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 留学生の積極的な履修を歓迎します		

授業の目標 (Course Objectives)

本演習では、中国共産党が提唱している「中華民族の偉大なる復興」の促進要因と阻害要因を考察する。この演習は留学生の受講を歓迎しており、様々なバックグラウンドを持つ参加者が、文献学習やディスカッションを通じて自分たちの住む世界について理解を深めていく。また、グループワークを通じて文献調査、プレゼンテーションそしてディスカッションのスキルを磨く。

In this seminar we will examine the factors that promote and hinder the "Great Revival of the Chinese Nation" that CCP has advocated. Participants will also hone their skills in literature review, presentation, and discussion through group work. International students are welcome to attend this seminar, participants from different backgrounds deepen their understanding of the world they live in through text study and discussion.

授業の内容 (Course Contents)

2012年に習近平が政権をとってから、中国共産党は、「中華民族の偉大なる復興」を打ち出し、中国の内政と外交に以前と異なる性格を持たせてきた。本演習の冒頭は、「中華民族の偉大なる復興」に対して参加者の意識調査を行う。その後、テキストを輪読したうえで、グループワーク(テーマをしばって「中華民族の偉大なる復興」の促進要因あるいは阻害要因を報告してもらい、お互いに議論すること)を実施する。総括の際に、その意識調査をもう一回行う予定である。

なお、参加者の人数や関心によって文献報告の回数、毎回の報告者の数を決めるので、授業計画はその目安と考えてください。中国の資料・ニュース・背景事情を説明する時には中国語を使う場合がある。

Since Xi Jinping came to power in 2012, the Chinese Communist Party (CCP) has been promoting the "great revival of the Chinese nation" and giving a different character to China's domestic and foreign policies than in the past. This seminar will begin with a survey of participants' attitudes toward the "Great Revival of the Chinese Nation. Followed by reading of different books on China, and then by group work (in which participants will be asked to report and discuss with each other the factors that promote or hinder the "Great Revival of the Chinese Nation" under a specific theme). At the conclusion of the seminar, we plan to conduct another attitudes survey.

Please note that the number of literature reports and the number of presenters each time will be determined by the number of participants and their interests, so please consider the class plan as a guide. Chinese may also be used when explaining Chinese materials, news, and background information.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. テキストの輪読(1)
3. テキストの輪読(2)
4. テキストの輪読(3)
5. テキストの輪読(4)
6. テキストの輪読(5)
7. テキストの輪読(6)
8. テキストの輪読(7)
9. テキストの輪読(8)
10. テキストの輪読(9)
11. グループワーク(1)
12. グループワーク(2)
13. グループワーク(3)
14. 最終報告&総括

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

ガイダンスとグループワークを除いてテキストの輪読を行う。報告者がゼミの前日までに担当する内容の主旨・論点を整理し、自

分のコメント・疑問点を加えて提出すること。他の履修者はゼミの前日までにコメント・疑問点のみをまとめて提出すること。
Canvas LMS や ML を利用の予定。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

担当内容の報告(40%)/コメントペーパー(30%)/議論への貢献(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 益尾知佐子、2019、『中国の行動原理』、中央公論新社 (ISBN:9784121025685)
 2. 川島真、21 世紀政策研究所、2022、『習近平政権の国内統治と世界戦略』、勁草書房 (ISBN:9784326504954)
- 最新の出版状況により、秋学期のテキストは別途指示することもありのので教員からの指示があるまで購入する必要はない。

参考文献 (Readings)

1. 石川 禎浩、2021、『中国共産党、その百年』、筑摩書房 (ISBN:9784480017338)
2. ジェニファー・ルドルフ (編), マイケル・ソーニ (編), 朝倉 和子 (訳)、2021、『中国の何が問題か?』、藤原書店 (ISBN:9784865782967)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 12 名程度

配当年次: 2~4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 本演習を履修する動機と、中国および中国政治に対する関心を自由に書いてください。

② 字数: 1000 字程度

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX853／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	メディア・文化・政治 (Media, Culture, and Politics)		
担当者名 (Instructor)	安藤 有史(ANDO YUJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

本演習ではメディアと政治の関係について理論的・哲学的な観点から議論します。とはいえ、マスコミやジャーナリズム、時事報道の研究を扱うわけではありません。メディアとは文字通り、媒介性を意味します。物事を直接提示するのではなく、再現・表象するとき、どのような権力や自由、抵抗が生じるのかを議論します。

In this seminar, the students will theoretically and philosophically discuss the relationship between media and politics. However, mass communication, journalism, and current coverage are matters of no concern to this seminar. Media means a medium of things. We will discuss what kind of power, freedom, or protests exist when things and matters are represented rather than directly presented.

授業の内容 (Course Contents)

前半ではメディアについて理論的・思想的側面から解説した入門テキストを読みます。フランクフルト学派、複製技術論、マクルーハン、ニューメディア、プラットフォーム資本主義といったことについて基礎的に学びます。後半ではそうした知識を前提に、具体的なメディアコンテンツを事例として扱った批評的テキストを読みます。今回扱うのは、ディズニーと動物についてです。一見すると単なる娯楽文化に思えるディズニーですが、資本主義、20世紀、アメリカ、消費社会、ジェンダー、著作権など多岐にわたる人文社会学的テーマが関連します。また動物は、現代思想や政治哲学でたびたびキーワードとなる重要概念です。担当教員はディズニーについて深い知識や関心があるわけではなく、受講者もディズニーについての特別な知識・関心は必要ありません。

For the first half of the seminar, we will read a basic book introducing theoretical and intellectual aspects of media to learn about Frankfurt School, Mechanical Reproduction, McLuhan, New Media, Platform Capitalism, and so forth. For the second half of the seminar, we will read criticism of some media content. In this seminar, we will focus on Disney and animals. Though Disney seems to be mere entertainment, it involves tremendous arguments of capitalism, the twentieth century, the United States, consumer society, gender, copyright, and so forth. The concept of Animals is frequently discussed in contemporary and political philosophy. The teacher of this seminar does not have any special knowledge or interest in Disney. Students also need not have them to attend the seminar.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. メディア論の入門テキストを読む
3. メディア論の入門テキストを読む
4. メディア論の入門テキストを読む
5. メディア論の入門テキストを読む
6. 『ディズニーと動物』を読む
7. 『ディズニーと動物』を読む
8. 『ディズニーと動物』を読む
9. 『ディズニーと動物』を読む
10. 『ディズニーと動物』を読む
11. 『ディズニーと動物』を読む
12. 『ディズニーと動物』を読む
13. 『ディズニーと動物』を読む
14. 『ディズニーと動物』を読む

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

全受講者は毎回、文献の指定範囲を読んだ状態で出席してください。
各回の報告担当者は内容要約のレジュメを準備してください。
報告者以外は簡潔なコメント(400字程度)を授業前に提出してください。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告担当時の報告内容(40%)/出席・毎回の議論への貢献(30%)/毎回のコメントペーパーの提出・内容(30%)

テキスト (Textbooks)

1. 門林岳史・増田展大編、2021、『クリティカル・ワード メディア論：理論と歴史からいまが学べる』、フィルムアート社 (ISBN:9784845920068)
 2. 清水知子、2021、『ディズニーと動物：王国の魔法をとく』、筑摩書房 (ISBN:9784480017222)
- 門林・増田『クリティカル・ワード メディア論』は、一部のみを扱うので、購入する必要はありません。

参考文献 (Readings)

1. 佐藤卓己、2020、『メディア論の名著 30』、筑摩書房 (ISBN:9784480073525)
2. マーシャル・マクルーハン、1987、『メディア論：人間の拡張の諸相』、みすず書房 (ISBN:9784622018971)
3. レフ・マノヴィッチ、2013、『ニューメディアの言語：デジタル時代のアート、デザイン、映画』、みすず書房 (ISBN:9784622077312)
4. 廣野由美子、2005、『批評理論入門：『フランケンシュタイン』解剖講義』、中央公論新社 (ISBN:9784121017901)

その他 (HP 等) (Others(e.g.HP))

採用人数：10～15 名程度

配当年次：2 年次

選考方法：レポート

① 題目：この演習の志望理由や関心のある学問テーマについて

② 字数：800～1200 字程度

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX854／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	ドイツ民法を学ぶ		
担当者名 (Instructor)	原田 昌和(HARADA MASAKAZU)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 ND112「民法特論 A」と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

ドイツ民法についての基本的文献を読む。

The objective of this class is to read a basic literature on German Civil Law.

授業の内容 (Course Contents)

日本語訳されたドイツ民法に関する教科書(民法総則、物権法、不法行為)を講読する。担当者は、担当部分のレジメを事前に用意し、当日は、それに基づいて内容を検討する。他の参加者は適宜質問をし、共同で議論を行う。

Students will read a textbook on German Civil Law translated into Japanese (General Provisions, Property Law, Torts) The student in charge will prepare a resume in advance and review the contents based on it on the day of the class. The other participants will ask questions as appropriate and discuss jointly.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション、担当者決定
2. 文献講読1
3. 文献講読2
4. 文献講読3
5. 文献講読4
6. 文献講読5
7. 文献講読6
8. 文献講読7
9. 文献講読8
10. 文献講読9
11. 文献講読10
12. 文献講読11
13. 文献講読12
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

文献講読は、必ず事前に、その日の該当部分を通読してくること。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容(50%)／討論内容(50%)

テキスト (Textbooks)

1. ヴォルフ／ヴェレンホーファー著(大場浩之他訳)、2016、『ドイツ物権法』、成文堂 (ISBN:9784792326968)
 2. 円谷峻、2008、『ドイツ民法総論』、成文堂 (ISBN:9784792325336)
 3. ドイチュ／アーレンス著(浦川道太郎訳)、2008、『ドイツ不法行為法』、日本評論社 (ISBN:9784535515949)
 4. ケッツ／ヴァーグナー著(吉村良一他訳)、2011、『ドイツ不法行為法』、法律文化社 (ISBN:9784589033437)
- 購読する文献は、上記の中から、参加者で話し合って決める。

参考文献 (Readings)

その他(HP等) (Others(e.g. HP))

〈選考方法等〉

配当年次:3 年次以上

選考方法:申込みによる(応募者多数の場合は抽選)

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX855／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	留学生と学ぶ東アジア比較民法		
担当者名 (Instructor)	山口 敬介(YAMAGUCHI KEISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 ND114「民法概論 B」と合同授業 留学生の積極的な履修を歓迎します		

授業の目標 (Course Objectives)

民法の諸テーマについて、日本法と東アジア(主に韓国、他に中国、台湾など)法を比較し、双方の法と社会について理解を深めること

The aim of this course is to promote better understanding of civil law and society in Japan and east Asia

授業の内容 (Course Contents)

19世紀末にヨーロッパの民法典などを参考にしながらつくられた日本の民法典は、その後、判例・学説・立法などによりさまざまな変化を経て、現在に至っています。このようにヨーロッパ由来の民法典を参考に自国の民法典をつくり、それを展開させていくことで自国における私人間の法関係を規律している国は、日本だけではありません。近隣の国を例にとると、韓国も、台湾も、中国も同じようなプロセスを経ています。そして、これらの国の法ルールやそれにより規律される社会のあり方は、同じ東アジアの中でも様々に異なっています。この演習では、民法のいくつかの具体的なテーマを取り上げ、日本と東アジアの民法を比較しながら、近隣のこれらの国の何が同じで何が違うのかを探究することを通じ、これらの国の法と社会について理解を深めることを目標とします。このゼミでは、留学生の参加を歓迎しており、ゼミを通じて学生間の交流を深めることも目標の一つです。

具体的テーマは受講生と検討の上で決定する予定ですが、不動産の賃貸借(韓国)、血族団体(韓国)、同性カップル(台湾)、新しい民法総則(中国)、プライバシー・名誉毀損(韓国、台湾、中国)などのテーマを考えています。もっともこれらは一例にすぎず、具体的には受講生と相談の上で決定します。

講義の具体的なテーマは第1回目の授業の際に決定するので、受講者は必ず第1回目の授業に出席してください。

なお、この授業は大学院との合併で行われる授業です。予習についてもしっかりと行うことを要件としますので、やる気のある学部学生のみ参加してください。

In this course, we will try to compare civil law and society in east Asia.

The specific topic of the lecture will be decided during the first lecture, so students should make sure to attend the first lecture.

授業計画 (Course Schedule)

1. 受講者との打ち合わせ
2. 報告 1
3. 報告 2
4. 報告 3
5. 報告 4
6. 報告 5
7. 報告 6
8. 報告 7
9. 報告 8
10. 報告 9
11. 報告 10
12. 報告 11
13. 報告 12
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

初回の授業で研究対象を決定します。毎回の報告では、担当者がレジュメの他、関連文献を用意し、その他の受講者はそれらを熟読して議論の準備をして授業に臨みます。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

報告内容(50%) / 討議内容(50%)

テキスト(Textbooks)

第 1 回の授業で相談の上、決定します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

〈選考方法〉

採用人数:10 名

配当年次:2~4 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習の志望動機

②字数:自由

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX856／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	登記等の実務から学ぶ民法・会社法 ～近時、頻繁になされる法令等の改正も網羅～		
担当者名 (Instructor)	鈴木 龍介(SUZUKI RYUSUKE)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 ND161「法学政治学特別リサーチ」と合同授業		

授業の目標 (Course Objectives)

民法・会社法は、私たちの生活やビジネスに密接に関連する基本法であり、登記等の実務の観点から民法・会社法を学ぶことで、これまでの学習の確認や各種の試験対策につなげることを目指す。

※ 最新の六法必携(デジタル可)

Civil Code and Companies Act are fundamental laws which are closely related to our lives and businesses, and it is thought that studying these areas from a practical perspective can help review previous studies and prepare for various types of examinations.

* The latest version of The Six Codes Companion.

授業の内容 (Course Contents)

各授業(第2回目～／なお、報告者の希望等によりテーマを変更する場合あり)について、受講生のうち1名(報告担当者)を割り当て、以下のとおり各回の授業を進めることとする。

- ① 報告担当者において当該項目に関する報告書を作成(授業前に配信)
- ② 報告担当者において授業で報告
- ③ 受講生間において質疑・意見交換
- ④ 講師において実務資料等の提供と報告に対するフォローアップ

なお、報告書については、該当する法令を踏まえたうえで制度の趣旨等をまとめたものを想定している。

Starting from the second session, one student will be assigned in each class (in charge of presenting a report), and the classes during each session will be conducted as follows.

- (1) The student presenters will prepare a report about the relevant topic (disseminated before class)
- (2) The student presenters will present their reports in class
- (3) The students will ask questions and exchange their opinions
- (4) The lecturer will supplement the reports and provide documentation, etc.

Furthermore, the reports are expected to be based on the corresponding laws and summarize a general outline of the system (no restrictions on length or format).

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス／民法・会社法総論
講師から本授業の目的や進め方について具体的に説明する(担当者の決定を含む)。
講師から民法・会社法のアウトラインについて講義をする。
2. 能力(成年後見を含む)
自然人の能力に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは成年後見の実務についてフォローをする。
3. 法人(一般社団・財団法人を含む)
法人制度に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは一般社団・財団法人の実務についてフォローをする。
4. 不動産登記
不動産物権変動の対抗要件である不動産登記に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは不動産登記の実務についてフォローをする。
5. 抵当権・根抵当権
抵当権・根抵当権に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは抵当権・根抵当の実務についてフォローをする。
6. 動産・債権譲渡(譲渡担保を含む)
動産・債権譲渡に関する諸論点についてディスカッションする。

- 講師からは動産・債権譲渡登記の実務についてフォローをする。
7. 保証
保証に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは保証の実務についてフォローをする。
 8. 売買契約
売買契約に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは売買契約(書)の実務についてフォローをする。
 9. 株式
株式に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは株式の実務についてフォローをする。
 10. 株主総会
株主総会に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは株主総会の実務についてフォローをする。
 11. 役員等
株式会社の役員等に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは役員変更登記の実務についてフォローをする。
 12. 資金調達
資金調達(募集株式の発行等)に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは会社の資金調達の実務についてフォローをする。
 13. 相続①: 遺産分割
遺産分割に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは遺産分割の実務についてフォローをする。
 14. 相続②: 遺言
遺言に関する諸論点についてディスカッションする。
講師からは遺言の実務(法務局保管制度を含む)についてフォローをする。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習: 報告書の作成(授業の3日前までに配信)ー報告書のチェック

復習: 関連条文や判例等のチェック

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当した報告書の内容(含む授業での報告)(60%)/授業での発言(40%)

なお、授業に2/3以上の出席がない場合には、成績評価の対象としない。

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 遠藤浩・良永和隆編、2012、『別冊法学セミナーNo.215 基本法コンメンタール 民法総則(第6版)』、日本評論社 (ISBN:ISBN: 978-4-535-40250-8)
2. 鎌田薫・松岡久和・松尾弘編、2020、『別冊法学セミナーNo.262 新基本法コンメンタール 物権』、日本評論社 (ISBN:ISBN: 978-4-535-40262-1)
3. 鎌田薫・松本恒雄・野澤正充編、2021、『別冊法学セミナーNo.266 新基本法コンメンタール 債権1』、日本評論社 (ISBN:ISBN: 978-4-535-40263-8)
4. 鎌田薫・潮見佳男・渡辺達徳編、2020、『別冊法学セミナーNo.264 新基本法コンメンタール 債権2』、日本評論社 (ISBN:ISBN: 978-4-535-40264-5)
5. 松川正毅・窪田充見編、2019、『別冊法学セミナーNo.261 新基本法コンメンタール 親族(第2版)』、日本評論社 (ISBN:ISBN: 978-4-535-40278-2)
6. 松川正毅・窪田充見編、2016、『別冊法学セミナーNo.245 新基本法コンメンタール 相続』、日本評論社 (ISBN:ISBN 978-4-535-40268-3)
7. 奥島孝康・落合誠一・浜田道代編、2016、『別冊法学セミナーNo.242 新基本法コンメンタール 会社法1(第2版)』、日本評論社 (ISBN:ISBN 978-4-535-40269-0)
- ⑧ 奥島孝康・落合誠一・浜田道代編
『別冊法学セミナーNo.243 新基本法コンメンタール 会社法2(第2版)』
日本評論社 2016年 ISBN 978-4-535-40270-6
- ⑨ 奥島孝康・落合誠一・浜田道代編
『別冊法学セミナーNo.239 新基本法コンメンタール 会社法3(第2版)』
日本評論社 2015年 ISBN 978-4-535-40271-3

⑩ 潮見佳男・道垣内弘人編

『別冊ジュリスト 237 号 民法判例百選Ⅰ 総則・物権(第8版)』

有斐閣 2018 年 ISBN 78-4-641-11537-8

⑪ 窪田充見・森田宏樹編

『別冊ジュリスト 238 号 民法判例百選Ⅱ 債権(第8版)』

有斐閣 2018 年 ISBN 978-4-641-11538-5

⑫ 水野紀子・大村敦志編

『別冊ジュリスト 239 号 民法判例百選Ⅲ 親族・相続(第2版)』

有斐閣 2018 年 ISBN 978-4-641-11539-2

⑬ 神作裕之・藤田友敬・加藤貴仁編

『別冊ジュリスト 254 号 会社法判例百選(第4版)』

有斐閣 2021 年 ISBN 978-4-641-11554-5

⑭ 池田真朗編

『民法 Visual Materials(第3版)』

有斐閣 2021 年 ISBN 978-4-641-13857-5

⑮ 落合誠一編

『会社法 Visual Materials』

有斐閣 2011 年 ISBN 978-4-641-13606-9

⑯ 鈴木龍介編著

『登記法入門－実務の道しるべ』

商事法務 2021 年 ISBN 978-4-7857-2869-4

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

<選考方法>

採用人数:10名まで

配当年次:3・4年次生(ただし、大学院生対象であることから民法・会社法の基礎知識を有していること)

選考方法:提出されたエッセイ「本授業に対する抱負等」(1,000字以内/手書き不可)により選考する。

<その他>

コロナ禍の状況を踏まえつつ、全回対面授業を基本とする。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX857／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	「中華民族の偉大なる復興」の虚実		
担当者名 (Instructor)	馬 嘉嘉(MA JIAJIA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録 ND262「法学政治学特別リサーチ」と合同授業 留学生の積極的な履修を歓迎します		

授業の目標 (Course Objectives)

この演習では、習近平が唱えてきた「中華民族の偉大なる復興」の促進要因と阻害要因を考える。本演習は留学生の受講を歓迎しており、さまざまなバックグラウンドを持つ参加者が、文献学習やディスカッションを通じて自分たちの住む世界について理解を深めていく。また、グループワークを通じて文献調査、プレゼンテーションそしてディスカッションのスキルを磨く。

In this seminar we will examine the factors that promote and hinder the "Great Revival of the Chinese Nation" that Xi Jinping has advocated. Participants will also hone their skills in literature review, presentation, and discussion through group work. International students are welcome to attend this seminar, participants from different backgrounds deepen their understanding of the world they live in through text study and discussion.

授業の内容 (Course Contents)

2001年の世界貿易機関(WTO)加盟後、中国の世界経済への統合は急速に進み、2010年には世界第2位の経済大国となった。2012年に習近平が政権をとってから、中国共産党は、「中華民族の偉大なる復興」を打ち出し、中国の内政と外交に以前と異なる性格を持たせてきた。本演習の冒頭は、「中華民族の偉大なる復興」に対して参加者の意識調査を行う。その後、改革開放以降の中国についての論点の異なる著作を輪読したうえで、グループワーク(テーマをしばって「中華民族の偉大なる復興」の促進要因あるいは阻害要因を報告してもらい、お互いに議論すること)を実施する。総括の際に、もう一回意識調査をする予定である。

なお、参加者の人数や関心によって文献報告の回数、毎回の報告者の数を決めるので、授業計画はその目安と考えてください。中国の資料・ニュース・背景事情を説明する時には中国語を使う場合がある。

After China joined the World Trade Organization (WTO) in 2001, its integration into the global economy has been rapidly improved, and by 2010 it became to the world's second largest economy. since Xi Jinping came to power in 2012, the Chinese Communist Party (CCP) has been promoting the "great revival of the Chinese nation" and giving a different character to China's domestic and foreign policies than in the past. This seminar will begin with a survey of participants' attitudes toward the "Great Revival of the Chinese Nation. Followed by reading of different books on China, and then by group work (in which participants will be asked to report and discuss with each other the factors that promote or hinder the "Great Revival of the Chinese Nation" under a specific theme). At the conclusion of the seminar, we plan to conduct another attitudes survey.

Please note that the number of literature reports and the number of presenters each time will be determined by the number of participants and their interests, so please consider the class plan as a guide. Chinese may also be used when explaining Chinese materials, news, and background information.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス
2. テキストの輪読(1)
3. テキストの輪読(2)
4. テキストの輪読(3)
5. テキストの輪読(4)
6. テキストの輪読(5)
7. テキストの輪読(6)
8. テキストの輪読(7)
9. テキストの輪読(8)
10. テキストの輪読(9)
11. グループワーク(1)
12. グループワーク(2)
13. グループワーク(3)

14. 最終報告&総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ガイダンスとグループワークを除いてテキストの輪読を行う。報告者がゼミの前日までに担当する内容の主旨・論点を整理し、自分のコメント・疑問点を加えて提出すること。他の履修者はゼミの前日までにコメント・疑問点のみをまとめて提出すること。
Canvas LMS や ML を利用の予定。

成績評価方法・基準(Evaluation)

担当内容の報告(40%)/コメントペーパー(30%)/議論への貢献(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 唐亮、2012、『現代中国の政治』、岩波書店 (ISBN:9784004313717)
 2. 川島真、小嶋華津子、2022、『習近平の中国』、東京大学出版会 (ISBN:9784130333061)
- 教員からの指示があるまで購入する必要はない。ゼミ内容によって適宜中国と日本の新聞報道を比較しながら利用する予定。

参考文献(Readings)

1. 劉 傑、2013、『中国の強国構想』、筑摩書房 (ISBN:9784480015662)
2. ジェニファー・ルドルフ (編), マイケル・ソーニ (編), 朝倉 和子 (訳)、2021、『中国の何が問題か?』、藤原書店 (ISBN:9784865782967)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:12 名程度

配当年次:2~4 年次

選考方法:レポート

①題目:本演習を履修する動機と、中国および中国政治に対する関心を自由に書いてください。

②字数:1000 字程度

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX858／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	日本語演習 会計・開示不正事例を読み解く		
担当者名 (Instructor)	法)金融庁職員		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

本演習は、①金融・資本市場の仕組みや金融商品取引法等の関連する法制度、市場を巡る近時の環境変化等について理解すること、及び②著名な会計・開示不正事例について学び、不正の原因や改善策等について論じることで、理論の実務への応用や課題への対応能力を高めることを目指している。

The goals for the participants is (1) to be able to understand basic functioning and the relevant legal framework of the financial and capital markets as well as recent market topics, and (2) to enhance ability to apply the knowledge to practical cases and the ability to explore solution in a difficult situation by discussing causes of and responses to the specific accounting and disclosure violation cases.

授業の内容 (Course Contents)

本演習では、まず、金融商品取引法の基本的枠組みやコーポレートガバナンス改革、会計・監査の仕組み等について関連資料を用いて理解する。さらに、これらの観点を踏まえて、実際の企業開示不正事例について、学生による報告及びそれを踏まえた議論を行う。また、関連分野の実務者等をゲストとして招待することも検討している。

This seminar starts with learning the basics of the Financial Instruments and Exchange Act ("FIEA"), corporate governance requirements and accounting and auditing requirements. Then participants are expected to present on actual accounting and disclosure violation cases, followed by the discussions among the participants. Guest lecturer may be invited in part of the seminar.

授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 金融商品取引法総論
3. 金融商品取引法の開示規制
4. 金融商品取引法のエンフォースメント
5. コーポレートガバナンス改革
6. 会計・監査の仕組み
7. 事例研究
8. 事例研究
9. 事例研究
10. 事例研究
11. 事例研究
12. 事例研究
13. 事例研究
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

受講に当たっては、事前に配布される資料を読んで予習しておくこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

演習への参加意欲及び発言(60%)／演習における報告(40%)

テキスト (Textbooks)

毎回、講義で取り扱うテーマごとに資料を配付する。

参考文献 (Readings)

1. 川口恭弘、2018、『金融商品取引法への誘い』、有斐閣 (ISBN:9784641137974)

2. 八田進二、2017、『開示不正:その実態と防止策』、白桃書房 (ISBN:9784561461807)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

授業計画は上記のテーマを予定しているが、履修人数や時事の進展等を鑑みてテーマを変更することがあり得る。

<選考方法>

採用人数:20名以内

配当年次:2年次以上

選考方法:レポート

①題目:自己紹介および志望動機

②字数:1000字(A4用紙1枚)程度

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX859／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民事訴訟法的、実務的視点を踏まえた民法		
担当者名 (Instructor)	牧内 靖成(MAKIUCHI YASUNARI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

民法の重要判例等の検討を中心に、民事訴訟法的、実務的視点も踏まえて、民法全体について、基本事項を再確認し、理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to reconfirm the basic matters of the civil law as a whole and to deepen understanding, focusing on important judicial precedents of the civil law, taking into account the law of civil procedure and practical viewpoints.

授業の内容 (Course Contents)

担当者による重要判例等の報告を前提にして、問題となっている論点を中心に、前提事項、関連事項等を含めて、議論、検討を行う。法曹志望者等、民法を復習したい学生にとって有益な演習としたい。

Based on the report of important judicial precedents by the person in charge, we will discuss and examine the points at issue, including the premises and related matters. We would like to make this exercise useful for students who want to review civil law, such as aspiring legal professionals.

授業計画 (Course Schedule)

1. 導入
2. 重要判例等の報告、議論及び検討
3. 重要判例等の報告、議論及び検討
4. 重要判例等の報告、議論及び検討
5. 重要判例等の報告、議論及び検討
6. 重要判例等の報告、議論及び検討
7. 重要判例等の報告、議論及び検討
8. 重要判例等の報告、議論及び検討
9. 重要判例等の報告、議論及び検討
10. 重要判例等の報告、議論及び検討
11. 重要判例等の報告、議論及び検討
12. 重要判例等の報告、議論及び検討
13. 重要判例等の報告、議論及び検討
14. 重要判例等の報告、議論及び検討

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

報告担当者は、指定された重要判例等の事例、問題となっている論点、前提事項、関連事項等を報告する。
報告担当者以外の受講生も、上記と同様の予習、準備を行って演習に参加する。
上記以外については別途指示する。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

受講態度(60%)／報告内容(40%)

テキスト (Textbooks)

六法及び報告対象となる判例等の分野に関する民法の基本書等は、各自用意されたい。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

<選考方法>

採用人数: 13 名程度

配当年次: 2 年次～4 年次

選考方法: レポート

① 題目: 本演習に参加を希望する理由

② 字数: 1600 字程度 (A4 用紙 1 枚程度)

演習論文: 実施しない

注意事項 (Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX860／演習 (Seminar)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	民事訴訟法と民法の架橋		
担当者名 (Instructor)	内海 博俊(UCHIUMI HIROTOSHI)		
学期 (Semester)	通年(Full year)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX4910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

授業の目標 (Course Objectives)

民事訴訟における利用のされ方に即した形で民法を(再)学習し、民法の適用による具体的な紛争解決を行う場としての民事訴訟(法)のあり方を(再)学習すること。

to (re-) learn Civil Code focusing on its use in litigation cases; to (re-)learn how Civil Procedure works as where specific disputes resolved in accordance with Civil Code.

授業の内容 (Course Contents)

私人間の紛争は、民事訴訟法により規律される民事訴訟を通じて、民法の定めに従って解決される。したがって、民法と民事訴訟法はセットで理解されて然るべきものであるが、学部のカリキュラム上、両者は別々の科目となっており、また、それぞれの科目を受講したとしても、両者がどのように協働ないし交錯しているのかを体感することは難しい。本演習では、法曹となる過程で触れることになるいわゆる「要件事実論」における議論を素材として、学部生のうちに、現実の紛争解決過程で民法と民事訴訟法がどのように交わるのかについてのイメージをつかむ機会を提供するとともに、民法・民事訴訟法のより深くかつ実用的な理解につなげたい。

演習の具体的な進め方は、参加人数・レベル・希望に応じて柔軟に調整したい。一応現時点では、春学期は、教材の講読を通じて「要件事実論」としてどのようなことが議論されているのかについて、民法・民事訴訟法の知識を確認しながら学習していき、その後、具体的な事例の分析に挑戦する。秋学期は、参加者ごとに担当する問題を決め、春学期の学習成果に基づいてそれぞれ分析し、その成果をプレゼンテーションし、最終的にはレポートとしてまとめる、というイメージをしている。

Civil disputes are resolved through litigations regulated by Code of Civil Procedure, in accordance with Civil Code. It likely suggests students should study these two as an unified package, though, the fact in most undergraduate programs is they are taught as independent subjects or classes, none of which tells you how their interplay in real litigations be like. This seminar, picking up so-called "YOKEN-JIJITSU-RON" as materials, which you must learn before becoming a Japanese professional lawyer, offers you an opportunity to have a rough picture of the mutual relationship of the two areas of law in a real dispute resolution process, as well as to learn each area of law more deeply and in more practical sense.

授業計画 (Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 文献講読: 要件事実論の基礎1
3. 文献講読: 要件事実論の基礎2
4. 文献講読: 要件事実論の基礎3
5. 文献講読: 要件事実論の基礎4
6. 文献講読: 要件事実論の基礎5
7. 文献講読: 要件事実論の基礎6
8. 文献講読: 要件事実論の基礎7
9. 文献講読: 要件事実論の基礎8
10. 文献講読: 要件事実論の基礎9
11. みんなで実践: 問題の分析1
12. みんなで実践: 問題の分析2
13. みんなで実践: 問題の分析3
14. 中間総括
15. 後期オリエンテーション
16. 個別プレゼン: 問題の分析4
17. 個別プレゼン: 問題の分析5
18. 個別プレゼン: 問題の分析6
19. 個別プレゼン: 問題の分析7
20. 個別プレゼン: 問題の分析8
21. 個別プレゼン: 問題の分析9

22. 個別プレゼン:問題の分析10
23. 個別プレゼン:問題の分析11
24. 個別プレゼン:問題の分析12
25. 個別プレゼン:問題の分析13
26. レポートにまとめよう1
27. レポートにまとめよう2
28. 総括・総評

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本演習で扱う「要件事実論」をこなすには、民法と民事訴訟法の知識(少なくとも学習意欲)が欠かせない。演習開始前の学習経験について必須の要求をするものではないが、教材等に登場する民法・民事訴訟法上の諸制度・概念について授業内で逐一解説する余裕はないので、学習経験が不足している者が参加する場合は、自習によってキャッチ・アップをしてもらう必要がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告(準備を含む)・提出物など自身のアウトプットに対する評価(60%)/自身の報告回以外における議論への貢献(40%)

テキスト(Textbooks)

演習開講時に指示するが、基本的には一律での購入は求めない。

参考文献(Readings)

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数:15名程度

配当年次:2・3・4年

選考方法:下記の課題によるが、応募者多数の場合のみ成績を加味して選抜する。

①題目:ゼミの志望理由と自己紹介(民法・民事訴訟法をどこでどれだけ勉強しているかを含む)。法曹志望者であるかは差し支えなければ記載してもらいたいが、法曹志望者以外の参加はもちろん歓迎である。

②字数:特に指定しない。

演習論文:実施しない

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	抽選登録／情報処理入門 (Information Processing Methods)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	情報リテラシー		
担当者名 (Instructor)	佐藤 尚(SATOU HISASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2900	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	定員 60 名		

授業の目標 (Course Objectives)

PC を利用したレポート等の作成、情報発信、データの分析などに関する基礎的なスキルを習得する。また、情報システムの基本的な事項を理解する。

The objective of this course is to acquire the fundamental skills to use a PC to create reports and other documents, disseminate information, and analyze data. Students will also understand the fundamental aspects of information systems.

授業の内容 (Course Contents)

Windows の操作から始め、Word によるレポート作成、Excel によるデータ分析の基本、PowerPoint によるプレゼンテーションなどについて実習形式で授業を進める。また、コンピュータやインターネットの仕組み、情報倫理やセキュリティといった情報化社会に生活するものとしての基本的な知識についても解説する。

The classes will start with Windows operations before proceeding to cover report creation using Word, the fundamentals of data analysis with Excel, and giving presentations with PowerPoint. In addition, the instructor will also explain computers, the structure of the Internet, information ethics, and security as forms of basic knowledge for living in an information society.

授業計画 (Course Schedule)

1. ガイダンス・インターネットの仕組みとマナー
2. コンピュータの仕組みと Windows の基本操作
3. プレゼンテーションその 1: PowerPoint を利用したプレゼンテーションの基礎
4. プレゼンテーションその 2: PowerPoint を利用した少し高度なプレゼンテーション
5. プレゼンテーションその 3: PowerPoint を利用した少し高度なプレゼンテーション
6. レポートの作成その 1: Word を利用した文書作成の基本
7. レポートの作成その 2: Word が持っている便利な機能
8. データの分析その 1: Excel を利用した表作成
9. データの分析その 2: Excel を利用した基本的なデータ処理
10. データの分析その 3: Excel を利用したグラフ作成
11. データの分析その 4: データベースとしての Excel その 1
12. データの分析その 5: データベースとしての Excel その 2
13. Excel 等の落ち葉拾い
14. Scratch によるプログラム作成入門

授業時間外 (予習・復習等) の学習 (Study Required Outside of Class)

授業終了時に準備学習用資料を配付するので、そこに記載された課題を行うこと。

成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(45%)/毎回の授業時に指定された課題(25%)/項目まとめ課題(3 回)(15%)/スクラッチ課題(15%)

テキスト (Textbooks)

必要に応じて参考資料等を Blackboard を利用して配布する。

参考文献 (Readings)

その他 (HP 等) (Others(e.g. HP))

Blackboard を利用して授業関連資料等を配布する。

